

JP1 Version 9

JP1/Integrated Management - Manager  
コマンド・定義ファイルリファレン  
ス

文法書

3020-3-R80-51

## 対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Integrated Management - Manager, および JP1/Integrated Management - View が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

適用 OS : Windows Server 2003, Windows XP Professional

P-242C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS : Windows 7, Windows Server 2008, Windows Vista

P-2A2C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS : Windows Server 2003

P-242C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Windows Server 2008

P-2A2C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Solaris

P-9D2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : AIX

P-1M2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : HP-UX (IPF)

P-1J2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Linux 5 (AMD/Intel 64), Linux 5 (x86), Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64), Linux 5 Advanced Platform (x86)

P-9S2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Linux 5 (IPF), Linux 5 Advanced Platform (IPF)

P-9V2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

BSAFE は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

J2EE は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商

標です。

Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

JDBC は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

NetInsight は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

POSIX は、the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE) で制定された標準仕様です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Solaris は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun Microsystems は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

TELstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VMware および ESX は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は、米国 Sun

Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S.Engelschall <[rse@engelschall.com](mailto:rse@engelschall.com)> for use in the

mod\_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



本製品は、EMC Corporation の RSA(R) BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。

**HITACHI**  
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



発行

2011 年 9 月 3020-3-R80-51

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

変更内容 (3020-3-R80-51) JP1/Integrated Management - Manager 09-50 , JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
<p>次のコマンドの機能概要に同時に実行できるコマンド数の説明を追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfaleltdef (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfaleltreload (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfaleltstart (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfaleltstat (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfaleltstop (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfallogdef コマンド</li> <li>• jcfallogreload コマンド</li> <li>• jcfallogstart コマンド</li> <li>• jcfallogstat コマンド</li> <li>• jcfallogstop コマンド</li> <li>• jcfexport コマンド</li> <li>• jcfimport コマンド</li> <li>• jcfvirtualchstat コマンド</li> </ul>	<p>1. jcfaleltdef (Windows 限定), 1. jcfaleltreload (Windows 限定), 1. jcfaleltstart (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstop (Windows 限定), 1. jcfallogdef, 1. jcfallogreload, 1. jcfallogstart, 1. jcfallogstat, 1. jcfallogstop, 1. jcfexport, 1. jcfimport, 1. jcfvirtualchstat</p>
<p>次のコマンドに -filter オプションを追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfaleltdef (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfaleltstart (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfallogdef コマンド</li> <li>• jcfallogstart コマンド</li> </ul>	<p>1. jcfaleltdef (Windows 限定), 1. jcfaleltstart (Windows 限定), 1. jcfallogdef, 1. jcfallogstart</p>
<p>次のコマンドに戻り値の説明を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfaleltdef (Windows 限定) コマンド (戻り値: 21)</li> <li>• jcfaleltreload (Windows 限定) コマンド (戻り値: 12, 21)</li> <li>• jcfaleltstart (Windows 限定) コマンド (戻り値: 21)</li> <li>• jcfaleltstat (Windows 限定) コマンド (戻り値: 1, 21)</li> <li>• jcfaleltstop (Windows 限定) コマンド (戻り値: 12, 21)</li> <li>• jcfallogdef コマンド (戻り値: 8, 21)</li> <li>• jcfallogreload コマンド (戻り値: 21)</li> <li>• jcfallogstart コマンド (戻り値: 8, 21)</li> <li>• jcfallogstat コマンド (戻り値: 1, 21)</li> <li>• jcfallogstop コマンド (戻り値: 12, 15, 21)</li> <li>• jcfexport コマンド (戻り値: 21)</li> <li>• jcfimport コマンド (戻り値: 21)</li> <li>• jcfview (Windows 限定) コマンド (戻り値: 5)</li> <li>• jcfvirtualchstat コマンド (戻り値: 21)</li> </ul>	<p>1. jcfaleltdef (Windows 限定), 1. jcfaleltreload (Windows 限定), 1. jcfaleltstart (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstop (Windows 限定), 1. jcfallogdef, 1. jcfallogreload, 1. jcfallogstart, 1. jcfallogstat, 1. jcfallogstop, 1. jcfexport, 1. jcfimport, 1. jcfview (Windows 限定), 1. jcfvirtualchstat</p>

追加・変更内容	変更箇所
<p>次のコマンドの戻り値の説明を削除した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfaleltdef (Windows 限定) コマンド (戻り値: 13)</li> <li>• jcfaleltstat (Windows 限定) コマンド (戻り値: 10, 13)</li> <li>• jcfaleltstop (Windows 限定) コマンド (戻り値: 16)</li> <li>• jcfallogdef コマンド (戻り値: 13)</li> <li>• jcfallogreload コマンド (戻り値: 8)</li> <li>• jcfallogstat コマンド (戻り値: 10, 13)</li> <li>• jcfallogstop コマンド (戻り値: 16)</li> </ul>	<p>1. jcfaleltdef (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstop (Windows 限定), 1. jcfallogdef, 1. jcfallogreload, 1. jcfallogstat, 1. jcfallogstop</p>
<p>jcfaleltreload コマンドに, jcfaleltdef コマンドまたは [ プロファイル表示 / 編集 ] 画面で起動オプションを変更した場合は, リロードしても反映されないという説明を追加した。</p>	<p>1. jcfaleltreload (Windows 限定)</p>
<p>次のコマンドの -o オプションの説明を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfaleltstart (Windows 限定) コマンド</li> <li>• jcfallogstart コマンド</li> </ul>	<p>1. jcfaleltstart (Windows 限定), 1. jcfallogstart</p>
<p>jcfallogdef コマンドの機能概要に, プロファイルを削除する場合の説明を追加した。</p>	<p>1. jcfallogdef</p>
<p>次のコマンドの -c オプションの説明を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfallogdef コマンド</li> <li>• jcfallogstart コマンド</li> </ul>	<p>1. jcfallogdef, 1. jcfallogstart</p>
<p>次のコマンドの -r オプションの説明を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfallogdef コマンド</li> <li>• jcfallogstart コマンド</li> </ul>	<p>1. jcfallogdef, 1. jcfallogstart</p>
<p>jcfallogreload コマンドに, jcfaleltdef コマンドまたは [ プロファイル表示 / 編集 ] 画面で MARKSTR および ACTDEF パラメーター以外の値を変更した場合は, リロードしても反映されないという説明を追加した。</p>	<p>1. jcfallogreload</p>
<p>jcfdbunsetup コマンドを実行したあとに削除するファイルの説明を追加した。</p>	<p>1. jcfdbunsetup</p>
<p>jcfimport コマンドの機能概要に, リモート監視中の説明を追加した。</p>	<p>1. jcfimport</p>
<p>JPl/IM - Manager をインストールすると自動生成される, IM 構成反映方式設定ファイル ( jplcf_applyconfig.conf ) を追加した。</p>	<p>2. 定義ファイル一覧, 2. IM 構成反映方式設定ファイル ( jplcf_applyconfig.conf )</p>
<p>リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルの HEADLINE に, 文字列の上限サイズの説明を追加した。 また, 定義例を追加した。</p>	<p>2. リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル</p>
<p>定義例を追加した。</p>	<p>2. リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル</p>
<p>セットアップ情報ファイル ( jimdbsetupinfo.conf ) に IMDBHOSTNAME を追加した。</p>	<p>2. セットアップ情報ファイル ( jimdbsetupinfo.conf )</p>

追加・変更内容	変更箇所
JP1 イベント ID を追加した。 00003F68, 00003F69, 00003FC5, 00003FD1, 00003FD4, 00003FD5, ACTDEF パラメーターに指定されている値, 00003A71	3. JP1 イベント
JP1 イベントの発行契機, およびメッセージを変更した。 00003FD3	3. JP1 イベント
イベント ID : 00003FD0 の詳細のログ種別を削除した。	3.2.2(71)
イベント ID : 00003FD2 の詳細の固有情報に次の項目を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エラー発生 API 名</li> <li>監視対象ホスト名</li> </ul>	3.2.2(73)
イベント ID : 00003FD3 の詳細の固有情報に次の項目を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>監視対象ホスト名</li> </ul>	3.2.2(74)

変更内容 (3020-3-R80-50) JP1/Integrated Management - Manager 09-50, JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
jimdbupdate コマンドを追加し, IM データベースをアップデートできるようにした。	1. コマンド一覧, 1. jimdbupdate
jcfmkcsdata コマンドの機能概要に, 業務グループの監視ツリー情報を追加したセントラルスコープのインポートファイルの生成についての説明を追加した。	1. コマンド一覧
次のコマンドを追加し, リモートの監視対象ホストを管理できるようにした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>jcfaleltdef (Windows 限定) コマンド</li> <li>jcfaleltreload (Windows 限定) コマンド</li> <li>jcfaleltstart (Windows 限定) コマンド</li> <li>jcfaleltstat (Windows 限定) コマンド</li> <li>jcfaleltstop (Windows 限定) コマンド</li> <li>jcfallogdef コマンド</li> <li>jcfallogreload コマンド</li> <li>jcfallogstart コマンド</li> <li>jcfallogstat コマンド</li> <li>jcfallogstop コマンド</li> </ul>	1. コマンド一覧, 1. jcfaleltdef (Windows 限定), 1. jcfaleltreload (Windows 限定), 1. jcfaleltstart (Windows 限定), 1. jcfaleltstat (Windows 限定), 1. jcfaleltstop (Windows 限定), 1. jcfallogdef, 1. jcfallogreload, 1. jcfallogstart, 1. jcfallogstat, 1. jcfallogstop
jcochcefmode コマンドを追加し, 共通除外条件の動作モードを変更できるようにした。	1. コマンド一覧, 1. jcochcefmode
jcashowa コマンドの -d オプションの説明を変更した。また秒単位の指定についての説明を追加した。	1. jcashowa

追加・変更内容	変更箇所
<p>次のコマンドの説明に注意事項を追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Jcfdbsetup</li> <li>• jcfdbunsetup</li> <li>• jcodbsetup</li> <li>• jcodbunsetup</li> </ul>	<p>1. jcfdbsetup , 1. jcodbsetup , 1. jcodbunsetup</p>
<p>次のコマンドに -r オプションと -g オプションを追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jcfexport</li> <li>• jcfimport</li> </ul>	<p>1. jcfexport , 1. jcfimport</p>
<p>jcfmkcsdata コマンドに -g オプションを追加した。また、戻り値「11」を追加した。</p>	<p>1. jcfmkcsdata</p>
<p>jco_spmd_reload コマンドを実行したときに有効になる定義ファイルに次のファイルを追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベント条件表示項目定義ファイル (attr_list.conf)</li> <li>• 共通除外条件表示項目定義ファイル (common_exclude_filter_attr_list.conf)</li> </ul>	<p>1. jco_spmd_reload</p>
<p>jco_start (UNIX 限定) コマンドの機能説明にシステム開始時と JP1/IM・Manager を手動で起動する場合の注意事項を追加した。</p>	<p>1. jco_start (UNIX 限定)</p>
<p>jco_stop (UNIX 限定) コマンドの機能説明に JP1/IM・Manager を手動で停止する場合の注意事項を追加した。</p>	<p>1. jco_stop (UNIX 限定)</p>
<p>jcochfilter コマンドに次のオプションを追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• -on</li> <li>• -off</li> <li>• -ef</li> <li>• -check</li> </ul>	<p>1. jcochfilter</p>
<p>jcoevtreport コマンドの機能説明に CSV の出力形式を参照する場合の参照先の記述を追加し、-f オプションのオペランド名を変更した。</p>	<p>1. jcoevtreport</p>
<p>jcoimdef コマンドに次のオプションを追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• -cmdbtn</li> <li>• -hostmap</li> <li>• -bizmonmode</li> <li>• -ignorecasehost</li> </ul>	<p>1. jcoimdef</p>
<p>次のコマンドに JP1/IM・MO を使用している場合の注意事項を追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• jimdbbackup</li> <li>• jimdbrecovery</li> <li>• jimdbroorg</li> <li>• jimdbstop</li> </ul>	<p>1. jimdbbackup , 1. jimdbrecovery , 1. jimdbroorg , 1. jimdbstop</p>
<p>リモート監視のログトラップ機能の動作を定義するためのリモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルを追加した。</p>	<p>2. 定義ファイル一覧, 2. リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル</p>
<p>リモート監視のイベントログトラップ機能の動作を定義するためのリモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルを追加した。</p>	<p>2. 定義ファイル一覧, 2. リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル</p>

追加・変更内容	変更箇所
発生元ホストマッピングの機能で、発生元ホストをマッピングする JP1 イベントの条件とマッピング元を定義するための、発生元ホストマッピング定義ファイル ( user_hostmap.conf ) を追加した。	2. 定義ファイル一覧, 2. 発生元ホストマッピング定義ファイル ( user_hostmap.conf )
自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update ) の "ACTIONLIMIT"=dword:16 進数値で指定できる値を追加した。	2. 自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )
イベント一覧に使用する色の設定を定義するためのシステムカラー定義ファイル ( systemColor.conf ) を追加した。	2. 定義ファイル一覧, 2. システムカラー定義ファイル ( systemColor.conf )
共通除外条件の拡張モードのイベント条件や適用期間を定義するための、共通除外条件拡張定義ファイルを追加した。	2. 定義ファイル一覧, 2. 共通除外条件拡張定義ファイル
[ 共通除外条件設定 ( 拡張 ) ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示する項目を定義するための共通除外条件表示項目定義ファイル ( common_exclude_filter_attr_list.conf ) を追加した。	2. 定義ファイル一覧, 2. 共通除外条件表示項目定義ファイル ( common_exclude_filter_attr_list.conf )
[ コマンド実行 ] 画面に表示する [ コマンド ] ボタンを定義するためのコマンドボタン定義ファイル ( cmdbtn.conf ) を追加した。	2. 定義ファイル一覧, 2. コマンドボタン定義ファイル ( cmdbtn.conf )
次のファイルのイベント条件で指定できる属性名に発生元ホストのマッピングで使用するための発生元ホスト名を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )</li> <li>• ユーザープロファイル ( defaultUser   profile_ユーザー名 )</li> <li>• イベントガイド情報ファイル ( jco_guide.txt )</li> <li>• 関連イベント発行定義ファイル</li> <li>• 重大度変更定義ファイル ( jcochsev.conf )</li> <li>• モニター画面呼び出し定義ファイル</li> </ul>	2. 自動アクション定義ファイル ( actdef.conf ), 2. ユーザープロファイル ( defaultUser   profile_ユーザー名 ), 2. イベントガイド情報ファイル ( jco_guide.txt ), 2. 関連イベント発行定義ファイル, 2. 重大度変更定義ファイル ( jcochsev.conf ), 2. モニター画面呼び出し定義ファイル
自動アクション定義ファイル ( actdef.conf ) ホスト名に指定できる項目に、業務グループ名および監視グループ名を追加した。	2. 自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )
自動アクション定義ファイル ( actdef.conf ) のアクション定義で使用できる変数の表に記載されている注釈を変更した。	2. 自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

追加・変更内容	変更箇所
イベント条件表示項目定義ファイル (attr_list.conf) に指定できる表示項目に発生元ホストのマッピングで使用する発生元ホスト名を追加した。	2. イベント条件表示項目定義ファイル (attr_list.conf)
イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル (event_info_replace.conf) の説明を補足した。	2. イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル (event_info_replace.conf)
ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf) の FAILOVER の説明にヘルスチェック機能で異常を検知したときの説明を追加した。	2. ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)
イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt) の DESC_VERSION および EV_FILE の説明を変更した。	2. イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt)
イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt) に EV_USER を追加した。 また、イベントガイドメッセージの置き換え文字についての説明を追加した。	2. イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt)
関連イベント発行定義ファイルの属性値の最大サイズを追加した。	2. 関連イベント発行定義ファイル
関連イベント発行定義ファイルで属性名に指定できない拡張属性の説明を変更した。	2. 関連イベント発行定義ファイル
関連イベント発行定義ファイルの関連成立イベントの説明を追加した。	2. 関連イベント発行定義ファイル
インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) に JP1/IM・Service Support と連携するための説明を追加した。	2. インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf)
WWW ページ呼び出し定義ファイル (hitachi_jp1_製品名.html) の一覧に、JP1/IM・Manager と連携できるバージョンおよび対応 OS を追加した。	2. WWW ページ呼び出し定義ファイル (hitachi_jp1_製品名.html)
IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル (jcfview.conf) の説明中の [ IM 構成編集 ] 画面を [ エージェント構成編集 ] 画面に変更した。 また、[ リモート監視構成編集 ] 画面の記述を追加した。	2. IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル (jcfview.conf)
クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf) の ONLINEHOSTNAME の説明に実行系のホスト名に関する記述を追加した。	2. クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)
イベントレポート出力の項目ファイルの項目名の説明を変更した。	2. イベントレポート出力の項目ファイル
イベントレポート出力のフィルターファイルにイベント条件で指定できる属性名、比較キーワードおよびオペランドの説明を追加した。	2. イベントレポート出力のフィルターファイル
JP1 イベント ID を追加した。 00003F22, 00003F23, 00003F24, 00003F63, 00003F64, 00003F66, 00003F67, 00003FC0, 00003FC1, 00003FC2, 00003FC3, 00003FD0, 00003FD2, 00003FD3	3. JP1 イベント

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。



# はじめに

---

このマニュアルは、JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View のコマンドや定義ファイルなどについて説明したものです。なお、このマニュアルでは、JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View を総称して、JP1/Integrated Management または JP1/IM と表記します。

## 対象読者

オープンプラットフォームのシステムを管理するインフラを、JP1/IM を使って管理、運用、操作される方を対象としています。具体的には次の方を対象としています。

- システムで発生する事象を一元監視するため、JP1/IM を管理、運用、操作するシステム管理者
- システムを管理するインフラの状態をシステムで発生する事象と関連づけて一元監視するため、JP1/IM を管理、運用、操作するシステム管理者

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

### 第 1 章 コマンド

JP1/Integrated Management で使用できるコマンドの文法について説明しています。

### 第 2 章 定義ファイル

JP1/Integrated Management の定義ファイルの形式および文法について説明しています。

### 第 3 章 JP1 イベント

JP1/Integrated Management が出力する JP1 イベントの種類とその属性について説明していません。

### 第 4 章 システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

JP1/Integrated Management で提供しているシステム監視オブジェクトについて説明していません。

### 第 5 章 監視ツリーモデル（セントラルスコープ用）

監視ツリーを自動生成するときに作成される監視ツリーの構造について説明しています。

## 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

### JP1/IM 関連

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager クイックリファレンス（3020-3-R75）
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド（3020-3-R76）
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド（3020-3-R77）
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド（3020-3-R78）

はじめに

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス ( 3020-3-R79 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ ( 3020-3-R81 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i ( 3020-3-R82 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Rule Operation 構築・運用ガイド ( 3020-3-R83 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Rule Operation 画面リファレンス ( 3020-3-R84 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - TELstaff JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View 構築・運用ガイド ( 3020-3-R85 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Message Optimizer ( 3020-3-R86 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド ( 3020-3-R91 )
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド ( 3020-3-R92 )
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド ( 3020-3-K04 )
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス ( 3020-3-K05 )
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Incident Master ( 3020-3-K09 )

#### JP1 関連

- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド ( 3020-3-R71 )
- JP1 Version 9 JP1/Base メッセージ ( 3020-3-R72 )
- JP1 Version 9 JP1/Base 関数リファレンス ( 3020-3-R73 )

## マニュアルの体系

JP1/IM のマニュアルでは、システム的设计・構築・運用などのシステムのライフサイクルでの段階ごとに必要な情報を説明しています。目的に合わせて必要なマニュアルをお読みください。JP1/IM のマニュアルとシステムのライフサイクルの関係を次の図に示します。



## このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
AIX		AIX 5L 5.3
		AIX 6.1
BJEX		uCosminexus Batch Job Execution Server
Cosminexus	Cosminexus Application Server	Cosminexus Application Server Enterprise Version 6
		Cosminexus Application Server Standard Version 6
		uCosminexus Application Server Enterprise
		uCosminexus Application Server Standard
		uCosminexus Service Platform
HNTRLib		Hitachi Network Objectplaza Trace Library
HNTRLib2		Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2
HP-UX	HP-UX (IPF)	HP-UX 11i V2 (IPF)

このマニュアルでの表記		正式名称
		HP-UX 11i V3 (IPF)
Hyper-V		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 1.0
		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 2.0
IE	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
IIS	Internet Information Services	Microsoft(R) Internet Information Services 5.01 以降
JP1/AJS	JP1/AJS2 - Advanced Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager
	JP1/AJS - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
		JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
	JP1/AJS - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
		JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
	JP1/AJS - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
		JP1/Automatic Job Management System 3 - View
	JP1/AJS2 - Scenario Operation View	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation View
JP1/AJS2 - View for Mainframe	JP1/Automatic Job Management System 2 - View for Mainframe	
JP1/Cm2/ESA		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent
		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent for Extension Mib Runtime
JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SNMP System Observer
	JP1/PFM/SSO	JP1/Performance Management/ Distributed SNMP System Observer
		JP1/Performance Management/SNMP System Observer
	JP1/SSO	JP1/Distributed Server System Observer
JP1/Server System Observer		
JP1/FTP		JP1/File Transmission Server/FTP
JP1/Integrated Management または JP1/IM	バージョン 7 製品	

このマニュアルでの表記	正式名称
JP1/IM - Central Console または JP1/IM - CC	JP1/Integrated Manager - Central Console
JP1/IM - Central Console 10 Node または JP1/IM - CC 10 Node	JP1/Integrated Manager - Central Console 10 Node
JP1/IM - Central Console アップグレード または JP1/IM - CC アップグレード	JP1/Integrated Manager - Central Console アップグレード
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Manager - Central Information Master
JP1/IM - Central Scope または JP1/IM - CS	JP1/Integrated Manager - Central Scope
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Manager - Incident Master
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Manager - TELstaff
	JP1/Integrated Manager - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Manager - View
バージョン 8 製品	
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Management - Incident Master
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
JP1/IM - Rule Operation または JP1/IM - RL	JP1/Integrated Management - Rule Operation
JP1/IM - Service Support または JP1/IM - SS	JP1/Integrated Management - Service Support
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff
	JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
バージョン 9 製品	
JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i または JP1/IM - EG for NNMi	JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i

このマニュアルでの表記		正式名称
	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - Message Optimizer Assistant または JP1/IM - MO	JP1/Integrated Management - Message Optimizer JP1/Integrated Management - Message Optimizer Assistant
	JP1/IM - Rule Operation または JP1/IM - RL	JP1/Integrated Management - Rule Operation
	JP1/IM - Service Support または JP1/IM - SS	JP1/Integrated Management - Service Support
	JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
JP1/NetInsight II - Facility Manager		JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager Standard JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager Upgrade License
JP1/NPS		JP1/Network Printing System
JP1/PAM	JP1/PA - Adaptor	JP1/Performance Analysis - Adaptor JP1/Performance Management - Analysis Adaptor
	JP1/PA - Manager	JP1/Performance Analysis - Manager JP1/Performance Management - Analysis Manager
	JP1/PA - View	JP1/Performance Analysis - View JP1/Performance Management - Analysis View
JP1/PFM	JP1/PFM - Agent	JP1/Performance Management - Agent for Platform などのエージェント製品群
	JP1/PFM - Manager	JP1/Performance Management - Manager
	JP1/PFM - View	JP1/Performance Management - View
	JP1/PFM - Web Console	JP1/Performance Management - Web Console
JP1/PFM/SSO for Application Server		JP1/Performance Management/SNMP System Observer for Application Server
JP1/SC/CM		JP1/ServerConductor/Control Manager
JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor/Advanced Agent

このマニュアルでの表記		正式名称
		JP1/ServerConductor/Agent
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus
		JP1/ServerConductor/Server Manager
	ServerConductor	ServerConductor/Advanced Agent
		ServerConductor/Agent
		ServerConductor/Blade Server Manager
		ServerConductor/Server Manager
	System Manager	System Manager - Advanced Agent
		System Manager - Management Console
		System Manager - Server Agent
		System Manager - Server Agent for HP-UX
	JP1/SES	
Linux	Linux 5 (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)
	Linux 5 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (IPF)
	Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)
	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
	Linux 5 Advanced Platform (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (IPF)
	Linux 5 Advanced Platform (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)
NNM	HP NNM	HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
		HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
	JP1/Cm2/NNM	JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
	NNMi	HP NNMi
JP1/Cm2/NNMi		JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

このマニュアルでの表記		正式名称	
SCIM	JP1/SCIM	JP1/Security Integrated Manager	
SCVMM		Microsoft(R) System Center Virtual Machine Manager 2008	
Solaris		Solaris 9	
		Solaris 10	
vCenter		VMware vCenter Server	
Virtage		日立サーバ仮想機構「Virtage」	
VMware		VMware(R) ESX 3.5	
		VMware(R) ESX 4.0	
Windows 2000		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System	
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System	
Windows 7		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise	
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional	
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate	
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	
	Windows Server 2003 (IPF)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
	Windows Server 2003 (x64)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
	Windows Server 2003 R2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 R2 (x64)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Windows Server 2008	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard	

このマニュアルでの表記	正式名称	
Windows Server 2008 (IPF)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-based Systems	
	Windows Server 2008 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64
	Windows Server 2008 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64
Windows Vista	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise	
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate	
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	

注 JP1/IM - Central Information Master , JP1/IM - Incident Master , JP1/IM - Rule Operation , JP1/IM - Service Support , JP1/IM - TELstaff , JP1/IM - Message Optimizer Assistant , および JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i については、このマニュアルで説明する JP1/IM - Manager , JP1/IM - View に関連する機能概要だけ説明しています。

- Windows 2000 , Windows XP Professional , Windows Server 2003 , Windows Vista , Windows Server 2008 および Windows 7 を総称して Windows と表記することがあります。
- HP-UX , Solaris , AIX , および Linux を総称して UNIX と表記することがあります。

## このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
CMT	Container-Managed Transaction
CRLF	Carriage Return/Line Feed
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
DBMS	Database Management System
DNS	Domain Name System
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time

英略語	正式名称
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	HyperText Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
ISAM	Indexed Sequential Access Method
J2EE	Java(TM)2 Platform Enterprise Edition
Java VM	Java(TM) Virtual Machine
JDBC	Java(TM) DataBase Connectivity
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
NAT	Network Address Translator
NIC	Network Interface Card
NTP	Network Time Protocol
OTS	Object Transaction Service
POSIX	Portable Operating System Interface for UNIX
SFO	Session Fail Over
SNMP	Simple Network Management Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TXT	Text
UAC	User Account Control
UCS	Universal Multiple-Octet Coded Character Set
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
UTC	Universal Time Coordinated
UTF	UCS Transformation Format
WAN	Wide Area Network
WWW	World Wide Web

### このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[ ]	メニュー項目、画面名、ボタン名、およびキーボードのキーなどを示す。 例 メニュー項目 : [ 新規作成 ] 画面名 : [ ログイン ] 画面 ボタン名 : [ OK ] ボタン キーボードのキー : [ Ctrl ] キー
[ ] - [ ]	画面のメニューから項目を選択する操作を示す。 例 [ ファイル ] - [ 新規作成 ] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ ファイル ] を選んで、プルダウンメニューの [ 新規作成 ] を選択することを示す。
[ ] + [ ]	キーを同時に押すことを示す。 例 [ Ctrl ] + [ C ] キー 上記の例では、[ Ctrl ] キーと [ C ] キーを同時に押すことを示す。

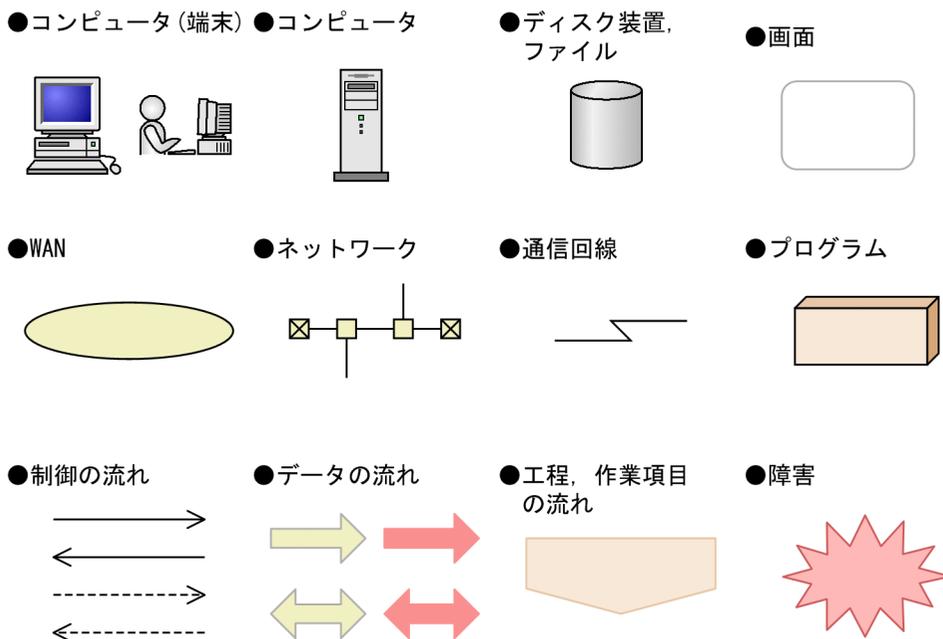
## コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A   B   C」は、「A, B または C」を示す。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択する。項目の区切りは   で示す。 例 {A   B   C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[ ]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる（省略してもよい）。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B   C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
...または ...	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
<u>    </u> (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムがとる標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [A   B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを示す。
	空白を表す。 <sub>0</sub> : 0 個以上の空白 (空白を省略できる) <sub>1</sub> : 1 個以上の空白 (空白を省略できない)
	タブを表す。 例 A とした場合に、A の前にタブがあることを示す。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



## Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ
JP1/IM - View	View パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1CoView
JP1/IM - Manager	Manager パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1IMM
	Console パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Cons
	Scope パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Scope
JP1/Base	Base パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Base

注 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。Windows 7, Windows Server 2008 および Windows Vista の場合、「システムドライブ : %Program Files」と表記している部分は、インストール時の OS 環境変数によって決定されるため、環境によって異なる場合があります。

## このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する

Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザーおよび、Active Directory 環境で動作に違いはありません。

### オンラインマニュアルについて

JP1/IM では、WWW ブラウザーで参照できる HTML マニュアルを提供しています。HTML マニュアルは、下記 WWW ブラウザーで参照できます。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Windows Internet Explorer 7 以降

オンラインマニュアルの内容は、このマニュアルと同様です。

オンラインマニュアルは、次の操作で目次が表示されます。

- JP1/IM - View : [ ヘルプ ] - [ 目次 ] を選択する。または、スタートメニューから [ プログラム ] - [ JP1\_Integrated Management - View ] - [ ヘルプ ] を選択する。

#### 注意事項

- スタートメニューからオンラインマニュアルを表示させると、OS の設定によってすでに表示されているブラウザーの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

### KB ( キロバイト ) などの単位表記について

1KB ( キロバイト ) , 1MB ( メガバイト ) , 1GB ( ギガバイト ) , 1TB ( テラバイト ) はそれぞれ  $1,024$  バイト ,  $1,024^2$  バイト ,  $1,024^3$  バイト ,  $1,024^4$  バイトです。



# 目次

1	コマンド	1
	コマンドの記述形式	2
	コマンド一覧	3
	jcacancel	13
	jcachange	17
	jscadefconv	19
	jcamakea	25
	jcashowa	27
	jcastatus	34
	jcfaletdef ( Windows 限定 )	36
	jcfaletreload ( Windows 限定 )	39
	jcfaletstart ( Windows 限定 )	41
	jcfaletstat ( Windows 限定 )	44
	jcfaletstop ( Windows 限定 )	46
	jcfallgdef	48
	jcfallgreload	54
	jcfallgstart	56
	jcfallgstat	62
	jcfallgstop	64
	jcfcvmesx	67
	jcfcvmscvmm ( Windows 限定 )	70
	jcfcvmmc	73
	jcfcvmmvirtage	76
	jcfdbsetup	79
	jcfdbunsetup	82
	jclexport	85
	jcimport	88
	jcfmkcsdata	91
	jcfmkhostsdata	94
	jcftthreadmp ( Windows 限定 )	96
	jcview ( Windows 限定 )	98
	jcvirtualchstat	100
	jco_killall.cluster ( UNIX 限定 )	102
	jco_spmc_reload	104

jco_spm�_status	106
jco_start ( UNIX 限定 )	108
jco_start.cluster ( UNIX 限定 )	111
jco_stop ( UNIX 限定 )	113
jco_stop.cluster ( UNIX 限定 )	116
jcoappexecfcheck	117
jcoattrfcheck	119
jcochafmode	121
jcochcefmode	124
jcochdisc	128
jcochfilter	130
jcochstat	134
jcodbsetup	137
jcodbunsetup	140
jcoedsstatus	143
jcoegschange	146
jcoegscheck	148
jcoegsstart	150
jcoegsstatus	152
jcoegsstop	158
jcoevtreport	160
jcofuncfcheck	166
jcogencore	169
jcohctest	174
jcoimdef	176
jcomonitorfcheck	188
jcothreadmp ( Windows 限定 )	192
jcovcfsetup ( Windows 限定 )	194
jcoview ( Windows 限定 )	196
jcoview_log.bat ( Windows 限定 )	200
jcschstat	204
jcsdbexport	207
jcsdbimport	210
jcsdbsetup	213
jcshostsexport	215
jcshostsimport	217
jim_log.bat ( Windows 限定 )	219

jim_log.sh ( UNIX 限定 )	231
jimdbbackup	240
jimdbreclaim	243
jimdbrecovery	245
jimdbbrorg	248
jimdbstatus	250
jimdbstop	251
jimdbupdate	253
jp1cc_setup ( UNIX 限定 )	255
jp1cc_setup_cluster ( UNIX 限定 )	256
jp1cf_setup ( UNIX 限定 )	258
jp1cf_setup_cluster ( UNIX 限定 )	259
jp1cfhassetup ( Windows 限定 )	262
jp1cohassetup ( Windows 限定 )	263
jp1cohaverup	264
jp1cs_setup ( UNIX 限定 )	266
jp1cs_setup_cluster ( UNIX 限定 )	267
jp1cshassetup ( Windows 限定 )	269
jp1cshaverup ( UNIX 限定 )	270
jp1cshaverup.bat ( Windows 限定 )	272
jp1csverup ( UNIX 限定 )	274
jp1csverup.bat ( Windows 限定 )	276
SpmSetSvcCon ( Windows 限定 )	278

## 2

定義ファイル	279
定義ファイル一覧	280
定義ファイルの記述形式	285
ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて	286
構成定義ファイル ( jbs_route.conf )	293
環境変数ファイル	296
ホストグループ定義ファイル	298
リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル	300
リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル	307
発生元ホストマッピング定義ファイル ( user_hostmap.conf )	313
自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )	320

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )	325
自動アクション定義ファイル ( actdef.conf ) ( 互換用 )	347
自動アクション通知定義ファイル ( actnotice.conf )	363
イベント条件表示項目定義ファイル ( attr_list.conf )	370
イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル ( event_info_replace.conf )	373
拡張起動プロセス定義ファイル ( jp1co_service.conf )	376
IM パラメーター定義ファイル ( jp1co_param_V7.conf )	379
システムプロファイル ( .system )	382
ユーザープロファイル ( defaultUser   profile_ ユーザー名 )	385
通信環境定義ファイル ( console.conf.update )	390
ヘルスチェック定義ファイル ( jcohc.conf )	393
WWW ページ版動作定義ファイル ( console_ja.html )	398
イベントガイド情報ファイル ( jco_guide.txt )	401
システムカラー定義ファイル ( systemColor.conf )	409
イベント拡張属性定義ファイル	412
共通除外条件拡張定義ファイル	424
共通除外条件表示項目定義ファイル ( common_exclude_filter_attr_list.conf )	435
対処状況イベント定義ファイル ( processupdate.conf )	438
関連イベント発行システムプロファイル ( eds_system.conf )	440
関連イベント発行定義ファイル	443
関連イベント発行環境定義ファイル	469
インシデント登録用システムプロファイル ( eds_system.conf )	471
インシデント手動登録定義ファイル ( incident.conf )	474
インシデント登録環境定義ファイル ( jcdmain.conf.update )	476
ホスト情報ファイル ( jcs_hosts )	478
ガイド情報ファイル ( jcs_guide_xxx.txt )	480
状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル ( evhist_warn_event_xxx.conf )	487
対処済み連動設定ファイル ( action_complete_xxx.conf )	489
状態変更イベント自動削除設定ファイル	491
監視オブジェクト初期化設定ファイル	492
監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー設定ファイル ( auto_dbbackup_xxx.conf )	493
オブジェクトタイプ定義ファイル	495
アプリケーション実行定義ファイル	497
CM ホスト定義ファイル ( jcs_atc_cm_host.conf )	501
状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル	503

重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)	504
通信環境定義ファイル (view.conf.update)	511
通信環境定義ファイル (tree_view.conf.update)	513
IM-View 設定ファイル (tuning.conf)	516
モニター画面呼び出し定義ファイル	519
WWW ページ呼び出し定義ファイル (hitachi_jp1_製品名.html)	526
統合機能メニュー定義ファイル	531
コマンドボタン定義ファイル (cmdbtn.conf)	536
起動プログラム定義ファイル (!JP1_CS_APP0.conf)	540
ツールバー定義ファイル (!JP1_CS_FTOOL0.conf)	542
アイコン動作定義ファイル (!JP1_CS_FTREE0.conf)	544
ツリー構成ファイル	546
IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル (jcfview.conf)	552
IM 構成反映方式設定ファイル (jp1cf_applyconfig.conf)	554
セットアップ情報ファイル (jimdbsetupinfo.conf)	556
クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)	560
イベントレポート出力の項目ファイル	565
イベントレポート出力のフィルターファイル	568
定義ファイルのステートメントの詳細	574

## 3

JP1 イベント	579
3.1 JP1 イベントの属性	580
3.1.1 基本属性	580
3.1.2 拡張属性	581
3.2 JP1/IM が出力する JP1 イベント	583
3.2.1 JP1/IM が出力する JP1 イベント一覧	583
3.2.2 JP1 イベントの詳細	597

## 4

システム監視オブジェクト一覧 (セントラルスコープ用)	689
4.1 システム監視オブジェクト対応製品一覧	691
4.2 JP1/AJS 用システム監視オブジェクト	692
4.2.1 「AJS 監視」システム監視オブジェクト	692
4.2.2 「ジョブネット監視 (AJS)」システム監視オブジェクト	693
4.3 JP1/Cm2/SSO 用システム監視オブジェクト	695

4.4	JP1/PFM 用システム監視オブジェクト	699
4.4.1	「エージェント監視 (PFM)」システム監視オブジェクト	699
4.5	JP1/PAM 用システム監視オブジェクト	701
4.5.1	「メトリック監視 (PAM)」システム監視オブジェクト	701
4.5.2	「オブジェクト監視 (PAM)」システム監視オブジェクト	701
4.6	JP1/SCIM 用システム監視オブジェクト	703
4.6.1	「SCIM 監視」システム監視オブジェクト	703
4.6.2	「セキュリティ監視 (SCIM)」システム監視オブジェクト	705
4.7	JP1/NETM/DM 用システム監視オブジェクト	706
4.7.1	「NETM/DM 監視」システム監視オブジェクト	706
4.7.2	「配布ジョブ監視 (NETM/DM)」システム監視オブジェクト	706
4.8	JP1/Cm2/NNMi 用システム監視オブジェクト	708
4.8.1	「NNMi 監視 (NNMi)」システム監視オブジェクト	708
4.8.2	「ノード監視 (NNMi)」システム監視オブジェクト	709
4.9	JP1/Cm2/NNM 用システム監視オブジェクト	711
4.10	JP1/IM - Manager 用システム監視オブジェクト	714
4.10.1	「IM 監視」システム監視オブジェクト	714
4.11	Cosminexus 用システム監視オブジェクト	715
4.11.1	「論理サーバ監視 (Cosminexus)」システム監視オブジェクト	715
4.11.2	「J2EE アプリケーション監視 (Cosminexus)」システム監視オブジェクト	716
4.12	HiRDB 用システム監視オブジェクト	719
4.12.1	「HiRDB 監視」システム監視オブジェクト	719
4.13	JP1/ServerConductor 用システム監視オブジェクト	721
4.13.1	「物理ホスト監視 (System Manager)」システム監視オブジェクト	721

## 5

	監視ツリーモデル (セントラルスコープ用)	723
5.1	「業務指向ツリー」の監視ツリーモデル	724
5.2	「サーバ指向ツリー」の監視ツリーモデル	727
5.3	「システム構成ツリー」の監視ツリーモデル	729

## 索引

731

# 1

## コマンド

この章では、JP1/IM で使用できるコマンドの文法について説明します。

---

コマンドの記述形式

---

コマンド一覧

---

# コマンドの記述形式

---

ここでは、コマンドの記述形式について説明します。

各コマンドで説明する項目は次のとおりです。ただし、コマンドによっては説明しない項目もあります。

## 機能

コマンドの機能について説明しています。

## 形式

コマンドの形式を説明しています。

## 実行権限

コマンドの実行に必要なユーザーの権限について説明しています。

## 格納先ディレクトリ

コマンドの格納場所について説明しています。

## 引数

コマンドの引数について説明しています。

なお、引数は大文字・小文字を区別します。ただし、ON、OFFの指定は大文字・小文字を区別しません。

## 注意事項

注意事項を説明しています。

## 戻り値

コマンドの戻り値について説明しています。

なお、コマンド実行時に表示されるメッセージについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager メッセージ」を参照してください。

## 使用例

コマンドの使用例について説明しています。

## 出力例

コマンドの出力例について説明しています。

## コマンド一覧

JP1/IM で使用できるコマンドの一覧を次に示します。表中では、Windows、UNIX の対応を凡例のように表記しています。

(凡例)

○ : 対応している。

- : 対応していない。

注 1 Windows の場合、スーパーユーザーとは Administrators 権限を持つユーザーを指します。

注 2 マネージャーが対象の JP1/Base のコマンド (構成定義、コマンド実行に関するコマンド) です。コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

注 3 Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Vista の場合は Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) が必要です。

なお、次節以降のコマンドの説明では、コマンドはアルファベット順に記載されています。

### 起動・終了、セットアップに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な実行権限
JP1/IM・Manager (JP1/IM・Central Console) のセットアップをする	jplcc_setup (UNIX 限定)	-		スーパーユーザー
JP1/IM・Manager (JP1/IM・Central Scope) のセットアップをする	jp1cs_setup (UNIX 限定)	-		スーパーユーザー
JP1/IM・Manager を自動的に起動する	jco_start (UNIX 限定)	-		スーパーユーザー
JP1/IM・Manager を自動的に終了する	jco_stop (UNIX 限定)	-		スーパーユーザー
JP1/IM・Manager のプロセスの状態を確認する	jco_spmc_status			スーパーユーザー 1
JP1/IM・Manager のプロセスの状態を更新する	jco_spmc_reload			スーパーユーザー 1
クラスタシステムで運用するための設定をする	jp1cohasetup (Windows 限定)		-	スーパーユーザー 1

## 1. コマンド コマンド一覧

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
	jp1cshasetup (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
	jp1cc_setup_clu ster (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
	jp1cs_setup_clu ster (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
クラスタシステムで JP1/IM・Manager を 起動する	jco_start.clust er (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
クラスタシステムで JP1/IM・Manager を 終了する	jco_stop.cluste r (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
クラスタシステムで JP1/IM・Manager を 強制的に終了する	jco_killall.clu ster (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
JP1/IM-Manager サービスと JP1/Base Event サービスの依存関係を設定する	SpmSetSvcCon (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1

### IM データベースに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
構成情報を格納する IM 構成管理 DB を セットアップする	jcfdbssetup			スーパー ユーザー 1
構成情報を格納する IM 構成管理 DB をア ンセットアップする	jcfdbunsetup			スーパー ユーザー 1
JP1 イベントを格納する統合監視 DB を セットアップする	jcodbsetup			スーパー ユーザー 1
JP1 イベントを格納する統合監視 DB をア ンセットアップする	jcodbunsetup			スーパー ユーザー 1
統合監視 DB に登録している JP1 イベント の情報を CSV 形式にしてファイルに出 力する	jcoevtreport			スーパー ユーザー 1
IM データベースをバックアップする	jimdbbackup			スーパー ユーザー 1
IM 構成管理 DB の使用中の空き領域 (空 きページ領域) を解放する	jimdbreclaim			スーパー ユーザー 1

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
バックアップで保管しておいたデータベースを復旧（リカバリー）する	jimdbrecovery			スーパー ユーザー 1
データベースの断片化された空き領域を再編成する	jimdbrosg			スーパー ユーザー 1
IM データベースの起動・停止などの稼働状態を確認する	jimdbstatus			スーパー ユーザー 1
IM データベースを停止する	jimdbstop			スーパー ユーザー 1
IM データベースをアップデートする	jimdbupdate			スーパー ユーザー 1

### IM 構成管理に関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
SCVMM から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力する	jcfcolvmvscvmm (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
vCenter から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力する	jcfcolvmvc			スーパー ユーザー 1
Virtage から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力する	jcfcolvmvirtage			スーパー ユーザー 1
VMware ESX から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力する	jcfcolvmesx			スーパー ユーザー 1
IM 構成管理で管理しているシステムの階層構成（IM 構成）、ホスト情報および定義情報を出力する	jcfexport			スーパー ユーザー 1
IM 構成管理の情報をインポートする	jcfimport			スーパー ユーザー 1

## 1. コマンド コマンド一覧

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
ホスト入力情報ファイルとセントラルスコープのエクスポートファイルから、仮想化構成の監視ツリー情報を追加したセントラルスコープのインポートファイルを生成する。または、業務グループ情報ファイル、監視グループ情報ファイルおよびセントラルスコープのエクスポートファイルから、業務グループの監視ツリー情報を追加したセントラルスコープのインポートファイルを生成する	jcfmkcsdata			スーパー ユーザー 1
仮想化構成情報ファイルで、ホスト入力情報ファイルを更新する	jcfmkhostsdata			スーパー ユーザー 1
指定ホストの仮想化構成を更新する	jcfvirtualchstat			スーパー ユーザー 1
JP1/IM - Manager の IM 構成管理プロセスの動作環境を設定する	jp1cf_setup (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
クラスタシステムで運用する場合に、IM 構成管理の環境設定をする	jp1cf_setup_cluster (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
クラスタシステムで運用する場合に、IM 構成管理の環境設定をする	jp1cfhasetup (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1

### IM 構成管理に関するコマンド (リモート監視構成)

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
指定した監視対象ホストに、リモート監視イベントログトラップのプロファイルを定義する	jcfaleltdef (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルをリロードする	jcfaleltreload (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
リモート監視イベントログトラップを起動する	jcfaleltstart (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
リモート監視イベントログトラップの動作状況を表示する	jcfaleltstat (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
リモート監視イベントログトラップを停止する	jcfaleltstop (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
指定した監視対象ホストに、リモート監視ログファイルトラップのプロファイルを追加または削除する	jcfdallogdef			スーパー ユーザー 1
リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルをリロードする	jcfdallogreload			スーパー ユーザー 1
リモート監視ログファイルトラップを起動する	jcfdallogstart			スーパー ユーザー 1
リモート監視ログファイルトラップの動作状況を表示する	jcfdallogstat			スーパー ユーザー 1
リモート監視ログファイルトラップを停止する	jcfdallogstop			スーパー ユーザー 1

### バージョンアップに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
08-50 以前のアクション定義ファイルを 09-00 のアクション定義ファイルに変換する	jcdefconv			スーパー ユーザー 1
イベント取得フィルターが互換用で動作している場合にイベント取得フィルターの位置をイベントコンソールサービスからイベント基盤サービスに変更する	jcchafmode			スーパー ユーザー 1
バージョン 7 以前の JP1/Base のコマンド実行の履歴をバージョン 8 用のコマンド実行履歴ファイルに移行する	jcocmdconv <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
旧バージョンの JP1/IM・Manager または JP1/IM・Central Console で設定した論理ホスト環境をバージョンアップする	jp1cohaverup			スーパー ユーザー 1
旧バージョンの JP1/IM・Central Scope の物理ホスト環境をバージョンアップする	jp1csverup.bat (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
旧バージョンの JP1/IM・Central Scope で設定した論理ホスト環境をバージョンアップする	jp1cshaverup.bat (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
旧バージョンの JP1/IM・Central Scope の物理ホスト環境をバージョンアップする	jp1csverup (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー 1

## 1. コマンド コマンド一覧

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
旧バージョンの JP1/IM・Central Scope で設定した論理ホスト環境をバージョンアップする	jplcshaverup (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー

### ログイン・ログアウトに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
IM 構成管理・ビューアーを起動する	jcfview (Windows 限定)		-	なし
IM 構成管理・ビューアーを起動するメニューを Windows スタートメニューに登録・削除する	jcovcfsetup (Windows 限定)		-	スーパー ユーザー 1
JP1/IM・View の [ログイン] 画面, [監視ツリー (編集中)] 画面を起動する, またはコマンドラインから JP1/IM・Manager にログインする	jcoview (Windows 限定)		-	なし

### 構成定義に関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
構成定義情報を下位ホストに配布し, 定義を有効にする	jbsrt_distrib <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
下位ホストから構成定義情報を収集し, 構成定義を更新する	jbsrt_sync <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
コマンドを実行したホストの構成定義情報を削除する	jbsrt_del <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
設定されている構成定義情報を表示する	jbsrt_get <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1

### イベントに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
重要イベントの対処状況を変更する	jcochstat			なし <sup>3</sup>
JP1/IM・Manager のシステム環境を設定する	jcoimdef			スーパー ユーザー 1

## 自動アクション，およびコマンド実行に関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
自動アクションの定義をチェックし，複数の定義ファイルを併合する	jcamakea			スーパー ユーザー 1
自動アクションの実行結果を表示する	jcashowa			なし <sup>3</sup>
稼働しているアクション実行サービスの動作状態，および読み込んでいる自動アクション定義ファイルの内容を標準出力に表示する	jcastatus			なし <sup>3</sup>
自動アクションの定義を再読み込みする，または自動アクション機能を休止する	jcachange			スーパー ユーザー 1
自動アクションをキャンセルする	jcacancel			スーパー ユーザー 1
コマンド実行のための環境を設定する	jcocmdef <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
実行したコマンドの履歴を出力する	jcocmdlog <sup>2</sup>			なし
JP1/IM・View から実行したコマンド，自動アクションで実行したコマンドを削除する	jcocmdel <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1
JP1/IM・View から実行したコマンド，自動アクションで実行したコマンドの状態を確認する	jcocmdshow <sup>2</sup>			スーパー ユーザー 1

## 関連イベントの発行に関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
関連イベント発行定義を変更する	jcoegschange			スーパー ユーザー 1
関連イベント発行定義ファイルの定義内容をチェックする	jcoegscheck			スーパー ユーザー 1
関連イベント発行機能を関連稼働状態にする	jcoegsstart			スーパー ユーザー 1
関連イベント発行機能の状態，および現在使用している関連イベント発行定義を表示する	jcoegsstatus			なし <sup>3</sup>

## 1. コマンド コマンド一覧

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
関連イベント発行機能を機能停止状態にする	jcoegsstop			スーパー ユーザー 1

### セントラルスコープの環境設定で使用するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
ホスト情報をホスト情報 DB に登録する	jcshostsimport			スーパー ユーザー 1
ホスト情報 DB からホスト情報を取得する	jcshostsexport			スーパー ユーザー 1
監視オブジェクト DB を再作成する	jcscdbsetup			スーパー ユーザー 1

### フィルターに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
イベント取得フィルターを切り替える	jcochfilter			スーパー ユーザー 1
共通除外条件の動作モードを変更する	jcochcefmode			スーパー ユーザー 1

### セントラルスコープの監視ノードの状態変更に関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
監視ノード（監視オブジェクトまたは監視グループ）の状態を変更する	jcscstat			スーパー ユーザー 1

## セントラルスコープの監視オブジェクト DB の情報を移行するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
JP1/IM・Manager の監視オブジェクト DB の保管情報を一括取得し、ローカルにファイル出力する	jcsdbexport			スーパー ユーザー 1
jcsdbexport コマンドでファイル出力した情報を JP1/IM・Manager の監視オブジェクト DB に反映する	jcsdbimport			スーパー ユーザー 1

## トラブルシューティングに使用するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
IM 構成管理・ビューアーの Java スレッドダンプを生成する	jcftthreadmp (Windows 限定)		-	なし
JP1/IM・Manager, および JP1/IM・View の障害発生時の資料を採取する	jim_log.bat (Windows 限定)		-	なし <sup>3</sup>
JP1/IM・Manager の障害発生時の資料を採取する	jim_log.sh (UNIX 限定)	-		スーパー ユーザー
JP1/IM・View の障害発生時の資料を採取する	jcoview_log.bat (Windows 限定)		-	なし <sup>3</sup>
JP1/IM・View の障害発生時にスレッドダンプを出力する	jcotthreadmp (Windows 限定)		-	なし
JP1/IM・Manager の障害発生時にスレッドダンプ, コアダンプ (UNIX 限定) を出力する	jcogencore			スーパー ユーザー 1
JP1/IM・Manager のヘルスチェック定義ファイルで定義した通知コマンドをテストする	jcohctest			スーパー ユーザー 1

## JP1/IM - Manager の機能を拡張するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck			なし <sup>3</sup>
モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck			なし <sup>3</sup>
アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck			なし
統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck			なし

1. コマンド  
コマンド一覧

JP1/IM - Incident Master 連携で使用するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
インシデント登録サービスの動作状態を確認する	jcoedsstatus			なし <sup>3</sup>
インシデント登録サービスの動作状態を稼働, または休止状態にする	jcochdisc			スーパー ユーザー <sup>1</sup>

# jccancel

## 機能

自動アクションをキャンセルするコマンドです。このコマンドは、システムの運用に必要ななくなった次に示すようなアクションを、JP1/IM・Manager から削除する場合に使用します。

- システムの運用中に自動アクションが多発したことによって、「キューイング」状態のまま実行されないアクション
- 処理に時間が掛かるコマンドまたは処理が終了しないコマンドの実行によって、「実行中」状態のまま終了しないアクション

アクションで実行したコマンドは、jccomddel コマンドでも削除できますが、アクションの状態が「キャンセル」になりません。jccomddel コマンドは、jccancel コマンドでキャンセルできなくなってしまったアクションを削除する場合に使用してください。

jccomddel コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドに関する章を参照してください。

このコマンドはアクション実行ホストの JP1/Base が 07-10 以降の場合に実行できます。JP1/Base が 07-00 以前の場合には実行できません。アクション情報ファイルに存在しないアクションのキャンセルはできません。

キャンセル後のアクションの状態は、キャンセルするアクションの状態に応じて異なります。キャンセルできるアクションの状態と、キャンセル後のアクションの状態を次に示します。

表 1-1 キャンセルできるアクションの状態、キャンセル後のアクションの状態

キャンセルできるアクションの状態	キャンセル後のアクションの状態 <sup>1</sup>
「送信待機」または「送信待機 (キャンセル失敗)」	「キャンセル」
「送信中 (キャンセル失敗)」 <sup>2</sup>	
「キューイング」または「キューイング (キャンセル失敗)」	
「実行中」または「実行中 (キャンセル失敗)」	「強制終了」

注 1 キャンセル処理中に JP1/Base のコマンド制御内で、エラーが発生するとアクションの状態は「実行失敗 (キャンセル失敗)」になります。

注 2 状態が「送信中」のアクションは、キャンセルできません。キャンセルを実行すると状態が「送信中 (キャンセル失敗)」になります。

## 形式

```
jccancel [-h 論理ホスト名]
          { [-i アクション通し番号,...] | [-a] | [-s アクション実行ホスト名] }
```

## 1. コマンド jccancel

[-f]

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

### 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する自動アクションをキャンセルします。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-i アクション通し番号

アクション単位で、自動アクションをキャンセルする場合に指定します。

アクション通し番号は、jccashowa コマンド、または JP1/IM - View 上の [ アクション結果一覧 ] 画面、および [ アクション結果詳細 ] 画面で確認できます。最大 20 件指定できます。複数のアクション通し番号を指定する場合は、アクション通し番号を半角コンマ (,) で区切ってください。なお、アクション通し番号とアクション通し番号の間に、ほかのオプションは指定できません。

複数のアクション通し番号を指定した場合には、実行途中でエラーが発生しても処理を続けます。エラーメッセージはエラーが発生した件数だけ表示されます。

-i オプションで複数のアクションを指定して複数アクションをキャンセルした場合に、複数のエラーが発生したとき、最後にエラーとなったエラー内容が jccancel コマンドの戻り値となります。

-a

jccancel を実行する JP1/IM から実行し、監視しているすべてのホストに存在する自動アクションをキャンセルする場合に指定します。

-a オプションを指定して複数アクションをキャンセルした場合に、複数のエラーが発生

したとき、最後にエラーとなったエラー内容が jccancel コマンドの戻り値となります。

-s アクション実行ホスト名

jccancel を実行する JP1/IM から実行し、指定した実行先ホストに存在する自動アクションをキャンセルする場合に指定します。

システム構成の定義で管理対象ホストに設定したホストだけ指定できます。なお、IP アドレス、およびホストグループは指定できません。

-s オプションを指定して複数アクションをキャンセルした場合に、複数のエラーが発生したとき、最後にエラーとなったエラー内容が jccancel コマンドの戻り値となります。

-f

キャンセル時の確認メッセージを省略して、自動アクションをキャンセルしたい場合に指定します。

### 注意事項

- キャンセル処理中に実行先のホストが再起動した場合の処理  
自動アクションのキャンセル処理中にアクション実行先のホストが再起動した場合には、アクションのキャンセル状態を取得できません。そのため、アクションの状態が「送信待機（キャンセル中）」、「送信中（キャンセル中）」、「キューイング（キャンセル中）」、または「実行中（キャンセル中）」のままになり、キャンセル処理が成功したかどうか確認できません。jccomdshow コマンドで確認し、アクションが残っている場合には、jccomddel コマンドで削除してください。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数不正エラー
2	共通定義不正エラー
3	アクション状態不正エラー
4	キャンセル処理エラー
5	入出力エラー
6	自動アクション機能（アクション実行サービス）からの応答がない
7	実行権限エラー（Windows 限定）
255	システムエラー

### 使用例 1

複数の自動アクション（アクション通し番号 23, 35, 42）をキャンセルする場合

## 1. コマンド

jcacancel

```
jcacancel -i 23,35,42
```

### 使用例 2

論理ホスト hostA から実行し、論理ホスト hostA の監視下にあるすべてのホストに存在する自動アクションをキャンセルする場合

```
jcacancel -h hostA -a
```

### 使用例 3

jcacancel を実行する JP1/IM から実行し、ホスト host01 に存在する自動アクションをキャンセルする場合

```
jcacancel -s host01
```

### 使用例 4

論理ホスト hostB から実行し、論理ホスト hostB 監視下の host02 に存在する自動アクションをキャンセルする場合

```
jcacancel -h hostB -s host02
```

### 使用例 5

論理ホスト hostC の監視下にある自動アクションを、アクション通し番号 (23, 35, 42) を指定してキャンセルする場合

```
jcacancel -h hostC -i 23,35,42
```

# jcachange

---

## 機能

自動アクション定義ファイルを再読み込みする、または自動アクション機能を休止するコマンドです。

オプションを省略した場合、自動アクション定義ファイルを再読み込みします。自動アクション定義ファイルの内容を変更したあとに、変更したアクション定義を有効にするために、このコマンドで再読み込みをします。

自動アクション定義ファイルに無効なアクション定義があった場合、KAVB5104-W のメッセージが出力されます。読み込んだ自動アクション定義ファイルに有効なアクション定義がない場合、KAVB4053-I のメッセージが出力され、自動アクション機能を休止します。

再読み込みした自動アクション定義パラメーターのサイズが最大長を超えていた場合、該当する行番号の自動アクション定義パラメーターは無視されます。自動アクション定義パラメーターのサイズについては、「自動アクション定義ファイル (actdef.conf)」(2. 定義ファイル)を参照してください。

## 形式

```
jcachange [-n] [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

## 引数

-n

自動アクション機能を休止します。アクション定義に一致するイベントを受信しても、アクションは実行されません。

自動アクション機能を再開するには、オプションを省略して jcachange コマンドを実行するか、JP1/IM - Manager を再起動します。

## 1. コマンド

### jcachange

#### -h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応するアクション定義を再読み込み、または休止します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

#### 戻り値

0	正常終了
1	引数不正
2	パイプ関連エラー
4	自動アクション機能からの応答がない
5	自動アクション定義ファイルの再読み込み、自動アクション機能の一時停止失敗
-13	引数指定値不正
-102	ファイル入出力エラー
その他の値	システムエラー

# jcadefconv

## 機能

バージョン 8 以前のアクション定義ファイル (DESC\_VERSION の値が 3 未満) を 09-00 のアクション定義ファイル (DESC\_VERSION の値が 3) に変換します。

ただし、バージョン 8 以前のアクション定義ファイルの、メッセージ、イベント基本情報、イベント詳細情報、およびイベント拡張情報の項目に、次の文字があった場合、変換して定義します。

表 1-2 文字の変換

変換前の文字	変換後の文字
¥/	/
半角スペース	%20
%	%25

なお、このコマンドは変換前にアクション定義ファイルのフォーマットを自動でチェックします。チェックした結果、エラーが見つかった場合は、標準エラー出力にエラーメッセージが出力され、変換されません。

変換後のアクション定義ファイルの出力先は任意に設定できます。

バージョン 8 以前のアクション定義ファイルから 09-00 のアクション定義ファイルへは、次のように変換されます。

表 1-3 アクション定義ファイルの変換

バージョン 8 以前の形式	09-00 の形式	備考
(DESC_VERSION なし)	DESC_VERSION=3	-
DESC_VERSION=1	DESC_VERSION=3	-
DESC_VERSION=2	DESC_VERSION=3	-
:state_watch=true	cmn sta true end-cmn	-
:state_watch=false	cmn sta false end-cmn	-
(:state_watch を指定していない)	cmn sta false end-cmn	-

1. コマンド  
jcadefconv

バージョン 8 以前の形式	09-00 の形式	備考
# コメント 1 +0 * :action.exe	act アクション 1 prm 0 cmt コメント 1 (省略) end-act	-
# コメント 1 +0 * :action.exe	act アクション 1 prm 0 cmt コメント 1 (省略) end-act	-
# コメント 1 # コメント 2 +0 * :action.exe	act アクション 1 prm 0 cmt コメント 2 (省略) end-act	-
パラメーターグループ指定のアクション	act アクション通し番号	コマンド実行の環境が日本語環境だった場合
	act Action通し番号	コマンド実行の環境が英語環境だった場合
AND アクションの場合	act	-
+ パラメーターグループ番号	prm パラメーターグループ番号	-
&	prm &	-
\$ イベント ID 基本部	eid イベント ID 基本部	-
\$ イベント ID 基本部 : イベント ID 拡張部	eid イベント ID 基本部 : イベント ID 拡張部	-
*	eid *	-
/ メッセージ /	B.MESSAGE REGEX メッセージ	-
/ イベント基本情報 /	B.BASIC REGEX イベント基本情報	-
/ イベント詳細情報 /	B.DETAIL REGEX イベント詳細情報	-
//	(条件を設定しない)	-
/-----E/	E.SEVERITY IN Emergency	-
/-----A-/	E.SEVERITY IN Alert	-
/-----C--/	E.SEVERITY IN Critical	-

バージョン 8 以前の形式	09-00 の形式	備考
/----E---/	E.SEVERITY IN Error	-
/---W----/	E.SEVERITY IN Warning	-
/--N-----/	E.SEVERITY IN Notice	-
/-I-----/	E.SEVERITY IN Information	-
/D-----/	E.SEVERITY IN Debug	-
/DINWECAE/	E.SEVERITY IN Emergency Alert Critical Error Warning Notice Information Debug	複数の重大度の条件を指定する場合
イベント拡張情報属性名 =/ 属性値 /	E. イベント拡張情報属性名 REGEX 属性値	-
u= ユーザー名	usr ユーザー名	-
e= 環境変数ファイル名	var 環境変数ファイル名	-
d= 実行先ホスト名	hst 実行先ホスト名	-
d= グループ名	hst グループ名	-
dt= 抑止時間	det 抑止時間	-
rt= 遅延監視時間	ret 遅延監視時間	-
+0 * : アクション	cmd アクション	-
+0 * :<RULE>	rul	JP1/IM・RLを実行する場合
+0 * :action.exe	act アクション 1 prm 0 eid *  cnd end-cnd  cmd action.exe end-act	イベント条件がない場合

## 1. コマンド

### jcadefconv

バージョン 8 以前の形式	09-00 の形式	備考
+0 * /メッセージ/ : action.exe	act アクション 1 prn 0 eid *  cnd B.MESSAGE REGEX メッ セージ end-cnd  cmd action.exe end-act	イベント条件がある 場合

(凡例)

- : タブを示す
- : 半角スペース
- : なし

### 形式

```
jcadefconv -i 変換するアクション定義ファイル名
            -o 変換後のアクション定義ファイル名
            [-h 論理ホスト名]
```

### 実行権限

Windows の場合 : Administrators 権限

UNIX の場合 : スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

### 引数

**-i** 変換するアクション定義ファイル名

変換するアクション定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。アクション定義ファイルのパス名に空白を含む場合は、「"」で囲んで指定します。ファイル名には、255 バイトまでの名称を指定できます。

**-o** 変換後のアクション定義ファイル名

変換するアクション定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。アクション定義ファイルのパス名に空白を含む場合は、「"」で囲んで指定します。ファイル名には、255 バイトまでの名称を指定できます。

ただし、Windows の場合、次に示す文字列はファイル名には指定できません。

- 「:」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」の文字。
- CON, PRN, AUX, NUL, COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9 のどれかと完全一致する（小文字も含む）文字列。

変換後のアクション定義ファイル名はユーザー任意に指定できますが、`-i` オプションに指定したファイルは指定できません。指定した場合、KAVB5502-E のメッセージが出力されコマンドが終了します。また、同じファイル名を指定した場合、KAVB5504-E メッセージが出力されプログラムを終了します。

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストが使用する正規表現を使用して、変換する定義ファイルの内容をチェックします。

このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

## 注意事項

09-00 の形式に変換した際に、定義不正となる項目があります。定義不正の場合には、KAVB5503-W メッセージが出力されますので、メッセージに従って、アクション定義ファイルを修正してください。そのあと、`jcamakea` コマンドでチェックし、定義ファイルが正しく修正されたことを確認してください。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了
2	警告終了

## 使用例

バージョン 8 以前の形式で指定されたアクション定義ファイルを 09-00 形式に変換する場合の例を下記に示します。

```
jcadefconv -i actdef.conf -o actdef_new.conf
```

バージョン 8 以前の形式で指定されたアクション定義ファイルの記述が次の場合を仮定します。

```
DESC_VERSION=2
:state_watch=true
#コメント
```

## 1. コマンド

jcadefconv

```
+0 $0000000A /メッセージ//イベント基本情報//イベント詳細情報//  
-----E/ ATTR1=/属性値1/ : u=ユーザー名 e=環境変数ファイル名 d=実行先ホス  
ト名 dt=20 rt=30 アクション
```

jcadefconv コマンドを実行すると、次のように変換されます。

```
DESC_VERSION=3  
cmn  
  sta true  
end-cmn  
  
act アクション1  
  prm 0  
  cmt コメント  
  eid A  
  cnd  
    B.MESSAGE REGEX メッセージ  
    B.BASIC REGEX イベント基本情報  
    B.DETAIL REGEX イベント詳細情報  
    E.SEVERITY IN Emergency  
    E.ATTR1 REGEX 属性値1  
  end-cnd  
  
  usr ユーザー名  
  hst 実行先ホスト名  
  cmd アクション  
  var 環境変数ファイル名  
  det 20  
  ret 30  
end-act
```

# jcamakea

---

## 機能

自動アクション定義ファイルの定義内容をチェックします。複数の自動アクション定義ファイルに定義が分かれている場合は、一つに合わせます。ただし、複数に分かれている自動アクション定義ファイルの一つにする場合、アクション定義ファイルのバージョン、および自動アクション状態監視パラメーターは最初に読み込んだファイルの定義を使用します。

チェック、および併合結果は標準出力に出力されます。出力結果を確認して、自動アクション定義ファイルを作成してください。

チェックした結果、エラーが見つかった場合は、標準エラー出力にエラーメッセージが出力されます。

オプション指定した自動アクション定義ファイル内に記述している自動アクション定義パラメーターのサイズが最大長を超えていた場合、その自動アクション定義パラメーターは標準出力に出力されません。自動アクション定義パラメーターのサイズについては、「自動アクション定義ファイル (actdef.conf)」(2. 定義ファイル) を参照してください。

定義パラメーターがないファイル、またはコメントだけのファイルは、エラーになりません。

## 形式

```
jcamakea [-h 論理ホスト名] 自動アクション定義ファイル名1 [...自動アクション定義ファイル名100]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

変換する定義ファイルの内容のチェックに使用する正規表現のあるホストの論理ホスト

## 1. コマンド

### jcamakea

名を指定します。指定した論理ホストが使用する正規表現を使用して、定義ファイルの内容をチェックします。また、指定した論理ホストのファイルサイズの設定に従って、自動アクション定義ファイルのファイルサイズが最大値を超えていないかチェックします。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

自動アクション定義ファイル名 1 [...自動アクション定義ファイル名 100]

アクションを定義したファイルを、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。最大 100 ファイル指定できます。ファイル名とファイル名の間には空白を挿入します。自動アクション定義ファイルのパス名に空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。

ファイル名には、255 バイトまでの名称を指定できます。

### 戻り値

0	正常終了
3	引数不正
7	フォーマットエラー、または権限がない。
-1	ファイルオープンエラー
-100	論理エラー
-102	ファイル入出力エラー
-103	メモリー不足
-104	システムエラー

08-50 以前の形式のアクション定義ファイルを読み込んだ場合の戻り値は、次のとおりです。

0：正常終了

0 以外：異常終了

なお、エラーが複数発生した場合、戻り値は、最後に発生したエラーの戻り値となります。

### 使用例

自動アクション定義ファイル 1 /usr/console/action1 と自動アクション定義ファイル 2 /usr/console/action2 を併合して、自動アクション定義ファイル /usr/console/actionx1 を作成します。

```
jcamakea /usr/console/action1 /usr/console/action2 > /usr/console/actionx1
```

# jcashowa

---

## 機能

実行した自動アクションの結果を表示します。指定した日時に登録されたイベントに対する自動アクションの実行結果を表示します。

## 形式

```
jcashowa [-d { [MM/dd/hh:mm] [, [MM/dd/hh:mm]] }]  
          [-h 論理ホスト名]  
          [アクション情報ファイル名]
```

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

```
-d { [MM/dd/hh:mm] [, [MM/dd/hh:mm]] }
```

アクションの対象となったイベントのイベント登録時刻を指定します。範囲を指定する場合は、指定する日時の始点と終点を「,」で区切って指定します。指定した範囲のイベント登録時刻となっているイベントに対するアクション情報を表示します。

このオプションを省略した場合は、すべてのアクション情報を表示します。

日時指定（MM/dd/hh:mm）について

日時指定は、次の表に示す形式で指定できます。運用に合わせて使い分けてください。

表 1-4 日時指定形式

日時指定パターン	説明
MM/dd/hh:mm	MM には月、dd には日、hh には時、mm には分を指定します。
MM/dd/hh	MM には月、dd には日、hh には時を指定します。 省略した mm は 00 を指定したと仮定されます。

1. コマンド  
jcashowa

日時指定パターン	説明
MM/dd	MM には月, dd には日を指定します。 省略した hh は 00, mm は 00 を指定したと仮定されます。
dd	dd には日を指定します。 省略した MM は jcashowa コマンドを実行した月, hh は 00, mm は 00 を指定したと仮定されます。
dd/hh:mm	dd には日, hh には時, mm には分を指定します。 省略した MM は jcashowa コマンドを実行した月を指定したと仮定されま す。
hh:mm	hh には時, mm には分を指定します。 省略した MM は jcashowa コマンドを実行した月, dd は jcashowa コマ ンドを実行した日を指定したと仮定されます。

日時の範囲指定 ( [MM/dd/hh:mm] [, [MM/dd/hh:mm]] ) について

日時の範囲指定は、次の表に示す形式で指定できます。運用に合わせて使い分けて  
ください。

表 1-5 日時の範囲指定形式

範囲指定パターン	説明
-d 日時	「日時」を指定すると、特定の日に登録されたイベントに対して実行 されたアクションの、アクション結果を表示できます。 例えば 10 月 24 日 22 時に登録されたイベントに対して実行されたア クションの、アクション結果を表示したい場合は次のように指定しま す。 jcashowa -d 10/24/22:00
-d 日時,日時	「日時,日時」を指定すると、ある日時からある日時までの範囲で登録 されたイベントに対して実行されたアクションの、アクション結果を すべて表示できます。 例えば 10 月 24 日 22 時から 11 月 24 日 10 時までに登録されたイベン トに対して実行されたアクションの、アクション結果を表示したい場 合は次のように指定します。 jcashowa -d 10/24/22:00,11/24/10:00
-d 日時,	「日時,」を指定すると、ある日時以降に登録されたイベントに対して 実行されたアクションの、アクション結果をすべて表示できます。 例えば 10 月 24 日 22 時以降に登録されたイベントに対して実行され たアクションの、アクション結果を表示したい場合は次のように指定 します。 jcashowa -d 10/24/22:00,
-d ,日時	「,日時」を指定すると、ある日時以前に登録されたイベントに対して 実行されたアクションの、アクション結果をすべて表示できます。 例えば 11 月 24 日 10 時以前に登録されたイベントに対して実行され たアクションの、アクション結果を表示したい場合は次のように指定 します。 jcashowa -d ,11/24/10:00

指定年の仮定について

jcashowa コマンドを実行した月より、始点に指定した月の方が大きい場合、始点に指定した日時を前年と見なして「前年の始点日時から本年の終点日時まで」と判断します。

始点に指定した月が jcashowa コマンドを実行した月より大きい場合

12月 始点指定月 > jcashowa コマンド実行月

始点指定日時の年度は jcashowa コマンドを実行した年の 1 年前の日時と見なします。

始点に指定した月が jcashowa コマンドを実行した月より小さい場合

jcashowa コマンド実行月 始点指定月 01月

始点指定日時の年度は jcashowa コマンドを実行した年の日時と見なします。

(例1) 2003/10/31に下記のようにjcashowaコマンドを実行した場合

```
# jcashowa -d 11/01/0:00,10/01/23:59
```

2002/11/01 0:00 ~ 2003/10/01 23:59 の範囲として正常に処理されます。

(例2) 2003/11/01に下記のようにjcashowaコマンドを実行した場合

```
# jcashowa -d 11/01/0:00,10/01/23:59
```

2003/11/01 0:00 ~ 2003/10/01 23:59 の範囲を指定したと見なし、日時の指定範囲が昇順となっていないため、「KAVB4009-W オプション(-d)の値に誤りがあります」と表示されます。

-d オプションは、指定する日時の大小関係を判断します。始点に指定した日時と終点に指定した日時が、昇順となっていない場合はエラーとなります。

#### 秒単位の指定について

秒については、始点に指定した場合は 00 秒、終点に指定した場合は 59 秒として扱います。

(例1) 下記のようにjcashowaコマンドを実行した場合

```
# jcashowa -d 10/24/22:00
```

10月24日 22時00分00秒~10月24日 22時00分59秒までのアクション結果を表示します。

(例2) 下記のようにjcashowaコマンドを実行した場合

```
# jcashowa -d 10/24/22:00,11/24/10:00
```

10月24日 22時00分00秒~11月24日 10時00分59秒までのアクション結果を表示します。

#### -h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応するアクションの実行結果が表示されます。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

#### アクション情報ファイル名

アクション情報ファイルをフルパスで指定します。

物理ホストのアクション情報ファイルを指定する場合は、-h オプションおよび環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定しないでください。

## 1. コマンド

jcashowa

論理ホストのアクション情報ファイルを指定する場合は、-h オプションまたは環境変数 JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名を指定してください。

アクション情報ファイル名には、255 バイトまでのファイル名が指定できます。

アクション情報ファイルは、実行したアクションに関する情報を格納するファイルです。

なお、このオプションは、指定したいほかのオプションをすべて指定したあとに指定してください。

### 戻り値

0	正常終了
3	引数エラー
6	システムエラー
7	コマンドを実行する権限がない ( Windows Server 2008 限定 )

### 出力形式

jcashowa コマンドを実行すると、自動アクション情報は次の形式で出力されます。

イベント情報 <sup>1</sup> イベントID イベントDB内通し番号 イベント登録時刻 イベント到着時刻  
アクション情報 <sup>2</sup> アクション通し番号 アクション種別 状態 遅延状態 PID 実行先ホスト名  
アクション情報 アクション投入時刻 アクション開始時刻 アクション終了時刻 終了コード  
コマンド コマンド  
メッセージ メッセージ

#### 注 1

自動アクションの設定で AND 条件を指定している場合には、実行条件に設定しているイベントのうち、最後に受信したイベントのイベント情報だけ出力されます。

#### 注 2

アクションに遅延監視設定をしていない、またはアクションが遅延していない場合は、次のように出力されます。

アクション情報 アクション通し番号 アクション種別 状態 PID 実行先ホスト名

出力される各項目を次に説明します。

表 1-6 自動アクション情報の出力項目

項目	説明
イベント ID	イベント ID が「基本コード:拡張コード」の形式で表示される。
イベント DB 内通し番号	イベントのイベント DB 内通し番号が表示される。
イベント登録時刻	イベントの登録時刻が「月/日 時:分:秒」の形式で表示される。

項目	説明
イベント到着時刻	イベントの到着時刻が「月/日 時:分:秒」の形式で表示される。
アクション通し番号	実行するアクションのアクション通し番号。
アクション種別	アクションの種別が次のどれかで表示される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Command ( コマンド )</li> <li>• Rule ( JP1/IM - Rule Operation へのルール起動要求 )</li> </ul>
状態	<p>状態アクションの実行状態を表す次の文字列のどれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• running ( 実行中 )</li> <li>• ended ( 終了 )</li> <li>• none ( なし )</li> <li>• fail ( 実行不可 : JP1/Base に実行要求を渡す前のエラー )</li> <li>• error ( 実行失敗 : JP1/Base のコマンド制御内でのエラー )</li> <li>• unknown ( 状態不明 : コマンドの実行結果が不明 )</li> <li>• wait ( 送信待機 : 先行コマンドの終了待ち )</li> <li>• send ( 送信中 : コマンドの送信中 )</li> <li>• queue ( キューイング : JP1/Base 内でのコマンド実行待ち )</li> <li>• cancel ( キャンセル )</li> <li>• kill ( 強制終了 )</li> <li>• deterrent ( 抑止 )</li> </ul> <p>アクションを JP1/IM - View または jcacancel コマンドからキャンセルした場合、上記の状態の後ろにキャンセル状態が表示される。アクションのキャンセル状態を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• canceling ( キャンセル中 ) 例 : queue ( canceling )</li> <li>• miss ( キャンセル失敗 ) 例 : ended ( miss )</li> </ul> <p>アクション実行サービスの再起動時にコマンドが再実行、またはアクション再実行用ファイルに出力された場合は、状態の後ろに「-R」が付く ( 例 : ended-R )。</p> <p>JP1/IM - View から再実行をした場合は、上記の状態の後ろに「-RU」が付く ( 例 : ended-RU )。</p> <p>抑止されたアクションを JP1/IM - View から再実行した場合は、上記状態の後ろに「-RUD」が付く ( 例 : ended-RUD )。</p> <p>抑止されたアクションを JP1/IM - View から再実行し、かつ、再実行中にアクション実行サービスの再起動 ( 系切り替え含む ) の発生によって再実行、またはアクション再実行用ファイルに出力された場合は、状態の後ろに「-RD」が付く ( 例 : ended-RD )。</p> <p>抑止されたアクションでアクションの状態が「fail」( 実行不可 ) の場合は「fail」の状態の後ろに「-D」が付く ( 例 : fail-D )。</p>
遅延状態	<p>アクションの遅延状態を表す。</p> <p>アクションが遅延している場合は、delay ( 遅延 ) と表示される。</p> <p>アクションが遅延していない場合は、何も表示されない。</p>
PID	<p>実行したアクションのプロセス ID。</p> <p>系切り替えが発生して、アクション再実行用ファイルにアクションの情報が記述された場合は、「OUTPUT」と表示される。</p>
実行先ホスト名	アクションを実行したホストのホスト名。
アクション投入時刻	<p>実行するアクションの投入時刻が「月/日 時:分:秒」の形式で表示される。</p> <p>アクションが投入されていない場合は「**/** **:**:**」と表示される。</p>

1. コマンド  
jcashowa

項目	説明
アクション開始時刻	実行するアクションの開始時刻が「月/日 時:分:秒」の形式で表示される。 アクションが開始されていない場合は「**/** **:**:**」と表示される。
アクション終了時刻	実行したアクションの終了時刻を「月/日 時:分:秒」の形式で表示する。 アクションが終了していない場合は、「**/** **:**:**」と表示される。
終了コード	実行したアクションの終了コード。 アクションが終了していない場合は、「***」と表示される。
コマンド	アクションとして実行したコマンド。
メッセージ	コマンドが出力したメッセージ。

出力例

(例 1)

コマンドが異常終了し、メッセージが出力された場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 23000 Command ended 27934 raysol
アクション情報 12/03 12:09:15 12/03 12:09:16 12/03 12:09:17 1
コマンド /usr/local/action
メッセージ abcがみつかりません。

```

(例 2)

コマンドが実行中で、メッセージが出力されていない場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 23000 Command running 27934 raysol
アクション情報 12/03 12:09:15 12/03 12:09:16 **/** **:**:** ***
コマンド /usr/local/executing

```

(例 3)

コマンドの状態が実行中、キャンセル状態がキャンセル中で、メッセージが出力されていない場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 10 Command running(canceling) 15236 raysol
アクション情報 12/03 12:09:15 12/03 12:09:16 **/** **:**:** ***
コマンド /usr/local/action

```

(例 4)

結果が複数ある場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 380 Command ended 233 raysol
アクション情報 12/03 12:09:13 12/03 12:09:14 12/03 12:09:14 20
コマンド /usr/local/action
イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26

```

```

アクション情報 381 Command ended 279 raysol
アクション情報 12/05 10:39:20 12/05 10:39:21 12/05 10:39:23 128
コマンド      /usr/local/action2
メッセージ    権限がありません
スーパーユーザで実行してください
処理を打ち切ります

```

(例5)

パラメータグループ指定のため、一つのイベントに対し複数のアクションがある場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 987 Command running 2904 raysol
アクション情報 12/05 10:39:20 12/05 10:39:21 12/03 12:09:13 0
コマンド      /usr/local/first
イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 988 Command ended 2906 raysol
アクション情報 12/05 10:39:20 12/05 10:39:21 12/06 21:02:54 0
コマンド      /usr/local/second

```

(例6)

系切り替えが発生したため、アクションの情報がアクション再実行用ファイルに記述された場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 45687 Command ended-R OUTPUT
アクション情報 **/** **:*:*:* ** **/** **:*:*:* ** **/**
**:*:*:* **

```

(例7)

実行中のアクションが遅延している場合

```

イベント情報 00002000:00000000 20 12/03 12:03:26 12/03 12:03:26
アクション情報 987 Command running delay 2904 raysol
アクション情報 12/05 10:39:20 12/05 10:39:21 **/** **:*:*:* **
コマンド      /usr/local/executing

```

(例8)

引数なしでコマンドを実行した場合 (JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効)

```

イベント情報 00000111:00000000 628 03/13 16:18:24 03/13 16:18:24
アクション情報 523 Rule ended 3016 raysol
アクション情報 03/13 16:18:24 03/13 16:18:24 03/13 16:18:28 0
コマンド      jrmexecrule -c raysol -s 628 -t 1142234304
メッセージ    KAJX4101-I ルールの起動に成功しました
起動ルール一覧
RuleOperation/rule005
イベント情報 00000111:00000000 628 03/13 16:18:24 03/13 16:18:24
アクション情報 524 Command ended 3156 raysol
アクション情報 03/13 16:18:24 03/13 16:18:28 03/13 16:18:28 0
コマンド      hostname
メッセージ    raysol

```

# jcastatus

---

## 機能

稼働している自動アクション機能の動作状態（停止，稼働，休止），および稼働している自動アクション機能が読み込んでいる自動アクション定義ファイルの内容を標準出力に表示します。

## 形式

```
jcastatus [-h 論理ホスト名]
           [-d ]
```

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する自動アクション機能（イベント基盤サービス）の動作状態が表示されます。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-d

稼働している自動アクション機能が読み込んでいる自動アクション定義ファイルの内容を標準出力に表示します。自動アクション定義ファイルと同じフォーマットで表示されます。

## 戻り値

0	正常終了
4	自動アクション機能（イベント基盤サービス）からの応答がない

5	自動アクション機能（イベント基盤サービス）が停止または休止中のため、自動アクション定義ファイルの内容が表示できない
6	システムエラー（コマンド側）
7	コマンドを実行する権限がない（Windows Server 2008 限定）
-13	引数指定値不正
-102	入出力エラー
-104	システムエラー（イベント基盤サービス側）

## 出力形式

jcastatus コマンドを実行すると、自動アクション機能の動作状態は次の形式で出力されます。

Status : 状態

「状態」に表示される文字列について次に説明します。

表 1-7 自動アクション機能の動作状態

「状態」に表示される文字列	動作状態	説明
STOP	停止	自動アクション機能（イベント基盤サービス）が停止している状態。
RUNNING	稼働	自動アクション機能（イベント基盤サービス）が起動しており、自動アクション機能が使用できる状態。
STANDBY	休止	イベント基盤サービスは起動しているが、自動アクション機能は休止している状態。 休止状態の間は、イベントは受信されるが、受信されたイベントに対してアクション処理は行われない。 休止状態から稼働状態になった場合は、休止中に受信されたイベントに対してアクション処理は行われない。

## 出力例

自動アクション機能の動作状態が休止状態であった場合

Status : STANDBY

## 1. コマンド

jcfaletdef ( Windows 限定 )

# jcfaletdef ( Windows 限定 )

---

## 機能

指定した監視対象ホストに、リモート監視イベントログトラップのプロファイルを定義します。指定した監視対象ホストのプロファイルが稼働中か停止中かに関係なく、定義を上書きします。

一括リロードをする場合は、jcfaletdef コマンドで複数の稼働中のリモート監視イベントログトラップを上書きしたあと、jcfaletreload コマンドで複数のプロファイルを一括でリロードします。

なお、同時に実行できるコマンドの数は5個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである

## 形式

```
jcfaletdef -f リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル名  
           -o 監視対象ホスト名  
           [-filter フィルター]  
           [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

## 引数

-f リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル名

動作定義ファイルの名称を指定します。

動作定義ファイル名は、フルパスまたはカレントディレクトリからの相対パスで、256バイト以下で指定します。相対パスを指定する場合は、ディレクトリ名を補ったフルパス名が256バイト以下になるように指定してください。

動作定義ファイルは任意のディレクトリに配置し、任意のファイル名を指定できます。

-o 監視対象ホスト名

プロファイルを定義したいリモート監視イベントログトラップのプロファイル監視対象ホスト名を指定します。なお、監視対象ホストのOSは、Windowsだけです。

-filter フィルター

事前フィルターによって、リモートの監視対象ホスト側で取得したイベントログをフィルタリングする場合に、フィルターをログの種類で指定します。

このオプションを指定すると、指定したログの種類と一致したイベントログだけがマネージャーに転送されます。これによって、リモートの監視対象ホストからマネージャーに転送されるログファイルのデータ量を抑制できます。

ログの種類は、次の表に示す文字列で指定します。なお、文字列の大文字・小文字は区別しません。

指定できるログ種別	フィルタリングするイベントのログの種類
Error	エラー, Error, 重大, Critical
Warning	警告, Warning
Information	情報, Information, 詳細, Verbose
Audit_success	成功の監査, Security Audit Success
Audit_failure	失敗の監査, Security Audit Failure

複数のログの種類を指定する場合は、「,」で区切って指定します。「,」の前後に空白は入れないでください。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

戻り値

0	追加成功
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
10	排他編集権取得エラー
14	DB 不正
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 1. コマンド

jcfaletdef ( Windows 限定 )

### 使用例 1

host1 にプロファイルを追加する場合

```
jcfaletdef -f actionDefinition.conf -o host1
```

### 使用例 2

host1 にプロファイルを追加する場合で、エラー、警告、および失敗の監査のイベントログだけをフィルタリングしたいとき

```
jcfaletdef -f actionDefinition.conf -o host1 -filter  
Error,Warning,Audit_failure
```

## jcfaleltreload ( Windows 限定 )

---

### 機能

リモート監視イベントログトラップをリロードします。また、コマンド実行時にトラップ処理をしていた場合、そのトラップ処理の完了後、リロード処理をします。

jcfaleltdef コマンドまたは [ プロファイル表示 / 編集 ] 画面で、起動オプションを変更した場合は、リロードしても反映されません。再起動して反映してください。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- DCOM の設定をしている
- リモート監視イベントログトラップが起動中である

### 形式

```
jcfaleltreload { -o 監視対象ホスト名 | ALL }  
                [-h 論理ホスト名]
```

### 実行権限

Administrators 権限

### 格納先ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

### 引数

-o 監視対象ホスト名

リロードしたいリモート監視イベントログトラップの監視対象ホスト名を指定します。監視対象ホストの OS は Windows に限ります。

ALL

すべてのリモート監視イベントログトラップを対象とします。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

## 1. コマンド

jcfaletreload (Windows 限定)

### 戻り値

0	リロード成功
2	一部失敗, またはすべて失敗
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
10	排他編集権取得エラー
11	動作定義ファイル不正
12	認証定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
15	指定したリモート監視イベントログトラップは停止済み
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

### 使用例

host1 のリモート監視イベントログトラップをリロードする場合

```
jcfaletreload -o host1
```

## jcfalettstart ( Windows 限定 )

---

### 機能

リモート監視イベントログトラップを起動します。

このコマンドを実行すると、オプションに指定した監視対象ホストのイベントログファイルを集集し、リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルで指定した条件に合うログの 1 行を JP1 イベント化して、イベントサーバに登録します。

-f オプションを指定する場合、コマンドの実行前に、リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルを作成しておく必要があります。また、-f オプションを指定して実行した場合、プロファイルが停止中であれば、既存のリモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルを上書きしたあと、リモート監視イベントログトラップのプロファイルのプロセスを起動します。プロファイルが稼働中であれば、既存のリモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルを上書きし、サーバに保存したあとにエラーメッセージを出力します。このとき、プロファイルは上書きされる前の動作定義で稼働しています。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- DCOM の設定をしている

### 形式

```
jcfalettstart  
  -o 監視対象ホスト名  
  [-h 論理ホスト名]  
  [-f リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル名  
  [-filter フィルター]]
```

### 実行権限

Administrators 権限

### 格納先ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

### 引数

-o 監視対象ホスト名

起動したいリモート監視イベントログトラップの監視対象ホスト名を指定します。監視対象ホストの OS は Windows に限ります。

## 1. コマンド

jcfaletstart (Windows 限定)

### -h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

### -f リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル名

動作定義ファイルの名称を指定します。-f オプションを指定した場合、既存のリモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルを上書きして起動します。また、-f オプションを指定しない場合は、既存のリモート監視イベントログトラップを起動します。

動作定義ファイル名は、フルパスまたはカレントディレクトリからの相対パスで、256 バイト以下で指定します。相対パスを指定する場合は、ディレクトリ名を補ったフルパス名が 256 バイト以下になるように指定してください。

動作定義ファイルは任意のディレクトリに配置し、任意のファイル名を指定できます。

### -filter フィルター

事前フィルターによって、リモートの監視対象ホスト側で取得したイベントログをフィルタリングする場合に、フィルターをログの種類で指定します。-f オプションを指定したときだけ指定できます。

このオプションを指定すると、指定したログの種類と一致したイベントログだけがマネージャーに転送されます。これによって、リモートの監視対象ホストからマネージャーに転送されるログファイルのデータ量を抑制できます。

ログの種類は、次の表に示す文字列で指定します。なお、文字列の大文字・小文字は区別しません。

指定できるログ種別	フィルタリングするイベントのログの種類
Error	エラー, Error, 重大, Critical
Warning	警告, Warning
Information	情報, Information, 詳細, Verbose
Audit_success	成功の監査, Security Audit Success
Audit_failure	失敗の監査, Security Audit Failure

複数のログの種類を指定する場合は、「,」で区切って指定します。「,」の前後に空白は入れないでください。

### 戻り値

0	起動成功
4	引数不正

6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
8	すでに稼働済み
9	プロファイルの各種制限値を超過
10	排他編集権取得エラー
11	動作定義ファイル不正
12	認証情報定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

### 使用例 1

host1 のリモート監視イベントログトラップを起動する場合

```
jcfaleltstart -o host1 -f actionDefinition.conf
```

### 使用例 2

host1 のリモート監視イベントログトラップを起動する場合で、エラー、警告、および失敗の監査のイベントログだけをフィルタリングしたいとき

```
jcfaleltstart -o host1 -f actionDefinition.conf -filter  
Error,Warning,Audit_failure
```

## 1. コマンド

jcfaletstat ( Windows 限定 )

# jcfaletstat ( Windows 限定 )

---

## 機能

リモート監視イベントログトラップの動作状況を表示します。

このコマンドを実行すると、引数に指定した監視対象ホストを監視対象とするリモート監視イベントログトラップの動作状況を返します。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである

## 形式

```
jcfaletstat {-o 監視対象ホスト名 | ALL}  
            [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

## 引数

-o 監視対象ホスト名

動作状況を確認したいリモート監視イベントログトラップの監視対象ホスト名を指定します。監視対象ホストの OS は Windows に限ります。

ALL

すべてのリモート監視イベントログトラップを対象とします。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

## 戻り値

0	リモート監視イベントログトラップがすべて稼働している
1	リモート監視イベントログトラップが一部稼働している ( ALL オプションを指定したとき )

2	一部失敗, またはすべて失敗
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
14	DB 不正
17	権限が不正
18	I/O エラー
19	リモート監視イベントログトラップがすべて停止している
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 使用例

host1 のリモート監視イベントログトラップの動作状況を表示する場合

```
jcfaleltstat -o host1
```

## 1. コマンド

jcfaletstop (Windows 限定)

# jcfaletstop (Windows 限定)

---

## 機能

リモート監視イベントログトラップを停止します。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- DCOM の設定をしている
- リモート監視ログファイルトラップが起動中である

## 形式

```
jcfaletstop {-o 監視対象ホスト名 | ALL}  
            [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

## 引数

-o 監視対象ホスト名

停止したいリモート監視イベントログトラップの監視対象ホスト名を指定します。監視対象ホストの OS は Windows に限ります。

ALL

すべてのリモート監視イベントログトラップを対象とします。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

## 戻り値

0	停止成功
2	一部失敗、またはすべて失敗
4	引数不正

6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
10	排他編集権取得エラー
12	認証定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
15	指定したリモート監視イベントログトラップは停止済み
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 使用例

すべてのリモート監視イベントログトラップを停止する場合

```
jcfaleltstop ALL
```

## jcfallogdef

---

### 機能

指定した監視対象ホストに、リモート監視ログファイルトラップのプロファイルを追加または削除します。-f オプションを指定した場合はプロファイルを追加し、-d オプションを指定した場合はプロファイルを削除します。

プロファイルを追加するときに、指定した監視対象ホストに同じ監視名のプロファイルがすでにある場合は、そのプロファイルが稼働中か停止中かに関係なく、動作定義ファイルを上書きします。

プロファイルを削除するときは、指定したプロファイルが停止中のときだけ、このコマンドを実行できます。

一括リロードをする場合は、jcfallogdef コマンドで複数の稼働中のリモート監視ログファイルトラップを上書きしたあと、jcfallogreload コマンドで複数のプロファイルを一括でリロードします。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである

### 形式

```
jcfallogdef
  -a 監視名
  -o 監視対象ホスト名
  [-h 論理ホスト名]
  {-f リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル名
  -c 文字コード
  [-filter フィルター]
  [-m イベント化するデータの最大長 (バイト)]
  [-p ログデータ出力元プログラム名]
  [-r]
  [-t ファイル監視間隔 (秒)]
  ログファイル名1 [...ログファイル名32] |
  -d}
  [-q]
```

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

## 引数

-a 監視名

リモート監視ログファイルトラップを識別する監視名を指定します。

監視名は 30 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダーラインで、先頭の文字は必ず英数字を指定します。大文字、小文字は区別されません。

なお、監視名と監視対象ホストの組は一意である必要があり、jcfallogstart で指定したほかの監視名と監視対象の組との重複はできません。ただし、JP1/Base の jevlogstart で指定される監視名との重複はできます。

-o 監視対象ホスト名

プロファイルを追加または削除したいリモート監視ログファイルトラップの監視対象ホスト名を指定します。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

-f リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル名

動作定義ファイルの名称を指定します。

動作定義ファイル名は、フルパスまたはカレントディレクトリからの相対パスで、256 バイト以下で指定します。相対パスを指定する場合は、ディレクトリ名を補ったフルパス名が 256 バイト以下になるように指定してください。

動作定義ファイルは任意のディレクトリに配置し、任意のファイル名を指定できます。

-c 文字コード

ログファイルの文字コードを指定します。-f オプションを指定したときだけ指定できます。

指定できる文字コードは次のとおりです。

監視対象の OS が AIX の場合

## 1. コマンド

jcfsallogdef

SJIS, SJIS/Ja\_JP, SJIS/Ja\_JP.IBM-932, EUCJIS, EUC/ja\_JP, EUC/ja\_JP.IBM-eucJP, C

SJIS を指定した場合, SJIS/Ja\_JP が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja\_JP が設定されます。

### 監視対象の OS が HP-UX の場合

SJIS, SJIS/ja\_JP.SJIS, SJIS/japanese, EUCJIS, EUC/ja\_JP.eucJP, EUC/japanese.euc, C

SJIS を指定した場合, SJIS/ja\_JP.SJIS が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja\_JP.eucJP が設定されます。

### 監視対象の OS が Linux の場合

UTF-8, UTF-8/ja\_JP.UTF-8, UTF-8/ja\_JP.utf8, C

UTF-8 を指定した場合, UTF-8/ja\_JP.UTF-8 が設定されます。

### 監視対象の OS が Solaris の場合

SJIS, SJIS/ja\_JP.PCK, EUCJIS, EUC/ja, EUC/japanese, C

SJIS を指定した場合, SJIS/ja\_JP.PCK が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja が設定されます。

### 監視対象の OS が Windows の場合

SJIS

#### -filter フィルター

事前フィルターによって, リモートの監視対象ホスト側で取得したログファイルをフィルタリングする場合に, フィルターを正規表現で指定します。

このオプションを指定すると, 指定した正規表現と一致したログデータだけがマネージャーに転送されます。これによって, リモートの監視対象ホストからマネージャーに転送されるログファイルのデータ量を抑制できます。

このオプションは, -f オプションを指定したときだけ指定できます。

このオプションは, リモートの監視対象ホストが UNIX の場合だけ有効です。前提条件として, SSH 接続で grep コマンドが実行できる必要があります。リモートの監視対象ホストが Windows の場合は, このオプションを指定しても無視されます。

指定できる正規表現の形式は, リモートの監視対象ホストの grep コマンドの -E オプションに指定できる拡張正規表現の形式と同一です。正規表現は, '!' のようにシングルクォーテーション '!' で文字列を囲んで指定します。環境変数は使用できません。

正規表現は 128 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字列は, 「!」, 「"」, 「<」, 「>」, および制御文字を除く半角英数字, 半角スペース, 記号です。文字列に半角スペースが含まれている場合は, 前後をダブルクォーテーション " " で囲む必要があります。指定できる正規表現は一つだけです。

grep コマンドのパス例を次に示します。詳細は、各 OS の grep コマンドのマニュアルを参照してください。

- Linux の場合 : /bin/grep
- Solaris の場合 : /usr/xpg4/bin/grep
- Linux , Solaris 以外の場合 : /usr/bin/grep

-m イベント化するデータの最大長 (バイト)

ログファイルの 1 行を、先頭から何バイト読み込むかを指定します。指定できるバイト数は 1 ~ 1,024 です。このオプションを省略した場合は 512 が設定されます。

行の終了文字は終了記号「¥0」に変更されます。ログファイルの 1 行がこのオプションで指定されたバイト数を超える場合、最後の 1 バイトが「¥0」に変更されます。

このオプションで指定した値は、入力したログファイルの 1 行の有効範囲を示します。したがって、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルの MARKSTR パラメータの正規表現と ACTDEF パラメータの正規表現をチェックするのは、ここで指定した範囲内です。つまり、有効範囲を超えたカラムに対応する正規表現があっても、それらはチェックの対象にはなりません。

-p ログデータ出力元プログラム名

ログデータを出力するプログラム名を指定します。指定した名前は JP1/IM - View の [ イベントコンソール ] 画面に表示されます。

表示される名称は次のとおりです。

Windows の場合

/HITACHI/JP1/NT\_LOGTRAP/ ログデータ出力元プログラム名

UNIX の場合

/HITACHI/JP1/UX\_LOGTRAP/ ログデータ出力元プログラム名

このオプションを省略すると、Windows の場合は「/HITACHI/JP1/NT\_LOGTRAP」、UNIX の場合は「/HITACHI/JP1/UX\_LOGTRAP」と表示されます。

-r

このオプションを指定すると、次の場合に、ログが収集できるようになるまで、-t オプションで指定した間隔で収集を試みます。

- リモート監視ログファイルトラップの起動時に、リモートの監視対象ホストにアクセスできない場合
- リモート監視ログファイルトラップの稼働中に、リモートの監視対象ホストにアクセスできなくなった場合
- リモート監視ログファイルトラップの起動時に、監視対象のログファイルにアクセスできない場合

## 1. コマンド jcfallogdef

- ・ リモート監視ログファイルトラップの稼働中に、監視対象のログファイルにアクセスできなくなった場合

-r オプションは、次の場合に指定してください。

- ・ リモート監視ログファイルトラップの起動後に、リモートの監視対象ホストにアクセスできるようになる場合
- ・ リモート監視ログファイルトラップの起動後に、監視対象のログファイルが作成される場合
- ・ リモートの監視対象ホストにアクセスできなくとも監視を継続したい場合

このオプションを省略した場合、次の動作となります。

- ・ リモート監視ログファイルトラップを起動した時点で、監視対象のログファイルの収集ができない場合、起動を中止し処理を終了します。
- ・ 稼働中に監視対象のログファイルの収集ができなくなった場合、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルに指定したリトライ回数および間隔でリトライします。

-t ファイル監視間隔（秒）

ファイルの監視間隔を指定します。指定できる値は 60 ~ 86,400（単位：秒）です。省略した場合は 300 が設定されます。

WRAP2 形式のログファイルを監視する場合

ラップアラウンドする頻度が高い場合や監視間隔を長く指定した場合に、リモート監視ログファイルトラップがデータを読み込む前に上書きされてしまい、データの読み込み漏れが発生するおそれがあります。データの読み込み漏れの予防策として、次の監視間隔の見積もり式を参考にしてください。

ログファイルサイズ（バイト）×ログファイル数 > 1 秒当たりの出力サイズ（バイト）×監視間隔（秒）

ログファイル名 1 [...ログファイル名 32]

監視するログファイル名を指定します。ログファイル名は 256 バイト以内の文字列で指定します。監視対象ホストが Windows の場合は、ホスト名を除いたネットワークパス名で指定します。UNIX の場合はフルパスで指定します。

指定できるファイル数は 32 以下で、指定できるファイル形式は次の形式です。

- ・ シーケンシャルファイル (SEQ)
- ・ シーケンシャルファイル (SEQ2)
- ・ ラップアラウンドファイル (WRAP2)

-d

リモート監視ログファイルトラップのプロファイルを削除します。

リモート監視ログファイルトラップをプロファイルツリーから削除することになるため、

問題ないかを確認するためのメッセージが表示されます。

-q

このオプションを指定すると、-d オプション指定時でも確認メッセージが表示されません。-d オプションを指定していない場合は、指定しても無視されます。

## 戻り値

0	追加成功 / 削除成功
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
8	指定した監視名は稼働済み (-d オプション指定時)
9	プロファイルの各種制限値を超過
10	排他編集権取得エラー
14	DB 不正
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 使用例 1

host1 にプロファイルを追加する場合

```
jcfallogdef -a name1 -o host1 -f actionDefinition.conf  
¥log¥sample.log -c SJIS -filter '.*-E'
```

## 使用例 2

host1 のプロファイルを削除する場合

```
jcfallogdef -a name1 -o host1 -d -q
```

## jcfallogreload

---

### 機能

リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルをリロードします。

リロードできる定義情報は、動作定義ファイルの MARKSTR および ACTDEF パラメーターの値だけです。jcfallogdef コマンドまたは [ プロファイル表示 / 編集 ] 画面で、MARKSTR および ACTDEF パラメーター以外の値を変更した場合は、リロードしても反映されません。再起動して反映してください。また、リロードコマンドの実行がトラップ処理と重なった場合、そのトラップ処理にリロードする内容が反映されます。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- SSH で通信する場合、対象のリモートの監視対象ホストと公開鍵暗号方式で SSH 認証できる
- NetBIOS で通信する場合、監視するログファイルが共有されている
- リモート監視ログファイルトラップが起動中である

### 形式

```
jcfallogreload { -o 監視対象ホスト名 [-a 監視名] | ALL }  
                [-h 論理ホスト名]
```

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

### 引数

-o 監視対象ホスト名

リロードしたいリモート監視ログファイルトラップの監視対象ホスト名を指定します。

**-a 監視名**

リロードしたいリモート監視ログファイルトラップの監視名を指定します。

監視名は 30 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダーラインで、先頭の文字は必ず英数字を指定します。大文字、小文字は区別されません。

ALL

すべてのリモート監視ログファイルトラップを対象とします。

**-h 論理ホスト名**

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

**戻り値**

0	リロード成功
2	一部失敗, またはすべて失敗
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
10	排他編集権取得エラー
11	動作定義ファイル不正
12	認証情報定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
15	指定したリモート監視ログファイルトラップは停止済み
17	権限が不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

**使用例**

host1 の name1 のリモート監視ログファイルトラップをリロードする場合

```
jcfallogreload -o host1 -a name1
```

## jcfallogstart

---

### 機能

リモート監視ログファイルトラップを起動します。

このコマンドを実行すると、監視対象ホストのログファイルを収集し、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルで指定した条件に合うログの 1 行を JP1 イベント化して、イベントサーバに登録します。

-f オプションを指定した場合、新規にリモート監視ログファイルトラップのプロファイルを追加したあと、プロセスを起動します。指定した監視対象ホストに同じ監視名のプロファイルがすでに存在する場合、プロファイルが停止中であれば、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルを上書きしたあと、リモート監視ログファイルトラップのプロセスを起動します。プロファイルが稼働中だった場合、動作定義ファイルを上書きして、サーバに保存したあとにエラーメッセージが出力され、処理を中断します。このとき、プロファイルは上書きされる前の動作定義で稼働しています。-f オプションを指定しない場合、既存のリモート監視ログファイルトラップのプロファイルのプロセスを起動します。

データの形式が異なるログファイルは同時に扱えません。この場合は、新たに別のリモート監視ログファイルトラップを起動してください。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- SSH で通信する場合、対象のリモートの監視対象ホストと公開鍵暗号方式で SSH 認証できる
- NetBIOS で通信する場合、監視するログファイルが共有されている

### 形式

```
jcfallogstart
-a 監視名
-o 監視対象ホスト名
[-h 論理ホスト名]
[-f リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル名
-c 文字コード
[-filter フィルター]
[-m イベント化するデータの最大長 (バイト)]
[-p ログデータ出力元プログラム名]
[-r]
[-t ファイル監視間隔 (秒)]
ログファイル名1[ ...ログファイル名32]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

## 引数

-a 監視名

リモート監視ログファイルトラップを識別する監視名を指定します。

監視名は 30 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダーラインで、先頭の文字は必ず英数字を指定します。大文字、小文字は区別されません。

なお、監視名と監視対象ホストの組は一意である必要があり、jcfallogstart で指定したほかの監視名と監視対象の組との重複はできません。ただし、JP1/Base の jevlogstart で指定される監視名との重複はできます。

-o 監視対象ホスト名

起動したいリモート監視ログファイルトラップの監視対象ホスト名を指定します。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

-f リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル名

動作定義ファイル名は、フルパスまたはカレントディレクトリからの相対パスで、256 バイト以下で指定します。相対パスを指定する場合は、ディレクトリ名を補ったフルパス名が 256 バイト以下になるように指定してください。

動作定義ファイルは任意のディレクトリに配置し、任意のファイル名を指定できます。

このオプションを指定した場合、新規にリモート監視ログファイルトラップを作成して起動します。このオプションを省略した場合は、既存のリモート監視ログファイルトラップを起動します。

## 1. コマンド

jcfallogstart

### -c 文字コード

ログファイルの文字コードを指定します。-f オプションを指定したときだけ指定できます。

指定できる文字コードは次のとおりです。

#### 監視対象の OS が AIX の場合

SJIS, SJIS/Ja\_JP, SJIS/Ja\_JP.IBM-932, EUCJIS, EUC/ja\_JP, EUC/  
ja\_JP.IBM-eucJP, C

SJIS を指定した場合, SJIS/Ja\_JP が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja\_JP が設定されます。

#### 監視対象の OS が HP-UX の場合

SJIS, SJIS/ja\_JP.SJIS, SJIS/japanese, EUCJIS, EUC/ja\_JP.eucJP, EUC/  
japanese.euc, C

SJIS を指定した場合, SJIS/ja\_JP.SJIS が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja\_JP.eucJP が設定されます。

#### 監視対象の OS が Linux の場合

UTF-8, UTF-8/ja\_JP.UTF-8, UTF-8/ja\_JP.utf8, C

UTF-8 を指定した場合, UTF-8/ja\_JP.UTF-8 が設定されます。

#### 監視対象の OS が Solaris の場合

SJIS, SJIS/ja\_JP.PCK, EUCJIS, EUC/ja, EUC/japanese, C

SJIS を指定した場合, SJIS/ja\_JP.PCK が設定されます。

EUCJIS を指定した場合, EUC/ja が設定されます。

#### 監視対象の OS が Windows の場合

SJIS

### -filter フィルター

事前フィルターによって, リモートの監視対象ホスト側で取得したログファイルをフィルタリングする場合に, フィルターを正規表現で指定します。

このオプションを指定すると, 指定した正規表現と一致したログデータだけがマネージャーに転送されます。これによって, リモートの監視対象ホストからマネージャーに転送されるログファイルのデータ量を抑制できます。

このオプションは, -f オプションを指定したときだけ指定できます。

このオプションは, リモートの監視対象ホストが UNIX の場合だけ有効です。前提条件として, SSH 接続で grep コマンドが実行できる必要があります。リモートの監視対象ホストが Windows の場合は, このオプションを指定しても無視されます。

指定できる正規表現の形式は, リモートの監視対象ホストの grep コマンドの -E オプ

ションに指定できる拡張正規表現の形式と同一です。正規表現は、'...'のようにシングルクォーテーション「'」で文字列を囲んで指定します。環境変数は使用できません。

正規表現は 128 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字列は、「|」、「」,「<」、「>」、および制御文字を除く半角英数字、半角スペース、記号です。文字列に半角スペースが含まれている場合は、前後をダブルクォーテーション「"」で囲む必要があります。指定できる正規表現は一つだけです。

grep コマンドのパス例を次に示します。詳細は、各 OS の grep コマンドのマニュアルを参照してください。

- Linux の場合：/bin/grep
- Solaris の場合：/usr/xpg4/bin/grep
- Linux , Solaris 以外の場合：/usr/bin/grep

-m イベント化するデータの最大長 (バイト)

ログファイルの 1 行を、先頭から何バイト読み込むかを指定します。指定できるバイト数は 1 ~ 1,024 です。このオプションを省略した場合は 512 が設定されます。

行の終了文字は終了記号「¥0」に変更されます。ログファイルの 1 行がこのオプションで指定されたバイト数を超える場合、最後の 1 バイトが「¥0」に変更されます。

このオプションで指定した値は、入力したログファイルの 1 行の有効範囲を示します。したがって、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルの MARKSTR パラメータの正規表現と ACTDEF パラメータの正規表現をチェックするのは、ここで指定した範囲内です。つまり、有効範囲を超えたカラムに対応する正規表現があっても、それらはチェックの対象にはなりません。

-p ログデータ出力元プログラム名

ログデータを出力するプログラム名を指定します。指定した名前は JP1/IM - View の [ イベントコンソール ] 画面に表示されます。

表示される名称は次のとおりです。

Windows の場合

/HITACHI/JP1/NT\_LOGTRAP/ ログデータ出力元プログラム名

UNIX の場合

/HITACHI/JP1/UX\_LOGTRAP/ ログデータ出力元プログラム名

このオプションを省略すると、Windows の場合は「/HITACHI/JP1/NT\_LOGTRAP」、UNIX の場合は「/HITACHI/JP1/UX\_LOGTRAP」と表示されます。

-r

このオプションを指定すると、次の場合に、ログが収集できるようになるまで、-t オブ

## 1. コマンド jcfallogstart

ションで指定した間隔で収集を試みます。

- リモート監視ログファイルトラップの起動時に、リモートの監視対象ホストにアクセスできない場合
- リモート監視ログファイルトラップの稼働中に、リモートの監視対象ホストにアクセスできなくなった場合
- リモート監視ログファイルトラップの起動時に、監視対象のログファイルにアクセスできない場合
- リモート監視ログファイルトラップの稼働中に、監視対象のログファイルにアクセスできなくなった場合

-r オプションは、次の場合に指定してください。

- リモート監視ログファイルトラップの起動後に、リモートの監視対象ホストにアクセスできるようになる場合
- リモート監視ログファイルトラップの起動後に、監視対象のログファイルが作成される場合
- リモートの監視対象ホストにアクセスできなくても監視を継続したい場合

このオプションを省略した場合、次の動作となります。

- リモート監視ログファイルトラップを起動した時点で、監視対象のログファイルの収集ができない場合、起動を中止し処理を終了します。
- 稼働中に監視対象のログファイルの収集ができなくなった場合、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルに指定したリトライ回数および間隔でリトライします。

-t ファイル監視間隔（秒）

ファイルの監視間隔を指定します。指定できる値は 60 ~ 86,400（単位：秒）です。省略した場合は 300 が設定されます。

WRAP2 形式のログファイルを監視する場合

ラップアラウンドする頻度が高い場合や監視間隔を長く指定した場合に、リモート監視ログファイルトラップがデータを読み込む前に上書きされてしまい、データの読み込み漏れが発生するおそれがあります。データの読み込み漏れの予防策として、次の監視間隔の見積もり式を参考にしてください。

ログファイルサイズ（バイト）×ログファイル数 > 1 秒当たりの出力サイズ（バイト）×監視間隔（秒）

ログファイル名 1[ ...ログファイル名 32]

監視するログファイル名を指定します。ログファイル名は 256 バイト以内の文字列で指定します。監視対象ホストが Windows の場合は、ホスト名を除いたネットワークパス名で指定します。UNIX の場合はフルパスで指定します。なお、ワイルドカードを使用して、監視するログファイルを指定することはできません。

指定できるファイル数は 32 以下で、指定できるファイル形式は次の形式です。

- シーケンシャルファイル (SEQ)
- シーケンシャルファイル (SEQ2)
- ラップアラウンドファイル (WRAP2)

## 戻り値

0	起動成功
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
8	指定した監視名は稼働済み
9	プロファイルの各種制限値を超過
10	排他編集権取得エラー
11	動作定義ファイル不正
12	認証情報定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
17	権限不正
18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 使用例 1

host1 の monitoringName のリモート監視ログファイルトラップを起動する場合

```
jcfallogstart -a monitoringName -o host1
```

## 使用例 2

リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルを新規作成し、起動する場合

```
jcfallogstart -a monitoringName -o host2 -f actionDefinition.conf  
¥log¥sample.log -c SJIS -filter '.*-E'
```

# jcfallogstat

---

## 機能

リモート監視ログファイルトラップの動作状況を表示します。

このコマンドを実行すると、引数に指定した監視名を持つ、または引数に指定した監視対象ホストを監視対象とするリモート監視ログファイルトラップの動作状況返します。

なお、同時に実行できるコマンドの数は5個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである

## 形式

```
jcfallogstat {-o 監視対象ホスト名 [-a 監視名] | ALL}  
              [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

## 引数

-o 監視対象ホスト名

動作状況を確認したいリモート監視ログファイルトラップの監視対象ホスト名を指定します。

-a 監視名

動作状況を確認したいリモート監視ログファイルトラップの監視名を指定します。

監視名は 30 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダーラインで、先頭の文字は必ず英数字を指定します。大文字、小文字は区別されません。

ALL

すべてのログファイルトラップの監視名を対象とします。

-h 論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合は物理ホスト名が設定されます。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定されている論理ホスト名が設定されます。JP1\_HOSTNAME に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

## 戻り値

0	リモート監視ログファイルトラップがすべて稼働している
1	リモート監視ログファイルトラップが一部稼働している (ALL オプションを指定したとき、または -o オプションだけを指定したとき)
2	一部失敗、またはすべて失敗
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
14	DB 不正
17	権限が不正
18	I/O エラー
19	リモート監視ログファイルトラップがすべて停止している
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

## 使用例

host1 の name1 のリモート監視ログファイルトラップの動作状況を表示する場合

```
jcfallogstat -o host1 -a name1
```

# jcfallogstop

---

## 機能

リモート監視ログファイルトラップを停止します。

オプションで、次の指定ができます。

- 停止する範囲（個別停止または一括停止）
- 停止したリモート監視ログファイルトラップの削除の有無

なお、同時に実行できるコマンドの数は5個までです。

このコマンドを実行するための条件を次に示します。

- IM 構成管理サービスが起動している
- リモートの監視対象ホストが、リモート監視構成下にある
- リモートの監視対象ホストが、ホスト情報を収集済みである
- SSH で通信する場合、対象のリモートの監視対象ホストと公開鍵暗号方式で SSH 認証できる
- NetBIOS で通信する場合、監視するログファイルが共有されている
- リモート監視ログファイルトラップが起動している

## 形式

```
jcfallogstop {-o 監視対象ホスト名 [-a 監視名] | ALL}  
              [-d]  
              [-h 論理ホスト名]  
              [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

## 引数

-o 監視対象ホスト名

停止したいリモート監視ログファイルトラップの監視対象ホスト名を指定します。

**-a 監視名**

停止したいリモート監視ログファイルトラップの監視名を指定します。

監視名は 30 バイト以内の文字列で指定します。使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダーラインで、先頭の文字は必ず英数字を指定します。大文字、小文字は区別されません。

ALL

すべてのリモート監視ログファイルトラップを対象とします。

**-d**

このオプションを指定すると、停止するリモート監視ログファイルトラップのエントリーをプロファイルツリーから削除します。

このオプションを `-a`、`-o`、または ALL オプションのどれかと組み合わせた場合、複数のリモート監視ログファイルトラップをプロファイルツリーから削除することになるため、問題ないかを確認するためのメッセージが表示されます。その他の指定と組み合わせた場合は、指定しても無視されます。

**-h 論理ホスト名**

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。省略した場合は、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定されている論理ホスト名が設定されます。`JP1_HOSTNAME` に論理ホスト名が設定されていない場合は、物理ホスト名が設定されます。

**-q**

このオプションを指定すると、`-d` オプション指定時でも確認メッセージが表示されません。`-d` オプションを指定していない場合は、指定しても無視されます。

**戻り値**

0	停止成功、または削除成功
2	一部失敗、またはすべて失敗
4	引数不正
6	サーバに接続できない
7	ホスト情報が不正
10	排他編集権取得エラー
12	認証定義ファイル不正
13	通信エラー
14	DB 不正
15	指定したリモート監視ログファイルトラップは停止済み ( <code>-d</code> オプションを指定していないとき)
17	権限が不正

## 1. コマンド

### jcfallogstop

18	I/O エラー
21	同時実行数の上限に達した
255	内部エラー
その他の値	その他のエラー

#### 使用例 1

host1 の name1 のリモート監視ログファイルトラップを停止する場合

```
jcfallogstop -o host1 -a name1
```

#### 使用例 2

すべてのリモート監視ログファイルトラップを停止後、削除する場合

```
jcfallogstop ALL -d
```

# jcfcolvmesx

---

## 機能

VMware ESX から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力します。

ただし、VMware ESX からゲスト OS の仮想ホスト名を取得するには、ゲスト OS で VMware Tools が動作している必要があります。VMware Tools がインストールされていない、またはインストールされていても動作していない場合、仮想ホスト名は取得できません。

また、ゲスト OS 自体が起動していない場合も、仮想ホスト名は取得できません。

このコマンドは、VMware Infrastructure SDK のインターフェースを使用して通信します。

## 形式

```
jcfcolvmesx
  [-m 通信種別]
  -u ユーザーID
  [-p パスワード]
  -c ホスト名 [ホスト名]
  -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

-m 通信種別

VMware ESX との通信方法を指定します。

https を指定した場合、VMware ESX と https 通信をします。http を指定した場合、VMware ESX と http 通信をします。

このオプションを指定しなかった場合、https で通信をします。

## 1. コマンド jfcovmesx

### -u ユーザー ID

接続先 VMware ESX のアカウントのユーザー ID を指定します。

ユーザー ID は、256 バイト以内の半角文字列で指定します。空白、タブは指定できません。

### -p パスワード

-u オプションで指定したユーザー ID のパスワードを指定します。

パスワードは、256 バイト以内の半角文字列で指定します。空白、タブは指定できません。

このオプションを指定しなかった場合、パスワードなしが仮定されます。

### -c ホスト名 [ホスト名]

VMware ESX が動作しているホストのホスト名を指定します。ホスト名は、255 文字以内で指定します。オプションのあとに空白、またはタブ区切りで複数記述します。

### -o 出力ファイル名

VMware ESX から取得した構成情報を格納する仮想化構成情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

## 戻り値

0	正常終了 <sup>1</sup>
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	JavaVM の起動エラーが発生した
4	実行権限エラー (Windows 限定)
5	管理者コンソールから実行されなかった (Windows 限定)
6	出力ファイルがすでに存在する
7	仮想化構成情報の取得に失敗 <sup>2</sup>
8	入出力エラーが発生した
99	その他のエラー

### 注 1

一部取得できなかった仮想ホスト情報があった場合も、コマンドとしては正常終了になります。

### 注 2

仮想化構成を取得できなかった場合に、戻り値を返します。

## 仮想化構成情報ファイルの形式

表 1-8 ヘッダー情報 (1 行目)

項目	出力値
仮想化構成情報ファイルの識別文字列	#VM
ファイルフォーマットバージョン	090100
文字コード	UTF-8 固定

表 1-9 ヘッダー情報 (2 行目)

項目	出力値
ホスト名	Host_name
VMM ホスト名	VMM_host_name
仮想化管理種別	Virtual_manager_type
仮想化管理製品のバージョン	Manager_version
仮想化構成管理ホスト	Virtual_host_manager

表 1-10 出力項目 (3 行目以降)

項目	説明
ホスト名	ホスト名。
VMM ホスト名	仮想化環境ソフトウェアが稼働するホストのホスト名。ゲスト OS が存在しない VMM ホストの場合、仮想ホスト名が空白で、VMM ホスト名だけ設定される。
仮想化管理種別	仮想化構成を管理する製品の種別。VMware ESX の場合、「ESX」を出力する。
仮想化管理製品のバージョン	仮想化構成を管理する製品のバージョン。
仮想化構成管理ホスト	VMM ホストを管理するホスト名。jcfcolvmesx コマンドの場合、常に空白。

## 出力例

```
#VM,090100,UTF-8
Host_name,VMM_host_name,Virtual_manager_type,Manager_version,Virtu
al_host_manager
Vm1,ESX1,,,
Vm2,ESX1,,,
ESX1,,ESX,4.0,
```

## 1. コマンド

jcfcolvmscvmm (Windows 限定)

# jcfcolvmscvmm (Windows 限定)

---

## 機能

SCVMM から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力します。

なお、このコマンドを実行するための前提条件については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.3.1(1) 仮想化構成を管理するための前提条件」を参照してください。

## 形式

```
jcfcolvmscvmm
  -c ホスト名 [ホスト名]
  [-d ドメイン名 -u ユーザーID [-p パスワード]]
  -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

## 格納ディレクトリ

Managerパス¥bin¥imcf¥

## 引数

-c ホスト名 [ホスト名]

SCVMM が動作しているホストのホスト名を指定します。ホスト名は、255 文字以内で指定します。オプションのあとに空白、またはタブ区切りで複数記述します。

-d ドメイン名

接続先 SCVMM のホストが所属するドメイン名を指定します。JP1/IM - Manager が接続先 SCVMM のホストのドメインと、同じドメインに所属する場合は省略できます。ドメイン名は、255 バイト以内で指定します。

-u ユーザー ID

接続先 SCVMM のホストが所属するドメインで管理者権限を持つアカウントのユーザー ID を指定します。-d オプションを指定した場合は、このオプションは省略できません。ユーザー ID は、制御文字を含まない 255 バイト以内の文字列で指定します。

-p パスワード

-u オプションで指定したユーザー ID のパスワードを指定します。このオプションを指定しなかった場合、パスワードなしが仮定されます。パスワードは、制御文字を含まない 255 バイト以内の文字列で指定します。

-o 出力ファイル名

vCenter から取得した構成情報を格納する仮想化構成情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

戻り値

0	正常終了 <sup>1</sup>
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	JavaVM の起動エラーが発生した
4	実行権限エラー
5	管理者コンソールから実行されなかった
6	出力ファイルがすでに存在する
7	仮想化構成情報の取得に失敗 <sup>2</sup>
8	入出力エラーが発生した
99	その他のエラー

注 1

一部取得できなかった仮想ホスト情報があった場合も、コマンドとしては正常終了になります。

注 2

仮想化構成を取得できなかった場合に、戻り値を返します。

仮想化構成情報ファイルの形式

表 1-11 ヘッダー情報 (1 行目)

項目	出力値
仮想化構成情報ファイルの識別文字列	#VM
ファイルフォーマットバージョン	090100
文字コード	UTF-8 固定

表 1-12 ヘッダー情報 (2 行目)

項目	出力値
ホスト名	Host_name
VMM ホスト名	VMM_host_name
仮想化管理種別	Virtual_manager_type
仮想化管理製品のバージョン	Manager_version
仮想化構成管理ホスト	Virtual_host_manager

## 1. コマンド

jcfcovmsscvm (Windows 限定)

表 1-13 出力項目 (3 行目以降)

項目	説明
ホスト名	ホスト名。
VMM ホスト名	仮想化環境ソフトウェアが稼働するホストのホスト名。 ゲスト OS が存在しない VMM ホストの場合、仮想ホスト名が空白で、VMM ホスト名だけ設定される。
仮想化管理種別	仮想化構成を管理する製品の種別。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Hyper-V の場合：Hyper-V</li><li>• SCVMM の場合：SCVMM</li><li>• vCenter の場合：vCenter</li><li>• VMware ESX の場合：ESX</li></ul>
仮想化管理製品のバージョン	仮想化構成を管理する製品のバージョン。
仮想化管理元ホスト名	VMM ホストを管理するホスト名。

### 出力例

```
#VM,090100,UTF-8
Host_name,VMM_host_name,Virtual_manager_type,Manager_version,Virtu
al_host_manager
Vm1,ESX1,,,
Vm2,ESX1,,,
ESX1,,ESX,4.0,vCenter1
vCenter1,,vCenter,2.0,SCVMM1
SCVMM1,,SCMMM,2008,
```

# jcfcolvmvc

---

## 機能

vCenter から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力します。

なお、このコマンドを実行するための前提条件については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.3.1(1) 仮想化構成を管理するための前提条件」を参照してください。

## 形式

```
jcfcolvmvc  
    [-m 通信種別]  
    -u ユーザーID  
    [-p パスワード]  
    -c ホスト名 [ホスト名]  
    -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

-m 通信種別

vCenter との通信方法を指定します。

https を指定した場合、vCenter と https 通信をします。http を指定した場合、vCenter と http 通信をします。

このオプションを指定しなかった場合、https で通信をします。

-u ユーザー ID

接続先 vCenter のアカウントのユーザー ID を指定します。

ユーザー ID は、制御文字を含まない 255 バイト以内の文字列で指定します。

## 1. コマンド jcfcolvmvc

-p パスワード

-u オプションで指定したユーザー ID のパスワードを指定します。

パスワードは、制御文字を含まない 255 バイト以内の文字列で指定します。

このオプションを指定しなかった場合、パスワードなしが仮定されます。

-c ホスト名 [ホスト名]

vCenter が動作しているホストのホスト名を指定します。ホスト名は、255 文字以内で指定します。オプションのあとに空白、またはタブ区切りで複数記述します。

-o 出力ファイル名

vCenter から取得した構成情報を格納する仮想化構成情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。パスに空白を含む場合は、「」で囲みます。

### 戻り値

0	正常終了 <sup>1</sup>
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	JavaVM の起動エラーが発生した
4	実行権限エラー
5	管理者コンソールから実行されなかった
6	出力ファイルがすでに存在する
7	仮想化構成情報の取得に失敗 <sup>2</sup>
8	入出力エラーが発生した
99	その他のエラー

注 1

一部取得できなかった仮想ホスト情報があった場合も、コマンドとしては正常終了になります。

注 2

仮想化構成を取得できなかった場合に、戻り値を返します。

### 仮想化構成情報ファイルの形式

表 1-14 ヘッダー情報 (1 行目)

項目	出力値
仮想化構成情報ファイルの識別文字列	#VM
ファイルフォーマットバージョン	090100
文字コード	UTF-8 固定

表 1-15 ヘッダー情報 (2 行目)

項目	出力値
ホスト名	Host_name
VMM ホスト名	VMM_host_name
仮想化管理種別	Virtual_manager_type
仮想化管理製品のバージョン	Manager_version
仮想化構成管理ホスト	Virtual_host_manager

表 1-16 出力項目 (3 行目以降)

項目	説明
ホスト名	ホスト名。
VMM ホスト名	仮想化環境ソフトウェアが稼働するホストのホスト名。 ゲスト OS が存在しない VMM ホストの場合、仮想ホスト名が空白で、VMM ホスト名だけ設定される。
仮想化管理種別	仮想化構成を管理する製品の種別。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• vCenter の場合：vCenter</li> <li>• VMware ESX の場合：ESX</li> </ul>
仮想化管理製品のバージョン	仮想化構成を管理する製品のバージョン。
仮想化管理元ホスト名	VMM ホストを管理するホスト名。

## 出力例

```
#VM,090100,UTF-8
Host_name,VMM_host_name,Virtual_manager_type,Manager_version,Virtual_host_manager
Vm1,ESX1,,,
Vm2,ESX1,,,
ESX1,,ESX,4.0,vCenter1
vCenter1,,vCenter,2.0,
```

# jcfcolvmvirtage

---

## 機能

Virtage から仮想化構成情報を取得し、仮想化構成情報ファイルに出力します。

なお、このコマンドを実行するための前提条件については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.3.1(1) 仮想化構成を管理するための前提条件」を参照してください。

## 形式

```
jcfcolvmvirtage  
    -c ホスト名 [ホスト名]  
    -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

```
-c ホスト名 [ホスト名]
```

Virtage を管理する JP1/SC/CM が動作しているホストのホスト名を指定します。ホスト名は、255 文字以内で指定します。オプションのあとに空白、またはタブ区切りで複数記述します。

```
-o 出力ファイル名
```

Virtage を管理する JP1/SC から取得した構成情報を格納する仮想化構成情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

## 戻り値

0	正常終了 <sup>1</sup>
1	引数エラー

2	メモリー不足
3	JavaVM の起動エラーが発生した
4	実行権限エラー
5	管理者コンソールから実行されなかった
6	出力ファイルがすでに存在する
7	仮想化構成情報の取得に失敗 <sup>2</sup>
8	入出力エラーが発生した
99	その他のエラー

注 1

一部取得できなかった仮想ホスト情報があった場合も、コマンドとしては正常終了になります。

注 2

仮想化構成を取得できなかった場合に、戻り値を返します。

## 仮想化構成情報ファイルの形式

表 1-17 ヘッダー情報 (1 行目)

項目	出力値
仮想化構成情報ファイルの識別文字列	#VM
ファイルフォーマットバージョン	090100
文字コード	UTF-8 固定

表 1-18 ヘッダー情報 (2 行目)

項目	出力値
ホスト名	Host_name
VMM ホスト名	VMM_host_name
仮想化管理種別	Virtual_manager_type
仮想化管理製品のバージョン	Manager_version
仮想化構成管理ホスト	Virtual_host_manager

表 1-19 出力項目 (3 行目以降)

項目	説明
ホスト名	ホスト名。
VMM ホスト名	仮想化環境ソフトウェアが稼働するホストのホスト名。ゲスト OS が存在しない VMM ホストの場合、仮想ホスト名が空白で、VMM ホスト名だけ設定される。

## 1. コマンド

jcfcovmvirtage

項目	説明
仮想化管理種別	仮想化構成を管理する製品の種別。 <ul style="list-style-type: none"><li>• JP1/SC/CM の場合：JP1/SC/CM</li><li>• Virtage の場合：Virtage</li></ul>
仮想化管理製品のバージョン	仮想化構成を管理する製品のバージョン。
仮想化管理元ホスト名	VMM ホストを管理するホスト名。

### 出力例

```
#VM,090100,UTF-8
Host_name,VMM_host_name,Virtual_manager_type,Manager_version,Virtual_host_manager
Vm1,VIRTAGE1,,,
Vm2, VIRTAGE1,,,
VIRTAGE1,,Virtage,
SCCM1,VIRTAGE1,JP1/SC/CM,,
```

# jcfdbsetup

---

## 機能

構成情報を格納する IM 構成管理 DB をセットアップするコマンドです。データベースのサイズ、ポート番号、データベース格納先は、セットアップ情報ファイルに指定しておく必要があります。

Windows の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、次のサービスが OS に登録されます。

- 物理ホストのセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server, JP1/IM-Manager DB Cluster Service
- クラスタ構成のセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名, JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名

UNIX の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、`/etc/inittab` ファイルに、IM データベースのパスを含むエントリーが追加されます。エントリーは、コマンドを実行した物理ホスト、および論理ホストごとに追加されます。このコマンドを実行したときに追加された `/etc/inittab` ファイルのエントリーを、削除、編集、またはコメントアウトしないでください。

## 形式

```
jcfdbsetup {-f セットアップ情報ファイル名|-s}
           [-h 論理ホスト名 -c {online|standby}]
           [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

`-f` セットアップ情報ファイル名

インストール先フォルダや、データベース領域のサイズを記述したセットアップ情報ファイルを指定します。IM 構成管理 DB と統合監視 DB がどちらもセットアップされて

## 1. コマンド

### jcfdbsetup

いない場合は、必ずこのオプションを指定してください。統合監視 DB がすでにセットアップ済みの場合にこのオプションを指定する場合は、統合監視 DB のセットアップ時に指定したセットアップ情報ファイルと同じファイルを指定してください。また、統合監視 DB がすでにセットアップ済みの場合は、`-s` オプションを代わりに指定できます。その際、統合監視 DB のセットアップ時に指定したセットアップ情報が用いられます。

`-s` オプションと同時に指定できません。また、`-f` オプションと `-s` オプションは同時に省略できません。

パスに空白を含む場合は、「`"`」で囲みます。クラスタ環境を構築する場合は、クラスタセットアップ情報ファイル名を指定してください。

`-s`

統合監視 DB がセットアップされている場合は、`-f` オプションの代わりに指定できません。このオプションを指定した場合は、統合監視 DB のセットアップ時に指定されたセットアップ情報の内容を参照して、IM 構成管理 DB をセットアップします。

統合監視 DB がセットアップされていない場合、このオプションを指定すると、KNAN11193-E メッセージが出力されます。

`-f` オプションと同時に指定できません。また、`-s` オプションと `-f` オプションは同時に省略できません。

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する IM 構成管理 DB をセットアップします。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に `JP1_DEFAULT` は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別しません。論理ホスト名には、`JP1/Base` で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

`-c {online|standby}`

クラスタ構成の実行系および待機系のセットアップ種別を指定します。`-h` オプションを指定した場合は、必ずこのオプションを指定してください。また、すでに同一ホストに統合監視 DB をセットアップしている場合は、`-c` オプションに統合監視 DB を作成したときと同じ値を指定してください。

- `online` : 実行系をセットアップする場合に指定します。
- `standby` : 待機系をセットアップする場合に指定します。

`online` を指定する場合は、共有ディスクをマウントし、論理ホストと通信できる状態にしてください。また、非クラスタ環境で、論理ホストを運用する場合は `-c` オプションに「`online`」を指定してください。

-q

ユーザーの確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- 実行系と待機系のクラスタセットアップ情報ファイルの内容は同じにする必要があります。待機系をセットアップする場合、実行系で使用したクラスタセットアップ情報ファイルをコピーして使用してください。実行系と待機系で指定したファイル内容が異なっていた場合、待機系でアンセットアップしたあとに、クラスタセットアップ情報ファイルを実行系からコピーし、コマンドを再実行してください。
- -c オプションを指定してコマンドを実行する場合は、実行途中でサーバを切り替えしないでください。実行中にサーバを切り替えた場合は、コマンド終了後に一度アンセットアップしてから、コマンドを再実行してください。
- コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、pdistup, pdfmkfs, pddef, および pdload のプロセスが実行されていないことを確認し、jcfdbunsetup コマンドを実行してからこのコマンドを再実行してください。
- 統合監視 DB をセットアップ済みの場合、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager サービスが停止している必要があります。
- Windows で統合監視 DB を使用している場合、IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server) が起動している必要があります。また、IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service) が停止している必要があります。
- JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jcfdbunsetup

---

## 機能

構成情報を格納する IM 構成管理 DB をアンセットアップするコマンドです。

このコマンドは、IM 構成管理 DB の使用を停止する場合、JP1/IM-Manager をアンインストールする場合、IM 構成管理 DB を再作成する場合、およびデータベースサイズを拡張する場合に実行します。

統合監視 DB をセットアップしている環境では、このコマンドの実行後も統合監視 DB は使用できます。

Windows の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、次のサービスが削除されます。

- 物理ホストのアンセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server, JP1/IM-Manager DB Cluster Service
- クラスタ構成のアンセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名, JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名

UNIX の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、jcodbsetup または jcfdbsetup コマンドが登録した /etc/inittab ファイルのエントリが削除されます。エントリは、コマンドを実行した物理ホスト、および論理ホストに対応した処理だけ削除されます。

なお、jcfdbunsetup コマンドを実行したあとは、必ず次のファイルを削除してください。

## Windows の場合

### 物理ホストのとき

Managerパス¥data¥imcf¥imconfig以下のファイル  
Managerパス¥data¥imcf¥profiles以下のファイルおよびフォルダ

### 論理ホストのとき

共有フォルダ¥data¥imcf¥imconfig以下のファイル  
共有フォルダ¥data¥imcf¥profiles以下のファイルおよびフォルダ

## UNIX の場合

### 物理ホストのとき

/var/opt/jp1imm/data/imcf/imconfig以下のファイル  
/var/opt/jp1imm/data/imcf/profiles以下のファイルおよびディレクトリ

### 論理ホストのとき

共有ディレクトリ/data/imcf/imconfig以下のファイル  
共有ディレクトリ/data/imcf/profiles以下のファイルおよびディレクトリ

## 形式

```
jcfdbunsetup [-h 論理ホスト名 -c {online|standby}]  
[-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する IM 構成管理 DB をアンセットアップします。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に JP1\_DEFAULT は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。論理ホスト名には、JP1/Base で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

-c {online|standby}

クラスタ構成の実行系および待機系のアンセットアップ種別を指定します。-h オプションを指定した場合は、必ずこのオプションを指定してください。

- online：IM 構成管理 DB のセットアップで online を指定した場合に指定します。
- standby：IM 構成管理 DB のセットアップで standby を指定した場合に指定します。

online を指定する場合は、共有ディスクをマウントし、論理ホストと通信できる状態にしてください。また、非クラスタ環境で、運用していた論理ホストの IM 構成管理 DB をアンセットアップする場合は -c オプションに「online」を指定してください。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

---

0	正常終了
---	------

---

---

1	異常終了
---	------

---

### 注意事項

- 統合監視 DB を作成している環境で、データベースのサイズを拡張する場合は、このコマンド実行後に、統合監視 DB のアンセットアップコマンドを実行する必要があります。
- -c オプションを指定してコマンドを実行する場合は、実行途中でサーバを切り替えしないでください。実行中にサーバを切り替えた場合は、コマンド終了後にコマンドを再実行してください。
- コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、pdirst プロセスが実行されていないことを確認してからこのコマンドを再実行してください。
- Windows の場合、サービスが次の状態である必要があります。

#### 物理ホストのとき

IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service) が停止していて、IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server) が開始している必要があります。また、統合監視 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager のサービス (JP1/IM-Manager) が停止している必要があります。

#### 論理ホストのとき

論理ホストの IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名) が停止していて、論理ホストの IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名) が開始している必要があります。また、統合監視 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager のサービス (JP1/IM-Manager\_ 論理ホスト名) が停止している必要があります。

- UNIX の場合、IM 構成管理 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用しているとき、JP1/IM-Manager サービスが停止している必要があります。
- JP1/IM-MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM-MO の JP1/IM-Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jcfexport

---

## 機能

IM 構成管理で管理しているシステムの階層構成 (IM 構成), ホスト情報および定義情報を出力するコマンドです。

このコマンドを使用する場合には, IM 構成管理サービスが起動している必要があります。jcfimport コマンドを実行している場合, このコマンドは実行できません。また, 同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

## 形式

```
jcfexport      [-h 論理ホスト名 ]  
              [-f]  
              -o ディレクトリ名  
              [-m | -r | -c | -g | -a]
```

## 実行権限

Windows の場合: Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行)

UNIX の場合: スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に, コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合, 環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合, 物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-f

指定したディレクトリにエクスポートファイル名と同名のファイルがすでにある場合は, ファイルを上書きします。このオプションを省略した場合は, エクスポート先にファイルがあるとエクスポートしません。

-o ディレクトリ名

エクスポートデータを出力するディレクトリ名を絶対パス形式, またはこのコマンドを

## 1. コマンド

### jcfexport

実行した場所からの相対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「`"`」で囲んで指定します。

`-m`

ホスト情報だけをエクスポートします。エクスポートした情報は、ホスト入力情報ファイル (`host_input_data.csv`) に出力されます。

`-r`、`-c`、`-g`、`-a` オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。 `-m`、`-r`、`-c`、`-g`、および `-a` オプションをすべて省略した場合は、`-a` オプションが仮定されます。

`-r`

ホスト情報とリモート認証情報だけをエクスポートします。

`-m`、`-c`、`-g`、`-a` オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。 `-m`、`-r`、`-c`、`-g`、および `-a` オプションをすべて省略した場合は、`-a` オプションが仮定されます。

`-c`

ホスト情報とシステムの階層構成だけをエクスポートします。ホスト情報は、ホスト入力情報ファイル (`host_input_data.csv`) に出力されます。また、システムの階層構成は、`system_tree_information.txt` に出力されます。

`-m`、`-r`、`-g`、`-a` オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。 `-m`、`-r`、`-c`、`-g`、および `-a` オプションをすべて省略した場合は、`-a` オプションが仮定されます。

`-g`

ホスト情報、業務グループ情報、監視グループ情報だけをエクスポートします。

`-m`、`-r`、`-c`、`-a` オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。 `-m`、`-r`、`-c`、`-g`、および `-a` オプションをすべて省略した場合は、`-a` オプションが仮定されます。

`-a`

すべての情報をエクスポートします。エクスポートした情報は、`data_information.txt` に出力されます。ホスト情報は、ホスト入力情報ファイル (`host_input_data.csv`) に出力されます。システムの階層構成は、`system_tree_information.txt` に出力されます。また、定義情報は、`-o` オプションで指定したディレクトリ `¥definition_files¥` ホスト名 `¥` 製品名の直下の、次のファイルに出力されます。

- 転送設定ファイル (`forward`)
- ログファイルトラップ動作定義ファイル (任意のファイル)

- ログファイルトラップ起動定義ファイル (jevlog\_start.conf)
- イベントログトラップ機能の動作定義ファイル (nvent.conf)
- ローカルアクションの動作定義ファイル (jbslact.conf)

-m, -r, -c, -g オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

## 戻り値

0	正常終了
4	オプション不正
8	サーバに接続できない
12	メモリーが不足した
16	権限が不正
20	ファイルエラー、パスが不正、すでにファイルが存在するなど
21	同時実行数の上限に達した
24	入出力エラーが発生した
120	システムエラーが発生した
124	その他エラーにより終了した
201 以上	JavaVM の起動エラーが発生した

## 使用例

c:¥temp の直下に IM 構成管理のすべての情報をエクスポートする場合

```
jcfexport -o c:¥temp
```

# jcfimport

---

## 機能

IM 構成管理の情報をインポートするコマンドです。

このコマンドを使用する場合には、IM 構成管理サービスが起動している必要があります。なお、リモート監視中は、このコマンドは実行できません。また、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

このコマンドを実行すると、インポート前に IM 構成管理が管理していたホスト、システムの階層構成 (IM 構成)、およびプロファイルの 3 種類の情報がすべて削除されて、オプションで指定した情報がインポートされます。

## 形式

```
jcfimport      [-h 論理ホスト名]
                -i ディレクトリ名
                [-m | -r | -c | -g | -a]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定する必要はありません。

-i ディレクトリ名

jcfexport コマンドでエクスポートしたファイルのディレクトリ名を絶対パス形式、または jcfimport コマンドを実行する場所からの相対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。

-m

ホスト情報だけをインポートします。-c, -r, -g, -a オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

-r

ホスト情報とリモート認証情報だけをインポートします。

-m, -c, -g, -a オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

-c

システムの階層構成およびホスト情報をインポートします。-m, -r, -g, -a オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

-g

ホスト情報、業務グループ情報、監視グループ情報だけをインポートします。

-m, -r, -c, -a オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

-a

すべての情報をインポートします。-m, -r, -c, -g オプションと同時に指定できません。指定した場合は、引数不正となります。-m, -r, -c, -g, および -a オプションをすべて省略した場合は、-a オプションが仮定されます。

## 戻り値

0	正常終了
4	オプション不正
8	サーバに接続できない
12	メモリーが不足した
16	権限が不正
20	ファイルエラー、パスが不正など
24	入出力エラーが発生した
21	同時実行数の上限に達した
120	システムエラーが発生した
124	その他エラーにより終了した

## 1. コマンド

jcimport

---

201 以上

JavaVM の起動エラーが発生した

---

### 使用例

c:¥temp の直下にあるエクスポートファイルのすべての情報をインポートする場合

```
jcimport -i c:¥temp
```

# jcfmkcsdata

---

## 機能

ホスト入力情報ファイル (`host_input_data.csv`) とセントラルスコープのエクスポートファイルから、仮想化構成の監視ツリー情報を追加したセントラルスコープのインポートファイルを生成します。または、業務グループ情報ファイル (`monitoring_system_data.csv`)、監視グループ情報ファイル (`monitoring_group_data.csv`) およびセントラルスコープのエクスポートファイルから、業務グループの監視ツリー情報を追加したセントラルスコープのインポートファイルを生成します。

業務グループ情報ファイル (`monitoring_system_data.csv`)、および監視グループ情報ファイル (`monitoring_group_data.csv`) については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「8.7.1(5) 業務グループ情報」および「8.7.1(6) 監視グループ情報」を参照してください。

## 形式

```
jcfmkcsdata { -f ホスト入力情報ファイル名 セントラルスコープのエクスポートファイル名 | -g 業務グループ情報ファイル名 監視グループ情報ファイル名 セントラルスコープのエクスポートファイル名 }  
            -o エクスポートファイル名  
            [-r]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

`-f` ホスト入力情報ファイル名 セントラルスコープのエクスポートファイル名

`jcfexport` コマンドでエクスポートしたホスト入力情報ファイル (`host_input_data.csv`) と `jcsdbexport` コマンドでエクスポートしたファイルを、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは `-g` オプションと同時に指定できません。パスに空白を含む場合は、「`''`」で囲みます。

## 1. コマンド jcfmkcsdata

セントラルスコープのエクスポートファイルには、サーバ指向ツリーをエクスポートしたファイルを指定します。

ホスト入力情報ファイル (host\_input\_data.csv) については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「8.7.1(1) ホスト情報」を参照してください。

-g 業務グループ情報ファイル名 監視グループ情報ファイル名 セントラルスコープのエクスポートファイル名

jcfexport コマンドでエクスポートした業務グループ情報ファイル (monitoring\_system\_data.csv)、監視グループ情報ファイル (monitoring\_group\_data.csv) と jcsdbexport コマンドでエクスポートしたファイルを、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは -f オプションと同時に指定できません。パスに空白を含む場合は、「」で囲みます。

セントラルスコープのエクスポートファイルには、サーバ指向ツリーをエクスポートしたファイルを指定します。

-o エクスポートファイル名

コマンドが出力するセントラルスコープのインポート用ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「」で囲みます。

[-r]

このオプションは、引数で指定した JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のエクスポートファイルに含まれる仮想化システム構成ツリーを使用するかどうかを設定します。このオプションを指定する場合、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のエクスポートファイルの仮想化システム構成ツリーを使用しないで、このコマンドで新しく作成します。このオプションを指定しない場合、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のエクスポートファイルに含まれる仮想化システム構成ツリーに対して、新たに仮想化システム構成ツリーを追加します。

### 注意事項

09-00 以前の IM 構成管理からバージョンアップした場合、次のようにファイル进行操作してください。

- ホスト入力情報ファイル (host\_input\_data.csv)  
09-00 の JP1/IM - Manager (IM 構成管理) からバージョンアップした場合、ホスト入力情報ファイル (host\_input\_data.csv) のフォーマットバージョンが 0900 になっているため、jcfmkcsdata コマンドを実行できません。次の手順でフォーマットバージョンを変更してください。
  1. jcfimport コマンドを実行して、ホスト入力情報ファイルを IM 構成管理にインポートする。

2. jcfexport コマンドを実行して、ホスト入力情報ファイルをエクスポートする。  
ホスト入力情報ファイルのフォーマットバージョンが 0901 になり、  
jcfmkcsdata コマンドが実行できるようになります。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	指定したファイルが不正
3	指定した入力ファイルが存在しない
4	エクスポートファイルがすでに存在する
5	指定したファイルに対するアクセス権がない
6	メモリー不足
7	入出力エラーが発生した
9	ディスク不足
10	実行権限エラー
11	[ Ctrl ] + [ C ] キーでコマンドを強制終了した
20	ファイルパスに予約デバイスを指定した
99	その他のエラー
122	管理者コンソールから実行されなかった ( Windows 限定 )

# jcfmkhostsdata

---

## 機能

仮想化構成情報ファイルで、ホスト入力情報ファイルを更新します。

## 形式

```
jcfmkhostsdata
    -imcf ホスト入力情報ファイル
    -vm 仮想化構成情報ファイル
    -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imcf¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imcf/

## 引数

-imcf ホスト入力情報ファイル

ホスト入力情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。  
このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

-vm 仮想化構成情報ファイル

仮想化構成情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。  
このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

-o 出力ファイル名

ホスト入力情報ファイルのファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。  
ホスト入力情報ファイルには、ホスト入力情報ファイルを更新した結果が出力されます。  
このオプションは省略できません。パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

## 注意事項

09-00 以前の IM 構成管理からバージョンアップした場合、次のようにファイルを操作し  
てください。

- ホスト入力情報ファイル (host\_input\_data.csv)  
09-00 の JP1/IM - Manager (IM 構成管理) からバージョンアップした場合、ホスト入力情報ファイル (host\_input\_data.csv) のフォーマットバージョンが 0900 になっているため、jcfmkhostsdata コマンドを実行できません。次の手順でフォーマットバージョンを変更してください。
  1. jcfimport コマンドを実行して、ホスト入力情報ファイルを IM 構成管理にインポートする。
  2. jcfexport コマンドを実行して、ホスト入力情報ファイルをエクスポートする。ホスト入力情報ファイルのフォーマットバージョンが 0901 になり、jcfmkhostsdata コマンドが実行できるようになります。
- 仮想化構成情報ファイル  
IM 構成管理の仮想化構成収集コマンド jcfcolvmesx を実行して、再度仮想化構成情報ファイルを出力します。仮想化構成情報ファイルのフォーマットバージョンは 0901 にします。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	JavaVM の起動エラーが発生した
4	実行権限エラー (Windows 限定)
5	管理者コンソールから実行されなかった (Windows 限定)
6	出力ファイルがすでに存在する
7	指定したファイルが不正
8	指定した入力ファイルが存在しない
9	指定したファイルに対するアクセス権がない
10	入出力エラーが発生した
99	その他のエラー

## jcftthreadmp (Windows 限定)

---

### 機能

IM 構成管理・ビューアーの Java スレッドダンプを生成するコマンドです。

次の条件が成立した場合、このコマンドを実行すると Java のスレッドダンプが取得されます。

- 画面操作ができなくなった場合
- IM 構成管理・ビューアーと IM 構成管理サーバのプロセスで、停止しているプロセスがない場合

IM 構成管理・ビューアーの Java スレッドダンプを log ディレクトリ内にテキストファイル形式で出力します。

Windows Server 2003, Windows XP Professional の場合

```
Viewパス¥log¥
```

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合

```
%ALLUSERSPROFILE%¥Hitachi¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView¥log
```

なお、正常に稼働している IM 構成管理・ビューアーのスレッドダンプを生成すると、JavaVM が不安定になるため、IM 構成管理・ビューアーを再起動する必要があります。

### 形式

```
jcftthreadmp プロセスID
```

### 実行権限

なし (ただし、Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

### 格納先ディレクトリ

```
Viewパス¥bin¥
```

### 引数

プロセス ID

操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーの java.exe プロセスのプロセス ID を指定します。

なお、プロセス ID として指定できるバイト数は、OS の制限に依存します。

IM 構成管理・ビューアー (java.exe) 以外のプロセスに対して、CTRL\_BREAK\_EVENT は送信しません。

## 戻り値

0	正常終了
1	オプションエラー, 引数エラー
2	プロセスチェックエラー
3	スレッドダンプ出力要求送信エラー
4	実行権限エラー
10	上記以外のエラー

### 使用例 1

操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーのプロセス ID が, 1234 の場合

```
jcfthreaddmp 1234
```

### 使用例 2

IM 構成管理・ビューアーに対応する `java.exe` のプロセス ID の特定方法

次の手順で, 操作不能になった IM 構成管理・ビューアーに対応する `java.exe` のプロセス ID を特定し, `jcfthreaddmp` コマンドの引数に指定します。

なお, 複数の IM 構成管理・ビューアーを起動している場合は, `java.exe` プロセスも複数存在するため, プロセス ID の特定は, 使用例 2 の手順を使用してください。

1. [ PID ( プロセス ID ) ] 列を追加する。

タスクマネージャのプロセスタブを開き, [ 表示 ] - [ 列の選択 ] を実行し, 列の選択画面で「PID ( プロセス ID )」にチェックを入れます。

2. 操作不能になった IM 構成管理・ビューアーが確認する。

タスクマネージャのアプリケーションタブで, IM 構成管理・ビューアーを選択し, 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ 手前に表示 ] を実行します。手前に表示された IM 構成管理・ビューアーが操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーが確認する。

3. 操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーの `java.exe` の [ PID ( プロセス ID ) ] を表示する。

アプリケーションタブで操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーを選択し, 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ プロセスの表示 ] を実行します。

プロセスタブに切り替わり, 操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーの `java.exe` の行が選択されます。その選択行の PID 列が, 操作できなくなった IM 構成管理・ビューアーに対応する `java.exe` のプロセス ID となります。

## 1. コマンド

jcfview (Windows 限定)

# jcfview (Windows 限定)

---

## 機能

IM 構成管理・ビューアーを起動します。-h オプション, -u オプション, -p オプションで起動した場合, [ログイン] 画面を表示しないで, 自動的にログインします。

## 形式

```
jcfview [-h 接続先ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード]
```

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥bin¥

## 引数

-h 接続先ホスト名

ログインする IM 構成管理が起動しているホスト名を指定します。指定できる文字数は, 1 ~ 255 バイトです。JP1/IM - Manager が起動しているホストだけを指定できます。

接続先ホスト名には, 次のものが指定できます。

- コマンドを使用するホストで定義されているホスト名
- コマンドを使用するホストでアドレス解決可能なホスト名
- IP アドレス

このオプションは省略できますが, -p オプションを指定するときは省略できません。

-h オプションだけで起動した場合, または -h オプションと -u オプションで起動した場合, 引数をデフォルト値として [ログイン] 画面が表示されます。-h オプションと -p オプションで起動した場合, エラーとなります。

-u ユーザー名

認証サーバに登録してある JP1 ユーザー名を指定します。指定できる文字数は, 1 ~ 31 バイトです。半角英数字 (英字は小文字) だけを使用できます。

このオプションは省略できますが, -p オプションを指定するときは省略できません。

-u オプションだけで起動した場合, または -h オプションと -u オプションで起動した場合, 引数をデフォルト値として [ログイン] 画面を表示します。-u オプションと -p オプションで起動した場合, エラーとなります。

### -p パスワード

指定したユーザー名に対応するパスワードを指定します。指定できる文字数は、6 ~ 32 バイトです。半角英数字だけを使用できます。英字は、大文字・小文字が区別されます。このオプションは省略できます。

このオプションを指定する場合は、-h および -u オプションも指定する必要があります。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	リソースの取得に失敗
4	エラーメッセージの作成に失敗
5	IM 構成管理・ビューアーを強制終了
255	システムエラー

### 使用例 1

IM 構成管理・ビューアーを起動して、[ログイン] 画面を表示する場合

```
jcfview
```

### 使用例 2

[ログイン] 画面を表示させないで自動的にログインする場合

接続先ホスト (host1), ユーザー名 (user2), パスワード (password) を指定して IM 構成管理・ビューアーを起動します。

```
jcfview -h host1 -u user2 -p password
```

# jcfvirtualchstat

---

## 機能

指定ホストの仮想化構成を更新します。

仮想化環境管理ソフトウェアが管理する仮想化構成が変更された場合、このコマンドを実行することによって仮想化構成の変更を IM 構成管理に反映できます。

なお、同時に実行できるコマンドの数は 5 個までです。

## 形式

```
jcfvirtualchstat    -c ホスト名  
                    [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imcf/
```

## 引数

-c ホスト名

仮想化構成情報の収集対象のホスト名を指定します。ホスト名は、255 文字以内で指定します。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。論理ホスト名は、255 バイト以内で指定します。このオプションを省略した場合、環境変数

JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 戻り値

0	正常終了
4	オプション不正

8	サーバに接続できない
12	メモリーが不足した
16	権限が不正
21	同時実行数の上限に達した
24	入出力エラーが発生した
120	システムエラーが発生した
124	その他エラーにより終了した
201 以上	JavaVM の起動エラーが発生した

## jco\_killall.cluster (UNIX 限定)

---

### 機能

クラスタシステムで運用している場合に、JP1/IM - Manager のプロセスを強制的に終了します。

クラスタ運用時には、jco\_stop.cluster コマンドを実行してもプロセスが停止しなくて、クラスタ運用が失敗することがあります。このコマンドは、停止しないプロセスを強制終了します。このコマンドは、正規の方法で JP1/IM - Manager のサービスを停止してもプロセスが停止しない場合にだけ使用してください。

終了させるプロセスは次のものです。

- プロセス管理 (jco\_spm)
- アクション実行サービス (jcamain)
- イベントコンソールサービス (evtcon)
- イベント基盤サービス (evflow)
- 関連イベント発行サービス (evgen)
- セントラルスコープサービス (jcsmain)
- インシデント登録サービス (jcdmain)
- IM 構成管理サービス (jcfmain)
- IM データベースサービス
- JP1/IM - Incident Master 連携用のプロセス

### 形式

jco\_killall.cluster [論理ホスト名]

### 実行権限

スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1cons/

### 引数

#### 論理ホスト名

JP1/Base で設定した論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 15 バイトです。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されません。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

### 注意事項

このコマンドは、論理ホスト名を先頭から 15 バイトまでで判定して、対応するプロセス

を強制終了します。名称が 16 バイト以上の論理ホストのプロセスを強制終了できません。

### 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が指定されていない
2	ログディレクトリがない

## jco\_spmd\_reload

---

### 機能

JP1/IM - Manager のプロセスの状態を更新します。JP1/IM - Manager の定義情報を変更した場合に、変更した内容を再度読み込んで有効にします。

jco\_spmd\_reload コマンドの実行で有効になる定義ファイル、およびその定義情報は次のとおりです。詳細については、「2. 定義ファイル」記載の各定義ファイルの「定義の反映時期」を参照してください。

- 自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update) の下記情報
  - AND イベント保管期限 ("EVENTALLIVEPERIOD")
  - アクション実行標準ユーザー ("ACTIONEXECUSER")
  - 自動アクション発行イベント ("SENDABLE\_EVENT")
  - イベント発行元ホスト名取得方法 ("HOSTINEVENT")
- 自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)
- 拡張起動プロセス定義ファイル (jp1co\_service.conf)
- ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)
- イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)
- ホスト情報ファイル (jcs\_hosts)
- ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_XXX.txt)
- 関連イベント発行システムプロファイル (egs\_system.conf)
- 関連イベント発行環境定義ファイル
- インシデント登録用システムプロファイル (eds\_system.conf)
- インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf)
- インシデント登録環境定義ファイル (jcdmain.conf.update)
- 重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)
- イベント条件表示項目定義ファイル (attr\_list.conf)
- 共通除外条件表示項目定義ファイル (common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf)
- 発生元ホストマッピング定義ファイル (user\_hostmap.conf)

### 形式

```
jco_spmd_reload [-h 論理ホスト名]
                [-t 監視時間]
```

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 255 バイトです。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-t 監視時間

jco\_spmc\_reload コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0 ~ 32,767 (単位：秒) です。指定した時間内に jco\_spmc\_reload コマンドの実行が終わらない場合、jco\_spmc\_reload コマンドの実行が失敗したと見なします。デフォルトは、60 秒です。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外の値	異常終了

# jco\_spm�\_status

---

## 機能

JP1/IM - Manager のプロセス群の起動状態を表示するコマンドです。

## 形式

```
jco_spm�_status [-h 論理ホスト名]
                 [-t 監視時間]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 255 バイトです。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-t 監視時間

jco\_spm�\_status コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0 ~ 32,767（単位：秒）です。指定した時間内に jco\_spm�\_status コマンドの実行が終わらない場合、jco\_spm�\_status コマンドの実行が失敗したと見なします。デフォルトは 60 秒です。

## 戻り値

0	すべての子プロセスが起動している
1	<ul style="list-style-type: none"><li>プロセス管理との通信などでエラーが発生した</li><li>クラスタシステムで運用している場合に共有フォルダ（共有ディレクトリ）がマウントされていない</li><li>実行権限エラー（Windows 限定）</li></ul>

4	一部の子プロセスが起動している
8	すべて停止している
12	要求処理中（リトライ可能）

## jco\_start (UNIX 限定)

---

### 機能

JP1/IM - Manager を自動的に起動するためのスクリプトです。

このコマンドを実行するためには、JP1/IM - Manager のインストールとセットアップの完了後、次に示す操作が必要です。

```
# cd /etc/opt/jp1cons
# cp -p jco_start.model jco_start
```

この操作によって、システムの開始時に、JP1/IM - Manager が自動的に起動します。システムの開始時に、JP1/IM - Manager を自動的に起動させたくない場合はこの操作を行わないでください。

JP1/IM - Manager を手動で起動する場合は、/etc/opt/jp1cons/jco\_start.model スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行してください。

バージョン 8 以前の JP1/IM - Manager を使用している場合、必ずこの操作をしてください。

なお、このコマンドを実行する前に必ず JP1/Base を起動してください。JP1/IM - Manager は、前提製品 JP1/Base の機能を使用して動作しています。

また、次の条件を満たす場合にこのコマンドを実行すると、IM データベースサービスを起動したあと、JP1/IM - Manager を起動します。

- IM データベースサービスをセットアップしている
- 統合監視 DB を使用している、または IM 構成管理サービスを起動する設定にしている

JP1/IM - Manager のプロセス群に起動要求を出したあと、戻り値 0 で終了します。プロセス群が正しく起動したかどうかは、jco\_start コマンドの終了後、jco\_spmc\_status コマンドで起動したサービスのプロセス ID を表示させて確認してください。ただし、IM データベースサービスのプロセス ID は、表示されません。

### 形式

jco\_start

### 実行権限

スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1cons/

## 戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている, イベントサービスが起動していない, または IM データベースサービスが起動できない
2	ログディレクトリがない

## 使用例 1

統合監視 DB を使用している場合

### 入力値

```
jco_start
```

### 結果

```
Please wait a minutes, now starting the IM database
service...
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be
confirmed.
KNAN11183-I The IM database service is stopped.
KNAN11189-I The status of the IM database service was
successfully confirmed.
Please wait a minutes, now starting JP1/IM - Manager...
KAVB3690-I Processing to report the status of JP1_CONS has
started.
Display the running processes
process name  process ID
           evflow      18990
           jcamain     19036
           evtcon      19037
KAVB3691-I All the processes have started.
```

## 使用例 2

統合監視 DB を使用していない, および IM 構成管理サービスを起動していない場合

### 入力値

```
jco_start
```

### 結果

```
Please wait a minutes, now starting JP1/IM - Manager...
KAVB3690-I Processing to report the status of JP1_CONS has
started.
Display the running processes
process name  process ID
```

## 1. コマンド

jco\_start (UNIX 限定)

```
          evflow      19237
        jcamain      19277
          evtcon      19278
```

```
KAVB3691-I All the processes have started.
```

### 使用例 3

IM データベースを使用していない場合

入力値

```
jco_start
```

結果

```
Please wait a minutes, now starting the IM database
service...
```

```
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be
confirmed.
```

```
KNAN11109-E The IM database service is not set up.
```

```
Unable start JP1/IM - Manager.
```

## jco\_start.cluster ( UNIX 限定 )

---

### 機能

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト上の JP1/IM - Manager を起動します。

クラスタソフトにこのコマンドを登録すると、JP1/IM - Manager が起動します。

このコマンドを実行する前に、同じ論理ホスト上の JP1/Base を起動してください。JP1/Base のイベントサービスが起動していない場合にこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。

JP1/IM - Manager のプロセス群に起動要求を出したあと、戻り値 0 で終了します。プロセス群が正しく起動したかどうかは、jco\_start.cluster コマンドの終了後、jco\_spmc\_status コマンドで確認してください。

また、次の条件を満たす場合にこのコマンドを実行すると、IM データベースサービスを起動したあと、JP1/IM - Manager を起動します。

- 論理ホスト上の統合監視 DB を使用している、または IM 構成管理サービスを起動する設定にしている

このコマンドを実行するためには、JP1/IM - Manager のインストールとセットアップの完了後、jplcc\_setup\_cluster および jplcs\_setup\_cluster を実行する必要があります。また、IM データベースサービスは、IM データベースサービスのクラスタシステムをセットアップする必要があります。クラスタシステムのセットアップについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6. クラスタシステムでの運用と環境構築」を参照してください。

### 形式

jco\_start.cluster [論理ホスト名]

### 実行権限

スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

/etc/opt/jplcons/

### 引数

#### 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 63 バイトです。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を

## 1. コマンド

`jco_start.cluster` (UNIX 限定)

指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている、イベントサービスが起動していない、または IM データベースサービスが起動できない
2	ログディレクトリがない

# jco\_stop (UNIX 限定)

---

## 機能

JP1/IM - Manager を自動的に終了するためのスクリプトです。このコマンドの実行には、JP1/IM - Manager のインストールとセットアップの完了後、次に示す操作が必要です。

```
# cd /etc/opt/jplcons  
# cp -p jco_stop.model jco_stop
```

この操作によって、システムの終了時に JP1/IM - Manager が自動的に終了します。ただし、IM データベースサービスが起動している場合は、JP1/IM - Manager を停止したあとに自動的に IM データベースサービスが終了します。

JP1/IM - Manager が停止しなかった場合、KAVB8800-E のメッセージが標準出力に出力されます。

IM データベースサービスが停止しなかった場合、KAVB8801-E のメッセージが標準出力に出力されます。

JP1/IM - Manager を手動で停止する場合は、`/etc/opt/jplcons/jco_stop.model` スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行してください。

## 形式

jco\_stop

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

`/etc/opt/jplcons/`

## 戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている、または停止要求がタイムアウトした

## 使用例 1

JP1/IM - Manager および IM データベースサービスが起動している場合

入力値

```
jco_stop
```

結果

```
KAVB3674-I Termination processing of JP1_CONS has started.
```

## 1. コマンド

jco\_stop (UNIX 限定)

```
KAVB3675-I The stop command terminated normally.
KNAN11185-I Processing to stop the IM database service will
now start.
KNAN11028-I Please wait.
KNAN11187-I The IM database service stopped normally.
KNAN11186-I Processing to stop the IM database service ended
normally.
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be
confirmed.
KNAN11183-I The IM database service is stopped.
KNAN11189-I The status of the IM database service was
successfully confirmed.
```

### 使用例 2

JP1/IM - Manager が起動している , および IM データベースサービスを起動していない  
場合

入力値

```
jco_stop
```

結果

```
KAVB3674-I Termination processing of JP1_CONS has started.
KAVB3675-I The stop command terminated normally.
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be
confirmed.
KNAN11183-I The IM database service is stopped.
KNAN11189-I The status of the IM database service was
successfully confirmed.
```

### 使用例 3

JP1/IM - Manager および IM データベースサービスが起動していない場合

入力値

```
jco_stop
```

結果

```
KAVB3674-I Termination processing of JP1_CONS has started.
KAVB3662-I The process management is not running.
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be
confirmed.
KNAN11183-I The IM database service is stopped.
KNAN11189-I The status of the IM database service was
successfully confirmed.
```

## 使用例 4

JP1/IM - Manager が起動していない, および IM データベースサービスが起動している場合

入力値

```
jco_stop
```

結果

```
KAVB3674-I Termination processing of JP1_CONS has started.  
KAVB3662-I The process management is not running.  
KNAN11185-I Processing to stop the IM database service will  
now start.  
KNAN11028-I Please wait.  
KNAN11187-I The IM database service stopped normally.  
KNAN11186-I Processing to stop the IM database service ended  
normally.  
KNAN11188-I The status of the IM database service will now be  
confirmed.  
KNAN11183-I The IM database service is stopped.  
KNAN11189-I The status of the IM database service was  
successfully confirmed.
```

## 1. コマンド

jco\_stop.cluster (UNIX 限定)

# jco\_stop.cluster (UNIX 限定)

---

## 機能

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト上の JP1/IM・Manager を終了します。

論理ホスト上の IM データベースサービスが起動している場合、JP1/IM・Manager を終了したあと、同じ論理ホスト上の IM データベースを終了します。

このコマンドを実行すると JP1/IM・Manager のプロセスおよび IM データベースサービスが停止します。このコマンドを実行してもプロセスが停止しなかった場合、jco\_killall.cluster コマンドでプロセスを強制終了してください。

このコマンドを実行するためには、JP1/IM・Manager のインストールとセットアップの完了後、jplcc\_setup\_cluster および jplcs\_setup\_cluster を実行する必要があります。また、IM データベースサービスは、IM データベースサービスのクラスタシステムをセットアップする必要があります。クラスタシステムのセットアップについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「6. クラスタシステムでの運用と環境構築」を参照してください。

## 形式

jco\_stop.cluster [論理ホスト名]

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/etc/opt/jplcons/

## 引数

論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 63 バイトです。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている、または停止要求がタイムアウトした

# jcoappexecfcheck

---

## 機能

アプリケーション実行定義ファイルをチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのアプリケーション実行定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。

解析結果は次の形式で出力されます。

アプリケーション実行定義識別子, 実行パス [, 説明文]

解析結果には、システムで定義するアプリケーション実行定義識別子（セントラルコンソールで使用するデフォルトの WWW ブラウザー定義である「"default\_browser"」）が含まれます。

## 形式

jcoappexecfcheck アプリケーション実行定義ディレクトリ名

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

View パス ¥bin¥

## 引数

アプリケーション実行定義ディレクトリ名

チェックの対象となるアプリケーション実行定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名は指定できません。

## 使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";
@define-block type="application-execution-def";
id="notepad";
path="C:¥winnt¥system32¥notepad.exe";
@define-block-end;
@define-block type="application-execution-def";
id="dmp";
path="[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥0521/
A¥PathName¥Path0]¥bin¥DMPSTS.exe";
```

## 1. コマンド

jcoappexecfcheck

```
@define-block-end;
```

解析結果は次のよう出力されます。

```
"dmp", "C:¥NETMDMP¥bin¥DMPSTS.exe"  
"notepad", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"  
"default_browser", "C:¥Program  
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
```

# jcoattrfcheck

---

## 機能

イベント拡張属性定義ファイルの記述内容をチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのイベント拡張属性定義ファイルの定義誤りがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。定義誤りなどのエラー情報は、標準エラー出力に出力されます。

解析結果は CSV 形式で出力されます。イベント ID ごとに、次の情報を含んだ 1 行で出力されます。

プラットフォーム, イベントID, 言語種別, プロダクト名, 属性名, 表示名, タイプ

## 注

「, 属性名, 表示名, タイプ」部分は、表示されるイベント属性の分だけ繰り返し出力されます。

[ イベント詳細 ] 画面に出力される JP1 イベントの属性は、このコマンドで出力される解析結果に、基本属性および拡張属性の共通情報が付加されたものになります。

## 形式

jcoattrfcheck イベント拡張属性定義ディレクトリ名

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

イベント拡張属性定義ディレクトリ名

チェックの対象となる拡張属性定義ファイルがあるディレクトリ名を指定します。ディレクトリ名は、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定しま

## 1. コマンド jcoattrfcheck

す。

チェックの対象となるファイルは、拡張子が「.conf」で、ファイルタイプが「extended-attributes-definition」でなければなりません。

# jcochafmode

## 機能

イベント取得フィルターの位置をイベントコンソールサービスからイベント基盤サービスに変更します。

イベント取得フィルター（互換用）を使用している場合にこのコマンドを実行すると、JP1 イベントの監視に加えて、自動アクションやセントラルスコープなどのほかの機能にも有効なフィルターとして動作させることができます。また、フィルター条件を詳細に定義できるようになります。ただし、イベント取得フィルター（互換用）のまま運用したい場合は、フィルター位置の変更は不要です。

なお、07-00 以前のイベント取得フィルターで設定した内容、またはイベント取得フィルター（互換用）で設定した内容は、下記表で示すとおり引き継がれます。運用に合わせて設定内容、条件群名を変更してください。

表 1-20 イベント取得フィルター設定項目の引き継ぎ

jcochafmode コマンド実行前の設定	jcochafmode コマンド実行後
設定なし	何も設定のない「既存条件群」に引き継がれる。
イベント ID だけ設定	「既存条件群」に引き継がれる。
重大度だけ設定	「既存条件群」に引き継がれる。
JP1/SES イベントだけ設定	「既存条件群_SES」に引き継がれる。
JP1/SES イベント、イベント ID を設定	JP1/SES イベント、イベント ID の設定が「既存条件群_SES」として引き継がれる。 イベント ID の設定が「既存条件群」として引き継がれる。
重大度、イベント ID を設定	「既存条件群」に引き継がれる。
JP1/SES イベント、重大度を設定	JP1/SES イベントの設定は「既存条件群_SES」として引き継がれる。 重大度の設定は「既存条件群」として引き継がれる。
JP1/SES イベント、重大度、イベント ID を設定	JP1/SES イベント、イベント ID の設定が「既存条件群_SES」として引き継がれる。 重大度、イベント ID の設定が「既存条件群」として引き継がれる。

## 注

イベント ID の設定は条件群両方に引き継がれます。

## 形式

jcochafmode [-h 論理ホスト名]

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

注 このコマンドは、Windows Server 2008、HP-UX (IPF)、および Linux 版の JP1/IM  
- Manager には同梱されていません。

## 引数

-h 論理ホスト名

イベント取得フィルター（互換用）の論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、物理ホストを仮定します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 注意事項

- このコマンドを実行してイベント取得フィルターの位置および定義内容を変更する場合は、イベント取得フィルターを変更する対象ホストの JP1/IM - Manager を必ず停止してください。JP1/IM - Manager を停止していない状態でこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。
- このコマンドを何度も実行した場合は、すでに変換されているイベント取得フィルターが上書きされ、カスタマイズした条件定義が破棄されます。このコマンドは、イベント取得フィルターを変換するときに 1 回だけ実行してください。
- 一度変換したイベント取得フィルターを、バージョンアップ前のイベント取得フィルターまたはイベント取得フィルター（互換用）として（フィルターの位置および定義内容を）元に戻すことはできません。
- バージョン 07-10 以降のイベント取得フィルターは、イベント取得フィルター（互換用）に変換できません。
- JP1/IM - Manager を新規にインストールした場合、このコマンドを実行する必要はありません。
- このコマンドを実行してイベント取得フィルターの位置をイベント基盤サービスに変更すると、以後そのフィルターは JP1/IM - Incident Master 連携用の機能（インシデント登録サービス）および関連イベント発行機能にも適用されるようになります。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 使用例

論理ホスト host01 のイベント取得フィルター（互換用）を、イベント基盤サービス上で動作するイベント取得フィルターに変換する。

```
jcochafmode -h host01
```

## 出力例 1

イベント取得フィルターを変更する対象ホストの JP1/IM - Manager が停止されている場合

```
KAVB1005-I コマンド ( jcochafmode ) を開始しました  
KAVB0836-I イベント取得フィルタを互換から通常モードに切り替えました  
KAVB1002-I コマンド ( jcochafmode ) が正常終了しました
```

## 出力例 2

イベント取得フィルターを変更する対象ホストの JP1/IM - Manager が停止されていない場合

```
KAVB1005-I コマンド ( jcochafmode ) を開始しました  
KAVB0831-E JP1/IM - Manager が起動しています  
KAVB1003-I コマンド ( jcochafmode ) が異常終了しました
```

# jcochcefmode

---

## 機能

JP1/IM - Manager の共通除外条件の動作モードを変更するコマンドです。このコマンドを実行すると、共通除外条件を基本モードから拡張モードに変更したり、拡張モードから基本モードに変更したりできます。共通除外条件を拡張モードに変更すると、正規表現の種類が、拡張正規表現に変更されます。

-m オプションを指定してこのコマンドを実行する場合は、JP1/IM - Manager が停止している必要があります。停止していないときに実行すると、エラー終了し、メッセージが表示されます。

また、このコマンドは複数を同時に実行できません。

なお、共通除外条件がすでに設定されている場合でも共通除外条件を拡張モードに変更できます。

次の場合に共通除外条件拡張定義ファイルのバックアップファイルが `common_exclude_filter_backup.conf` として出力されます。

- 動作モードを基本モードから拡張モードに変更した場合で正規表現に問題があるとき
- 動作モードを拡張モードから基本モードに変更した場合

バックアップファイルの出力先を次に示します。

### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥filter¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥filter¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/filter/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/filter/

拡張モードで使用できない正規表現があった場合、エラーメッセージが表示され、拡張モードの共通除外条件が設定されていない状態になります。出力されたファイルを編集し直して、`jcochfilter` コマンドの `-ef` オプションで JP1/IM - Manager に反映してください。

共通除外条件拡張定義ファイルについては、「共通除外条件拡張定義ファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。

jcochfilter コマンドについては、「jcochfilter」(1. コマンド)を参照してください。

## 形式

```
jcochcefmode [-m {normal | extended}]  
              [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

## 引数

```
-m {normal | extended}
```

共通除外条件の動作モードを指定します。

- normal：共通除外条件の動作モードを基本モードにしたい場合に指定します。デフォルトは、normal です。  
動作モードを拡張モードから基本モードに戻した場合は、基本モードの共通除外条件の定義は空になります。拡張モードで使用していた共通除外条件の定義はバックアップファイルとして保存されます。バックアップファイルについては、「機能」を参照してください。
- extended：共通除外条件の動作モードを拡張モードにしたい場合に指定します。基本モードで使用していた共通除外条件の定義は、拡張モードの共通除外条件の定義に引き継がれます。なお、共通除外条件を拡張モードに変更した場合、正規表現の種類が、拡張正規表現に変更されます。

normal または extended は大文字・小文字を区別しません。

```
-h 論理ホスト名
```

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する動作モードを、JP1/IM・Manager の共通除外条件に設定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 1. コマンド jcochcefmode

環境変数 JP1\_HOSTNAME に JP1\_DEFAULT や存在しない論理ホストを設定した場合、エラーメッセージが表示されます。

### 注意事項

- -m オプションを指定しなかった場合、共通除外条件の動作モードを表示します。
- 次のどちらかまたは両方の状態の場合、拡張モードを使用できません。
  - イベント取得フィルター（互換用）を使用している
  - マネージャーホストの JP1/Base で、拡張正規表現を使用していない

### 戻り値

0	正常終了
1	異常終了
2	引数エラー
3	JP1/IM・Manager が起動している
4	拡張モードの前提条件を満たしていない、またはイベント取得フィルターが互換用で動作している
5	拡張モードの前提条件を満たしていない、または JP1/Base の正規表現が拡張されていない
6	現在の動作モードと同じ動作モードを指定している
7	jcochcefmode コマンドの実行権限がない（Windows 限定）
8	共通除外条件拡張定義ファイルのバックアップに失敗した
9	論理ホストの指定が不正である
10	同時実行エラー
255	その他のエラー

### 使用例 1

動作モードを基本モードに変更する場合

入力値

```
jcochcefmode -m normal
```

結果

```
KAVB1005-I コマンド (jcochcefmode) を開始しました  
KAVB0896-I 共通除外条件の動作モードを基本モードに変更しました  
KAVB1002-I コマンド (jcochcefmode) が正常終了しました
```

### 使用例 2

動作モードを拡張モードに変更する場合

入力値

```
jcochcefmode -m extended
```

結果

```
KAVB1005-I コマンド (jcochcefmode) を開始しました  
KAVB0896-I 共通除外条件の動作モードを拡張モードに変更しました  
KAVB1002-I コマンド (jcochcefmode) が正常終了しました
```

### 使用例 3

共通除外条件の動作モードを確認する場合（この例の場合，物理または論理ホストのホスト名は hostA，動作モードは拡張である）

入力値

```
jcochcefmode
```

結果

```
KAVB1005-I コマンド (jcochcefmode) を開始しました  
KAVB0894-I 共通除外条件の動作モードを表示します (ホスト名:hostA)  
動作モード      : 拡張モード  
KAVB1002-I コマンド (jcochcefmode) が正常終了しました
```

# jcochdisc

---

## 機能

JP1/IM - Incident Master 連携用のコマンドです。

インシデント登録サービスの動作状態を「稼働」から「休止」に、または「休止」から「稼働」に変更するコマンドです。状態が「稼働」の場合、インシデント登録定義に従い、JP1 イベントの相関処理（条件比較、インシデントの生成、および JP1/IM - Incident Master へのインシデントの登録）をします。状態が「休止」の場合、インシデント登録定義に一致する JP1 イベントを取得しても、JP1 イベントの相関処理をしません。

## 形式

```
jcochdisc [-n]
           [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-n

インシデント登録サービスの動作状態を「休止」にする場合に指定します。「休止」になると、インシデント登録定義に一致する JP1 イベントを取得しても、イベントの相関処理をしません。また、「休止」の間に発生した JP1 イベントに対しては、インシデント登録サービスの動作状態が「休止」から「稼働」に変わっても、JP1 イベントの相関処理をしません。

このオプションを省略した場合は、インシデント登録サービスの動作状態を「稼働」にします。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプション

を省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了（インシデント登録サービスの稼働，または休止に失敗した）
2	インシデント登録サービスとの通信がタイムアウトした
100	実行権限がない（Windows 限定）
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了（システムエラー）

## 使用例 1

物理ホスト（hostP）のインシデント登録サービスの動作状態を「稼働」にする場合

入力値

```
jcochdisc
```

結果

```
KAJV1201-I インシデント登録定義ファイルを読み込み，hostP のインシデント登録機能を稼働状態にしました
```

## 使用例 2

論理ホスト（hostL）のインシデント登録サービスの動作状態を「休止」にする場合

入力値

```
jcochdisc -n -h hostL
```

結果

```
KAJV1202-I hostL のインシデント登録機能を休止しました
```

# jcochfilter

---

## 機能

JP1/IM - Manager のイベント基盤サービス、インシデント登録サービス (JP1/IM - Incident Master 連携機能)、および関連イベント発行機能で有効となっているイベント取得フィルターを、指定したフィルター ID のイベント取得フィルターに切り替えるためのコマンドです。また、指定した共通除外条件を有効にすることもできます。

イベント取得フィルターのフィルター ID、フィルター名、共通除外条件群の共通除外条件群 ID、および共通除外条件群名を一覧で表示することもできます。

指定したホストの JP1/IM - Manager が起動していない場合、およびイベント取得フィルター (互換用) の場合は使用できません。

また、共通除外条件が拡張モードの場合に、次の操作を実行できます。

- 拡張モードの共通除外条件を、条件群単位で有効・無効に設定できる
- 共通除外条件定義ファイルを読み込み、拡張モードの共通除外条件の定義を一括で反映できる
- 共通除外条件定義ファイルを読み込み、拡張モードの共通除外条件の定義内容をチェックできる

## 形式 1

```
jcochfilter [-i フィルターID]
            [-e [共通除外条件群ID [, 共通除外条件群ID...] | ALL]]
            [-on 共通除外条件群ID [, 共通除外条件群ID...]]
            [-off 共通除外条件群ID [, 共通除外条件群ID...]]
            [-ef 共通除外条件拡張定義ファイル名]
            [-h 論理ホスト名]
```

注 拡張モードの共通除外条件の場合に指定できます。

## 形式 2

```
jcochfilter -check 共通除外条件拡張定義ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

## UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

## 引数

**-i** フィルター ID

切り替えて使用するイベント取得フィルターのフィルター ID を指定します。

このオプションは、**-ef** および **-check** オプションと同時に指定できません。

**-e** [ 共通除外条件群 ID, 共通除外条件群 ID... ] | ALL

有効にしたい共通除外条件群の ID を指定します。指定しなかった ID の共通除外条件は無効になります。複数指定する場合は、コンマで区切ります。すべての共通除外条件を有効にしたい場合は、ALL を指定します。なお、**-e** のあとに何も指定しなかった場合は、すべての共通除外条件が無効になります。このオプションと同時に指定できるのは、**-i** および **-h** オプションだけです。

**-on** 共通除外条件群 ID[, 共通除外条件群 ID...]

有効にしたい拡張モードの共通除外条件の ID を指定します。このオプションは、共通除外条件が拡張モードの場合に設定できます。拡張モードの共通除外条件の ID を複数指定する場合は、コンマで区切ります。指定できる共通除外条件群 ID の範囲は、0 ~ 1,023 です。このオプションは、**-e**、**-ef**、および **-check** オプションと同時に指定できません。

**-off** 共通除外条件群 ID[, 共通除外条件群 ID...]

無効にしたい拡張モードの共通除外条件の ID を指定します。このオプションは、共通除外条件が拡張モードの場合に設定できます。拡張モードの共通除外条件の ID を複数指定する場合は、コンマで区切ります。指定できる共通除外条件群 ID の範囲は、0 ~ 1,023 です。このオプションは、**-e**、**-ef**、および **-check** オプションと同時に指定できません。

**-ef** 共通除外条件拡張定義ファイル名

JP1/IM - Manager に反映したい共通除外条件拡張定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは、共通除外条件が拡張モードの場合に設定できます。このオプションを指定すると、共通除外条件拡張定義ファイルに記載されている拡張モードの共通除外条件の定義内容を JP1/IM - Manager に一括で反映できます。このオプションと同時に指定できるのは、**-h** オプションだけです。

**-check** 共通除外条件拡張定義ファイル名

共通除外条件拡張定義ファイルに記載されている拡張モードの共通除外条件の定義内容が正しいかどうかをチェックするオプションです。

## 1. コマンド jcochfilter

JP1/IM - Manager に反映したい共通除外条件拡張定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。このオプションは、ほかのオプションと同時に指定できません。

### -h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。このオプションは、-check オプションと同時に指定できません。

## 注意事項

- -h 以外のオプションを指定しなかった場合、次の内容を一覧で表示します。
  - 適用中のイベント取得フィルターのフィルター ID とフィルター名
  - 適用中の共通除外条件群 ID と共通除外条件群名
  - 設定されているイベント取得フィルターのフィルター ID とフィルター名
  - 設定されている共通除外条件群 ID と共通除外条件群名
  - 共通除外条件の動作モードが拡張モードの場合、拡張モードの共通除外条件の ID と共通除外条件群名
- 指定したホストの JP1/IM - Manager が起動していない場合、およびイベント取得フィルターが互換用の場合は、jcochfilter コマンドは実行できません。
- このコマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、あとに実行したコマンドが失敗する場合があります。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) と接続できない ( 通信エラー )
3	JP1/IM - Manager の起動状態が確認できない
4	一定時間内に JP1/IM - Manager からの応答がない
5	イベント取得フィルターが互換用で動作している
6	JP1/IM - Manager からのエラー
7	-i オプションで指定したフィルター ID が存在しない
8	jcochfilter コマンドの実行権限がない ( Windows 限定 )
9	イベント取得フィルターの最大長を超えている
10	-e オプションで指定した共通除外条件が存在しない
255	その他のエラー

### 使用例 1

論理ホスト hostA 上のイベント取得フィルターの一覧を表示する場合

```
jcochfilter -h hostA
```

### 使用例 2

論理ホスト hostA 上のイベント取得フィルターをフィルター ID が 3 のフィルターに変更する場合

```
jcochfilter -i 3 -h hostA
```

### 使用例 3

論理ホスト hostA 上のイベント取得フィルターの共通除外条件群 (ID : 0, 2) を有効にし、それ以外を無効にする場合

```
jcochfilter -e 0,2 -h hostA
```

# jcochstat

---

## 機能

重要イベントの対処状況を示す情報を変更します。

このコマンドは、`-h`で指定したホストのイベントDBにアクセスし、`-n`で指定した通し番号のJP1 イベントの重要イベント対処状況を変更します。

対処状況を変更すると、同じマネージャーにログインしているほかのJP1/IM - Viewでも対処状況の表示が変更されます。対処状況を変更するJP1 イベントがほかのホストから転送されてきた場合やほかのホストに転送する設定がされている場合、転送元および転送先のホストでの対処状況は変更されません。

なお、このコマンドを使えば、[ イベントコンソール ] 画面の [ 重要イベント ] ページに表示されていないJP1 イベントの対処状況も変更できますが、この場合、その変更を確認するには次の方法を取る必要があります。

- 対処状況を変更したJP1 イベントが [ イベントコンソール ] 画面の [ イベント監視 ] ページに表示されている場合 : [ イベント監視 ] ページで確認する。
- 対処状況を変更したJP1 イベントが [ イベントコンソール ] 画面の [ イベント監視 ] ページに表示されていない場合 : イベント検索で確認する。

このコマンドは、JP1/IM - Manager が稼働する環境で使用できます。

## 形式

```
jcochstat [-h マネージャーホスト名]
           {-k 重要イベント対処状況キー | -d |
           -k 重要イベント対処状況キー -d}
           -n イベントDB内通し番号1[, ..., イベントDB内通し番号10]
```

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合 : なし

Windows Server 2008 の場合 : Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

UNIX の場合 : なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h マネージャーホスト名

重要イベントが登録されているイベント DB があるマネージャーを指定します。このオプションを省略した場合は、自ホストを仮定します。クラスタシステムでの運用時に、このオプションを省略した場合は、コマンドを実行した物理ホスト名を仮定します。指定したマネージャー上の JP1/IM - Manager が起動していないと、エラーになります。

マネージャーホスト名は 255 文字以内の文字列で指定してください。

-k 重要イベント対処状況キー

重要イベントの対処状況を表すキー値を入力します。-n オプションで指定した重要イベントの対処状況が、指定したキーが示す対処状況に変更されます。また、JP1/IM - View で表示した場合、対処状況マークが変更されます。

重要イベント対処状況キーは大文字と小文字を区別します。

-k オプションと -d オプションは、どちらか一方または両方を指定してください。-k オプションと -d オプションを両方指定した場合は、対処状況を変更したあと、JP1/IM - View の画面からイベントを削除します。-k オプションと -d オプションは同時に省略できません。

表 1-21 重要イベント対処状況キー

キー値	対処状況	JP1/IM - View に表示される対処状況マーク
PROCESSED	対処済	☒
PROCESSING	処理中	▶
HELD	保留	⏸
UNPROCESSED	未対処	(無印)

-d

-n オプションで指定した重要イベントを JP1/IM - View の画面から削除します。イベント DB からは削除されません。

-k オプションと -d オプションは、どちらか一方または両方を指定してください。-k オプションと -d オプションを両方指定した場合は、対処状況を変更したあと、JP1/IM - View の画面からイベントを削除します。-k オプションと -d オプションは同時に省略できません。

-n イベント DB 内通し番号

対処状況を変更したい重要イベントのイベント DB 内通し番号を指定します。このオプションは省略できません。

## 1. コマンド

jcochstat

イベント DB 内通し番号は、最大 10 個指定できます。複数指定する場合は、通し番号と通し番号の間をコンマで区切ります。コンマの前後に空白を指定できません。

指定できる値は、0 ~ 2,147,483,647 の 10 進数整数です。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	ネットワーク障害
3	イベント DB の更新に失敗した
4	指定できないキーを指定している
5	更新できないイベントを指定した
7	コマンドを実行する権限がない ( Windows Server 2008 限定 )
255	その他のエラー

### 使用例

マネージャー host01 上のイベント DB に登録されている、イベント DB 内通し番号が 35 のイベントおよび 400 のイベントを、対処状況を対処済に変更したあと、画面から削除します。

```
jcochstat -h host01 -k PROCESSED -n 35,400 -d
```

# jcodbsetup

---

## 機能

JP1 イベントを格納する統合監視 DB 領域を作成するセットアップコマンドです。データベースのサイズ、ポート番号、およびデータベース格納先は、セットアップ情報ファイルに指定しておく必要があります。

Windows の場合、IM 構成管理 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、次のサービスが OS に登録されます。

- 物理ホストのセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server, JP1/IM-Manager DB Cluster Service
- クラスタ構成のセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名, JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名

UNIX の場合、IM 構成管理 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、`/etc/inittab` ファイルに、IM データベースのパスを含むエントリが追加されます。エントリは、コマンドを実行した物理ホスト、および論理ホストごとに追加されます。このコマンドを実行したときに追加された `/etc/inittab` ファイルのエントリを、削除、編集、またはコメントアウトしないでください。

## 形式

```
jcodbsetup {-f セットアップ情報ファイル名|-s}  
           [-h 論理ホスト名 -c {online|standby}]  
           [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-f セットアップ情報ファイル名

IM データベースのインストール先フォルダや、データベース領域のサイズを記述したセットアップ情報ファイルを指定します。IM 構成管理 DB と統合監視 DB がどちらも

## 1. コマンド

### jcodbsetup

セットアップされていない場合は、必ずこのオプションを指定してください。IM 構成管理 DB がすでにセットアップ済みの場合にこのオプションを指定するときには、IM 構成管理 DB のセットアップ時に指定したセットアップ情報ファイルと同じファイルを指定してください。また、IM 構成管理 DB がすでにセットアップ済みの場合は、`-s` オプションを代わりに指定できます。その際、IM 構成管理 DB のセットアップ時に指定したセットアップ情報が用いられます。

`-s` オプションと同時に指定できません。また、`-f` オプションと `-s` オプションは同時に省略できません。

パスに空白を含む場合は、「`"`」で囲みます。クラスタ環境を構築する場合は、クラスタセットアップ情報ファイル名を指定してください。

`-s`

IM 構成管理 DB がセットアップされている場合は、`-f` オプションの代わりに指定できます。このオプションを指定した場合は、IM 構成管理 DB のセットアップ時に指定されたセットアップ情報の内容を参照して、統合監視 DB をセットアップします。

IM 構成管理 DB がセットアップされていない場合、このオプションを指定すると、KNAN11193-E メッセージが出力されます。

`-f` オプションと同時に指定できません。また、`-s` オプションと `-f` オプションは同時に省略できません。

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する統合監視 DB をセットアップします。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に `JP1_DEFAULT` は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。論理ホスト名には、`JP1/Base` で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

`-c {online|standby}`

クラスタ構成の実行系および待機系のセットアップ種別を指定します。`-h` オプションを指定した場合は、必ずこのオプションを指定してください。

すでに同一ホストに IM 構成管理 DB をセットアップしている場合は、`-c` オプションに IM 構成管理 DB を作成したときと同じ値を指定してください。また、非クラスタ環境で、論理ホスト運用をする場合は `online` を指定してください。

- `online` : 実行系をセットアップする場合に指定します。
- `standby` : 待機系をセットアップする場合に指定します。

`online` を指定する場合は、共有ディスクをマウントし、論理ホストと通信できる状態

にしてください。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- 実行系と待機系のクラスタセットアップ情報ファイルの内容は同じにする必要があります。待機系をセットアップする場合、実行系で使用したクラスタセットアップ情報ファイルをコピーして使用してください。実行系と待機系で指定したファイル内容が異なっていた場合、待機系でアンセットアップしたあとに、クラスタセットアップ情報ファイルを実行系からコピーし、コマンドを再実行します。
- -c オプションを指定してコマンドを実行する場合は、実行途中でサーバを切り替えしないでください。実行中にサーバを切り替えた場合は、コマンド終了後に一度アンセットアップしてから、コマンドを再実行してください。
- コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、pdistup、pdfmkfs、pdddef、および pdload のプロセスが実行されていないことを確認し、jcodbunsetup コマンドを実行してからこのコマンドを再実行してください。
- IM 構成管理 DB をセットアップ済みの場合、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager サービスが停止している必要があります。
- Windows で IM 構成管理 DB を使用している場合、IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server) が起動している必要があります。また、IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service) が停止している必要があります。
- JP1/IM-MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM-MO の JP1/IM-Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jcodbunsetup

---

## 機能

JP1 イベントを格納する統合監視 DB をアンセットアップするコマンドです。

このコマンドは、統合監視 DB の使用を停止する場合、JP1/IM-Manager をアンインストールする場合、統合監視 DB を再作成する場合、およびデータベースサイズを拡張する場合に実行します。IM 構成管理 DB をセットアップしている環境では、このコマンドを実行後も IM 構成管理は使用できます。

Windows の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、次のサービスが削除されます。

- 物理ホストのアンセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server, JP1/IM-Manager DB Cluster Service
- クラスタ構成のアンセットアップ時：JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名, JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名

UNIX の場合、統合監視 DB がセットアップされていない環境でこのコマンドを実行すると、jcodbsetup または jcfdbsetup コマンドが登録した、/etc/inittab ファイルのエントリーが削除されます。エントリーは、コマンドを実行した物理ホスト、および論理ホストに対応した処理だけ削除されます。

## 形式

```
jcodbunsetup [-h 論理ホスト名 -c {online|standby}]  
              [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を

指定します。指定した論理ホストに対応する統合監視 DB がアンセットアップされます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に JP1\_DEFAULT は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。論理ホスト名には、JP1/Base で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

`-c {online|standby}`

クラスタ構成の実行系および待機系のアンセットアップ種別を指定します。-h オプションを指定した場合は、必ずこのオプションを指定してください。

- `online` : 統合監視 DB のセットアップで `online` を指定した場合に指定します。
- `standby` : 統合監視 DB のセットアップで `standby` を指定した場合に指定します。

`online` を指定する場合は、共有ディスクをマウントし、論理ホストと通信できる状態にしてください。また、非クラスタ環境で、運用していた論理ホストの統合監視 DB をアンセットアップする場合は `online` を指定してください。

`-q`

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- IM 構成管理 DB を作成している環境で、データベースのサイズを拡張する場合は、このコマンドを実行後に、IM 構成管理 DB のアンセットアップコマンドを実行する必要があります。
- `-c` オプションを指定してコマンドを実行する場合は、実行途中でサーバを切り替えしないでください。実行中にサーバを切り替えた場合は、コマンド終了後にコマンドを再実行してください。
- コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、`pdirst` プロセスが実行されていないことを確認してからこのコマンドを再実行してください。
- Windows の場合、サービスが次の状態である必要があります。

### 物理ホストの場合

IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service) が停止していて、IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server) が開始している必要があります。また、IM 構成管理 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager のサービス (JP1/IM-Manager) が停止している必要があります。

## 1. コマンド jcodbunsetup

### 論理ホストの場合

論理ホストの IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名) が停止していて、論理ホストの IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server\_ 論理ホスト名) が開始している必要があります。また、IM 構成管理 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用している場合、JP1/IM - Manager のサービス (JP1/IM-Manager\_ 論理ホスト名) が停止している必要があります。

- UNIX の場合、IM 構成管理 DB がセットアップ済み、かつ IM データベースを使用しているとき、JP1/IM-Manager サービスが停止している必要があります。
- JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jcoedsstatus

---

## 機能

JP1/IM - Incident Master 連携用のコマンドです。

インシデント登録サービスの動作状態を表示するコマンドです。インシデント登録サービスの動作状態には、起動処理中、稼働、休止、停止処理中、停止の五つの状態があり、このコマンドを実行することで、どの状態になっているかを知ることができます。

## 形式

```
jcoedsstatus [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 出力形式

jcoedsstatus コマンドを実行すると、インシデント登録サービスの動作状態は次の形式で出力されます。

インシデント登録機能                   : 状態

なお、UNIX で環境変数 LANG の値を c としていた場合は、次の形式で出力されます。

The discrimination function           : 状態

状態に表示される文字列について次に説明します。

表 1-22 状態に表示される文字列

状態に表示される文字列	動作状態	説明
STARTING	起動処理中	インシデント登録サービスが起動処理を実行している状態。
RUNNING	稼働	インシデント登録サービスが起動しており、インシデント登録機能が使用できる状態。 次の条件のときにこの状態となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効なインシデント登録条件が少なくとも一つある状態でインシデント登録サービスが起動した。</li> <li>有効なインシデント登録条件が少なくとも一つある状態で、-n オプションを指定せずに jcochdisc コマンドを実行し、インシデント登録定義を反映した。</li> <li>有効なインシデント登録条件を記載したインシデント登録設定ファイルを引数に jcisetfilter コマンド (JP1/IM - Incident Master 提供コマンド) を実行し、インシデント登録定義を反映した。</li> </ul>
STANDBY	休止	インシデント登録サービスは起動しているが、インシデント登録機能は休止している状態。 休止中、JP1 イベントの取得処理は行いが、取得した JP1 イベントに対して関連処理は行わない。 また、「休止」から「稼働」になった場合でも、休止中に取得した JP1 イベントに対して関連処理は行わない。 備考 休止前に「関連中」状態になっていたインシデントは休止後「不成立」状態になる。 インシデントの状態については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照のこと。
STOPPING	停止処理中	インシデント登録サービスが停止処理を実行している状態。
STOP	停止	インシデント登録サービスが停止している状態。

## 戻り値

0	状態表示に成功
1	状態表示に失敗
2	インシデント登録サービスとの通信がタイムアウトした
100	コマンドを実行する権限がない (Windows Server 2008 限定)
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了 (システムエラー)

## 使用例

物理ホスト (hostP) のインシデント登録サービスの動作状態 (「稼働」時) を表示する

場合

入力値

jcoedsstatus

結果

KAJV1261-I hostPのインシデント登録サービスの状態を表示します  
インシデント登録機能 : RUNNING

# jcoegschange

---

## 機能

関連イベント発行定義を変更するコマンドです。関連イベント発行機能の状態が停止、関連稼働、および機能停止のどの状態のときでも実行できます。なお、起動処理中および停止処理中は実行できません。

jcoegschange コマンドを実行する場合の注意事項を次に示します。

- jcoegschange コマンドで関連イベント発行定義を変更すると、即時に変更後の定義が有効になります。定義が有効になった時点で、関連イベントの発行処理中の JP1 イベントがあった場合、すべて不成立となります。
- jcoegschange コマンド実行時、関連イベント発行定義ファイルに条件が 1 件も定義されていなかった場合、関連イベント発行条件がない状態で動作します。つまり、関連イベントは発行されません。
- 関連イベント発行機能が関連稼働状態の場合、jcoegschange コマンドで変更しようとした関連イベント発行定義に不正があると、定義が変更されずに処理が続行されます。
- 関連イベント発行機能が起動していない場合は、関連イベント発行定義の設定だけが行われます。関連イベント発行機能を起動すると、関連イベント発行定義の設定が有効になります。
- jcoegschange コマンドは、jcoegsstatus コマンド (-d オプション指定) と同時に実行できません。

## 形式

```
jcoegschange [-h 論理ホスト名]  
              -f 関連イベント発行定義ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-f 関連イベント発行定義ファイル名

関連イベント発行定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。

## 戻り値

0	関連イベント発行定義の変更に成功した
1	関連イベント発行定義の変更に失敗した
2	関連イベント発行サービス（統合監視 DB を使用しない場合）、またはイベント基盤サービス（統合監視 DB を使用する場合）との通信がタイムアウトした
100	実行権限エラー（Windows 限定）
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了（システムエラー）

## 使用例

物理ホスト (hostP) の関連イベント発行定義を、関連イベント発行定義ファイル (/tmp/teigil.conf) に定義した内容に変更する場合

入力値

```
jcoegschange -f /tmp/teigil.conf
```

結果

```
KAJV3201-I 関連イベント発行定義ファイル (/tmp/teigil.conf) を読み込み、hostPの関連イベント発行機能に反映しました
```

関連イベント発行機能に対して、関連イベント発行定義が 1 件も設定されていない場合でも同様の出力結果になります。

# jcoegscheck

---

## 機能

相関イベント発行定義ファイルの定義内容をチェックするコマンドです。

相関イベント発行定義ファイル内の定義不正や、冗長な定義内容をチェックアウトします。

## 形式

`jcoegscheck -f 相関イベント発行定義ファイル名`

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

`-f 相関イベント発行定義ファイル名`

相関イベント発行定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。

## 戻り値

0	相関イベント発行定義ファイルの定義内容が正常だった
1	相関イベント発行定義ファイルの定義内容が不正だった
100	実行権限がない（Windows 限定） root に対してだけ実行権限を与える（UNIX 限定）
101	引数エラー
255	その他の異常終了（システムエラー）

## 使用例

物理ホスト（`hostP`）で相関イベント発行定義ファイル（`/tmp/teigi1.conf`）の定義内容をチェックする場合

入力値

```
jcoegscheck -f /tmp/teigi1.conf
```

結果（定義内容が正常だった場合）

KAJV3311-I 関連イベント発行定義ファイル（/tmp/teigi1.conf）の内容  
をチェックします

KAJV3312-I 関連イベント発行定義ファイル（/tmp/teigi1.conf）の内容  
に誤りは見つかりませんでした

結果（定義内容に不正があった場合）

KAJV3311-I 関連イベント発行定義ファイル（/tmp/teigi1.conf）の内容  
をチェックします

KAJV3313-E 関連イベント発行定義に不正な定義があります

KAJV3314-E 関連イベント発行定義ファイル（/tmp/teigi1.conf）の記載  
内容に間違いがあります。行番号：5 不正内容：発行条件名が指定されていま  
せん

KAJV3314-E 関連イベント発行定義ファイル（/tmp/teigi1.conf）の記載  
内容に間違いがあります。行番号：25 不正内容：一つの関連イベント発行条件  
に指定されているイベント条件数が最大数を超過しています

## jcoegsstart

---

### 機能

関連イベント発行機能の状態を、機能停止から関連稼働に移行します。関連イベント発行機能は関連稼働状態になると、関連イベント発行定義に従って処理を開始します。

jcoegsstart コマンドは、関連イベント発行機能の状態を jcoegsstop コマンドで機能停止にしたあとにだけ使用します。停止している関連イベント発行機能の起動はできません（サービスの起動および停止は、プロセス管理 (jco\_spmd) によって制御されます）。

jcoegsstart コマンドで状態の移行に成功すると、JP1 イベント (00003F25) が発行されます。JP1 イベント (00003F25) については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

jcoegsstart コマンドの実行時に関連イベント発行機能が関連稼働状態だった場合、状態は変更されません。

### 形式

```
jcoegsstart [-h 論理ホスト名]
```

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jp1cons/bin/
```

### 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 戻り値

0	関連イベント発行機能の再開に成功した
1	関連イベント発行機能の再開に失敗した
2	関連イベント発行機能との通信がタイムアウトした
100	実行権限がない (Windows 限定) UNIX の場合は、root に対してだけ実行権限を与える
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了 (システムエラー)

## 使用例

物理ホスト (hostP) の関連イベント発行機能を再開する場合

入力値

```
jcoegsstart
```

結果

```
KAJV3291-I hostPの関連イベント発行機能を再開しました
```

# jcoegsstatus

---

## 機能

相関イベント発行機能の状態，および起動オプションを表示するコマンドです。オプションの指定によって，現在使用している相関イベント発行定義，および相関イベント発行定義を反映した日時を表示することもできます。

## 形式

```
jcoegsstatus [-h 論理ホスト名]
              [-d]
```

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に，論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合，環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合，物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-d

-d オプションを指定すると相関イベント発行機能の状態，および起動オプションに加えて，現在使用している相関イベント発行定義，および jcoegsstatus コマンドでの相関イベント発行定義の反映日時を表示します。

-d オプションを指定した jcoegsstatus コマンドは jcoegschange コマンドと同時に実行できません。

## 出力形式

Windows および UNIX (環境変数 LANG が C 以外) の場合

jcoegsstatus コマンドを実行すると、関連イベント発行機能の状態は次の形式で表示されます。

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
  関連イベント発行機能      : 状態
  起動オプション            : 起動オプション
```

-d オプションを指定した場合は次の形式で表示されます。

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
  関連イベント発行機能      : 状態
  起動オプション            : 起動オプション
```

```
KAJV3281-I hostPの関連イベント発行定義を表示します
  ファイル名 : ファイルの絶対パス
  反映日時  : YYYY/MM/dd hh:mm:ss
```

```
VERSION=0002
# コメント
[発行条件名]
TARGET=関連の対象範囲の絞り込み条件
CON=イベント条件
SAME_ATTRIBUTE=同一属性値条件
CORRELATION_NUM=同時相関数
TIMEOUT=タイムアウト時間
TYPE=イベント相関タイプ
SUCCESS_EVENT=関連イベント情報
```

UNIX (環境変数 LANG が C) の場合

jcoegsstatus コマンドを実行すると、関連イベント発行機能の状態は次の形式で表示されます。

```
KAJV3261-I The status of the correlation event generation service
for ホスト名 will now be displayed.
Correlation event generation function : 状態
Start option                          : 起動オプション
```

-d オプションを指定した場合は次の形式で表示されます。

```
KAJV3261-I The status of the correlation event generation service
for ホスト名 will now be displayed.
Correlation event generation function : 状態
Start option                          : 起動オプション
```

```
KAJV3281-I The correlation event generation definition for ホス
ト名 will now be displayed.
File name : ファイルの絶対パス
Reflection time : YYYY/MM/dd hh:mm:ss
```

```
VERSION=0002
# コメント
[発行条件名]
TARGET=関連の対象範囲の絞り込み条件
CON=イベント条件
```

1. コマンド  
jcoegsstatus

SAME\_ATTRIBUTE=同一属性値条件  
CORRELATION\_NUM=同時相関数  
TIMEOUT=タイムアウト時間  
TYPE=イベント相関タイプ  
SUCCESS\_EVENT=相関イベント情報

状態に表示される文字列について次に説明します。

表 1-23 状態に表示される文字列

状態に表示される文字列	動作状態	説明
STARTING	起動処理中	相関イベント発行機能が起動処理を実行している状態。
RUNNING	相関稼働	相関イベント発行機能が起動しており、相関イベントの発行処理ができる状態。 次の場合にこの状態となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>相関イベント発行機能が起動した場合。</li> <li>相関イベント発行機能の状態が機能停止で、 jcoegsstart コマンドを実行した場合。</li> </ul>
STANDBY	機能停止	相関イベント発行機能は起動しているが、相関イベントの発行処理が停止している状態。 機能停止中に発生した JP1 イベントに対して相関イベントの発行処理はしない。 また、機能停止から相関稼働になった場合でも、機能停止中に発生した JP1 イベントに対して相関イベントの発行処理はしない。 備考 機能停止前に発行処理中だった相関イベントは機能停止後に不成立になる。
STOPPING	停止処理中	相関イベント発行機能が停止処理をしている状態。
STOP	停止	相関イベント発行機能が停止している状態。

起動オプションに表示される文字列について次に説明します。

表 1-24 起動オプションに表示される文字列

起動オプションに表示される文字列	起動オプション	説明
cold	cold スタート	前回停止時に相関イベントの発行処理中であった情報を引き継がない。
warm	warm スタート	前回停止時に相関イベントの発行処理中であった情報を引き継ぐ。

相関イベント発行定義ファイルの形式については、「相関イベント発行定義ファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。

## 戻り値

0	状態の表示に成功した
1	状態の表示に失敗した
2	関連イベント発行機能との通信がタイムアウトした
100	コマンドを実行する権限がない ( Windows Server 2008 限定 )
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了 ( システムエラー )

## 使用例 1

物理ホスト ( hostP ) の関連イベント発行機能の状態を表示する場合 ( 状態 : 関連稼働 , 起動オプション : cold )

入力値

```
jcoegsstatus
```

結果

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
関連イベント発行機能      : RUNNING
起動オプション            : cold
```

## 使用例 2

物理ホスト ( hostP ) の関連イベント発行機能の状態および関連イベント発行定義を表示する場合 ( 状態 : 関連稼働 , 起動オプション : cold )

入力値

```
jcoegsstatus -d
```

結果

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
関連イベント発行機能      : RUNNING
起動オプション            : cold
```

```
KAJV3281-I hostPの関連イベント発行定義を表示します
ファイル名      : /tmp/teigil.conf
反映日時       : 2005/11/05 20:35:30
```

```
VERSION=2
[CONDITION]
TARGET=B.SOURCESERVER==host1;host2;host3
CON=CID:1, B.ID==100,
E.SEVERITY==Emergency;Critical;Alert;Error
SAME_ATTRIBUTE=B.SOURCESERVER
CORRELATION_NUM=20
SUCCESS_EVENT=B.ID:A00, E.SEVERITY:Emergency,
B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

### 使用例 3

物理ホスト (hostP) の関連イベント発行機能の状態および関連イベント発行定義を表示する場合 (状態: 機能停止, 起動オプション: warm)

なお, 次の条件がある。

- JP1/IM - Manager の新規インストール時  
    関連イベント発行定義ファイルが設定されていないため, KAJV3283-I が出力される。

入力値

```
jcoegsstatus -d
```

結果

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
関連イベント発行機能      : STANDBY
起動オプション            : warm
```

```
KAJV3283-I hostPの関連イベント発行定義は定義されていません
```

### 使用例 4

物理ホスト (hostP) の関連イベント発行機能の状態および関連イベント発行定義を表示する場合 (状態: 停止 (プロセスダウン), 起動オプション: cold)

入力値

```
jcoegsstatus -d
```

結果

```
KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します
関連イベント発行機能      : STOP
起動オプション            : cold
```

```
KAJV3281-I hostPの関連イベント発行定義を表示します
ファイル名   : /tmp/teigi1.conf
反映日時    : 2005/11/05 20:35:30
```

```
VERSION=2
[CONDITION]
TARGET=B.SOURCESERVER==host1;host2;host3
CON=CID:1, B.ID==100,
E.SEVERITY==Emergency;Critical;Alert;Error
SAME_ATTRIBUTE=B.SOURCESERVER
CORRELATION_NUM=20
SUCCESS_EVENT=B.ID:A00, E.SEVERITY:Emergency,
B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

### 使用例 5

イベント関連機能の起動時に不正な関連イベント発行定義ファイルを読み込んだ場合

入力値

```
jcoegsstatus -d
```

結果

KAJV3261-I hostPの関連イベント発行サービスの状態を表示します  
関連イベント発行機能 : RUNNING  
起動オプション : cold

KAJV3281-I hostPの関連イベント発行定義を表示します  
ファイル名 : /tmp/teigi1.conf  
反映日時 : 2005/11/05 20:35:30

KAJV3285-I hostPの関連イベント発行定義に不正があるため、不正な関連イベント発行条件を無視して動作しています

[CONDITION]

CON=CID:1, B.ID==ZZZ . . . メッセージIDが不正  
SUCCESS\_EVENT=B.ID:A00, E.SEVERITY:Emergency,  
B.MESSAGE:\$EV1\_B.MESSAGE

# jcoegsstop

---

## 機能

関連イベント発行機能の状態を、関連稼働から機能停止に移行します。関連イベント発行機能は機能停止状態になると、関連イベントの発行処理を停止します。

jcoegsstop コマンドは、関連イベント発行機能を停止させずに、関連イベントの発行処理だけを休止したい場合に使用します。なお、関連イベント発行機能の状態を関連稼働に戻したい場合、jcoegsstart コマンドを実行するか、JP1/IM - Manager を再起動してください。

jcoegsstop コマンドで状態の移行に成功すると、JP1 イベント (00003F26) が発行されます。JP1 イベント (00003F26) については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

## 形式

jcoegsstop [-h 論理ホスト名]

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 注意事項

- 関連イベントの発行処理中にこのコマンドを実行した場合、発行処理中の関連イベントはすべて不成立になります。
- 関連イベント発行機能の状態が機能停止の間に発行された JP1 イベントは、関連イベントの発行処理の対象外になります。

- jcoegsstop コマンドの実行時に相関イベント発行機能が機能停止状態だった場合、状態は変更されません。

## 戻り値

0	相関イベント発行機能の停止に成功した
1	相関イベント発行機能の停止に失敗した
2	相関イベント発行機能との通信がタイムアウトした
100	実行権限がない (Windows 限定) UNIX の場合は、root に対してだけ実行権限を与える
101	引数エラー
102	通信エラー
255	その他の異常終了 (システムエラー)

## 使用例

物理ホスト (hostP) の相関イベント発行機能を停止する場合

入力値

```
jcoegsstop
```

結果

```
KAJV3301-I hostPの相関イベント発行機能を停止しました
```

## jcoevtreport

### 機能

統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を CSV 形式にしてファイルに出力するコマンドです。このコマンドは、複数を同時に実行できません。

jcoevtreport コマンドは、統合監視 DB を無効にしている場合またはセントラルコンソールが停止している場合でも、IM データベースサービスが起動していれば、JP1 イベントの情報を CSV 形式にしてファイルに出力することができます。

CSV の出力形式については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.11.2 統合監視 DB のイベント情報を保管 ( イベントレポート出力 )」を参照してください。

定義を誤った場合や、ファイルサイズの最大値を超えた場合などのエラー情報は、標準エラー出力に出力されます。

出力する機能の説明を次の表に示します。

機能	説明
イベントレポート出力	統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を CSV 形式にしてファイルに出力する機能
保守情報出力	統合監視 DB で障害が発生した場合に出力対象始点日から出力対象終点日までに登録された JP1 イベントのすべての情報をイベントレポート出力する機能
保存出力	統合監視 DB から JP1 イベントの情報が削除される前に、イベントレポート出力を利用して保存する機能
保存出力状態表示	統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合 ( 統合監視 DB の最大容量との比率 ) と容量、および削除警告通知位置を表示する機能

### 形式

#### イベントレポート出力

```
jcoevtreport [ -h 論理ホスト名 ]  
[ -o 出力ファイル名 ]  
-s 出力対象始点日 -e 出力対象終点日  
[ -user ]  
[ -f イベントレポート出力のフィルターファイル名 ]  
[ -k 項目ファイル名 ]  
[ -t {ON|OFF} ]  
[ -a {EVTATTR|DISP} ]
```

#### 保守情報出力

```
jcoevtreport [ -h 論理ホスト名 ]  
[ -o 出力ファイル名 ]  
-s 出力対象始点日 -e 出力対象終点日
```

`-sys`

### 保存出力

```
jcoevtreport [ -h 論理ホスト名]
              [ -o 出力ファイル名]
              -save
              [ -t {ON|OFF}]
              [ -a {EVTATTR|DISP}]
```

### 保存出力状態表示

```
jcoevtreport [ -h 論理ホスト名]
              -showsv
```

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Consoleパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplcons/bin/
```

### 引数

`-h 論理ホスト名`

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定された論理ホストで稼働している統合監視 DB から JP1 イベントの情報を取得し、イベントレポート出力、保守情報出力、保存出力、または保存出力状態表示をします。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

`-o 出力ファイル名`

統合監視 DB から取得した JP1 イベントの情報を CSV 形式にして出力するファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。

ファイル名が「-」で始まるファイルを指定する場合は、オプション指定との区別をするため、「-」で始まらないように、ディレクトリを含む相対パス（「./-hoge」など）や絶対パス形式で指定してください。指定できるファイル名は、パスを含めて 250 バイト以内です。

ただし、Windows の場合、次に示す文字列はファイル名には指定できません。

## 1. コマンド jcoevtreport

- 「:」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」の文字。
- CON, PRN, AUX, NUL, COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9 のどれかと完全一致する（小文字も含む）文字列。

指定した出力ファイル名と実際に作成されるファイル名の関係を次に示します。

統合監視 DB のイベント情報が CSV 形式で「出力ファイル名\_通し番号.csv」が出力されます。通し番号は、000 から 999 までの数字です。1 ファイルに出力するイベントの情報は最大 50,000 件です。すでに同じファイル名が存在する場合は、上書きしないで、存在しない番号まで繰り返して作成します。オプションを省略した場合は、カレントディレクトリに jcoevtreport\_通し番号.csv が出力されます。

カレントディレクトリ（「.」）やルートディレクトリ（「/」）をファイル名に指定した場合、次の対処となります。

-o の引数	Windows	UNIX
.	カレントに「_xxx.csv」が作成される。	カレントに「_xxx.csv」が作成される。
/	ルートに「_xxx.csv」が作成される。	ルートに「_xxx.csv」が作成される。
""(空文字)	カレントに「_xxx.csv」が作成される。	引数不足エラー。

### -s 出力対象始点日

出力するイベントの始点日を指定します。

指定形式は YYYYMMDDhhmmss で指定します。

指定可能な日時の範囲は、( GMT ) 1970/01/01 00:00:00 ~ 2038/01/19 03:14:07 です。コマンド実行ホストのタイムゾーンが日本時間の場合、( GMT+9:00 ) 1970/01/01 09:00:00 ~ 2038/01/19 12:14:07 となります。

### -e 出力対象終点日

出力するイベントの終点日を指定します。

指定形式は YYYYMMDDhhmmss で指定します。

指定可能な日時の範囲は、-s オプションと同じです。

### -k 項目ファイル名

イベントレポート出力時に出力項目定義ファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。

ファイル名が「-」で始まるファイルを指定する場合は、オプション指定との区別をする

ため、「-」で始まらないように、ディレクトリを含む相対パス（「./-hoge」など）、または絶対パス形式で指定してください。

-f イベントレポート出力のフィルターファイル名

イベントレポート出力のフィルターファイル名を、相対パスまたは絶対パス形式で指定します。

ファイル名が「-」で始まるファイルを指定する場合は、オプション指定との区別をするため、「-」で始まらないように、ディレクトリを含む相対パス（「./-hoge」など）、または絶対パス形式で指定してください。

イベントレポート出力のフィルターファイルの形式については、「イベントレポート出力のフィルターファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。

-t {ON|OFF}

登録時刻、到着時刻、および拡張属性の共通情報の START\_TIME と END\_TIME を通算秒でなく YYYYMMDDhhmmss 形式で出力します。

- ON：登録時刻、到着時刻、および拡張属性の共通情報の START\_TIME と END\_TIME を 1970 年 1 月 1 日からの通算秒の表記から YYYYMMDDhhmmss の西暦表示に変換したい場合に指定します。
- OFF：西暦表示に変換しない場合に指定します。

このオプションの指定は、項目ファイルの指定より優先されます。

ON または OFF は、大文字小文字を区別しません。

-a {EVTATTR|DISP}

ヘッダーの出力形式を指定します。-a オプションを省略した場合、ヘッダーは出力しません。

EVTATTR を指定すると表示形式が属性名（B.ID や E.SEVERITY など）で出力し、DISP を指定すると項目（イベント ID や重大度など）で出力します。

EVTATTR または DISP は、大文字小文字を区別しません。

-user

統合監視 DB に登録している JP1 イベントをイベントレポート出力します。

-user オプションは、省略できます。

-user オプションを指定しなくても、-sys、-save、-showsv を指定していなければイベントレポート出力を指定していることになります。

## 1. コマンド jcoevtreport

-sys

統合監視 DB に登録している JP1 イベントを保守情報出力します。

-save

統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントをすべて保存出力します。

-showsv

統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）と容量，および，削除警告通知位置を表示します。

### 戻り値

0	正常終了
1	オプション・引数不正
2	フィルター不正
3	項目ファイル不正
4	レポート出力処理エラー
5	実行権限エラー（Windows 限定）
6	同時実行エラー
7	出力ファイルの通し番号が上限値に達した
101	統合監視 DB がセットアップされていない
102	IM データベースサービスが起動していない
103	IM データベースサービスとの接続エラーが発生した
254	メモリー不足が発生した
255	システムエラー

### 使用例 1

2008/06/01 12:00:00 ~ 2009/01/01/00:00:00 の間にマネージャーに到着したイベントを対象にレポート出力する場合

```
jcoevtreport -s 20080601120000 -e 20090101000000 -user
```

### 使用例 2

出力先を「report\_xxx.csv」に指定して 2009/07/08 08:45:00 ~ 2009/07/14 17:15:00 の JP1 イベントをイベントレポート出力する場合

```
jcoevtreport -s 20090708084500 -e 20090714171500 -o report
```

### 使用例 3

出力先を「report\_xxx.csv」に指定して 2009/07/08 08:45:00 ~ 2009/07/14 17:15:00 の

JP1 イベントを保守情報出力する場合

```
jcoevtreport -sys -s 20090708084500 -e 20090714171500 -o report
```

#### 使用例 4

出力先を「report\_xxx.csv」に指定して保存出力する場合

```
jcoevtreport -save -o report
```

#### 使用例 5

保存出力状態を表示する場合

```
jcoevtreport -showsv
```

# jcofuncfcheck

---

## 機能

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのアプリケーション実行定義ファイルおよび統合機能メニュー定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。

解析結果は次の形式で出力されます。

```
Function tree definition
  ツリー階層 "表示文字列" [, "実行コマンドパス"]
```

```
Function toolbar definition
  row = 列
  "表示文字列" [, "実行コマンドパス"]
```

## 注

「Function toolbar definition」以降の部分は、統合機能メニュー定義ディレクトリとして次のディレクトリが指定された場合にだけ表示されます。

```
Viewパス¥conf¥function¥ja
または
Viewパス¥conf¥function¥en
```

解析結果には、システムで定義するアプリケーション実行定義識別子（セントラルコンソールで使用するデフォルトの WWW ブラウザー定義である「"default\_browser"」）および統合機能メニュー識別子（機能ツリーの最上位ノードを表す「"root"」）が含まれません。

## 形式

```
jcofuncfcheck アプリケーション実行定義ディレクトリ名
               統合機能メニュー定義ディレクトリ名
```

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

```
View パス ¥bin¥
```

## 引数

アプリケーション実行定義ディレクトリ名

チェックの対象となるアプリケーション実行定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名は指

定できません。

#### 統合機能メニュー定義ディレクトリ名

チェックの対象となる統合機能メニュー定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名は指定できません。

#### 使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

#### アプリケーション実行定義ファイル

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";
@define-block type="application-execution-def";
id="notepad";
path="C:¥winnt¥system32¥notepad.exe";
@define-block-end;
@define-block type="application-execution-def";
id="dmp";
path="[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥0521/
A¥PathName¥Path00]¥bin¥DMPSTS.exe";
@define-block-end;
```

#### 統合機能メニュー定義ファイル

```
@file type="function-definition", version="0300";
@define-block type="function-tree-def";
id="node1";
parent_id="root";
name="ノード1";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node11";
parent_id="node1";
name="ノード11";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%¥image¥1206.gif";
execute_id="default_browser";
args="http://";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node2";
parent_id="root";
name="ノード2";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%¥image¥1206.gif";
execute_id="notepad";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node3";
parent_id="root";
name="ノード3";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%¥image¥1206.gif";
execute_id="dmp";
@define-block-end;
```

## 1. コマンド

jcfuncfcheck

解析結果は次のよう出力されます。

```
Function tree definition
"統合管理"
  "ノード1"
    "ノード11", "C:¥Program
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
    "ノード2", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"
    "ノード3", "C:¥NETMDMP¥bin¥DMPSTS.exe"
Function toolbar definition
row=1
  "ノード11", "C:¥Program
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
  "ノード2", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"
```

# jcogencore

## 機能

JP1/IM - Manager のプロセスで障害が発生したときに、ダンプを出力するためのコマンドです。なお、セントラルスコープサービス (jcsmain) および IM 構成管理サービス (jcfmain) は除きます。また、jcogencore コマンドを実行した場合は、JP1/IM - Manager を再起動する必要があります。

- Windows の場合

JP1/IM - Manager の evtcon, jcdmain および evgen プロセスで障害が発生したときにこのコマンドを実行してください。

- UNIX の場合

JP1/IM - Manager の evflow, jcamain, evtcon, jcdmain および evgen プロセスで障害が発生したときにこのコマンドを実行してください。

障害の検知手段としては JP1/IM - Manager のヘルスチェック機能を利用します (ヘルスチェック機能については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「7.2 JP1/IM - Manager のヘルスチェック機能」参照)。

jcogencore コマンドを実行すると、どのプロセスの障害資料を出力するか問い合わせメッセージが表示されます。障害が発生したプロセスの資料を出力するようにします。jcogencore コマンドを実行することで出力されるファイルを次の表に示します。

表 1-25 出力されるファイル

OS	プロセス名	出力されるファイルの名称	
		Java スレッドダンプ	コアダンプ
Windows	evflow	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt	-
	jcamain	-	-
	evtcon <sup>1</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt	-
	jcdmain <sup>1</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt	-
	evgen <sup>1, 2</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt	-

1. コマンド  
jcojengcore

OS	プロセス名	出力されるファイルの名称	
		Java スレッドダンプ	コアダンプ
UNIX	evflow	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt <sup>3</sup>	core.evflow
	jcmain	-	core.jcmain
	evtcon <sup>1</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt <sup>3</sup>	core.evtcon
	jcdmain <sup>1</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt <sup>3</sup>	core.jcdmain
	evgen <sup>1, 2</sup>	javacore プロセス ID.XXXXXXXXXX.txt <sup>3</sup>	core.evgen

(凡例)

XXXXXXXXXX : OS が自動で割り当てる一意の ID

- : 出力しない

注 1

evtcon, jcdmain および evgen は機能名です。

注 2

統合監視 DB を使用しない場合に使用される機能名です。

注 3

HP-UX (IPF) の場合, Java スレッドダンプは出力されません。

出力されたファイルは, 次のフォルダに格納されます。

Windows の場合

物理ホスト : Console パス ¥log¥

論理ホスト : 共有ディスク ¥jplcons¥log¥

UNIX の場合

物理ホスト : /var/opt/jplcons/log/

論理ホスト : 共有ディスク /jplcons/log/

出力したスレッドダンプおよびコアダンプは, 資料採取ツールを使って, ほかの障害資料と合わせて採取してください。

また, このコマンドを実行したあとは, JP1/IM - Manager の再起動が必要です。

• Windows の場合

物理ホスト : コマンドを実行したあと, [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で「JP1/IM-Manager サービス」を停止し, 再起動してください。再起動後に, jco\_spmd\_status コマンドでプロセスの起動状況を確認してください。

論理ホスト : コマンドを実行したあと, [コントロールパネル] - [管理ツール] -

[ サービス ] で「JP1/IM-Manager サービス」を停止し、再起動してください。クラスタソフトで「JP1/IM-Manager サービス」を監視している場合は、クラスタソフトでサービスを再起動するか、フェールオーバーしてください。

- UNIX の場合

物理ホスト：コマンドを実行したあと、指定したプロセスが強制的に停止します。一度、`jco_stop` コマンドですべてのプロセスを停止し、`jco_start` コマンドで再起動してください。再起動後に、`jco_spmd_status` コマンドでプロセスの起動状況を確認してください。

論理ホスト：コマンドを実行したあと、指定したプロセスが強制的に停止します。一度、`jco_stop.cluster` コマンドですべてのプロセスを停止し、`jco_start.cluster` コマンドで再起動してください。クラスタソフトで JP1/IM-Manager を監視している場合は、クラスタソフトで JP1/IM-Manager を再起動するか、フェールオーバーしてください。

## 形式

`jcogencore [-h 論理ホスト名]`

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストの JP1/IM-Manager プロセスのスレッドダンプ、またはコアダンプを出力します。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 注意事項

- UNIX の場合、`jcogencore` コマンドを実行すると、ダンプ出力後に指定したプロセスは強制的に停止します。プロセスがハングアップしたとき以外には実行しないでください。プロセスのハングアップはヘルスチェックで検知できます。

## 1. コマンド

### jcogencore

なお、クラスタシステムで運用中に jcogencore コマンドを実行する場合は、注意してください。

- UNIX でこのコマンドを実行する場合には、実行前にご使用のマシンの空き容量を確認してください。5 プロセス分のコアダンプを出力した場合、コアダンプの容量は合計で最大 8,419 メガバイトになる場合があります。
- 複数のプロセスで障害が発生した場合は、イベントコンソールサービス (java)、アクション実行サービス (jcamain)、イベント基盤サービス (evflow) の順にコマンドを実行してください。

なお、インシデント登録サービス (jcdmain) および関連イベント発行機能 (evgen) はほかのプロセスと依存関係がないため、コマンドの実行順序は任意です。

### 戻り値

0	正常終了
1	オプション・引数解析エラー
2	プロセスチェックエラー
3	論理ホストエラー
4	実行権限エラー (Windows 限定)
5	パイプ作成エラー (Windows 限定)
6	スレッドダンプ出力処理エラー
10	その他のエラー

### 使用例 1

Windows で、物理ホストのイベントコンソールサービス (java) プロセスがハングアップした場合

```
jcogencore
```

### 使用例 2

Windows で、論理ホスト hostA のイベントコンソールサービス (java) プロセスがハングアップした場合

```
jcogencore -h hostA
```

### 使用例 3

UNIX で、物理ホストのイベントコンソールサービス (java) プロセスがハングアップした場合

```
/opt/jp1cons/bin/jcogencore
```

### 出力例

UNIX で、物理ホストのイベントコンソールサービス (java) プロセスがハングアップ

し、コアダンプおよびスレッドダンプを出力する場合

```
      ProcessName  PID
[1] : evflow      1234
[2] : jcamain     94320
[3] : evtcon      3333
[4] : evgen       65654
[5] : jcdmain     368828
[6] : Exit
KAVB8427-I When outputting dumps for the three processes evflow,
jcamain, and evtcon at the same time, output the dumps in order of
evtcon, jcamain, and evflow.
KAVB8417-I Please enter a number for the process to output the core
dump file [1-6]:3
KAVB8414-I The thread dump output request has been sent.
KAVB8407-I When the core dump is output, evtcon will stop. Is this
OK? (y/n):y
KAVB8406-I The core dump file will be output.
KAVB8416-I The core dump file has been output.
```

# jcohcctest

## 機能

JP1/IM - Manager のヘルスチェック機能で使用するヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf) の定義が正しく実行されるかをテストするコマンドです。ヘルスチェック定義ファイルに従い、通知コマンドの実行テストができます。

jcohcctest コマンドは、JP1/IM - Manager が起動中にだけ実行できます。

ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf) を変更した場合は、jcohcctest コマンドを実行する前に、jco\_spmd\_reload コマンドなどでヘルスチェック定義ファイルの設定を有効にする必要があります。

ヘルスチェック定義ファイルで指定した変数 (HCHOST, HCFUNC, HCPNAME, HCPID, HCDATE, および HCTIME) は、jcohcctest コマンドでのテスト時には次のように表示されます。

表 1-26 jcohcctest コマンド実行時に表示される値

変数名	jcohcctest コマンド実行時に表示される値
HCHOST	物理ホスト名、または -h オプションで指定した論理ホスト名
HCFUNC	evflow
HCPNAME	evflow
HCPID	evflow のプロセス ID
HCDATE	通知コマンドの実行日付 (YYYY/MM/DD)
HCTIME	通知コマンドの実行時刻 (hh:mm:ss)

ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf) については、「ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)」(2. 定義ファイル) を参照してください。

## 形式

jcohcctest [-h 論理ホスト名]

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホスト用のヘルスチェック定義ファイルで設定した通知コマンドをテストします。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	論理ホストが存在しない
3	通知コマンド実行失敗
7	実行権限エラー（Windows 限定）
10	その他のエラー

## jcoimdef

---

### 機能

JP1/IM - Manager のシステム環境を設定，または設定値を参照します。

また，各機能の前提条件を正しく満たしているかチェックします。前提条件を満たしていない場合，エラーメッセージが表示されます。

このコマンドを実行すると設定内容が標準出力に出力されます。

なお，`-i` オプションを指定して有効になる設定値については，`-i` オプションの説明を参照してください。

### 形式

```
jcoimdef [-r EXE | OUTPUT | OFF]
          [-b イベント取得位置]
          [-s ON | OFF]
          [-n ON | OFF]
          [-egs ON | OFF]
          [-rulehost ホスト名]
          [-ruleuser ユーザー名]
          [-rule ON | OFF]
          [-resevent ON | OFF]
          [-e リトライ間隔]
          [-t タイムアウト時間]
          [-c リトライ回数:リトライ間隔]
          [-o リトライ回数:リトライ間隔]
          [-i]
          [-h 論理ホスト名]
          [-memo ON | OFF]
          [-chsev ON | OFF]
          [-db ON | OFF]
          [-dbntc ON | OFF]
          [-dbntcpos 削除警告通知位置]
          [-cf ON | OFF]
          [-cmdbtn ON | OFF]
          [-hostmap ON | OFF]
          [-bizmonmode ON | OFF]
          [-ignorecasehost ON | OFF]
```

`-resevent` オプションは，BJEX と連携した場合に使用するオプションです。

`-resevent` オプションの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「9.6.1 jcoimdef」を参照してください。

### 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

引数なし

現在の設定内容が、標準出力に一覧表示されます。

表示形式を、次に示します。

設定項目名=設定値

デフォルトの値が設定されている場合にこのコマンドを実行したときの出力内容を次に示します。各設定項目名の設定値は引数指定によって変更ができます。

1. コマンド  
jcoimdef

図 1-1 jcoimdef コマンドの出力形式

<u>F_TIME_TO_GO_BACK=-1</u>	●	イベント取得開始位置 (-bで指定)
<u>F_EVENT_CONNECT_RETRY_INTERVAL=10</u>	●	イベントサービスへ自動的に再接続するリトライ間隔 (-eで指定)
<u>F_DISPATCH_CONNECT_RETRY_COUNT=30</u>	}	イベント配信時の自動再接続へのリトライ回数：リトライ間隔 (-cで指定)
<u>F_DISPATCH_CONNECT_RETRY_INTERVAL=2</u>		
<u>F_DISPATCH_TIME_OUT=60</u>		
<u>F_DISPATCH_RETRY_COUNT=3</u>	}	イベント配信処理の自動再配布へのリトライ回数：リトライ間隔 (-oで指定)
<u>F_DISPATCH_RETRY_INTERVAL=0</u>		
<u>F_CS=OFF</u>	●	セントラルスコープサービスへの配信可否 (-sで指定)
<u>A_REEXECUTE_RUNNING_ACTION=OFF</u>	●	自動アクションサービスへの設定 (-rで指定)
<u>S_JCDMAIN=OFF</u>	●	JP1/IM - Incident Master連携の可否 (-nで指定)
<u>S_EGS=OFF</u>	●	関連イベント発行サービスの起動可否 (-egsで指定)
<u>A_RULE=OFF</u>	●	JP1/IM - Rule Operation連携の可否 (-ruleで指定)
<u>A_RULE_HOST=</u>	●	連携するJP1/IM - Rule Operationのホスト名 (-rulehostで指定)
<u>A_RULE_USER=</u>	●	連携するJP1/IM - Rule Operationを実行するユーザー名 (-ruleuserで指定)
<u>S_RESEVENT=OFF</u>	●	応答待ちイベント管理機能の設定 (-reseventで指定)
<u>S_MEMO=OFF</u>	●	メモ情報の設定機能を設定 (-memoで指定)
<u>S_CHANGE_SEVERITY=OFF</u>	●	重大度レベル変更機能の有効・無効を設定 (-chsevで指定)
<u>S_DB=OFF</u>	●	イベント保管機能の有効・無効を設定 (-dbで指定)
<u>S_DBNTC=OFF</u>	●	削除警告通知イベントを発行するかどうかを設定 (-dbntcで指定)
<u>S_DBNTCPOS=80</u>	●	削除警告通知位置をパーセンテージで設定 (-dbntcposで指定)
<u>S_CF=OFF</u>	●	IM構成管理サービスを起動するかどうかを設定 (-cfで指定)
<u>S_CMDBTN=OFF</u>	●	[コマンド] ボタンを有効にするかどうかを指定 (-cmdtnで指定)
<u>S_HOSTMAP=OFF</u>	●	発生元ホストのマッピング機能を有効にするかどうかを指定 (-hostmapで指定)
<u>S_BIZMONMODE=OFF</u>	●	業務グループの参照・操作制限を有効にするかどうかを指定 (-bizmonmodeで指定)
<u>S_IGNORECASEHOST=OFF</u>	●	ホスト名に関するイベント条件を比較するときに英大文字・小文字を区別するかどうかを指定 (-ignorecasehostで指定)

(凡例) \_\_\_\_ (下線) : デフォルト値を示す。

-r EXE | OUTPUT | OFF

アクション実行サービスに対する設定です。アクション実行サービス起動時に次の状態となっているアクションに対する動作を指定します。

- 送信待機
- 送信待機 (キャンセル中)
- 送信待機 (キャンセル失敗)
- 送信中
- 送信中 (キャンセル中)
- 送信中 (キャンセル失敗)
- キューイング
- キューイング (キャンセル中)
- キューイング (キャンセル失敗)
- 実行中
- 実行中 (キャンセル中)
- 実行中 (キャンセル失敗)

EXE を指定すると、上記の状態となっているアクションを再実行します。該当アクションの状態を jcashowa コマンド、アクション結果画面などで表示した場合、状態名に「-R」が付きます。

OUTPUT を指定すると、上記の状態となっているアクションの一覧をアクション再実行用ファイル (actreaction) に出力します。

該当アクションの状態を jcashowa コマンド、アクション結果画面などで表示した場合、状態名は「終了 -R」と表示されます。

アクション再実行用ファイルには、次の形式でアクションごとに繰り返し出力されます。

```
### 日付 時刻 イベントID イベントDB内通し番号 ### [改行]
[u=実行ユーザー名] [e=環境変数ファイル名] [d=実行先ホスト名]
実行コマンド [改行]
```

注 日付と時刻は再実行機能が動作した時の日付と時刻になります。

OFF を指定すると、上記の状態となっているアクションに対して処理を行わず、その状態のままになります。

-b イベント取得開始位置

JP1/IM - Manager を起動した時に取得するイベントをいつから取得するかを指定します。指定できる値は、-1 ~ 144 です。

-1 を指定すると、JP1/IM - Manager が前回停止したときの状態から処理を続行します。デフォルトでは、-1 が設定されています。

例えば -1 が指定されている状態で、JP1/IM - Manager がイベント DB 内通し番号 12000 のイベントまで受信しており、イベントがイベントバッファにイベント DB 内

## 1. コマンド jcoimdef

通し番号 10001 ~ 12000 (2,000 件) のイベントが格納されているときに JP1/IM - Manager を再起動したときの動作は次のようになります。

- JP1/IM - Manager のイベントバッファ  
前回停止したときにイベントバッファに入っていたイベント ( イベント DB 内通し番号 10001 ~ 12000 ) を再度イベントバッファに格納します。
- 自動アクション  
イベント DB 内通し番号 12000 の次のイベント ( イベント DB 内通し番号 12001 ) から自動アクション処理の対象になります。自動アクション処理とは、イベントとアクション定義とのマッチング処理のことです。

0 を指定すると、JP1/IM - Manager の起動後に登録されたイベントから、取得処理を開始します。

- JP1/IM - Manager のイベントバッファ  
起動後にイベント DB に登録されたイベントがイベントバッファに格納されます。
- 自動アクション  
起動後にイベント DB に登録されたイベントが自動アクション処理の対象になります。

1 ~ 144 を指定すると、JP1/IM - Manager の起動前に登録されたイベントを、指定された時間分さかのぼってイベント DB から取得します。

1 ~ 144 の単位は時間です。例えば、JP1/IM - Manager が起動する 1 時間前にさかのぼって、イベントを取得したい場合、1 を指定します。

- JP1/IM - Manager のイベントバッファ  
起動時刻から指定された時刻をさかのぼり、その時刻以降にマネージャー上のイベント DB に登録されたイベントがイベントバッファに格納されます。
- 自動アクション  
起動時刻から指定された時刻をさかのぼり、その時刻以降にマネージャー上のイベント DB に登録されたイベントが自動アクション処理の対象になります。  
ただし、一度自動アクション処理を行ったイベントは、自動アクション処理の対象にはなりません。つまり、一つのイベントに対して、アクションのマッチング処理は一度だけです。

どの場合でも、セントラルスコープサービスへ配信するイベントは自動アクションと同じになります。

-s ON | OFF

セントラルスコープサービスを起動し、かつセントラルスコープサービスにイベントを配信するようにするかどうかを指定します。

ON を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時にセントラルスコープサービスが起動し、さらにセントラルスコープサービスにイベントが配信されるようになります。また、[ イベントコンソール ] 画面の [ セントラルスコープ起動 ] ボタンおよびメニューが活性と

なります。

OFF を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時にセントラルスコープサービスが起動しないため、セントラルスコープサービスにイベントが配信されるようになりません。また、[ イベントコンソール ] 画面の [ セントラルスコープ起動 ] ボタンおよびメニューが非活性となります。デフォルトは OFF です。

-s の設定を有効にするには、接続中の JP1/IM - View も再起動が必要です。

-n ON | OFF

JP1/IM - Incident Master 連携用のオプションです。インシデント登録サービスを起動するかどうかを指定します。

ON を指定すると、JP1/IM - Manager 起動時にインシデント登録サービスが起動します。

OFF を指定すると、JP1/IM - Manager 起動時にインシデント登録サービスが起動しません。デフォルトは OFF です。

-egs ON | OFF

関連イベント発行機能を有効にするかどうかを指定します。

ON を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時に次の動作をします。

- 統合監視 DB を使用しない場合、関連イベント発行サービスを起動します。
- 統合監視 DB を使用する場合、イベント基盤サービスの関連イベント発行機能を有効にします。

OFF を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時に次の動作をします。

- 統合監視 DB を使用しない場合、関連イベント発行サービスを起動しません。
- 統合監視 DB を使用する場合、イベント基盤サービスの関連イベント発行機能を無効にします。

デフォルトは OFF です。

-rulehost ホスト名

連携する JP1/IM - Rule Operation のホスト名を指定します。システム構成の定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定してください。255 文字以内で、スペース、タブ、および制御文字を除く ASCII 文字で指定してください。また、ホストグループの指定はできません。ホスト名に「"」を指定した場合、空文字（なし）が設定されます。この場合、コマンドを実行しているホストを仮定します。

-ruleuser ユーザー名

連携する JP1/IM - Rule Operation を実行する JP1 ユーザー名を指定します。31 文字以内で、「\* " ' / ¥ [ ] { } ( ) : ; | = , + ? < >」, スペース、タブ、制御文

## 1. コマンド

jcoimdef

字を除く ASCII 文字で指定してください。ユーザー名に「"」を指定した場合、空文字（なし）が設定されます。この場合、次の順に優先して仮定されます。

- 自動アクション環境定義ファイル（action.conf）の "ACTIONEXECUSER" で指定した JP1 ユーザー
- jpladmin

-rule ON | OFF

JP1/IM - View に JP1/IM - Rule Operation 連携用の項目を表示するかどうかを指定します。

ON を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時に、JP1/IM - View に JP1/IM - Rule Operation 連携用の項目を表示する機能が有効になります。

OFF を指定すると、JP1/IM - Manager の起動時に、JP1/IM - View に JP1/IM - Rule Operation 連携用の項目を表示する機能が無効になります。デフォルトは OFF です。

-rule の設定を有効にするには、接続中の JP1/IM - View も再起動が必要です。

-resevent ON | OFF

応答待ちイベント管理機能を有効にするかどうかを指定します。

ON を指定すると、JP1/IM - Manager 全体のイベントへの応答機能が有効になります。

OFF を指定すると、JP1/IM - Manager 全体のイベントへの応答機能が無効になります。デフォルトは OFF です。このコマンドで設定した値は、JP1/IM - Manager を再起動した場合に有効になります。この場合、接続している JP1/IM-View も再起動する必要があります。-i オプションまたは jco\_spmd\_reload コマンドで、応答待ちイベント管理機能の有効・無効は反映できません。

-e リトライ間隔

イベント基盤サービスからイベントサービスへのイベント取得時に、イベントサービスに接続ができなかった、または接続が切断された場合に、自動的に再接続するリトライ間隔を指定します。指定できる値は、1 ~ 86,400（単位：秒）です。イベント基盤サービスに対する設定です。

-t タイムアウト時間

イベント基盤サービスからセントラルスコープサービスまたはイベントコンソールサービスへのイベント配信処理が失敗した場合に、自動的に再配布するリトライ処理のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は、1 ~ 3,600（単位：秒）です。イベント基盤サービスは、セントラルスコープサービスまたはイベントコンソールサービスにイベント配信要求をし、このオプションで指定された時間内に応答がない場合は、応答がない制御に対してイベント配信を停止します。イベント基盤サービスに対する設定です。

**-c** リトライ回数：リトライ間隔

イベント基盤サービスからセントラルスコープサービスまたはイベントコンソールサービスへのイベント配信時に、セントラルスコープサービスまたはイベントコンソールサービスに接続ができなかった、または接続が切断された場合に、自動的に再接続するリトライ処理のリトライ回数とリトライ間隔を指定します。リトライ回数に指定できる値は0～100（単位：回）、リトライ間隔に指定できる値は0～3,600（単位：秒）です。イベント基盤サービスに対する設定です。

**-o** リトライ回数：リトライ間隔

イベント基盤サービスからセントラルスコープサービスまたはイベントコンソールサービスへのイベント配信処理が失敗した場合に、自動的に再配布するリトライ処理のリトライ回数とリトライ間隔を指定します。リトライ回数に指定できる値は0～100（単位：回）、リトライ間隔に指定できる値は0～3,600（単位：秒）です。イベント基盤サービスに対する設定です。

**-i**

各オプションで指定した値を有効にするために、有効にしたいオプションと一緒にこのオプションを指定します。このオプションを指定すると、一緒に指定したオプションで設定された値がイベント基盤サービスおよびアクション実行サービスに読み込まれて、有効になります。

**-i** オプションで直ちに反映できるオプションを次に示します。

- **-rulehost** オプション
- **-ruleuser** オプション
- **-e** オプション
- **-t** オプション
- **-c** オプション
- **-o** オプション
- **-memo** オプション
- **-cmdbtn** オプション

**-h** 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストのJP1/IM-Managerのシステム環境を設定、または設定値を参照します。このオプションを省略した場合、環境変数JP1\_HOSTNAMEに指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数JP1\_HOSTNAMEを指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

**-memo** {ON | OFF}

メモ情報の設定機能を使用するかどうかを指定します。

## 1. コマンド

jcoimdef

統合監視 DB が有効な場合に ON を指定すると、メモ情報の設定機能が有効になります。OFF を指定すると、メモ情報の設定機能が無効になります。統合監視 DB が無効な場合に ON を指定しても、メモ情報の設定機能が無効になります。デフォルトは OFF です。

-chsev {ON | OFF}

重大度変更機能を使用するかどうかを指定します。

統合監視 DB が有効な場合に ON を指定すると、重大度変更機能が有効になります。OFF を指定すると、重大度変更機能が無効になります。統合監視 DB が無効な場合に ON を指定しても、重大度変更機能が無効になります。デフォルトは OFF です。

-db {ON | OFF}

イベント保管機能を使用するかどうかを指定します。

- ON：イベント保管機能が有効になり、統合監視 DB にイベントが保管されます。
- OFF：イベント保管機能が無効になり、統合監視 DB にイベントが保管されません。

統合監視 DB が無効な場合に ON を指定しても、イベント保管機能が無効になります。デフォルトは OFF です。

-dbntc {ON | OFF}

統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）が削除警告通知位置を超えた場合、削除警告通知イベントを発行するかどうかを指定します。

- ON：統合監視 DB 内で保存出力していない JP1 イベントの割合が削除警告通知位置を超えたときに、削除警告通知イベントを発行します。
- OFF：統合監視 DB 内で保存出力していない JP1 イベントの割合が削除警告通知位置を超えても、削除警告通知イベントを発行しません。デフォルトは OFF です。

統合監視 DB が無効な場合に ON を指定しても、統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合が削除警告通知位置を超えていなければ、削除警告通知イベントを発行しません。

-dbntcpos 削除警告通知位置

削除警告通知イベントで通知する、統合監視 DB 内で保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）を % で指定します。

指定できる範囲は 20 ~ 80% です。デフォルト値は 80 です。

例えば、-dbntcpos 70 と指定した場合、削除警告通知位置は 70% になります。

-cf {ON | OFF}

IM 構成管理サービスを起動するかどうかを指定します。

- ON : JP1/IM - Manager の起動時に IM 構成管理サービスを起動します。
- OFF : JP1/IM - Manager の起動時に IM 構成管理サービスを起動しません。デフォルトは OFF です。

-cmdbtn {ON | OFF}

[ コマンド実行 ] 画面の [ コマンド ] ボタンを有効にするかどうかを指定します。

- ON : [ コマンド ] ボタンを有効にします。有効にすると [ コマンド実行 ] 画面に [ コマンド ] ボタンが表示されます。
- OFF : [ コマンド ] ボタンを無効にします。無効にすると [ コマンド実行 ] 画面に [ コマンド ] ボタンは表示されません。デフォルトは OFF です。

-hostmap {ON | OFF}

発生元ホストのマッピングを有効にするかどうかを指定します。

- ON : 発生元ホストのマッピングを有効にします。
- OFF : 発生元ホストのマッピングを無効にします。デフォルトは OFF です。

-bizmonmode {ON | OFF}

業務グループの参照・操作制限を有効にするかどうかを指定します。

- ON : 業務グループの参照・操作制限を有効にします。
- OFF : 業務グループの参照・操作制限を無効にします。デフォルトは OFF です。

-ignorecasehost {ON | OFF}

ホスト名に関するイベント条件を比較するときに英大文字・小文字を区別するかどうかを指定します。

- ON : 英大文字・小文字を区別しません。ただし、比較キーワードに正規表現を使用している場合は区別します。
- OFF : 英大文字・小文字を区別します。デフォルトは OFF です。

このオプションを有効にした場合に、ホスト名の大文字・小文字を区別なくなる機能と属性の対応を次に示します。

表 1-27 機能とイベント条件の対応

機能	属性 ( イベント条件 )
重要イベントフィルターでのフィルタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発行元イベントサーバ名 ( 登録ホスト名 ) ( B.SOURCESERVER )</li> <li>• 発生元ホスト名 ( E.JP1_SOURCEHOST )</li> </ul>

1. コマンド  
jcoimdef

機能	属性（イベント条件）
イベント検索	検索対象が統合監視 DB の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>送信先イベントサーバ名（ B.DESTSERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul> 検索対象がイベント DB の場合 対応しない
イベント取得フィルター（拡張モードの共通除外条件）でのフィルタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
表示フィルターでのフィルタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
ユーザーフィルターでのフィルタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
自動アクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
繰り返しイベントの集約表示	イベント条件を指定できないが、 -ignorecasehost オプションの設定が反映される
関連イベントの発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>送信先イベントサーバ名（ B.DESTSERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
重大度の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>送信先イベントサーバ名（ B.DESTSERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
イベントレポート出力	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>送信先イベントサーバ名（ B.DESTSERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>
発生元ホストのマッピング	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行元イベントサーバ名（登録ホスト名） （ B.SOURCESERVER ）</li> <li>送信先イベントサーバ名（ B.DESTSERVER ）</li> <li>発生元ホスト名（ E.JP1_SOURCEHOST ）</li> </ul>

戻り値

0	正常終了
1	異常終了
7	実行権限エラー（Windows 限定）

## 定義が有効になる契機

オプション	有効になる契機		
	JP1/IM - Manager の再起動時	jco_spmd_reloa d コマンド実行時	-i 指定時
-r		-	-
-b		-	-
-s		-	-
-n		-	-
-egs		-	-
-rulehost			
-ruleuser			
-rule		-	-
-resevent		-	-
-e			
-t			
-c			
-o			
-memo			
-chsev		-	-
-db		-	-
-dbntc			-
-dbntcpos			-
-cf		-	-
-cmdbtn		-	
-hostmap		-	-
-bizmonmode		-	-
-ignorecasehost		-	-

### (凡例)

- : 有効になる。
- : 該当しない。

### 注

接続中の JP1/IM - View の再起動が必要です。

# jcomonitorfcheck

---

## 機能

モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたモニター画面呼び出し定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。定義誤りなどのエラー情報は標準エラー出力に出力されます。

解析結果は、イベント ID 単位に次の形式で出力されます。

プロダクト名, イベントID  
開始バージョン, 終了バージョン  
[サブキー名, キーとなる属性名  
[キーとなる属性値, インターフェース名]]  
[インターフェース名, アプリケーション実行定義識別子,  
コマンド引数, 置き換えイベント属性]

バージョンの指定が「0600」のように一つだけだった場合は、開始バージョンと終了バージョンに同じ値が出力されます。同様に、「ALL」を指定した場合も、開始バージョンと終了バージョンの両方に「ALL」が表示されます。

キー定義「DEF\_KEY」に「SUBKEY」が設定された場合は、サブキーの内容が表示されます。「SUBKEY」は、ほかのキー定義「DEF\_KEY」で使用されている場合でも重複して表示されます。

このコマンドでは、アプリケーション実行定義識別子がアプリケーション実行定義ファイルに定義されているかどうかはチェックしません。

## 形式

jcomonitorfcheck モニター画面呼び出し定義ディレクトリ名

## 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

## 引数

モニター画面呼び出し定義ディレクトリ名

チェックの対象となるモニター画面呼び出し定義ディレクトリ名を、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。

## 使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

```
DESC_VERSION=0300
```

#AJS-View用モニター画面遷移定義ファイル

```
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004102
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004103
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004104
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004105
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004106
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004107
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004108
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004109
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004120
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004121
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004122
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004123
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004124
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004125
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A7
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A8
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A9
INTERFACE=AJS2_MONITOR

DEF_MTR_CALL NAME=AJS2_MONITOR EXEC_ID=jco JP1_AJS2 PATH="-j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/ %IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%"
PARAM=B.SOURCESERVER,E.A0,E.A1,E.A3
```

解析結果は次のようになります。

## 1. コマンド

### jcomonitorfcheck

```
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a9
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4109
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a8
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4108
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a7
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4107
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4106
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4125
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4105
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4124
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
```

```
/HITACHI/JP1/AJS2, 4104
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4123
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4103
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4122
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4102
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4121
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4120
ALL, ALL
    AJS2 MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%:%IM_EVC_PARAMETER_2%/%IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
```

## jcothreaddmp (Windows 限定)

---

### 機能

JP1/IM - View で障害が発生したときに、スレッドダンプを出力するためのコマンドです。

jcothreaddmp コマンドを実行して出力したスレッドダンプは、次のフォルダに格納されます。

Windows Vista の場合

システムドライブ

:¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1\_DEFAULT¥JP1CoView¥log¥

上記以外の OS の場合

View パス ¥log¥

出力したスレッドダンプは、資料採取ツールを使って、ほかの障害情報と合わせて採取してください。

### 形式

jcothreaddmp プロセスID

### 実行権限

なし

### 格納先ディレクトリ

Viewパス¥bin¥

### 引数

プロセス ID

操作ができなくなった JP1/IM - View の java.exe プロセスのプロセス ID を指定します。指定できるプロセス ID は一つだけです。プロセス ID の省略および複数指定はできません。

複数の JP1/IM - View を起動している場合は、タスクマネージャで操作ができなくなった JP1/IM - View のプロセス ID を識別してください。

JP1/IM - View はタスクマネージャ上で java.exe と表示されます。このとき、同時に動作しているほかの java プログラムがあると、同様に java.exe と表示されるため、識別が難しくなります。マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.4.1(2) JP1/IM 用スレッドダンプを出力する」を参照して、操作ができなくなった JP1/IM - View のプロセス ID を識別してください。

## 注意事項

- 正常な JP1/IM - View に対して、jcothreaddmp コマンドを実行した場合は、JP1/IM - View の動作が不安定になることがあります。この場合には、JP1/IM - View を再起動してください。
- WWW ページ版の JP1/IM - View の資料採取  
WWW ページ版の JP1/IM - View で操作ができなくなった場合には、別の手段で資料を採取する必要があります。資料採取については、次を参照してください。
- ダンプの採取前に必要な設定について  
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.16.4 [ Java コンソール ] 画面の表示設定」
- 資料の採取手順について  
参照先 ( Windows )：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.4.1(3) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する」  
参照先 ( UNIX )：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.4.2(3) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する」

## 戻り値

0	正常終了
1	オプションの解析エラー
2	プロセスのチェックエラー
3	スレッドダンプ出力要求の送信エラー
10	その他のエラー

## jcovcfsetup ( Windows 限定 )

---

### 機能

IM 構成管理・ビューアーを起動するメニューを Windows のスタートメニューに登録・削除するコマンドです。なお、IM 構成管理・ビューアーは自動的に Windows のスタートメニューには登録されません。

JP1/IM - View が Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista の場合, [ 管理者として実行 ] から起動したコマンドプロンプト上から実行したときだけ有効となります。

### 形式

```
jcovcfsetup [-i | -u]
```

### 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

### 格納先ディレクトリ

Viewパス¥bin¥

### 引数

オプションを指定しない場合は, -i オプションを指定したときと同じ動作をします。

-i

IM 構成管理・ビューアーを起動するメニューに登録します。

-u

IM 構成管理・ビューアーを起動するメニューを削除します。

ただし、メニューの名称や、格納場所を手動で変更した場合、削除できません。この場合は手動で削除する必要があります。

### 注意事項

コマンドの引数で指定できる最大バイト数は、OS の制限に依存します。コマンドの引数は、各 OS の制限内で指定します。

### 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

### 使用例 1

JP1/IM - View のメニューに , [ 構成管理 ] を追加する場合

```
jcovcfsetupまたはjcovcfsetup -i
```

### 使用例 2

JP1/IM - View のメニューから [ 構成管理 ] を削除する場合

```
jcovcfsetup -u
```

## jcoview ( Windows 限定 )

---

### 機能

JP1/IM - View の画面を起動します。

オプション指定によって次のように起動する画面が異なります。

- JP1/IM - View の [ ログイン ] 画面の起動
  - p , -e オプション以外のオプションを指定した場合 , またはオプション指定なしの場合 , [ ログイン ] 画面が起動します。
  - c オプション指定時 : [ ログイン ] 画面の [ セントラルコンソール ] チェックボックスがチェックされます。
  - s オプション指定時 : [ ログイン ] 画面の [ セントラルスコープ ] チェックボックスがチェックされます。
  - h オプション指定時 : [ ログイン ] 画面の「接続ホスト名」に値が入力されます。
  - u オプション指定時 : [ ログイン ] 画面の「ユーザー名」に値が入力されます。
- JP1/IM - View の [ イベントコンソール ] 画面および [ 監視ツリー ] 画面の起動
  - h , -u , -p オプションを指定した場合 , [ イベントコンソール ] 画面および [ 監視ツリー ] 画面が起動します。 [ イベントコンソール ] 画面および [ 監視ツリー ] 画面を起動する場合 , -h , -u , -p オプションの指定は必須となります。
  - c オプション指定時 : [ イベントコンソール ] 画面が起動します。
  - s オプション指定時 : [ 監視ツリー ] 画面が起動します。
  - c , -s オプション指定なし : [ イベントコンソール ] 画面が起動します。
- JP1/IM - View の [ 監視ツリー ( 編集中 ) ] 画面の起動
  - e オプションを指定した場合 , [ 監視ツリー ( 編集中 ) ] 画面が起動します。

### 形式

```
jcoview [[[-c] [-s] | -m ]  
        [-h 接続ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード]  
        | -e ]
```

### 実行権限

なし

### 格納先ディレクトリ

Viewパス¥bin¥

### 引数

-c

[ イベントコンソール ] 画面を起動します。

パスワード ( -p オプション ) を省略した場合 , [ セントラルコンソール ] チェックボッ

クスがチェックされた状態で,[ ログイン ]画面が起動します。また, -e オプションと同時に指定できません。

このオプションは省略できます。

-h, -u, および -p オプションが指定されていて, かつ, -c, -s, または -e オプションのどれも指定されていない場合は, この -c オプションが指定されているものと仮定されます。

-s

[ 監視ツリー ]画面を起動します。

パスワード (-p オプション) を省略した場合, [ セントラルスコープ ] チェックボックスがチェックされた状態で,[ ログイン ]画面が起動します。また, -e オプションと同時に指定できません。

このオプションは省略できます。

-h 接続ホスト名

接続先ホストのホスト名を指定します。指定できる文字数は, 1 ~ 255 バイトです。JP1/IM - Manager が起動しているホストだけを指定できます。

接続先ホスト名には, 次のものが指定できます。

- コマンドを使用するホストで定義されているホスト名
- コマンドを使用するホストでアドレス解決可能なホスト名
- IP アドレス

このオプションは省略できますが, -p オプションを指定するときは省略できません。

-u ユーザー名

認証サーバに登録してある JP1 ユーザー名を指定します。指定できる文字数は, 1 ~ 31 バイトです。半角英数字 (英字は小文字) だけを使用できます。

このオプションは省略できますが, -p オプションを指定するときは省略できません。

-p パスワード

指定したユーザー名に対応するパスワードを指定します。指定できる文字数は, 6 ~ 32 バイトです。半角英数字だけを使用できます。英字は, 大文字・小文字が区別されます。

このオプションを指定する場合は, -h および -u オプションも指定する必要があります。

このオプションは省略できます。

-e

[ 監視ツリー (編集) ]画面を起動します。

## 1. コマンド

jcoview ( Windows 限定 )

このオプションを指定する場合は、ほかのオプションを指定しないでください。

このオプションは省略できます。

-m

このオプションは、JP1/IM - Central Information Master にログインする場合に指定します。JP1/IM - Manager では使用しません。

また、-c、-s、および -e オプションと同時に指定できません。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス」を参照してください。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	リソースの取得に失敗
4	エラーメッセージの作成に失敗
255	システムエラー

### 使用例 1

JP1/IM - View を起動して、[ ログイン ] 画面を表示します。

```
jcoview
```

### 使用例 2

JP1/IM - View を起動して、[ ログイン ] 画面を表示します。[ ログイン ] 画面の [ 接続ホスト名 ] に host、[ ユーザー名 ] に jpladmin が設定されます。

```
jcoview -h host -u jpladmin
```

### 使用例 3

JP1/IM - View を起動して、ユーザー jpladmin、パスワード jpladmin で接続ホスト host にログインし、[ イベントコンソール ] 画面を起動します。

```
jcoview -h host -u jpladmin -p jpladmin
```

### 使用例 4

JP1/IM - View を起動して、ユーザー jpladmin、パスワード jpladmin で接続ホスト host にログインし、[ 監視ツリー ] 画面を起動します。

```
jcoview -s -h host -u jpladmin -p jpladmin
```

## 使用例 5

JP1/IM・View を起動して、ユーザー `jpladmin`、パスワード `jpladmin` で接続ホスト `host` にログインし、[ イベントコンソール ] 画面および [ 監視ツリー ] 画面を起動します。

```
jcoview -c -s -h host -u jpladmin -p jpladmin
```

## 使用例 6

JP1/IM・View を起動して、[ 監視ツリー (編集) ] 画面を起動します。

```
jcoview -e
```

## 使用例 7

ホストやユーザーごとに、使用例 2 や使用例 3 などのコマンドのショートカットを作成できます。

## 1. コマンド

jcoview\_log.bat (Windows 限定)

# jcoview\_log.bat (Windows 限定)

## 機能

JP1/IM - View で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - View の保守資料, OS のシステム情報, 統合トレースログなどを採取します。

このツールは, バッチファイルです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると, 資料を採取する対象フォルダまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし, 指定した資料格納フォルダの直下に採取した資料が格納されます。

一次資料は, 障害時の切り分けや, 軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は, 一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。Windows イベントログ, クラッシュダンプを採取します。

また, JP1/IM - View のスレッドダンプがある状態で jcoview\_log.bat を実行すると, メッセージ KAVB8946-I を表示してスレッドダンプを削除するかどうかユーザーに問い合わせます。「y」を入力した場合, スレッドダンプを削除します。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

なお, このツールを使って採取できる資料の詳細については, マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

資料格納フォルダの直下に格納された資料のフォルダ構成および資料内容を次に示します。

表 1-28 一次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview	JP1/IM - View のバッチ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥conf	JP1/IM - View の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥default	JP1/IM - View の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥log	JP1/IM - View のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥oslog	OS のログ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥spool	統合トレースログ

注

JP1/IM - Manager および JP1/Base が同一マシン上にインストールされている場合、JP1/IM - Manager および JP1/Base の資料も採取されます。

表 1-29 二次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥oslog	<ul style="list-style-type: none"><li>• Windows イベントログ</li><li>• クラッシュダンプ</li></ul>

注

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 版の JP1/IM - View では、クラッシュダンプは採取しません。

形式

```
jcoview_log.bat -f 資料格納フォルダ  
                [-t]  
                [-u]  
                [-q]
```

実行権限

Windows Server 2003, Windows XP Professional の場合：なし

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合：Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

格納先ディレクトリ

Viewパス¥tools¥

引数

-f 資料格納フォルダ

採取した資料を出力するフォルダ名をフルパスまたはこのコマンドを実行した場所からの相対パス形式で指定します。パスに空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。このオプションは省略できません。

存在しないフォルダを指定した場合は、その名称でフォルダが新規作成されます。すでに存在するフォルダを指定した場合は、いったんそのフォルダを削除してから、指定したフォルダが作成されます。

-t

hosts および services ファイルを採取しない場合に指定します。

-u

クラッシュダンプを採取しない場合に指定します。Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista 版の JP1/IM - View ではこのオプションは使用できません。

## 1. コマンド

jcoview\_log.bat ( Windows 限定 )

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

### 注意事項

- JP1/IM - Manager と同一ホストで、JP1/IM - View の資料を採取する場合は、  
jim\_log.bat コマンドを実行してください。
- このツールを複数同時に実行しないでください。資料が上書きされたり、採取できな  
かったりする場合があります。
- 採取するファイルが見つからない場合、「ファイルが見つかりません」などのメッセ  
ージが表示されることがありますが、対処の必要はありません。

### 戻り値

0	正常終了
8	異常終了

### 使用例

F:¥tmp¥bat フォルダに資料を採取する場合

```
jcoview_log.bat -f F:¥tmp¥bat
```

出力結果は次のようになります。

```
KAVB8925-I The directory does not exists. ("F:¥tmp¥bat")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists.
("F:¥tmp¥bat¥jp1_default¥imm_1st")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists.
("F:¥tmp¥bat¥jp1_default¥imm_2nd")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" command will start.
KAVB8921-I The information for JP1/IM - View will be acquired.
KAVB8922-I The information for JP1/IM - View has been acquired.
KAVB8928-I "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" execution is ended.
(ERRORLEVEL=0)
KAVB8929-I The system information will be acquired. Please wait.
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe" command will start.
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe"
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)
KAVB8922-I The system information has been acquired.
KAVB8929-I "Watson log and crash dump" will be acquired. Please
wait.
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" command will start.
```

KAVB8928-I "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" execution is ended.  
(ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I "Watson log and crash dump" has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(Application) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(Application) has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(System) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(System) has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - Manager will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/Base will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/Base has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/Base will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/Base has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8921-I The integrated trace log will be acquired.  
KAVB8922-I The integrated trace log has been acquired.  
KAVB8921-I The integrated installer log will be acquired.  
KAVB8922-I The integrated installer log has been acquired.  
KAVB8921-I The installer log file will be acquired.  
KAVB8922-I The installer log has been acquired.  
KAVB8921-I The hosts will be acquired.  
KAVB8922-I The hosts has been acquired.  
KAVB8921-I The services will be acquired.  
KAVB8922-I The services has been acquired.  
KAVB8921-I The registry information will be acquired.  
KAVB8922-I The registry information has been acquired.  
KAVB8921-I The netstat information will be acquired.  
KAVB8922-I The netstat information has been acquired.  
KAVB8921-I The ipconfig information will be acquired.  
KAVB8922-I The ipconfig information has been acquired.  
KAVB8921-I The net start information will be acquired.  
KAVB8922-I The net start information has been acquired.  
KAVB8921-I The set information will be acquired.  
KAVB8922-I The set information has been acquired.  
KAVB8918-I The data was successfully acquired.

# jcschstat

---

## 機能

監視ノード（監視オブジェクトまたは監視グループ）の状態を変更します。また、監視ノードの状態変更イベントの履歴をクリアします。監視ノードの監視状態は変更できません。

障害発生時の回復処理としてバッチ処理でこのコマンドを含め、最後の処理として自動実行で監視ノードの状態を初期化したい場合、ヘルプデスクシステムと連携して障害を取り除いたあとに自動実行で監視ノードの状態を初期化したい場合に、使用できます。

このコマンドは、セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) がすでに 32 個のコマンド要求を処理している最中に、このコマンドを実行した場合、サーバ側の通信が切断され、このコマンドの実行に失敗します。

## 形式

```
jcschstat [-h 論理ホスト名]
           [-n 監視ノードID1, 監視ノードID2, 監視ノードID3...]
           [-s 状態値]
           [-i]
           [-t タイムアウト時間]
           [-d]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Scopeパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplscope/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-n 監視ノード ID1, 監視ノード ID2, 監視ノード ID3...

状態変更の対象となる監視ノード ID (監視オブジェクト ID または監視グループ ID) を指定します。監視ノード ID は、16 進数で指定します。

監視ノード ID は複数指定、10 個まで指定できます。複数指定する場合は、コンマ「,」で区切ってください。指定した監視ノードの順に監視ノードの状態が変わります。

-s 状態値

監視ノードの変更後の状態を指定します。状態値は大文字と小文字を区別します。監視オブジェクトは Emergency, Alert, Critical, Error, Warning, Normal, Debug, または Initial を指定できます。監視グループは Initial だけ指定できません。

指定した監視ノードの状態を変更すると、上位ノードへ状態が伝播し、下位ノードを初期化します。

省略した場合、Initial が仮定されます。

-i

監視ノードの状態を変更する際に、確認メッセージを表示させたい場合に指定します。

-t タイムアウト時間

サーバとの通信時のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は、1 ~ 32,767 (単位: 秒) です。デフォルトは 1,800 秒 (30 分) です。

-d

このオプションを指定すると、-n オプションで指定した監視ノードが存在しない場合または監視ノードの状態変更に失敗した場合に、コマンド処理を中断し、エラー終了します。

省略した場合、存在しないまたは状態変更に失敗した監視ノードの処理をスキップし、次の監視ノード以降の処理を続行します。

## 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が存在しない
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
12	メモリー不足
32	データアクセスエラー
33	監視ツリー ID または監視ノード ID が DB 内に存在しない
37	サーバからの応答がない (コネクション要求が失敗した)

## 1. コマンド

jcschstat

38	サーバとの通信が切断された（通信中にサーバが停止した，またはサーバ側の接続数が最大値を超えた）
39	タイムアウトが発生した（サーバに要求送信後，応答を受信するまでにタイムアウト時間を越えた）
40	サーバから不正な応答が送信された
42	ほかのコマンドまたはほかの要求が実行中
43	-n に非監視設定の監視ノードを指定している
44	-n に監視グループを設定している
99	その他のエラー

### 使用例

監視ノード ID 8 の状態を Error に変更します。

```
jcschstat -n 8 -s Error
```

### 出力例

```
jcschstat -n 5 -s Normal  
KAVB7630-I 監視ノード(5)の状態を正常に変更しました
```

# jcsdbexport

---

## 機能

監視オブジェクト DB の保管情報を取得し、ツリー構成ファイルとしてローカルにファイル出力するコマンドです。ファイルに出力される情報は、監視ツリー構成情報、共通イベント監視条件、およびビジュアル監視画面構成情報です。

監視オブジェクト DB で保管情報を複数世代保存する場合に利用できます。また、監視オブジェクト DB の保管情報を別サーバに複製したい場合は、このコマンドを実行したあとに `jcsdbimport` コマンドで別サーバの監視オブジェクト DB に反映することもできます。

このコマンドは、セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

セントラルスコープサービスのデータ更新中にこのコマンドを実行すると、エラー終了します。例えば、[監視ツリー（編集）] 画面からサーバのツリーを更新中の場合や、`jcschstat` コマンドで監視ノードの状態を変更中の場合に、このコマンドを実行するとエラー終了します。

08-10 以降の JP1/IM - Manager で出力したツリー構成ファイルは、08-01 以前の JP1/IM - Manager で読み込むことはできません。

## 形式

```
jcsdbexport [-h 論理ホスト名]
             -o ファイル名
             [-t タイムアウト時間]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Scopeパス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jp1scope/bin/
```

## 引数

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環

## 1. コマンド

### jcsdbexport

境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

#### -o ファイル名

ツリー構成情報の出力先となるファイルをフルパスで指定します。ファイル名の末尾は「.dat」と指定します。また、パスに空白を含む場合は、「`"`」で囲んで指定します。

#### -t タイムアウト時間

サーバとの通信時のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は、10 ~ 32,767 (単位: 秒) です。デフォルトは 1,800 秒 (30 分) です。

## 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が存在しない
2	引数エラー
3	指定したファイルが不正
4	コマンドを実行する権限がない
6	指定したファイルに対するアクセス権がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
31	サーバ側で DB の初期化失敗
32	サーバ側で DB へのアクセスに失敗
33	監視ツリー ID または監視ノード ID が DB 内に存在しない
37	サーバからの応答がない (コネクション要求が失敗した)
38	サーバとの通信が切断された (通信中にサーバが停止した, またはサーバ側の接続数が最大値を超えた)
39	タイムアウトが発生した (サーバに要求送信後, 応答を受信するまでにタイムアウト時間を超えた)
40	サーバから不正な応答が送信された
42	ほかのコマンドまたはほかの要求が実行中
99	その他のエラー

## 使用例

監視オブジェクト DB の保管情報を `c:¥temp¥output.dat` に出力します。

```
jcsdbexport -o c:¥temp¥output.dat
```

## 出力例

KAVB7670-I ファイル(c:¥temp¥output.dat)への監視ツリー定義の出力に成功しま

した

# jcsdbimport

---

## 機能

jcsdbexport コマンドでファイル出力した監視オブジェクト DB の保管情報（監視ツリー構成情報、共通イベント監視条件、およびビジュアル監視画面構成情報）を JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に反映するためのコマンドです。

このコマンドは、jcsdbexport コマンドと併用して、ほかのサーバに JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB の保管情報を移行する際に利用します。

このコマンドは、セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

セントラルスコープサービスのデータ更新中にこのコマンドを実行すると、エラー終了します。例えば、[監視ツリー（編集）] 画面からサーバのツリーを更新中の場合や、jcschstat コマンドで監視ノードの状態を変更中の場合に、このコマンドを実行するとエラー終了します。

## 形式

```
jcsdbimport [-h 論理ホスト名]
             -o ファイル名
             [-t タイムアウト時間]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Scopeパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplscope/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

### -o ファイル名

JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に反映させたい, jcsdbexport コマンドで出力したファイルをフルパスで指定します。ファイル名の末尾には「.dat」と指定します。パスに空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。

### -t タイムアウト時間

サーバとの通信時のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は, 10 ~ 32,767 (単位: 秒) です。デフォルトは 1,800 秒 (30 分) です。

## 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が存在しない
2	引数エラー
3	指定したファイルが不正
4	コマンドを実行する権限がない
6	指定したファイルに対するアクセス権がない
12	メモリー不足
31	サーバ側で DB の初期化失敗
32	サーバ側で DB へのアクセスに失敗
34	ツリー構成ファイルのフォーマットエラー
37	サーバからの応答がない (コネクション要求が失敗した)
38	サーバとの通信が切断された (通信中にサーバが停止した, またはサーバ側の接続数が最大値を超えた)
39	タイムアウトが発生した (サーバに要求送信後, 応答を受信するまでにタイムアウト時間を超えた)
40	サーバから不正な応答が送信された
41	指定した入力ファイルが存在しない
42	ほかのコマンドまたはほかの要求が実行中
48	サーバが指定したファイルのファイルバージョンに対応していない
99	その他のエラー

## 使用例

jcsdbexport コマンドで出力したファイル (input.dat) を, JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に反映します。

```
jcsdbimport -o input.dat
```

## 出力例

1. コマンド  
jcsdbimport

KAVB7660-I input.datファイルから監視ツリー定義のインポートに成功しました

# jcsdbsetup

---

## 機能

監視オブジェクト DB を格納する ISAM ファイルを新規作成します。このコマンドを実行すると、既存の監視オブジェクト DB が削除され、新たに監視オブジェクト DB が作成されます。

監視オブジェクト DB を作成する際は、JP1/IM・Manager を停止してから実行してください。

このコマンドは、セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

## 形式

```
jcsdbsetup [-h 論理ホスト名]
            [-f]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Scopeパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1scope/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-f

監視オブジェクト DB が存在する場合は必ず指定します（指定しない場合、エラーとなります）。監視オブジェクト DB が存在しない場合は省略できます。

このオプションを指定し、かつ、監視オブジェクト DB が存在する場合、確認メッセージ「データベースが存在しますが、再作成してよろしいですか？ [Y/N]」が表示されます。「Y」を入力し、[ Enter ] キーを押すと、既存の監視オブジェクト DB 削除後、監視

## 1. コマンド

jcldbsetup

オブジェクト DB が再作成されます。監視オブジェクトが存在しない場合は、確認メッセージの表示なしで監視オブジェクト DB が作成されます。

### 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が不正
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
10	セットアップされていない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
20	DB がすでに存在する
99	その他のエラー

# jcshostsexport

---

## 機能

ホスト情報 DB に登録されたホスト情報を採取するコマンドです。このコマンドを実行すると、ホスト情報 DB からホスト情報を読み出し、ホスト情報ファイル名にホスト情報を格納します（ホスト情報ファイル名を指定しなかった場合、標準出力に出力します）。

このコマンドは、セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

## 形式

```
jcshostsexport [-h 論理ホスト名] > ホスト情報ファイル名
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Scope/パス¥bin¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplsscope/bin/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

ホスト情報ファイル名

ホスト情報を格納するファイル名を指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が不正
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない

1. コマンド  
jcshostsexport

10	セットアップされていない
11	ホスト情報 DB がない
12	メモリー不足
14	ホスト情報 DB が壊れている
15	メッセージの初期化失敗
16	ホスト情報 DB が使用中
99	その他のエラー

# jcshostsimport

---

## 機能

ホスト情報 DB にホスト情報の登録，削除を行うコマンドです。JP1/IM - Manager 稼働中の場合は，このコマンド実行後，jco\_spmc\_reload コマンドを実行することでホスト情報の内容が有効になります。JP1/IM - Manager 停止中の場合は，JP1/IM - Manager を起動することで有効になります。

このコマンドは，セントラルスコープの機能が有効になっている場合に使用できます。

## 形式

```
jcshostsimport { { -o | -r } ホスト情報ファイル名 | -d }  
                [-h 論理ホスト名]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Scopeパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1scope/bin/

## 引数

-r ホスト情報ファイル名

ホスト情報 DB に登録したいホスト情報を定義したファイル名を指定します。-r オプションを指定した場合は，ホスト情報 DB に登録済みのホスト情報をすべて削除してからホスト情報を登録します。

ホスト情報ファイルの記述形式については，「ホスト情報ファイル(jcs\_hosts)」(2. 定義ファイル)を参照してください。

-o ホスト情報ファイル名

ホスト情報 DB に登録したいホスト情報を定義したファイル名を指定します。-o オプションを指定した場合は，ホスト情報 DB に登録済みのホスト情報を削除せずに，ホスト情報ファイルに記述したホスト情報を追加登録します（同一 IP アドレスが存在した場合は上書きします）。

ホスト情報ファイルの記述形式については，「ホスト情報ファイル(jcs\_hosts)」(2.

## 1. コマンド jcshostsimport

定義ファイル)を参照してください。

-d

ホスト情報 DB に登録されたホスト情報をすべて削除する場合に指定します。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

### 戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が不正
2	引数エラー
3	ファイル名が不正
4	コマンドを実行する権限がない
5	指定したホスト情報ファイルの構文エラー
6	指定したホスト情報ファイルへのアクセス権がない
10	セットアップされていない
11	ホスト情報 DB がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
14	ホスト情報 DB が壊れている
15	メッセージの初期化失敗
16	ホスト情報 DB が使用中
99	その他のエラー

## jim\_log.bat ( Windows 限定 )

### 機能

JP1/IM - Manager または JP1/IM - View で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager , JP1/IM - View , および JP1/Base の保守資料 , OS のシステム情報 , 統合トレースログなどを採取します。

このツールは , バッチファイルです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると , 資料を採取する対象フォルダまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし , 指定した資料格納フォルダの直下に採取した資料が格納されます。

一次資料は , 障害時の切り分けや , 軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は , 一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。Windows イベントログ , クラッシュダンプ , JP1/Base のイベント DBなどを採取します。

また , JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) または JP1/IM - View のスレッドダンプがある状態で jim\_log.bat を実行すると , メッセージ KAVB8946-I を表示してスレッドダンプを削除するかどうかユーザーに問い合わせます。「y」を入力した場合 , スレッドダンプを削除します。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

なお , このツールを使って採取できる資料の詳細については , マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

資料格納フォルダの直下に格納された資料のフォルダ構成および資料内容を次に示します。

表 1-30 物理ホストの一次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ %jpl_default%imm_1st%imm	<ul style="list-style-type: none"><li>JP1/IM - Manager の資料格納フォルダ</li><li>JP1/IM - Manager のバッチ情報</li></ul>
資料格納フォルダ %jpl_default%imm_1st%imm%conf	JP1/IM - Manager の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ %jpl_default%imm_1st%imm%log	JP1/IM - Manager のログファイル
資料格納フォルダ %jpl_default%imm_1st%cons	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の資料格納フォルダ

## 1. コマンド

jim\_log.bat (Windows 限定)

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥cons¥conf	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥cons¥default	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥cons¥log	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥scope	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥scope¥conf	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥scope¥default	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥scope¥log	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1/IM - View の資料格納フォルダ</li> <li>• JP1/IM - View のパッチ情報</li> </ul>
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥conf	JP1/IM - View の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥default	JP1/IM - View の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥log	JP1/IM-View のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imm¥Patchlog_jplimm.txt	JP1/IM - Manager のパッチ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imm¥conf¥tools	JP1/IM - Manager の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imcf¥conf¥imcf	IM 構成管理の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imdb¥conf¥imdb	IM データベースの設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imcf¥system¥default¥new¥imcf	IM 構成管理の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imdb¥database¥imdb	IM データベースのログの詳細情報

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imcf¥log¥imcf	IM 構成管理のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥imdb¥log¥imdb	IM データベースのログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1/Base の資料格納フォルダ</li> <li>• JP1/Base のパッチ情報</li> </ul>
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base¥conf	JP1/Base の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base¥default	JP1/Base の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base¥log	JP1/Base のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base¥plugin¥conf	JP1/Base のプラグインサービスの設定ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥base¥sys¥tmp	JP1/Base のログおよびテンポラリファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥oslog	OS のログ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥spool	統合トレースログ

表 1-31 物理ホストの二次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥cons	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥cons¥operation¥discrim	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) のインシデント登録履歴ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥cons¥operation¥evgen	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の関連イベント発行履歴ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥scope	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥scope¥database	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の DB 情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥base	JP1/Base の資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥base¥log¥COMM AND	JP1/Base のコマンド実行履歴ファイル

## 1. コマンド

jim\_log.bat (Windows 限定)

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥base¥sys¥event¥servers¥default	JP1/Base のイベント DB
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥oslog	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows イベントログ</li> <li>クラッシュダンプ</li> </ul>
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥imcf¥data¥imcf	IM 構成管理のデータファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_2nd¥imdb¥database¥imdb¥imdbbackup.dat	IM データベースのバックアップファイル

表 1-32 論理ホストの一次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥cons	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥cons¥conf	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の論理ホストの設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥cons¥log	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の論理ホストのログファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥scope	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥scope¥conf	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の論理ホストの設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥scope¥log	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の論理ホストのログファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥base	JP1/Base の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥base¥conf	JP1/Base の論理ホスト名の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥base¥event	JP1/Base の論理ホストのイベントサーバ設定
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥base¥log	JP1/Base の論理ホストのログファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥oslog	OS のログ情報
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥imm¥Patchlog_jplimm.txt	JP1/IM - Manager のパッチ情報

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥imcf¥conf¥imcf	IM 構成管理の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥imdb¥database¥imdb	IM データベースのログの詳細情報
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥imcf¥log¥imcf	IM 構成管理のログファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_1st¥imdb¥log¥imdb	IM データベースのログファイル

表 1-33 論理ホストの二次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥cons	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥cons¥operation¥discrim	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストのインシデント登録履歴ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥cons¥operation¥evgen	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストの相関イベント発行履歴ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥scope	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥scope¥database	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の論理ホストの DB 情報
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥base	JP1/Base の論理ホストの資料格納フォルダ
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥base¥log¥COMMAND	JP1/Base の論理ホストのコマンド実行履歴ファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥base¥event	JP1/Base の論理ホストのイベント DB
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥imcf¥data¥imcf	IM 構成管理のデータファイル
資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥imm_2nd¥imdb¥database¥imdb¥imdbba ckup.dat	IM データベースのバックアップファイル

## 形式

```
jim_log.bat -f 資料格納フォルダ
               [-h 論理ホスト名]
               [-t]
               [-u]
```

## 1. コマンド

jim\_log.bat (Windows 限定)

```
[-n]  
[-p]  
[-r]  
[-e]  
[-g]  
[-a]  
[-s]  
[-c]  
[-d]  
[-x]  
[-w]  
[-q]
```

-a オプションは、BJEX と連携した場合に使用するオプションです。-a オプションの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「9.6.2 jim\_log.bat (Windows 限定)」を参照してください。

### 実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行)

UNIX の場合：なし

### 格納先ディレクトリ

Managerパス¥tools¥

### 引数

-f 資料格納フォルダ

採取した資料を出力するフォルダ名をフルパスまたはこのコマンドを実行した場所からの相対パス形式で指定します。パスに空白を含む場合は、「`”`」で囲んで指定します。このオプションは省略できません。

存在しないフォルダを指定した場合は、その名称でフォルダが新規作成されます。すでに存在するフォルダを指定した場合は、いったんそのフォルダを削除してから、指定したフォルダが作成されます。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを指定した場合、物理ホストと論理ホストの両方の資料を採取します。このオプションを省略した場合、物理ホストの資料だけ採取します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

なお、このコマンドでは環境変数 `JP1_HOSTNAME` の論理ホスト名は使用しません。このため、クラスタシステムで使用する場合には論理ホスト名を必ずこのオプションで指定してください。

-t

hosts および services ファイルを採取しない場合に指定します。

-u

クラッシュダンプを採取しない場合に指定します。Windows Server 2008 版の JP1/IM - Manager ではこのオプションは使用できません。

-n

JP1/Base の保守資料を採取しない場合に指定します。

-p

JP1/Base のイベント DB を取得しない場合に指定します。

-r

JP1/Base のコマンド実行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-e

インシデント登録履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-g

関連イベント発行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-a

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

-s

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の保守資料を採取しない場合に指定します。

-c

IM 構成管理の保守資料を採取しない場合に指定します。

-d

IM データベースの保守資料を採取しない場合に指定します。

-x

IM データベースのバックアップファイルを採取する場合に指定します。

IM データベースのバックアップファイルは、デフォルトで採取する IM データベースの保守資料には含まれていません。IM データベースサービスが起動していない場合は、保守資料を採取しません。IM データベースサービスを起動したあと、資料採取コマンドを

## 1. コマンド

jim\_log.bat (Windows 限定)

再実行してください。なお、資料採取時に JP1/IM-Manager が起動していても採取できません。

-w

JP1/IM - View の保守資料を採取しない場合に指定します。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

### 注意事項

- このツールによって採取できる資料の総容量は膨大になるため、このツールを実行する前に必要容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.4 資料の採取方法」を参照してください。
- このツールを複数同時に実行しないでください。資料が上書きされたり、採取できなかったりする場合があります。
- 採取するファイルが見つからない場合、「ファイルが見つかりません」などのメッセージが表示されることがありますが、対処の必要はありません。

### 戻り値

0	正常終了
8	異常終了

### 使用例 1

D:¥temp フォルダに物理ホストの資料と論理ホスト hostA の資料を採取する場合

```
jim_log.bat -f D:¥temp -h hostA
```

出力結果は次のようになります。

```
KAVB8925-I The directory does not exists.
("D:¥temp¥jpl_default¥imm_1st")
The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists.
("D:¥temp¥jpl_default¥imm_2nd")
The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists. ("D:¥temp¥hostA¥imm_1st")
The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists. ("D:¥temp¥hostA¥imm_2nd")
The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" command will start.
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Manager will be acquired.
```

KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Central Console will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8921-I The logical host (hostA) information will be acquired.  
KAVB8922-I The logical host (hostA) information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - Central Console has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Central Scope will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8921-I The logical host (hostA) information will be acquired.  
KAVB8922-I The logical host (hostA) information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - Central Scope has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/Base will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8921-I The logical host (hostA) information will be acquired.  
KAVB8922-I The logical host (hostA) information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/Base has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8928-I "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" execution is ended.  
(ERRORLEVEL=0)  
KAVB8929-I The system information will be acquired. Please wait.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I The system information has been acquired.  
KAVB8929-I "Watson log and crash dump" will be acquired. Please  
wait.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" execution is ended.  
(ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I "Watson log and crash dump" has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(Application) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(Application) has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(System) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(System) has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - Manager will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager will be acquired.

## 1. コマンド

jim\_log.bat (Windows 限定)

```
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager has been acquired.
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - View will be acquired.
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - View has been acquired.
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - View will be acquired.
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - View has been acquired.
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/Base will be acquired.
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/Base has been acquired.
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/Base will be acquired.
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/Base has been acquired.
KAVB8921-I The integrated trace log will be acquired.
KAVB8922-I The integrated trace log has been acquired.
KAVB8921-I The integrated installer log will be acquired.
KAVB8922-I The integrated installer log has been acquired.
KAVB8921-I The installer log file will be acquired.
KAVB8922-I The installer log file has been acquired.
KAVB8921-I The hosts will be acquired.
KAVB8922-I The hosts has been acquired.
KAVB8921-I The services will be acquired.
KAVB8922-I The services has been acquired.
KAVB8921-I The registry information will be acquired.
KAVB8922-I The registry information has been acquired.
KAVB8921-I The netstat information will be acquired.
KAVB8922-I The netstat information has been acquired.
KAVB8921-I The ipconfig information will be acquired.
KAVB8922-I The ipconfig information has been acquired.
KAVB8921-I The net start information will be acquired.
KAVB8922-I The net start information has been acquired.
KAVB8921-I The set information will be acquired.
KAVB8922-I The set information has been acquired.
KAVB8918-I The data was successfully acquired.
```

## 使用例 2

存在しない D:¥temp フォルダに物理ホストの資料を採取するが、存在する論理ホスト hostA を指定しなかった場合

```
jim_log.bat -f D:¥temp
```

出力結果は次のようになります。

```
KAVB8925-I The directory does not exists. ("D:¥temp")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists.
           ("D:¥temp¥jpl_default¥imm_1st")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8925-I The directory does not exists.
           ("D:¥temp¥jpl_default¥imm_2nd")
           The directory will be created.
続行するには何かキーを押してください . . .
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" command will start.
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Manager will be acquired.
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.
```

KAVB8922-I The information for JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Central Console will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - Central Console has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - Central Scope will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - Central Scope has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/Base will be acquired.  
KAVB8921-I The physical host information will be acquired.  
KAVB8922-I The physical host information has been acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/Base has been acquired.  
KAVB8921-I The information for JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The information for JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8928-I "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetConfInfo.exe" execution is ended.  
(ERRORLEVEL=0)  
KAVB8929-I The system information will be acquired. Please wait.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetMsInfo.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I The system information has been acquired.  
KAVB8929-I "Watson log and crash dump" will be acquired. Please  
wait.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetWtsnInfo.exe" execution is ended.  
(ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I "Watson log and crash dump" has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(Application) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(Application) has been acquired.  
KAVB8921-I Windows Eventlog(System) will be acquired.  
KAVB8927-I Execution of the "D:¥Program  
Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe" command will start.  
KAVB8928-I "D:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥bin¥jimGetEvLog.exe"  
execution is ended. (ERRORLEVEL=0)  
KAVB8922-I Windows Eventlog(System) has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - Manager will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - Manager has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/IM - View will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/IM - View has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ini of JP1/Base will be acquired.  
KAVB8922-I The setup.ini of JP1/Base has been acquired.  
KAVB8921-I The setup.ilg of JP1/Base will be acquired.

## 1. コマンド

jim\_log.bat ( Windows 限定 )

```
KAVB8922-I The setup.ilg of JP1/Base has been acquired.
KAVB8921-I The integrated trace log will be acquired.
KAVB8922-I The integrated trace log has been acquired.
KAVB8921-I The integrated installer log will be acquired.
KAVB8922-I The integrated installer log has been acquired.
KAVB8921-I The installer log file will be acquired.
KAVB8922-I The installer log file has been acquired.
KAVB8921-I The hosts will be acquired.
KAVB8922-I The hosts has been acquired.
KAVB8921-I The services will be acquired.
KAVB8922-I The services has been acquired.
KAVB8921-I The registry information will be acquired.
KAVB8922-I The registry information has been acquired.
KAVB8921-I The netstat information will be acquired.
KAVB8922-I The netstat information has been acquired.
KAVB8921-I The ipconfig information will be acquired.
KAVB8922-I The ipconfig information has been acquired.
KAVB8921-I The net start information will be acquired.
KAVB8922-I The net start information has been acquired.
KAVB8921-I The set information will be acquired.
KAVB8922-I The set information has been acquired.
KAVB8918-I The data was successfully acquired.
KAVB8934-I The following logical host(s) exist on this machine:
hostA
To acquire information about a logical host, execute "jim_log.bat
-f output-directory-name -h logical-hostname".
続行するには何かキーを押してください . . .
```

## jim\_log.sh (UNIX 限定)

### 機能

JP1/IM - Manager で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager および JP1/Base の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

このツールは、シェルスクリプトです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると、資料を採取する対象ディレクトリまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納ディレクトリの直下で tar コマンドによってアーカイブしたあと、compress コマンドで圧縮したファイルを作成します。

一次資料は、障害時の切り分けや、軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は、一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。core 解析情報、JP1/Base のイベント DBなどを採取します。

また、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) のコアダンプやスレッドダンプがある状態で jim\_log.sh コマンドを実行すると、メッセージ KAVB8941-I または KAVB8942-I を表示してコアダンプまたはスレッドダンプを削除するかどうかユーザーに問い合わせます。「y」または「yes」を入力した場合、コアダンプまたはスレッドダンプを削除します。

なお、このツールを使って採取できる資料の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

採取した資料を圧縮したファイルを次に示します。

表 1-34 採取した資料を圧縮したファイル

ファイル名	内容
jp1_default_imm_1st.tar.Z	物理ホストの一次資料を格納します。
jp1_default_imm_2nd.tar.Z	物理ホストの二次資料を格納します。
論理ホスト名_imm_1st.tar.Z	論理ホストの一次資料を格納します。
論理ホスト名_imm_2nd.tar.Z	論理ホストの二次資料を格納します。

注 -h オプションで論理ホストを指定した場合にだけ作成されます。

圧縮されたファイルは、資料格納ディレクトリに格納されます。圧縮された各ファイルの内部ディレクトリ構成を次に示します。

## 1. コマンド

jim\_log.sh (UNIX 限定)

表 1-35 物理ホストの一次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./etc/opt/jp1base	JP1/Base の自動起動および自動終了スクリプト
./etc/opt/jp1base/conf	JP1/Base の設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1base/default	JP1/Base の共通定義情報
./etc/opt/jp1cons	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の自動起動および自動終了スクリプト
./etc/opt/jp1cons/conf	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1cons/default	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の共通定義情報
./etc/opt/jp1imm/conf/tools	JP1/IM - Manager の設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1imm/conf/imcf	IM 構成管理の設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1imm/conf/imdb	IM データベースの設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1imm/default/imcf	IM 構成管理の共通定義情報
./etc/opt/jp1scope/conf	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の設定および定義ファイル
./etc/opt/jp1scope/default	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の共通定義情報
./opt/jp1/hcclibcnf	共通定義情報
./opt/jp1base	JP1/Base のパッチ適用履歴およびパッチログ情報
./opt/jp1base/conf	JP1/Base のプラグインサービスの設定ファイル
./opt/jp1imm	JP1/IM - Manager のパッチ適用履歴およびパッチログ情報
./var/opt/jp1base/log	JP1/Base のログファイル
./var/opt/jp1base/sys/tmp	JP1/Base のログおよびテンポラリファイル
./var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool	統合トレースログ
./var/opt/jp1cons/log	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) のログファイル
./var/opt/jp1imm/database/imdb	IM データベースのログの詳細情報
./var/opt/jp1imm/log/imcf	IM 構成管理のログファイル
./var/opt/jp1imm/log/imdb	IM データベースのログファイル
./var/opt/jp1imm/log/_jp1_default/oslog	OS のログ情報

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./var/opt/jplscope/log	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) のログファイル

表 1-36 物理ホストの二次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./var/opt/jplbase/log/COMMAND	JP1/Base のコマンド実行履歴ファイル
./var/opt/jplbase/sys/event/servers/default	JP1/Base のイベント DB
./var/opt/jplcons/operation/discrim	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) のインシデント登録履歴ファイル
./var/opt/jplcons/operation/evgen	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の関連イベント発行履歴ファイル
./var/opt/jplimm/log/_jpl_default/oslog	OS のログ情報
./var/opt/jplimm/log/_jpl_default/core	コアファイル
./var/opt/jplscope/database	JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の DB 情報
./var/opt/jplimm/data/imcf	IM 構成管理のデータファイル
./var/opt/jplimm/database/imdb/imdbbackup.dat	IM データベースのバックアップファイル
./tmp/.JP1_SES* ./usr/tmp/jpl_ses ./usr/lib/jpl_ses/log ./usr/lib/jpl_ses/sys ./usr/bin/jpl_ses/jp* ./var/opt/jpl_ses	JP1/SES 互換用ログ

表 1-37 論理ホストの一次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./ 共有ディスク /jplbase/./event	JP1/Base の論理ホストのイベントサーバ設定
./ 共有ディスク /jplbase/conf	JP1/Base の論理ホストの設定および定義ファイル
./ 共有ディスク /jplbase/log	JP1/Base の論理ホストのログファイル

## 1. コマンド

jim\_log.sh (UNIX 限定)

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./ 共有ディスク /jplcons/conf	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の論理ホストの設定および定義ファイル
./ 共有ディスク /jplcons/log	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の論理ホストのログファイル
./ 共有ディスク /jplscope/conf	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の論理ホストの設定および定義ファイル
./ 共有ディスク /jplscope/log	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の論理ホストのログファイル
./var/opt/jplimm/log/_ 論理ホスト名 / oslog	OS のログ情報
./ 共有ディスク /jplimm/conf/imcf	IM 構成管理の設定および定義ファイル
./var/opt/jplimm/database/imdb	IM データベースのログの詳細情報
./ 共有ディスク /jplimm/log/imcf	IM 構成管理のログファイル
./var/opt/jplimm/log/imdb	IM データベースのログファイル

表 1-38 論理ホストの二次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名・ファイル名	格納された資料
./ 共有ディスク /event	JP1/Base のイベント DB
./ 共有ディスク /jplbase/log/COMMAND	JP1/Base のコマンド実行履歴ファイル
./ 共有ディスク /jplcons/operation/discrim	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) のインシデント登録履歴ファイル
./ 共有ディスク /jplcons/operation/evgen	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) の関連イベント発行履歴ファイル
./ 共有ディスク /jplscope/database	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) の DB 情報
./var/opt/jplimm/log/_ 論理ホスト名 / oslog	OS のログ情報
./var/opt/jplimm/log/_ 論理ホスト名 / core	コアファイル
./ 共有ディスク /jplimm/data/imcf	IM 構成管理のデータファイル
./ 共有ディスク /jplimm/database/imdb/imdbbackup.dat	IM データベースのバックアップファイル

## 形式

jim\_log.sh -f 資料格納ディレクトリ

[-h 論理ホスト名]  
[-t]  
[-u]  
[-n]  
[-p]  
[-r]  
[-e]  
[-g]  
[-a]  
[-s]  
[-c]  
[-d]  
[-x]  
[-q]  
[ディレクトリ名またはファイル名...]

-a オプションは、BJEX と連携した場合に使用するオプションです。-a オプションの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「9.6.3 jim\_log.sh (UNIX 限定)」を参照してください。

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1imm/tools/

## 引数

-f 資料格納ディレクトリ

採取した資料を出力するディレクトリ名またはデバイス名をフルパスまたはルートディレクトリからの相対パス形式で指定します。ディレクトリ名を指定した場合、その下に採取した各資料を格納したファイルが作成されます。パスに空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。このオプションは省略できません。

存在しないディレクトリを指定した場合は、その名称でディレクトリが新規作成されません。すでに存在するディレクトリを指定した場合は、いったんそのディレクトリを削除してから、指定したディレクトリが作成されます。

デバイス名を指定した場合、作成したファイルの数だけデバイスに対して書き込みが発生します。また、テープなどのデバイスファイル名を指定した場合、採取した資料は圧縮されずにデバイスに格納されます。

デバイス名を指定し、かつ -q オプションを指定した場合、ユーザー確認に対しては「yes」を選択したものとして動作するので、あらかじめコマンドを実行する前にデバイスをセットしておく必要があります。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。このオプションを指定した場合、物理ホストと論理ホストの両方の資料を採取します。このオプション

## 1. コマンド

jim\_log.sh (UNIX 限定)

を省略した場合、物理ホストの資料だけ採取します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

なお、このコマンドでは環境変数 JP1\_HOSTNAME の論理ホスト名は使用しません。このため、クラスタシステムで使用する場合には論理ホスト名を必ずこのオプションで指定してください。

-t

hosts, services, および passwd ファイルを採取しない場合に指定します。

-u

core 解析情報を採取しない場合に指定します。core 解析情報とは、core ダンプファイルを Seraph ツールの car コマンドで解析して取得したファイルです。

-n

JP1/Base の保守資料を採取しない場合に指定します。

-p

JP1/Base のイベント DB を取得しない場合に指定します。

-r

JP1/Base のコマンド実行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-e

インシデント登録履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-g

関連イベント発行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-a

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

-s

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の保守資料を採取しない場合に指定します。

-c

IM 構成管理の保守資料を採取しない場合に指定します。

-d

IM データベースの保守資料を採取しない場合に指定します。

-x

IM データベースのバックアップファイルを採取する場合に指定します。

IM データベースのバックアップファイルは、デフォルトで採取する IM データベースの保守資料には含まれていません。IM データベースサービスが起動していない場合は、保守資料を採取しません。IM データベースサービスを起動したあと、資料採取コマンドを再実行してください。なお、資料採取時に JP1/IM-Manager が起動していても採取できません。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

ディレクトリ名またはファイル名

資料採取ツールで任意のファイルまたはディレクトリを採取したいときに指定します。フルパス名で指定してください。複数指定する場合は、スペースで区切ってください。

なお、このオプションは、指定したいほかのオプションをすべて指定したあとに指定してください。採取した資料は物理ホストの一次資料に格納されます。

### 注意事項

- このツールによって採取できる資料の総容量は膨大になるため、このツールを実行する前に必要容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 運用ガイド」の「10.4 資料の採取方法」を参照してください。
- このツールを複数同時に実行しないでください。資料が上書きされたり、採取できなかったりする場合があります。

### 戻り値

0	正常終了
8	異常終了

### 使用例 1

/tmp/jp1log に物理ホストの資料と論理ホスト hostA の資料を採取する場合

```
jim_log.sh -f /tmp/jp1log -h hostA
```

出力結果は次のようになります。

```
KAVB8925-I The directory does not exist. (/var/opt/jplimm/log/_jp1_default).
           The directory will be created.
KAVB8925-I The directory does not exist. (/var/opt/jplimm/log/_hostA).
           The directory will be created.
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
```

## 1. コマンド

jim\_log.sh (UNIX 限定)

```
KAVB8921-I The physical host's first material will be acquired.
KAVB8922-I The physical host's first material has been acquired.
KAVB8921-I The physical host's second material will be acquired.
KAVB8922-I The physical host's second material has been acquired.
KAVB8921-I The logical host(hostA)'s first material will be
acquired.
KAVB8922-I The logical host(hostA)'s first material has been
acquired.
KAVB8921-I The logical host(hostA)'s second material will be
acquired.
KAVB8922-I The logical host(hostA)'s second material has been
acquired.
KAVB8918-I The data was successfully acquired.
```

### 使用例 2

存在しない /tmp/jp1log/ に物理ホストの資料を採取するが、存在する論理ホスト hostA を指定しなかった場合

```
jim_log.sh -f /tmp/jp1log
```

出力結果は次のようになります。

```
KAVB8925-I The directory does not exist. (/tmp/jp1log).
The directory will be created.
KAVB8925-I The directory does not exist. (/var/opt/jplimm/log/
_jpl_default).
The directory will be created.
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
KAVB8921-I The physical host's first material will be acquired.
KAVB8922-I The physical host's first material has been acquired.
KAVB8921-I The physical host's second material will be acquired.
KAVB8922-I The physical host's second material has been acquired.
KAVB8918-I The data was successfully acquired.
KAVB8935-I The following logical host(s) exist on this machine:
hostA
To acquire information about a logical host, execute "jim_log.sh -f
output-directory-name -h logical-hostname".
```

### 使用例 3

jp1\_default\_imm\_1st.tar.Z および jp1\_default\_imm\_2nd.tar.Z ファイルが存在する /tmp/jp1log/ に物理ホストの資料を採取するが、存在する論理ホスト hostA を指定しなかった場合

```
jim_log.sh -f /tmp/jp1log
```

出力結果は次のようになります (すべて「y」と入力した場合)

```
KAVB8925-I The directory does not exist. (/var/opt/jplimm/log/
_jpl_default).
The directory will be created.
KAVB8926-I Data acquisition processing will start.
KAVB8921-I The physical host's first material will be acquired.
KAVB8922-I The physical host's first material has been acquired.
KAVB8921-I The physical host's second material will be acquired.
```

```
KAVB8944-I (/tmp/jp1log/jp1_default_imm_2nd.tar.Z) already exists.  
Do you want to overwrite it? [yes/nō]y  
KAVB8922-I The physical host's second material has been acquired.  
KAVB8918-I The data was successfully acquired.  
KAVB8944-I (/tmp/jp1log/jp1_default_imm_1st.tar.Z) already exists.  
Do you want to overwrite it? [yes/nō]y  
KAVB8935-I The following logical host(s) exist on this machine:  
hostA  
To acquire information about a logical host, execute "jim_log.sh -f  
output-directory-name -h logical-hostname".
```

# jimdbbackup

---

## 機能

IM データベースをバックアップするコマンドです。バックアップの用途と取得できるデータの種類を次に示します。

### 障害復旧用バックアップ

データベースの障害が発生した際にデータベースを復旧するため、定期的にデータをバックアップします。バックアップ対象は、データベース内の統合監視 DB 領域、IM 構成管理 DB 領域、およびシステム DB 領域です。ただし、システム DB 領域内のシステムログファイル、アンロードログファイルはバックアップしません。

### 拡張用バックアップ

データベースのサイズ拡張をするために、一時退避するためのデータをバックアップします。バックアップ対象は、データベース内の統合監視 DB 領域、IM 構成管理 DB 領域です。

## 形式

```
jimdbbackup -o バックアップファイル名  
              -m {MAINT|EXPAND}  
                [-h 論理ホスト名]  
                [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-o バックアップファイル名

バックアップするデータベースを出力するファイル名を絶対パス形式で指定します。バックアップファイルは、ローカルドライブを指定してください。このオプションは省略できません。

ネットワークドライブが指定された場合、UNC パスが指定された場合、および Windows で予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。指定したパス

クアップファイルがすでに存在する場合は、上書きされます。

ファイル名に使用できる文字は半角英数字とアンダーバー「\_」、ドット「.」、シャープ「#」、アットマーク「@」です。文字は OS に依存し、半角スペース「 」または小括弧「(,)」を含む場合は、前後を引用符「"」で囲む必要があります。Windows の場合、MAINT 指定時のバックアップファイル名はすべて小文字となります。また、ファイル名の最大長は OS の制限に従います。

指定されたバックアップファイルを格納するディレクトリが存在しない場合は、コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に、必ずディレクトリを作成してください。

`-m {MAINT | EXPAND}`

データベースのバックアップ形式を指定します。半角英大文字です。このオプションは省略できません。

- MAINT：障害復旧用バックアップを実行します。
- EXPAND：拡張用バックアップを実行します。

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応するデータベースをバックアップします。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に `JP1_DEFAULT` は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。

`-q`

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	バックアップが正常終了した
1	バックアップが異常終了した

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、このコマンドと `jimdbrecovery` コマンドの実行条件を満たすことを確認してください。
- このコマンドの実行中にほかの `JP1/IM・Manager` のコマンドを実行したり `JP1/IM・Manager` のサービス起動したりしないでください。このコマンドは障害復旧用バックアップの場合にデータベースを参照・更新禁止モードに変更するため、実行に失敗することがあります。
- このコマンドの実行中に `[ Ctrl ] + [ C ]` キーや `[ Ctrl ] + [ Break ]` キーは押さないで

ください。バックアップをバックグラウンドで実行するため、[ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押してもバックアップ処理は継続されます。[ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押したあと、すぐにほかの JP1/IM - Manager コマンドを実行したり、JP1/IM - Manager 全体のサービスを起動したりすると、コマンドの実行やサービスの起動に失敗することがあります。

コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、次のプロセスが実行されていないことを確認してからコマンドを再実行してください。

- 障害復旧用バックアップの場合は pdcopy プロセス
- 拡張用バックアップの場合は pdrorg プロセス
- このコマンドの実行時にバックアップファイルが作成されます。拡張用バックアップの場合、または障害復旧用バックアップの場合、バックアップファイルの出力先のドライブ空き容量は、DB サイズが S のときに最大 2 ギガバイト、M のときに最大 15 ギガバイト、L のときに最大 50 ギガバイト程度必要です。
- IM データベースを使用している場合、JP1/IM-Manager が停止している必要があります。
- Windows の場合、IM データベースサービス (JP1/IM-Manager DB Server) が起動している必要があります。また、IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service) が停止している必要があります。
- バックアップファイルは、復旧用と拡張用の区別ができないため、ファイル名にそれぞれが区別できる文字を指定することを推奨します。
- バックアップファイルのアクセス権は、ユーザーがアクセスできる状態で出力されます。バックアップ取得後、アクセス権を変更するか、ユーザーがアクセスできない場所へ移動することを推奨します。
- JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jimdbreclaim

---

## 機能

IM 構成管理 DB の使用中の空き領域（空きページ領域）を解放するコマンドです。

バッチジョブなどでホスト情報や JP1/IM のシステム構成情報など IM 構成管理 DB 内のデータを大量に削除すると、そのデータを格納している領域の一部が使用中の空き領域になることがあります。このコマンドを実行すると、使用中の空き領域を未使用の空き領域にして再利用できます。

また、JP1/IM-Manager サービスを停止しないで、運用中に実行することができます。

## 形式

```
jimdbreclaim [-h 論理ホスト名]
              [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する IM 構成管理 DB の空き領域を解放します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に JP1\_DEFAULT は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- このコマンドの実行中に、ほかの JP1/IM - Manager のコマンドを実行しないでください。実行が失敗することがあります。
- このコマンドの実行中は CPU が高負荷状態になるため、参照・更新の頻度が低い夜間などの時間帯に実行することをお勧めします。
- このコマンドの実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押して処理を中止した場合、データベースの空き領域解放に失敗することがあります。コマンドを再実行するには、別プロセスが動作している場合があるため、pdreclaim と pdrorg プロセスが実行されていないことを確認してください。これらのプロセスが実行中の場合、しばらく時間をおいてから再確認してください。
- このコマンドの実行中にデータベースサービスを停止しないでください。実行中にデータベースサービスを停止した場合は、データベースサービスを起動後にコマンドの再実行が必要です。
- Windows の場合、IM データベースサービス「JP1/IM-Manager DB Server」が起動している必要があります。

# jimdbrecovery

---

## 機能

バックアップで保管しておいたデータベースを復旧（リカバリー）するコマンドです。リカバリーできるデータの種類を次に示します。

### 障害復旧用リカバリー

データベースの障害が発生した際に、定期的を取得しているバックアップデータを利用してデータベースを復旧します。システムログを使用しないで、バックアップデータだけを復旧します。

### 拡張用リカバリー

データベースのサイズ拡張をするために、一時退避するためのデータをバックアップします。バックアップ対象は、データベース内の統合監視 DB 領域、IM 構成管理 DB 領域です。

データベースのサイズ拡張をするために、一時退避しておいたバックアップデータを利用してデータベースを復旧します。

## 形式

```
jimdbrecovery -i バックアップファイル名  
                -m {MAINT|EXPAND}  
                [-h 論理ホスト名]  
                [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-i バックアップファイル名

jimdbbackup コマンドを用いてバックアップしたデータベースのファイル名を絶対パス形式で指定します。バックアップファイルには、ローカルドライブを指定します。このオプションは省略できません。

ネットワークドライブが指定された場合、UNC パスが指定された場合、および

## 1. コマンド jimdbrecovery

Windows で予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。

`-m {MAINT|EXPAND}`

データベースのリカバリー形式を指定します。指定できる文字は、半角英大文字です。このオプションは省略できません。

- MAINT：障害復旧用リカバリーを実行します。
- EXPAND：拡張用リカバリーを実行します。

障害復旧用リカバリーを実行する場合、障害復旧用バックアップで採取したバックアップファイル指定してください。また、拡張用リカバリーを実行する場合、拡張用バックアップで採取したバックアップファイル指定してください。指定した引数とバックアップファイルの種別が異なる場合は、エラーとなります。

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対するデータベースがリカバリーされます。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に `JP1_DEFAULT` は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別しません。

`-q`

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

### 戻り値

0	リカバリーが正常終了した
1	リカバリーが異常終了した

### 注意事項

- `jimdbbackup` コマンドで取得したバックアップデータを `jimdbrecovery` コマンドでリカバリーする場合は、バックアップを取得したときと同じ OS で実施してください。異なる OS のデータベースにリカバリーした場合は、動作は保証できません。
- このコマンドの実行中に、ほかの JP1/IM - Manager のコマンドの実行や JP1/IM - Manager のサービス起動をしないでください。このコマンドはデータベースの参照・更新を禁止モードに変更するため、実行に失敗するおそれがあります。
- このコマンドの実行中に `[ Ctrl ] + [ C ]` キーや `[ Ctrl ] + [ Break ]` キーは押さないでください。リカバリーをバックグラウンドで実行するため、`[ Ctrl ] + [ C ]` キーや `[ Ctrl ] + [ Break ]` キーを押してもリカバリー処理は継続されます。`[ Ctrl ] + [ C ]` キーや `[ Ctrl ] + [ Break ]` キーを押したあと、すぐにほかの JP1/IM - Manager コマンドを実行したり、JP1/IM - Manager のサービスを起動したりすると、コマンドの実

行やサービスの起動に失敗することがあります。

コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーでコマンドの実行を途中で停止した場合、障害復旧用リカバリーでは `pdrstr` プロセスが実行されていないことを確認してから JP1/IM - Manager を再起動してください。拡張用リカバリーでは `pdrorg` プロセスが実行されていないことを確認してから、ほかのコマンドの実行や JP1/IM - Manager のサービスの起動をしてください。

- このコマンドの実行時に一時ファイルが作成されます。拡張用リカバリーの場合、IM データベースのインストール先ディレクトリの空き容量は、DB サイズが S のときに 1 ギガバイト、M のときに 1 ギガバイト、L のときに 4 ギガバイト程度必要です。また、障害復旧用リカバリーの場合、IM データベースのインストール先ディレクトリの空き容量は、DB サイズが S、M および L のどのサイズのときも、5 ~ 50 メガバイト程度必要です。
- 障害復旧用リカバリー実行時は、障害復旧用バックアップを実行したときのデータベース格納ディレクトリと、障害復旧用リカバリーを実行するときのデータベース格納ディレクトリは同じである必要があります。
- 拡張用リカバリーを実行する場合、拡張用バックアップを実行した時のサイズより小さいサイズでは実行できません。
- 拡張用リカバリーを実行する場合、拡張用バックアップを実行したときと同じサイズでは、リカバリーに失敗することがあります。データベースを再セットアップしてデータベースを空にしてから、リカバリーしてください。
- IM データベースを使用している場合には、JP1/IM - Manager が停止している必要があります。
- Windows の場合、IM データベースサービス ( JP1/IM-Manager DB Server ) が起動している必要があります。また、IM データベースのクラスタサービス ( JP1/IM-Manager DB Cluster Service ) が停止している必要があります。
- JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jimdbrogr

---

## 機能

IM 構成管理 DB の断片化された空き領域を再編成するコマンドです。

空き領域によるデータの非効率化を防ぐために、データベースの再編成は JP1/IM - Manager のメンテナンスのタイミングで実行してください。

## 形式

```
jimdbrogr [-h 論理ホスト名]  
          [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者  
コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対するデータベースを再編成します。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に JP1\_DEFAULT は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別しません。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	再編成が正常終了した
1	再編成が異常終了した

## 注意事項

- このコマンドの実行中に、ほかの JP1/IM - Manager のコマンドを実行したり、JP1/IM - Manager のサービスを起動したりしないでください。実行に失敗することがあります。
- このコマンドの実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーは押さないでください。データベースの再編成処理をバックグラウンドで実行するため、[ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押してもデータベースの再編成処理は継続されます。[ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押したあと、すぐにほかの JP1/IM - Manager コマンドを実行したり、JP1/IM - Manager のサービスを起動したりすると、コマンドの実行やサービスの起動に失敗することがあります。このコマンドの実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーでコマンドの実行を途中で停止した場合、タスクマネージャなどにより pdroorg プロセスが実行していないことを確認してからほかの JP1/IM - Manager コマンドを実行したり、JP1/IM - Manager を操作したりする必要があります。これらのプロセスが実行中の場合、しばらく時間をおいて、そのプロセスの終了を待ってから、ほかの JP1/IM - Manager コマンドを実行したり、JP1/IM - Manager の操作をしたりしてください。
- このコマンドを実行する前後には、障害復旧用バックアップを実行することをお勧めします。
- コマンド実行時に一時ファイルを作成します。そのため IM データベースのインストール先ディレクトリの空き容量は、DB サイズが S の場合に 1 ギガバイト、サイズが M の場合に 1 ギガバイト、L の場合に 4 ギガバイト程度必要です。
- IM データベースを使用している場合には、JP1/IM-Manager が停止している必要があります。
- Windows の場合、IM データベースサービス ( JP1/IM-Manager DB Server ) が起動している必要があります。また、IM データベースのクラスタサービス ( JP1/IM-Manager DB Cluster Service ) が停止している必要があります。
- JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jimdbstatus

---

## 機能

IM データベースの起動・停止などの稼働状態を確認するコマンドです。

## 形式

`jimdbstatus [-h 論理ホスト名]`

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥bin¥imdb¥

UNIX の場合

/opt/jplimm/bin/imdb/

## 引数

`-h 論理ホスト名`

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。その後、指定した論理ホストに対応する IM データベースを起動します。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。

## 戻り値

0	IM データベース稼働中
1	jimdbstatus コマンドが異常終了
4	IM データベースが起動・停止処理中
8	IM データベースが停止中（IM データベースが再起動中断状態であり、不安定な状態）
12	IM データベースが停止中（正常に停止された状態）
16	IM データベースサービスが起動していない（Windows の場合）
20	IM データベースがセットアップされていない

# jimdbstop

---

## 機能

IM データベースを停止するコマンドです。JP1/Base の起動順序制御機能で、終了コマンドを設定する場合に使用します。

また、IM データベースが再起動中断状態の場合、IM データベースを強制停止するとき、`-f` オプションを指定してこのコマンドを使用します。

## 形式

```
jimdbstop [-h 論理ホスト名]
           [-f]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

`-h` 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。その後、指定した論理ホストに対応する IM データベースを起動します。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。

`-f`

IM データベースを強制停止する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 1. コマンド

### jimdbstop

4	IM データベースが起動・停止処理中
8	IM データベースが停止中 (IM データベースが再起動中断状態であり, 不安定な状態)
12	IM データベースが停止中 (正常に停止された状態)
20	IM データベースがセットアップされていない

### 注意事項

- このコマンドの実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーを押して処理を中止した場合, IM データベースの停止に失敗することがあります。コマンドを再実行するには, 別プロセスが動作している場合があるため, pdstop プロセスが実行されていないことを確認してください。このプロセスが実行中の場合, しばらく時間をおいてから再確認してください。
- IM データベースを使用している場合には, JP1/IM-Manager が停止している必要があります。
- JP1/IM - MO を使用している場合は, 接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止している必要があります。

# jimdbupdate

---

## 機能

セットアップ済みの IM データベースをアップデートするコマンドです。

## 形式

```
jimdbupdate [-h 論理ホスト名] [-i] [-q]
```

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
Managerパス¥bin¥imdb¥
```

UNIX の場合

```
/opt/jplimm/bin/imdb/
```

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。指定した論理ホストに対応する IM データベースを更新します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。なお、論理ホスト名に JP1\_DEFAULT は指定できません。また、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別しません。論理ホスト名には、JP1/Base で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

-i

IM データベースを更新する場合に指定します。指定しない場合は、IM データベースをアップデートする必要があるか確認するメッセージが出力されます。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、次に示すこのコマンドの実行条件を満たすことを確認してください。

### 実行条件

- 実行系で実行する場合は、共有ディスクがオンラインであり、論理ホスト名が名前解決できる必要があります。
- Windows の場合、IM データベースサービスが起動している必要があります。

#### 物理ホストの場合

JP1/IM - Manager DB Server

#### 論理ホストの場合

JP1/IM - Manager DB Server\_ 論理ホスト名

また、次に示す、JP1/IM-Manager サービス、および IM データベースのクラスタサービスが停止している必要があります。ただし、IM 統合監視で IM データベースを使用していない、かつ、IM 構成管理をセットアップしていない場合は JP1/IM-Manager サービスは停止する必要はありません。

#### 物理ホストの場合

JP1/IM-Manager サービス (JP1/IM-Manager)

IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM-Manager DB Cluster Service)

#### 論理ホストの場合

JP1/IM-Manager サービス (JP1/IM-Manager\_ 論理ホスト名)

IM データベースのクラスタサービス (JP1/IM - Manager DB Cluster Service\_ 論理ホスト名)

- UNIX の場合、JP1/IM-Manager サービスが停止している必要があります。ただし、IM 統合監視で IM データベースを使用していない、かつ、IM 構成管理をセットアップしていない場合は JP1/IM-Manager サービスは停止する必要はありません。
- コマンド実行中に [ Ctrl ] + [ C ] キーや [ Ctrl ] + [ Break ] キーで処理を中止した場合、pdeinstall のプロセスが実行していないことを確認してから再度コマンドを実行してください。

# jp1cc\_setup ( UNIX 限定 )

---

## 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の動作環境を設定します。

このコマンドは、JP1/IM - Manager と JP1/Base がインストールされているマシン上で、JP1/Base をアンインストールしたあとで JP1/Base を再インストールした場合だけ、実行する必要があります。Hitachi PP Installer による JP1/IM - Manager の新規インストールまたは上書きインストールをした場合は、実行する必要はありません。

## 形式

jp1cc\_setup

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1cons/bin/

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 1. コマンド

jp1cc\_setup\_cluster ( UNIX 限定 )

# jp1cc\_setup\_cluster ( UNIX 限定 )

---

## 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストの動作環境を設定します。クラスタシステムでの環境設定に使用します。

環境設定は、実行系、待機系の順に設定します。

実行系の環境設定では、論理ホスト名と共有ディレクトリ名の指定が必要です。コマンドを実行すると指定した共有ディレクトリに定義ファイルなどがコピーされるため、あらかじめ共有ディスクを使用できる状態にしておいてください。

待機系の環境設定では、論理ホスト名だけを指定します。実行系で設定した情報を基に動作環境を設定します。

なお、待機系の環境設定をする前に、JP1/Base の jbsgetcnf コマンドと jbssetcnf コマンドを使って、実行系で設定した共通定義情報を待機系にコピーする必要があります。

このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

## 形式

```
jp1cc_setup_cluster -h 論理ホスト名  
                    [-d 共有ディレクトリ名]
```

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1cons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

環境を設定する論理ホストのホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 63 バイトです。

論理ホスト名は、hosts ファイルやネームサーバに設定し、TCP/IP 通信ができるようにしてください。DNS 運用の場合は、FQDN 形式でないホスト名を指定します。例えば、「jp1v6.soft.hitachi.co.jp」の場合は、「jp1v6」を指定します。

-d 共有ディレクトリ名

系切り替え時に引き継ぐ情報を格納する共有ディレクトリを指定します。共有ディスク上のディレクトリを指定してください。指定できる文字数は、1 ~ 165 バイトです。

指定した共有ディレクトリには、次のディレクトリを作成し、定義ファイルを /etc/opt/jp1cons/conf/ からコピーします。

表 1-39 jp1cc\_setup\_cluster コマンド実行で作成されるディレクトリ

格納するファイル種別	ディレクトリ
定義ファイル	共有ディレクトリ名 /jp1cons/conf/
ログファイル	共有ディレクトリ名 /jp1cons/log/
一時ファイル	共有ディレクトリ名 /jp1cons/tmp/
履歴ファイル	共有ディレクトリ名 /jp1cons/operation/

注 インシデント登録サービスおよび関連イベント発行機能の処理が履歴として出力されます。

必要に応じて、定義ファイルを変更してください。

### 注意事項

- ・ 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- ・ 実行系の環境設定をする場合は、あらかじめ共有ディスクを使用できる状態にしてから、jp1cc\_setup\_cluster コマンドを実行してください。

### 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

### 使用例

次の条件で設定する例を説明します。

論理ホスト名 : lnode0  
共有ディスク : /shdsk/lnode0

- ・ 実行系サーバで論理ホスト環境を設定する  
jp1cc\_setup\_cluster -h lnode0 -d /shdsk/lnode0
- ・ 待機系サーバで論理ホスト環境を設定する  
jp1cc\_setup\_cluster -h lnode0

## 1. コマンド

jp1cf\_setup (UNIX 限定)

# jp1cf\_setup (UNIX 限定)

---

## 機能

JP1/IM - Manager の IM 構成管理プロセスの動作環境を設定するコマンドです。

このコマンドは、JP1/IM - Manager と JP1/Base がインストールされているマシンで、JP1/Base をアンインストールしたあと、JP1/Base を再インストールした場合だけ、実行する必要があります。

## 形式

jp1cf\_setup

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納ディレクトリ

/opt/jp1imm/bin/imcf

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## jp1cf\_setup\_cluster (UNIX 限定)

### 機能

クラスタシステムで運用する場合に、IM 構成管理の環境を設定するコマンドです。

IM 構成管理のクラスタセットアップは、論理ホストの実行系、待機系の設定の両方に対応します。-d オプションを指定した場合は、実行系を設定します。-d オプションを指定しなかった場合は、待機系を設定します。

それぞれの設定内容を次の表に示します。

表 1-40 実行系の設定、待機系の設定

コマンド実行ホスト	設定項目	設定概要
実行系	論理ホストの共通定義の設定	jbsgetcnf, jbssetcnf コマンドを使用して物理ホストの IM 構成管理の共通定義を論理ホストの共通定義として設定する。その際、ディレクトリ名などの設定を変更する。
	共有ディレクトリの作成	共有ディレクトリ以下に必要なディレクトリを作成する。
	定義ファイルのコピー	/opt/jp1imm/conf/imcf 以下の定義ファイルを共有ディレクトリ /jp1imm/conf/imcf 以下にコピーする。
	論理ホストのセントラルコンソールに対する IM 構成管理の起動設定	jcoimdef コマンドを使用して論理ホストのセントラルコンソールのプロセス管理と連動して IM 構成管理サービスが起動するようにする。
	物理ホストの IM 構成管理の通信方式の変更	物理ホストの IM 構成管理の通信方式を IP バインド方式に変更する。
待機系	物理ホストの通信方式の変更	同上

### 共通定義の設定

IM 構成管理のクラスタセットアップは、論理ホストの共通定義に対して次の値を設定します。

表 1-41 論理ホストの共通定義

パス	キー名称	設定値
論理ホスト名¥JP1CONF¥	JP1CONFIG_CONFDIR	共有ディレクトリ名 /jp1imm/conf/imcf
	JP1CONFIG_TMPDIR	共有ディレクトリ名 /jp1imm/tmp

## 1. コマンド

jp1cf\_setup\_cluster (UNIX 限定)

パス	キー名称	設定値
	JP1CONFIG_LOGDIR	共有ディレクトリ名 /jplimm/log/imcf
	JP1CONFIG_DATADIR	共有ディレクトリ名 /jplimm/data/imcf
	JP1_BIND_ADDR	IP

### 共有ディレクトリの作成

IM 構成管理のクラスタセットアップは次のディレクトリを作成します。

表 1-42 jp1cf\_setup\_cluster コマンド実行で作成されるディレクトリ

格納するファイル種別	ディレクトリ
定義ファイル	共有ディレクトリ名 /jplimm/conf/imcf
ログファイル	共有ディレクトリ名 /jplimm/log/imcf
一時ファイル	共有ディレクトリ名 /jplimm/tmp
システムの階層構成 (IM 構成) のデータおよびプロファイルのデータ	共有ディレクトリ名 /jplimm/data/imcf

### 論理ホストのセントラルコンソールに対する IM 構成管理の起動設定

jcoiddef コマンドを実行し、同一論理ホストのセントラルコンソールのプロセス管理に対して IM 構成管理の起動設定を追加します。

### 物理ホストの IM 構成管理の通信方式の変更

IM 構成管理のクラスタセットアップは、共通定義 JP1\_DEFAULT¥JP1CONFIG¥ 以下の JP1\_BIND\_ADDR の値を IP に変更することで、物理ホストの通信方式の設定を IP バインド方式に変更します。

### 形式

```
jp1cf_setup_cluster -h 論理ホスト名  
                    [-d 共有ディレクトリ名]
```

### 実行権限

スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

/opt/jplimm/bin/imcf

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、コマンドを実行するホストの論理ホスト名を指定します。その後、指定した論理ホストに対するデータベースを再編成します。指定できる文字数は、1 ~ 63 バイトです。このオプションを省略した場合は、エラーとなります。

-d 共有ディレクトリ名

実行系をセットアップする場合、論理ホストの共有ディレクトリを指定します。指定しなかった場合待機系をセットアップします。指定できる文字数は、1 ~ 165 バイトです。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 注意事項

- 実行系の設定の際は、共有ディレクトリへの定義ファイルのコピー、および監視オブジェクト DB の作成をするため、共有ディスクをマウントする必要があります。
- 論理ホストの設定は各ノード単位でします。
- このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、OS のマニュアルを参照してください。

## 1. コマンド

jp1cfhassetup ( Windows 限定 )

# jp1cfhassetup ( Windows 限定 )

---

## 機能

クラスタシステムで運用する場合に、IM 構成管理の環境を設定するコマンドです。

このコマンドを実行する前に、JP1/Base の論理ホストを設定する必要があります。

このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

## 形式

```
jp1cfhassetup
```

## 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

## 格納先ディレクトリ

```
Managerパス¥bin¥imcf¥
```

## 注意事項

- このコマンドは、クラスタシステムでの JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の環境設定で使用します。JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の環境設定をする場合は、jp1cshasetup コマンドを使用してください。
- 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- 事前に JP1/Base の論理ホストを設定しておく必要があります。JP1/Base の設定方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

## jp1cohasetup ( Windows 限定 )

---

### 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストの動作環境を設定する [ Central Console クラスタ構成の設定 ] ダイアログボックスを表示するコマンドです。クラスタシステムでの JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の環境設定で使用します。

このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

### 形式

jp1cohasetup

### 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

### 格納先ディレクトリ

Consoleパス¥bin¥

### 注意事項

- このコマンドは、クラスタシステムでの JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の環境設定で使用します。JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の環境設定をする場合は、jp1cshasetup コマンドを使用してください。
- 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- 事前に JP1/Base の論理ホストを設定しておく必要があります。JP1/Base の設定方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

# jp1cohaverup

---

## 機能

08-50 以前の JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Console で設定した論理ホスト環境をバージョンアップします。08-50 以前の JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Console からバージョンアップした場合に実行してください。

## 形式

jp1cohaverup -h 論理ホスト名

## 実行権限

Windows の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/bin/

## 引数

-h 論理ホスト名

バージョンアップする論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合は、エラーとなります。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず JP1/IM - Manager を停止してください。JP1/IM - Manager を停止していないときにこのコマンドを実行した場合は、エラーとなります。
- このコマンドは実行系ホストでだけ実行します。コマンドの実行時は共有ディスクをマウントした状態で実行してください。なお、待機系ホストでは実行しないでください。
- このコマンドを実行したあと、必ず実行系ホストの共通定義情報を退避してください。そのあと、退避した共通定義情報ファイルを待機系ホストにコピーし、jbssetcnf コマンドで設定してください。
- 同一バージョンに対する修正版を上書きインストールした場合は、このコマンドを実行する必要はありません。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 使用例

論理ホスト host01 をバージョンアップします。

```
jp1cohaverup -h host01
```

## 出力例

```
jp1cohaverup -h host01  
KAVB9101-I The upgrading of the logical host environment will now  
start.  
KAVB9102-I The upgrading of the logical host environment has  
finished.
```

## 1. コマンド

jp1cs\_setup ( UNIX 限定 )

# jp1cs\_setup ( UNIX 限定 )

---

## 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の動作環境を設定します。

このコマンドは、JP1/IM - Manager および JP1/Base がインストールされているマシン上で、JP1/Base をアンインストールしたあとで JP1/Base を再インストールした場合だけ、実行する必要があります。Hitachi PP Installer による JP1/IM - Manager の新規インストールまたは上書きインストールをした場合は、実行する必要はありません。

このコマンドを使用する場合、JP1/IM - Manager を停止してください。

## 形式

jp1cs\_setup

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1scope/bin/

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## jp1cs\_setup\_cluster ( UNIX 限定 )

---

### 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の論理ホストの動作環境を設定します。クラスタでの環境設定に使用します。

環境設定は、実行系、待機系の順に設定します。

実行系の環境設定では、論理ホスト名と共有ディレクトリ名の指定が必要です。コマンドを実行すると指定した共有ディレクトリに定義ファイルなどがコピーされるため、あらかじめ共有ディスクを使用できる状態にしておいてください。

待機系の環境設定では、論理ホスト名だけを指定します。実行系で設定した情報を基に動作環境を設定します。

なお、待機系の環境設定をする前に、JP1/Base の `jbsgetcnf` コマンドと `jbssetcnf` コマンドを使って、実行系で設定した共通定義情報を待機系にコピーする必要があります。

このコマンドを使用する場合、JP1/IM - Manager を停止してください。

このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

### 形式

```
jp1cs_setup_cluster -h 論理ホスト名  
                    [-d 共有ディレクトリ名]
```

### 実行権限

スーパーユーザー権限

### 格納先ディレクトリ

/opt/jp1scope/bin/

### 引数

-h 論理ホスト名

環境を設定する論理ホストのホスト名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 63 バイトです。

論理ホスト名は、`hosts` ファイルやネームサーバに設定し、TCP/IP 通信ができるようにしてください。DNS 運用の場合は、FQDN 形式でないホスト名を指定します。例えば、「`jp1v6.soft.hitachi.co.jp`」の場合は、「`jp1v6`」を指定します。

## 1. コマンド

jp1cs\_setup\_cluster ( UNIX 限定 )

-d 共有ディレクトリ名

系切り替え時に引き継ぐ情報を格納する共有ディレクトリを指定します。共有ディスク上のディレクトリを指定してください。指定できる文字数は、1 ~ 165 バイトです。

指定した共有ディレクトリには、次のディレクトリを作成し、定義ファイルを /etc/opt/jp1scope/conf/ からコピーします。

表 1-43 jp1cs\_setup\_cluster コマンド実行で作成されるディレクトリ

格納するファイル種別	ディレクトリ
定義ファイル	共有ディレクトリ名 /jp1scope/conf/
ログファイル	共有ディレクトリ名 /jp1scope/log/
一時ファイル	共有ディレクトリ名 /jp1scope/tmp/
DB 情報	共有ディレクトリ名 /jp1scope/database/

必要に応じて、定義ファイルを変更してください。

### 注意事項

- 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- 実行系の環境設定をする場合は、あらかじめ共有ディスクを使用できる状態にしてから、jp1cs\_setup\_cluster コマンドを実行してください。

### 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

### 使用例

次の条件で設定する例を説明します。

論理ホスト名 : lnode0

共有ディスク : /shdisk/lnode0

- 実行系サーバで論理ホスト環境を設定する  
`jp1cs_setup_cluster -h lnode0 -d /shdisk/lnode0`
- 待機系サーバで論理ホスト環境を設定する  
`jp1cs_setup_cluster -h lnode0`

## jp1cshasetup ( Windows 限定 )

---

### 機能

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の論理ホストの動作環境を設定する [ Central Scope クラスタ構成の設定 ] ダイアログボックスを表示するコマンドです。クラスタシステムでの JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の環境設定で使います。

このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP バインド方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

### 形式

jp1cshasetup

### 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

### 格納先ディレクトリ

Scopeパス¥bin¥

### 注意事項

- このコマンドは、クラスタシステムでの JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) の環境設定で使います。JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の環境設定をする場合は、jp1cohasetup コマンドを使用してください。
- 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- 事前に JP1/Base の論理ホストの設定をしておく必要があります。JP1/Base の設定作業については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のクラスタシステムで運用する場合の設定の章を参照してください。  
また、事前に JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) の論理ホストの設定をしておく必要があります。

## 1. コマンド

jp1cshaverup (UNIX 限定)

# jp1cshaverup (UNIX 限定)

---

## 機能

08-01 以前の JP1/IM - Central Scope で設定した論理ホスト環境をバージョンアップします。08-01 以前の JP1/IM - Central Scope からバージョンアップした場合に実行してください。

インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope の機能を使用したい場合には必ず実行してください。ただし、08-01 以前の機能範囲で使用したい場合には、実行しないでください。

## 形式

```
jp1cshaverup -h 論理ホスト名  
              [-w 作業ディレクトリ]
```

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1scope/bin/

注 このコマンドは、Linux 版 JP1/IM - Manager には同梱されていません。

## 引数

-h 論理ホスト名

バージョンアップする論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合は、エラーとなります。

-w 作業ディレクトリ

JP1/IM - Central Scope の論理ホスト環境をバージョンアップするための作業ディレクトリをフルパスで指定します。

このオプションを省略した場合は、/opt/jp1scope/tmp/ を仮定します。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず JP1/IM - Manager を停止してください。JP1/IM - Manager を停止していない場合にこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。
- jp1cshaverup コマンドを実行すると、インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope として動作します。08-01 以前の JP1/IM - View の [監視ツリー (編集集中)] 画面からはログインできなくなります。

## 戻り値

0	正常終了
1	指定した論理ホスト名が存在しない
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
31	DB 初期化エラー
32	データアクセスエラー
42	サービスが起動中
45	新しいバージョンのデータベースに対してコマンドを実行しようとした
99	その他のエラー

## 使用例

作業ディレクトリ /temp/ で、08-01 の JP1/IM - Central Scope の論理ホスト環境 logicalhost をバージョンアップします。

```
jp1cshaverup -h logicalhost -w /temp
```

## 出力例

```
クラスタ環境のバージョンアップ処理を開始します  
KAVB7750-I データベースのバージョンアップは完了しました  
KAVB7624-I jcsdbconvertコマンドの実行が正常終了しました  
バージョンアップに成功しました
```

## 1. コマンド

jp1cshaverup.bat ( Windows 限定 )

# jp1cshaverup.bat ( Windows 限定 )

---

## 機能

08-01 以前の JP1/IM - Central Scope で設定した論理ホスト環境をバージョンアップします。08-01 以前の JP1/IM - Central Scope からバージョンアップした場合に実行してください。

インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope の機能を使用したい場合には必ず実行してください。ただし、08-01 以前の機能範囲で使用したい場合には、実行しないでください。

## 形式

```
jp1cshaverup.bat -h 論理ホスト名  
                  [-w 作業ディレクトリ]
```

## 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

## 格納先ディレクトリ

Scopeパス¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

バージョンアップする論理ホスト名を指定します。このオプションを省略した場合は、エラーとなります。

-w 作業ディレクトリ

JP1/IM - Central Scope の論理ホスト環境をバージョンアップするための作業フォルダをフルパスで指定します。パスに空白を含む場合は、「"」で囲んで指定します。

このオプションを省略した場合は、Scope パス ¥tmp¥ を仮定します。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず JP1/IM - Manager を停止してください。JP1/IM - Manager を停止していない場合にこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。
- jp1cshaverup.bat コマンドを実行すると、インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope として動作します。08-01 以前の JP1/IM - View の [ 監視ツリー ( 編集 ) ] 画面からはログインできなくなります。

## 戻り値

0	正常終了
1	指定した論理ホスト名が存在しない
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
31	DB 初期化エラー
32	データアクセスエラー
42	サービスが起動中
45	新しいバージョンのデータベースに対してコマンドを実行しようとした
99	その他のエラー

## 使用例

作業フォルダ C:¥temp¥ で、08-01 の JP1/IM・Central Scope の論理ホスト環境 logicalhost をバージョンアップします。

```
jp1cshaverup -h logicalhost -w C:¥temp
```

## 出力例

```
クラスタ環境のバージョンアップ処理を開始します  
KAVB7750-I データベースのバージョンアップは完了しました  
KAVB7624-I jcsdbconvert コマンドの実行が正常終了しました  
バージョンアップに成功しました
```

## 1. コマンド

jp1csverup (UNIX 限定)

# jp1csverup (UNIX 限定)

---

## 機能

08-01 以前の JP1/IM - Central Scope で設定した物理ホストの環境をバージョンアップします。08-01 以前の JP1/IM - Central Scope からバージョンアップした場合に実行してください。

インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope の機能を使用したい場合には必ず実行してください。ただし、08-01 以前の機能範囲で使用したい場合には、実行しないでください。

## 形式

```
jp1csverup [-w 作業ディレクトリ]
```

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1scope/bin/

注 このコマンドは、Linux 版 JP1/IM - Manager には同梱されていません。

## 引数

-w 作業ディレクトリ

JP1/IM - Central Scope の物理ホストの環境をバージョンアップするための作業ディレクトリをフルパスで指定します。

このオプションを省略した場合は、/opt/jp1scope/tmp/ を仮定します。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず JP1/IM - Manager を停止してください。JP1/IM - Manager を停止していない場合にこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。
- このコマンドを実行する前にディスクの空き容量を確認してください。このコマンドを実行するには、監視オブジェクト DB 分の空き容量が必要です。監視オブジェクト DB は、次に示すディレクトリ内のすべてのデータです。  
/var/opt/jp1scope/database/jcsdb/
- jp1csverup コマンドを実行すると、インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope として動作します。08-01 以前の JP1/IM - View の [監視ツリー (編集 中)] 画面からはログインできなくなります。

## 戻り値

0	正常終了
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
31	DB 初期化エラー
32	データアクセスエラー
42	サービスが起動中
45	新しいバージョンのデータベースに対してコマンドを実行しようとした
99	その他のエラー

## 使用例

作業ディレクトリ /temp/ で、08-01 の JP1/IM - Central Scope の物理ホスト環境をバージョンアップします。

```
jp1csverup -w /temp
```

## 出力例

```
バージョンアップ処理を開始します  
KAVB7750-I データベースのバージョンアップは完了しました  
KAVB7624-I jcsdbconvertコマンドの実行が正常終了しました  
バージョンアップに成功しました
```

## 1. コマンド

jp1csverup.bat ( Windows 限定 )

# jp1csverup.bat ( Windows 限定 )

---

## 機能

08-01 以前の JP1/IM - Central Scope で設定した物理ホストの環境をバージョンアップします。08-01 以前の JP1/IM - Central Scope からバージョンアップした場合に実行してください。

インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope の機能を使用したい場合には必ず実行してください。ただし、08-01 以前の機能範囲で使用したい場合には、実行しないでください。

## 形式

jp1csverup.bat [-w 作業ディレクトリ]

## 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

## 格納先ディレクトリ

Scopeパス¥bin¥

## 引数

-w 作業ディレクトリ

JP1/IM - Central Scope の物理ホストの環境をバージョンアップするための作業フォルダをフルパスで指定します。パスに空白を含む場合は、「"」で囲んで指定します。

このオプションを省略した場合は、Scope パス ¥tmp¥ を仮定します。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず JP1/IM - Manager を停止してください。JP1/IM - Manager を停止していない場合にこのコマンドを実行したときは、エラーとなります。
- このコマンドを実行する前にディスクの空き容量を確認してください。このコマンドを実行するには、監視オブジェクト DB 分の空き容量が必要です。監視オブジェクト DB は、次に示すフォルダ内のすべてのデータです。

Scope パス ¥database¥jcsdb¥

- jp1csverup.bat コマンドを実行すると、インストールした新しいバージョンの JP1/IM - Central Scope として動作します。08-01 以前の JP1/IM - View の [ 監視ツリー ( 編集 ) ] 画面からはログインできなくなります。

## 戻り値

0	正常終了
2	引数エラー
4	コマンドを実行する権限がない
12	メモリー不足
13	ディスク容量不足
31	DB 初期化エラー
32	データアクセスエラー
42	サービスが起動中
45	新しいバージョンのデータベースに対してコマンドを実行しようとした
99	その他のエラー

## 使用例

作業フォルダ C:¥temp で , 08-01 の JP1/IM - Central Scope の物理ホスト環境をバージョンアップします。

```
jp1csverup -w C:¥temp
```

## 出力例

```
バージョンアップ処理を開始します  
KAVB7750-I データベースのバージョンアップは完了しました  
KAVB7624-I jcsdbconvertコマンドの実行が正常終了しました  
バージョンアップに成功しました
```

## SpmSetSvcCon ( Windows 限定 )

---

### 機能

JP1/IM-Manager サービスと JP1/Base Event サービスの依存関係を設定、または解除するコマンドです。

### 形式

```
SpmSetSvcCon -setdepend {yes|no}
```

### 実行権限

Administrators 権限 ( Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行 )

### 格納先ディレクトリ

Consoleパス¥bin¥

### 引数

```
-setdepend {yes|no}
```

登録してあるサービスに対して、依存関係を設定します。

- yes : JP1/IM-Manager サービスと JP1/Base Event サービスの依存関係を設定します。
- no : JP1/IM-Manager サービスと JP1/Base Event サービスの依存関係を解除します。

### 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	実行権限エラー
3	JP1/IM-Manager サービスが登録されていない
255	その他のエラー

# 2

## 定義ファイル

この章では、JP1/IM の定義ファイルの形式および文法について説明します。

---

定義ファイル一覧

---

定義ファイルの記述形式

---

ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて

---

## 定義ファイル一覧

JP1/Integrated Management の定義ファイルの一覧を次に示します。

表 2-1 定義ファイル一覧

製品名	定義ファイル名	説明	
JP1/Base	構成定義ファイル (jbs_route.conf)	JP1/IM で管理するシステムの階層構造を定義するファイルです。	
	環境変数ファイル	JP1/IM の管理対象ホストでコマンドを実行するときの環境変数を定義するファイルです。	
	ホストグループ定義ファイル	JP1/IM の管理対象ホストのグループを定義するファイルです。	
	リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル	リモート監視のログトラップ機能の動作を定義するファイルです。	
	リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル	リモート監視のイベントログトラップ機能の動作を定義するファイルです。	
JP1/IM - Manager	セントラル コン ソール	発生元ホストマッピング定義ファイル (user_hostmap.conf)	発生元ホストのマッピングを定義するファイルです。
		自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)	自動アクションの実行環境を定義するファイルです。
		自動アクション定義ファイル (actdef.conf)	自動アクションのアクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義するファイルです。
		自動アクション定義ファイル (actdef.conf)(互換用)	互換用に自動アクションのアクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義するファイルです。
		自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)	自動アクションの状態通知機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
		拡張起動プロセス定義ファイル (jplco_service.conf)	JP1/IM - Manager を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。
		IM パラメーター定義ファイル (jplco_param_V7.conf)	JP1/IM - Manager のプロセスの異常、また、異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。
		システムプロファイル(.system)	イベントコンソールの基本動作に関する環境情報を定義するファイルです。

製品名	定義ファイル名	説明
	ユーザープロフィール (defaultUser   profile_ユーザー名)	イベントコンソールの画面表示に関する環境情報を定義するファイルです。
	通信環境定義ファイル (console.conf.update)	JP1/IM・Manager とビューアー、jcochstat コマンドとの通信処理 (タイムアウト時間) を定義するファイルです。
	ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)	ヘルスチェック機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
	WWW ページ版動作定義ファイル (console_ja.html)	WWW ページ版の JP1/IM・View の動作を定義するファイルです。
	イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt)	システムで発生した問題となる JP1 イベントに対して、JP1 イベント単位でイベントガイド情報を定義するファイルです。
	対処状況イベント定義ファイル (processupdate.conf)	対処状況を変更したときに JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。
	関連イベント発行システムプロファイル (egs_system.conf)	関連イベント発行サービスの起動時および停止時の動作を定義するファイルです。
	関連イベント発行定義ファイル	関連イベントの発行処理の対象とする JP1 イベントの条件と条件成立時に発行する関連イベントを定義するファイルです。
	関連イベント発行環境定義ファイル	関連イベント発行履歴ファイルのサイズおよび面数を定義するファイルです。
	インシデント登録用システムプロファイル (eds_system.conf)	JP1/IM・Incident Master 連携用の定義ファイルです。インシデント登録サービスの基本動作を定義するファイルです。
	インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf)	JP1/IM・Incident Master 連携用の定義ファイルです。JP1/IM・View の連携先 JP1/IM・Incident Master を定義するファイルです。
	インシデント登録環境定義ファイル (jcdmain.conf.update)	JP1/IM・Incident Master 連携用の定義ファイルです。次に示す内容を定義するファイルです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>インシデント登録履歴ファイルのサイズ、面数</li> <li>JP1/IM・Incident Master のポート番号 (JP1/IM・Incident Master 側の設定に合わせて定義します)</li> </ul>

2. 定義ファイル  
定義ファイル一覧

製品名	定義ファイル名	説明
	重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)	イベントの重大度変更機能で、重大度を変更する JP1 イベントの条件と変更後の重大度を定義するファイルです。
	コマンドボタン定義ファイル (cmdbtn.conf)	[コマンド実行] 画面に表示する [コマンド] ボタンを定義するファイルです。
	イベント条件表示項目定義ファイル (attr_list.conf)	[アクション詳細設定] 画面の [属性名] 表示領域に表示する表示項目を指定する定義ファイルです。
	イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル (event_info_replace.conf)	自動アクションのイベント引き継ぎ機能の変換ルールを指定するファイルです。
	イベントレポート出力の項目ファイル	イベントレポート出力で出力したい JP1 イベントの属性を指定するファイルです。
	イベントレポート出力のフィルターファイル	イベントレポート出力時のフィルター条件を指定する定義ファイルです。
	システムカラー定義ファイル (systemColor.conf)	イベント一覧に使用する色の設定を定義するファイルです。
	イベント拡張属性定義ファイル	JP1 イベントの拡張属性を定義するファイルです。
	オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1 イベントの拡張属性のオブジェクトタイプを定義するファイルです。
	共通除外条件拡張定義ファイル	拡張モードの共通除外条件のイベント条件や適用期間を定義するファイルです。
	共通除外条件表示項目定義ファイル (common_exclude_filter_attr_list.conf)	[共通除外条件設定(拡張)] 画面の [属性名] 表示領域に表示する項目を指定する定義ファイルです。
	モニター画面呼び出し定義ファイル	モニター画面呼び出しの設定を定義するファイルです。
セントラルスコープ	ホスト情報ファイル (jcs_hosts)	JP1/IM-Manager (JP1/IM-Central Scope) が管理するホスト情報を定義するファイルです。
	ガイド情報ファイル (jcs_guide_XXX.txt) <sup>1</sup>	監視オブジェクトの状態変更の契機となった JP1 イベントに関するガイド情報を定義するファイルです。
	状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル (evhist_warn_event_XXX.conf) <sup>2</sup>	監視オブジェクトの状態変更イベントの件数が上限を超えた場合に、JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。

製品名	定義ファイル名	説明
	対処済み連動設定ファイル ( action_complete_XXX.conf ) 2	対処済み連動機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
	状態変更イベント自動削除設定ファイル	JP1 イベントの対処状況を「対処済」にしたときに、状態変更イベントを自動削除する機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
	監視オブジェクト初期化設定ファイル	特定の JP1 イベントを受信したときに、監視オブジェクトを初期化する機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
	監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー設定ファイル ( auto_dbbackup_XXX.conf ) 2	監視ツリー更新中の、OS のシャットダウンやクラスタシステムの系切り替え発生による、監視オブジェクト DB の破損を防ぐための機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。
	CM ホスト定義ファイル ( jcs_atc_cm_host.conf )	JP1/IM - Central Information Master 連携用の定義ファイルです。 監視ツリー（システム構成ツリー）を自動生成するための定義情報を収集する JP1/IM - Central Information Master ホストを定義するファイルです。
	状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル	状態変更条件メモリー常駐機能を有効にするかどうかを設定するファイルです。
IM 構成管理	IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル ( jcfvview.conf )	IM 構成管理・ビューアーの動作を指定するファイルです。
	IM 構成反映方式設定ファイル ( jplcf_applyconfig.conf )	JP1/IM - Manager をインストールすると自動生成されるファイルです。
IM データベース	セットアップ情報ファイル ( jimdbsetupinfo.conf )	統合監視 DB および IM 構成管理 DB のセットアップ時に、IM データベースのサイズや IM データベースのデータを格納するディレクトリなどを記述するファイルです。
	クラスタセットアップ情報ファイル ( jimdbclustersetupinfo.conf )	統合監視 DB および IM 構成管理 DB のクラスタ環境のセットアップ時に、IM データベースのサイズや IM データベースのデータを格納するディレクトリなどを記述するファイルです。

## 2. 定義ファイル 定義ファイル一覧

製品名	定義ファイル名	説明
JP1/IM - View	通信環境定義ファイル (view.conf.update)	JP1/IM - View と JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) 間の通信でのタイムアウト時間を定義するファイルです。
	通信環境定義ファイル (tree_view.conf.update)	JP1/IM - View と JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Scope ) 間の通信でのタイムアウト時間を定義するファイルです。
	IM-View 設定ファイル (tuning.conf)	ログイン画面での接続先ホスト入力履歴数, イベントコンソール画面表示時の動作など JP1/IM - View の動作を定義するファイルです。
	WWW ページ呼び出し定義ファイル (hitachi_jp1_製品名.html)	統合機能メニューから他製品の WWW ページを呼び出すときに使用するファイルです。
	起動プログラム定義ファイル (!JP1_CS_APP0.conf)	監視ツリー画面のツールバーに追加するプログラムの起動パスを定義するファイルです。
	ツールバー定義ファイル (!JP1_CS_FTOOL0.conf)	監視ツリー画面のツールバーに追加するプログラムの並び順を定義するファイルです。
	アイコン動作定義ファイル (!JP1_CS_FTREE0.conf)	監視ツリー画面のツールバーに追加するアイコンの動作を定義するファイルです。
	ツリー構成ファイル	監視ツリー画面に表示される監視ツリーのツリー構成を定義したファイルです。
	アプリケーション実行定義ファイル	ビューアーで実行するアプリケーションの ID とパスを定義するファイルです。
	統合機能メニュー定義ファイル	統合機能メニューに表示するツリーを定義するファイルです。

注 1 JP1/IM - Manager の UNIX 版で使用するガイド情報ファイルは, JP1/IM - Manager が動作する言語コードによって異なります。ガイド情報ファイル ( jcs\_guide\_XXX.txt ) の XXX 部分については, 以降のガイド情報ファイルの詳細で説明します。

注 2 状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル, 対処済み連動設定ファイル, および監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー設定ファイルはそれぞれ二つあります。XXX 部分には, on , off のどちらかが入ります。

## 定義ファイルの記述形式

---

ここでは、定義ファイルの記述形式について説明します。

各定義ファイルで説明する項目は次のとおりです。ただし、定義ファイルによっては説明しない項目もあります。

### 形式

定義ファイルの形式について説明しています。

### ファイル

定義ファイルのファイル名について説明しています。

### 格納先ディレクトリ

定義ファイルの格納場所について説明しています。

### 説明

定義ファイルの用途について説明しています。

### 定義の反映時期

定義ファイルが反映されるタイミングについて説明しています。

### 記述内容

定義ファイルの記述内容について説明しています。

### 定義例

定義ファイルの定義例について説明しています。

# ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて

---

JP1/IM の定義ファイルをカスタマイズすることによって、ほかのアプリケーションが JP1/IM と連携するための機能を拡張できるようになります。機能を拡張すると、次のことができます。

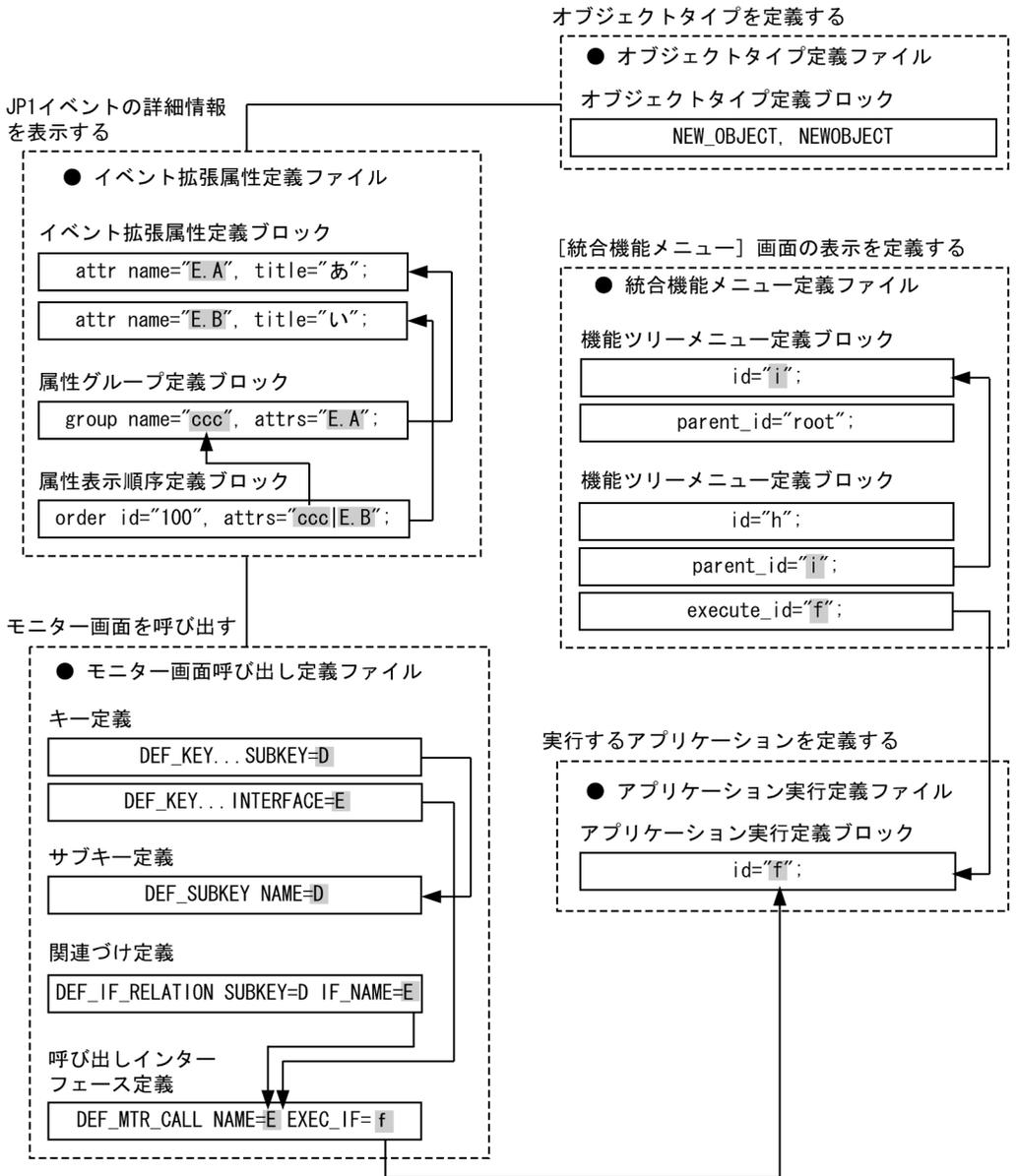
- ユーザー独自のイベント属性を表示する
- JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからモニター画面を表示する
- [ 統合機能メニュー ] 画面に新規メニューを追加する

機能の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.10 ユーザー独自のイベント属性の表示」を参照してください。

## 定義ファイルの概要

定義ファイルの中で、定義を記述するブロック間には関連があります。また、定義ファイル間にも関連があります。それらの関連を次の図に示します。

図 2-1 定義ブロックおよび定義ファイルの関連



(凡例)

→ : 定義の参照元と参照先を示す

### 定義ファイルの命名規則

定義ファイルの命名規則を次に示します。

## 2. 定義ファイル

ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて

表 2-2 定義ファイルの命名規則

定義ファイル名	命名規則
イベント拡張属性定義ファイル	会社名_製品名_attr_ja.conf
オブジェクトタイプ定義ファイル	会社名_製品名_obj.ja
アプリケーション実行定義ファイル	会社名_製品名_app.conf
モニター画面呼び出し定義ファイル	会社名_製品名_mon_ja.conf
統合機能メニュー定義ファイル	会社名_製品名_tree.conf

なお、「製品名」は、「シリーズ名\_製品名」とすることもできます。JP1 イベント発行時の「PRODUCT\_NAME」に指定する値の「/」を「\_」に変更してファイル名に使用することをお勧めします。また、標準提供ファイル名称用に「hitachi」を使用しているため、「会社名」には「hitachi」以外の名称を使用してください。

### 定義ファイルの格納先

それぞれの定義ファイルの格納先を次に示します。

表 2-3 定義ファイルの格納先

定義ファイル名	格納先
イベント拡張属性定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
モニター画面呼び出し定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
アプリケーション実行定義ファイル	JP1/IM・View がインストールされたマシン
統合機能メニュー定義ファイル	JP1/IM・View がインストールされたマシン

### 定義ファイルの構造

この節では、[ イベントコンソール ] 画面、[ 統合機能メニュー ] 画面と連携するためにカスタマイズできる JP1/IM の定義ファイルに共通する事項について説明します。

なお、この節の説明は次の三つの定義ファイルだけに該当します。

- イベント拡張属性定義ファイル
- アプリケーション実行定義ファイル
- 統合機能メニュー定義ファイル

オブジェクトタイプ定義ファイルおよびモニター画面呼び出し定義ファイルは、それぞれ構造が異なります。

### 定義ファイルの構成要素

定義ファイルを構成する要素には、大きく分けて、ステートメント、ブロック、および

コメントがあります。定義ファイルは、そのファイル全体の属性を表すステートメント（定義情報ヘッダー）から開始し、定義内容を記述するブロック、および任意選択のコメントが続きます。

定義ファイルを構成するこれらの要素について説明します。

## ステートメント

### ステートメントの構造

ステートメントとは、複数の構成要素が組み合わされて一つの意味を形成するようになった列のことです。ステートメントは必ず行頭から開始しなければなりません。また、ステートメントは「;」と改行で区切らなければなりません。

### ステートメントの種別

ステートメントは、記述できる場所によって「ファイル内ステートメント」と「ブロック内ステートメント」に分けられます。

#### ファイル内ステートメント

ファイル内ステートメントは、定義ファイルの属性を表すステートメントです。ファイル内ステートメントには、さらに「定義情報ヘッダー用ステートメント」と「ブロック制御用ステートメント」の二つがあります。ファイル内ステートメントには「@」のプリフィックスが付きます。

#### ブロック内ステートメント

ブロック内ステートメントは、ブロック内の属性を表すステートメントです。ブロック内ステートメントは、ブロック開始ステートメント（@define-block）からブロック終了ステートメント（@define-block-end）までの間に記述できるステートメントのうち、コメント以外のものを指します。記述できるブロック内ステートメントは、ブロックごとに決まっています。ブロック内ステートメントには「@」などのプリフィックスは付きません。

## ブロック

### ブロックの構造

ブロックはステートメントの集合体です。ブロックは、ブロックの開始を宣言するステートメント（@define-block）、実際の定義を記述するブロック内ステートメント、コメント、およびブロックの終了を宣言するステートメント（@define-block-end）によって構成されます。定義ファイルの中でブロックをネストできません。

### ブロックの種別

ブロック種別は、ブロック開始ステートメント（@define-block）の「type=」パラメーターで指定します。ブロック種別の詳細については、「@define-block ステートメント」を参照してください。

### ブロックの優先順位

ブロックには、定義内でユニークでなければならないキー項目があります。キー項目が定義内に複数個存在した場合は、優先順位に従ってブロック単位で取捨選択さ

## 2. 定義ファイル

ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて

れます。ブロックの優先順位は次のようになります。

1. ファイル名を昇順にソートしてあとの方のファイル内のブロック
2. ファイル内で記述場所があとの方に存在するブロック

言い換えると、「定義ファイルをファイル名で昇順にソートして一つのファイルに連結し、連結したファイル内であとに記述されているものが優先される」ということになります。

### コメント

コメントとは、行頭が「#」のステートメント、または1行が空白、タブ、または改行だけで構成される行です。コメントは定義情報としての意味を持ちません。

コメントは一つのステートメントとして処理されます。コメントは行単位で判断されるので、「;」で区切る必要はありません。コメントの末尾に「;」を付けた場合は、「;」もコメントの一部として解釈されます。

### 共通ステートメントの生成規則

ファイル内ステートメントには、定義情報ヘッダー用ステートメントとブロック制御用ステートメントの二つがあります。

ファイル内ステートメントの一覧を次に示します。

表 2-4 ファイル内ステートメントの一覧

ステートメント名	意味	種別
@file	定義バージョン、文字コードを宣言する	定義情報ヘッダー用
@product	定義中の PP 情報を宣言する	定義情報ヘッダー用
@define-block	ブロックの開始を宣言する	ブロック制御用
@define-block-end	ブロックの終了を宣言する	ブロック制御用

これらのステートメントのうち、定義情報ヘッダー用ステートメントは、一つの定義ファイル全体に共通する属性を定義します。使用できる定義情報ヘッダー用ステートメントは定義ファイルごとに異なります。また、定義情報ヘッダー用ステートメントのパラメーターも、定義ファイルごとに異なります。

ブロック制御用ステートメントは、その定義ファイル内で定義するブロックの単位を宣言するために使用します。ブロック制御用ステートメントの生成規則は、すべての定義ファイルで共通です。

このあとに、ブロック制御用ステートメントの生成規則を示します。定義情報ヘッダー用ステートメントの生成規則については、個々の定義ファイルの説明を参照してください。

### @define-block ステートメント

### 構文

```
@define-block type=" ブロック種別 ";
```

### 機能

ブロックの開始を宣言します。このステートメントから @define-block-end ステートメントまでを一つの定義ブロックとして扱います。

### パラメーター

- type=" ブロック種別 "  
定義ブロックの種類を指定します。指定できるブロック種別を次に示します。

表 2-5 ブロック種別一覧

ブロック名	パラメーターでの指定値
イベント属性定義ブロック	"event-attr-def"
イベント属性グループ定義ブロック	"event-attr-group-def"
イベント表示順序定義ブロック	"event-attr-order-def"
アプリケーション実行定義ブロック	"application-execution-def"
機能ツリーメニュー定義ブロック	"function-tree-def"

無効なブロック種別が指定された場合は、ブロック全体が無視されて警告が表示されますが、ファイルの解析処理は続行されます。

### 注意事項

定義ブロックをネストできません。

### 定義例

@define-block-end ステートメントの説明を参照してください。

## @define-block-end ステートメント

### 構文

```
@define-block-end;
```

### 機能

@define-block から始まる定義ブロックの終了を宣言します。

### 注意事項

対応する @define-block ステートメントがない場合は、ファイルの解析処理を中止します。

### 定義例

@define-block ステートメントおよび @define-block-end ステートメントの定義例を示します。

```
@define-block type="event-attr-def";  
block lang="Japanese", platform="base";  
attr name="E.SEVERITY", title="重大度";
```

## 2. 定義ファイル

ユーザー独自のイベント属性を表示するための定義ファイルについて

```
attr name="B.TIME", title="登録時刻";  
attr name="B.SOURCESERVER", title="登録ホスト";  
attr name="E.USER_NAME", title="ユーザー名";  
@define-block-end;
```

# 構成定義ファイル (jbs\_route.conf)

---

## 形式

---

```
[マネージャーホスト 1]  
管理対象ホスト  
管理対象ホスト  
:  
[マネージャーホスト 2]  
管理対象ホスト  
:  
:
```

---

## ファイル

jbs\_route.conf (構成定義ファイル)

jbs\_route.conf.model (構成定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Baseパス¥conf¥route¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplbase¥conf¥route¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplbase/conf/route/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplbase/conf/route/

## 説明

JP1/IM で管理するシステムの階層構造を定義するファイルです。

JP1/IM は、システムを管理するマネージャーと、管理対象であるエージェントによって、階層構造のシステム構成により運用します。また、マネージャーは階層化することができます。これによって、さまざまな規模のシステムを管理します。

システム階層構造は、JP1/IM の基盤機能を提供する前提製品 JP1/Base により管理されています。

このファイルで定義した階層構造の情報を基にして、次のように JP1/IM の機能が動作します。

- JP1 イベント転送

重要な JP1 イベントは、構成定義情報で定義した、下位のホストから上位のホストへ

## 2. 定義ファイル

### 構成定義ファイル (jbs\_route.conf)

転送されます (デフォルトの設定の場合)。

- 自動アクション, コマンド実行  
構成定義情報で指定したホストに対して, 自動アクションやコマンド実行によるコマンド実行指示を要求できます。

ファイルの最終行には, 改行を入れてください。

### 定義の反映時期

構成定義情報の内容は, 次のコマンドを実行して定義が反映されてから有効になります。

- jbsrt\_distrib (定義情報の配布)
- jbsrt\_sync (最上位マネージャーでの定義情報の同期)
- jbsrt\_del (定義情報の削除)

### 記述内容

#### [ マネージャーホスト ]

マネージャーのホスト名を指定します。

ホスト名は, 1 ~ 255 バイトの, 半角英数字および記号 ("-", " .") で指定します。

システム構成を分割定義する場合は, ほかの構成定義ファイルと重複するホスト名の前に「\*」を付けます。

マネージャーは, JP1/IM - Manager がインストールされているホストです。

#### 管理対象ホスト

- マネージャーによって管理される管理対象ホストのホスト名を指定します。
- ホスト名は, 1 ~ 255 バイトの, 半角英数字および記号 ("-", " .") で指定します。
- システム構成を分割定義する場合は, ほかの構成定義ファイルと重複するホスト名の前に「\*」を付けます。
- 管理対象ホストには, JP1/Base がインストールされている必要があります。管理対象ホストは, 複数のマネージャーを持つことはできません。
- ホスト名には, hosts ファイルや DNS に登録してあるホスト名, または jplhosts に定義しているホスト名を指定してください。
- ホスト名として, 誤って使用不可文字の「\*」を記述した場合, jbsrt\_distrib コマンドが構成定義を削除する時に「\*」が付いたホスト以下の構成定義情報が削除されません。
- ホストをエイリアス名で定義する場合, 定義ファイルに複数のエイリアス名を記述しないでください。同一ホストの複数のエイリアス名を記述した場合は, それぞれ別ホストとして扱われます。
- コマンド実行, 自動アクション機能を使用する場合, 管理対象ホストにはコマンド実行, 自動アクション機能で指定するホスト名を指定してください。また, 指定するホストが物理ホストの場合, hostname コマンドで返されるホスト名, または, そのホスト名に対するエイリアス名を指定してください。ただし,

Windows 2000 , Windows XP Professional , および Windows Server 2003 のホストは、エイリアス名で記述しないでください (エイリアス名の使用に関する制限はマネージャーの場合も同じです)。

## 定義例

次の表の階層構成で JP1/IM のシステムを組む場合の構成定義ファイルの定義例を一括定義する場合と分割定義する場合に分けて示します。

表 2-6 JP1/IM のシステムの階層構成 (例)

統合マネージャー	拠点マネージャー	エージェント
jp1sv1	jp1sv2	jp1ag1 , jp1ag2
	jp1sv3	jp1ag3 , jp1ag4 , jp1ag5

### 一括定義する場合

一括定義する場合、統合マネージャーで次のように構成定義ファイルを編集します (拠点マネージャー、エージェントでの編集は不要です)。

統合マネージャー (jp1sv1) の構成定義ファイル

```
[jp1sv1]
jp1sv2
jp1sv3
[jp1sv2]
jp1ag1
jp1ag2
[jp1sv3]
jp1ag3
jp1ag4
jp1ag5
```

### 分割定義する場合

分割定義する場合、統合マネージャー、各拠点マネージャーで次のように構成定義ファイルを編集します (エージェントでの編集は不要です)。

統合マネージャー (jp1sv1) の構成定義ファイル

```
[jp1sv1]
*jp1sv2
*jp1sv3
```

拠点マネージャー (jp1sv2) の構成定義ファイル

```
[*jp1sv2]
jp1ag1
jp1ag2
```

拠点マネージャー (jp1sv3) の構成定義ファイル

```
[*jp1sv3]
jp1ag3
jp1ag4
jp1ag5
```

# 環境変数ファイル

---

## 形式

---

```
環境変数名1=変数値1  
[環境変数名2=変数値2]  
:  
:
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

UNIX の場合

コマンドを実行するホストの任意のディレクトリ

## 説明

JP1/IM の管理対象ホストでコマンドを実行するときの環境変数を定義するファイルです。

自動アクションや JP1/IM・View での操作によって、JP1/IM の管理対象ホストでコマンドを実行するときには、そのコマンドの実行環境として環境変数を指定することができます。環境変数は、ここで説明している形式で記述された環境変数ファイルにより指定することができます。

環境変数ファイルのファイル名は任意です。複数の環境変数ファイルを用意することにより、実行するコマンドごとに任意の環境変数を指定することができます。

Windows 環境で環境変数ファイルを指定しない場合、システムの環境変数でコマンドが実行されます。

各行の最後には、必ず改行を入れてください。

「環境変数名 = 変数値」の形式以外の文字列は指定しないでください。コマンドを実行するホスト側の OS によってはコマンドが異常終了することがあります。

## 定義の反映時期

環境変数ファイルは、コマンド実行を開始するときに参照されます。

## 記述内容

環境変数名

環境変数の名称を指定します。

改行文字を含む環境変数は指定できません。

指定する環境変数がシステム環境変数の場合は、環境変数名を「<-」と「->」で囲み、「<-variable->」のように指定してください。

#### 変数値

環境変数の値を指定します。

# ホストグループ定義ファイル

---

## 形式

---

```
ホストグループ名  
{  
  ホスト名1  
  ホスト名2  
  ⋮  
  ⋮  
}
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

JP1/IM の管理対象ホストのグループを定義するファイルです。

JP1/IM では、自動アクションや JP1/IM・View の操作によりコマンドを実行するとき、実行先のホストをグループ化して、各ホストで同じコマンドを一括して実行することができます。

## 定義の反映時期

jcocmddef コマンドを実行して設定したあとに有効になります。

クラスタ構成で論理ホストの設定をする場合は、実行系と待機系の両方で設定してください。

## 記述内容

### ホストグループ名

ホストグループを識別する名称を指定します。

ホストグループ名は、32 文字以内の半角英数字で指定します。空白および全角文字は使用できません。

コマンドを実行するときにホストグループを対象とするときは、この名称を指定します。例えば、自動アクション定義ファイルの「d= 実行先ホスト名・グループ名」の定義項目や、JP1/IM・View の [ コマンド実行 ] 画面の [ 実行ホスト名 ] などに指定します。

### ホスト名

グループを構成するホストの名称を指定します。

ホスト名は、255文字以内の半角英数字で指定します。空白および全角文字は使用できません。

なお、ここで指定できるのは、構成定義ファイルで定義した管理対象ホストだけです。

### ホストグループの削除

ホストグループを削除したいときは、ホストグループ定義ファイルに削除したいホストグループ名の空の定義を作成して、`jcocmddef` コマンドを実行してください。

### ホストグループの編集

既存のホストグループの定義内容を変更したい場合は、同じホストグループ名でホストグループ定義ファイルを作り直し、`jcocmddef` コマンドを実行してください。

# リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル

---

## 形式

---

```
retry-times=リトライ回数
retry-interval=リトライ間隔
open-retry-times=リトライ回数
open-retry-interval=リトライ間隔
hold-count=JP1イベントの保留件数
keep-event={ OLD | NEW }
FILETYPE={ SEQ | SEQ2 | WRAP2 }
HEADLINE=ヘッダーの行数
MARKSTR= [!] "正規表現"
[!] "正規表現n"
ACTDEF= [{EXIT}] [重大度] [イベントID] [!] "正規表現"
[!] "正規表現n"
```

---

注 「正規表現 n」は複数の正規表現の指定を表します。

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Managerパス¥conf¥agtlless¥以下の任意のパス

論理ホストのとき

共有フォルダ¥conf¥agtlless¥以下の任意のパス

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplimm/conf/agtlless/以下の任意のパス

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplimm/conf/agtlless/以下の任意のパス

## 説明

リモート監視のログファイルトラップ機能の動作を定義するファイルです。リモート監視のログファイルトラップ機能の起動時にその内容を参照します。このファイルは、JP1/Base のログファイルトラップ機能の動作定義ファイルと互換性があります。リモート監視のログファイルトラップ機能から JP1/Base のログファイルトラップ機能への監視構成の変更については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「2.3 システムの階層構成での監視構成の変更」を参照してください。

## 定義の反映時期

次の場合に、リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルの設定が有効になります。

- [プロファイル表示 / 編集] 画面でリロードまたは再起動  
[プロファイル表示 / 編集] 画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「4.9 [プロファイル表示 / 編集] 画面」を参照してください。
- jcfallogstart コマンドまたは jcfallogreload コマンドの実行  
jcfallogstart コマンドの詳細については、「jcfallogstart」(1. コマンド) を参照してください。jcfallogreload コマンドの詳細については、「jcfallogreload」(1. コマンド) を参照してください。
- JP1/IM - Manager の再起動

## 記述内容

### retry-times

一時的な通信障害で、イベントサービスへの接続に失敗した場合に行うリトライの回数を 0 ~ 86,400 の範囲で指定します。省略した場合、リトライ処理はしません。

### retry-interval

通信障害で、イベントサービスへの接続に失敗した場合に行うリトライ処理の間隔を 1 ~ 600 (秒) の範囲で指定します。省略した場合、リトライ間隔を 10 秒と見なします。イベントサービスへの接続のリトライ回数を 1 以上に設定した場合に有効になります。リトライ間隔は、イベントサービスへの接続に失敗してから次にイベントサービスへの接続を試みるまでの間隔です。イベントサービスへの接続処理に掛かる時間は含みません。retry-times および retry-interval の組み合わせで 24 時間以上の設定もできますが、リトライを開始した時刻から 24 時間以上経過した場合、リトライ処理は打ち切られます。

### open-retry-times

ログファイルの読み込みに失敗、または監視対象ホストに接続できなかった場合に行うリトライの回数を 1 ~ 3,600 の範囲で指定します。省略した場合、リトライ回数を 1 回と見なします。指定したリトライ回数を超えた場合、ログファイルの監視を停止します。

### open-retry-interval

ログファイルの読み込みに失敗、または監視対象ホストに接続できなかった場合に行うリトライ処理の間隔を 3 ~ 600 (秒) の範囲で指定します。省略した場合、リトライ間隔を 3 秒と見なします。リトライ間隔は、エラー発生後、リトライを試みるまでの間隔です。リトライ回数とリトライ間隔との組み合わせで、1 時間以上の指定もできますが、リトライ開始から 1 時間を超えた場合、リトライオーバーとなり、該当ログファイルの監視を停止します。

## 2. 定義ファイル

### リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル

#### hold-count

リトライ処理中に保留できる JP1 イベントの件数を 1 ~ 100 の範囲で指定します。省略した場合、保留件数を 100 件と見なします。リトライ処理を行う場合、リトライ処理中に変換された JP1 イベントを保留するためのリソースが必要となります。リトライ処理を行う場合に必要なメモリー所要量を次に示します。

- JP1 イベントの保留件数 × 1KB

#### keep-event={ OLD | NEW }

リトライ処理中に保留された JP1 イベントが保留件数を超過した場合、超過した JP1 イベントは消去されます。超過した場合に、古い JP1 イベントと新しい JP1 イベントのどちらを残すかを次のどちらかの値で指定します。省略した場合、OLD が指定されたものと見なします。

##### OLD

古い JP1 イベントを残したい場合に指定します。この場合、hold-count に指定した保留件数までの JP1 イベントが保留され、以降に発生した JP1 イベントは消去されます。

##### NEW

新しい JP1 イベントを残したい場合に指定します。この場合、JP1 イベントの保留件数を超過すると、古い JP1 イベントから消去されます。

#### FILETYPE={ SEQ | SEQ2 | WRAP2 }

トラップするログファイルのデータ出力形式を次のどれかの値で指定します。省略した場合、SEQ が指定されたものと見なします。

##### SEQ

シーケンシャルファイル（一つのログファイルに追加書き込みし続けるファイル、またはログファイルが一定の容量に達すると別のファイル名で新たにログファイルを作成して書き込むファイル）の場合に指定します。

##### SEQ2

ログの出力形式を、配下のディレクトリを含む同一ディレクトリ内にファイル名を変更した退避ファイルを作成したあと、変更前と同じ名称のファイルが再作成される形式のシーケンシャルファイルにする場合に指定します。

なお、作成された退避ファイルは、監視間隔の間は削除されません。また、監視間隔の間にログファイルが 1 回切り替わると、切り替わる前のファイル内から前回読み込んだデータ以降に蓄積されたデータを読み込んだあと、新たなファイル内のデータを読み込みます。そのため、監視間隔の間に 2 回以上切り替わると、切り替わる直前のファイルからのデータしか読み込めません。ログファイルが切り替わる頻度を考慮して jcfallogstart コマンドの -t オプション（ファイル監視間隔）を設定してください。

##### WRAP2

ラップアラウンドファイル（ラップアラウンドするとき、データを削除して再び先頭からデータを書き込むファイル）の場合に指定します。

WRAP2 の場合、データをすべて読み込む前にラップアラウンドしてデータが削除されると、読み込めないデータが発生します。監視間隔を長くすると、一度に読み込むデータの量が多くなるため、jcfallogstart コマンドの -t オプション（ファイル監視間隔）の指定に注意してください。

#### HEADLINE

読み込むログファイルの先頭にヘッダーがある場合、ヘッダーの行数を 0 ~ 99,999 の範囲で指定します。省略した場合、ヘッダーがないものと見なします。なお、指定したヘッダーに含まれる文字列のサイズが、ヘッダーサイズの上限（10 キロバイト）を超えている場合は、エラーとなります。

#### MARKSTR=[!] " 正規表現 "

ログデータ以外のデータなど、監視の対象外にしたいデータを正規表現で指定します。省略した場合、指定がないものと見なします。正規表現は「"」で囲んでください。ログデータ以外のデータとは、一定間隔でログファイル中に出力されるデータなどです。ログデータ以外のデータの例を次に示します。

（例）

```
"==== 13:00:00 JP1/Base Event ====="
```

「!」を「"」の前に付けた場合、除外条件となり、指定した正規表現に一致しないデータを監視の対象外とします。

一つの MARKSTR には、複数の正規表現を指定できます。複数の正規表現を指定した場合、AND 条件となり、「!」の指定も含むすべての正規表現の条件に一致するデータだけを監視対象外とします。なお、複数の正規表現を指定する場合は、正規表現の間を改行で区切ってください。2 行目からは値だけを指定します。この場合、2 行目以降の値の前に一つ以上の空白を入れてください。次に、「====」および「MARK」を含むデータを監視の対象外に指定する場合の例を示します。

（例）

```
MARKSTR="===="（改行）  
"MARK"
```

（凡例）：空白

このパラメーターは複数指定できます。指定できる個数に制限はありません。複数指定した場合、OR 条件となり、それぞれの指定に一致するデータをすべて監視対象外とします。

このパラメーターに指定した正規表現がチェックされるのは、入力したログデータのうち、先頭から jevlogstart コマンドの -m オプションで指定した長さまでの間だけです。このパラメーターを省略すると、ログデータ以外のデータはないと仮定されます。

#### ACTDEF = [{EXIT}] [重大度] [イベント ID] [!] " 正規表現 "

JP1 イベントに変換するログデータの正規表現と、対応する JP1 イベントのイベント ID および重大度を指定します。省略した場合、指定がないものと見なします。正規表現に一致するログがあると、指定したイベント ID で JP1 イベントを発行しま

## 2. 定義ファイル

### リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル

す。なお、「=」、「EXIT」、「重大度」、および「イベント ID」の間にはスペースまたはタブを入れないでください。入れた場合は文法エラーになります。

#### EXIT

複数の ACTDEF パラメーターを指定した場合に、「EXIT」を指定した条件に一致した時点で、そのログデータの監視を終了します。

複数の ACTDEF パラメーターを指定した場合、一つのログデータが複数の ACTDEF パラメーターの条件に一致すると、一致した数だけ JP1 イベントが発行されます。「EXIT」を指定しておくと、「EXIT」を指定した条件のイベント ID で JP1 イベントが発行され、以降の監視は行われません。

#### 重大度

JP1 イベントの拡張属性の重大度を「< >」で囲んで指定します。重大度とイベント ID は、対にして指定します。指定できる値を次に示します。

Emergency

Alert

Critical

Error

Warning

Notice

Information

Debug

指定を省略した場合は Notice が仮定されます。

#### イベント ID

イベントサーバに JP1 イベントを登録する際のイベント ID を指定します。イベント ID は上位 4 バイト（基本コード）と下位 4 バイト（拡張コード）をコロン「:」で区切り、16 進数で記述します。A ~ F は大文字で記述してください。なお、下位 4 バイトまたはコロン以下の下位 4 バイトは省略できます。この場合、省略値には 0 を仮定します。また、上位下位とも 8 桁に満たない場合は前から補われます。ユーザーが指定できる範囲の値、0:0 ~ 1FFF:0 および 7FFF8000:0 ~ 7FFFFFFF:0 を指定してください。なお、拡張コードには 0 を指定してください。イベント ID の表記例を次に示します。

#### (例)

次に示す 3 とおりの表記は同じ意味になります。

0000011A:00000000

11A:0

11A

#### " 正規表現 "

JP1 イベントに変換するログデータを正規表現で指定します。正規表現は「"」で囲んでください。「!」を一つの「"」の手前に付けた場合、除外条件となり、指定した正規表現に一致しないデータを変換対象とします。

一つの ACTDEF パラメーターには、複数の正規表現を指定できます。複数の正規表現を指定した場合、AND 条件となり、「!」の指定も含むすべての正規表現の条件に一致するデータだけを JP1 イベントに変換します。なお、複数の正規表現を指定する場合は、正規表現の間を改行で区切ってください。2 行目からは正規表現だけを指定します。この場合、2 行目以降の値の前に一つ以上の空白を入れてください。次に、「jplbase」および「error」を含むデータを、イベント ID「00000333」で JP1 イベントに変換する場合の指定例を示します。

(例)

```
ACTDRF=00000333 "jplbase" (改行)
                "error"
```

(凡例) : 空白

このパラメーターは複数指定できます。指定できる個数に制限はありません。複数指定した場合、OR 条件となり、それぞれの指定に一致するデータをすべて JP1 イベントに変換します。

このパラメーターに指定した正規表現がチェックされるのは、入力したログデータのうち、先頭から「起動オプションのイベント化するデータの最大長(バイト)」まで指定した長さまでの間だけです。

このパラメーターは省略できません。

## 定義例

MARKSTR パラメーターおよび ACTDEF パラメーターの定義例

次に示すログデータを基に、MARKSTR パラメーターおよび ACTDEF パラメーター部分の定義例を説明します。

1	**** Microsoft WindowsNT5.1(Build:2600)	jp1server TZ=(local)-9:00	2009/01/01 12:00:00.000		
2	yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss	pid	tid	message-id	message(LANG=0x0411)
3	2009/01/01 12:00:00.111 KAXA 4004-E				HostAの起動に失敗しました。
4	2009/01/01 12:00:00.111 KAXA 4004-E				HostBの起動に失敗しました。
5	2009/01/01 12:00:00.111 KAXA 4072-E				HostCでメモリ不足が発生しました。
6	2009/01/01 12:00:00.111 KAXA 4037-W				HostDの起動で遅延が発生しています。
7	2009/01/01 12:00:00.115 KAXA 4072-E				HostDでメモリ不足が発生しました。
8	2009/01/01 12:00:00.116 KAXA 4102-I				JP1Baseの起動が完了しました。
9	**** Microsoft WindowsNT5.1(Build:2600)	jp1server TZ=(local)-9:00	2009/01/02 12:00:00.000		
10	yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss	pid	tid	message-id	message(LANG=0x0411)
11	2009/01/02 15:00:01.004 KAXA 7226-I				HostDを停止します。
12	2009/01/02 15:00:02.108 KAXA 4103-I				JP1Baseの停止が完了しました。
13	2009/01/02 15:10:24.275 KAXA 4037-W				HostBの起動で遅延が発生しています。
14	2009/01/02 15:10:45.501 KAXA 2178-E				***** HostDとHostA間の通信でエラーが発生 *****
15	2009/01/02 15:10:46.149 KAXA 4072-E				HostBでメモリ不足が発生しました。
16	2009/01/02 15:12:48.410 KAXA 4037-W				HostEの起動で遅延が発生しています。

## 2. 定義ファイル

### リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル

#### 定義例 1

ログファイルトラップの条件を左に，ログファイルトラップ動作定義ファイルの定義例を右に示します。

条件		定義例
1	1, 2, 9, 10行目はヘッダーのため，監視対象外にする	MARKSTR="^\\$*\\$*\\$*\\$*" MARKSTR="^\\$*\\$*\\$*\\$*"
2	エラー (-E) メッセージはイベントID : 112でJP1イベントを登録する	ACTDEF= {EXIT} <Error>111"KAXA4072-E"
3	KAXA4072-EはイベントID : 111でJP1イベントを登録する	ACTDEF=<Error>112"KAXA....-E"

●定義された順番で比較するため，条件2→条件3の順番で定義した場合，KAXA4072-Eを含むメッセージ1件に対して，条件2および条件3が成立し，JP1イベントが2件（イベントIDが111および112）登録されます。そのため，条件3→条件2の順番で定義し，条件3が成立した場合には，以降の監視は行わないよう，{EXIT} を定義します。

#### 定義例 2

定義例 1 とは異なるログファイルトラップの条件を左に，ログファイルトラップ動作定義ファイルの定義例を右に示します。

条件		定義例
1	1, 2, 9, 10行目はヘッダーのため，監視対象外にする	MARKSTR="^\\$*\\$*\\$*\\$*" MARKSTR="^\\$*\\$*\\$*\\$*"
2	HostAを含むメッセージはすべて監視対象外。ただし，HostDも含む場合は監視する	MARKSTR="HostA" !"HostD"
3	エラー (-E) メッセージはイベントID : 112でJP1イベントを登録する	ACTDEF= {EXIT} <Notice>111"HostD"
4	エラー (-E) メッセージでも，HostCおよびKAXA4072-Eを含む場合は，イベントID : 999，重要度「情報」でJP1イベントを登録する。	ACTDEF= {EXIT} <Information>999"KAXA4072-E" "HostC"
5	警告 (-W) メッセージはイベントID : 113でイベントを登録するが，HostEを含む場合は変換しない。	ACTDEF=<Error>112"KAXA....-E"
6	HostDを含むメッセージは，イベントID : 111，重要度「情報」でJP1イベント登録する。	ACTDEF=<Warning>113"KAXA....-W" !"HostE"

●定義された順番で比較するため，条件3→条件4の順番で定義した場合，KAXA4072-EとHostCを含むメッセージに対して，イベントIDが112と999のJP1イベントが登録されます。そのため，条件4→条件3の順番で定義し，条件4が成立した場合には，以降の監視は行わないよう，{EXIT} を定義します。

●条件6の {EXIT} がいない場合，HostDを含むエラーメッセージに対してイベントIDが111と112，HostDを含む警告メッセージに対してイベントIDが111と113のJP1イベントが登録されます。

# リモート監視イベントログトラップ動作定義 ファイル

---

## 形式

---

```
retry-times リトライ回数
retry-interval リトライ間隔
trap-interval 監視間隔
matching-level 比較レベル
filter-check-level フィルターチェックレベル
# フィルター
filter ログの種類
    条件文1
    条件文2
    .
    条件文n
end-filter
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Managerパス¥conf¥agtle\$¥以下の任意のパス

論理ホストのとき

共有フォルダ¥conf¥agtle\$¥以下の任意のパス

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1imm/conf/agtle\$以下の任意のパス

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1imm/conf/agtle\$以下の任意のパス

## 説明

リモート監視のイベントログトラップ機能の動作を定義するファイルです。リモート監視のイベントログトラップ機能の起動時にその内容を参照します。

このファイルは、JP1/Base のイベントログトラップ機能の動作定義ファイルと互換性があります。リモート監視のイベントログトラップ機能から JP1/Base のイベントログトラップ機能への監視構成の変更については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の「2.3 システムの階層構成での監視構成の変更」を参照してください。

## 2. 定義ファイル

### リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル

#### 定義の反映時期

次の場合に、リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイルの設定が有効になります。

- [プロファイル表示 / 編集] 画面でリロードまたは再起動  
[プロファイル表示 / 編集] 画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「4.9 [プロファイル表示 / 編集] 画面」を参照してください。
- jcfallogstart コマンドまたは jcfallogreload コマンドの実行  
jcfallogstart コマンドの詳細については、「jcfallogstart」(1. コマンド) を参照してください。jcfallogreload コマンドの詳細については、「jcfallogreload」(1. コマンド) を参照してください。
- JP1/IM - Manager の再起動

#### 記述内容

##### retry-times

一時的な通信障害で、イベントサービスへの接続に失敗した場合には行うリトライの回数を 0 ~ 86,400 の範囲で指定します。省略した場合、リトライ処理はしません。指定された回数のリトライが成功しない場合はエラーとします。retry-times および retry-interval の組み合わせで 24 時間以上の設定もできませんが、リトライを開始した時刻から 24 時間以上経過した場合、リトライ処理は打ち切られます。

##### retry-interval

一時的な通信障害で、イベントサービスへの接続に失敗した場合には行うリトライ間隔を 1 ~ 600 (秒) の範囲で指定します。省略した場合、リトライ間隔を 10 秒と見なします。

##### trap-interval

イベントログを監視する間隔を 60 ~ 86,400 (秒) の範囲で指定します。省略した場合、300 秒と見なします。イベントログトラップは、一定の間隔でイベントログを監視します。

##### matching-level

フィルターに message 属性または category 属性を指定した場合で、メッセージ DLL または カテゴリー DLL が正しく設定されていないなどの理由で、イベントログの説明文の読み込みに失敗したときの、イベントログと定義内容の比較レベルを指定します。0 を指定すると、比較しないで次のフィルターと比較をします。1 を指定すると、比較します。省略した場合、0 を指定したものと見なします。

##### filter-check-level

フィルターに不正な (システムに存在しない) ログの種別や不正な正規表現指定がある場合のチェックレベルを指定します。0 を指定すると、フィルターに不正な口

ログの種別や不正な正規表現がある場合、該当するフィルターを無効にします。ただし、有効なフィルターが一つでもある場合、リモート監視イベントログトラップの起動またはリロードは成功します。有効なフィルターが一つもない場合、リモート監視イベントログトラップの起動またはリロードは失敗します。1を指定すると、フィルターに不正なログの種別や不正な正規表現が一つでもある場合、リモート監視イベントログトラップの起動またはリロードは失敗します。省略した場合、0を指定したものと見なします。

filter ~ end-filter

#### ログの種別

監視の対象となるイベントログの種別を指定します。

(例)

"アプリケーション" または "Application"

"セキュリティ" または "Security"

"システム" または "System"

"DNS Server"

"Directory Service"

"ファイルレプリケーションサービス" または "File Replication Service"

"DFS レプリケーション" または "DFS Replication"

複数のフィルターに同一のログの種別を指定した場合、それらのフィルターのどれかの条件を満たすときに成立します。

#### 条件文

条件文の指定は次のとおりです。

- 属性指定に type 以外を指定した場合  
属性指定 正規表現 1 正規表現 2 正規表現 3 ...
- 属性指定に type を指定した場合  
type ログの種類 1 ログの種類 2 ログの種類 3 ...

属性指定のあとに列挙された正規表現（またはログの種類）のどれかが成立した場合に成立します。なお、フィルター内の条件文は AND 条件、フィルター間は OR 条件です。

#### 属性設定

属性設定は次のとおりです。

属性名	記述する内容
type	ログの種類
source	ソース
category	分類
id	イベント ID
user	ユーザー
message	説明

## 2. 定義ファイル

### リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル

属性名	記述する内容
computer	コンピュータ名

#### • 注意事項

属性設定で "message" を指定した場合、イベントログの説明文で「～に関する説明が見つかりませんでした」という説明文（メッセージ DLL が存在しない説明文）を含んだイベントログは、メッセージを作成できません。そのため、フィルター条件とのマッチングができないというエラーになり、トラップ対象外となります。挿入句にトラップ対象の語句が含まれていたとしてもトラップされません。

#### 正規表現

正規表現は、'...'のように引用符で囲まれた文字列で指定します。!'...'のように引用符の前に感嘆符を付加した場合、指定した正規表現以外の文字列という意味となります。正規表現中に ' を指定する場合は \ ' のようにエスケープ指定する必要があります。正規表現は、ログの種類が type 以外の場合に指定できません。

#### ログの種類

ログの種類は次のとおりです。

ログの種類	内容	重大度
Information	情報	Information (情報)
Warning	警告	Warning (警告)
Error	エラー	Error (エラー)
Audit_success	成功の監査	Notice (通知)
Audit_failure	失敗の監査	Notice (通知)

## 定義例

### 定義例 1 : OR 条件と AND 条件

#### OR 条件の定義例

ログの種類が「システムログ」で、説明に「TEXT」、「MSG」、または「-W」のどれかを含む。

```
filter "System"  
  message 'TEXT' 'MSG' '-W'  
end-filter
```

条件をスペースまたはタブで区切って指定すると、OR 条件になります。

#### AND 条件の定義例

ログの種類が「システムログ」で、説明に「TEXT」、「MSG」、および「-W」をすべて含む。

```
filter "System"  
    message 'TEXT'  
    message 'MSG'  
    message '-W'  
end-filter
```

条件を改行で区切って指定すると、AND 条件になります。改行した場合は、属性名から記述してください。

#### 定義例 2：複数のフィルターを設定する

ログの種別が「アプリケーションログ」のイベントログのうち、次に示す条件のイベントログをトラップする。

##### フィルター 1

- 種別：アプリケーションログ
- 種類：エラー
- 説明：「-E」および「JP1/Base」を含む。

##### フィルター 2

- 種別：アプリケーションログ
- 種類：警告
- 説明：「-W」または「warning」を含む。

```
#フィルター1  
filter "Application"  
    type Error  
    message '-E'  
    message 'JP1/Base'  
end-filter  
#フィルター2  
filter "Application"  
    type Warning  
    message '-W' 'warning'  
end-filter
```

#### 定義例 3：正規表現を使用する

次に示す条件のイベントログをトラップする。

- 種別：アプリケーションログ
- 種類：エラー
- イベント ID：111
- 説明：「-E」または「MSG」を含み、かつ「TEXT」を含まない。

```
filter "Application"  
    type Error  
    id '^111$'  
    message '-E' 'MSG'  
    message '!TEXT'  
end-filter
```

「111」のイベント ID を条件にしたい場合は、正規表現を使用して、「id '^111\$」

## 2. 定義ファイル

### リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル

と指定してください。「id '111」と指定すると、「イベント ID に 111 を含む」という条件になるため、イベント ID が「1112」や「0111」でも条件が成立します。「!」を「」の手前に付けた場合は、指定した正規表現に一致しないデータを選択します。正規表現は、JP1/Base の拡張正規表現を使用します。拡張正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の正規表現の文法を説明している箇所を参照してください。

#### 定義例 4：特定のイベントログだけ変換しない

ログの種類が「システムログ」で、ログの種類が「警告」のイベントログのうち、次に示す条件のイベントログだけトラップしない。

- ソース：AAA
- イベント ID：111
- 説明：「TEXT」を含む。

# ソースが AAA のイベントログはトラップしない。

```
filter "System"  
    type Warning  
    source !'AAA'  
end-filter
```

# ソースが AAA，かつイベント ID が 111 以外のイベントログをトラップする。

```
filter "System"  
    type Warning  
    source 'AAA'  
    id !'^111$'  
end-filter
```

# ソースが AAA，イベント ID が 111，かつ説明に「TEXT」を含まないイベントログをトラップする。

```
filter "System"  
    type Warning  
    source 'AAA'  
    id '^111$'  
    message !'TEXT'  
end-filter
```

# 発生元ホストマッピング定義ファイル (user\_hostmap.conf)

---

## 形式

---

```
[DESC_VERSION=バージョン情報]
#コメント
def 定義名1
  cnd
    イベント条件
  end-cnd
  source_attr 属性名
end-def

def 定義名2
  cnd
    イベント条件
  end-cnd
  source_attr 属性名
end-def
```

---

## ファイル

user\_hostmap.conf (発生元ホストマッピング定義ファイル)

user\_hostmap.conf.model (発生元ホストマッピング定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき  
Consoleパス¥conf¥hostmap¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jplcons¥conf¥hostmap¥

UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jplcons/conf/hostmap/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jplcons/conf/hostmap/

## 説明

発生元ホストマッピングの機能で、発生元ホストをマッピングする JP1 イベントの条件とマッピング元を定義するファイルです。発生元ホストマッピング定義ファイルの最大ファイルサイズは、17 メガバイトです。

## 2. 定義ファイル

発生元ホストマッピング定義ファイル (user\_hostmap.conf)

発生元ホストマッピングの機能は、このファイルの定義に従い、イベント条件に一致する JP1 イベントの発生元ホストをマッピングします。

### 定義の反映時期

発生元ホストマッピングの機能が有効な場合で、次のどちらかが成立するときに有効になります。

- JP1/IM を起動した場合
- jco\_spmc\_reload コマンドを実行した場合

### 記述内容

DESC\_VERSION= バージョン情報

発生元ホストマッピング定義ファイルのファイルバージョンである 1 を指定します。DESC\_VERSION は、定義ファイルの先頭行（空行、コメント行を除いた行のうちファイルのはじめに記述された行）に指定します。先頭行にファイルバージョンがない場合は、ファイルバージョンを 1 と見なして処理します。

# コメント

発生元ホストマッピング定義ファイルの説明を記述します。

def ~ end-def

マッピングの定義ブロックの開始と終了を示します。def ~ end-def ブロックは省略できます。

def 以降には、発生元ホストマッピング定義の定義名を記述します。「def 定義 1 定義 2」と指定した場合、「定義 1 定義 2」が定義名となります。

定義名は、発生元ホストマッピング定義ファイル内で一意になるように指定します。文字列の長さは 1 から 50 バイトまでです。

使用できる文字は、制御文字を除くすべての文字です。

制御文字は、アスキーコードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F ~ 0x9F です。

cnd ~ end-cnd

マッピングする JP1 イベントのイベント条件ブロックの開始と終了を示します。イベント条件ブロックは、マッピングの定義ブロック内に必ず一つだけ指定します。省略できません。受信した JP1 イベントが、複数のイベント条件に一致する場合、発生元ホストマッピング定義ファイルの先頭に近い定義ブロックが優先されます。cnd、および end-cnd パラメーターの前後のタブまたはスペースは無視されます。

イベント条件

マッピングする JP1 イベントの条件を指定します。イベント条件ブロックには、1 件以上、最大 256 件のイベント条件を指定できます。イベント条件とイベント条件は、AND 条件となります。イベント条件は、次の形式で指定します。

属性名 比較キーワード オペランド

### 属性名

属性名には、比較したい属性の名称を指定します。基本属性を指定する場合は、名称の前に「B.」を付けます。拡張属性（共通情報）、拡張属性（固有情報）を指定する場合は、名称の前に「E.」を付けます。英小文字と英大文字を区別します。

指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランドを次に示します。

表 2-7 指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランド

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
1	イベント ID	B.ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。 16 進数形式で指定する。大文字・小文字は区別しない。 指定できる範囲は 0 ~ 7FFFFFFF である。
2	登録要因	B.REASON	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。
3	発行元プロセス ID	B.PROCESSID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。 指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。
4	発行元ユーザー ID	B.USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。 指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。
5	発行元グループ ID	B.GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。 指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。
6	発行元ユーザー名	B.USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。 複数指定では最大 100 件指定できる。
7	発行元グループ名	B.GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。 複数指定では最大 100 件指定できる。
8	発行元イベントサーバ名（登録ホスト名）	B.SOURCESERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。 複数指定では最大 100 件指定できる。

## 2. 定義ファイル

発生元ホストマッピング定義ファイル ( user\_hostmap.conf )

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
9	送信先 イベントサー バ名	B.DESTSERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 0	メッ セージ	B.MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 1	重大度	E.SEVERITY	<ul style="list-style-type: none"> <li>• と一致する</li> </ul>	複数指定できる。複数指定した場合、同じ重大度は指定できない。正規表現を指定した場合は、複数指定できない。"Emergency", "Alert", "Critical", "Error", "Warning", "Notice", "Information", "Debug" のどれかを指定できる。
1 2	ユー ザー名	E.USER_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 3	プロダ クト名	E.PRODUCT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 4	オブ ジェク トタイ プ	E.OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 5	オブ ジェク ト名	E.OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
1 6	登録名 タイプ	E.ROOT_OBJECT_TY PE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
17	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
18	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
19	事象種別	E.OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
20	終了コード	E.RESULT_CODE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
21	拡張属性の固有情報	E.xxxxxxx	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	属性名には、先頭が英大文字で英大文字、数字、およびアンダーバー ( _ ) から構成される 32 バイトまでの名称を設定できる。複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。

注

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、比較キーワードが、「と一致する」「と一致しない」のとき、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、および [ と一致する ] [ と一致しない ] 以外を選択した場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
jcoimdef コマンドの -ignorecasehost オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

比較キーワード

比較キーワードには、「BEGIN ( から始まる )」、「IN ( と一致する )」、「NOTIN ( と一致しない )」、「SUBSTR ( を含む )」、「NOTSUBSTR ( を含まない )」、「REGEX ( 正規表現 )」のどれか一つを指定できます。英小文字と英大文字を区別します。

オペランド

比較キーワードで属性値と比較する値を文字列で指定します。英小文字と英大文字を区別します。

## 2. 定義ファイル

発生元ホストマッピング定義ファイル (user\_hostmap.conf)

オペランドを複数指定する場合は、一つ以上の連続した半角スペースまたはタブをオペランドとオペランドの間に挿入します。オペランドとオペランドは、OR 条件となります。ただし、正規表現を指定している場合は、複数指定できません。オペランドに、半角スペース、タブを指定したい場合、次のように記述します。

項番	指定したい値	指定方法
1	タブ (0x09)	%09
2	半角スペース (0x20)	%20
3	% (0x25)	%25
4	CR (0x0d)	%0d
5	LF (0x0a)	%0a

定義フォーマットの上限チェックの場合、%20、%25 は 1 文字として扱います。複数選択した場合の定義例「ID が 100 と 200 に一致する」を示します。

```
B.ID IN 100 200
(凡例)      :半角スペース (0x20)
```

オペランドは、イベント条件 1 件当たり 4,096 バイトまで、イベント条件ブロック 1 件当たり 4,096 バイト (イベント条件ブロックに記述したオペランドの合計バイト数) まで指定できます。

source\_attr

マッピング元の属性値を指定します。source\_attr には、発生元ホスト名が格納されている値の一つ指定できます。省略はできません。source\_attr は、次の形式で指定します。

source\_attr マッピング元属性値

マッピング元属性値には、属性名または変数名を指定できます。属性名を指定すると、属性値のすべてを格納します。変数名を指定すると、属性値の一部を切り出して格納します (部分切り出し)。

マッピング元属性値に指定できる属性は拡張属性 (固有情報) です。変数名には \$EVENV1 ~ \$EVENV9 が指定できます。

### 定義例

イベント ID が 100 に一致、かつ重大度が Warning で、メッセージが「ホスト AGENT\_A でエラーコード 1111 のエラーが発生しました」(AGENT\_A はホスト名) に一致する場合に、メッセージに含まれるホスト名 (AGENT\_A) を発生元ホスト名に設定する例を次に示します。

```
DESC_VERSION=1
#メッセージ中のホスト名を発生元ホスト名にマッピングする
def 発生元ホストマッピング1
```

```
    cnd
      B.ID IN 100
      E.SEVERITY IN Warning
      B.MESSAGE REGEX ホスト([a-zA-Z0-9¥-_]++)でエラーコード1111のエ
エラーが発生しました
    end-cnd
    source_attr $EVENV1
end-def
```

## 2. 定義ファイル

自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )

# 自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥ACTION]
"ACTIONINFSIZE"=dword:16進数値
"EVENTALIVEPERIOD"=dword:16進数値
"ACTIONEXECUSER"="JP1ユーザー名"
"ACTIONDEFFILE"="ファイル名"
"HOSTINEVENT"="{remote | local}"
"ACTIONINFFILE"="ファイル名"
"ACTIONLIMIT"=dword:16進数値
"SENDABLE_EVENT"="イベントID"
"REGEXP"="{JP1 | EXTENDED}"
"ACTIONPRIORITY"="{DEFAULT | V8COMPATIBLE}"

[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥LOG_CONTROL¥JCAMAIN]
"LOGSIZE"=dword:16進数値
```

---

共通定義情報のパラメーター形式です。上記以外のパラメーターは、内部動作で使うパラメーターですので編集しないでください。

## ファイル

action.conf.update ( 自動アクション環境定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥default¥

UNIX の場合

/etc/opt/jp1cons/default/

## 説明

自動アクションの実行環境の情報を定義するファイルです。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

アクション情報ファイルの容量を小さくする場合

アクション情報ファイルのバックアップを採取し、アクション情報ファイルをいったん削除してから、設定を変更してください。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行して定義を JP1 共通定義情報に反映したあとに、JP1/IM-Manager を起動したときに有効になります。

次のパラメータについては、jco\_spm�\_reload コマンドによるリロードによっても、有効となります。

- "EVENTALIVEPERIOD"
- "ACTIONEXECUSER"
- "HOSTINEVENT"
- "SENDABLE\_EVENT"

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥ACTION]

アクション実行環境設定のキー名称です。

"論理ホスト名" の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"ACTIONINFSIZE" =dword:16 進数値

アクション情報ファイル容量を 16 進数値 ( キロバイト単位 ) で指定します。  
指定できる値は次のとおりです。

Windows, HP-UX, Solaris, AIX, および Linux ( Linux (IPF) を除く ) の場合  
指定できる値は、「dword:00000001 ~ 00001000」(1 ~ 4,096 キロバイト)  
です。デフォルト値は、「dword:00000272」(626 キロバイト) です。

Linux (IPF) の場合

指定できる値は、「dword:00000001 ~ 00001C00」(1 ~ 7,168 キロバイト)  
です。デフォルト値は、「dword:00000446」(1,094 キロバイト) です。

アクション情報ファイルは、自動アクションの実行情報を保存するファイルです。  
イベントコンソールおよび jcashowa コマンドでアクションを参照する場合や、  
アクション状態通知イベントを発行する場合は、アクション情報ファイルを参照しま  
す。

このファイルは、"ACTIONINFSIZE" で設定した値に達すると上書きされるラップ  
アラウンド形式のファイルです。そのため、上書きされた古いアクション情報はイ  
ベントコンソールおよび jcashowa コマンドで参照できなくなったり、アクション  
状態通知イベントが発行されなくなったりすることがあります。過去のアクション  
実行結果を参照する場合や、アクション情報通知イベントを発行する場合は、参照  
したいアクション情報の容量を見積もって、"ACTIONINFSIZE" に設定しておく必  
要があります。

アクション情報ファイルの容量見積もりの詳細については、JP1/IM - Manager のリ  
リースノートを参照してください。

アクション情報ファイル容量をデフォルト値に設定した場合は、10,000 アクション  
分の情報を参照できます。

"EVENTALIVEPERIOD" =dword:16 進数値

AND イベント保管期限を、分単位で指定します。

1 ~ 1,440 ( 分 ) の 16 進数値で指定します。デフォルト値は「dword:0000003c」

## 2. 定義ファイル

自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )

( 60 分 ) です。

"ACTIONEXECUSER"="JP1 ユーザー名 "

アクション実行標準ユーザーとして JP1 ユーザーを指定します。

15 バイトまでの文字列で指定します。デフォルト値は "" ( なし ) です。指定がない場合は、jp1admin が仮定されます。

自動アクションの定義で、実行ユーザーを指定しなかった場合は、ここで定義した JP1 ユーザーでアクションを実行します。

"ACTIONDEFFILE"=" ファイル名 "

自動アクション定義ファイル名を指定します。

デフォルトで "actdef.conf" が指定されています。この値は変更せずに使用してください。

この自動アクション定義ファイルで、自動アクション機能によってアクションを実行する条件および実行するコマンドを定義します。

"HOSTINEVENT"="{remote | local}"

イベント発行元ホスト名取得方法を指定します。

"remote" または "local" のどちらかを指定します。デフォルト値は "remote" です。

- "remote" を指定した場合は、イベント属性中の「発行元イベントサーバ名」をイベント発行元ホスト名として使用します。
- "local" を指定した場合は、JP1/IM・Manager 上でイベント属性中の「発行元 IP アドレス」から gethostbyaddr を利用して求めたホスト名を、イベント発行元ホスト名として使用します。ホスト名が求まらなかった場合は、IP アドレスをイベント発行元ホスト名として使用します。

"ACTIONINFFILE"=" ファイル名 "

アクション情報ファイル名を指定します。

デフォルトで "actinf.log" が指定されています。この値は変更せずに使用してください。

"ACTIONLIMIT"=dword: 16 進数値

コマンド先行入力数を指定します。

自動アクションの実行先ホストで JP1/Base 06-51 以前を使用する場合に、実行先ホストのコマンド先行入力数を指定します。指定できる値は、「dword:00000001 ~ 00000040」( 1 ~ 64 件 ) です。デフォルト値は「dword:0000000a」( 10 件 ) です。なお、自動アクションの実行先ホストで JP1/Base 06-71 以降を使用する場合は、コマンド先行入力数は、実行先ホストの JP1/Base で設定します。この場合、コマンド先行入力数は、実行先ホストで jcocmddef コマンドを使用して設定してください。デフォルト値は 1,024 件です。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「12.7.6 コマンド実行環境の検討」を参照してください。

"SENDABLE\_EVENT"=" イベント ID"

自動アクション発行イベント ( イベント ID が 20A0, 20A1, 20A2, 20A3, および 20A4 の JP1 イベント ) を指定します。

指定できるのは 20A0, 20A1, 20A2, 20A3, 20A4 で、複数指定する場合は半角スペースで区切ります。

デフォルト値は "20A0 20A3 20A4" です。

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

"REGEXP"=" {JP1 | EXTENDED } "

使用する正規表現の種類を指定します。

"JP1" または "EXTENDED" のどちらかを指定します。デフォルト値は "EXTENDED" です。

"JP1" を指定すると、JP1 独自正規表現、"EXTENDED" を指定すると拡張正規表現が自動アクションの定義で使用できます。

なお、このパラメーターは Windows 限定のパラメーターで、UNIX の場合指定する必要はありません。

"ACTIONPRIORITY"=" {DEFAULT | V8COMPATIBLE } "

アクションの優先順位を指定します。

"DEFAULT" または "V8COMPATIBLE" のどちらかを指定します。大文字・小文字を区別します。デフォルト値は "DEFAULT" です。

パラメーターが存在しない場合は "V8COMPATIBLE" で動作します。

- "DEFAULT" を指定すると、同一パラメーターのアクション定義が複数指定された場合、自動アクション定義ファイルの記述順で先頭行に近いアクション定義を優先します。
- "V8COMPATIBLE" を指定すると、JP1/IM - Manager のバージョンが 09-00 より前の自動アクション機能と同じ優先順位となります。つまり、同一パラメーターのアクション定義が複数指定された場合、「イベント ID を指定したアクション定義」を「すべてのイベントを対象としたアクション定義」より最も優先し、次に自動アクション定義ファイルの記述順で先頭行に近いアクション定義を優先します。

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥LOG\_CONTROL¥JCAMAIN]

自動アクションログ定義のキー名称です。

"論理ホスト名" の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"LOGSIZE"=dword:16 進数値

自動アクショントレースログ (1 ファイル) の最大サイズ値を指定します。

65,536 ~ 104,857,600 バイトの 16 進数値で指定します。単位はバイトです。デフォルト値は「dword:00500000」( 5,242,880 バイト ( 5 メガバイト )) です。

デフォルト値の場合、実行するコマンドの最大長が 100 バイトのアクションを 3000

## 2. 定義ファイル

自動アクション環境定義ファイル ( action.conf.update )

コマンド実行したときでもラップアラウンドしない値です。ログサイズを変更する場合は、JP1/IM・Manager のリリースノートを参照してログサイズを見積もってください。

### 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEMANAGER¥ACTION]
"ACTIONINFSIZE"=dword:00000010
"EVENTALIVEPERIOD"=dword:0000003c
"ACTIONEXECUSER"="JP1USER"
"ACTIONDEFFILE"="actdef.conf"
"HOSTINEVENT"="remote"
"ACTIONINFFILE"="actinf.log"
"SENDABLE_EVENT"="20A0 20A3 20A4"
"REGEXP"="JP1"

[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEMANAGER¥LOG_CONTROL¥JCAMAIN]
"LOGSIZE"=dword:00100000
```

ファイルの終端が最下行の先頭になるようにしてください。

# 自動アクション定義ファイル (actdef.conf)

---

## 形式

---

```
[#自動アクション定義ファイルバージョン]
[DESC_VERSION=バージョン情報]

[#自動アクション状態監視パラメーター]
cmn
    [sta true|false]
end-cmn

[#自動アクション定義パラメーター]
act アクション名
    [prm パラメーターグループ]
    [cmt コメント]
    eid イベントID

    cnd
        イベント条件
    end-cnd

    [usr ユーザー名]
    [hst 実行ホスト名|グループ名|業務グループ名|監視グループ名]
    [cmd アクション]| [rul]
    [var 環境変数ファイル名]

    [det 抑止時間]
    [ret 遅延監視時間]
end-act
```

---

## ファイル

actdef.conf (自動アクション定義ファイル)

actdef.conf.model (自動アクション定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき  
Consoleパス¥conf¥action¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jplcons¥conf¥action¥

UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jplcons/conf/action/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jplcons/conf/action/

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

### 説明

JP1/IM の自動アクション機能で、アクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義するファイルです。このファイルは、JP1/IM - Manager の動作する言語コードで記述してください。

自動アクション定義ファイルの最大サイズは、22 ( 23,068,672 バイト ) メガバイトです。

自動アクション機能はファイルの定義に従い、特定の条件を満たす JP1 イベントを受信した時に、自動的にコマンドを実行します。

各行のアクションの定義をパラメーターといいます。自動アクション定義ファイルのパラメーターには、次の 3 種類があります。

- 自動アクション定義ファイルバージョン  
自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョンを定義します。
- 自動アクション状態監視パラメーター ( 共通ブロック )  
共通ブロック内では、cmn のパラメーターが指定でき、自動アクションの状態を監視するかどうかを定義します。
- 自動アクション定義パラメーター ( アクションブロック )  
アクションブロック内には prm や cmt などのパラメーターが指定でき、アクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義します。

自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターは、自動アクション定義パラメーターの前に記述してください。自動アクション定義パラメーターの後ろに、自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターを記述した場合、定義内容は無効になります。

また、自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターを、複数回定義した場合、最初の定義を有効、2 回目以降の定義を無効とします。

### 定義の記述

- パラメーターの各単語は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- 各行の先頭のパラメーター名の前の半角スペース、タブは無視します。
- 「#」で始まる行は、コメントになります。ただし「#」の前に文字列が入っている場合は、コメント行として扱いません。
- アクション定義で設定できるパラメーター名は、小文字で指定してください。大文字を含むパラメーター名を指定した場合、無効なパラメーターとして定義エラーとなります。

### アクションの優先度

受信した JP1 イベントが、複数の自動アクション定義の実行条件と一致する場合、( 後述するパラメーターグループごとに ) 最も優先順位の高い自動アクションが一つだけ実行されます。自動アクションの優先順位は、次の規則によって決まります。

- 自動アクション定義ファイルで前に記述されている ( GUI では [ アクション設定 ]

の画面で上に表示されている) 自動アクションが優先されます。

アクションの優先度は、共通定義で変更できます。自動アクションの優先順位については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「5.3.2 実行条件の優先度」を参照してください。

#### パラメーターグループと AND 条件

それぞれの自動アクション定義パラメーターは、パラメーターグループに属します。パラメーターグループとは、自動アクション実行の条件を判定する単位です。パラメーターグループによって、一つの JP1 イベントで複数のアクションを実行する場合や、複数の条件を満たすときにアクションを実行する場合など、複雑な条件を指定することができます。

一つの JP1 イベントが JP1/IM のマネージャーホストに届くと、パラメーターグループごとに、優先順位の順に自動アクション定義パラメーターと実行条件を比較します。実行条件が一致する場合は、パラメーターグループごとに優先順位の最も高い自動アクション定義パラメーターが一つだけ実行されます。

パラメーターグループに「&」を指定すると、前の行に定義した自動アクション定義パラメーターとの AND 条件となります。自動アクション定義パラメーターを AND 条件として指定すると、すべての条件が満たされたときにアクションが実行されます。

#### 指定内容の確認

作成した定義ファイルは、jcamakea コマンドを使って定義ファイルの定義内容を確認してください。

#### 定義の反映時期

自動アクションの定義は、JP1/IM・Manager の起動時、JP1/IM・View の [アクション設定] 画面の [適用] ボタンをクリックして定義を有効にしたとき、および jccachange コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。

#### 記述内容 (自動アクション定義ファイルバージョン)

自動アクション定義ファイルバージョンに記述する項目について説明します。

##### DESC\_VERSION= バージョン情報

自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョンを定義します。この定義は、自動アクション定義ファイルの先頭行 (空行、コメント行を除いた行のうちファイルのはじめに記述された行) に記載します。先頭行以外に記載した場合、定義エラーとなります。

表 2-8 自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョン情報

バージョン情報	説明
1	07-11 ~ 07-51 の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。
2	08-00 以降の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。

## 2. 定義ファイル

### 自動アクション定義ファイル (actdef.conf)

バージョン情報	説明
3	09-00 の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。

このパラメーターを省略、または「1」を指定した場合は、バージョン情報を「2」と仮定して読み込みます。JP1/IM - View で [アクション設定] 画面の [適用] ボタンをクリックしたとき、「2」に設定し直します。

このパラメーターに「1」、「2」、または「3」以外の値を指定した場合、統合トレースログにエラーが出力され、バージョン情報を「2」と仮定して読み込みます。このとき、JP1/IM - View で [アクション設定] 画面は表示できません。バージョン情報を変更したい場合は、直接定義ファイルを編集してください。

旧バージョンの自動アクション定義ファイルのフォーマットは、08-00 以降の自動アクション定義ファイルのフォーマットと互換性があるため、08-00 以降のフォーマットとして読み込まれます。

このパラメーターが自動アクション定義パラメーター以降の行に記述されている場合、JP1/IM - View で [アクション設定] 画面が表示できなくなります。

jcamakea コマンドを実行して自動アクションの定義ファイルの内容をチェックすることをお勧めします。

### 記述内容 (自動アクション状態監視パラメーター)

自動アクション状態監視パラメーターに記述する項目について説明します。

cmn ~ end-cmn

すべてのアクション定義に有効なパラメーターを指定するブロックの開始と終了パラメーターです。cmn ~ end-cmn で定義している部分を共通ブロックと呼びます。このブロックは、「自動アクション定義パラメーター」の前に指定する必要があります。なお、このパラメーターは、自動アクション定義ファイルに一つだけ指定します。なお、このブロックは、省略できます。省略した場合は、sta パラメーターは false を仮定します。

[sta true|false]

アクションの状態を監視するかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。状態監視する場合は「true」、状態監視しない場合は「false」です。デフォルト値は「false」です。

### 記述内容 (自動アクション定義パラメーター)

自動アクション定義パラメーターに記述する各項目について説明します。

act アクション名 ~ end-act

自動アクション定義の開始と終了パラメーターです。act ~ end-act 間で定義する件数に制限はありません。ただし、一つ以上定義する必要があります。act アクション名 ~ end-act で定義している部分をアクションブロックと呼びます。

act のあとにはアクション名を、1 ~ 50 バイトの文字列で指定します。指定できる文字は、制御文字 (0x00 ~ 0x1F, 0x7F ~ 0x9F) 以外の文字列です。

アクション名は、ほかのアクションブロックで指定したアクション名と重複できません。アクションブロックで指定できるパラメーターを次に示します。

prm, cmt, eid, cnd ~ end-cnd, usr, hst, cmd, rul, var, det, ret

#### prm パラメーターグループ

パラメーターグループを指定します。このパラメーターを省略した場合、「0」を仮定します。

パラメーターグループは、1 けたの数字 (0 ~ 9) および「&」で指定できます。1 けたの数字 (0 ~ 9) を指定した場合、アクション名は省略できません。「&」を指定すると、直前のアクションブロックとの AND 条件の指定になります。この場合、このアクションブロックの自動アクション定義パラメーターが属するパラメーターグループは、直前のアクションブロックと同じになります。「&」を指定している場合は、アクション名を指定できません。

「&」を指定していないアクションブロックのあとに、AND 条件のアクションブロックを最大 9 件 (最初のアクションブロックを含めて 10 件) 指定できます。

同一のパラメーターグループでは、アクションブロックで前に記述されている (GUI では [アクション設定] の画面で上に表示されている) アクションブロックが優先します。一つの JP1 イベントがマネージャーに届くと、パラメーターグループごとに、優先順位の順にアクションブロックのイベント条件とマッチングします。イベント条件が一致する場合は、パラメーターグループごとに優先順位の最も高いアクションブロックのアクションを実行し、実行したアクションブロック以降のアクションブロックはマッチングしません。また、パラメーターグループの小さいものから大きいものの順番にイベントとマッチングを実施します。自動アクションの優先順位については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「5.3.2 実行条件の優先度」を参照してください。

#### cmt コメント

アクションブロックの説明を記述します。このパラメーターは省略できます。コメントは 1,040 バイト以内で指定してください。指定できる文字は、すべての文字です。1,040 バイトを超えた分は削除されます。

#### eid イベント ID

アクション条件のイベント ID を指定します。このパラメーターは省略できません。また、複数指定はできません。

イベント ID は、基本部および拡張部から構成されます。イベント ID は、1 ~ 8 桁の 16 進数で指定し、基本部および拡張部は「:」(半角コロン) で区切って指定します。英小文字と英大文字を区別しません。なお、拡張部は省略できます。任意のイベント ID を指定する場合は、「\*」で指定します。「\*」を指定するとすべてのイベントをアクションの対象にするため、JP1 イベントの発生頻度が大きい場合にアクションが大量に発生し、実行が遅延することがあります。「\*」を指定する場合は、

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

その他の条件 ( メッセージ, イベント基本情報, イベント詳細情報, イベント拡張情報 ) でイベントを絞り込んでください。

指定例を次に示します。

例) イベント ID A を指定する場合, 下記のように指定します。

```
eid a
eid A
eid 0000000a
eid 0000000A
eid 0000000A:0
eid 0000000A:00000000
```

例) 任意のイベント ID を指定する場合, 下記のように指定します。

```
eid *
```

cnd イベント条件 ~ end-cnd

アクションを実行するイベント条件を指定するブロックの開始と終了パラメーターです。イベント条件ブロックは省略できません。イベント条件ブロックは, アクションブロック内に一つだけ指定します。イベント条件ブロックには, 0 ~ 256 件のイベント条件を指定できます。それぞれのイベント条件は, AND 条件となります。

イベント条件

イベント条件は, 次の形式で指定します。

属性名 比較キーワード オペランド [ オペランド ] ...

なお, 半角スペース, または, タブだけで構成された行は, 無視して処理を続行します。

属性名

属性名には, 比較したい属性の名称を記述します。基本属性を指定する場合は, 名称の前に「B.」を付けます。拡張属性 ( 共通情報 ), 拡張属性 ( 固有情報 ) を指定する場合は, 名称の前に「E.」を付けます。英小文字と英大文字を区別します。

比較キーワード

比較キーワードには, 「BEGIN ( から始まる )」, 「IN ( と一致する )」, 「NOTIN ( と一致しない )」, 「SUBSTR ( を含む )」, 「NOTSUBSTR ( を含まない )」, 「REGEX ( 正規表現 )」のどれか一つを指定できます。英小文字と英大文字を区別します。

オペランド

比較キーワードで属性値と比較する値を文字列で指定します。英小文字と英大文字を区別します。

オペランドを複数指定する場合は, 一つ以上の連続した半角スペースまたはタブをオペランドとオペランドの間に挿入して区切ります。オペランドとオペランドは, OR 条件となります。ただし, 正規表現を指定している場合は, 複数指定できません。

オペランドに、半角スペース、タブ、改行コード (CR, LF) および % を指定したい場合、次のように記述します。

項番	指定したい値	指定方法
1	タブ (0x09)	%09
2	半角スペース (0x20)	%20
3	% (0x25)	%25
4	改行コード LF (0x0a)	%0a
5	改行コード CR (0x0d)	%0d

定義フォーマットの上限チェックの場合、%20、%25 は 1 文字として扱います。複数選択した場合の定義例「ID が 100 と 200 に一致する」を示します。

```
B.ID IN 100 200
```

(凡例) :半角スペース (0x20)

オペランドは、イベント条件 1 件当たり 4,096 バイトまで、イベント条件ブロック 1 件当たり 4,096 バイト (イベント条件ブロックに記述したオペランドの合計バイト数) まで指定できます。

#### イベント基本情報

属性名に B.BASIC を指定すると、自動アクション定義ファイル (互換用) のイベント基本情報と同じ条件を設定できます。

属性名に B.BASIC を指定した場合は、比較キーワードには REGEX を指定してください。

オペランドは、自動アクション定義ファイル (互換用) のイベント基本情報と同じ形式で指定できます。ただし、半角スペース、タブ、改行 (CR, LF)、% は、% を使って記述してください。また、「/」は、「/」と記述してください。

「¥/」と記述する必要はありません。

#### イベント詳細情報

属性名に B.DETAIL を指定すると、自動アクション定義ファイル (互換用) のイベント詳細情報と同じ条件を設定できます。

属性名に B.DETAIL を指定した場合は、比較キーワードには REGEX を指定してください。

オペランドは、自動アクション定義ファイル (互換用) のイベント詳細情報と同じ形式で指定できます。ただし、半角スペース、タブ、改行 (CR, LF)、% は、% を使って記述してください。また、「/」は、「/」と記述してください。

「¥/」と記述する必要はありません。

イベント条件で指定できる属性名、比較キーワードおよびオペランドについて次の表に示します。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

表 2-9 イベント条件で指定できる属性名，比較キーワードおよびオペランド

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
1	イベント ID	B.ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>イベント ID を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> <li>一致する，一致しないの場合は，イベント ID の大文字，小文字は区別しない。</li> <li>指定できる範囲は 0 ~ 7FFFFFFF である。</li> <li>正規表現の場合は，比較するイベントのイベント ID を，次の形式と見なして比較する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント ID 拡張部が 0 の場合：イベント ID 基本部（16 進数 8 桁の英大文字または数字の文字列）</li> <li>イベント ID 拡張部が 0 でない場合：イベント ID 基本部（16 進数 8 桁の英大文字または数字の文字列）：イベント ID 拡張部（16 進数 8 桁の英大文字または数字の文字列）</li> </ul> </li> </ul> <p>イベント ID 基本部またはイベント ID 拡張部は，8 桁未満の値であった場合は先頭を 0 で埋め，8 桁の文字列とする。</p>
2	発行元プロセス ID	B.PROCESSID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>発行元 AP のプロセス ID を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> <li>指定できる範囲は，-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
3	登録時刻	B.TIME	正規表現	<p>JP1 イベントが発行元ホストのイベント DB に登録された時刻を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定方法は YYYYMMDDhhmmss の形式で正規表現で指定する。</li> </ul>
4	到着時刻	B.ARRIVEDTIME	正規表現	<p>JP1 イベントが発行元ホストのイベント DB に到着した時刻を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定方法は YYYYMMDDhhmmss の形式で正規表現で指定する。</li> </ul>

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
5	発行元ユーザー ID	B.USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>正規表現</li> </ul>	発行元プロセスのユーザー ID (数値) を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> <li>指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
6	発行元グループ ID	B.GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>正規表現</li> </ul>	発行元プロセスのグループ ID (数値) を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> <li>指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
7	発行元ユーザー名	B.USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	発行元プロセスのユーザー名を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
8	発行元グループ名	B.GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	発行元プロセスのグループ名を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
9	発行元 IP アドレス	B.SOURCEIPADDR	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	発行元イベントサーバに対応する IP アドレスを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
10	発行元イベントサーバ名 (登録ホスト名)	B.SOURCESERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	JP1 イベントが発生したホストのホスト名 (イベントサーバ名) を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
11	メッセージ	B.MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	イベント基本属性のメッセージを設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペラント
1 2	詳細情報	B.DETAIL	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>イベント基本属性の詳細情報を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> <li>JP1 イベントの詳細情報にバイナリー形式のデータが設定されている場合、JP1 イベントの詳細情報を空文字 "" ( 0 バイト ) として比較する。</li> <li>互換用として使用できる。</li> </ul>
1 3	登録要因	B.REASON	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>登録要因を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
1 4	開始時刻	E.START_TIME	正規表現	<p>実行開始または再実行開始の時刻を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定はできない。</li> <li>通算秒の正規表現指定で設定する。</li> </ul>
1 5	終了時刻	E.END_TIME	正規表現	<p>実行終了の時刻を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定はできない。</li> <li>通算秒の正規表現指定で設定する。</li> </ul>
1 6	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントを発行したプロダクトの名称を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
1 7	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>オブジェクトの種類を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
1 8	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのオブジェクト名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
1 9	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの登録名タイプを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
20	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの登録名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
21	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのオブジェクト ID を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
22	事象種別	E.OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの事象種別を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
23	ユーザー名	E.USER_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントを発行したユーザー名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
24	終了コード	E.RESULT_CODE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>終了コードを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
25	重大度	E.SEVERITY	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの重大度を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>"Emergency" ( 緊急 ), "Alert" ( 警戒 ), "Critical" ( 致命的 ), "Error" ( エラー ), "Warning" ( 警告 ), "Notice" ( 通知 ), "Information" ( 情報 ), "Debug" ( デバッグ ) の中から指定する。</li> <li>複数指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
26	発生元ホスト名	E.JP1_SOURCEHOST	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発生元ホスト名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
27	イベント基本情報	B.BASIC	正規表現	バージョン 8 以前の互換用のイベント基本情報を設定できる。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
28	固有の拡張属性	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>含む</li> <li>含まない</li> <li>から始まる</li> <li>正規表現</li> </ul>	固有の拡張属性の属性名を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>属性名を先頭が英大文字で、英大文字、数字、およびアンダーバー( <code>_</code> ) から構成される 32 バイトまでの名称を設定できる。</li> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>

( 凡例 )

- : なし

注

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、比較キーワードが、「と一致する」「と一致しない」のとき、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
 統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、および [ と一致する ] [ と一致しない ] 以外を選択した場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
 また、jcoimdef コマンドの `-ignorecasehost` オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

usr ユーザー名

アクションを実行する JP1 ユーザー名を指定します。usr パラメーターは省略できます。省略した場合、自動アクションの実行環境の定義で、アクション実行標準ユーザーとして指定した JP1 ユーザー名を仮定します。アクション実行標準ユーザーも指定されていない場合は、jpladmin を使用します。

ユーザー名は、31 バイト以内の文字列で指定します。なお、ユーザー名に半角スペースを含む文字列は指定できません。また、ユーザー名には、変数を指定できません。受信した JP1 イベントに含まれる情報をユーザー名に設定したい場合は、変数を指定します。

ユーザー名にはイベントの情報を設定できます。

アクションを実行するとき、実行先ホストで、ここで指定した JP1 ユーザーを JP1/Base の定義に従って OS ユーザーにユーザーマッピングしてコマンドを実行します。UNIX の場合は、ユーザーマッピングした OS ユーザーのシェル環境を使用して実行します。なお、rul パラメーターと同時に指定できません。

hst 実行ホスト名 | グループ名 | 業務グループ名 | 監視グループ名

アクションを実行するホスト名、ホストグループ名、業務グループ名、および監視グループ名を指定します。ホスト名にはシステム構成の定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。hst パラメーターは省略できます。省略した場合、自ホストを仮定します。

実行ホスト名、ホストグループ名は、255 バイト以内の文字列で指定します。実行ホスト名、ホストグループ名に半角スペースを含むものは指定できません。また、

実行ホスト名、またはホストグループ名には、変数を指定できます。受信した JP1 イベントに含まれる情報を実行ホスト名、またはホストグループ名に設定したい場合は、変数を指定します。例えば、イベント発行元のホストでアクションを実行したい場合は、「\$EVHOST」と指定します。

実行ホスト名、ホストグループ名にはイベントの情報を設定できます。

業務グループ名、監視グループ名には、最大 2,048 バイトの文字列を指定できます。指定された文字列が「/」で始まる場合は、業務グループ名、監視グループ名と見なします。ただし、統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合は、ホスト名またはホストグループ名と見なします。

なお、rul パラメーターと同時に指定できません。

#### cmd アクション

アクションとして実行するコマンドを指定します。指定できるコマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「5. 自動アクションによるコマンド実行」を参照してください。

cmd パラメーターは省略できます。省略した場合、アクションを実行する条件が成立しても、何も実行しません。

ただし、次のパラメーターのどれかを指定した場合、cmd パラメーターを省略すると定義エラーとなります。

usr, var, hst, det, ret

また、cmd パラメーターは、複数指定できません。アクションは、4,096 バイト以内の文字列で指定します。アクションの前のタブ・スペースは削除し、アクションの後ろのスペースは削除しません。

このパラメーターは、rul パラメーターと同時に指定できません。

アクションにはイベントの情報を設定できます。

なお、変数を使うことで受信した JP1 イベントに含まれる情報を指定できます。例えば、実行ホストが UNIX の場合、次のように記述すると、JP1 イベントのイベント発行元ホスト名を環境変数 HOSTNAME に指定できます。

```
HOSTNAME="$EVHOST" アクション  
xxx_BASIC="$EVBASE" xxx_MESSAGE="$EVMSG" アクション
```

#### アクションのコマンド長に関する注意事項

アクションとして実行できるコマンドの長さは、アクション定義で使用できる変数 (\$EVMSG など) の変換後の情報を含めて、4,096 バイトまでです。コマンドの長さが 4,096 バイトを超えた場合は実行状態が「実行不可」になり、コマンドは実行されません。[アクション結果詳細]画面の[メッセージ]欄には、「KAVB4421-W コマンドラインが長過ぎるためアクションが実行できませんでした」と表示されます。アクションとして実行できるコマンドの長さは、JP1/IM・Manager、JP1/Base を運用しているシステムによって変わります。

自動アクションの実行経路上のホスト（実行元マネージャーホスト、実行先ホストを含む）にバージョン 6、バージョン 7 の JP1/IM・Manager、JP1/Base がある場合には、コマンドの長さは、最大 1,024 バイトに抑える必要があります。コマンド

## 2. 定義ファイル

### 自動アクション定義ファイル (actdef.conf)

長に関する注意事項の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「11.4(2) 注意事項」を参照してください。

#### アクション中の文字として認識できないコードについての注意事項

アクション中に、文字として認識できないコード (ASCII コードおよび環境設定で指定した日本語文字コードの文字集合に含まれない部分) が含まれた場合、実行先ホストのシェルなどの仕様で実行されない、または実行されても結果が不正になることがあります。この場合、アクションは実行失敗にならず、終了状態になります。定義ファイル中に上記の不正なコードを指定していなくても、アクション定義で使用できる変数から実行時に置き換えることでアクションに含まれる場合があります。アクション対象イベントを発行する各製品のマニュアルなどで確認し、アクション定義で使用できる変数を指定してください。

#### rul

JP1/IM - RL へのルール起動要求を設定したい場合に指定します。なお、このパラメーターは、var、cmd、usr、hst パラメーターとは同時に指定できません。

#### var 環境変数ファイル名

アクションとして実行するコマンドの環境変数を指定した環境変数ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このパラメーターは省略できます。省略した場合、環境変数ファイルは仮定されません。環境変数ファイルの形式については、「環境変数ファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。

環境変数ファイル名は、255 バイト以内の文字列で指定します。環境変数ファイル名にはイベントの情報を設定できます。また、環境変数ファイル名には、変数を指定できます。受信した JP1 イベントに含まれる情報を環境変数ファイル名に設定したい場合は、変数を指定します。例えば、ENVFILE という名称の JP1 イベント拡張属性を環境変数ファイル名として設定したい場合は、「\$EV"ENVFILE"」と指定します。

なお、このパラメーターは、rul パラメーターと同時に指定できません。環境変数ファイル名の前後のスペースは削除しません。var の後ろにある 1 文字のタブ・スペースだけ削除します。

#### det 抑止時間

アクションを抑止する時間を指定します。このパラメーターで指定した時間内に発生した同一のアクション条件に対するアクションは抑止されます。このパラメーターは省略できます。省略した場合、アクションは抑止されません。抑止時間に指定できる範囲は 1 ~ 3,600 (秒) です。パラメーターグループに「&」を指定している場合はこのパラメーターは指定できません。AND 条件を使用する場合は、AND 条件の最初に定義する自動アクション定義パラメーターに指定してください。

#### ret 遅延監視時間

アクションの実行時間を監視する時間を指定します。このパラメーターで指定した時間が、マネージャー上の JP1/Base に JP1 イベントが到着してから、実行先ホス

トのコマンド制御アクション実行終了メッセージを受信するまでの時間を超過した場合、JP1 イベントの発行やコマンドの実行などの方法で、アクションに遅延が発生していることを通知します。このパラメーターは省略できます。省略した場合、アクションの遅延監視をしません。遅延監視時間に指定できる範囲は 1 ~ 86,400 (秒) です。

#### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。なお、JP1/IM・View からアクション定義を設定した場合、# のコメント行は削除されます。

### アクション定義で使用できる変数

自動アクション定義パラメーターの定義のうち、usr, var, hst, cmd パラメーターには、変数を使って、JP1 イベントに含まれる情報を指定することができます。

アクション実行時に、変数が JP1 イベント中の情報に変換されて実行されます。

変数を自動アクション定義パラメーターに記述する場合は、「\$EVID」のような形式で指定します。

使用できる変数を次に示します。

表 2-10 アクション定義で使用できる変数

情報の種類	変数名	内容
JP1 イベント基本属性に含まれる情報	EVBASE	イベント基本情報全体 <sup>1</sup>
	EVID	イベント ID (基本コード: 拡張コード)
	EVDATE	イベント発生日 (YYYY/MM/DD) <sup>2</sup>
	EVTIME	イベント発生時刻 (hh:mm:ss) <sup>2</sup>
	EVPID	イベント発行元プロセス ID
	EVUSRID	イベント発行元プロセスのユーザー ID
	EVGRPID	イベント発行元プロセスのグループ ID
	EVUSR	イベント発行元ユーザー名
	EVGRP	イベント発行元グループ名
	EVHOST	イベント発行元ホスト名
	EVIPADDR	イベント発行元 IP アドレス
	EVSEQNO	イベント DB 内通し番号
	EVARVDATE	イベント到着日 (YYYY/MM/DD) <sup>2</sup>
	EVARVTIME	イベント到着時刻 (hh:mm:ss) <sup>2</sup>
	EVSRCNO	イベント発生元のイベント DB 内通し番号

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

情報の種類	変数名	内容
	EVMSG	メッセージテキスト全体 <sup>3</sup>
	EVDETAIL	イベント詳細情報全体 <sup>3, 4</sup>
JP1 イベント拡張属性に含まれる情報	EVSEV	イベント拡張情報重大度 ( Emergency, Alert, Critical, Error, Warning, Notice, Information, Debug ) <sup>3</sup>
	EV" 拡張属性名 "	任意の拡張属性 <sup>5</sup>
その他	ACTHOST	アクション実行要求元マネージャーホスト名 <sup>3</sup>
	EVENV1 ~ EVENV9	アクションの実行条件の指定で、正規表現中に "( )" を指定して切り出したデータ <sup>5</sup> ( マネージャーホストで拡張正規表現を使用している場合だけ使用できる )

注 1 JP1 イベントの基本情報が次の形式に変換されてアクションに渡されます ( は半角スペース )。

イベント ID イベント発行元ユーザー名 イベント発行元ユーザー ID イベント発行元グループ名 イベント発行元グループ ID イベント発行元イベントサーバ名 イベント発行元プロセス ID イベント登録年月日 イベント登録時刻 イベント発行元ホスト IP アドレス  
設定されていない項目は空文字となります。

注 2 JP1/IM - Manager のタイムゾーンで変換してアクションに渡されます。

注 3 該当する属性が存在しない場合、アクション実行時に変数が空文字に変換されてアクションに渡されます。

注 4 JP1 イベントの詳細属性の情報がバイナリー形式の場合は、変数が空文字に変換されてアクションに渡されます。

注 5 該当する属性が存在しない場合、変数の文字列がそのままアクションに渡されます。

また、JP1 イベントの種類によっては、変数自体のないものや、各属性に含まれる情報に文字として認識できないコード ( ASCII コードおよび環境設定で指定した日本語文字コードの文字集合に含まれない部分 ) が含まれていることで、アクションが実行できない、または実行されても結果が不正になる場合があります。また、JP1 イベント発行元の制限によって JP1 イベント中の情報が途中で切れ、アクションが実行できない、または実行されても結果が不正になる場合があります。JP1 イベント発行元製品のマニュアルなどを事前に参照し、属性値の情報を確認してから置き換え文字を設定してください。

変数の記述での注意点

- 変数の直後に文字を記述する場合、変数の直後に英数字および「\_」を指定すると正しく変換されません。このような場合は、変数を { } で囲んでください。次に指定例を示します。なお、次の例では、イベント ID ( \$EVID ) は 100:0、拡張属性 EX ( \$EV"EX" ) は ABC が設定されていると仮定します。

( 指定例 )

アクション定義	変換後の情報
「\$EVID abc」	「100:0 abc」

「\$EVIDabc」	「\$EVIDabc」(Windowsの場合)、なし (UNIXの場合)
「\${EVID}abc」	「100:0abc」
「\$EVID_abc」	「\$EVID_abc」(Windowsの場合)、なし (UNIXの場合)
「\${EVID}_abc」	「100:0_abc」
「\$EV"EX" abc」	「ABC abc」
「\$EV"EX"abc」	「ABCabc」

- 変換元の文字情報に、次に示す制御文字が含まれていた場合、その制御文字は半角スペース (0x20) に変換されて処理されます。  
半角スペースに変換される制御文字：0x01 ~ 0x1F (タブ (0x09) を除く)、0x7F  
例えば、\$EVMSG の指定によって取得したメッセージの中に改行コード (0x0A) が含まれていた場合、改行コード (0x0A) は半角スペース (0x20) に変換されて処理されます。  
(例) アクション (echo \$EVMSG) を設定し、イベントのメッセージとして改行コードを含む文字列 " 1 行目 0x0A 2 行目 " を受信した場合には、アクションとして実行されるコマンドは "echo 1 行目 2 行目" となります。
- UNIX の場合、最終的な展開はシェルの解釈に依存します。展開後のデータに「\*」など、シェルで特別な意味を持つ文字がある場合、その内容に置き換えられます。置き換えられないようにするには、変数全体を「"」で囲み、「"\$EVMSG"」のように記述してください。
- 変数で指定された JP1 イベントの情報に「"」や「'」など、コマンドで特別な意味を持つ文字がある場合、コマンドが正しく解釈されないときがあります。イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルで文字変換することをお勧めします。イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの詳細については、「イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル (event\_info\_replace.conf)」(2. 定義ファイル) を参照してください。

## アクション定義での正規表現

自動アクションの定義で、イベント監視条件に JP1 イベントの属性 (メッセージテキスト・基本属性・詳細情報) を正規表現で指定する場合の指定方法について説明します。

使用できる正規表現は、OS によって異なります。Windows の場合と UNIX の場合に分けて、使用できる正規表現を説明します。

複数の OS でアクション定義を共用する場合、正規表現の解釈が異なるので、どの OS でも使用できる表現で条件を記述するように注意してください。なお、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」に各 OS 共通で使用できる正規表現を記載しています。これを参考にして使用する正規表現を決めてください。

### Windows 版の正規表現

Windows 版では、使用できる正規表現を JP1 独自の正規表現、拡張正規表現のどちらかにできます。デフォルトは拡張正規表現です。JP1 独自の正規表現にする場合は、「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」(2. 定義ファイル) を参照して設定してください。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf)

### UNIX 版の正規表現

UNIX 版では「拡張正規表現」を使用します。使用できる正規表現の詳細については、OS 提供の「regexp (5)」を参照してください。

### 定義例

自動アクション定義ファイルの定義例を次に示します。なお、定義例は、正規表現の種別に拡張正規表現を指定しています。

#### 定義例 1：変数を使用した例 1

変数を使用して受信した JP1 イベントの情報を、アクションとして実行するコマンドの引数に指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件  
イベント ID (B.ID) が「00000001」  
メッセージの形式が「メッセージ ID : メッセージ本文」  
注 メッセージ ID は、英字 1 文字と 3 けたの数字。
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat 引数 1 引数 2
- コマンドの引数に指定する JP1 イベントの情報  
引数 1：メッセージの値 (変数には、\${EVMSG} を指定)  
引数 2：拡張属性 AAA の値 (変数には、\${EV"AAA"} を指定)

```
1 DESC_VERSION=3
2 cmn
3 sta△false
4 end-cmn
5 act△アクション1
6 prm△0
7 cmt△「変数」を使用した例
8 eid△1
9 cnd
10 B.MESSAGE△REGEX△(^[A-Z][0-9][0-9][0-9])%20:%20(.*)
11 end-cnd
12 cmd△alarm.bat△"$EV"AAA""△"$ {EVMSG}"
13 end-act
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

受信した JP1 イベントのメッセージ (B.MESSAGE) の値が「A001 : WEB サーバーがダウンしました。」、拡張属性 AAA の値が「kanshi」の場合、  
「alarm.bat "kanshi" "A001 : WEB サーバーがダウンしました。」  
というアクションを実行します。

#### 定義例 2：変数を使用した例 2

変数「EVENV1」～「EVENV9」を使用して受信した JP1 イベントの情報の一部を、アクションとして実行するコマンドの引数に指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件  
イベント ID (B.ID) が「00000001」  
メッセージの形式が「メッセージ ID : メッセージ本文」  
注 メッセージ ID は、英字 1 文字と 3 けたの数字。
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat 引数 1 引数 2
- コマンドの引数に指定する JP1 イベントの情報  
引数 1: メッセージのメッセージ ID の値 (変数には、\${EVENV1} を指定)  
引数 2: メッセージのメッセージ本文の値 (変数には、\${EVENV2} を指定)

```
1 DESC_VERSION=3
2 cmn
3 sta△false
4 end-cmn
5 act△アクション1
6 prm△0
7 cmt△「変数」を使用した例
8 eid△1
9 cnd
10 B.MESSAGE△REGEX△(^[A-Z][0-9][0-9][0-9])%20:%20(.*)
11 end-cnd
12 cmd△alarm.bat△"${EVENV1}"△"${EVENV2}"
13 end-act
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

受信した JP1 イベントのメッセージ (B.MESSAGE) の値が「A001 : WEB サーバーがダウンしました。」の場合、「alarm.bat "A001" "WEB サーバーがダウンしました。"」というアクションを実行します。

#### 定義例 3: イベント ID を正規表現で指定した例 1

イベント条件の属性名に「B.ID」、比較キーワードに「REGEX」を指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件  
イベント ID が 00000001 ~ 00000200 (16 進数の A ~ F の文字は含めない)  
発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER) が「kanshi」
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

```
1 DESC_VERSION=3

2 cmn
3 sta△false
4 end-cmn

5 act△アクション1
6 prm△0
7 cmt△イベントIDが00000001～00000200（16進数のA～Fの文字は含めない）場合
8 eid△*

9 cnd
10 B.ID△REGEX△(^0000000[1-9]|^000000[1-9][0-9]|^000001[0-9][0-9]|^00000200)
11 B.SOURCESERVER△IN△kanshi
12 end-cnd

13 cmd△alarm.bat
14 end-act
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

イベント条件でイベント ID を指定する場合は、イベント条件で指定しているイベント ID が対象となるように、eid に「\*」を指定してください。

### 定義例 4：イベント ID を正規表現で指定した例 2

イベント条件の属性名に「B.BASIC」を指定すると、自動アクション定義ファイル（互換用）のイベント基本情報と同じ形式で条件を設定できます。

イベント条件の属性名に「B.BASIC」、比較キーワードに「REGEX」を指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件

イベント ID が 00000001 ~ 00000200 ( 16 進数の A ~ F の文字は含めない )

発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER ) が「kanshi」

- アクションとして実行するコマンド

alarm.bat

```
1 DESC_VERSION=3

2 cmn
3 sta△false
4 end-cmn

5 act△アクション1
6 prm△0
7 cmt△イベントIDが00000001～00000200（16進数のA～Fの文字は含めない）場合
8 eid△*

9 cnd
10 B.BASIC△REGEX△(^[1-9]|^[1-9][0-9]|^[1][0-9][0-9]|^200)
   :0%20.*%20.*%20.*%20.*%20kanshi%20.*%20.*%20.*%20.*$
11 end-cnd

12 cmd△alarm.bat
13 end-act
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。例えば、この例の行番号10は2行にわたっていますが、定義ファイルに記述するときは1行で記述します。

タブ、半角スペース、%、および改行コードの指定方法が自動アクション定義ファイル（互換用）と異なります。詳細については、「自動アクション定義ファイル（actdef.conf）（互換用）」（2. 定義ファイル）を参照してください。

#### 定義例 5：AND 条件を使用した例

イベント A およびイベント B を受信した場合にアクションを実行するように指定するときの定義例を次に示します。

- イベント A の条件  
イベント ID ( B.ID ) が「00000201」  
メッセージ ( B.MESSAGE ) が「WEB サーバー A がダウンしました。」
- イベント B の条件  
イベント ID ( B.ID ) が「00000202」  
メッセージ ( B.MESSAGE ) が「WEB サーバー B がダウンしました。」
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )

```
1 DESC_VERSION=3

2 cmn
3  sta△false
4 end-cmn

5 act△アクション1
6  prm△0
7  cmt△「AND」条件を使用した例（イベントAの条件）
8  eid△201

9  cnd
10  B. MESSAGE△IN△WEBサーバーAがダウンしました。
11  end-cnd

12  cmd△alarm.bat
13 end-act

14 act
15  prm△&
16  cmt△「AND」条件を使用した例（イベントBの条件）
17  eid△202

18  cnd
19  B. MESSAGE△IN△WEBサーバーBがダウンしました。
20  end-cnd

21 end-act
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

AND 条件を使用する場合は、**相関イベント発行機能を使った自動アクションをお勧め**します。相関イベント発行機能は、AND 条件では考慮できない、JP1 イベントの順序や件数を指定できます。相関イベントについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.3 相関イベントの発行」を参照してください。

# 自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

## 形式

```
[#自動アクション定義ファイルバージョン]
[DESC_VERSION=バージョン情報]

[#自動アクション状態監視パラメーター]
  0[: state_watch={true | false}]

[#自動アクション定義パラメーター]
  0[ {+パラメーターグループ番号|&} 1] {$イベントID|*} 1
  [/メッセージ/] [, [/イベント基本情報/] [, [/イベント詳細情報/]
  [, [/イベント拡張情報重大度/] ] ] ] 1[イベント拡張情報属性名=/属性値/
  [, イベント拡張情報属性名2=/属性値/] [, ...] ] 0
:  0[u=ユーザー名 1] [e=環境変数ファイル名 1]
  [d=実行先ホスト名|グループ名 1] [dt=抑止時間 1]
  [rt=遅延監視時間 1] [アクション]
:
```

## ファイル

actdef.conf (自動アクション定義ファイル) (互換用)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥action¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥action¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/action/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/action/

## 説明

JP1/IM の自動アクション機能で、アクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義するファイルです。このファイルは、JP1/IM - Manager の動作する言語コードで記述してください。

自動アクション機能はこのファイルの定義に従い、特定の条件を満たす JP1 イベントを受信した時に、自動的にコマンドを実行します。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf )( 互換用 )

各行のアクションの定義をパラメーターといいます。自動アクション定義ファイルのパラメーターには、次の 3 種類があります。

- 自動アクション定義ファイルバージョン  
自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョンを定義します。
- 自動アクション状態監視パラメーター  
自動アクションの状態を監視するかどうかを定義します。
- 自動アクション定義パラメーター  
アクションを実行する条件と、アクションとして実行するコマンドについて定義します。

自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターは、自動アクション定義パラメーターの前に記述してください。自動アクション定義パラメーターの後ろに、自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターを記述した場合、定義内容は無効になります。

また、自動アクション定義ファイルバージョンおよび自動アクション状態監視パラメーターを、複数回定義した場合、最初の定義を有効、2 回目以降の定義を無効とします。

### 定義の記述

自動アクション状態監視パラメーターおよび自動アクション定義パラメーターは、定義を 1 行に 1 件ずつ定義します。1 行に書ききれない場合は、次の行に継続できます。

自動アクション定義パラメーターでは、「:」で区切られた二つの部分により「イベント監視条件:アクション実行定義」という形式で指定します。

- 一つの自動アクション定義パラメーターの最大長は、5,706 バイトです。  
バイト数には、空白を含みます。改行コードと、継続行にする場合の「¥」は含みません。
- 自動アクション定義パラメーターが長いときは、次の行に継続できます。  
定義行を継続するときは、改行コードの直前に「¥」を記述します。「¥」と改行コードの間に空白など文字がある場合は継続行にならず、「¥」はデータとして扱います。
- 1 カラム目が「#」の行はコメントになります。  
コメントは 1 行で記述してください。複数行のコメントは、GUI で定義したときに定義行の直前の 1 行目以外が破棄されます。なお、行の途中や継続行の中の「#」はコメントではなくデータとして扱います。

### イベント監視条件の優先度

受信した JP1 イベントが、複数の自動アクション定義の実行条件と一致する場合、( 後述するパラメーターグループごとに ) 最も優先順位の高い自動アクションが一つだけ実行されます。自動アクションの優先順位は、次の規則によって決まります。

- イベント ID を指定した自動アクションは、イベント ID の「すべて」を対象にする自動アクションが優先されます。
- 自動アクション定義ファイルで前に記述されている ( GUI では [ アクション設定 ] の

画面で上に表示されている) 自動アクションが優先されます。

#### パラメータグループと AND 条件

それぞれの自動アクション定義パラメータは、パラメータグループに属します。パラメータグループとは、自動アクション実行の条件を判定する単位です。パラメータグループによって、一つの JP1 イベントで複数のアクションを実行する場合や、複数の条件を満たすときにアクションを実行する場合など、複雑な条件を指定することができます。

一つの JP1 イベントが JP1/IM のマネージャーに届くと、パラメータグループごとに、優先順位の順に自動アクション定義パラメータと実行条件と比較します。実行条件が一致する場合は、パラメータグループごとに優先順位の最も高い自動アクション定義パラメータが一つだけ実行されます。

パラメータグループに「&」を指定すると、前の行に定義した自動アクション定義パラメータとの AND 条件となります。自動アクション定義パラメータを AND 条件として指定すると、すべての条件が満たされたときにアクションが実行されます。

#### 自動アクション定義パラメータのサイズチェック

自動アクション定義パラメータでサイズチェックされる項目とその最大長を次に示します。

- 自動アクション定義パラメータのサイズは 5,706 バイトまで。
- 自動アクション定義パラメータのイベント監視条件のサイズは 1,040 バイトまで。
- 自動アクション定義パラメータのアクションのサイズは 4,096 バイトまで。

最大長を超過した場合は、定義を反映するときにメッセージが表示され、該当する自動アクション定義パラメータは無視されます。

#### 指定内容の確認

作成した定義ファイルは、jcamakea コマンドを使って定義ファイルの定義内容を確認してください。

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用) では業務グループ名を使用できません。業務グループ名を指定した場合、ホスト名として扱われます。

#### 定義の反映時期

自動アクションの定義は、JP1/IM - Manager の起動時、JP1/IM - View の [アクション設定] 画面の [適用] ボタンをクリックして定義を有効にしたとき、および jccachange コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。

#### 記述内容 (自動アクション定義ファイルバージョン)

自動アクション定義ファイルバージョンに記述する項目について説明します。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

DESC\_VERSION= バージョン情報

自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョンを定義します。

表 2-11 自動アクション定義ファイルのフォーマットのバージョン情報

バージョン情報	説明
1	07-11 ~ 07-51 の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。
2	08-00 以降の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。
3	09-00 の自動アクション定義ファイルのバージョンを示す。
上記以外	

このパラメーターを省略、または「1」に指定した場合は、バージョン情報を「2」と仮定して読み込みます。JP1/IM - View で [アクション設定] 画面の [適用] ボタンをクリックしたとき、「2」に設定し直します。

このパラメーターを「1」、「2」、または「3」以外の値に指定した場合、09-00 の自動アクション定義ファイルとして読み込みます。

旧バージョンの自動アクション定義ファイルのフォーマットは、08-00 以降の自動アクション定義ファイルのフォーマットと互換性があるため、08-00 以降のフォーマットとして読み込まれます。

このパラメーターが自動アクション定義パラメーター以降の行に記述されている場合、JP1/IM - View で [アクション設定] 画面が表示できなくなります。

jcamakea コマンドを実行して自動アクションの定義ファイルの内容をチェックすることをお勧めします。

### 記述内容 (自動アクション状態監視パラメーター)

自動アクション状態監視パラメーターに記述する項目について説明します。

```
state_watch={true | false}
```

アクションの状態を監視するかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。デフォルト値は「false」です。

「true」を指定した場合、バージョン 07-10 以前の JP1/IM - View で [アクション設定] 画面を表示できません。

このパラメーターは、自動アクション定義パラメーターより前に記述されている場合にだけ有効となります。

このパラメーターが自動アクション定義パラメーター以降の行に記述されている場合、JP1/IM - View で [アクション設定] 画面が表示できなくなります。

jcamakea コマンドを実行して自動アクションの定義ファイルの内容をチェックすることをお勧めします。

バージョン 07-11 以降の JP1/IM - View が 07-11 以降の JP1/IM - Central Console に接続している場合、アクションの状態を監視する・しないにかかわらず、自動アクション

状態監視パラメーターは自動アクション定義ファイルに出力されます。

## 記述内容 (自動アクション定義パラメーター)

自動アクション定義パラメーターに記述する各項目について説明します。なお、JP1 イベントについては、「3. JP1 イベント」を参照してください。また、定義中に指定する正規表現と変数については、後述します。

### イベント監視条件

自動アクション定義パラメーターの中で、実行条件として記述する項目を次に示します。実行条件として定義できるパラメーターの長さは 1,040 バイトまでです。

{+ パラメーターグループ番号 |&}

この行の自動アクション定義パラメーターが属しているパラメーターグループの番号を、「+」に続けて 1 けたの数字 (0 ~ 9) で指定します。指定を省略すると「0」を仮定します。

「&」を指定すると、直前の定義行との AND 条件の指定になります。この場合、この行の自動アクション定義パラメーターが属するパラメーターグループは、直前の定義行と同じになります。

なお、パラメーターグループの数字の大小は、実行条件判定の優先順位およびアクションの実行順序とは関係ありません。

### § イベント ID

イベント ID を「§」に続けて指定します。イベント ID の指定形式は次のとおりです。

基本部[:拡張部]

基本部および拡張部は、16 進数 8 桁以内 (0 ~ 7fffffff) の範囲で指定します。英字は小文字だけを指定できます。

\*

すべてのイベント ID を対象にする場合に指定します。\* を指定するとすべてのイベントをアクションの対象にするため、JP1 イベントの発生頻度が大きい場合にアクションが大量に発生し、実行が遅延することがあります。\* を指定する場合は、その他の条件 (メッセージ、イベント基本情報、イベント詳細情報、イベント拡張情報) でイベントを絞り込んでください。

### メッセージ

実行条件として、JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。条件には、正規表現を使うことができます。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。

### イベント基本情報

実行条件として、JP1 イベント基本属性の情報を指定します。指定には、正規表現を使うことができます。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」を参照してください。

イベント基本情報は、JP1 イベント基本属性の情報を次のように並べた形式で渡されます。この形式にあわせて、アクションを実行する条件を指定してください。

イベントID イベント発行元ユーザー名 イベント発行元ユーザーID  
イベント発行元グループ名 イベント発行元グループID  
イベント発行元イベントサーバ名 イベント発行元プロセスID  
イベント登録年月日 イベント登録時刻 イベント発行元ホストIPアドレス

これらの JP1 イベントの基本属性に含まれる情報については、「3. JP1 イベント」を参照してください。

### イベント詳細情報

実行条件として、JP1 イベント基本属性の詳細属性の情報を指定します。

指定には、正規表現を使うことができます。

正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」を参照してください。

JP1 イベント基本属性の詳細属性の情報は、JP1 イベントの付加的な情報で、内容や形式は JP1 イベントによって異なります。なお、JP1 イベントの詳細属性の情報がバイナリー形式の場合は、情報がない (NULL) として扱われます。

- 備考：JP1 イベント基本属性の詳細属性は、主にバージョン 5 以前の JP1/SES 形式と互換のイベントを発行する製品が、詳細情報を記録する場合などに使われます。バージョン 6 以降の製品の多くは、JP1 イベント拡張属性を使って詳細な情報を記録します。

### イベント拡張情報重大度

実行条件として、JP1 イベント拡張属性の重大度を指定します。重大度は次の形式で、文字の部分を組み合わせて指定します。

```
「-----E」 重大度：Emergency  
「-----A-」 重大度：Alert  
「-----C--」 重大度：Critical  
「----E----」 重大度：Error  
「---W----」 重大度：Warning  
「--N-----」 重大度：Notice  
「-I-----」 重大度：Information  
「D-----」 重大度：Debug
```

例えば、Error 以上の重大度を条件として設定する場合は、/----ECAE/ と指定します。

### イベント拡張情報属性名 =/ 属性値 /

実行条件として、JP1 イベント拡張属性の属性名と属性値を組み合わせて指定します。指定には、正規表現を使うことができます。

正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。

属性名と属性値の組み合わせを、最大 100 組指定できます。

属性名は、英大文字、数字、およびアンダーバー ( \_ ) から構成される 32 バイトまでの名称を指定できます。属性名に「:」「=」を含むものは指定できません。属性名は、「PRODUCT\_NAME」、「OBJECT\_NAME」のように指定します。ほかの機能での設定とは異なり、属性名の先頭に「E.」は付けません。

なお、この項目で重大度 (項目名 "SEVERITY") を指定する場合、属性値は "Emergency"、"Alert" などの文字列で指定します。

#### アクション実行定義

自動アクション定義パラメーターの中で、アクション実行定義として設定する項目を次に示します。

##### u= ユーザー名

アクションを実行する JP1 ユーザー名を指定します。

ユーザー名は、31 バイト以内の文字列で指定します。ユーザー名に空白を含むものは指定できません。

このパラメーターを指定しなかった場合は、自動アクションの実行環境の定義で、アクション実行標準ユーザーとして指定した JP1 ユーザー名を使用します。アクション実行標準ユーザーも指定されていない場合は、jpladmin を使用します。

JP1 ユーザー名は、変数を使って、受信した JP1 イベントに含まれる情報により指定することもできます。

アクションを実行するとき、実行先ホストで、ここで指定した JP1 ユーザーを JP1/Base の定義に従って OS ユーザーにユーザーマッピングしてコマンドを実行します。UNIX の場合は、ユーザーマッピングした OS ユーザーのシェル環境を使用して実行されます。

アクションに「<RULE>」と指定する場合は、この項目は設定できません。

##### e= 環境変数ファイル名

アクションとして実行するコマンドの環境変数を指定した、環境変数ファイルのファイル名をフルパスで指定します。

ファイル名には、255 バイトまでの文字列が指定できます。ファイル名に空白を含む場合は "" で囲んで指定してください。

ファイル名は、変数を使って、受信した JP1 イベントに含まれる情報により指定することもできます。例えば、ENVFILE という名称の JP1 イベント拡張属性を環境変数ファイル名として使う場合は「\$EV"ENVFILE"」と指定します。

なお、環境変数ファイルの形式については、「環境変数ファイル」(2. 定義ファイル) を参照してください。

アクションに「<RULE>」と指定する場合は、この項目は設定できません。

##### d= 実行先ホスト名 | グループ名

アクションを実行するホスト名、またはホストグループ名を指定します。ホス

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

ト名にはシステム構成の定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。ホスト名・グループ名に空白を含むものは指定できません。

このパラメーターを省略した場合、アクションは自ホスト(自動アクション定義ファイルのあるホスト)で実行されます。

ホスト名・グループ名は、変数を使って、受信した JP1 イベントに含まれる情報により指定することもできます。例えば、イベント発行元のホストでアクションを実行したい場合は、「\$EVHOST」と指定します。

アクションに「<RULE>」と指定する場合は、この項目は設定できません。

dt= 抑止時間

アクションを抑止する時間を指定します。このパラメーターで指定した時間内に発生した同一のアクション条件に対するアクションは抑止されます。このパラメーターを省略した場合、抑止は実行されません。抑止時間は、4 バイトまでの数字で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 3,600 (秒) です。

このパラメーターを指定した場合、バージョン 07-10 以前の JP1/IM・View で [アクション設定] 画面を表示できません。

なお、次の場合は、このパラメーターは指定できません。

- 「&」を指定している場合

rt= 遅延監視時間

アクションの実行時間を監視する時間を指定します。このパラメーターで指定した時間が、マネージャー上の JP1/Base に JP1 イベントが到着してから、実行先ホストのコマンド制御アクション実行終了メッセージを受信するまでの時間を超過した場合、JP1 イベントの発行やコマンドの実行などの方法で、アクションに遅延が発生していることを通知します。このパラメーターを省略した場合、アクションの遅延監視は実行されません。

遅延監視時間は、5 バイトまでの数字で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 86,400 (秒) です。

このパラメーターを指定した場合、バージョン 07-10 以前の JP1/IM・View で [アクション設定] 画面を表示できません。

アクション

アクションとして実行するコマンドを指定します。

指定できるコマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「5. 自動アクションによるコマンド実行」を参照してください。

このパラメーターを省略した場合、アクションを実行する条件が成立しても、何も実行しません。

コマンドのパラメーターに、変数を使って、受信した JP1 イベントに含まれる情報により指定することもできます。

自動アクションが定義されているホストが UNIX の場合は、コマンドの環境変数に、変数を使って、受信した JP1 イベントに含まれる情報により指定することもできます。この場合は「MESSAGE="\$EVMSG" command arg1 arg2」のように指定します。

なお、自動アクション定義パラメーターの「:」以降は、実行するアクションを指定しますが、「u=」「e=」「d=」「dt=」「rt=」を指定すると前述のユーザー名などの項目と見なされます。「u=」などを指定した場合は、アクションの指定を省略するとエラーになります。

また、アクションとして実行できるコマンドの長さは、アクション定義で使用できる変数 (\$EVMSG など) の変換後の情報を含めて、4,096 バイトまでです。コマンドの長さが 4,096 バイトを超えた場合は実行状態が「実行不可」になり、コマンドは実行されません。[アクション結果詳細] 画面の [メッセージ] 欄には、「KAVB4421-W コマンドラインが長過ぎるためアクションが実行できませんでした」が表示されます。

アクション中に、文字として認識できないコード (ASCII コードおよび環境設定で指定した日本語文字コードの文字集合に含まれない部分) が含まれた場合、実行先ホストのシェルなどの仕様で実行されない、または実行されても結果が不正になることがあります。この場合、アクションは実行失敗にならず、終了状態になります。定義ファイル中に上記の不正なコードを指定していなくても、アクション定義で使用できる変数から実行時に置き換えることでアクションに含まれる場合があります。アクション対象イベントを発行する各製品のマニュアルなどで確認の上、アクション定義で使用できる変数を指定してください。JP1/IM・Rule Operation へのルール起動要求を設定したい場合は、「<RULE>」と固定で指定してください。「<RULE>」と指定されている場合、[実行ユーザー名][実行ホスト名][環境変数ファイル]を同時に指定できません。このとき KAVB4550-W メッセージが表示され、自動アクション定義パラメーターは標準出力に出力されません。

#### アクションのコマンド長に関する注意事項

アクションとして実行できるコマンドの長さは、JP1/IM、JP1/Base を運用しているシステムによって変わります。

自動アクションの実行経路上のホスト (実行元マネージャー、実行先ホストを含む) にバージョン 6、バージョン 7 の JP1/IM、JP1/Base がある場合には、コマンドの長さは、最大 1,024 バイトに抑える必要があります。コマンド長に関する注意事項の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「11.4(2) 注意事項」を参照してください。

#### アクション定義で使用できる変数

自動アクション定義パラメーターの定義のうち、実行するアクションの指定 (: 以降の指定) には、変数を使って、JP1 イベントに含まれる情報を指定することができます。アクション実行時に、変数が JP1 イベント中の情報に変換されて実行されます。

変数を自動アクション定義パラメーターに記述する場合は、「\$EVID」のような形式で指定します。

使用できる変数を次に示します。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル ( actdef.conf ) ( 互換用 )

表 2-12 アクション定義で使用できる変数

情報の種類	変数名	内容
JP1 イベント基本属性に含まれる情報	EVBASE	イベント基本情報全体
	EVID	イベント ID ( 基本コード : 拡張コード )
	EVDATE	イベント発生日 ( YYYY/MM/DD )
	EVTIME	イベント発生時刻 ( hh:mm:ss )
	EVPID	イベント発行元プロセス ID
	EVUSRID	イベント発行元プロセスのユーザー ID
	EVGRPID	イベント発行元プロセスのグループ ID
	EVUSR	イベント発行元ユーザー名
	EVGRP	イベント発行元グループ名
	EVHOST	イベント発行元ホスト名
	EVIPADDR	イベント発行元 IP アドレス
	EVSEQNO	イベント DB 内通し番号
	EVARVDATE	イベント到着日 ( YYYY/MM/DD )
	EVARVTIME	イベント到着時刻 ( hh:mm:ss )
	EVSRCNO	イベント発生元のイベント DB 内通し番号
EVMSG	メッセージテキスト全体	
EVDETAIL	イベント詳細情報全体	
JP1 イベント拡張属性に含まれる情報	EVSEV	イベント拡張情報重大度 ( Emergency, Alert, Critical, Error, Warning, Notice, Information, Debug )
	EV" 拡張属性名 "	任意の拡張属性
その他	ACTHOST	アクション実行要求元マネージャー名
	EVENV1 ~ EVENV9	アクションの実行条件の指定で、正規表現中に "( )" を指定して切り出したデータ ( マネージャーで拡張正規表現を使用している場合だけ使用できる )

該当しない項目の変数の値は NULL になります。また、JP1 イベントの種類によっては、変数自体のないものや、各属性に含まれる情報に文字として認識できないコード ( ASCII コードおよび環境設定で指定した日本語文字コードの文字集合に含まれない部分 ) が含まれていることで、アクションが実行できない、または実行されても結果が不正になる場合があります。JP1 イベント発行元製品のマニュアルなどを事前に参照し、設定してください。

## 変数の記述での注意点

- 変数の直後に文字を記述する場合、変数の直後に英数字および「\_」を指定すると正しく変換されません。このような場合は、変数を { } で囲んでください。次に指定例を示します。なお、次の例では、イベント ID ( \$EVID ) は 100:0、拡張属性 EX ( \$EV"EX" ) は ABC が設定されていると仮定します。

(指定例)

アクション定義	変換後の情報
「 \$EVID abc 」	「 100:0 abc 」
「 \$EVIDabc 」	「 \$EVIDabc 」 (Windowsの場合)、なし (UNIXの場合)
「 \${EVID}abc 」	「 100:0abc 」
「 \$EVID_abc 」	「 \$EVID_abc 」 (Windowsの場合)、なし (UNIXの場合)
「 \${EVID}_abc 」	「 100:0_abc 」
「 \$EV"EX" abc 」	「 ABC abc 」
「 \$EV"EX"abc 」	「 ABCabc 」

- 変換元の文字情報に、次に示す制御文字が含まれていた場合、その制御文字は半角スペース ( 0x20 ) に変換されて処理されます。  
半角スペースに変換される制御文字：0x01 ~ 0x1F ( タブ ( 0x09 ) を除く )、0x7F  
例えば、\$EVMSG の指定によって取得したメッセージの中に改行コード ( 0x0A ) が含まれていた場合、改行コード ( 0x0A ) は半角スペース ( 0x20 ) に変換されて処理されます。  
(例) アクション ( echo \$EVMSG ) を設定し、イベントのメッセージとして改行コードを含む文字列 " 1 行目 0x0A 2 行目 " を受信した場合には、アクションとして実行されるコマンドは "echo 1 行目 2 行目" となります ( は半角スペースを表す )。
- UNIX の場合、最終的な展開はシェルの解釈に依存します。展開後のデータに「\*」など、シェルで特別な意味を持つ文字がある場合、その内容に置き換えられます。置き換えをしないようにするには、変数全体を「"」で囲み、「"\$EVMSG"」のように記述してください。
- 変数で指定された JP1 イベントの情報に「"」や「'」など、コマンドで特別な意味を持つ文字がある場合、コマンドが正しく解釈されないときがあります。イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルで文字変換することをお勧めします。イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの詳細については、「イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル (event\_info\_replace.conf)」(2. 定義ファイル) を参照してください。

## アクション定義での正規表現

自動アクションの定義で、イベント監視条件に JP1 イベントの属性 (メッセージテキスト・基本属性・詳細情報) を正規表現で指定する場合の指定方法について説明します。

使用できる正規表現は、OS によって異なります。Windows の場合と UNIX の場合に分けて、使用できる正規表現を説明します。

複数の OS でアクション定義を共用する場合、正規表現の解釈が異なるので、どの OS でも使用できる表現で条件を記述するように注意してください。なお、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」に各

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

OS 共通で使用できる正規表現を記載しています。これを参考にして使用する正規表現を決めてください。

### Windows 版の正規表現

Windows 版では、使用できる正規表現を JP1 独自の正規表現、拡張正規表現のどちらかにできます。デフォルトは拡張正規表現です。JP1 独自の正規表現にする場合は、「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」(2. 定義ファイル)を参照して設定してください。

JP1/IM の自動アクションでは、OS の正規表現に加えて、次の拡張記法も使えます。

「¥/」、「¥¥」

ブラケット式中でも、それぞれただの「/」、「¥」を表します。正規表現で「/」、「¥」を表すときはすべてこの方法を使います。

### UNIX 版の正規表現

UNIX 版では「拡張正規表現」を使用します。使用できる正規表現の詳細については、OS 提供の「regexp (5)」を参照してください。

JP1/IM の自動アクションでは、OS の正規表現に加えて、次の拡張記法も使えます。

「¥/」、「¥¥」

ブラケット式中でも、それぞれただの「/」、「¥」を表します。正規表現で「/」、「¥」を表すときはすべてこの方法を使います。

### 正規表現による基本属性・詳細属性の指定

イベント監視条件に、JP1 イベントの基本属性・詳細情報を正規表現で指定する場合の方法について説明します。

自動アクション定義パラメーターの中では、JP1 イベントの基本属性は、次の形式で表されます。

イベントID <sup>1</sup> イベント発行元ユーザー名 イベント発行元ユーザーID  
イベント発行元グループ名 イベント発行元グループID  
イベント発行元イベントサーバ名 <sup>2</sup> イベント発行元プロセスID  
イベント登録年月日 <sup>3</sup> イベント登録時刻 <sup>4</sup> イベント発行元ホストIPアドレス

#### 注 1

イベント ID は「基本コード:拡張コード」という形式で表されます。基本コードおよび拡張コードは、ともに 8 けたの 16 進数 (A ~ F は大文字) です。ID の前の 0 は省略されます。拡張コードが 00000000 の場合は、「基本コード:0」と表されません。

#### 注 2

イベントサーバ名とホスト名が異なる場合、イベント発行元ホスト名の取得方法が「local」に設定されていると、イベントサーバ名ではなくホスト名となります。

注 3

「YYYY/MM/DD」という形式で表されます。

注 4

イベント登録時刻は「hh:mm:ss」という形式で表されます。

JP1 イベントの詳細情報は、次の形式で表されます。

情報1 情報2 情報3 ... 情報n

注

プログラムによっては、この形式でない場合や、固定長のためマルチバイト文字の1バイト目しか含まれていないなど、文字として認識できないコードが混入している場合もあります。形式については各プログラムのマニュアルを参照してください。

基本属性、詳細情報とも、情報中の各項目は、空白文字で区切られます。

該当する情報がない場合は、NULL になり、前後の区切りの空白が連続して表されます。また、最後の項目のあとには、将来の機能拡張などで情報が追加されることがあるので注意してください。

次に、基本属性および詳細情報中の各項目の指定方法を説明します。

基本属性、および詳細情報の先頭の項目を指定する場合は、先頭文字列を意味する「^」を使用します。例えば、イベント ID が 00003A80 の JP1 イベントを指定するには、次のように指定します。

```
「^3A80:0 .* .* .* .* .* .* .* .* .*$」
```

2 番目以降の項目を指定する場合は、「.\*」(任意の文字列と空白を示す)を繰り返して、不要な項目をスキップします。例えば、イベント基本属性の6番目の項目であるイベント発行ホスト名を指定する場合は、「.\*」を5回繰り返して、次のように指定します。

```
「^.* .* .* .* .* host01」
```

次に、イベント情報の指定例を示します。

(例1) JP1USER で始まるユーザー名のユーザーから送信された JP1 イベント

```
^.* JP1USER[_A-Z0-9]+ .* .* .* .* .* .* .*$
```

(例2) host01 ~ host05 で発行された JP1 イベント (拡張正規表現を使用している場合)

```
^.* .* .* .* .* host0[1-5] .* .* .* .*$
```

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

(例3) host02 で 8 時 0 分から 8 時 10 分に登録された JP1 イベント (拡張正規表現を使用している場合)

```
^.* .* .* .* .* host02 .* .* 08:(10|0[0-9]).* .*$
```

(例4) 詳細情報の 3 番目の項目が「prn」で始まる JP1 イベント

```
^.* .* prn.*$
```

注 詳細情報の形式は、JP1 イベントを発行するプログラムのマニュアルなどでご確認ください。

### 正規表現に関する注意事項

- JP1 独自正規表現 (Windows) を拡張して、拡張正規表現を使用する場合には、拡張による誤動作を防ぐため、定義済みの設定を見直し、拡張正規表現用に定義し直す必要があります。
- 制御コード (改行、タブなど) は、製品や OS によって扱いが異なることがあります。このため、メッセージに対する条件を正規表現で記述する場合は、制御コード以外の部分を記述するようにしてください。
- 正規表現で、すべての文字に一致する表現の「.\*」を多用すると、検索に時間が掛かることがあります。長いメッセージなどに対して「.\*」を使用する場合は、必要な個所にだけ「.\*」を使用するようにしてください。  
また、拡張正規表現を使用できる環境で、かつ、空白以外の文字に一致させたい場合には、「.\*」の代わりに「[^ ]\*」が使用できます。「[^ ]\*」を使用した方が検索に掛かる時間を短縮できます。
- 特殊文字である縦線「|」は OR 条件を表します。この OR 条件を正規表現中使用する際は、次のことに注意してください。  
OR 条件の縦線「|」は正規表現の中で優先度が低いため、OR 条件がかかる範囲を明示的に指定する必要があります。範囲を指定しない場合、動作しない、または誤動作する原因になることがあります。OR 条件の範囲は、条件がかかる範囲を小括弧「()」で囲むことで指定できます。イベント発行元サーバ名の条件を OR 条件にするときの指定例を次に示します。

(例) gyoumu または host で発行された JP1 イベント

```
^.* .* .* .* .* (gyoumu|host) .* .* .* .*$
```

### 定義例

自動アクション定義ファイルの定義例を次に示します。なお、定義例は、正規表現の種別に拡張正規表現を指定しています。

#### 定義例 1: 変数を使用した例 1

変数を使用して受信した JP1 イベントの情報を、アクションとして実行するコマンドの引数に指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件

イベント ID (B.ID) が「00000001」

メッセージの形式が「メッセージ ID : メッセージ本文」

注 メッセージ ID は、英字 1 文字と 3 けたの数字。

- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat 引数1 引数2
- コマンドの引数に指定する JP1 イベントの情報  
引数1: メッセージの値 (変数には, \${EVMSG} を指定)  
引数2: 拡張属性 AAA の値 (変数には, \${EV"AAA"} を指定)

```
1 DESC_VERSION=2
2 :state_watch=false
3 #「変数」を使用した例
4 +0Δ$1Δ/(^[A-Z][0-9][0-9][0-9])Δ:Δ(.*)/, , Δ:alarm.batΔ"$EV"AAA"Δ"$ {EVMSG}"
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

受信した JP1 イベントのメッセージ (B.MESSAGE) の値が「A001 : WEB サーバーがダウンしました。」、拡張属性 AAA の値が「kanshi」の場合、  
「alarm.bat "kanshi" "A001 : WEB サーバーがダウンしました。」  
というアクションを実行します。

#### 定義例 2: 変数を使用した例 2

変数「EVENV1」～「EVENV9」を使用して受信した JP1 イベントの情報の一部を、  
アクションとして実行するコマンドの引数に指定する場合の定義例を次に示します。

- イベント条件  
イベント ID (B.ID) が「00000001」  
メッセージの形式が「メッセージ ID : メッセージ本文」  
注 メッセージ ID は、英字 1 文字と 3 けたの数字。
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat 引数1 引数2
- コマンドの引数に指定する JP1 イベントの情報  
引数1: メッセージのメッセージ ID の値 (変数には, \${EVENV1} を指定)  
引数2: メッセージのメッセージ本文の値 (変数には, \${EVENV2} を指定)

```
1 DESC_VERSION=2
2 :state_watch=false
3 #「変数」を使用した例
4 +0Δ$1Δ/(^[A-Z][0-9][0-9][0-9])Δ:Δ(.*)/, , Δ:alarm.batΔ"${EVENV1}"Δ"${EVENV2}"
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

受信した JP1 イベントのメッセージ (B.MESSAGE) の値が「A001 : WEB サーバーがダウンしました。」の場合、「alarm.bat "A001" "WEB サーバーがダウンしました。」というアクションを実行します。

#### 定義例 3: イベント ID を正規表現で指定した例

イベント条件の属性名に「B.ID」、比較キーワードに「REGEX」を指定する場合の  
定義例を次に示します。

## 2. 定義ファイル

自動アクション定義ファイル (actdef.conf) (互換用)

- イベント条件  
イベント ID が 00000001 ~ 00000200 (16進数の A ~ F の文字は含めない)  
発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER) が「kanshi」
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat

```
1 DESC_VERSION=2
2 :state_watch=false
3 #イベントIDが00000001~00000200 (16進数のA~Fの文字は含めない) 場合
4 +0△*△./([1-9]|^1[0-9][0-9]|^1[0-9]
   [0-9]^200):0△.*△.*△.*△.*△kanshi△.*△.*△.*△.*$/.,△:alarm.bat
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。例えば、この例の行番号4は2行にわたっていますが、定義ファイルに記述するときは1行で記述します。

イベント基本情報でイベント ID を指定する場合は、イベント基本情報で指定しているイベント ID が対象となるように、eid に「\*」を指定してください。  
また、イベント ID の基本部と拡張部を 8 バイト以内の 16 進数で指定し、「:」で区切ってください。

### 定義例 4 : AND 条件を使用した例

イベント A およびイベント B を受信した場合にアクションを実行するように指定するときの定義例を次に示します。

- イベント A の条件  
イベント ID (B.ID) が「00000201」  
メッセージ (B.MESSAGE) が「WEB サーバー A がダウンしました。」
- イベント B の条件  
イベント ID (B.ID) が「00000202」  
メッセージ (B.MESSAGE) が「WEB サーバー B がダウンしました。」
- アクションとして実行するコマンド  
alarm.bat

```
1 DESC_VERSION=2
2 :state_watch=false
3 #「AND」条件を使用した例 (イベントAの条件)
4 +0△$201△/WEBサーバーAがダウンしました。/,.,△:alarm.bat
5 #「AND」条件を使用した例 (イベントBの条件)
6 &△$202△/WEBサーバーBがダウンしました。/,.,△:
```

注 この例では定義ファイルに記述する際の1行を示すために、行頭に行番号を入れています。

AND 条件を使用する場合は、関連イベント発行機能を使った自動アクションをお勧めします。関連イベント発行機能は、AND 条件では考慮できない、JP1 イベントの順序や件数を指定できます。関連イベントについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.3 関連イベントの発行」を参照してください。

# 自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)

---

## 形式

---

```
[STATE_WATCH]
EVENT={true | false}
COMMAND=コマンド
[End]
[DELAY_WATCH]
EVENT={true | false}
COMMAND=コマンド
[End]
```

---

## ファイル

actnotice.conf (自動アクション通知定義ファイル)

actnotice.conf.model (自動アクション通知定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥action¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥action¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/action/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/action/

## 説明

自動アクションの状態監視または遅延監視で異常を検知した場合に、JP1 イベントの発行および通知コマンドの実行で、自動アクションの異常を通知するかどうかを定義するファイルです。このファイルは、JP1/IM - Manager の動作する言語コードで記述してください。

この定義ファイルで自動アクションの異常を通知するよう設定すると、自動アクションの状態監視では、「実行不可」「実行失敗」または「実行失敗 (キャンセル失敗)」の状態となって異常終了した自動アクションを検知して、JP1 イベントの発行および通知コマンドを実行し、オペレーターに異常状態になった自動アクションに対する対処を促しま

## 2. 定義ファイル

### 自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)

す。また、自動アクションの遅延監視では、遅延監視時間で設定した時間内に終了しない自動アクションを検知して、JP1 イベントの発行および通知コマンドを実行し、オペレーターに遅延状態になった自動アクションに対する対処を促します。

自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf) を削除した場合は、自動アクション通知定義ファイルのモデルファイル (actnotice.conf.model) を actnotice.conf の名称でコピーし、必要に応じて、定義を変更してください。

### 定義の反映時期

次の場合に、自動アクション通知定義ファイルの設定が有効になります。

- JP1/IM - Manager を起動した場合
- jco\_spmdd\_reload コマンドによりリロードをした場合

### 記述内容

[STATE\_WATCH]

自動アクションの状態監視で異常を検知した場合に、JP1 イベントの発行および通知コマンドの実行で、自動アクションの異常を通知するかどうかを定義します。

EVENT={true | false}

自動アクションの状態監視で異常を検知した場合に、JP1 イベント (イベント ID : 2011) を発行するかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。異常検知時に JP1 イベントを発行する場合は「true」を、発行しない場合は「false」を指定します。デフォルトは「true」です。なお、「true」を指定すると、次の場合にも JP1 イベント (イベント ID : 2016, 2021) が発行されるようになります。

- アクション状態監視への通知抑止が解除された場合 (イベント ID が 2016 の JP1 イベントが発行される)
- アクション状態の監視中に、異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合 (イベント ID が 2021 の JP1 イベントが発行される)

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

COMMAND= コマンド

自動アクションの状態監視で異常を検知した場合に、実行する通知コマンドを指定します。

実行可能なコマンドの種類は次のとおりです。

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル (.com, .exe)
- バッチファイル (.bat)
- JP1/Script のスクリプトファイル (.spt)

(ただし .spt ファイルが実行可能なよう関連づけが設定されていること)

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- 実行形式ファイル (実行権限が付いていること)
- シェルスクリプト (実行権限が付いていること)
- 上記以外の場合、または定義がない場合はデフォルト値「指定無し」を仮定します。

通知コマンドを定義する場合の注意事項を次に示します。

- 「COMMAND=」から改行コードまでを一つのコマンドとして定義します。
- 一つのコマンド定義の最大長は、1,023 バイトです。  
なお、変数を展開した文字列が 1,023 バイトを超える場合はコマンドを実行しません。  
その際、統合トレースログに「KAVB4409-E 通知コマンド (コマンド) が実行できませんでした: 保守情報」が出力されます。
- 最大長のバイト数には、空白を含みます。改行コードは含みません。
- 変数を指定する場合は、変数を「\$」に続けて指定します。指定できる変数については、「表 2-13 自動アクション通知定義ファイルで指定できる変数」を参照してください。
- COMMAND に指定された通知コマンドは、JP1/IM - Manager の実行環境を引き継ぎます。
- 通知コマンドは、JP1/IM - Manager の実行権限 (Windows : SYSTEM ユーザー, UNIX : root) で実行されます。
- COMMAND に指定する通知コマンドは、フルパスで指定してください。
- 通知コマンドは、必ず終了するコマンドを設定してください。バッチファイル (Windows) またはシェルスクリプト (UNIX) を設定する場合は、必ず `exit 0` で終了するようにしてください。終了しないコマンドや GUI が起動するコマンドを指定した場合、実行した通知コマンドのプロセスが残ってしまいます。
- 「\$」を指定したい場合は「\$\$」と指定してください。

[DELAY\_WATCH]

自動アクションの遅延監視で異常を検知した場合に、JP1 イベントの発行および通知コマンドの実行で、自動アクションの異常を通知するかどうかを定義します。

EVENT={true | false}

自動アクションの遅延監視で異常を検知した場合に、JP1 イベント (イベント ID : 2010) を発行するかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。異常検知時に JP1 イベントを発行する場合は「true」を、発行しない場合は「false」を指定します。デフォルト値は「true」です。なお、「true」を指定すると、次の場合にも JP1 イベント (イベント ID : 2015, 2020) が発行されるようになります。

- アクション遅延監視への通知抑止が解除された場合 (イベント ID が 2015 の

## 2. 定義ファイル

自動アクション通知定義ファイル ( actnotice.conf )

JP1 イベントが発行される)

- アクション遅延の監視中に、遅延状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合 ( イベント ID が 2020 の JP1 イベントが発行される )

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

COMMAND= コマンド

自動アクションの遅延監視で異常を検知した場合に、実行する通知コマンドを指定します。

実行可能なコマンドの種類は次のとおりです。

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル ( .com , .exe )
- バッチファイル ( .bat )
- JP1/Script のスクリプトファイル ( .spt )  
(ただし .spt ファイルが実行可能なよう関連づけが設定されていること)

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- 実行形式ファイル (実行権限が付いていること)
- シェルスクリプト (実行権限が付いていること)
- 上記以外の場合、または定義がない場合はデフォルト値「指定無し」を仮定します。

通知コマンドを定義する場合の注意事項を次に示します。

- 「COMMAND=」から改行コードまでを一つのコマンドとして定義します。
- 一つのコマンド定義の最大長は、1,023 バイトです。  
なお、変数を展開した文字列が 1,023 バイトを超える場合はコマンドを実行しません。  
その際、統合トレースログに「KAVB4409-E 通知コマンド (コマンド) が実行できませんでした: 保守情報」が出力されます。
- 最大長のバイト数には、空白を含みます。改行コードは含みません。
- 変数を指定する場合は、変数を「\$」に続けて指定します。指定できる変数については、「表 2-13 自動アクション通知定義ファイルで指定できる変数」を参照してください。
- COMMAND に指定された通知コマンドは、JP1/IM・Manager の実行環境を引き継ぎます。
- 通知コマンドは、JP1/IM・Manager の実行権限 ( Windows : SYSTEM ユーザー , UNIX : root ) で実行されます。
- COMMAND に指定する通知コマンドは、フルパスで指定してください。
- 通知コマンドは、必ず終了するコマンドを設定してください。バッチファイル ( Windows ) またはシェルスクリプト ( UNIX ) を設定する場合は、必ず exit 0 で終了するようにしてください。終了しないコマンドや GUI が起動するコマンドを指定した場合、実行した通知コマンドのプロセスが残ってし

まいます。

- 「\$」を指定したい場合は「\$\$」と指定してください。

表 2-13 自動アクション通知定義ファイルで指定できる変数

変数名	内容
ACTSEQNO	遅延状態および異常状態となったアクションのアクション通し番号。 状態監視で指定した時に、異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合には、(----)と表示される。
EVID	遅延状態および異常状態となったアクション契機イベントのイベント ID (基本コード(16進8桁):拡張コード(16進8桁))。 遅延または異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合には、(-----:-----)と表示される。
EVARVTIME	遅延状態および異常状態となったアクション契機イベントのイベント到着時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。 遅延もしくは異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合には、(----/--/-- --:--:--)と表示される。
ACTSTAT	遅延状態および異常状態となったアクションのアクション状態。 アクションの実行状態を表す次の文字列のどれか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• running (実行中)</li> <li>• ended (終了)</li> <li>• fail (実行不可)</li> <li>• error (実行失敗)</li> <li>• unknown (状態不明)</li> <li>• wait (送信待機)</li> <li>• send (送信中)</li> <li>• queue (キューイング)</li> <li>• cancel (キャンセル)</li> <li>• kill (強制終了)</li> </ul> <p>アクションを JP1/IM - View からキャンセルした場合、上記の状態の後ろにキャンセル状態が表示される。 キャンセル状態がキャンセル中の場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• running (canceling)</li> <li>• send (canceling)</li> <li>• queue (canceling)</li> <li>• wait (canceling)</li> </ul> <p>キャンセル状態がキャンセル失敗の場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• running (miss)</li> <li>• send (miss)</li> <li>• queue (miss)</li> <li>• wait (miss)</li> <li>• ended (miss)</li> <li>• error (miss)</li> </ul>

## 2. 定義ファイル

自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)

変数名	内容
	<p>アクション実行サービスの再起動時にコマンドが再実行、またはアクション再実行用ファイルに出力された場合は、状態の後ろに「-R」が付く。(例: ended-R)</p> <p>JP1/IM・View から再実行をした場合は、上記の状態の後ろに「-RU」が付く。(例: ended-RU)</p> <p>抑止されたアクションを JP1/IM・View から再実行した場合は、上記状態の後ろに「-RUD」が付く。(例: ended-RUD)</p> <p>抑止されたアクションを JP1/IM・View から再実行し、かつ、再実行中にアクション実行サービスの再起動(系切り替え含む)の発生によって再実行、またはアクション再実行用ファイルに出力された場合は、状態の後ろに「-RD」が付く。(例: ended-RD)</p> <p>抑止されたアクションの状態が「fail」(実行不可)になった場合は、状態の後ろに「-D」が付く。(例: fail-D)</p> <p>遅延監視で指定した場合に、遅延となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、(----)と表示される。</p> <p>状態監視で指定した場合に、異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、次の文字列のどれかになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• fail (実行不可)</li> <li>• error (実行失敗)</li> </ul>
ACTSTARTTIME	<p>遅延状態となったアクションのアクション開始時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。</p> <p>遅延監視で指定したときだけ、時刻が表示される。</p> <p>状態監視で指定した場合には、(----/--/-- --:--:-- )と表示される。</p> <p>遅延監視で指定した場合に、遅延となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、(----/--/-- --:--:-- )と表示される。</p>
ACTENDTIME	<p>異常状態となったアクションのアクション終了時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。</p> <p>状態監視で指定したときだけ、時刻が表示される。</p> <p>遅延監視で指定した場合には、(----/--/-- --:--:-- )と表示される。</p> <p>状態監視で指定した場合に、異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、(----/--/-- --:--:-- )と表示される。</p>
ACTHOST	<p>遅延状態および異常状態となったアクションの実行先ホスト名。</p> <p>遅延監視で指定した場合に、遅延となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、(----)と表示される。</p> <p>状態監視で指定した場合に、「実行ホスト名」を設定していないアクション定義により発行されたアクションの状態が「実行不可」となったときには、(----)と表示される。</p>
ACTUSR	<p>遅延状態および異常状態となったアクションを実行している JP1 ユーザー名。</p> <p>実行先ホストに登録されているユーザー名となる。</p> <p>遅延監視で指定した場合に、遅延となったアクションがアクション情報ファイルからラップしたときには、(----)と表示される。</p> <p>状態監視で指定した場合に、「実行ユーザー名」を設定していないアクション定義により発行されたアクションの状態が「実行不可」となったときには、(----)と表示される。</p>

## 定義例

自動アクションの状態監視または遅延監視で異常を検知した場合に、JP1 イベントを発行し、通知コマンド `statenotice01.exe` (状態監視の場合) または、`delaynotice01.exe` (遅延監視の場合) を実行する。

```
[STATE_WATCH]
EVENT=true
COMMAND=C:¥Command¥statenotice01.exe
[End]
[DELAY_WATCH]
EVENT=true
COMMAND=C:¥Command¥delaynotice01.exe
[End]
```

# イベント条件表示項目定義ファイル ( attr\_list.conf )

---

## 形式

---

```
# コメント行  
属性名  
属性名  
属性名  
.  
.  
属性名
```

---

## ファイル

attr\_list.conf ( イベント条件表示項目定義ファイル )

attr\_list.conf.model ( イベント条件表示項目定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
<Consoleパス>%conf%\action\attr_list  
<共有フォルダ>%jplcons%\conf%\action\attr_list
```

UNIX の場合

```
/etc/opt/jplcons/conf/action/attr_list  
<共有ディレクトリ>/jplcons/conf/action/attr_list
```

## 説明

イベント条件表示項目定義ファイルは、[ アクション詳細設定 ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示する表示項目を指定する定義ファイルです。[ アクション詳細設定 ] 画面は、イベント条件表示項目定義ファイルに指定された表示項目を指定された順番で [ 属性名 ] 表示領域に表示します。

## 反映時期

イベント条件表示項目定義ファイルは、セントラルコンソールの起動時、または、jco\_spm�\_reload コマンド実行時に読み込みます。JP1/IM - View は、[ アクション設定 ] 画面を表示するときにセントラルコンソールが読み込んだイベント条件表示項目定義ファイルの内容を取得し、[ アクション詳細設定 ] 画面に反映します。

## 記述内容

属性名

イベント条件表示項目定義ファイルには、[ アクション詳細設定 ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示する表示項目を指定します。表示項目は、表示項目に対応する属性

名で1行に1件記述します。0～256件の表示項目を指定できます。  
 英小文字，英大文字を区別します。属性名の両端に指定された空白（半角スペース）とタブ文字は無視されます。  
 指定できる属性名を次の表に示します。  
 SEPARATOR を指定すると，[アクション詳細設定]画面の[属性名]表示領域に「-----」を表示します。SEPARATOR は，よく使う項目と，あまり使わない項目を分けるときに設定します。  
 ただし，SEPARATOR だけを指定した場合は，[属性名]表示領域には，「-----」だけが表示されます。この場合，「-----」を選択してイベント条件を追加しても，イベント条件は設定できません。

表 2-14 表示項目一覧

項番	表示項目	属性名
1	登録ホスト名	B.SOURCESERVER
2	重大度	E.SEVERITY
3	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE
4	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME
5	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE
6	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME
7	事象種別	E.OCCURRENCE
8	ユーザー名	E.USER_NAME
9	メッセージ	B.MESSAGE
10	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME
11	イベント ID	B.ID
12	開始時刻	E.START_TIME
13	終了時刻	E.END_TIME
14	登録時刻	B.TIME
15	到着時刻	B.ARRIVEDTIME
16	固有の拡張属性	OTHER_EXTENDED_ATTRIBUTE
17	登録要因	B.REASON
18	発行元プロセス ID	B.PROCESSID
19	発行元ユーザー名	B.USERNAME
20	発行元ユーザー ID	B.USERID
21	発行元グループ名	B.GROUPNAME
22	発行元グループ ID	B.GROUPID
23	発行元 IP アドレス	B.SOURCEIPADDR

## 2. 定義ファイル

イベント条件表示項目定義ファイル ( attr\_list.conf )

項番	表示項目	属性名
24	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID
25	終了コード	E.RESULT_CODE
26	発生元ホスト名	E.JP1_SOURCEHOST
27	イベント基本情報	B.BASIC
28	イベント詳細情報	B.DETAIL
29	-----	SEPARATOR

### 注

同じ属性名が複数指定されていた場合、その値は無視されます。

また、イベント表示項目定義ファイルが読み込めなかった場合、有効な表示項目が 0 件のときは、項番 1 から 25 までの項目がデフォルト値として表示されます。

### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

### 定義例

```
B.SOURCESERVER
E.SEVERITY
E.OBJECT_TYPE
E.OBJECT_NAME
E.ROOT_OBJECT_TYPE
E.ROOT_OBJECT_NAME
E.OCCURRENCE
E.USER_NAME
B.MESSAGE
E.PRODUCT_NAME
B.ID
E.START_TIME
E.END_TIME
B.TIME
B.ARRIVEDTIME
OTHER_EXTENDED_ATTRIBUTE
B.REASON
B.PROCESSID
B.USERNAME
B.USERID
B.GROUPNAME
B.GROUPID
B.SOURCEIPADDR
E.OBJECT_ID
E.RESULT_CODE
E.JP1_SOURCEHOST
```

# イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル ( event\_info\_replace.conf )

---

## 形式

---

```
変換前文字=変換後文字列  
変換前文字=変換後文字列  
⋮  
変換前文字=変換後文字列
```

---

## ファイル

```
event_info_replace.conf
```

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

```
<Consoleパス>%conf%action  
<共有フォルダ>%jplcons%conf%action
```

### UNIX の場合

```
/etc/opt/jplcons/conf/action  
<共有ディレクトリ>/jplcons/conf/action
```

## ファイルの権限

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルに必要な権限を次に示します。

### Windows の場合

Administrators グループおよび SYSTEM ユーザーが参照できる必要があります。

### UNIX の場合

root 権限を持つユーザーが参照できる必要があります。

## 説明

自動アクションのイベント引き継ぎ機能の変換ルールを指定するファイルです。自動アクションのイベント引き継ぎ情報変換機能は、イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの変換ルールに従って、イベント引き継ぎ情報に含まれる特定の ASCII 文字を別の文字列に変換できます。

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルは、JP1/IM・Manager のインストール時に作成されません。使用する際はテキストファイルを作成・編集してください。

## 定義の反映時期

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの内容は、JP1/IM・Manager の起動時、JP1/IM・View の [ アクション設定 ] 画面の [ 適用 ] ボタンをクリックして定義を有効にした

## 2. 定義ファイル

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル ( event\_info\_replace.conf )

とき、および `jcachange` コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。

### 記述内容

変換前文字 = 変換後文字列

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルには、イベント引き継ぎ情報の変換機能で「変換前の文字」と「変換後の文字列」を記述し、変換ルールを指定します。0 ~ 32 件の変換ルールを指定できます。

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの半角スペース、タブ、改行だけの行は無視します。1 行に一つの変換ルールを指定します。変換前文字、変換後文字列は、「=」で区切って指定します。

定義した 1 行が「変換前文字 = 変換後文字列」の形式でない場合は、その定義を無視して処理を続行します。また、変換後文字列が指定されていない場合、イベント引き継ぎ情報の変換時に変換前の文字を削除する設定とします。

変換前文字の同じ変換ルールは指定できません。変換前文字の同じ変換ルールが複数あった場合、ファイルの先頭行に近い変換ルールが有効となり、その他の変換前文字の同じ変換ルールは無効となります。

#### 変換前文字

変換前文字として指定できる文字列は、ASCII 文字 ( 0x00 ~ 0x7F ) からアルファベット、数字、半角スペースを除いた半角記号 1 文字です。

変換前文字として指定できる ASCII 文字を次に示します。

表 2-15 ASCII 文字

文字	16 進数
!	0x21
"	0x22
#	0x23
\$	0x24
%	0x25
&	0x26
'	0x27
(	0x28
)	0x29
*	0x2a
+	0x2b
,	0x2c
-	0x2d
.	0x2e
/	0x2f

文字	16進数
:	0x3a
;	0x3b
<	0x3c
=	0x3d
>	0x3e
?	0x3f
@	0x40
[	0x5b
¥	0x5c
]	0x5d
^	0x5e
_	0x5f
`	0x60
{	0x7b
	0x7c
}	0x7d
~	0x7e

#### 変換後文字列

変換後文字として指定できる文字列は、ASCII文字 ( 0x00 ~ 0x7F ) のアルファベット、数字、半角スペース、タブ、半角記号、および変換前に指定できる半角文字です。0 ~ 2文字まで指定できます。

#### 定義例

「"」「'」および「\*」を「\_」に変換する例を次に示します。

```
"=_  
'=_  
*=_
```

メッセージ ( B.MESSAGE ) の値が「WEBサーバがダウンしました。詳細: "Network Error"」というJP1イベントを受信すると、メッセージテキスト全体 ( 変数: EVMSG ) の値は、「WEBサーバがダウンしました。詳細: \_Network Error\_」となります。

# 拡張起動プロセス定義ファイル (jp1co\_service.conf)

## 形式

---

プロセス名 | 起動オプション | 再起動可否 | 再起動回数 | リトライ間隔 | 再起動回数リセット時間 |

---

## ファイル

jp1co\_service.conf (拡張起動プロセス定義ファイル)

jp1co\_service.conf.model (拡張起動プロセス定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1cons¥conf¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1cons/conf/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1cons/conf/

## 説明

JP1/IM - Manager を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。

JP1/IM - Manager はプロセス管理機能によって、プロセス異常終了時の再起動を制御しています。プロセス管理機能は、拡張起動プロセス定義ファイルの定義に従ってプロセスを制御します。

空白など、不要な文字を記述しないでください。編集を許可されているパラメーターの数値だけを編集してください。

「再起動可否」のパラメーターだけを、運用にあわせてカスタマイズするようにしてください。ほかのパラメーターは、各プロセスに合わせて適切な値がデフォルト値として設定されているため、通常は設定を変える必要はありません。

クラスタ構成では、論理ホストのプロセス管理のプロセスを起動する際、論理ホストの conf フォルダに拡張起動プロセス定義ファイルがない場合、物理ホストの拡張起動プロセス定義ファイルがコピーされます。

## 定義の反映時期

定義ファイルの内容は、JP1/IM・Manager の起動時、および `jpco_spmc_reload` コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。なお、「起動オプション」のパラメーター変更については JP1/IM・Manager の起動時にだけ有効になります。

## 記述内容

### プロセス名

JP1/IM・Manager のプロセス管理機能により起動停止するプロセス名を指定します。

JP1/IM・Manager のプロセス名があらかじめ指定されています。編集しないでください。

なお、ここで指定した名称は、`jpco_spmc_status` コマンドでプロセス名として表示されます。

### 起動オプション

プロセスの起動オプションを指定します。

JP1/IM・Manager の `evtcon` プロセスは、起動オプションの指定が必要です。

`evtcon` プロセスの `-xmx` パラメーターは、JP1/IM・Manager の `evtcon` プロセスが使用するヒープ領域サイズを設定するパラメーターです。初期値として 512 メガバイトのヒープ領域サイズが設定されています。

`evtcon` プロセスのヒープ領域使用量は、ユーザーの設定により初期値を超えることがあります。ヒープ領域を見積もり、使用量が 512 メガバイトを超える場合には `-xmx` パラメーターの値を変更する必要があります。ヒープ領域の見積もりについては、JP1/IM・Manager のリリースノートを参照してください。

### 起動オプションの注意事項

- JP1/IM・Manager の `evtcon` プロセスのヒープ領域サイズを変更する場合は、十分にテスト運用して問題ないことを確認してください。ヒープ領域範囲内で指定される場合であっても、メモリー不足により JP1/IM・Manager が停止したり、[ イベントコンソール ] 画面のイベント表示が更新されなくなったりするなど、動作が不安定になることがあります。この場合は、ヒープ領域見積もり式を参照し、[ イベントバッファー ] および [ 検索時のイベント取得件数 ] の設定を見直してください。
- JP1/IM・Manager のリリースノートに記載している最大メモリー容量は論理値です。OS 種別、ご使用の環境、同時に稼働するアプリケーションの影響により、設定したヒープ領域を確保できない場合があります。ヒープ領域を確保できなかった場合や、初期値である 512 メガバイトを下回る値を設定した場合は、JP1/IM・Manager が起動できないなど、不具合が生じることがあります。

Windows で、ヒープ領域サイズを 512 メガバイトから 1,024 メガバイトに変更した場合の設定例を次に示します。

## 2. 定義ファイル

拡張起動プロセス定義ファイル (jp1co\_service.conf)

(設定例)

< ヒープ領域サイズを 1,024 メガバイトに変更する前 (初期値) の状態 >

```
evtcon| |-Xmx512m|0|3|3|3600|
```

< ヒープ領域サイズを 1,024 メガバイトに変更したあとの状態 >

```
evtcon| |-Xmx1024m|0|3|3|3600|
```

### 再起動可否

プロセスが異常終了した場合に、再起動するかどうかを指定します。

再起動しない場合は 0、再起動する場合は 1 を指定します。

デフォルトは 0 です。

### 再起動回数

プロセスの再起動の試行回数を指定します。

指定できる値は、0 ~ 99 です。デフォルトは 3 です。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

### リトライ間隔

プロセスの再起動のリトライ間隔を、秒単位で指定します。

指定できる値は、0 ~ 3,600 です。デフォルトは 3 です。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

### 再起動回数リセット時間

再起動によってプロセスが起動してから何時間後に再起動回数をリセットするかを、秒単位で指定します。

指定できる値は、3,600 ~ 2,147,483,647 (秒) です。デフォルトは 3,600 です。

プロセスが起動してから、指定した時間が経過すると、再起動回数リセットされます。再度プロセスが異常終了した場合は、再起動回数が 1 からカウントされます。再起動によってプロセスが起動してから、指定した時間より前に再度異常終了した場合は、前回の再起動回数を引き継ぎます。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

## 定義例

拡張起動プロセス定義ファイルの定義例を次に示します。

```
evflow| |0|3|3|3600|
jcamain| |0|3|3|3600|
evtcon| |-Xmx512m|0|3|3|3600|
evgen| |0|3|3|3600|
jcdmain| |0|3|3|3600|
jcsmain| |0|3|3|3600|
jcfmain| |0|3|3|3600|
```

# IM パラメーター定義ファイル (jp1co\_param\_V7.conf)

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER]
"SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT"=dword:値
"SEND_PROCESS_RESTART_EVENT"=dword:値
```

---

## ファイル

jp1co\_param\_V7.conf (IM パラメーター定義ファイル)

jp1co\_param\_V7.conf.model (IM パラメーター定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき  
Consoleパス¥conf¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jp1cons¥conf¥

UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jp1cons/conf/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jp1cons/conf/

## 説明

JP1/IM - Manager のプロセスの異常, また, 異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。JP1/IM - Manager のプロセス, および発行できる JP1 イベントは次のようになります。

- JP1/IM - Manager のプロセス
- イベントコンソールサービス (evtcon)
  - イベント基盤サービス (evflow)
  - アクション実行サービス (jcamain)
  - セントラルスコープサービス (jcsmain)
  - インシデント登録サービス (jcdmain)
  - 関連イベント発行サービス (evgen)

## 2. 定義ファイル

IM パラメーター定義ファイル (jp1co\_param\_V7.conf)

発行できる JP1 イベント

- イベント ID が 3F90 の JP1 イベント：プロセスが異常終了した場合に発行できる。
- イベント ID が 3F91 の JP1 イベント：プロセス起動時にタイムアウトした場合に発行できる。
- イベント ID が 3F92 の JP1 イベント：異常終了したプロセスが再起動を完了した場合に発行できる。

プロセスの異常や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行することにより、JP1/IM・Manager 自身の障害を履歴管理できるようになります。このため、この定義ファイルを使って、JP1 イベントを発行する設定にすることをお勧めします。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

### 定義の反映時期

この定義ファイルを引数に `jbsssetcnf` コマンドを実行し、JP1/IM・Manager を再起動したあとに有効になります。

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER ]

JP1/IM・Manager の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は `JP1_DEFAULT` に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"SEND\_PROCESS\_TERMINATED\_ABNORMALLY\_EVENT"=dword: 値

値を「1」にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

- プロセスが異常終了した場合（イベント ID が 3F90 の JP1 イベントが発行される）
- 起動時に起動通知がなく、タイムアウトした場合（イベント ID が 3F91 の JP1 イベントが発行される）

デフォルトは「0」で JP1 イベントを発行しません。

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

"SEND\_PROCESS\_RESTART\_EVENT"=dword: 値

値を「1」にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

- プロセス再起動の機能により、異常終了したプロセスの再起動が完了した場合（イベント ID が 3F92 の JP1 イベントが発行される）

デフォルトは「0」で JP1 イベントを発行しません。

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

## 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEMANAGER]
"SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT"=dword:0
"SEND_PROCESS_RESTART_EVENT"=dword:0
```

ファイルの終端が最下行の先頭になるようにしてください。

## システムプロファイル (.system)

---

### 形式

---

```
DESC_VERSION=11
:
[ServerDefine]
InvalidateTime = 1440
EventCount = イベントバッファ数
Debug = true
[End]
:
[RetryInfo]
RetryCount = リトライ回数
RetryInterval = リトライ間隔
[End]
[LocaleInformation]
Language=Japanese
[End]
```

---

### ファイル

- .system (システムプロファイル)
- .system.model (システムプロファイルのモデルファイル)

### 格納先ディレクトリ

#### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥profile¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥profile¥

#### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/profile/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/profile/

### 説明

イベントコンソールの基本動作を定義するファイルです。

各マネージャー (JP1/IM - Manager) に一つあり、イベントコンソールのシステム環境 (イベントバッファ数やイベント検索時のイベントサービスとの接続リトライ回数など) についての環境情報を設定します。このプロファイルで設定した内容は、このプロファイルがあるマネージャーに接続されているすべての JP1/IM - View に影響します。

## 定義の反映時期

JP1/IM - Manager 起動時、または [ システム環境設定 ] 画面で [ 適用 ] ボタンをクリックしたときに、その定義が有効になります。

## 記述内容

EventCount = イベントバッファ数

イベントサービスからイベントを抽出してマネージャー上にバッファリングするときのイベント件数の上限を指定します。  
指定できる値は 10 ~ 2,000、デフォルトは 500 です。

RetryCount = リトライ回数

イベント検索時にイベントサービスと接続ができなかった、または接続が切断された場合に自動的に再接続するリトライ回数を指定します。  
指定できる値は 0 ~ 100、デフォルトは 3 です。

RetryInterval = リトライ間隔

イベント検索時にイベントサービスと接続ができなかった、または接続が切断された場合に自動的に再接続するリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。  
指定できる値は 1 ~ 86,400,000、デフォルトは 10,000 です。

## 注意事項

- 特別な理由がない場合は、[ システム環境設定 ] 画面で設定してください。
- システムプロファイルの内容はイベントコンソールの動作のすべてに影響するため、操作にはご注意ください。また、説明していない属性および属性値については一切変更しないでください。変更した場合、イベントコンソールの動作が不正になることがあります。
- システムプロファイルを編集する前に、JP1/IM - View を終了させてください。
- システムプロファイルは、マネージャーごとにあります。そのため、ログインするマネージャーを変更した場合は、その接続先のシステムプロファイルを変更する必要があります。
- .system ファイルの内容を変更する場合には、あらかじめバックアップを作成してから変更されることをお勧めします。
- 属性値が範囲外など、システムプロファイルに誤りがある場合、イベントコンソールは正しく動作しないことがあります。

## 定義例

```
DESC_VERSION=11
:
[End]
[ServerDefine]
InvalidateTime = 1440
EventCount = 500
Debug = true
[End]
```

## 2. 定義ファイル

システムプロファイル (.system)

```
      :  
      [RetryInfo]  
      RetryCount = 3  
      RetryInterval = 10000  
      [End]  
      [LocaleInformation]  
      Language=Japanese  
      [End]
```

# ユーザープロファイル (defaultUser | profile\_ユーザー名)

---

## 形式

---

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン
[DisplayItemContainer]
:
[DisplayItemInformation]
ValidTab=All
Visible=表示可否
AttrName=JP1イベント属性名
AttrOrder=並び順
ColumnSize=列幅
[End]
[End]
:
```

---

## ファイル

defaultUser (デフォルトユーザープロファイル)

defaultUser.model (デフォルトユーザープロファイルのモデルファイル)

profile\_ユーザー名 (各 JP1 ユーザー用ユーザープロファイル)

## 格納ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥profile¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥profile¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/profile/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/profile/

## 説明

イベントコンソールの画面表示に関する環境情報をユーザーごとに定義するファイルです。

マネージャー上のユーザーごとにあり、イベントコンソールのユーザー環境（主に画面表示に関する環境情報）を設定します。ユーザーごとのプロファイルは、JP1 ユーザー名に対応して「profile\_ユーザー名」という名称で作成されます。なお、ユーザープ

## 2. 定義ファイル

ユーザープロファイル ( defaultUser | profile\_ ユーザー名 )

ロファイルにはすべてのユーザーのデフォルトとなる「defaultUser」プロファイルが用意してあります。この「defaultUser」プロファイルを変更しておく、それ以降作成するユーザープロファイルは変更した「defaultUser」プロファイルを基準にします。

profile\_ ユーザー名 ( 各 JP1 ユーザー用ユーザープロファイル ) は、JP1/IM - View の [ ユーザー環境設定 ] 画面から定義できます。ユーザープロファイルに誤りがある場合、[ イベントコンソール ] 画面が正しく表示されないことがありますので、JP1/IM - View の [ ユーザー環境設定 ] 画面から定義してください。

### 定義の反映時期

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) に再ログインするとその定義が有効になります。

### 記述内容

DESC\_VERSION= ファイルバージョン

ユーザープロファイルの形式のバージョンを表しています。

ファイルバージョンにより、[ DisplayItemInformation ] ~ [ End ] で指定できる項目が変わります。バージョン 09-50 以降はファイルバージョンに 12 を指定してください。ファイルバージョンに 11 以前が指定されている場合は、ファイルバージョンを変更しないでください。

profile\_ ユーザー名 ( 各 JP1 ユーザー用ユーザープロファイル ) は、次の操作によって最新のファイルバージョンに更新されます。

- JP1/IM - View から [ ユーザー環境設定 ] 画面を保存する場合
- JP1/IM - View のログアウト時に、[ イベントコンソール ] 画面の各ページのイベント一覧に表示される項目の列幅の大きさを保存する場合

defaultUser ( デフォルトユーザープロファイル ) をファイルバージョン 12 にしたい場合は、defaultUser.model ( デフォルトユーザープロファイルのモデルファイル ) を defaultUser に上書きした上で編集してください。

[ DisplayItemInformation ] ~ [ End ]

[ DisplayItemInformation ] ~ [ End ] 内にイベントコンソール画面に表示する JP1 イベントの属性を指定します。

[ DisplayItemInformation ] ~ [ End ] で一つの定義ブロックとなります。定義ブロックの内容は、[ イベントコンソール ] 画面の三つのページすべてに反映されます。定義ブロックを追加する場合は、[ DisplayItemContainer ] ~ [ End ] の間に挿入します。

[ DisplayItemInformation ] ~ [ End ] で指定できるパラメーターを次に示します。

なお、「AttrOrder=0」が指定されている [ DisplayItemInformation ] ~ [ End ] は、システムが使用する定義となりますので、編集しないでください。

ValidTab = All

固定の文字列です。変更しないでください。

Visible = 表示可否

AttrName で指定した属性の情報を表示するかどうかを指定します。表示可否に「true」を指定した場合は、AttrName で指定した属性の情報が表示されます。表示可否に「false」を指定した場合は、AttrName で指定した属性の情報は表示されません。なお、「false」を指定すると、[ユーザー環境設定]画面の「表示できる項目」に表示されます。表示可否に「false」を指定した場合は、AttrOrder には「-1」を指定してください。

AttrName = 表示する属性名

JP1 イベントの属性名を指定します。ここで指定した属性の情報が [ イベントコンソール ] 画面に表示されます。

設定可能な属性の一覧を次の表に示します。

表 2-16 「表示する属性名」に指定できる属性名の一覧

項番	指定可能な属性	属性の名称	DESC_VERSION		
			1 ~ 10 1	11	12
1	IM.EVENT_TYPE	種別			
2	B.SEQNO	イベント DB 内通し番号			
3	B.IDBASE	イベント ID			
4	B.PROCESSID	発行元プロセス ID			
5	B.TIME	登録時刻			
6	B.ARRIVEDTIME	到着時刻			
7	B.USERID	発行元ユーザー ID			
8	B.GROUPID	発行元グループ ID			
9	B.USERNAME	発行元ユーザー名			
10	B.GROUPNAME	発行元グループ名			
11	B.SOURCESERVER	登録ホスト名			
12	B.SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号			
13	B.MESSAGE	メッセージ			
14	E.SEVERITY	重大度			
15	E.USER_NAME	ユーザー名			
16	E.PRODUCT_NAME	プロダクト名			

## 2. 定義ファイル

ユーザープロファイル ( defaultUser | profile\_ ユーザー名 )

項番	指定可能な属性	属性の名称	DESC_VERSION		
			1 ~ 10 1	11	12
17	E.OBJECT_TYPE	オブジェクトタイプ			
18	E.OBJECT_NAME	オブジェクト名			
19	E.OBJECT_ID	オブジェクト ID			
20	E.ROOT_OBJECT_TYPE	登録名タイプ			
21	E.ROOT_OBJECT_NAME	登録名			
22	E.OCCURRENCE	事象種別			
23	E.START_TIME	開始時刻			
24	E.END_TIME	終了時刻			
25	E.@JP1IM_ACTCONTROL	アクション	×		
26	E.@JP1IM_ACTTYPE	アクション種別	×		
27	E.@JP1IM_ORIGINAL_SEVERITY	重大度 (変更前)	×		
28	E.@JP1IM_CHANGE_SEVERITY	重大度変更	×		
29	E.@JP1IM_MEMO	メモ	×		
30	E.JP1_SOURCEHOST	発生元ホスト名	×	×	
31	E.ACTION_TARGET <sup>2</sup>	アクション		×	×
32	IM.ACTION_TYPE <sup>2</sup>	アクション種別		×	×

(凡例)

: 指定できる

× : 指定できない

注 1

1 ~ 10 で指定できる項目は同じです。

注 2

バージョン 8 互換の項目です。DESC\_VERSION が 10 以前 (バージョン 8 以前の定義) の場合に、次のように変換されます。

E.ACTION\_TARGET    E.@JP1IM\_ACTCONTROL

IM.ACTION\_TYPE    E.@JP1IM\_ACTTYPE

AttrOrder = 並び順

左から何列目に表示させるかを指定します。1 を指定すると、イベント一覧のいちばん左側に表示されます。なお、ほかと同じ値は指定しないでください。また、0 はシステムで使用する値のため指定しないでください。

ユーザープロファイルに誤りがある場合、[ イベントコンソール ] 画面が正しく表示されないことがありますので、JP1/IM・View の [ ユーザー環境設定 ] 画面

から定義してください。

ColumnSize = 列幅

列の幅を指定します。指定できる値は、1 ~ 1,000 です。

### 注意事項

- ユーザープロファイルの内容はイベントコンソールの動作のすべてに影響するため、操作にはご注意ください。また、説明していない属性および属性値については一切変更しないでください。変更した場合、イベントコンソールの動作が不正になることがあります。
- JP1/IM・View の動作中および終了時には、ユーザープロファイルが上書きされることがあります。このため、ユーザープロファイルを編集する場合は、編集する前に JP1/IM・View を終了させてください。
- ユーザープロファイルは、マネージャーごとにあります。そのため、ログインするマネージャーを変更した場合は、その接続先のプロファイルを変更する必要があります。
- defaultUser ファイルの内容を変更する場合には、あらかじめバックアップを作成してから変更されることをお勧めします。
- JP1/Base のユーザー管理でユーザーを削除しても、ユーザープロファイルは削除されません。
- JP1/Base のユーザー管理でユーザー名を変更しても、ユーザープロファイルは引き継がれません。
- 属性値が範囲外など、ユーザープロファイルに誤りがある場合、イベントコンソールは正しく動作しないことがあります。

## 通信環境定義ファイル ( console.conf.update )

---

### 形式

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥EVCONS]  
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:16進数値  
  
[論理ホスト名¥JP1CONSOLE_CMD]  
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:16進数値  
"COM_RETRY_COUNT"=dword:16進数値  
"COM_RETRY_INTERVAL"=dword:16進数値  
"COM_RMI_TIMEOUT"=dword:16進数値
```

---

### ファイル

console.conf.update ( 通信環境定義ファイルのモデルファイル )

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Console パス ¥default¥

UNIX の場合

/etc/opt/jp1cons/default/

### 説明

JP1/IM・Manager とビューアー、jcochstat コマンドとの通信処理 ( タイムアウト時間 ) を定義するファイルです。

ビューアーと JP1/IM・Manager との通信で、ネットワークに低速の回線が使われていたり、ビューアーの負荷が高かったりするときに、ビューアーの通信処理でタイムアウトによる通信エラーが発生することがあります。このような場合、通信のタイムアウト時間を変更することで通信エラーの発生を防げます。

また、ほかのマネージャーから jcochstat コマンドを使って自ホストの JP1 イベントの対処状況を変更する場合にも、何らかの理由によって通信処理でタイムアウトによる通信エラーが発生することがあります。このような場合、通信のタイムアウト時間や接続リトライ回数を変更することで通信エラーの発生を防げます。

JP1/IM・View ( イベントコンソール ) を使用している場合は、JP1/IM・View ( イベントコンソール ) の通信環境定義ファイル ( view.conf.update ) も変更が必要です。

WWW ページ版を使用している場合は、WWW ページ版動作定義ファイル ( console\_ja.html ) も変更が必要です。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM・Manager を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥EVCONS]

イベントコンソールサービス環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"COM\_SO\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

タイムアウト時間を 16 進数値で指定します。単位はミリ秒です。デフォルト値は dword:000009C4 ( 2,500 ミリ秒 ) です。

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLE\_CMD]

jcochstat コマンド環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"COM\_SO\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

タイムアウト時間を 16 進数値で指定します。単位はミリ秒です。デフォルト値は dword:0000EA60 ( 60,000 ミリ秒 ) です。

"COM\_RETRY\_COUNT"=dword:16 進数値

通信エラーが発生したときのリトライ回数を 16 進数で指定します。デフォルト値は dword:00000003 ( 3 回 ) です。

"COM\_RETRY\_INTERVAL"=dword:16 進数値

リトライするまでの待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。デフォルト値は dword:00000BB8 ( 3,000 ミリ秒 ) です。

"COM\_RMI\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

イベントの対処状況変更のタイムアウト時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 )、デフォルト値は dword:0000EA60 ( 60,000 ミリ秒 ) です。

KAVB1205-E が頻繁に表示される場合、タイムアウト時間を長めに設定します。

## 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEMANAGER¥EVCONS]
```

```
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:000009C4
```

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLE_CMD]
```

```
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:0000EA60
```

```
"COM_RETRY_COUNT"=dword:00000003
```

```
"COM_RETRY_INTERVAL"=dword:00000BB8
```

## 2. 定義ファイル

通信環境定義ファイル ( console.conf.update )

ファイルの終端が最下行の先頭になるようにしてください。

# ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)

---

## 形式

---

```
[HEALTHCHECK]
ENABLE={true | false}
FAILOVER={true | false}
EVENT={true | false}
COMMAND=コマンド
NO_RESPONSE_TIME=無応答時間
ERROR_THRESHOLD=異常とみなす無応答回数
BASE_NO_RESPONSE_TIME=無応答時間
BASE_ERROR_THRESHOLD=異常とみなす無応答回数
[End]
```

---

## ファイル

jcohc.conf (ヘルスチェック定義ファイル)

jcohc.conf.model (ヘルスチェック定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥health¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥health¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/health/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/health/

## 説明

ヘルスチェック機能を有効にするかどうかを定義するファイルです。ヘルスチェック機能を有効に設定する場合、異常を検知したときに、JP1 イベントの発行および通知コマンドの実行で、異常を通知するかどうかも定義できます。

この定義ファイルは、JP1/IM - Manager の動作する言語コードで記述してください。

ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf) を削除した場合は、ヘルスチェック定義ファイルのモデルファイル (jcohc.conf.model) を jcohc.conf の名称でコピーし、必要に応じて、定義を変更してください。

## 2. 定義ファイル

ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)

セントラルスコープサービス (jcsmain) はヘルスチェック機能で監視できません。

この定義ファイルでヘルスチェック機能を有効に設定すると、JP1/IM・Manager の各プロセスおよび自ホスト上の JP1/Base のイベントサービスが正常に動作しているかどうかをチェックできます。

ヘルスチェック機能で異常を検知できるプロセスを次に示します。

- イベントコンソールサービス (evtcon)
- アクション実行サービス (jcamain)
- イベント基盤サービス (evflow)
- インシデント登録サービス (jcdmain)
- 関連イベント発行サービス (evgen)
- イベントサービス (jevservice)

これらのプロセスがハングアップ や異常終了となった場合に、異常を検知し、JP1 イベントを発行したり、設定した通知コマンドを実行したりして、オペレーターにプロセスの回復を促します。

### 注

プロセスのハングアップとは、デッドロックや無限ループなどが原因で、プロセスが処理要求を受け付けなくなる状態です。

### 定義の反映時期

次の場合に、ヘルスチェック定義ファイルの設定が有効になります。

- JP1/IM・Manager を起動した場合
- jco\_spmc\_reload コマンドによりリロードをした場合

### 記述内容

ENABLE={true | false}

ヘルスチェック機能を有効にするかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。ヘルスチェック機能を有効にする場合は「true」を、無効にする場合は「false」を指定します。デフォルトは「false」です。

ヘルスチェック機能を有効にすると、ヘルスチェック定義ファイル内の EVENT の設定が「true」か「false」かに関係なく、ヘルスチェック機能で異常を検知した場合に統合トレースおよび Windows イベントログ (syslog) にメッセージ (KAVB8060-E, KAVB8062-E) が出力されます。

FAILOVER={true | false}

クラスタシステムを使用している場合に使用します。ヘルスチェック機能で異常を検知した場合の JP1/IM・Manager の動作を「true」または「false」のどちらかで指定します。デフォルトは「false」です。クラスタシステムを使用していない

場合には、デフォルトのままにしてください。

- Windows の場合

異常を検知したときに JP1/IM - Manager を停止する場合は「true」を、停止しない場合は「false」を指定します。ヘルスチェック機能で異常を検知したときに JP1/IM - Manager を停止することで、クラスタシステムに JP1/IM - Manager の異常を通知します。クラスタシステムで JP1/IM - Manager の障害時に、フェールオーバーするように設定しておくことで、ヘルスチェックが異常を検知した場合にフェールオーバーできます。

- UNIX の場合

異常検知した JP1/IM - Manager のプロセスを停止する場合は「true」を、停止しない場合は「false」を指定します。ヘルスチェック機能で異常を検知したときに JP1/IM - Manager を停止することで、クラスタシステムに JP1/IM - Manager の異常を通知します。クラスタシステムで JP1/IM - Manager の障害時に、jco\_killall.cluster コマンドで強制的に終了し、フェールオーバーするように設定しておくことで、ヘルスチェックが異常を検知した場合にフェールオーバーできます。

EVENT={true | false}

ヘルスチェック機能で異常を検知した場合に、JP1 イベント（イベント ID：2012，2013）を発行するかどうかを指定します。

「true」または「false」のどちらかを指定します。イベントを発行する場合は「true」を、発行しない場合は「false」を指定します。

デフォルトは「true」です。なお、「true」を指定すると、次の場合にも JP1 イベント（イベント ID：2014）が発行されるようになります。

- ヘルスチェック機能が異常回復を検知した場合

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

COMMAND= コマンド

ヘルスチェック機能で異常を検知した場合に、実行する通知コマンドを指定します。実行可能なコマンドの種類は次のとおりです。

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル（.com，.exe）
- バッチファイル（.bat）
- JP1/Script のスクリプトファイル（.spt）  
（ただし .spt ファイルが実行可能なよう関連づけが設定されていること）

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- 実行形式ファイル（実行権限が付いていること）
- シェルスクリプト（実行権限が付いていること）

通知コマンドを定義する場合の注意事項を次に示します。

- 「COMMAND=」から改行コードまでを一つのコマンドとして定義します。

## 2. 定義ファイル

### ヘルスチェック定義ファイル (jcohc.conf)

- 一つのコマンド定義の最大長は、1,023 バイトです。最大長のバイト数には、空白を含みます。改行コードは含みません。1,024 バイトを超えた場合は、デフォルト値を仮定します。なお、変数を指定する場合は、変数を展開した文字列が 1,023 バイトを超えるときはコマンドを実行しません。その際、統合トレースログに「KAVB8072-E 通知コマンド (コマンド) が実行できませんでした : 保守情報」が出力されます。
- 変数を指定する場合は、変数を「\$」に続けて指定します。指定できる変数を次に示します。

表 2-17 ヘルスチェック定義ファイルに指定できる変数

変数名	内容
HCHOST	異常が発生したホスト名
HCFUNC	異常が発生した機能名 (evflow, jcamain, evtcon, jcdmain, evgen または jevservice)
HCPNAME	異常が発生したプロセスのプロセス名 (evflow, jcamain, evtcon, jcdmain, evgen または jevservice)
HCPID	異常が発生したプロセスのプロセス ID (evflow, jcamain, evtcon, jcdmain, evgen または jevservice のプロセス ID)
HCDATE	異常が発生した日付 (YYYY/MM/DD)
HCTIME	異常が発生した時刻 (hh:mm:ss)

注 jevservice で異常が発生した場合は、-1 に置き換わります。

- 通知コマンドは、必ず終了するコマンドを設定してください。バッチファイル (Windows) またはシェルスクリプト (UNIX) を設定する場合は、必ず exit 0 で終了するようにしてください。終了しないコマンドや GUI が起動するコマンドを指定した場合、実行した通知コマンドのプロセスが残ってしまいます。
- COMMAND に指定された通知コマンドは、JP1/IM - Manager の実行環境を引き継ぎます。
- 通知コマンドは、JP1/IM - Manager の実行権限 (Windows : SYSTEM ユーザー、UNIX : root) で実行されます。
- COMMAND に指定する通知コマンドは、フルパスで指定してください。

また、設定した通知コマンドが正常に動作するかどうかは、jcohcctest コマンドを使って十分にテストしてください。jcohcctest コマンドについては、「jcohcctest」(1. コマンド) を参照してください。

- デフォルトは指定なしの「COMMAND=」で、通知コマンドを実行しません。
- 「\$」を指定したい場合は「\$\$」と指定してください。

NO\_RESPONSE\_TIME= 無応答時間

JP1/IM - Manager のプロセスの無応答時間のチェック間隔を秒単位で指定します。

指定できる範囲は、60 ~ 3,600 秒です。デフォルト値は「60」秒です。  
指定範囲外の値が設定された場合や定義がない場合は、デフォルト値「60」秒を仮定します。

ERROR\_THRESHOLD= 異常とみなす無応答回数

JP1/IM - Manager のプロセスについて異常とみなす無応答回数を指定します。指定できる範囲は、1 ~ 60 回です。デフォルト値は「3」回です。

指定範囲外の値が設定された場合や定義がない場合は、デフォルト値「3」回を仮定します。

BASE\_NO\_RESPONSE\_TIME= 無応答時間

JP1/Base のプロセスの無応答時間のチェック間隔を秒単位で指定します。指定できる範囲は、60 ~ 3,600 秒です。デフォルト値は「300」秒です。

指定範囲外の値が設定された場合や定義がない場合は、デフォルト値「300」秒を仮定します。

BASE\_ERROR\_THRESHOLD= 異常とみなす無応答回数

JP1/Base のプロセスについて異常とみなす無応答回数を指定します。指定できる範囲は、1 ~ 60 回です。デフォルト値は 2 です。

指定範囲外の値が設定された場合や定義がない場合は、デフォルト値「2」回を仮定します。

## 定義例

ヘルスチェック機能で異常を検知した場合に、JP1 イベントを発行し、通知コマンド jcohc01.exe を実行します。

```
[HEALTHCHECK]
ENABLE=true
FAILOVER=false
EVENT=true
COMMAND=C:¥Command¥jcohc01.exe
NO_RESPONSE_TIME=60
ERROR_THRESHOLD=3
BASE_NO_RESPONSE_TIME=300
BASE_ERROR_THRESHOLD=2
[End]
```

# WWW ページ版動作定義ファイル ( console\_ja.html )

---

## 形式

---

```
<html>

<head>
<title>JP1/Integrated Management - View</title>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=SHIFT_JIS">
</head>

<body bgcolor="#FFFFFF" text="#000000" link="#000000" vlink="#000000"
alink="#000000" >
:
<param name="LANGUAGE" value="JAPANESE">
<param name="PORT" value="ポート番号">
<param name="SO_TIMEOUT" value="ソケットタイムアウト値">
<param name="TRACE_LEVEL" value="30">
<param name="DEBUG" value="NO">
<param name="RMI_TIMEOUT" value="サーバ処理タイムアウト値">
</applet>
</font>
</body>

</html>
```

---

## ファイル

console\_ja.html ( WWW ページ版動作定義ファイル )

console\_ja.html.model ( WWW ページ版動作定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Console パス ¥www¥

UNIX の場合

/opt/jp1cons/www/

## 説明

WWW ページ版の JP1/IM - View を起動する際に使用するファイルです。このファイルを編集することで WWW ページ版の JP1/IM - View の動作 ( 通信タイムアウト値や使用するポート番号の設定 ) を設定できます。

ビューアーと JP1/IM - Manager との通信で、ネットワークに低速の回線が使われていたり、ビューアーの負荷が高かったりするときに、ビューアーの通信処理でタイムアウトによる通信エラーが発生することがあります。このような場合、通信のタイムアウト時間を変更することで通信エラーの発生を防げます。

また、JP1/IM - Manager で使用するポート番号 ( 20115 ) を変更した場合には JP1/IM - Manager と接続する際に使用するポート番号も変更する必要があります。

ここで説明していないパラメーターの値は変更しないでください。

HP-UX (IPF) 対応の JP1/IM - Manager では WWW ページ版の JP1/IM - View をサポートしていません。このため、HP-UX (IPF) 対応の JP1/IM - Manager には、ここで説明している WWW ページ版動作定義ファイル、および格納先ディレクトリは存在しません。

## 定義の反映時期

JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) に再ログインすると、有効になります。

## 記述内容

```
<param name="PORT" value=" ポート番号 ">
    イベントコンソール用のポート番号 ( jplimevtcon ) をデフォルトの「20115」から変更した場合に変更します。デフォルト値は 20115 です。

<param name="SO_TIMEOUT" value=" ソケットタイムアウト値 ">
    受信データの到着待ち時間 ( ソケットタイムアウト値 ) を指定します。単位はミリ秒です。デフォルト値は 2,500 ミリ秒です。
    低速回線や、イベントトラフィックが高い環境の場合は長めに設定します。

<param name="RMI_TIMEOUT" value=" サーバ処理タイムアウト値 ">
    ログイン、ログアウト、自動更新、イベントの状態の変更、イベント検索、ユーザー環境設定、重要イベント設定、自動アクション設定、フィルター設定、コマンド実行操作のタイムアウト時間 ( サーバ処理タイムアウト値 ) を指定します。単位はミリ秒です。
    指定できる値は 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒、デフォルト値は 60,000 ミリ秒です。
```

## 定義例

```
<!-- Copyright (C) 2003, Hitachi, LTD. -->

<html>

<head>
<title>JP1/Integrated Management - View</title>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=SHIFT_JIS">
</head>

<body bgcolor="#FFFFFF" text="#000000" link="#000000" vlink="#000000" alink="#000000" >
<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="700" align="center">
<tr>
<td></td>
```

## 2. 定義ファイル

WWW ページ版動作定義ファイル ( console\_ja.html )

```
td>
</tr>
</table>

<font size="3">
<applet code="JP/co/Hitachi/soft/jp1/im/console/client/start/
JCoViewApplet.class" archive="jcoview.jar,hntrlib2j.jar" width="0"
height="0">
<param name="LANGUAGE" value="JAPANESE">
<param name="PORT" value="20115">
<param name="SO_TIMEOUT" value="2500">
<param name="TRACE_LEVEL" value="30">
<param name="DEBUG" value="NO">
<param name="RMI_TIMEOUT" value="60000">
</applet>
</font>
</body>

</html>
```

# イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)

---

## 形式

---

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン

[EV_GUIDE_ イベントガイド番号]
EV_USER=JP1ユーザー名
EV_COMP=属性名:属性値
EV_GUIDE=イベントガイドメッセージ
[END]
[EV_GUIDE_ イベントガイド番号]
EV_COMP=属性名:属性値
EV_COMP=属性名:属性値
EV_FILE=イベントガイドメッセージファイル名
[END]
:
```

---

## ファイル

sample\_jco\_guide.txt ( イベントガイド情報ファイルのサンプルファイル)

sample\_jco\_guide.txt.model ( イベントガイド情報サンプルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥guide¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1cons¥conf¥guide¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1cons/conf/guide/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1cons/conf/guide/

## 説明

JP1 イベントに対して、イベントガイド情報を定義するファイルです。このファイルで記述した内容は、JP1/IM・View の [ イベント詳細 ] 画面に表示されます。

イベントガイド情報ファイルの最大サイズは、1 メガバイトです。

イベントガイド情報ファイルは、JP1/IM・Manager の動作する言語コードで記述してください。

## 2. 定義ファイル

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)

なお、イベントガイド情報ファイルは、jco\_guide.txt というファイル名で作成する必要があります。サンプルファイル (sample\_jco\_guide.txt) をコピーし、ファイル名を jco\_guide.txt に変更してから使用するようになしてください。また、格納先のディレクトリは、サンプルファイルと同じディレクトリになしてください。EV\_FILE パラメーターで指定するファイル (イベントガイドメッセージファイル) と異なり、ファイル名は任意ではないため、注意してください。

発行された JP1 イベントに対して、複数のイベントガイド情報が一致する場合、イベントガイド情報ファイルで先に記述してある方が有効になります。

# を指定した場合、# 以降は改行されるまでコメント扱いとなります。ただし、開始タグ、属性情報、終了タグの後方にコメントを記述できません。開始タグと終了タグの後方にコメントを記述した場合は、エラーとなります。また、属性値の後方にコメントを書いた場合は、属性値の一部として認識されます。

¥ を記述する場合、¥¥ と記述する必要があります。¥n および ¥\$ 以外に ¥ を記述していた場合はログが出力され、¥ を記述した行を無視して処理します。

イベントガイド情報ファイル、イベントガイドメッセージファイルに記述されている HTML の構文チェックはしません。

### 定義の反映時期

イベントガイド情報ファイルを編集後、JP1/IM - Manager を再起動するか、jco\_spm�\_reload コマンドを実行したときから有効になります。なお、JP1/IM - View でのログイン時、[ イベント詳細 ] 画面にイベントガイド情報の表示領域がない場合、定義を有効にしたあと再ログインすることで、表示領域が表示されます。

イベントガイドメッセージファイルを編集した場合は、[ イベント詳細 ] 画面を表示し直すことで、編集内容が更新されます。

### 記述内容

DESC\_VERSION= ファイルバージョン

イベントガイド情報ファイルの形式のバージョンを表しています。指定する値は JP1/IM - Manager のバージョンが 09-10 までの場合 1 です。09-50 の場合、1 または 2 を指定できます。

[EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号]

イベントガイド情報の開始タグです。[EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号] ~ [END] で一つの定義ブロックとなります。このパラメーターと [END] の間に [ イベント詳細 ] 画面への表示対象となる JP1 イベントの比較条件および表示するメッセージを記述します。イベントガイド番号は、1 ~ 9999 の数字を 10 進数で指定します。複数の定義ブロックがある場合でも順序性を持たせる必要はありませんが、同一のイベントガイド番号を指定するとエラーになり、定義ブロックが無効になります。なお、[EV\_GUIDE\_1] と [EV\_GUIDE\_0001] は異なります。

EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号タグ内の文字列は一意にしてください。不正な文字列がある場合はログが出力され、該当箇所を無視して処理します。

EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号タグ内に記述できる属性以外が記述されている場合は、該当箇所を無視して処理します。

#### EV\_USER=JP1 ユーザー名

イベントガイドメッセージの表示対象となる JP1 ユーザー名を 31 バイト以内の文字列で指定します。このパラメーターは、複数指定できません。また、このパラメーターを省略した場合は、すべての JP1 ユーザーを対象ユーザーと仮定し動作します。

JP1/IM・Manager のバージョンが 09-50 の場合だけ指定できます。JP1 ユーザー名と JP1 ユーザー名は、一つ以上の空白で区切り、最大 100 個指定できます。

(例)

```
EV_USER=jpluser1 jpluser2 jpluser3
```

#### EV\_COMP= 属性名：属性値

このパラメーターは、JP1 イベントを比較する属性の数だけ記述します。複数記述した場合は、AND 条件になります。例えば、EV\_COMP パラメーターを二つ以上指定した場合、すべての条件が成立したときにだけ、イベントガイドメッセージを [ イベント詳細 ] 画面に表示します。

EV\_COMP パラメーターの属性名にイベント ID を指定する場合には、B.ID と B.IDBASE のどちらかを指定できます。B.ID の場合は属性値を基本部：拡張部の 16 桁で、B.IDBASE の場合は基本部 8 桁で記述します。

(例)

- EV\_COMP=B.ID:00004107:00000000
- EV\_COMP=B.IDBASE:00004107

なお、EV\_COMP に指定できる条件は 100 件までです。EV\_COMP を二つ以上指定する場合の例については、以降の定義例を参照してください。

また、発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)、送信先イベントサーバ名 (B.DESTSERVER)、発生元ホスト名 (E.JP1\_SOURCEHOST) には業務グループ名を使用できません。業務グループ名を指定した場合、ホスト名として扱われます。

#### 属性名

次の属性を指定できます。

- JP1 イベントの基本属性：指定する場合「B.属性名」と指定します。
- JP1 イベントの拡張属性：指定する場合「E.属性名」と指定します。

なお、登録要因 (B.REASON)、コードセット (B.CODESET) は指定できません。

#### 属性値

属性名で指定した属性の内容を正規表現で記述します。正規表現には拡張正規表現を使用します。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」を参照してください。

## 2. 定義ファイル

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)

デフォルトでは、指定した正規表現と JP1 イベントの属性値全体を比較し、完全に一致した場合だけ条件が成立します。

部分一致にしたいときは、次の共通定義情報を定義した任意のファイルを引数に jbssetcnf コマンドを実行したあと、定義を有効にするため、JP1/IM-Manager を再起動してください。定義ファイル作成時にはファイルの終端が最下行の先頭になるようにしてください。

- 物理ホストの場合

```
[ JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEMANAGER ]
"GUIDE_EV_COMP"="find"
```

- 論理ホストの場合

```
[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER ]
"GUIDE_EV_COMP"="find"
```

定義内容を完全一致（デフォルト）に戻す場合は、共通定義情報

"GUIDE\_EV\_COMP" の値に "match" を指定してください。

共通定義情報の設定がない場合や、値が不正な場合は "match" を仮定し完全一致で動作します。

なお、この共通定義情報はインストール直後の状態では設定されていません。

### EV\_GUIDE= イベントガイドメッセージ

イベントガイドメッセージには、イベントガイドとして表示したい文字列を 1 行で記述します。指定した文字列は、[ イベント詳細 ] 画面のイベントガイド情報が表示される領域 ([ メッセージ ] の下の [ ガイド ]) に表示されます。

なお、このパラメータは、[EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号 ] と [END] の間に一つしか記述できません。

EV\_GUIDE= イベントガイドメッセージと EV\_FILE= イベントガイドメッセージファイル名を同時に指定した場合、EV\_FILE= イベントガイドメッセージファイル名の記述が優先されます。

メッセージ中に ¥ を記述する場合は ¥¥, \$ を記述する場合は ¥\$ と記述します。メッセージに改行を入れる場合は、¥n と記述します。

また、イベントガイドメッセージでは、HTML タグを使ったり、JP1 イベントの属性を変数として記述したりすることもできます。

- HTML タグの記述

HTML タグを記述すれば、[ イベント詳細 ] 画面に表示されるイベントガイドメッセージを HTML 形式で表示できます（記述できる HTML タグは EV\_FILE の説明文にある「表 2-21 イベントガイドメッセージとして使用できる HTML タグ」を参照のこと）。

- JP1 イベントの属性を変数として記述

メッセージ中に「\$B. 属性名」、「\$E. 属性名」を指定した場合、JP1 イベントの属性名に対応する属性値がメッセージとして展開されます（ は半角スペースを表す）。ただし、登録要因 (B.REASON)、コードセット (B.CODESET) は指定できません。また、対応する属性が存在しない場合は空に置き換えられます。

メッセージ中に指定できる属性名を、次表に一覧で示します。なお、JP1 イベントの属性の詳細については、「3.1 JP1 イベントの属性」を参照してください。

表 2-18 メッセージ中に指定できる属性名の一覧

	JP1 イベントの属性	メッセージ中の記述
基本属性	イベント DB 内通し番号	B.SEQNO
	イベント ID	次の 2 とおり 1. B.ID 2. B.IDBASE
	発行元プロセス ID	B.PROCESSID
	登録時刻	B.TIME
	到着時刻	B.ARRIVEDTIME
	発行元ユーザー ID	B.USERID
	発行元グループ ID	B.GROUPID
	発行元ユーザー名	B.USERNAME
	発行元グループ名	B.GROUPNAME
	発行元イベントサーバ名	B.SOURCESEVER
	送信先イベントサーバ名	B.DESTSERVER
	発行元イベント DB 内通し番号	B.SOURCESEQNO
	メッセージ	B.MESSAGE
拡張属性	重大度	E.SEVERITY
	ユーザー名	E.USER_NAME
	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME
	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE
	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME
	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE
	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME
	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID
	事象種別	E.OCCURRENCE
	開始時刻	E.START_TIME
	終了時刻	E.END_TIME
	終了コード	E.RESULT_CODE
	発行元ホスト名	E.JP1_SOURCEHOST
	上記以外の拡張属性	E. XXXXXX

注 各 JP1 製品固有の拡張属性も使用できます。例えば、JP1/AJS のジョブの実行ホストは、

## 2. 定義ファイル

### イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)

E.CO です。製品固有の拡張属性についての詳細は、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。

イベントガイドメッセージに記述する文字数は 196,608 文字以内にしてください。196,608 文字よりも長く記述した場合、196,609 文字以降のメッセージは、[ イベント詳細 ] 画面に表示されません。

なお、イベントガイドメッセージは、次の表に示す置き換え文字を指定することで、連携製品の WWW ページなどを文字化けすることなく表示できます。

表 2-19 指定できる置き換え文字

指定形式	説明
\$B. 属性名 \$E. 属性名	属性値をそのまま展開する。 ガイド情報の形式が HTML 形式の場合は、HTML エンコードを行う。 JP1 イベントの属性値をイベントガイドメッセージで表示する文章の一部として表示する場合に指定する。  (例) \$B.MESSAGE
\$B. 属性名 \$URLENC \$E. 属性名 \$URLENC	属性値を UTF-8 の文字列として URL エンコードして展開する。 WWW ページアプリケーションの引数 (URL パラメーター) として JP1 イベントの属性値を UTF-8 の文字列として渡す場合に使用する。 (例) <a href="http://host/page?msg=\$B.MESSAGE\$URLENC" >
\$B. 属性名 \$ENC \$E. 属性名 \$ENC	属性値を UTF-8 の文字列として Base64 でエンコードして展開する。 JP1 イベントの属性値を UTF-8 の文字列として Base64 でエンコードした値をイベントガイドメッセージで表示する文章の一部として表示する場合に指定する。 ただし、WWW ページアプリケーションの引数 (URL パラメーター) として渡す場合は、「\$B. 属性名 \$ENC\$URLENC , \$E. 属性名 \$ENC\$URLENC 」の変数を使用する。  (例) \$B.MESSAGE\$ENC
\$B. 属性名 \$ENC\$URLENC \$E. 属性名 \$ENC\$URLENC	属性値を UTF-8 の文字列として Base64 でエンコード後、さらに URL エンコードして展開する。 WWW ページアプリケーションの引数 (URL パラメーター) として JP1 イベントの属性値の Base64 値を渡す場合に使用する。  (例) <a href="http://host/page?msg=\$B.MESSAGE\$ENC\$URLENC" >

#### EV\_FILE= イベントガイドメッセージファイル名

イベントガイドメッセージファイル名には、[ イベント詳細 ] 画面に表示されるイベントガイドメッセージの内容を記述したファイルの名称をフルパスで指定します。ファイルの名称に ¥ を記述する場合は ¥¥, \$ を記述する場合は ¥\$ と記述します。このパラメーターは、[EV\_GUIDE\_ イベントガイド番号 ] と [END] の間に一つしか記述できません。なお、イベントガイドメッセージファイル名に何も記述していな

い場合、次のファイル名を指定したと見なされます。

表 2-20 イベントガイドメッセージファイル名

OS	イベントガイドメッセージファイル名
Windows	Console パス ¥conf¥guide¥EV_GUIDE_ イベントガイド番号 .txt
	共有フォルダ ¥jp1cons¥conf¥guide¥EV_GUIDE_ イベントガイド番号 .txt
UNIX	/etc/opt/jp1cons/conf/guide/EV_GUIDE_ イベントガイド番号 .txt
	共有ディレクトリ /jp1cons/conf/guide/EV_GUIDE_ イベントガイド番号 .txt

ファイル名は、パスを含めて 1,024 文字以内にしてください。1,024 文字を超えた場合、JP1/IM - Manager の起動時または JP1/IM - View からのイベントガイドメッセージファイル呼び出し時にエラーとなります。

ガイドメッセージファイルとして指定できるファイルの名称、拡張子はユーザー任意です。ファイル名称には管理しやすい名称を、拡張子は表示するイベントガイドメッセージが TXT 形式であれば .txt を、HTML 形式であれば .html、.htm を使用することをお勧めします。

(例) jco\_guidemes001\_AJS2.txt, または jco\_guidemes001\_AJS2.htm

#### イベントガイドメッセージファイル

イベントガイドメッセージファイルには、[ イベント詳細 ] 画面から表示させたい情報を TXT 形式または HTML 形式で記述します。記述できる内容は、イベントガイド情報ファイルの EV\_GUIDE で記述できる内容と同じです。つまり、HTML タグを使用したり、JP1 イベントの属性を変数として記述したりできます。メッセージ中に ¥ を記述する場合は ¥¥, \$ を記述する場合は ¥\$ と記述します。メッセージに改行を入れる場合は、¥n と記述します。

なお、1 行でメッセージを記載する EV\_GUIDE と違い、イベントガイドメッセージファイルの場合、改行を挿入して体裁を整えることができます。

作成したイベントガイドメッセージファイルは、任意のフォルダに格納できます。

イベントガイドメッセージファイルの最大サイズは、1 メガバイトです。1 メガバイトを超えた場合、JP1/IM - View の [ イベント詳細 ] 画面からのイベントガイドメッセージファイル読み込み時にエラーとなります。

HTML 形式のイベントガイドメッセージファイルを作成する場合に使用できる HTML タグおよび属性を次に示します。なお、このほかの HTML タグについては動作保証していません。

表 2-21 イベントガイドメッセージとして使用できる HTML タグ

タグ	属性	説明
HTML	-	HTML 文章であることを宣言します。このタグは必須です。

## 2. 定義ファイル

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)

タグ	属性	説明
HEAD	-	HTML 文章のヘッダーを宣言します。 このタグは必須です。
BODY	-	HTML 文章の本文を宣言します。 このタグは必須です。
A	HREF="URL"	リンク先 URL を指定します。相対パスおよび「mailto:」で始まる URL は動作保証されません。 ここで指定したリンクは [ イベント詳細 ] 画面 (HTML 形式) に表示されます。クリックすると WWW ブラウザーが起動し、指定した URL にアクセスできます。エンコードできる文字数は 2,083 文字までです。
H1, H2, H3, H4, H5, H6	-	見出しを指定します。
FONT	SIZE="文字サイズ"	文字サイズを指定します。指定できる値は 1 ~ 7 です。
	COLOR="文字色"	文字色を指定します。指定できる色は次の 16 色です。 black, silver, gray, white, maroon, red, purple, fuchsia, green, lime, olive, yellow, navy, blue, teal, aqua これ以外の文字色は動作保証されません。
B	-	文字を太字にします。
I	-	文字を斜体にします。
HR	-	罫線を引きます。
BR	-	強制的に改行します。

(凡例) - : なし

[END]

イベントガイド情報の終了タグです。小文字、大文字の区別はしません。

### 定義例 1

```
# JP1/IM-CC Guide Information File.
```

```
DESC_VERSION=1
```

```
[EV_GUIDE_001]
```

```
EV_COMP=B.ID:00004107:00000000
```

```
EV_COMP=E.SEVERITY:Error
```

```
EV_GUIDE=ジョブが異常終了しました。¥n$E.CO のホストで異常が発生していないか  
確認してください。
```

```
[END]
```

# システムカラー定義ファイル (systemColor.conf)

---

## 形式

---

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン  
  
# コメント文  
[DEFAULT.BackgroundColor=カラー]  
[DEFAULT.TextColor=カラー]  
  
[SEVERITY.重大度.BackgroundColor=カラー]  
[SEVERITY.重大度.TextColor=カラー]  
:  
:
```

---

## ファイル

systemColor.conf (システムカラー定義ファイル)

systemColor.conf.model (システムカラー定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥profile

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1cons¥conf¥console¥profile

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1cons/conf/console/profile

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1cons/conf/console/profile

## 説明

イベント一覧に使用する色の設定を定義するファイルです。

## ファイルの権限

### Windows の場合

Administrators グループおよび SYSTEM ユーザーが参照できる必要があります。

### UNIX の場合

root 権限を持つユーザーが参照できる必要があります。

## 2. 定義ファイル

システムカラー定義ファイル (systemColor.conf)

### 定義の反映時期

[ ユーザー環境設定 ] 画面の [ カラーリング ] 項目の [ 有効 ] チェックボックスをチェックすると、システムカラー定義ファイルの設定内容に従ってイベント一覧のイベントがカラーリングされます。

JP1/IM - View はログイン時のシステムカラー定義ファイルの設定内容に従ってカラーリングを行います。

ログイン中にシステムカラー定義ファイルの設定内容を変更した場合は、JP1/IM - View を再起動することで設定内容を有効にできます。

### 記述内容

DESC\_VERSION= ファイルバージョン

システムカラー定義ファイルの形式のバージョンを表しています。指定する値は 1 です。省略した場合や 1 以外の数値を指定した場合は、1 が仮定されます。

# コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

[DEFAULT.BackgroundColor= カラー ]

デフォルトの背景色を指定します。重大度の背景色の指定がない、または重大度の背景色の指定に一致しない JP1 イベントは、このパラメーターで指定した背景色となります。このパラメーターは省略できます。背景色はカラー名または RGB 値で指定します。カラー名と RGB 値の対応を次に示します。

カラー名	RGB 値
black	0,0,0
blue	0,0,255
cyan	0,255,255
darkGray	64,64,64
gray	128,128,128
green	0,255,0
lightGray	192,192,192
magenta	255,0,255
orange	255,200,0
pink	255,175,175
red	255,0,0
white	255,255,255
yellow	255,255,0

カラー名は、大文字・小文字を区別しません。

指定できる RGB 値の範囲は、0 ~ 255 です。デフォルトは white (255,255,255) です。RGB 値は「,」(半角コンマ)で区切ります。

[DEFAULT.TextColor= カラー ]

文字の色が指定されていない重大度の文字の色を指定します。このパラメーターは省略できます。カラー名, RGB 値および RGB 値の範囲は, DEFAULT.BackgroundColor= カラーと同じです。カラー名は, 大文字・小文字を区別しません。  
デフォルトは black (0,0,0) です。

[SEVERITY. 重大度 .BackgroundColor= カラー ]

重大度の背景色を指定します。このパラメーターは省略できます。カラー名, RGB 値および RGB 値の範囲は, DEFAULT.BackgroundColor= カラーと同じです。カラー名は, 大文字・小文字を区別しません。  
指定できる重大度は, "Emergency" (緊急), "Alert" (警戒), "Critical" (致命的), "Error" (エラー), "Warning" (警告), "Notice" (通知), "Information" (情報), "Debug" (デバッグ) です。重大度は, 大文字・小文字を区別します。

[SEVERITY. 重大度 .TextColor= カラー ]

重大度の文字の色を指定します。このパラメーターは省略できます。カラー名, RGB 値および RGB 値の範囲は, DEFAULT.BackgroundColor= カラーと同じです。カラー名は, 大文字・小文字を区別しません。  
指定できる重大度は, "Emergency" (緊急), "Alert" (警戒), "Critical" (致命的), "Error" (エラー), "Warning" (警告), "Notice" (通知), "Information" (情報), "Debug" (デバッグ) です。重大度は, 大文字・小文字を区別します。

## 定義例

```
DESC_VERSION=1

DEFAULT.TextColor=black
DEFAULT.BackgroundColor=white

SEVERITY.Emergency.TextColor=white
SEVERITY.Emergency.BackgroundColor=red

SEVERITY.Alert.TextColor=white
SEVERITY.Alert.BackgroundColor=red

SEVERITY.Critical.TextColor=white
SEVERITY.Critical.BackgroundColor=red

SEVERITY.Error.TextColor=white
SEVERITY.Error.BackgroundColor=255,128,0

SEVERITY.Warning.TextColor=black
SEVERITY.Warning.BackgroundColor=yellow
```

# イベント拡張属性定義ファイル

## 形式

```
[ @encode 文字コード ]
@file type="定義ファイルタイプ", version="定義フォーマットバージョン";
@product name="プロダクト名";
@define-block type="event-attr-def";
block lang = "言語種別", platform="プラットフォーム種別"
attr name="属性名", title="表示項目名" [, type="属性表示タイプ"];
...
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="プラットフォーム種別"
group name="グループ名", attrs="属性名並び";
...
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="プラットフォーム種別"
order id="イベントID定義文字列", attrs="属性名並び";
...
@define-block-end;
```

## ファイル

default.conf ( デフォルトのイベント拡張属性定義ファイル )

hitachi\_xxxx.conf ( 連携製品のイベント拡張属性定義ファイル )

会社名\_製品名\_attr.conf ( ユーザー定義のイベント拡張属性定義ファイル )

なお、「製品名」は、「シリーズ名\_製品名」とすることもできます。JP1 イベント発行時の「PRODUCT\_NAME」に指定する値の「/」を「\_」に変更してファイル名に使用することをお勧めします。また、標準提供ファイル名称用に「hitachi」を使用しているため、「会社名」には「hitachi」以外の名称を使用してください。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥attribute¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥JP1Cons¥conf¥console¥attribute¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1cons/conf/console/attribute/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1cons/conf/console/attribute/

## 説明

イベント拡張属性定義ファイルは、[ イベント詳細 ] 画面に表示するイベント属性の並び順や表示する属性名を定義します。

イベント拡張属性定義ファイルには、次の 3 種類のファイルがあります。

表 2-22 イベント拡張属性定義ファイルの種類

項番	種類	説明
1	標準ファイル	すべてのイベントに共通の基本属性、および拡張属性の共通情報に対するイベント詳細情報定義
2	連携製品提供ファイル	JP1 イベントを発行する連携製品の拡張属性の固有情報定義
3	ユーザー定義ファイル	ユーザー定義の拡張属性の固有情報

上記表の項番 1 と項番 2 の 2 種類のファイルは、JP1/IM の定義ファイル格納先ディレクトリに格納されています。この 2 種類のファイルは、システム標準の定義情報であり、ユーザーの追加・変更・削除はできません。

新たに JP1 イベントに対する拡張属性の固有情報を追加する場合、ユーザーは、項番 3 の定義ファイルを作成し、格納先ディレクトリに格納します。

## 作成契機

イベント拡張属性定義ファイルの作成契機を次に示します。

項番	ファイル	作成契機
1	default.conf	JP1/IM - Manager インストール時に作成する。
2	hitachi_xxxx.conf	JP1/IM - Manager インストール時に作成する。
3	会社名_製品名_attr.conf	ユーザーが追加して個別に作成する。

## 定義の反映時期

JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

イベント拡張属性定義ファイルは、[ イベント詳細 ] 画面に表示するイベント属性の並び順や表示する属性名を定義します。

イベント拡張属性定義ファイルには、次の 3 種類のファイルがあります。

- すべてのイベントに共通の基本属性、および拡張属性の共通情報に対するイベント詳細情報定義（標準提供：default.conf）

## 2. 定義ファイル イベント拡張属性定義ファイル

- JP1 イベントを発行する連携製品の拡張属性の固有情報定義（標準提供：  
hitachi\_XXXX.conf）
- ユーザー定義の拡張属性の固有情報（ユーザーが個別作成）

標準提供される 2 種類のファイルは JP1/IM - Manager の定義ファイル格納ディレクトリに格納されています。この 2 種類のファイルはシステム標準定義情報であるため、ユーザーが追加、変更、削除できません。

新たに JP1 イベントに対する拡張属性の固有情報を追加する場合は、この定義ファイル格納ディレクトリに「表 2-2 定義ファイルの命名規則」の名称基準に従って作成した定義ファイルを格納してください。

この定義ファイルを作成する場合、次のことに注意してください。

- Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUC コードで定義する必要があります。
- 定義ファイルに誤って基本属性や拡張属性の共通情報を定義すると、[ イベント詳細 ] 画面を表示したときに標準提供の定義と重複して表示されます。

なお、JP1/IM には、イベント拡張属性定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoattrfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「1. コマンド」を参照してください。

イベント拡張属性定義ファイルには、次のステートメントとブロックを記述できます。

表 2-23 イベント拡張属性定義ファイルに記述できるステートメントおよびブロック

ステートメントまたはブロック	意味
@file ステートメント	定義ファイルタイプおよびバージョンを宣言する
@product ステートメント	定義中のプログラム情報を宣言する
イベント拡張属性定義ブロック	イベント属性の表示について定義する
属性グループ定義ブロック	イベント属性のグループを定義する
属性表示順序定義ブロック	[ イベント詳細 ] 画面表示時の順序を ID ごとに定義する

### 記述内容（文字コードの指定）

#### @encode

イベント拡張属性定義ファイルで使用する文字コードを指定します。この項目は省略できます。

指定できる文字コードは、使用する OS の種類によって次のように異なります。

表 2-24 指定できる文字コード

文字コード	OS の種類		
	Windows Server 2003 ,Windows Server 2008	Solaris , AIX , HP-UX ( IPF )	Linux
C			
EUCJIS			×
SJIS			×
UTF-8	×	×	

( 凡例 )

- : 指定できる
  - ×
  - × : 指定できない
- 次の場合、エラーが出力されます。
- C , EUCJIS , SJIS および UTF-8 以外の文字コードを指定した場合
  - @encode を定義ファイルの先頭以外に記述した場合
  - @encode のあとに文字コードを指定しなかった場合

### 記述内容 ( ファイル内ステートメントの生成規則 )

#### @file ステートメント

この定義ファイルがイベント拡張属性定義ファイルであること、および定義記述フォーマットのバージョンが 0300 であることを宣言します。このステートメントは必須です。

なお、このステートメントは、ファイルの先頭行に記述しなければなりません。記述しない場合、動作は保証できません。

構文

```
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";
```

#### @product ステートメント

ファイル内で定義する各ステートメントのプロダクト情報を定義します。

なお、定義する際には次の内容に注意してください。

- 指定値は、JP1 イベントの拡張属性「PRODUCT\_NAME」と一致させる必要があります。記述しない場合、動作は保証できません。
- 解析処理では、使用禁止文字や形式はチェックされません。指定した文字列がそのまま使用されます。

構文

```
@product name="プロダクト名";
```

name=" プロダクト名 "

プロダクト名は、スラントで区切られた半角英数字列です。次のどちらかの形式になります。

## 2. 定義ファイル

### イベント拡張属性定義ファイル

- /会社名/シリーズ名/プロダクト名
- /会社名/プロダクト名

#### 定義例

定義情報ヘッダー用ステートメントの定義例を次に示します。

```
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";
@product name="/HITACHI/JP1/CentralConsole";
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="NT";
attr name="E.SAMPLE_TIME", title="サンプル時刻";
attr name="E.SAMPLE_HOST", title="サンプルホスト";
attr name="E.SAMPLE_USER", title="サンプルユーザー";
@define-block-end;
```

#### 記述内容（イベント拡張属性定義ファイルのブロックの生成規則）

イベント拡張属性定義ファイルに記述できるブロックについて説明します。なお、それぞれのブロックに記述できるステートメント以外のステートメントを記述した場合は、エラー出力され、該当するステートメントだけが無視されます。

#### イベント拡張属性定義ブロック

[ イベント詳細 ] 画面で、イベント属性名とその表示項目名（日本語名と英語名の両方）を関連づけます。このブロックは、定義ファイル内に複数個記述できます。ただし、ブロックのキーとなる属性（後述の block ステートメントの指定値）が同じブロックは、複数個記述できません。

なお、日本語と英語の両方を指定する場合は、後述の attr ステートメントの属性名が日本語と英語ですべて対応している必要があります。

#### 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- attr ステートメント

#### 属性グループ定義ブロック

イベント拡張属性定義ブロックで定義したイベント属性をグループ化します。グループ化することにより、属性表示順序定義ブロック内の order ステートメントで属性を何度も定義する必要がなくなります。

このブロックは省略できます。

#### 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- group ステートメント

#### 属性表示順序定義ブロック

イベント単位でそのイベントが詳細表示されたときに表示するイベント属性の順序や属性の表示名の順序を定義します。

#### 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- order ステートメント

## 記述内容 ( イベント拡張属性定義ブロック内のステートメント生成規則 )

### block ステートメント

ブロックの属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に 1 回だけ記述できます。

#### 構文

```
block lang=言語種別, platform=プラットフォーム種別;
```

#### lang

イベント拡張属性定義ブロックの言語種別を宣言します。指定できる言語種別を次に示します。

- "Japanese"  
日本語環境時の定義であることを示します。
- "English"  
英語環境時の定義であることを示します。

#### platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。定義できるプラットフォームを次に示します。

- "base"  
すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。
- "ユーザー定義"  
ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字列だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象になります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列が JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象になりません。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「base」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

#### 定義例

次の「attr ステートメント」の定義例を参照してください。

### attr ステートメント

[ イベント詳細 ] 画面の属性名欄に表示する項目名と、属性値のタイプを指定します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

なお、このステートメントで定義するのは、基本属性、および拡張属性の共通情報を除いた拡張属性の固有情報だけです。拡張属性の固有情報以外が指定された場合、

## 2. 定義ファイル イベント拡張属性定義ファイル

エラーは出力されないで処理が続行されますが、表示時には標準提供の定義と重複して表示されます。標準提供の定義については、次の「定義例」を参照してください。

### 構文

```
attr name=属性名, title=表示項目名[,type="elapsed_time/
date_format:CLIENT"];
```

#### name

拡張属性名を定義します。値の形式は次のとおりです。

"E. 拡張属性名"

#### title

[ イベント詳細 ] 画面表示時の属性名欄に表示する文字列を指定します。その際には、block ステートメントで指定した言語種別が使用されます。指定文字列に半角仮名を含めることはできません。

```
type="elapsed_time/date_format:CLIENT"
```

属性値のタイプと表示形式を指定します。属性値「elapsed\_time」は、UTC 1970年1月1日00:00:00からの経過秒数を10進文字列で表記した値です。表示形式「date\_format:CLIENT」は、表示するビューアーのローカルタイムゾーンで指定された時刻を使用して、時刻形式で書式化して表示することを示します。

### 定義例

JP1 イベントの拡張属性の固有情報定義例を示します。プラットフォームが"W2K"で下記表の四つの拡張属性(固有情報)を表示させたい場合の「イベント拡張属性定義ブロック」の定義例を示します。

表 2-25 イベント拡張属性定義ブロックの定義例

画面表示名	拡張属性名(固有情報)
SAMPLE 共通属性 1	COMMON_ATTR1
SAMPLE 共通属性 2	COMMON_ATTR2
SAMPLE 開始属性 1	START_ATTR1
SAMPLE 開始属性 2	START_ATTR2

```
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="w2k";
attr name="E.COMMON_ATTR1", title="SAMPLE共通属性1";
attr name="E.COMMON_ATTR2", title="SAMPLE共通属性2";
attr name="E.START_ATTR1", title="SAMPLE開始属性1";
attr name="E.START_ATTR2", title="SAMPLE開始属性2";
@define-block-end;
```

## 記述内容（属性グループ定義ブロック内のステートメント生成規則）

### block ステートメント

ブロックの属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に 1 回だけ記述できます。

なお、定義する際には次の内容に注意してください。

- このブロックには lang パラメーターは使用できません。

### 構文

```
block platform=プラットフォーム種別;
```

### platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。指定できる値を次に示します。

- "base"

すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。

- "ユーザー定義"

ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字列だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象となります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列がイベントの拡張属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象となりません。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「base」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

### 定義例

次の「group ステートメント」の定義例を参照してください。

### group ステートメント

[ イベント詳細 ] 画面上に表示する属性の並び順に名称を付けてグループ化します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

### 構文

```
group name=グループ名, attrs=属性名並び;
```

### name

属性名並びに付ける名称を指定します。名称は、32 バイト以内の半角英数字で指定します。大文字と小文字は区別されません。ここで付けた名称は、定義ファイル内の order ブロック中で使用できます。

### attrs

グループ化する属性を一つ以上並べて指定します。複数個並べた場合は、[ イベント詳細 ] 画面に上からその順序で表示されます。指定形式は次のとおりです。

- 一つの場合：attrs="E.A0"

## 2. 定義ファイル

### イベント拡張属性定義ファイル

- 複数の場合：attrs="E.A0|E.A1"

なお、指定できる属性は拡張属性の固有情報だけです。基本属性または拡張属性の共通情報を指定した場合は、指定した属性値が [ イベント詳細 ] 画面上に複数個表示されます。

#### 定義例

JP1 イベントの基本属性および拡張属性の共通情報の定義を示します。これらの定義は、イベント拡張属性定義ファイルに標準で提供されています。

```
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base";
group name="BASE",
attrs="B.GROUPID|B.GROUPNAME|B.IDBASE|B.PROCESSID|B.SEQNO|B.
.SOURCEIPADDR|
B.SOURCESEQNO|B.SOURCESERVER|B.TIME|B.USERID|B.USERNAME|B.A
RRIVEDTIME";
group name="COMMON",
attrs="E.SEVERITY|E.USER_NAME|E.PRODUCT_NAME|E.OBJECT_TYPE|
E.OBJECT_NAME|
E.ROOT_OBJECT_TYPE|E.ROOT_OBJECT_NAME|E.OBJECT_ID|E.OCCURRE
NCE|
E.START_TIME|E.END_TIME|E.RESULT_CODE";
@define-block-end;
```

### 記述内容（属性表示順序定義ブロック内のステートメント生成規則）

#### block ステートメント

属性表示順序定義ブロックに依存するブロック属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に 1 回だけ記述できます。

なお、定義する際には次の内容に注意してください。

- このブロックでは lang パラメーターは使用できません。

#### 構文

```
block platform=プラットフォーム種別;
```

#### platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。定義できるプラットフォームを次に示します。

- "base"

すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。

- "ユーザー定義"

ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象となります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列がイベントの拡張属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象となりませ

ん。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「base」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

#### 定義例

次の「order ステートメント」の定義例を参照してください。

#### order ステートメント

[ イベント詳細 ] 画面上に表示する属性とその並び順を ID ごとに定義します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

#### 構文

order id=イベントID定義文字列, attrs=属性名並び;

#### id

attrs パラメーターで指定した順序で属性を表示するイベント ID を一つ以上指定します。

指定形式は次のとおりです。

- 一つの場合 : id="200"
- 複数の場合 : id="100|101|102"

イベント ID は、8 けた以内の 16 進数文字列で指定します。8 けた未満の場合、先頭に 0 を補って 8 けたにする必要はありません。16 進数文字列の英字 (a ~ f) は、大文字と小文字のどちらでもかまいません。

ID の範囲指定はできません。

#### attrs

表示する属性、グループ、またはその両方が混在したものを並べて指定します。複数個並べた場合は、[ イベント詳細 ] 画面上からその順序で表示されます。指定形式は次のとおりです。

- 一つの場合 : attrs="E.A0"
- 複数の場合 : attrs="E.A0|E.A1|GROUP1"

group ステートメントの場合と同様に、指定できる属性は固有の拡張属性だけです。基本属性または共通の拡張属性を指定した場合は、指定した属性値が [ イベント詳細 ] 画面上に複数個表示されます。

#### 定義例

イベント ID が 00001000 の場合に BASE グループと COMMON グループを表示する定義例を次に示します。

```
@define-block type="event-attr-order-def";  
block platform="base";  
order id=00001000, attrs="BASE|COMMON"  
@define-block-end;
```

#### イベント拡張属性定義ファイルの定義例

```
@file type="extended-attributes-definition",version="0300";  
@product name="/HITACHI/JP1/SAMPLE";
```

## 2. 定義ファイル

### イベント拡張属性定義ファイル

```
@define-block type="event-attr-def";
block platform="base", lang="Japanese";
attr name="E.SAMPLE_CLUSTER_NAME", title="クラスタ名";
attr name="E.SAMPLE_PRINT_SERVER_NAME", title="プリントサーバ名";
attr name="E.SAMPLE_PRINTER_NAME", title="プリンタ名";
attr name="E.SAMPLE_PORT_NAME", title="ポート名";
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base";
group name="_PRINTER_INFO",
attrs="E.SAMPLE_PRINT_SERVER_NAME|E.SAMPLE_PRINTER_NAME";
group name="_CLUSTER_INFO",
attrs="E.SAMPLE_CLUSTER_NAME|E.SAMPLE_PORT_NAME";
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="base";
order id="00003100", attrs="_PRINTER_INFO";
order id="00003101", attrs="_CLUSTER_INFO";
order id="00003102", attrs="_PRINTER_INFO|_CLUSTER_INFO";

@define-block-end;
```

### 標準提供されているイベント拡張属性定義ファイル

JP1 イベントの基本属性および拡張属性の共通情報の定義を次に示します。これらの定義は、イベント拡張属性定義ファイルとして標準提供されています。

```
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="base";
attr name="B.GROUPID", title="発行元グループID";
attr name="B.GROUPNAME", title="発行元グループ名";
attr name="B.IDBASE", title="イベントID";
attr name="B.PROCESSID", title="発行元プロセスID";
attr name="B.SEQNO", title="イベントDB内通し番号";
attr name="B.SOURCEIPADDR", title="発行元IPアドレス";
attr name="B.SOURCESEQNO", title="発行元イベントDB内通し番号";
attr name="B.SOURCESERVER", title="発行元イベントサーバ名";
attr name="B.TIME", title="登録時刻", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="B.USERID", title="発行元ユーザーID";
attr name="B.USERNAME", title="発行元ユーザー名";
attr name="B.ARRIVEDTIME", title="到着時間", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.SEVERITY", title="重要度";
attr name="E.USER_NAME", title="ユーザー名";
attr name="E.PRODUCT_NAME", title="プロダクト名";
attr name="E.OBJECT_TYPE", title="オブジェクトタイプ";
attr name="E.OBJECT_NAME", title="オブジェクト名";
attr name="E.ROOT_OBJECT_TYPE", title="登録名タイプ";
attr name="E.ROOT_OBJECT_NAME", title="登録名";
attr name="E.OBJECT_ID", title="オブジェクトID";
attr name="E.OCCURRENCE", title="事象種別";
attr name="E.START_TIME", title="開始時刻", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.END_TIME", title="終了時刻", type="elapsed_time/
```

```
date_format:CLIENT";  
attr name="E.RESULT_CODE", title="終了コード";  
@define-block-end;
```

# 共通除外条件拡張定義ファイル

---

## 形式

---

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン
#コメント
def 条件群名
  [cmt コメント]
  id 条件群ID
  [valid {true | false}]
  [date 開始日-終了日]
  [rtime 開始時刻-終了時刻]
  [week 曜日]
  cnd
    イベント条件
  end-cnd
end-def

def 条件群名2
  . . .
end-def
:
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

拡張モードの共通除外条件のイベント条件や適用期間を定義するファイルです。

共通除外条件のモードを拡張モードに変更した場合に、正規表現にエラーがあったときに出力されます。

なお、イベント取得フィルター（互換用）を使用している場合、共通除外条件を使用できません。イベント取得フィルター（互換用）を使用している場合は、`jcochafmode` コマンドでイベント取得フィルターに変更してください。`jcochafmode` コマンドについては、「`jcochafmode`」(1. コマンド)を参照してください。

## 定義の反映時期

`jcochfilter` コマンドの `-ef` オプションを指定すると、定義内容が反映されます。`jcochfilter` コマンドについては、「`jcochfilter`」(1. コマンド)を参照してください。

## 記述内容

DESC\_VERSION= ファイルバージョン

共通除外条件拡張定義ファイルのバージョンを表します。指定できる値は1だけです。省略した場合、「1」を仮定します。

# コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

def ~ end-def (定義ブロック)

拡張モードの共通除外条件定義の開始と終了のパラメーターです。def ~ end-def ブロックは省略できます。def 以降には、拡張モードの共通除外条件の条件群名を記述します。「def 条件群名1 条件群名2 」と指定した場合、「条件群名1 条件群名2 」が定義名となります( は半角スペースまたはタブを表す)。

条件群名は、共通除外条件拡張定義ファイル内でユニークになるように1 ~ 50 バイトの文字列で指定します。指定できる文字は、制御文字(0x00 ~ 0x1F, 0x7F ~ 0x9F)以外の文字列です。

cmt コメント

拡張モードの共通除外条件の説明を記述します。このパラメーターは省略できます。コメントは1,024 バイト以内で指定してください。指定できる文字は、すべての文字です。

id 条件群 ID

拡張モードの共通除外条件の条件群 ID を指定するパラメーターです。0 以上、最大定義数から1を引いた値以下で指定できます。このパラメーターは省略できません。

valid {true | false}

拡張モードの共通除外条件を有効にするかどうかを指定するパラメーターです。大文字・小文字を区別しません。省略した場合、true が指定されます。

date 開始日 - 終了日

拡張モードの共通除外条件を適用する期間を指定するパラメーターです。このパラメーターは省略できます。次の形式で指定します。

date YYYYMMDD-YYYYMMDD  
(凡例) : 半角スペース

指定できる期間は1970/01/01 ~ 2038/01/19です。

このパラメーターを省略した場合、常に適用となります。

また、開始日を省略した場合、拡張モードの共通除外条件を定義した時点から終了日まで適用されます。終了日を省略した場合、開始日から常に適用となります。

rtime 開始時刻 - 終了時刻

## 2. 定義ファイル

### 共通除外条件拡張定義ファイル

拡張モードの共通除外条件を適用する時刻を指定するパラメーターです。このパラメーターは省略できます。次の形式で指定します。

```
date HHMM-HHMM  
(凡例) : 半角スペース
```

このパラメーターを省略した場合、開始時刻を 9:00、終了時刻を開始時刻の 24 時間後と仮定します。また、開始時刻は省略できません。終了時刻を省略した場合、開始時刻から 24 時間後まで適用されます。

#### week 曜日

拡張モードの共通除外条件を適用する曜日を指定するパラメーターです。このパラメーターは省略できます。複数の曜日を指定する場合は「,」(半角コンマ)で区切ります。次の形式で指定します。

```
week 0,1,2,3,4,5,6  
(凡例) : 半角スペース
```

曜日と数値は次のとおり対応しています。

- 日曜日 : 0
- 月曜日 : 1
- 火曜日 : 2
- 水曜日 : 3
- 木曜日 : 4
- 金曜日 : 5
- 土曜日 : 6

曜日を省略した場合、すべての曜日として適用されます。

#### cnd ~ end-cnd (イベント条件ブロック)

拡張モードの共通除外条件のイベント条件を指定する、ブロックの開始と終了のパラメーターです。イベント条件ブロックは、定義ブロック内に必ず一つ指定する必要があります。省略はできません。cnd および end-cnd パラメーターの前後のタブやスペースは、無視されます。

#### イベント条件

拡張モードの共通除外条件で除外する JP1 イベントの条件を指定します。イベント条件ブロックには、0 ~ 256 件のイベント条件を指定できます。イベント条件とイベント条件は、AND 条件となります。次の形式で指定します。

```
属性名 比較キーワード オペランド  
(凡例) : 半角スペース
```

なお、半角スペース、またはタブだけで構成された行は、無視して処理を続行します。

属性名

属性名には、比較したい属性の名称を記述します。基本属性を指定する場合は、名称の前に「B.」を付けます。拡張属性（共通情報）、拡張属性（固有情報）を指定する場合は、名称の前に「E.」を付けます。英小文字と英大文字を区別します。

指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランドを次に示します。

表 2-26 指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランド

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
1	イベント ID	B.ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> </ul>	JP1 イベントのイベント ID を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。</li> <li>• 16 進数形式で指定する。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別しない。</li> <li>• 指定できる範囲は 0 ~ 7FFFFFFF である。</li> </ul>
2	登録要因	B.REASON	<ul style="list-style-type: none"> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> </ul>	JP1 イベントの登録要因を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
3	発行元プロセス ID	B.PROCESSID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> </ul>	JP1 イベントの発行元アプリケーションのプロセス別 ID を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。</li> <li>• 指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
4	登録時刻	B.TIME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時刻範囲</li> </ul>	JP1 イベントが発行元ホストのイベント DB に登録された時刻を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1/IM・Manager が稼働している環境の時刻で指定する。</li> <li>• 範囲開始日時および範囲終了日時、または期間を指定する。</li> <li>• 範囲開始日時 時刻 範囲終了日時が成立する場合に比較できる。</li> </ul>

2. 定義ファイル  
共通除外条件拡張定義ファイル

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
5	到着時刻	B.ARRIVEDTIME	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻範囲</li> </ul>	<p>JP1 イベントがマネージャーホストのイベント DB に登録された時刻を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JP1/IM - Manager が稼働している環境の時刻で指定する。</li> <li>範囲開始日時および範囲終了日時、または期間を指定する。</li> </ul>
6	発行元ユーザー ID	B.USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発行元プロセスのユーザー ID を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 件複数指定できる。</li> <li>指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
7	発行元グループ ID	B.GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発行元プロセスのグループ ID を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 件複数指定できる。</li> <li>指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
8	発行元ユーザー名	B.USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発行元プロセスのユーザー名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
9	発行元グループ名	B.GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発行元プロセスのグループ名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
10	発行元 IP アドレス	B.SOURCEIPADDR	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの発行元イベントサーバに対応する IP アドレスを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> </ul>

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
11	発行元イベントサーバ名(登録ホスト名)	B.SOURCESERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの登録ホスト名(イベントサーバ名)を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
12	メッセージ	B.MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのメッセージを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
13	重大度(変更前)	E.SEVERITY	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 属性有</li> <li>• 属性無</li> <li>• と一致する</li> </ul>	<p>JP1 イベントの重大度の有無、種類を指定できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 比較キーワードが「と一致する」の場合、"Emergency"(緊急), "Alert"(警戒), "Critical"(致命的), "Error"(エラー), "Warning"(警告), "Notice"(通知), "Information"(情報), "Debug"(デバッグ)の中から複数指定できる。</li> </ul>
14	ユーザー名	E.USER_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントを発行したユーザー名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
15	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>

2. 定義ファイル  
 共通除外条件拡張定義ファイル

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
16	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのオブジェクトの種類を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
17	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのオブジェクト名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
18	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの登録名タイプを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
19	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの登録名を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
20	オブジェクトID	E.OBJECT_ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
21	事象種別	E.OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの事象種別を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
22	開始時刻	E.START_TIME	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻範囲</li> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの実行開始または再実行開始の時刻を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較キーワードが「時刻範囲」の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>範囲開始日時および範囲終了日時、または期間を指定する。</li> <li>範囲開始日時 時刻 範囲終了日時が成立する場合に比較できる。</li> <li>比較対象の属性が10進数の場合、通算秒として比較する。</li> </ul> </li> <li>比較キーワードが「時刻範囲」以外の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>最大100件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>オペランドを文字列として指定した比較キーワードで比較する。</li> </ul> </li> </ul>
23	終了時刻	E.END_TIME	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻範囲</li> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベント実行終了の時刻を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較キーワードが「時刻範囲」の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>範囲開始日時および範囲終了日時、または期間を指定する。</li> <li>範囲開始日時 時刻 範囲終了日時が成立する場合に比較できる。</li> <li>比較対象の属性が10進数の場合、通算秒として比較する。</li> </ul> </li> <li>比較キーワードが「時刻範囲」以外の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>最大100件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>オペランドを文字列として指定した比較キーワードで比較する。</li> </ul> </li> </ul>
24	終了コード	E.RESULT_CODE	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>と一致する</li> <li>と一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<p>JP1 イベントの終了コードを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大100件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>

2. 定義ファイル  
共通除外条件拡張定義ファイル

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
25	発生元ホスト名	E.JP1_SOURCE HOST	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	JP1 イベントの発生元ホストのホスト名を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>
26	固有の拡張属性	E.xxxxxxx	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	JP1 イベントの固有の拡張属性の属性名を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 属性名には、先頭が英大文字で英大文字、数字、およびアンダーバー ( _ ) から構成される 32 バイトまでの名称を設定できる。</li> <li>• 最大 100 件複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。</li> <li>• 英大文字・英小文字は区別する。</li> </ul>

注

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、比較キーワードが、「と一致する」「と一致しない」のとき、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
 統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、および [ と一致する ] [ と一致しない ] 以外を選択した場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
 jcoimdef コマンドの -ignorecasehost オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

比較キーワード

比較キーワードには、「BEGIN ( から始まる )」、「IN ( と一致する )」、「NOTIN ( と一致しない )」、「SUBSTR ( を含む )」、「NOTSUBSTR ( を含まない )」、「REGEX ( 正規表現 )」、「TRANGE ( 時刻範囲 )」、「DEFINED ( 属性有 )」、「NOTDEFINED ( 属性無 )」のどれか一つを指定できます。小文字と大文字で区別します。

比較キーワードに「TRANGE ( 時刻範囲 )」を使用する場合、次の表に示すように指定します。

表 2-27 TRANGE の指定形式

比較方法		形式	指定できる範囲
日時指定		開始日時 終了日時	開始日時 属性値 終了日時
期間指定	分前	基準時刻 - 期間 ( 分 ) MIN	基準時刻 - 期間 ( 分 ) 属性値 基準時刻

比較方法		形式	指定できる範囲
	分後	基準時刻 + 期間 (分) MIN	基準時刻 属性値 基準時刻 + 期間 (分)
	時間前	基準時刻 - 期間 (時) HOUR	基準時刻 - 期間 (時) 属性値 基準時刻
	時間後	基準時刻 + 期間 (時) HOUR	基準時刻 属性値 基準時刻 + 期間 (時)
	日前	基準時刻 - 期間 (日) DAY	基準時刻 - 期間 (日) 属性値 基準時刻
	日後	基準時刻 + 期間 (日) DAY	基準時刻 属性値 基準時刻 + 期間 (日)

(凡例)

: 半角スペース

開始日時, 終了日時は, yyyyMMddHHmmss 形式で指定してください。期間 (分, 時, 日) は, 数字で指定してください。MIN, HOUR, DAY は, 大文字・小文字を区別します。

オペランド

比較キーワードで属性値と比較する値を文字列で指定します。小文字と大文字で区別します。

オペランドを複数指定する場合は, 一つ以上の連続した半角スペースまたはタブをオペランドとオペランドの間に挿入して区切ります。オペランドとオペランドは, OR 条件となります。ただし, 正規表現を指定している場合は, 複数指定できません。

オペランドに, 半角スペース, タブ, 改行コード (CR, LF) および % を指定したい場合, 次のように記述します。また, これらの値は定義フォーマットの上限チェックの場合, 1 文字として扱います。

項番	指定したい値	指定方法
1	タブ (0x09)	%09
2	半角スペース (0x20)	%20
3	% (0x25)	%25
4	改行コード LF (0x0a)	%0a
5	改行コード CR (0x0d)	%0d

## 定義例

次の条件の場合に, 2010/10/01 ~ 2010/10/31 の毎週月曜 ~ 土曜 10:00 ~ 12:00 の期間でイベントを除外する定義例を示します。

- イベント ID が 1 に一致
- 重大度が Emergency または Alert

## 2. 定義ファイル

### 共通除外条件拡張定義ファイル

- 登録ホストが正規表現で次のとおり指定
  - host[0-9][0-9]

```
DESC_VERSION=1
# コメント
def 共通除外条件群1
  cmt 期限：2010/10/31
  id 1
  valid true
  date 20101001-20101031
  week 1,2,3,4,5,6
  rtime 1000-1200
  cnd
    B.ID IN 00000001
    E.SEVERITY IN Emergency Alert
    B.SOURCESERVER REGEX host[0-9][0-9]
  end-cnd
end-def
```

# 共通除外条件表示項目定義ファイル (common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf)

---

## 形式

---

```
# コメント行  
属性名  
属性名  
属性名  
.  
.  
.  
属性名
```

---

## ファイル

common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf (共通除外条件表示項目定義ファイル)

common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf.model (共通除外条件表示項目定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥filter¥attr\_list

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥filter¥attr\_list

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/filter/attr\_list

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/filter/attr\_list

## 説明

[ 共通除外条件設定 (拡張) ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示する項目を指定する定義ファイルです。共通除外条件表示項目定義ファイルに指定された表示項目を指定された順番で [ 共通除外条件設定 (拡張) ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示します。

## 定義の反映時期

定義ファイルの内容は、セントラルコンソールの起動時、および jco\_spmd\_reload コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。

## 2. 定義ファイル

共通除外条件表示項目定義ファイル (common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf)

### 記述内容

#### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

#### 属性名

共通除外条件表示項目定義ファイルには、[ 共通除外条件設定 (拡張) ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に表示する表示項目を指定します。表示項目は、表示項目に対応する属性名で 1 行に 1 件記述します。0 ~ 256 件の表示項目を指定できます。

英小文字、英大文字を区別します。属性名の両端に指定された空白 (半角スペース) とタブ文字は無視されます。

SEPARATOR を指定すると、[ 共通除外条件設定 (拡張) ] 画面の [ 属性名 ] 表示領域に「-----」を表示します。SEPARATOR は、よく使う項目と、あまり使わない項目を分けるときに設定します。

ただし、SEPARATOR だけを指定した場合は、[ 属性名 ] 表示領域には、「-----」だけが表示されます。この場合、「-----」を選択しても、属性名は設定できません。

指定できる属性名を次の表に示します。

表 2-28 表示項目一覧

項番	表示項目	属性名
1	登録ホスト名	B.SOURCESERVER
2	重大度	E.SEVERITY
3	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE
4	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME
5	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE
6	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME
7	事象種別	E.OCCURRENCE
8	ユーザー名	E.USER_NAME
9	メッセージ	B.MESSAGE
10	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME
11	イベント ID	B.ID
12	開始時刻	E.START_TIME
13	終了時刻	E.END_TIME
14	登録時刻	B.TIME
15	到着時刻	B.ARRIVEDTIME
16	固有の拡張属性	OTHER_EXTENDED_ATTRIBUTE
17	登録要因	B.REASON

項番	表示項目	属性名
18	発行元プロセス ID	B.PROCESSID
19	発行元ユーザー名	B.USERNAME
20	発行元ユーザー ID	B.USERID
21	発行元グループ名	B.GROUPNAME
22	発行元グループ ID	B.GROUPID
23	発行元 IP アドレス	B.SOURCEIPADDR
24	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID
25	終了コード	E.RESULT_CODE
26	発行元ホスト名	E.JP1_SOURCEHOST
27	-----	SEPARATOR

注

同じ属性名が複数指定されていた場合、その値は無視されます。  
 また、共通除外条件表示項目定義ファイルが読み込めなかった場合、有効な表示項目が 0 件のときは、項番 1 から 25 までの項目がデフォルト値として表示されます。

# 対処状況イベント定義ファイル ( processupdate.conf )

---

## 形式

---

```
[PROCESSUPDATE]
PROCESS_UPDATE_EVENT_OPTION={true | false}
[End]
```

---

## ファイル

processupdate.conf ( 対処状況イベント定義ファイル )

processupdate.conf.model ( 対処状況イベント定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥processupdate¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥processupdate¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/processupdate/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/processupdate/

## 説明

対処状況を変更したときに JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。

## 定義の反映時期

次の場合に、対処状況イベント定義ファイルの設定が有効になります。

- JP1/IM - Manager を起動した場合

## 記述内容

```
PROCESS_UPDATE_EVENT_OPTION={true | false}
```

対処状況変更時に JP1 イベント ( イベント ID : 3F11 ) を発行するかどうかを指定します。なお、大文字小文字は区別しません。

true を指定すると対処状況変更時に JP1 イベントを発行します。

false を指定すると対処状況変更時に JP1 イベントを発行しません。デフォルトは false です。

省略した場合や値が不正な場合は false が仮定されます。

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

### 注意事項

- JP1 イベントの発行設定をすると、対処された JP1 イベント一つに対し、3F11 の JP1 イベントが一つ発行されるようになります。例えば、[ イベントコンソール ] 画面の [ 重要イベント ] ページで JP1 イベントを複数選択し、対処状況を変更した場合は、その対処状況を変更した JP1 イベント数分、3F11 の JP1 イベントが発行されます。  
大量の JP1 イベントの対処状況をまとめて変更する運用をされている場合はこの機能を有効にしないでください。

# 関連イベント発行システムプロファイル ( egs\_system.conf )

---

## 形式

---

```
VERSION=1
```

```
START_OPTION={cold | warm}
```

---

## ファイル

egs\_system.conf ( 関連イベント発行システムプロファイル )

egs\_system.conf.model ( 関連イベント発行システムプロファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

```
Consoleパス¥conf¥evgen¥profile¥
```

論理ホストのとき

```
共有フォルダ¥jplcons¥conf¥evgen¥profile¥
```

UNIX の場合

物理ホストのとき

```
/etc/opt/jplcons/conf/evgen/profile/
```

論理ホストのとき

```
共有ディレクトリ/jplcons/conf/evgen/profile/
```

## 説明

関連イベント発行サービスの起動時および停止時の動作を定義するファイルです。

## 定義の反映時期

次の場合に、関連イベント発行システムプロファイルの設定が有効になります。

- JP1/IM - Manager を起動した場合
- jco\_spmd\_reload コマンドでリロードをした場合

## 記述内容

```
VERSION=1
```

ファイルのバージョンを表しています。編集不要です。省略した場合や 1 以外の数値を指定した場合は、VERSION=1 が仮定されます。

START\_OPTION={cold | warm}

関連イベント発行サービスの起動オプションです。

起動時および停止時の動作を決めるための値を指定します。値に指定できるのは、cold と warm の二つです。デフォルトは warm です。大文字小文字は区別されません。省略した場合や値が不正な場合は warm が仮定されます。

cold, warm それぞれを指定した場合の関連イベント発行サービスの動作を起動時、停止時に分けて次の表に示します。用途に合わせて値を変更してください。

表 2-29 起動オプションの違いによる関連イベント発行サービス起動時・停止時の動作の違い

起動オプション	関連イベント発行サービスの動作	
	起動時の動作 <sup>1</sup>	停止時の動作
cold	前回停止時の起動オプションが cold の場合： 関連イベント発行サービスが起動したあとに登録された JP1 イベントから、発行処理の対象とする。	発行処理中の関連イベントをすべて不成立にして、関連イベント発行履歴ファイルに出力する。
	前回停止時の起動オプションが warm の場合： 発行処理中の関連イベントをすべて不成立にして、関連イベント発行サービスが起動したあとに取得した JP1 イベントから、発行処理の対象とする。	
warm	前回停止時の起動オプションが cold の場合： 関連イベント発行サービスが前回停止時に取得した JP1 イベントの続きから発行処理の対象とする。	停止前の最後に取得した JP1 イベントの情報、発行処理の内容、および関連イベントの発行定義の内容を内部ログに出力・保管する。
	前回停止時の起動オプションが warm の場合： 前回停止時の関連イベントの発行処理の内容を引き継ぎ、前回停止時に取得した JP1 イベントの続きから発行処理の対象とする。 <sup>2</sup>	

注 1

関連イベント発行サービスが初めて起動するときは、起動オプションの値に関係なく次のように動作します。

- ・ 関連イベント発行サービス起動後に登録された JP1 イベントから取得を開始する。
- ・ 関連イベント発行定義を読み込み、定義に従って処理を開始する。

なお、デフォルトでは、関連イベント発行定義が設定されていないため、関連イベントは発行されません。

注 2

JP1/IM - Manager の停止時と次の起動時で関連イベント発行定義が異なる場合、発行処理中の関連イベントはすべて不成立になります。いったん、内容がクリアされたあとは、前回停止時に取得した JP1 イベントの続きから、発行処理の対象になります。

## 2. 定義ファイル

相関イベント発行システムプロファイル ( egs\_system.conf )

JP1/IM - Manager をクラスタシステムで運用する場合には warm に設定を変更してください。

フェールオーバー時には、JP1/IM - Manager 停止 JP1/Base 停止 JP1/Base 起動 JP1/IM - Manager 起動、の順に製品の停止・起動処理がされます。cold の設定状態でフェールオーバーした場合、JP1/IM - Manager 停止 JP1/Base 停止の間に発生した JP1 イベントや JP1/Base 起動 JP1/IM - Manager 起動の間に発生した JP1 イベントを取得できません。このため、cold 設定のままだと、発行処理の対象となる JP1 イベントを取り漏らすことがあります。

# 相関イベント発行定義ファイル

---

## 形式

---

```
VERSION={1 | 2}

#コメント文
[発行条件名]
TARGET=相関の対象範囲の絞り込み条件
CON=イベント条件
TIMEOUT=タイムアウト時間
TYPE=イベント相関タイプ
SAME_ATTRIBUTE=同一属性値条件
CORRELATION_NUM=同時相関数
SUCCESS_EVENT=相関成立イベント
FAIL_EVENT=相関不成立イベント

[発行条件名]
TARGET=相関の対象範囲の絞り込み条件
CON=イベント条件
TIMEOUT=タイムアウト時間
TYPE=イベント相関タイプ
SAME_ATTRIBUTE=同一属性値条件
CORRELATION_NUM=同時相関数
SUCCESS_EVENT=相関成立イベント
FAIL_EVENT=相関不成立イベント
:
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。ただし、次の制限があります。

- 拡張子は .conf としてください。
- ファイル名に使用できる文字は、半角英数字とアンダーバー「\_」だけです。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合  
任意のフォルダ

UNIX の場合  
任意のディレクトリ

## 説明

相関の対象とする JP1 イベントの条件、および条件成立時に発行する相関イベントを定義するファイルです。このファイルは、JP1/IM・Manager の動作する言語コードで記述してください。

## 定義の反映時期

jcoegschange コマンドで相関イベント発行定義を反映したあとに有効になります。

## 記述内容

VERSION={1 | 2}

相関イベント発行定義ファイルのバージョンです。

1 または 2 を指定します。

1 を指定すると、次のパラメーターを指定できません。ここで説明しているすべてのパラメーター指定したい場合、2 を指定してください。

表 2-30 指定できないパラメーター一覧

バージョン	パラメーター名
1	TARGET
	SAME_ATTRIBUTE
	CORRELATION_NUM
2	なし

値の前に 0 を指定した場合、0 は無視されます。例えば、VERSION=0001 と VERSION=1 は同じ意味です。省略した場合は、VERSION=1 が仮定されます。

1 または 2 以外の値を指定した場合、定義不正になります。また、VERSION を複数指定した場合は、定義不正になります。

### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

### [ 発行条件名 ]

相関イベント発行条件の定義ブロックの開始タグです。[ 発行条件名 ] から、次の [ 発行条件名 ] の直前までが一つの定義ブロックになります。省略できません。相関イベント発行条件は 1,000 件まで定義できます。1,000 件を超えて定義した場合、定義不正となります。

発行条件名は [ ] (半角角括弧) で囲って指定します。発行条件名には、半角英数字、- (ハイフン)、\_ (アンダーバー) および / (スラッシュ) が使用できます。指定できる文字数は、1 文字以上 32 文字以下です。

また、大文字、小文字は区別されます。例えば、[ JP1\_HAKKOUZYOUKEN ] と [ jp1\_hakkouzyouken ] は別の定義になります。

なお、相関イベント発行定義ファイル内で、同じ発行条件名は使用できません。同じ発行条件名を定義した場合、ファイル内で先に記述してある方が有効になります。また、「IM\_」で始まる発行条件名は指定できません。指定した場合、定義不正になります。「IM\_」の大文字・小文字は区別されません。

[ 発行条件名 ] の横には発行条件のコメントを付けられます。コメントを付ける場合は、[ 発行条件名 ] # 発行条件のコメントと記述します。

TARGET= 関連の対象範囲の絞り込み条件

関連イベントの発行処理の対象とする JP1 イベントの範囲を絞り込みたいときに定義します。省略すると、取得したすべての JP1 イベントが関連イベントの発行処理の対象になります。

1 件の関連イベント発行条件に指定できる関連の対象範囲の絞り込み条件は一つだけです。複数定義した場合、定義不正となります。

形式を次に示します。

TARGET= イベント属性条件 1 [ , イベント属性条件 2... ]

イベント属性条件を複数指定する場合、「,」（半角コンマ）で区切ります。複数指定すると、それぞれのイベント属性条件は AND 条件となります。複数指定したイベント属性条件がすべて成立する JP1 イベントが発行された場合に、条件が成立します。

イベント属性条件は次の形式で指定します。

属性名 比較条件 属性値

イベント属性条件の設定項目を次に示します。

表 2-31 イベント属性条件の設定項目

項番	設定項目	説明
1	属性名	<p>JP1 イベントの基本属性または拡張属性を指定します。基本属性には「B.」を、拡張属性には「E.」を付けます。例えば、メッセージを指定する場合「B.MESSAGE」と指定します。</p> <p>拡張属性を指定する場合、「E.」のあとの文字列は、32 バイト以内で指定します。なお、次の入力規則があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先頭は大文字の半角英字</li> <li>2 バイト目以降は大文字の半角英数字、または _（アンダーバー）</li> </ul> <p>指定できる属性名については、「表 2-32 関連の対象範囲の絞り込み条件に指定できる属性名の一覧」を参照してください。</p>
2	比較条件	<p>使用できる比較条件は次のとおりです。これ以外のものを指定すると定義不正となります。</p> <p>比較条件：意味</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>== : と一致する</li> <li>!= : と一致しない</li> <li>^= : から始まる</li> <li>&gt;= : を含む</li> <li>&lt;= : を含まない</li> <li>*= : 正規表現</li> </ul> <p>注 使用できる正規表現については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」を参照してください。</p>

2. 定義ファイル  
 関連イベント発行定義ファイル

項番	設定項目	説明
3	属性値	<p>属性値には比較する値を指定します。属性値に指定できる文字数は最大 2,048 (JP1/IM・Manager のバージョンが 09-10 までの場合は 1,023) バイトです。2,048 (JP1/IM・Manager のバージョンが 09-10 までの場合は 1,023) バイトを超えると定義不正となります。</p> <p>なお、イベント属性条件を複数指定する場合は、指定できる文字数が、全条件の属性値の合計で最大 2,305 (JP1/IM・Manager のバージョンが 09-10 までの場合は 1,280) バイトになります。2,305 (JP1/IM・Manager のバージョンが 09-10 までの場合は 1,280) バイトを超えると定義不正となります。</p> <p>例えば、イベント属性条件を五つ設定した場合、その五つの属性値の合計を 2,305 (JP1/IM・Manager のバージョンが 09-10 までの場合は 1,280) バイト以内にする必要があります。</p> <p>属性値を複数定義する場合は ; (セミコロン) で属性値を区切ります。なお、属性値の間に ; (セミコロン) が連続してあっても一つの ; (セミコロン) と見なします。例えば、B.ID==A;;;B と B.ID==A;;B は同じです。</p> <p>例 : E.XXX==A;B と設定したとき、E.XXX が A または B と一致したときに条件が成立します。</p> <p>, (半角コンマ), 空白, ; (セミコロン) を属性値として使用する場合は " (ダブルクォーテーション) で囲みます。</p> <p>" (ダブルクォーテーション), ¥ (半角エンマーク) を属性値として使用する場合は直前に ¥ (半角エンマーク) を付けます。</p>

- 一つの属性名に対して、属性値を複数指定した場合、次に示す例のように条件が成立します。
  - 例 1 : E.xxx==A;B と指定した場合、E.xxx が A または B のどちらか一方に一致したときに条件が成立します。
  - 例 2 : E.xxx!=A;B と指定した場合、E.xxx が A または B の両方に一致しないときに条件が成立します。
  - 例 3 : E.xxx^=A;B と指定した場合、E.xxx が A または B のどちらかで始まるときに条件が成立します。
  - 例 4 : E.xxx>=A;B と指定した場合、E.xxx が A または B のどちらかを含むときに条件が成立します。
  - 例 5 : E.xxx<=A;B と指定した場合、E.xxx が A または B の両方を含まないときに条件が成立します。
  - 例 6 : E.xxx\*=A;B と指定した場合、E.xxx が A または B のどちらかの正規表現に一致したときに条件が成立します。
- 一つのイベント属性条件に、同一の属性名を複数指定する場合、次のような組み合わせは定義不正になりますので、注意してください。
  - 絶対に一致しない組み合わせ
    - メッセージ (B.MESSAGE) が KAVB で始まり、メッセージが KAVB を含まない
  - 冗長な組み合わせ

- メッセージ (B.MESSAGE) が KAVB で始まり、メッセージが KAVB を含む
- 属性名、比較条件、および属性値の間、セミコロンで区切って指定した属性値の両端、またはイベント属性条件の両端に指定された空白 (半角スペースと ASCII コード 0x01 ~ 0x1F の文字) は無視されます。  
 例: メッセージが「KAJVxxx-I 実行しました」または Error と一致する条件次の 部分に空白がある場合、無視されます。  

```
B.MESSAGE == "KAJVxxx-I 実行しました "; Error
```

 上記の例と同じ意味になる指定方法の例を示します。  

```
B.MESSAGE==KAJVxxx-I 実行しました ;Error
```

```
B.MESSAGE=="KAJVxxx-I 実行しました ";Error
```
  - 属性名にイベント ID (B.ID) を指定する場合は、比較条件は完全一致 (==) しか使用できません。

関連の対象範囲の絞り込み条件に指定できる属性名の一覧を次に示します。

表 2-32 関連の対象範囲の絞り込み条件に指定できる属性名の一覧

項番	属性名	項目
1	B.SOURCESERVER <sup>1</sup>	発行元イベントサーバ名
2	B.DESTSERVER <sup>1</sup>	送信先イベントサーバ名
3	B.MESSAGE	メッセージ
4	B.ID	イベント ID
5	B.REASON	登録要因
6	B.USERID	発行元ユーザー ID
7	B.GROUPID	発行元グループ ID
8	B.USERNAME	発行元ユーザー名
9	B.GROUPNAME	発行元グループ名
10	E.JP1_SOURCEHOST <sup>1</sup>	発生元ホスト名
11	E.XXXXXX <sup>2</sup>	拡張属性 (共通情報・固有情報)

注 1

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
 統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
 jcoimdef コマンドの -ignorecasehost オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

注 2

各 JP1 製品固有の拡張属性も使用できます。例えば、JP1/AJS のジョブの実行ホストは、E.C0 です。製品固有の拡張属性についての詳細は、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアル

## 2. 定義ファイル

### 関連イベント発行定義ファイル

ルを参照してください。

#### CON= イベント条件

関連イベントの発行処理の対象、または対象外とする JP1 イベントの条件を定義します。イベント条件は複数指定できます。また、1 件の関連イベント発行条件内に少なくとも 1 件以上定義する必要があります。イベント条件は 10 件まで定義できます。なお、定義していない場合、または定義が正しくない場合は、定義不正となります。

形式を次に示します。

CON={NOT| [CID:n] }, イベント属性条件 1 [, イベント属性条件 2[, イベント属性条件 3 ...] ]

イベント属性条件を複数指定する場合、「,」(半角コンマ)で区切ります。複数指定すると、それぞれのイベント属性条件は AND 条件となります。複数指定したイベント属性条件がすべて成立する JP1 イベントが発行された場合に、条件が成立します。

イベント条件の設定項目を次に示します。

表 2-33 イベント条件の設定項目

項番	設定項目	説明
1	NOT	関連イベントの発行処理の対象外にする JP1 イベントを指定します。イベント条件に NOT を指定した場合、イベント条件 (CON) の定義順序に関係なく、その条件が最初に適用されます。
2	CID:n	条件 ID です。関連イベントの発行時に、変数を使って関連元イベントの情報をほかのパラメーター (SAME_ATTRIBUTE, SUCCESS_EVENT) に引き継ぐ場合に指定します。1 ~ 999 の整数値で指定します。 例えば、複数の JP1 イベントを関連元イベントとし、SUCCESS_EVENT パラメーターに変数 \$EVn_B.MESSAGE を指定する場合、条件 ID の指定に従って、関連イベントに関連元イベントのメッセージ情報を引き継ぎます。省略した場合、ほかのパラメーターに情報を引き継ぐことはできません。また、指定値の前に 0 を付けたり、同じ CID を指定したりすると定義不正になります。

項番	設定項目	説明
3	イベント属性条件	<p>イベント属性条件は次の形式で指定します。</p> <p>形式          属性名 比較条件 属性値</p> <p>属性名          JP1 イベントの基本属性または拡張属性を指定します。          基本属性には「B.」を、拡張属性には「E.」を付けます。          例えば、メッセージを指定する場合「B.MESSAGE」と指定します。          拡張属性を指定する場合、「E.」のあとの文字列は、32 バイト以内で指定します。なお、次の入力規則があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先頭は大文字の半角英字</li> <li>2 バイト目以降は大文字の半角英数字、または_ (アンダーバー)</li> </ul> <p>基本属性、拡張属性については、「3.1 JP1 イベントの属性」を参照してください。なお、製品固有の拡張属性を指定する場合、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。</p> <p>比較条件および属性値          比較条件および属性値の指定方法は、TARGET にイベント属性条件を指定する場合と同じです。          「表 2-31 イベント属性条件の設定項目」および表下の説明を参照してください。</p>

TIMEOUT= タイムアウト時間

関連イベント発行条件のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は、1 ~ 86,400 (単位：秒) です。省略した場合は、60 秒が仮定されます。

TYPE= イベント関連タイプ

イベント関連タイプを指定します。

イベント関連タイプには、sequence (順序性)、combination (組み合わせ) および threshold (しきい値) があります。イベント関連タイプに指定できる値を次に示します。

- sequence

順序性を考慮し、定義したイベント条件と一致する JP1 イベントが定義順に発行されたときに関連イベント発行条件が成立します。

- combination

順序性を考慮せず、定義したイベント条件の組み合わせで JP1 イベントが発行されたときに関連イベント発行条件が成立します。

- threshold:n

定義したイベント条件に一致する JP1 イベントの発行する数がしきい値に達した時点で関連イベント発行条件が成立します。イベント条件が複数定義されている場合、そのどれかに一致した JP1 イベントの合計がしきい値に達した時点で関連イベント発行条件が成立します。

しきい値は 1 ~ 100 (単位：件) で指定できます。例えば、しきい値を 10 とする場合、次のように指定します。

threshold:10

## 2. 定義ファイル

### 関連イベント発行定義ファイル

大文字、小文字は区別されません。また、イベント関連タイプの指定を省略した場合は、combination（組み合わせ）が仮定されます。

#### SAME\_ATTRIBUTE= 同一属性値条件

同一属性値条件を指定します。

イベント条件に一致したJP1 イベント（関連イベント）に対し、特定の属性値ごとにグルーピングして、グループ単位に関連イベントを発行したい場合に定義します。

同一属性値条件は1件の関連イベント発行条件に三つまで定義できます。省略することもできます。

形式を次に示します。

```
SAME_ATTRIBUTE= 属性名 | {$EVN_属性名 | $EVN_ENVO} [, {$EVN_属性名 | $EVN_ENVO} ...]
```

同一属性値条件の設定項目について説明します。

表 2-34 同一属性値条件の設定項目

項番	設定項目	説明
1	属性名	JP1 イベントの基本属性または拡張属性を指定します。 ここで指定した属性名に対応する関連イベントの属性値がグルーピングのキーになります。 属性名は、一つの同一属性値条件に対して一つだけ指定できます。 基本属性には「B.」を、拡張属性には「E.」を付けます。拡張属性を指定する場合、「E.」のあとの文字列は、32 バイト以内で指定します。なお、次の入力規則があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>先頭は大文字の半角英字</li><li>2 バイト目以降は大文字の半角英数字、または _（アンダーバー）</li></ul> 指定できる属性名については、「表 2-35 同一属性値条件に指定できる属性名の一覧」を参照してください。
2	変数 \$EVN_属性名	グルーピングのキーにしたい属性値が、関連イベントごとに異なる属性に入っている場合に指定します。 例えば、関連イベント A の属性 A' と、関連イベント B の属性 B' をグルーピングのキーにしたいときに使用します。 \$EVN_属性名は、一つの同一属性値条件に対して \$EVN_ENVO と合わせて 10 個まで指定できます。 詳細については、「(1)(a) 関連イベントの属性値を同一属性値条件として使用する」を参照してください。
3	変数 \$EVN_ENVO	関連イベントの属性値の一部を切り出して、同一属性値条件として使用する場合に指定します。 例えば、メッセージ (B.MESSAGE) の一部を切り出して、グルーピングのキーにしたいときに使用します。 \$EVN_ENVO は、一つの同一属性値条件に対して \$EVN_属性名と合わせて 10 個まで指定できます。 詳細については、「(1)(b) 関連イベントの属性値の一部を同一属性値条件として使用する」を参照してください。

- 属性名および変数に置き換わる値（属性値または属性値の一部）は、全角、半角

および大文字，小文字が区別されます。完全に同一の値だけが同一属性値条件になります。

- 属性名および変数に置き換わる値（属性値または属性値の一部）が関連元イベントにない場合，空文字（0バイト）に置き換わります。このため，空文字をキーにしてグルーピングします。空文字で処理された場合，関連イベント発行履歴ファイルに次の文字列が出力されます。

A JP1 event that matches the correlation event generation condition occurred, and the correlation event generation processing started, but the event attribute defined in that attribute value condition does not exist in the JP1 event. (発行条件名(発行処理番号)イベントDB内通し番号 属性名)

- SAME\_ATTRIBUTE= 同一属性値条件を複数指定すると，それぞれの同一属性値条件ごとに関連イベントが発行されます。

例えば，ホスト名（B.SOURCESERVER）およびユーザー名（B.USERNAME）ごとに関連イベントを発行する場合，次のように定義します。

```

:
SAME_ATTRIBUTE=B.SOURCESERVER
SAME_ATTRIBUTE=B.USERNAME

```

- 同一属性値条件に複数個の変数を指定する場合は「，」（半角コンマ）で区切ってください。変数に置き換わる属性値ごとに関連イベントが発行されます。
- 属性名および変数（\$EVn\_属性名，\$EVn\_ENVo）の間，または同一属性値条件の両端に指定された空白（半角スペースとASCIIコード0x01～0x1Fの文字）は無視されます（次の例の部分）。

例：

```
SAME_ATTRIBUTE = $EV1_ENV1 , $EV2_ENV2
```

同一属性値条件に指定できる属性名の一覧を次に示します。

表 2-35 同一属性値条件に指定できる属性名の一覧

項番	属性名	項目
1	B.SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名
2	B.DESTSERVER	送信先イベントサーバ名
3	B.MESSAGE	メッセージ
4	B.ID	イベントID
5	B.REASON	登録要因
6	B.USERID	発行元ユーザーID
7	B.GROUPID	発行元グループID
8	B.USERNAME	発行元ユーザー名
9	B.GROUPNAME	発行元グループ名

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

項番	属性名	項目
10	E.XXXXXXX	拡張属性（共通情報・固有情報）

#### 注

各 JP1 製品固有の拡張属性も使用できます。例えば、JP1/AJS のジョブの実行ホストは、E.C0 です。製品固有の拡張属性についての詳細は、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。

#### CORRELATION\_NUM= 同時相関数

相関イベント発行条件で保持できる JP1 イベントの組数を指定します。1 件の相関イベント発行条件に定義できる同時相関数は一つだけです。

指定できる値は、1 ~ 1,024（単位：組）です。項目を省略した場合は、10 組が仮定されます。

#### 注意

同時相関数を多くの相関イベント発行条件に指定し、かつ、大きな値を指定する、といった運用はお勧めできません。

相関イベント発行サービスが同時に処理する JP1 イベントの組数が多くなるため、メモリー所要量が増加したり、処理速度が低下したりします。

また、すべての相関イベント発行条件で同時に発行処理できる JP1 イベントの組数は 20,000 組です。20,000 組に達すると、JP1 イベント（イベント ID：00003F28）が出力されます。新たにイベント条件に一致する JP1 イベントが発行されても、組数が 20,000 組を下回るまでは処理されません。

#### SUCCESS\_EVENT= 相関成立イベント

相関イベント発行条件が相関成立になった場合に発行する JP1 イベント（相関イベント）を定義します。1 件の相関イベント発行条件に定義できる相関成立イベントは一つだけです。相関成立になる条件については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.3.6(1) 相関成立の場合」を参照してください。

なお、相関イベント発行条件に「FAIL\_EVENT= 相関不成立イベント」が定義されている場合、この定義を省略することができます。省略した場合、相関イベント発行条件が相関成立になっても、相関成立イベントは発行されません。

相関成立イベントは、次の形式で記述します。

属性名：属性値

各項目について説明します。

#### 属性名

JP1 イベント（相関元イベント）の基本属性または拡張属性を指定します。基本属性には「B.」を、拡張属性には「E.」を付けます。拡張属性を指定する場合、「E.」のあとの文字列は、32 バイト以内で指定します。なお、次の入力規則があります。

- 先頭は大文字の半角英字

- 2 バイト目以降は大文字の半角英数字，または \_ (アンダーバー)

次の属性に対してはユーザーが任意に値を設定できます。

- イベント ID (B.ID)
- メッセージ (B.MESSAGE)
- 次の表に示す以外の拡張属性

表 2-36 値を指定できない拡張属性

属性種別	項目	属性名	内容
共通情報	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ GENERATE_EVENT
	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME	EGS
	事象種別	E.OCCURRENCE	SUCCESS
固有情報	関連イベント DB 内通し番号	E.JP1_GENERATE_SOURCE_SEQNO	<p>関連元のイベントのイベント DB 内通し番号を半角スペース区切りで格納します。</p> <p>イベント DB 内通し番号 1 イベント DB 内通し番号 2 イベント DB 内通し番号 3・・・イベント DB 内通し番号 n</p> <p>n は最大 100 です。</p>
	関連イベント発行条件名	E.JP1_GENERATE_NAME	成立した関連イベント発行条件名
	予約語	E.JP1_で始まる拡張属性	発生元ホスト名 (E.JP1_SOURCEHOST) を除く JP1/IM - Manager が予約している拡張属性

関連元イベントの属性値を関連イベントに引き継ぎたい場合，変数を指定します。また，関連成立イベントは次の形式で指定します。

属性名 : \$Evn\_属性名

この場合，イベント条件の CID で引き継ぎたい関連元イベントを指定し，n に CID の値を指定します。また，: の右側に変数を指定します。

詳細については，「(2)(a) 関連元イベントの属性値を関連イベントの属性値に引き継ぐ」を参照してください。

イベント関連タイプでしきい値 (threshold) を指定，かつ，関連元イベントの属性値

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

を相関イベントに引き継ぎたい場合、相関成立イベントは、次の形式で指定します。

属性名 : \$EVn\_m\_属性名

この場合、CID で引き継ぎたい相関元イベントを指定し、n に CID の値を指定します。また、: の右側に変数を指定します。かつ、m に何番目に処理された相関元イベントの属性値を引き継ぐかを指定します。

詳細については、「(2)(b) 相関元イベントの属性値を相関イベントの属性値に引き継ぐ (イベント相関タイプがしきい値の場合)」を参照してください。

相関元イベントの属性値の一部を切り出して、相関イベントに引き継ぎたい場合、変数 \$EVn\_ENVo を指定します。また、イベント条件は正規表現で指定し、属性値の切り出したい部分を ( ) で囲みます。

相関成立イベントは次の形式で指定します。

属性名 : \$EVn\_ENVo

この場合、CID で引き継ぎたい相関元イベントを指定し、n に CID の値を指定します。また、ENVo の o に切り出した順番を指定します。

詳細については、「(2)(c) 相関元イベントの属性値の一部を相関イベントの属性値に引き継ぐ」を参照してください。

基本属性、拡張属性については、「3.1 JP1 イベントの属性」を参照してください。なお、製品固有の拡張属性を指定する場合、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。

- 相関成立イベントに項目を複数指定する場合は「,」(半角コンマ)で区切ってください。
- 基本属性のイベント ID (B.ID) は必ず指定してください。指定できるイベント ID の範囲は、0 ~ 1FFF, 7FFF8000 ~ 7FFFFFFF です。指定しなかった場合、イベント ID には 0 が設定されます。
- 一つの相関成立イベントの最大長は 8,192 バイトです。また、B.MESSAGE の最大長は 1,023 バイトです。最大長のバイト数には、空白を含み、改行コードは含みません。
- 属性名および属性値の間、または SUCCESS\_EVENT= 相関成立イベントの両端に指定された空白 (半角スペースと ASCII コード 0x01 ~ 0x1F の文字) は無視されます (次の例の部分)。

例:

```
SUCCESS_EVENT = B.ID : 1
```

- , (半角コンマ), 空白を属性値として使用する場合は " (ダブルクォーテーション) で囲みます。

- " (ダブルクォーテーション), ¥ (半角エンマーク) を指定する場合は直前に ¥ (半角エンマーク) を付け, 「¥" », 「¥¥」 とします。  
特殊文字 (^\$. \*+? | ( ) { } [ ] ¥) を打ち消す場合は, 「¥¥ 特殊文字」とします。  
例えば, 「\$」を通常の文字として扱う場合は, 「¥¥\$」とします。また, ¥ (半角エンマーク) を通常の文字として扱う場合は「¥¥¥¥」とします。
- 属性値を省略すると, 相関イベントの発行時に何も設定されません。ただし, 属性名 (B.ID) の属性値の記述を省略した場合は, 0 が設定されます。
- 変数 \$EVn\_ 属性名に設定値を続けて記述する場合は, 変数のあとに空白 (次の例いで表記) を記述します。  
例:  

```
SUCCESS_EVENT=B.MESSAGE:"$EVn_B.ID $EVn_B.TIME・・・"
```
- 変数を使用する場合, 一致する属性名がない場合は空白に置き換わります。また, 相関イベントの発行時に変数を属性値に置き換えたことによって, 属性値の最大長を超えた場合は相関イベントは発行されません。

#### FAIL\_EVENT= 相関不成立イベント

相関イベント発行条件が相関不成立になった場合に発行する JP1 イベント (相関イベント) を定義します。1 件の相関イベント発行条件に定義できる相関不成立イベントは一つだけです。相関不成立になる条件については, マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.3.6(2) 相関不成立の場合」を参照してください。

なお, 相関イベント発行条件に「SUCCESS\_EVENT= 相関成立イベント」が定義されている場合, この定義を省略することができます。省略した場合, 相関イベント発行条件が不成立になっても, 相関不成立イベントは発行されません。

相関不成立イベントは, 相関成立イベントと同じ形式で記述します。

「SUCCESS\_EVENT= 相関成立イベント」を参照してください。

### (1) 同一属性値条件 (SAME\_ATTRIBUTE) に変数を使用する

同一属性値条件 (SAME\_ATTRIBUTE) に変数 (\$EVn または \$EVn\_ENVO) を使用する方法について説明します。

#### (a) 相関元イベントの属性値を同一属性値条件として使用する

相関元イベントの属性値を, 同一属性値条件として使用する場合, 変数 \$EVn\_ 属性名を使用します。形式を次に示します。

```
SAME_ATTRIBUTE=$EVn_属性名
```

n にはイベント条件の条件 ID (CID) に対応した値を指定します。属性名には, グループ핑のキーにしたい属性名を指定します。なお, 指定できる属性名については, 「表 2-35 同一属性値条件に指定できる属性名の一覧」を参照してください。

例えば, Windows ログトラップの JP1 イベント (イベント ID : 00003A71) と, JP1/AJS が発行した JP1 イベント (イベント ID : 00004107) のように, ホスト情報が異なる

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

る属性値に入っている JP1 イベントを関連づけ、ホストごとに相関イベントを発行したい場合、次のように定義します。

```
CON=CID:1,B.ID==3A71,E.A0==host1;host2
CON=CID:2,B.ID==4107,E.C0==host1;host2
      :
SAME_ATTRIBUTE=$EV1_E.A0,$EV2_E.C0
      :
```

#### (b) 相関元イベントの属性値の一部を同一属性値条件として使用する

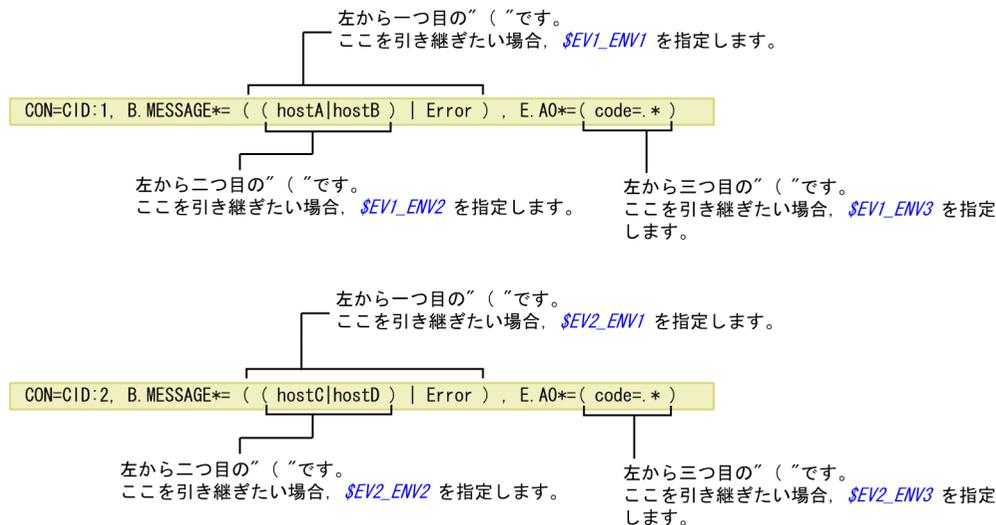
相関元イベントの属性値の一部を切り出して、同一属性値条件として使用する場合、変数 \$EVn\_ENVo を使用します。形式を次に示します。

```
SAME_ATTRIBUTE=$EVn_ENVo
```

\$EVn\_ENVo を指定する場合、イベント条件は正規表現 (\*=) で指定し、属性値の切り出したい部分を ( ) で囲みます。n にはイベント条件の条件 ID (CID) に対応した値を指定します。

また、ENVo の o に切り出しの順番を指定します。切り出しの順番とは、イベント条件の右辺に記述されている ( ) を左から右に数えた値です。イベント条件 (CON) と \$EVn\_ENVo で切り出される部分の対応を次の図に示します。

図 2-2 イベント条件 (CON) と \$EVn\_ENVo で切り出される部分の対応



一つのイベント条件 (CON) に、正規表現を指定したイベント属性条件が複数ある場合も、左から右に“( ”を数え、切り出したい個所の順番を o に指定します。

例えば、相関元イベントのメッセージの一部にホスト名が入っており、このホスト名が同一のイベントごとに相関イベントを発行したい場合は次のように定義します。

```
CON=CID:1, B.ID==1001, B.MESSAGE*=.*HOST=(.*¥¥)
TYPE=threshold:5
SAME_ATTRIBUTE=$EV1_ENV1
:
```

(2) 関連成立イベント ( SUCCESS\_EVENT ) に変数を使用する

関連元イベントの属性値を関連イベントに引き継ぎたい場合、関連成立イベント ( SUCCESS\_EVENT ) に変数を使用します。

(a) 関連元イベントの属性値を関連イベントの属性値に引き継ぐ

関連元イベントの属性値を、そのまま関連イベントの属性値に引き継ぐ場合、変数 \$EVn\_属性名を使用します。形式を次に示します。

SUCCESS\_EVENT= 属性名 : \$EVn\_属性名

n にはイベント条件で指定した条件 ID ( CID ) を指定します。また、右側の属性名には、関連元イベントから引き継ぎたい属性を指定します。ただし、左側の属性名にイベント ID ( B.ID ) を指定している場合は、関連元イベントの属性値を引き継ぎません。

変数に指定できる属性名の一覧を次に示します。

表 2-37 変数に指定できる属性名の一覧

項番	属性名	項目	形式
1	B.SEQNO	イベント DB 内通し番号	数値
2	B.ID	イベント ID	基本部：拡張部の 16 進数
3	B.PROCESSID	発行元プロセス ID	数値
4	B.TIME	登録時刻	YYYY/MM/DD hh:mm:ss <sup>1</sup>
5	B.ARRIVEDTIME	到着時刻	YYYY/MM/DD hh:mm:ss <sup>1</sup>
6	B.REASON	登録要因	文字列
7	B.USERID	発行元ユーザー ID	数値
8	B.GROUPID	発行元グループ ID	数値
9	B.USERNAME	発行元ユーザー名	文字列
10	B.GROUPNAME	発行元グループ ID	文字列
11	B.SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	文字列
12	B.DESTSERVER	送信先イベントサーバ名	文字列
13	B.SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	数値
14	B.MESSAGE	メッセージ	文字列

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

項番	属性名	項目	形式
15	E.SEVERITY	重要度	文字列
16	E.USER_NAME	ユーザー名	文字列
17	E.PRODUCT_NAME	プロダクト名	文字列
18	E.OBJECT_TYPE	オブジェクトタイプ	文字列
19	E.OBJECT_NAME	オブジェクト名	文字列
20	E.ROOT_OBJECT_TYPE	登録名タイプ	文字列
21	E.ROOT_OBJECT_NAME	登録名	文字列
22	E.OBJECT_ID	オブジェクト ID	文字列
23	E.OCCURRENCE	事象種別	文字列
24	E.START_TIME	開始時刻	YYYY/MM/DD hh:mm:ss <sup>1</sup>
25	E.END_TIME	終了時刻	YYYY/MM/DD hh:mm:ss <sup>1</sup>
26	E.xxxxxx <sup>2</sup>	上記以外の拡張属性	文字列

注 1

JP1 イベントに入っている GMT 時間を JP1/IM・Manager のタイムゾーンで変換した値になります。

注 2

各 JP1 製品固有の拡張属性も使用できます。例えば、JP1/AJS のジョブの実行ホストは、E.C0 です。製品固有の拡張属性についての詳細は、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。

相関元イベントの属性値の引き継ぎ例を次の図に示します。

図 2-3 変数を使用した場合の相関成立イベントへの引き継ぎ例

発行されたJP1イベントの内容（例）

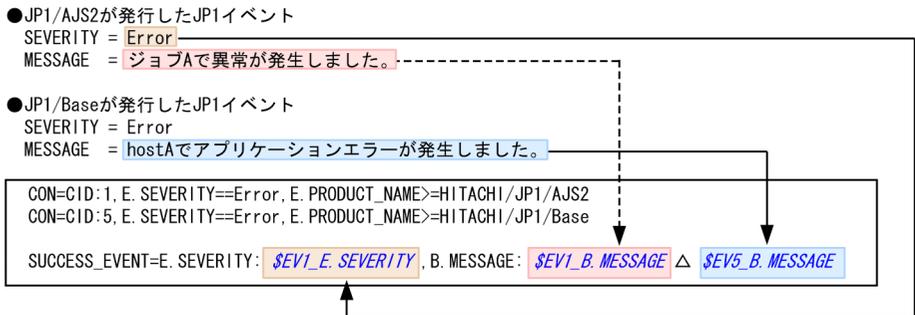
- JP1/AJS2が発行したJP1イベント  
SEVERITY= Error  
MESSAGE= ジョブAで異常が発生しました。
- JP1/Baseが発行したJP1イベント  
SEVERITY= Error  
MESSAGE= hostAが停止しました。

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, E. SEVERITY==Error, E. PRODUCT_NAME>=HITACHI/JP1/AJS2  
CON=CID:5, E. SEVERITY==Error, E. PRODUCT_NAME>=HITACHI/JP1/Base  
  
SUCCESS_EVENT=E, SEVERITY: $SEV1_E.SEVERITY, B. MESSAGE: $SEV1_B.MESSAGE Δ $SEV5_B.MESSAGE
```

上記のイタリック箇所所に属性値が引き継がれます。

JP1イベントと相関イベント発行定義のマッチング



発行される相関イベント

```
SEVERITY= Error  
MESSAGE= ジョブAで異常が発生しました。 hostAでアプリケーションエラーが発生しました。
```

(凡例)

△：半角スペース

上記の例では、JP1/AJS および JP1/Base の発行した重大度がエラーの JP1 イベントを関連づけて、相関イベントを発行しています。

また、相関成立イベントは次のように定義されています。

- 相関イベントの重大度は、JP1/AJS の発行した JP1 イベントの重大度を引き継ぐ。
- 相関イベントのメッセージは、JP1/AJS および JP1/Base の発行した JP1 イベントのメッセージを引き継ぐ。

(b) 相関元イベントの属性値を相関イベントの属性値に引き継ぐ（イベント相関タイプがしきい値の場合）

次にイベント相関タイプがしきい値の場合に、変数を使用して相関成立イベントを定義

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

する方法について説明します。

イベント相関タイプがしきい値の場合、一つのイベント条件 (CON) に複数の JP1 イベントが一致します。例えば、次の図のような場合です。

図 2-4 イベント相関タイプがしきい値の場合の問題

(例)

メッセージに「Login error」を含むJP1イベントが3回発行された場合に、相関イベントを発行する。

発行されたJP1イベント (例)

	発行順序
イベント1 メッセージ: Login error user ID (10000000)には権限がありません。	...1
イベント2 メッセージ: Login error (2回目) user ID (10000000)には権限がありません。	...2
イベント3 メッセージ: Login error (3回目) user ID (10000000)は不正なユーザーです。	...3

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, B. MESSAGE*="Login△error"  
TYPE=threshold:3  
SUCCESS_EVENT=B. ID:A00, △E. SEVERITY:Error, △B. MESSAGE: $EV1_B. MESSAGE
```

上記の *イタリック* 箇所属性値が引き継がれますが...

*\$EV1\_B. MESSAGE* に一致するJP1イベントが三つあるため、イベント1、イベント2、イベント3のどのメッセージを引き継ぐか指定する必要があります。

(凡例)

△: 半角スペース

上記の図に示したとおり、*\$EV1\_B.MESSAGE* に一致する JP1 イベントが、イベント1、イベント2、およびイベント3の三つになってしまいます。三つのうちのどのJP1イベントのメッセージを引き継ぐかを指定する必要があります。

このため、次の形式で相関成立イベントを指定します。

SUCCESS\_EVENT= 属性名 :\$EVn\_m\_ 属性名

nはこれまで説明してきたとおり、イベント条件で指定した条件ID (CID) を指定します。また、右側の属性名には、相関元イベントから引き継ぎたい属性を指定します。ただし、左側の属性名にイベントID (B.ID) を指定している場合は、相関元イベントの属性値を引き継ぎません。

加えて、mには発行されたJP1イベント (相関元イベント) の処理順序を指定します。つまり、3番目に処理されたJP1イベントの属性値を引き継ぎたい場合、mに3を指定します。なお、mに指定した値が、しきい値 (threshold:n) に指定した件数より大きい場合は定義不正になります。

イベント相関タイプがしきい値の場合の引き継ぎ例を次の図に示します。

図 2-5 イベント関連タイプがしきい値の場合の引き継ぎ例

(例)

メッセージに「Login error」を含むJP1イベントが3回発行された場合に、関連イベントを発行する。

発行されたJP1イベント (例)

発行されたJP1イベント (例)	発行順序
イベント1 メッセージ: Login error userID(10000000)には権限がありません。	…1
イベント2 メッセージ: Login error (2回目) userID(10000000)には権限がありません。	…2
イベント3 メッセージ: Login error (3回目) userID(10000000)は不正なユーザーです。	…3

関連イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, B. MESSAGE*="Login△error"
TYPE=threshold:3
SUCCESS_EVENT=B. ID:A00, △E. SEVERITY:Error, △B. MESSAGE: $EVT_3.B. MESSAGE
```

上記の *イタリック* 個所に属性値が引き継がれます。

JP1イベントと関連イベント発行定義のマッチング

発行されたJP1イベント (例)

発行されたJP1イベント (例)	発行順序
イベント1 メッセージ: Login error userID(10000000)には権限がありません。	…1
イベント2 メッセージ: Login error (2回目) userID(10000000)には権限がありません。	…2
イベント3 メッセージ: Login error (3回目) userID(10000000)は不正なユーザーです。	…3

関連イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, B. MESSAGE*="Login△error"
TYPE=threshold:3
SUCCESS_EVENT=B. ID:A00, △E. SEVERITY:Error, △B. MESSAGE: $EVT_3.B. MESSAGE
```

発行される関連イベント

```
ID=A00
SEVERITY= Error
MESSAGE=Login error (3回目) user ID(10000000)は不正なユーザーです。
```

(凡例)

△: 半角スペース

属性名: \$EVT<sub>n</sub>\_m\_ 属性名の n, m はどちらも省略できます。n, m を省略した場合の引き継ぎについて、例を用いて説明します。

例 1

メッセージに Login error を含む JP1 イベントが 3 回発行された場合に関連元イベントのメッセージを引き継いだ関連イベントを発行する。

関連イベント発行定義ファイルの定義内容

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

```
[ex.1]
CON=CID:1,B.MESSAGE*="Login error"
TYPE=threshold:3
SUCCESS_EVENT=B.ID:A00,E.SEVERITY:Error,B.MESSAGE:設定値
```

表 2-38 満たしたい要件と設定値 (例 1 の場合)

項番	満たしたい要件	設定値
1	1 番目 (最初) にイベント条件に合致した JP1 イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV1_1_B.MESSAGE , または \$EV_1_B.MESSAGE
2	2 番目にイベント条件に合致した JP1 イベントのメッセージを引き継ぐ。	\$EV1_2_B.MESSAGE , または \$EV_2_B.MESSAGE
3	3 番目 (最後) にイベント条件に合致した JP1 イベントのメッセージを引き継ぐ。	\$EV1_3_B.MESSAGE , \$EV1_B.MESSAGE , \$EV_3_B.MESSAGE , または \$EV_B.MESSAGE

#### 例 2

次の条件のどれかに該当する JP1 イベントが 10 回発行された場合に、相関元イベントのメッセージを引き継いだ相関イベントを発行する。

- イベント ID が 100 で、メッセージに Warning を含む。
- イベント ID が 200 で、メッセージに Warning または Error を含む。

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
[ex.2]
CON=CID:100,B.ID==100,B.MESSAGE*="Warning"
CON=CID:200,B.ID==200,B.MESSAGE*="Warning";"Error"
TYPE=threshold:10
SUCCESS_EVENT=B.ID:B00,E.SEVERITY:Error,B.MESSAGE:設定値
```

表 2-39 満たしたい要件と設定値 (例 2 の場合)

項番	要件	設定値
1	イベント条件 (条件 ID : 100) に 1 番目 (最初) に合致した JP1 イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV100_1_B.MESSAGE
2	イベント条件 (条件 ID : 100) に 5 番目に合致した JP1 イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV100_5_B.MESSAGE
3	イベント条件 (条件 ID : 100) に 10 番目 (最後) に合致した JP1 イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV100_10_B.MESSAGE
4	イベント条件に関係なく、1 番目 (最初) に処理された JP1 イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV_1_B.MESSAGE

項番	要件	設定値
5	イベント条件に関係なく、5番目に処理されたJP1イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV_5_B.MESSAGE
6	イベント条件に関係なく、10番目（最後）に処理されたJP1イベントのメッセージを相関イベントに引き継ぐ。	\$EV_10_B.MESSAGE, または \$EV_B.MESSAGE

まとめると次のようになります。

**n を省略した場合**

n を省略すると、イベント条件に関係なく、m に指定した相関元イベントの順番だけで判定されます。つまり、m に 3 を指定していれば、相関イベントには、3 番目に処理された相関元イベントの属性値が引き継がれます。

**m を省略した場合**

m を省略すると、順番に関係なく、最後に処理された相関元イベントが対象になります。しきい値が 10 件であれば、10 番目に処理された相関元イベントの属性値が引き継がれます。

同時に n を指定していれば、イベント条件で最後に処理された相関元イベントの属性値が引き継がれます。

**n および m を省略した場合**

n および m を省略すると、イベント条件および処理の順番に関係なく、最後に処理された相関元イベントが対象になります。

なお、n、m のどちらを指定した場合でも、条件に合う（引き継ぎ元の）JP1 イベントがない場合は、変数の部分が空文字（0 バイト）に置き換わります。

**(c) 相関元イベントの属性値の一部を相関イベントの属性値に引き継ぐ**

相関元イベントの属性値の一部を切り出して、相関イベントに引き継ぎたい場合、変数 \$EVn\_ENVo を指定します。また、イベント条件は正規表現（\*）で指定し、属性値の切り出したい部分を（ ）で囲みます。

相関成立イベントは次の形式で指定します。

SUCCESS\_EVENT= 属性名 : \$EVn\_ENVo

この場合、CID で引き継ぎたい相関元イベントを指定し、n に CID の値を指定します。また、ENVo の o に切り出した順番を指定します。属性値の一部を切り出した場合の引き継ぎ例を次の図に示します。

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

図 2-6 変数 \$EVn\_ENVo を使用した場合の相関成立イベントへの引き継ぎ例

(例)

発行されたイベントのメッセージ中のエラーコードを切り出して、相関イベントのメッセージに引き継ぐ。

発行されたJP1イベント (例)

イベント1 重大度: Error メッセージ: KAx-E エラーが発生しました ErrorCode=1111 2006/11/11/16:10:52

イベント2 重大度: Critical メッセージ: KAx-E 致命的なエラーです ErrorCode=2000 2006/11/11/16:12:30

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, E. SEVERITY==Error, B. MESSAGE*==ErrorCode=(...). *$
CON=CID:2, E. SEVERITY==Critical, B. MESSAGE*==ErrorCode=(...). *$
SUCCESS_EVENT=B. ID:C00, ΔE. SEVERITY:Alert,
ΔB. MESSAGE: エラーコード$EV1_ENV1Δ $EV2_ENV1 Δでエラーが発生しました
```

上記のイタリック個所に属性値が引き継がれます。

JP1イベントと相関イベント発行定義のマッチング

発行されたJP1イベント (例)

イベント1 重大度: Error メッセージ: KAx-E エラーが発生しました ErrorCode=1111 2006/11/11/16:10:52

イベント2 重大度: Critical メッセージ: KAx-E 致命的なエラーです ErrorCode=2000 2006/11/11/16:12:30

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, E. SEVERITY==Error, B. MESSAGE*==ErrorCode=(...). *$
CON=CID:2, E. SEVERITY==Critical, B. MESSAGE*==ErrorCode=(...). *$
SUCCESS_EVENT=B. ID:C00, ΔE. SEVERITY:Alert,
ΔB. MESSAGE: エラーコード$EV1_ENV1Δ $EV2_ENV1 Δでエラーが発生しました
```

発行される相関イベント

```
ID=C00
SEVERITY= Alert
MESSAGE=エラーコード1111 2000でエラーが発生しました
```

(凡例)

Δ: 半角スペース

上記の例では、条件 ID (CID) =1 の条件および条件 ID (CID) =2 で指定した相関元イベントの ErrorCode= の右辺を ( ) を使って切り出し、相関イベントのメッセージに引き継いでいます。

変数 \$EVn\_ENVo を使うと、属性値に特定の文字列を含む相関元イベントが発行された場合に相関イベントを発行し、かつ、属性値に含まれる文字列の一部を相関イベントに引き継ぐこともできます。

この場合、イベント条件に指定した正規表現(\*=)のあとの" ( "が何番目かで ENVo の o に番号を指定します。つまり、イベント条件の正規表現(\*=)のあとに続く相関元イベントの属性値に対して、左から右に" ( "を数え、引き継ぎたい個所の順番を o に指定します。

\$EVn\_ENVo で切り出される部分については、同一属性値条件に \$EVn\_ENVo を指定した場合と同じです。詳細については、「図 2-2 イベント条件 (CON) と \$EVn\_ENVo で切り出される部分の対応」を参照してください。

属性値に特定の文字列を含む相関元イベントが発行された場合に相関イベントを発行し、かつ、属性値に含まれる文字列の一部を相関イベントに引き継ぐ例を次に示します。

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行定義ファイル

図 2-7 属性値に含まれる特定の文字列の一部を相関イベントに引き継ぐ例

(例)

属性値に( )が複数ある相関元イベントのメッセージの一部を切り出して、相関イベントに引き継ぐ。

発行されたJP1イベント (例)

```
イベント 重大度 : Error
          メッセージ : KAx-E エラーが発生しました host=AGENT_A ErrorCode=1111 2006/11/11/16:10:52
```

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, ΔE. SEVERITY==Error, ΔB. MESSAGE*=host=(MANAGER_AΔ|AGENT_(A|B|C)).*ErrorCode=(...).*$
SUCCESS_EVENT=B. ID:C00, ΔE. SEVERITY:Alert,
ΔB. MESSAGE:ホスト$SEVI_ENV1Δでエラーコード$SEVI_ENV3Δのエラーが発生しました
```

上記の *イタリック* 個所に属性値が引き継がれます。

JP1イベントと相関イベント発行定義のマッチング

発行されたJP1イベント (例)

```
イベント 重大度 : Error
          メッセージ : KAx-E エラーが発生しました host=AGENT_A ErrorCode=1111 2006/11/11/16:10:52
```

相関イベント発行定義ファイルの定義内容

```
CON=CID:1, ΔE. SEVERITY==Error, ΔB. MESSAGE*=host=(MANAGER_AΔ|AGENT_(A|B|C)).*ErrorCode=(...).*$
SUCCESS_EVENT=B. ID:C00, ΔE. SEVERITY:Alert,
ΔB. MESSAGE:ホスト$SEVI_ENV1Δでエラーコード$SEVI_ENV3Δのエラーが発生しました
```

発行される相関イベント

```
B. ID : C00
E. SEVERITY : Alert
B. MESSAGE : ホストAGENT_A でエラーコード1111 のエラーが発生しました
```

(凡例)

Δ : 半角スペース

上記の例では、次に示す相関元イベントが発行された場合に、相関イベントにその属性値を引き継ぐよう定義しています。

- host= のあとに「MANAGER\_A」または「AGENT\_A, B, Cのどれか」を含む。
- ErrorCode= のあとに4文字以上の文字列を含む。

注

- 4文字を超える場合は、4文字までを引き継ぎます。  
ErrorCode=12345678・・・の場合、「1234」となります。
- 4文字未満の場合は、ErrorCode= 文字列のあとに続く文字列を含んで4文字を引き継ぎます。  
ErrorCode=1 2006/11/11・・・の場合、「1 20」となります。

なお、ErrorCode= のあとの文字列が4文字未満だった場合、関連イベントは発行されません。

## 定義例

定義例1：重大度がエラー以上のJP1 イベントを関連イベントとして発行する場合

```
VERSION=2

#エラー以上のJP1イベントを関連イベントとして発行する
[filter_over_error]
CON=CID:1,B.ID==1,E.SEVERITY==Error;Critical;Alert;Emergency
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

定義例2：重大度がエラー以上のJP1 イベント、およびJP1/AJSが発行した重大度がエラーのJP1 イベントを関連イベントとして発行する場合

次のように設定した場合、JP1/AJSがエラーのJP1 イベントを発行すると、関連イベント発行条件 over\_error、および ajs2\_over\_error に一致するため、関連イベントは二つ発行されます。

```
VERSION=2

#エラー以上のJP1イベントを関連イベントとして発行する
[over_error]
CON=CID:1,E.SEVERITY==Error;Critical;Alert;Emergency
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE

#JP1/AJS2のエラーのJP1イベントを関連イベントとして発行する
[ajs2_over_error]
CON=CID:1,E.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME==/HITACHI/JP1/AJS2
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

なお、JP1/AJSがエラーのJP1 イベントを発行した場合に、関連イベントを1件だけ発行したい場合は、一つ目の関連イベント発行条件を次のように設定します。

```
VERSION=2

#エラー以上のJP1イベントを関連イベントとして発行する
#JP1/AJS2が発行したイベントは除外する
[over_error_and_not_ajs2]
CON=NOT,E.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME==/HITACHI/JP1/AJS2
CON=CID:1,E.SEVERITY==Error;Critical;Alert;Emergency
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE

#JP1/AJS2のエラーのJP1イベントを関連イベントとして発行する
[ajs2_over_error]
```

## 2. 定義ファイル

### 関連イベント発行定義ファイル

```
CON=CID:1,E.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME==/HITACHI/JP1/AJS2
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

#### 定義例 3：タイムアウト時間を定義した場合

```
VERSION=2

[condition]
CON=NOT,E.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME==/HITACHI/JP1/AJS2

CON=CID:1,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Warning
CON=CID:2,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Error
CON=CID:3,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Critical

TIMEOUT=10
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

#### 定義例 4：JP1/AJS2 および JP1/Base の発行したエラーの JP1 イベントのメッセージをまとめて、1 件の関連イベントとして発行する場合

```
VERSION=2

[cond1]

CON=CID:1,B.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME>=HITACHI/JP1/AJS2
CON=CID:5,B.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME>=HITACHI/JP1/Base

SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:$EV1_E.SEVERITY,B.MESSAGE:"$EV1_B.MESS
AGE $EV5_B.MESSAGE"
```

#### 定義例 5：変数 \$EVn\_ENVo を使った切り出しの例

メッセージに含まれる詳細コード「error code = n」を関連イベントのメッセージに設定する場合（n は任意の文字列、 は半角スペース）

```
VERSION=2

[SAMPLE]

CON=CID:100,B.MESSAGE*=(error code =.* )
SUCCESS_EVENT=B.ID:100,E.SEVERITY:Emergency,B.MESSAGE:エラー情報
[$EV100_ENV1 ]
```

#### 定義例 6：関連の対象範囲をホストで絞り込み、同時相関数を 20 としてユーザーごとに関連イベントを発行する場合

```
VERSION=2

[condition2]
TARGET=B.SOURCESERVER==host1;host2;host3
CON=NOT,E.SEVERITY==Error,E.PRODUCT_NAME==/HITACHI/JP1/AJS2

CON=CID:1,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Warning
CON=CID:2,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Error
CON=CID:3,B.ID==1,B.MESSAGE==TEST,E.SEVERITY==Critical

SAME_ATTRIBUTE=E.USERNAME
CORRELATION_NUM=20
TIMEOUT=10
SUCCESS_EVENT=B.MESSAGE:$EV1_B.MESSAGE
```

# 相関イベント発行環境定義ファイル

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥EVGEN]  
"OPERATION_LOG_SIZE"=dword:16進数値  
"OPERATION_LOG_NUM"=dword:16進数値
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

```
<Consoleパス>¥default¥
```

UNIX の場合

```
/etc/opt/jp1cons/default/
```

## 説明

相関イベント発行履歴ファイルのサイズ、面数を定義するファイルです。

このファイルを更新する場合、JP1/IM - Manager が管理するプロセスのすべてが定義情報を更新します。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行して定義を共通定義情報に反映したあとに、JP1/IM - Manager を再起動、または jco\_spm�\_reload コマンドを実行することで有効になります。

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥EVGEN]

JP1/IM - Manager の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"OPERATION\_LOG\_SIZE"=dword:16 進数値

相関イベント発行履歴ファイルの1面当たりのファイルサイズを16進数で指定します。00010000 ~ 06400000 (64 キロバイト ~ 100 メガバイト) の範囲で指定できます。デフォルトは、00A00000 です。

"OPERATION\_LOG\_NUM"=dword:16 進数値

相関イベント発行履歴ファイルの面数を16進で指定します。00000003 から

## 2. 定義ファイル

### 相関イベント発行環境定義ファイル

00000064 (3面 ~ 100面) の範囲で指定できます。デフォルトは, 00000003 (3面) です。

### 相関イベント発行履歴ファイルのサイズ, 面数の算出方法

相関イベント発行履歴ファイルのサイズ, 面数の調整をする場合, 1日で増加する相関イベント発行履歴ファイルのサイズを算出し, 必要に応じて保存したい日数を掛けてください。調整する場合は, 算出された値より少し大きめの値にしてください。

見積もりの詳細については, JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

# インシデント登録用システムプロファイル (eds\_system.conf)

---

## 形式

---

VERSION=1

START\_OPTION={cold | warm}

---

## ファイル

eds\_system.conf (インシデント登録用システムプロファイル)

eds\_system.conf.model (インシデント登録用システムプロファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥discrim¥define¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥discrim¥define¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/discrim/define/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/discrim/define/

## 説明

JP1/IM - Incident Master 連携用の定義ファイルです。インシデント登録サービスの基本動作を定義するファイルです。

## 定義の反映時期

次の場合に、インシデント登録用システムプロファイルの設定が有効になります。

- JP1/IM - Manager を起動した場合
- jco\_spm�\_reload コマンドでリロードをした場合

## 記述内容

VERSION=1

ファイルのバージョンを表しています。編集不要です。省略した場合や 1 以外の数

## 2. 定義ファイル

インシデント登録用システムプロファイル ( eds\_system.conf )

値を指定した場合は、VERSION=1 が仮定されます。

START\_OPTION={cold | warm}

インシデント登録サービスの起動時および停止時の動作を決めるためのパラメータです。パラメータ値に指定できるのは、cold と warm の二つです。デフォルトは cold です。大文字小文字は区別しません。省略した場合や値が不正な場合は cold が仮定されます。

cold , warm それぞれを指定した場合のインシデント登録サービスの動作を起動時、停止時に分けて次表に示します。用途に合わせてパラメータ値を変更してください。

表 2-40 パラメータ値の違いによるインシデント登録サービス起動時・停止時の動作の違い

パラメータ値	インシデント登録サービスの動作		
	初起動時の動作	停止時の動作	起動時の動作
cold	<p>パラメータ値に関係なく、次のように動作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インシデント登録サービス起動後に登録された JP1 イベントから取得を開始する。</li> <li>インシデント登録定義を読み込み、定義に従って処理を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>相関中</b>」のインシデントの状態をすべて「<b>相関不成立</b>」にして JP1/IM - Incident Master に登録する。</li> <li>インシデント登録履歴ファイルに処理内容を出力する。</li> </ul>	<p>前回停止時のパラメータ値が cold だった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初起動時の動作と同様の動作となる。</li> </ul> <p>前回停止時のパラメータ値が warm だった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回停止時に相関中のまま終了したインシデントがあった場合、状態をすべて「<b>相関不成立</b>」にして JP1/IM - Incident Master に登録する。</li> <li>インシデント登録サービス起動後に登録された JP1 イベントから取得を開始する。</li> <li>インシデント登録定義を再読み込みし、定義に従って処理を開始する。</li> </ul>

パラメーター値	インシデント登録サービスの動作		
	初起動時の動作	停止時の動作	起動時の動作
warm	<p>パラメーター値に関係なく、次のように動作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インシデント登録サービス起動後に登録されたJP1 イベントから取得を開始する。</li> <li>インシデント登録定義を読み込み、定義に従って処理を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>停止前の最後に取得したJP1 イベントの情報、関連処理の内容、およびインシデント登録定義の内容を内部ログに出力・保管する。</li> <li>インシデント登録履歴ファイルに処理内容を出力する。</li> </ul>	<p>前回停止時のパラメーター値が cold だった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回停止前の最後に取得したJP1 イベントの続きから取得を開始する。</li> <li>インシデント登録定義を再読み込みし、定義に従って処理を開始する。</li> </ul> <p>前回停止時のパラメーター値が warm だった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回停止前の最後に取得したJP1 イベントの続きから取得を開始する。</li> <li>インシデント登録定義を再読み込みし、定義に従って処理を開始する。</li> <li>内部ログを参照し、前回停止時に相関中のまま終了したインシデントがあった場合、前回の処理を継続して処理を開始する。ただし、停止 起動の間にインシデント登録定義が変更されていた場合には、状態をすべて「相関不成立」にしてJP1/IM - Incident Master に登録する。</li> </ul>

なお、クラスタ運用する場合には warm に設定を変更してください。フェールオーバー時には、JP1/IM - Manager 停止 JP1/Base 停止 JP1/Base 起動 JP1/IM - Manager 起動、の順に製品の停止・起動処理がされます。cold の設定状態でクラスタ運用した場合、JP1/IM - Manager 停止 JP1/Base 停止の間に発生したJP1 イベントやJP1/Base 起動 JP1/IM - Manager 起動の間に発生したJP1 イベントを取得できません。このため、cold 設定のままだと、関連処理の対象イベントを取り漏らすことがあります。

# インシデント手動登録定義ファイル ( incident.conf )

---

## 形式

---

VERSION=バージョン情報

#コメント文

[IDM\_URL=http://JP1/IM - Incident Masterのホスト:ポート番号/仮想ディレクトリ]

[SS\_URL=http://JP1/IM - Service Supportのホスト:ポート番号]

---

## ファイル

incident.conf ( インシデント手動登録定義ファイル )

incident.conf.model ( インシデント手動登録定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥incident¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥incident¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/incident/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/incident/

## 説明

JP1/IM - View の JP1 イベントをインシデントとして他製品に登録する定義ファイルです。

## 定義の反映時期

jco\_spm�\_reload コマンドを実行したあと、または JP1/IM - Manager を再起動したあと、JP1/IM - View で JP1/IM - Manager ( JP1/IM - Central Console ) にログインすると、インシデント手動登録定義ファイルの設定が有効になります。

## 記述内容

VERSION=バージョン情報

ファイルのバージョンを表しています。JP1/IM - Manager のバージョンが 09-50 の

場合は 2 を, JP1/IM - Manager のバージョンが 09-50 より前の場合は 1 を指定します。それ以外の数値を指定した場合や省略した場合は, VERSION=1 が仮定されません。

#### # コメント文

# で始まる行は, コメント扱いとなります。

[IDM\_URL=http://JP1/IM - Incident Master のホスト : ポート番号 / 仮想ディレクトリ  
]

インシデントを登録する JP1/IM - Incident Master の WWW ページの URL を半角英数字および記号で指定します。デフォルトは, 「IDM\_URL=」となっており, 何も設定されていません。何も設定されていない場合は, インシデントを手動登録するための JP1/IM - View のボタン, およびメニューが非表示となります。

なお, このパラメーターに記載した JP1/IM - Incident Master のポート番号については, JP1/IM - View のマシンから JP1/IM - Incident Master のマシンに対して, ファイアウォールを通過できるよう設定する必要があります。

[SS\_URL=http://JP1/IM - Service Support のホスト : ポート番号]

インシデントを登録する JP1/IM - Service Support の WWW ページの URL を半角英数字および記号で指定します。デフォルトは, 「SS\_URL=」となっており, 何も設定されていません。

なお, このパラメーターに記載した JP1/IM - Service Support のポート番号については, JP1/IM - View のマシンから JP1/IM - Service Support のマシンに対して, ファイアウォールを通過できるよう設定する必要があります。

なお, JP1/IM - Manager をバージョンアップ後に JP1/IM - Service Support と連携する場合は, この行を追加したあと, 次の作業を実施してください。

- バージョン情報を “ 2 ” に変更する。
- IDM\_URL で始まる行をコメント扱いに変更する ( # を付ける ) 。
- JP1/IM - Manager を再起動または jco\_spmd\_reload コマンドを実行して定義内容を反映する。JP1/IM - View にログインしている場合は, JP1/IM - View を再起動する。

# インシデント登録環境定義ファイル ( jcdmain.conf.update )

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥JCDMAIN]
"OPERATION_LOG_SIZE"=dword:16進数値
"OPERATION_LOG_NUM"=dword:16進数値

[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER¥JCDMAIN¥DBMS]
"PDNAMEPORT"="ポート番号"
```

---

## ファイル

jcdmain.conf.update ( インシデント登録環境定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Console パス ¥default¥

UNIX の場合

/etc/opt/jp1cons/default/

## 説明

JP1/IM - Incident Master 連携用の定義ファイルです。次に示す内容を定義するファイルです。

- インシデント登録履歴ファイルのサイズ、面数
  - JP1/IM - Incident Master が使用するポート番号
- 注 JP1/IM - Incident Master 側の設定に合わせて設定を変更する必要があります。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、ファイルをコピーして、内容を編集してください。

## 定義の反映時期

この定義ファイルを引数に jbssetcnf コマンド実行後、JP1/IM - Manager を再起動、または jco\_spmd\_reload コマンドを実行することで有効になります。

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥JCDMAIN]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"OPERATION\_LOG\_SIZE"=dword:16 進数値

インシデント登録履歴ファイルのサイズを 16 進数で指定します。00010000 ~ 06400000 (64 キロバイト ~ 100 メガバイト) の範囲で指定できます。  
デフォルトでは値に「00A00000」(10 メガバイト) が指定されています。

"OPERATION\_LOG\_NUM"=dword:16 進数値

インシデント登録履歴ファイルの面数を 16 進数で指定します。00000003 ~ 00000064 (3 面 ~ 100 面) の範囲で指定できます。  
デフォルトでは値に「00000003」(3 面) が指定されています。

[ 論理ホスト名 ¥JP1CONSOLEMANAGER¥JCDMAIN¥DBMS ]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"PDNAMEPORT"=" ポート番号 "

JP1/IM - Incident Master が使用するポート番号を指定します。JP1/IM - Incident Master 側で使用するポート番号を変更した場合には、それに合わせてこのパラメーターで指定するポート番号も変更する必要があります。  
デフォルトでは値に「23044」が指定されています。

## インシデント登録履歴ファイルのサイズ、面数の算出方法

インシデント登録履歴ファイルのサイズ、面数の調整をする場合、1 日で増加するインシデント登録履歴ファイルのサイズを算出し、必要に応じて保存したい日数を掛けてください。調整する場合は、算出された値より少し大きめの値にしてください。

見積もりの詳細については、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

## ホスト情報ファイル (jcs\_hosts)

---

### 形式

---

```
IPアドレス ホスト名1 ホスト名2 ホスト名3 ... ホスト名8  
IPアドレス ホスト名1 ホスト名2 ホスト名3 ... ホスト名8  
:
```

---

### ファイル

jcs\_hosts (ホスト情報ファイル)

jcs\_hosts.model (ホスト情報ファイルのモデルファイル)

### 格納先ディレクトリ

#### Windows の場合

物理ホストのとき

Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplscope¥conf¥

#### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplscope/conf/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplscope/conf/

### 説明

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) が管理するホスト情報を定義するファイルです。

ホスト情報ファイルは、監視ツリーの自動生成、および監視オブジェクトの状態を変更する JP1 イベント照合処理の際のホスト名比較に使用するホスト情報を記述するファイルです。なお、ホスト情報ファイルの形式は、hosts ファイルと同じです。

# を指定した場合、# 以降は改行されるまでコメント扱いとなります。

### 定義の反映時期

ホスト情報ファイルの内容は、jcshostsimport コマンド実行後、JP1/IM - Manager を再起動、または jco\_spmdd\_reload コマンドを実行することで有効になります。

jcshostsimport コマンドでホスト情報ファイルの内容をホスト情報 DB に格納すると、ホスト名はすべて小文字になります。そのため、jcshostsexport で出力するホス

ト情報のホスト名も、すべて小文字になります。

jcshostsimport コマンドでは、ホスト情報ファイルのコメントは格納されません。

## 記述内容

IP アドレス ホスト名 1 ホスト名 2 ホスト名 3 ... ホスト名 8

空白を除く行の先頭に IP アドレスを記述し、複数の空白またはタブのあとにホスト名、エイリアス名を記述します。

IP アドレスの文字数は、最大 63 バイトです。IP V6 の IP アドレスには対応していません。

ホスト名、エイリアス名の文字数は、一つにつき最大 255 バイトです。

一つの IP アドレスに対し、最大八つホスト名を記述できます。また、一つのホスト名に対し、指定できる IP アドレスの数は最大八つです。

同じ IP アドレスの記述が複数存在した場合は、最初の定義が有効になります。

IP アドレスだけを指定した行がある場合は jcshostsimport コマンド実行時にエラーとなります。

ホスト名の大きい文字・小文字は区別されません。ホスト名には、日本語を使用できません。IP アドレスは、16 進数表記でも記述できます。

## 定義例

```
#
# jcs_hosts
#
# Internet Address Hostname
100.100.10.10      samplehost1  samplehost2
```

## ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_xxx.txt)

---

### 形式 1

---

```
DESC_VERSION=1

[EV_GUIDE_数字]
NUM=数字
EV_COMP_数字=属性指定:正規表現
EV_TITLE=文字列
EV_GUIDE=メッセージ
[END]
[EV_GUIDE_数字]
NUM=数字
EV_COMP_数字=属性指定:正規表現
EV_TITLE=文字列
EV_GUIDE=メッセージ
[END]
:
```

---

### 形式 2

---

```
DESC_VERSION=2

[EV_GUIDE_数字]
NUM=数字
EV_COMP_数字=属性指定:正規表現
EV_TITLE=文字列
EV_FILE=ガイドメッセージファイル
[END]
[EV_GUIDE_数字]
NUM=数字
EV_COMP_数字=属性指定:正規表現
EV_TITLE=文字列
EV_FILE=ガイドメッセージファイル
[END]
:
```

---

## ファイル

ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_xxx.txt) は、JP1/IM の動作する言語コードによって、編集するファイルが異なります。JP1/IM の動作する言語コードと、編集するガイド情報ファイルの対応を次の表に示します。

表 2-41 JP1/IM の動作する言語コードとガイド情報ファイルの対応

OS	JP1/IM の動作する言語コード	編集するファイル
Windows	シフト JIS コード	jcs_guide_sjis.txt (ガイド情報ファイル)
		jcs_guide_sjis.txt.model (ガイド情報ファイルのモデルファイル)
UNIX	シフト JIS コード	jcs_guide_sjis.txt (ガイド情報ファイル)

OS	JP1/IM の動作する言語コード	編集するファイル
		jcs_guide_sjis.txt.model (ガイド情報ファイルのモデルファイル)
	EUC コード	jcs_guide_euc.txt (ガイド情報ファイル) jcs_guide_euc.txt.model (ガイド情報ファイルのモデルファイル)
	UTF-8 コード	/etc/opt/jp1scope/conf/ jcs_guide_UTF-8.txt 共有ディレクトリ /jp1scope/conf/ jcs_guide_UTF-8.txt
	英語	jcs_guide.txt (ガイド情報ファイル) jcs_guide.txt.model (ガイド情報ファイルのモデルファイル)

言語コードに対応したガイド情報ファイルを使用してください。

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき  
Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jp1scope¥conf¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jp1scope/conf/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jp1scope/conf/

## 説明

監視オブジェクトの状態変更の契機となった JP1 イベントに関するガイド情報を定義するファイルです。

このファイルで記述した内容は、JP1/IM - View の [ ガイド ] 画面に表示されます。

ガイド情報ファイルの最大サイズは、1 メガバイトです。

形式 2 は、ユーザーによって作成された TXT 形式または HTML 形式のファイルをガイドメッセージファイルとして読み込んで [ ガイド ] 画面に表示させる場合に、記述する方法です。

複数のガイド情報が一致する場合、ガイド情報ファイルで先に記述してある情報が有効

## 2. 定義ファイル ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_xxx.txt)

になります。

Windows の場合、07-00 の JP1/IM - Central Scope のガイド情報ファイルは、08-00 以降の JP1/IM - Manager でも読み込めます。

Windows の場合、08-00 以降の JP1/IM - Manager のガイド情報ファイルは、07-00 の JP1/IM - Central Scope でも読み込むことはできますが、DESC\_VERSION=2 の EV\_FILE= ガイドメッセージファイルの記述は無視され、EV\_GUIDE= メッセージの記述が優先されます。両方の記述がない場合はエラーとなります。

# を指定した場合、# 以降は改行されるまでコメント扱いとなります。ただし、開始タグ、属性情報、終了タグの後方にコメントを記述できません。開始タグと終了タグの後方にコメントを記述した場合は、エラーとなります。また、属性値の後方にコメントを書いた場合は、属性値の一部として認識されます。

¥ を記述する場合、¥¥ と記述する必要があります。¥n および ¥\$ 以外に ¥ を記述していた場合はログが出力され、¥ を記述した行を無視して処理します。

### 定義の反映時期

ガイド情報ファイル編集後、JP1/IM - Manager を再起動、または jco\_spmd\_reload コマンドを実行することで有効になります。

### 記述内容

DESC\_VERSION=1 | 2

ガイド情報ファイルのバージョンを表しています。指定できる値は 1 または 2 です。EV\_FILE パラメーターを指定してガイドメッセージファイル呼び出す場合は、値を 2 にする必要があります。

DESC\_VERSION=1 で EV\_GUIDE= メッセージと EV\_FILE= ガイドメッセージファイルを同時に指定した場合、EV\_FILE= ガイドメッセージファイルの記述は無視されます。

DESC\_VERSION=2 で EV\_GUIDE= メッセージと EV\_FILE= ガイドメッセージファイルを同時に指定した場合、EV\_FILE= ガイドメッセージファイルの記述が優先されます。

[EV\_GUIDE\_ 数字 ]

ガイド情報の開始タグです。[EV\_GUIDE\_ 数字 ] ~ [END] で一つの定義ブロックとなります。このパラメーターと [END] の間に [ ガイド ] 画面への表示対象となる JP1 イベントの条件および表示するメッセージを記述します。数字は、1 からガイドの数だけ 1 ずつ増加します。

EV\_GUIDE\_ 数字タグ内の文字列は一意にしてください。不正な文字列がある場合はログが出力され、該当箇所を無視して処理します。

EV\_GUIDE\_ 数字タグ内に記述できる属性以外が記述されている場合は、該当箇所を無視して処理します。

NUM= 数字

数字には、EV\_COMP\_ 数字のエントリー数を記述します。

EV\_COMP\_ 数字 = 属性指定 : 正規表現

このパラメーターは、比較する属性の数だけ記述します。数字は、1 から 1 ずつ増加します。複数記述した場合は、AND 条件が成立すると、EV\_GUIDE パラメーターで記述したメッセージを [ ガイド ] 画面に表示します。

EV\_COMP\_ 数字の数字は、NUM で指定された範囲内の数字 (1 ~ NUM) でない場合は、無視されます。

イベント ID は 8 けた表記で記述してください。なお、EV\_COMP\_ 数字の属性指定に B.ID と記述し、一致条件にイベント ID の基本部だけを指定する場合、拡張部の記述を省略できます。

例

```
EV_COMP_1=B.ID:00004107:00000000またはEV_COMP_1=B.ID:00004107
```

属性指定

次の属性を指定できます。

- JP1 イベントの基本属性 : 指定する場合「B. 属性名」と指定します。
- JP1 イベントの拡張属性 : 指定する場合「E. 属性名」と指定します。
- 監視ノードの属性 : 指定する場合「T.MONNODEID」(監視ノード ID) を指定できます (監視ノード ID は、16 進数 8 桁で指定してください)。

正規表現

属性指定で指定した属性の内容を正規表現で記述します。正規表現には拡張正規表現を使用します。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G 正規表現」を参照してください。

EV\_TITLE= 文字列

文字列には、[ ガイド ] 画面のタイトルに表示される文字列を記述します。このパラメーターは、[EV\_GUIDE\_ 数字 ] と [END] の間に一つしか記述できません。

EV\_GUIDE= メッセージ

メッセージには、[ ガイド ] 画面のガイドメッセージに表示される文字列を記述します。HTML タグを記述すれば、[ ガイド ] 画面に表示されるガイドメッセージを HTML 形式で表示できます (記述できる HTML タグは EV\_FILE の説明文にある「表 2-42 ガイドメッセージとして使用できる HTML タグ」を参照のこと)。このパラメーターは、[EV\_GUIDE\_ 数字 ] と [END] の間に一つしか記述できません。また、文字数は 10,240 バイト以内にしてください。10,241 バイト以上記述した場合、10,241 バイト以降のメッセージは、[ ガイド ] 画面に表示されません。なお、メッセージ中に ¥ を記述する場合は ¥¥, \$ を記述する場合は ¥\$ と記述します。メッセージ中に \$B. 属性名 , \$E. 属性名 を指定した場合、JP1 イベントの属性

## 2. 定義ファイル

ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_xxx.txt)

名に対応する属性値がメッセージとして展開されます ( は半角スペースを表す)。また、\$T.MONNODEID を指定した場合は、監視ノード ID に置き換えられます ( は半角スペースを表す)。対応する属性が存在しない場合は、空に置き換えられます。

メッセージに改行を入れる場合は、¥n と指定します。

EV\_FILE= ガイドメッセージファイル

ガイドメッセージファイルには、[ ガイド ] 画面に表示されるガイドメッセージの内容を記述したファイルの名称をフルパスまたは相対パス ( 起点は Scope パス ¥conf¥guide¥, または /etc/opt/jp1scope/conf/guide/ ) で指定します。このパラメーターは、[EV\_GUIDE\_ 数字] と [END] の間に一つしか記述できません。

ファイル名は、パスを含めて 1,024 バイト以内の文字数にしてください。1,024 バイトを超えた場合、JP1/IM - Manager の起動時または JP1/IM - View からのガイドメッセージファイル呼び出し時にエラーとなります。

また、このパラメーターを指定する場合は、DESC\_VERSION の値を 2 にしてください。

ガイドメッセージファイルとして指定できるファイルの名称、拡張子はユーザー任意です。なお、ファイル名称にはご利用元で管理しやすい名称を、拡張子は表示するガイドメッセージが TXT 形式であれば .txt を、HTML 形式であれば .html, .htm を使用することをお勧めします。

( 例 ) guide001\_AJS2.txt, または guide001\_AJS2.htm

ガイドメッセージファイル

ガイドメッセージファイルには、[ ガイド ] 画面から表示させたい情報を TXT 形式または HTML 形式で記述します。記述できる内容は、ガイド情報ファイルの EV\_GUIDE で記述できる内容と同じです。なお、ガイドメッセージファイルの場合、改行を挿入して体裁を整えることもできます。

ガイドメッセージファイルに記述されている内容および構文チェックはしません。

作成したガイドメッセージファイルは、任意のフォルダに格納できますが、クラスタ構成の場合にシステムのフェールオーバーに対応するためには次のフォルダに格納することを推奨します。

- Windows の場合  
共有フォルダ ¥jp1scope¥conf¥guide¥
- UNIX の場合  
共有ディレクトリ /jp1scope/conf/guide/

ガイドメッセージファイルの最大サイズは、1 メガバイトです。1 メガバイトを超えた場合、JP1/IM - View の [ ガイド ] 画面からのガイドメッセージファイル読み込み時にエラーとなります。

HTML 形式のガイドメッセージファイルを作成する場合に使用できる HTML タグおよび属性を次に示します。

表 2-42 ガイドメッセージとして使用できる HTML タグ

タグ	属性	説明
HTML	-	HTML 文章であることを宣言します。このタグは必須です。
HEAD	-	HTML 文章のヘッダーを宣言します。このタグは必須です。
BODY	-	HTML 文章の本文を宣言します。このタグは必須です。
A	HREF="URL"	リンク先 URL を指定します。相対パスおよび「mailto:」で始まる URL は動作保証されません。ここで指定したリンクは [ ガイド ] 画面 (HTML 形式) に表示されます。クリックすると WWW ブラウザーが起動し、指定した URL にアクセスできます。
H1 , H2 , H3 , H4 , H5 , H6	-	見出しを指定します。
FONT	SIZE=" 文字サイズ "	文字サイズを指定します。指定できる値は 1 ~ 7 です。
	COLOR=" 文字色 "	文字色を指定します。指定できる色は次の 16 色です。 black , silver , gray , white , maroon , red , purple , fuchsia , green , lime , olive , yellow , navy , blue , teal , aqua これ以外の文字色は動作保証されません。
B	-	文字を太字にします。
I	-	文字を斜体にします。
HR	-	罫線を引きます。
BR	-	強制的に改行します。

(凡例) - : なし

なお、このほかの HTML タグについては動作保証していません。

[END]

ガイド情報の終了タグです。

### 定義例

```
# JP1/IM-CS Guide Information File.
```

```
DESC_VERSION=1
```

```
[EV_GUIDE_1]
```

```
NUM=2
```

```
EV_TITLE=JP1/AJS2 業務Aの異常終了
```

```
EV_COMP_1=T.MONNODEID:0000000A
```

```
EV_COMP_2=B.ID:00000111
```

```
EV_GUIDE=業務Aが異常終了しました。$E.CO のホストで異常が発生していないか確認
```

## 2. 定義ファイル

ガイド情報ファイル (jcs\_guide\_xxx.txt)

してください。

[END]

[EV\_GUIDE\_2]

NUM=1

EV\_COMP\_1=B.ID:00004107

EV\_GUIDE=ジョブが異常終了しました。\$E.C0 のホストで異常が発生していないか確認してください。¥n以前の障害例として、ホストAではメモリ不足によりジョブが失敗した事があります。vmstatコマンドでメモリ空き容量を確認してください。

[END]

# 状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル (evhist\_warn\_event\_xxx.conf)

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS¥EVHISTORY]
"EVHIST_WARN_EVENT"=dword:値
```

---

## ファイル

evhist\_warn\_event\_on.conf (状態変更イベント件数の上限監視を有効にする場合に使用します)

evhist\_warn\_event\_off.conf (状態変更イベント件数の上限監視を無効にする場合に使用します)

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき  
Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jp1scope¥conf¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jp1scope/conf/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jp1scope/conf/

## 説明

状態変更イベントの件数が上限 (100 件) を超えた場合に、JP1 イベントの発行を有効にするかどうかを設定するファイルです。

有効にした場合は、監視オブジェクトの状態変更イベントが 100 件を超えたときに、JP1 イベントを発行します。発行される JP1 イベントは、イベント ID が 3FB1 の警告イベントです。

JP1/IM - Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで有効 (JP1 イベントを発行する) になっていますが、バージョンアップした場合には、無効 (JP1 イベントを発行しない) になっています。運用にあわせて、有効にするかどうかを検討してください。

## 2. 定義ファイル

状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル ( evhist\_warn\_event\_xxx.conf )

### 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS¥EVHISTORY ]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"EVHIST\_WARN\_EVENT"=dword: 値

- evhist\_warn\_event\_on.conf は、値が「00000001」です（イベント ID が 3FB1 の JP1 イベントが発行される）。
- evhist\_warn\_event\_off.conf は、値が「00000000」です（イベント ID が 3FB1 の JP1 イベントが発行されない）。

このパラメーターは編集しないでください。

JP1 イベントの詳細については、「3.2.2 JP1 イベントの詳細」を参照してください。

# 対処済み連動設定ファイル (action\_complete\_xxx.conf)

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS]  
"ACTION_COMPLETE_MODE"=dword:値
```

---

## ファイル

action\_complete\_on.conf (対処済み連動機能を有効にする場合に使用します)

action\_complete\_off.conf (対処済み連動機能を無効にする場合に使用します)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1scope¥conf¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1scope/conf/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1scope/conf/

## 説明

対処済み連動機能を有効にするかどうかを設定するファイルです。

有効にした場合は、セントラルコンソールでの JP1 イベントの対処状況に連動して、セントラルスコープの監視オブジェクトの状態が変わります。

JP1/IM・Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで有効になっていますが、バージョンアップした場合には無効になっています。

運用にあわせて、有効にするかどうかを検討してください。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM・Manager を再起動したあとに有効になります。

## 2. 定義ファイル

対処済み連動設定ファイル ( action\_complete\_xxx.conf )

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"ACTION\_COMPLETE\_MODE"=dword: 値

- action\_complete\_on.conf は、値が「00000001」です。
- action\_complete\_off.conf は、値が「00000000」です。

このパラメーターは編集しないでください。

# 状態変更イベント自動削除設定ファイル

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS¥EVHISTORY]  
"EVPROCESSED_MODE"=dword:値
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

JP1 イベントの対処状況を「対処済」にしたときに、状態変更イベントを自動で削除する機能を有効にするための定義ファイルです。

JP1/IM - Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで無効となっています。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

```
[論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS¥EVHISTORY]
```

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

```
"EVPROCESSED_MODE"=dword: 値
```

状態変更イベントの自動削除機能を有効にする場合は「1」を、無効にする場合は「0」を指定します。

# 監視オブジェクト初期化設定ファイル

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]  
"AUTO_INITIALIZE_MODE"=dword:値
```

---

### ファイル

任意のファイルを使用します。

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

### 説明

特定の JP1 イベントを受信したときに、監視オブジェクトを自動で初期化する機能を有効にするための定義ファイルです。

JP1/IM - Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで無効となっています。

### 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"AUTO\_INITIALIZE\_MODE"=dword: 値

監視オブジェクトの自動初期化機能を有効にする場合は「1」を、無効にする場合は「0」を指定します。

# 監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー設定ファイル ( auto\_dbbackup\_xxx.conf )

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS]  
"AUTO_DB_BACKUP_RECOVERY"=dword:値
```

---

## ファイル

auto\_dbbackup\_on.conf ( 監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリーを有効にする場合に使用します )

auto\_dbbackup\_off.conf ( 監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリーを無効にする場合に使用します )

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1scope¥conf¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1scope/conf/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1scope/conf/

## 説明

監視ツリー更新中の、OS のシャットダウンやクラスタシステムの系切り替え発生による、監視オブジェクト DB の破損を防ぐための機能 ( 監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー機能 ) を有効にするかどうかを設定するファイルです。

有効にした場合は、監視ツリー更新時に更新前の監視オブジェクト DB をバックアップし、障害発生時には、バックアップした監視オブジェクト DB をリカバリーします ( 障害の発生なしで更新処理が終了した場合には、バックアップデータは自動的に削除されます )

JP1/IM・Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで有効になっています

## 2. 定義ファイル

監視オブジェクト DB の自動バックアップ・リカバリー設定ファイル ( auto\_dbbackup\_xxx.conf )

が、バージョンアップした場合には無効になっています。運用にあわせて、有効にするかどうかを検討してください。

なお、クラスタ運用している場合は、必ず有効に設定してください。

### 定義の反映時期

jbsssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"AUTO\_DB\_BACKUP\_RECOVERY"=dword: 値

- auto\_dbbackup\_on.conf は、値が「00000001」です。
- auto\_dbbackup\_off.conf は、値が「00000000」です。

このパラメーターは編集しないでください。

### 記述例

論理ホスト HostA の JP1/IM - Manager に対し、監視オブジェクト DB の自動バック・リカバリー機能を有効にします。

```
[HostA¥JP1SCOPE¥BMS¥JCSDB] "AUTO_DB_BACKUP_RECOVERY"=dword:00000001
```

# オブジェクトタイプ定義ファイル

## 形式

```
[コメント]  
[ObjectType]  
定義ブロック [コメント]  
[End]  
[コメント]
```

## ファイル

会社名\_製品名\_会社名\_製品名\_obj.ja (オブジェクトタイプ定義ファイル)

なお、「製品名」は、「シリーズ名\_製品名」とすることもできます。JP1 イベント発行時の「PRODUCT\_NAME」に指定する値の「/」を「\_」に変更してファイル名に使用することをお勧めします。また、標準提供ファイル名称用に「hitachi」を使用しているため、「会社名」には「hitachi」以外の名称を使用してください。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥object\_type¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥object\_type¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/object\_type/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/object\_type/

## 説明

オブジェクトタイプ定義ファイルは、JP1/IM - View の画面 ([ 重要イベント定義 ] 画面, [ イベント取得条件設定 ] 画面など) の [ オブジェクトタイプ ] および [ 登録名タイプ ] に表示するオブジェクトタイプおよび登録名タイプを設定します。

この定義ファイルは、Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUC コードで定義する必要があります。

複数のファイルに同一のオブジェクトタイプが存在した場合の動作は保証されません。

## 定義の反映時期

JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

## 2. 定義ファイル オブジェクトタイプ定義ファイル

### 記述内容

#### [コメント]

コメントは、「#」で開始する改行を含まない文字列です。

#### [ObjectType]

「[ObjectType]」および「[End]」は「[」および「]」を含めてそのまま記述します。

#### 定義ブロック [コメント]

定義ブロックは、拡張属性値とリスト表示文字列で構成されます。拡張属性値は、オブジェクトタイプまたは登録名タイプに格納される文字列です。リスト表示文字列は、ドロップダウンリストに一覧表示する文字列です。

#### [End]

「[End]」は「[」および「]」を含めてそのまま記述します。

なお、定義する際には次の内容に注意してください。

- オブジェクトタイプ（拡張属性値）に空白を入れることはできません。
- リスト表示文字列には、日本語ではなく拡張属性値そのものを記述してください。

### 定義例

オブジェクトタイプ定義ファイルの定義例を次に示します。

```
[ObjectType]
# 拡張属性値,   リスト表示文字列   コメント
ACTION,        ACTION           // アクション
ACTIONFLOW,    ACTIONFLOW       // アクションフロー
BATCHQUEUE,    BATCHQUEUE      // バッチキュー
JOB,           JOB           // ジョブ
JOBNET,        JOBNET      // ジョブネット
MEDIA,         MEDIA        // メディア
PRINTER,       PRINTER     // プリンタ
PRINTJOB,      PRINTJOB    // プrintジョブ
PRINTQUEUE,    PRINTQUEUE  // パイプキュー
PROCESS,       PROCESS     // プロセス
RESTORE,       RESTORE     // リストア
[End]
```

# アプリケーション実行定義ファイル

## 形式

```
@file type=" 定義ファイルタイプ ", version=" 定義フォーマットバージョン ";  
@define-block type="application-execution-def";  
id=" アプリケーション実行定義識別子 ";  
path=" コマンドパス ";  
@define-block-end;
```

## ファイル

!JP1\_CC\_APP0.conf.model (アプリケーション実行定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥appexecute¥ja¥

## 説明

アプリケーション実行定義ファイルは、[ イベントコンソール ] 画面から起動するアプリケーションなどの実行形式ファイルの ID とパスを定義するファイルです。

なお、JP1/IM には、アプリケーション実行定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoappexecfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「1. コマンド」を参照してください。

## 定義の反映時期

JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

```
@file type="application-execution-definition";
```

この定義ファイルがアプリケーション実行定義ファイルであることを宣言します。

このステートメントは必須です。

このステートメントは、ファイルの先頭行に記述しなければなりません。

## アプリケーション実行定義ブロック

[ イベントコンソール ] 画面から起動するアプリケーションなどの実行形式ファイルのパスを定義し、ほかの定義ファイルからリンクするための ID 付けをします。

このブロックには次のステートメントを記述できます。

- id ステートメント
- path ステートメント
- description ステートメント

これ以外のステートメントが記述された場合は、エラー出力し、該当するステートメントだけを無視します。

## 2. 定義ファイル アプリケーション実行定義ファイル

次にステートメントについて説明します。

id=" アプリケーション実行定義識別子 ";

このブロックで指定するコマンドパスに ID を付けます。このステートメントは必須です。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ記述できます。

同一の id を持つブロックが解析対象のファイル内に複数個存在した場合、次の順に優先順位が決定され、最優先のブロックが有効になります。

1. ファイル名を昇順でソートしてあとの方のブロック
2. ファイル内の位置があとの方のブロック

それ以外のブロックは無効になります。

アプリケーション実行定義識別子は、32 バイト以内の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義内でユニークでなければなりません。ユニーク性を保持するために、次の命名規則に従ってください。

会社名\_製品名[\_機能名(または画面名)]

「jco\_」で始まる文字列、および「default\_browser」は、アプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。

path=" コマンドパス ";

id ステートメントで指定したアプリケーション実行定義識別子と関連づける実行形式ファイルのパスを定義します。このステートメントは必須です。このステートメントは、同一ブロック中に複数個指定できます。起動する実行形式ファイルは、フルパスで指定します。後述の置き換えキーワードを使用して、レジストリーなどからパスを組み立てることもできます。

このステートメントを複数個指定した場合は、記述順にパスが検索され、最初に見つかったパスが使用されます。

path ステートメントで指定できる実行形式ファイルは、.exe または .bat ファイルです。

コマンド実行時のカレントディレクトリは不定です。カレントディレクトリから相対パスを意識するコマンドなどは指定できません。.bat ファイルなどで cd コマンドを実行したあと、実行するようにしてください。

検索処理は JP1/IM - View の起動時にだけ実行されます。そのため、起動対象となるアプリケーションを JP1/IM - View の実行中にインストールした場合は、JP1/IM - View を再起動する必要があります。

### • 置換文字列

path ステートメントには、実行時に置き換え可能な置換文字列を指定できます。

### • キーワード置換文字列

指定された定義内にキーワード置換文字列が存在する場合は、記述されたキーワードに従って文字列の置換が実行されます。形式を次に示します。

%置き換えキーワード%

置き換えキーワードの一覧を次に示します。

表 2-43 置き換えキーワードの一覧

キーワード	置換する内容
JCO_JP1USER	JP1/IM・Manager にログインした JP1 のユーザー
JCO_INSTALLPATH	JP1/IM・View のインストールフォルダの名称

• レジストリー置換文字列

定義内にレジストリー置換文字列を指定すると、記述されたレジストリーから値を取得して文字列の置換が実行されます。レジストリー置換文字列の形式を次に示します。

[¥レジストリーキー¥レジストリーキー¥...¥レジストリー値]

レジストリー置換文字列の中には、さらに、レジストリー専用の置き換えキーワード「%UPPER%」を使用できます。「%UPPER%」を使用すると、レジストリーキーの中で同一階層のキーの中からキー名称で文字列比較が実行され、最も大きな文字列を選択して置換が実行されます。このキーワードの目的は、レジストリーキー内でバージョンごとにキーを分けているときに、常に最新のバージョンが得られるようにすることです。

「%UPPER%」は、レジストリー文字列内に 1 か所だけ指定できます。次に、「%UPPER%」を使用して JP1/SAMPLE のレジストリーを指定する例を示します。

```
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥%UPPER%¥PATHNAME¥PATH00]
```

このように指定すると、「%UPPER%」の部分が最新バージョンに置き換えられ、常に最新の実行形式ファイルが得られます。

例えば、レジストリーキーに次の二つが存在した場合、「0700">"0671" となるため、「0700" のレジストリーから値を取得します。

```
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥0671¥PATHNAME¥PATH00]
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥0700¥PATHNAME¥PATH00]
```

description=" アプリケーション実行の説明文 ";

ブロック内のアプリケーション実行定義に説明を付加します。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ記述できます。

文字数の制限はありませんが、50 文字以内にするをお勧めします。

アプリケーション実行定義ブロックの定義例を次に示します。

## 2. 定義ファイル

### アプリケーション実行定義ファイル

```
@define-block type="application-execution-def";
id="HITACHI_JP1_SAMPLE";
path="C:¥Program Files¥HITACHI¥JP1¥bin¥sample.exe";
description="日立のサンプルプログラム";
@define-block-end;
```

### 定義例

アプリケーション実行定義ファイルの定義例を次に示します。

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";
#-----
@define-block type="application-execution-def";
id="jco_notepad";
path="C:¥winnt40¥system32¥notepad.exe";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="application-execution-def";
id="jco_dmp";
path=" [¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥0521/
A¥PathName¥Path0] ¥bin¥DMPSTS.exe";
@define-block-end;
```

# CM ホスト定義ファイル (jcs\_atc\_cm\_host.conf)

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS]  
"ATC_CM_HOST"="ホスト名"
```

---

## ファイル

jcs\_atc\_cm\_host.conf (CM ホスト定義ファイル)

jcs\_atc\_cm\_host.conf.model (CM ホスト定義ファイル)

## 格納先ディレクトリ

### Windows の場合

物理ホストのとき

Scopeパス¥conf¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jp1scope¥conf¥

### UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jp1scope/conf/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jp1scope/conf/

## 説明

JP1/IM - Central Information Master 連携用の定義ファイルです。

監視ツリー（システム構成ツリー）を自動生成するための定義情報を収集する JP1/IM - Central Information Master ホストを定義するファイルです。

なお、JP1/IM - Manager と同一ホストの JP1/IM - Central Information Master から定義情報を収集する場合にはこの定義は不要です。

## 定義の反映時期

次の場合に定義が有効になります。

- jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したとき。
- jbssetcnf コマンドを実行し、jco\_spm�\_reload コマンドを実行したとき。

## 2. 定義ファイル

CM ホスト定義ファイル (jcs\_atc\_cm\_host.conf)

### 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"ATC\_CM\_HOST"=" ホスト名 "

ホスト名に連携する JP1/IM - Central Information Master のホスト名を指定します。省略した場合は、JP1/IM - Central Information Master のホストが JP1/IM - Manager と同一のホストであると仮定して動作します。

# 状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1SCOPE¥BMS]  
"EVENT_MATCH_MODE"=dword:値
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

状態変更条件メモリー常駐機能を有効にするための定義ファイルです。

JP1/IM - Manager を新規インストールした場合は、デフォルトで無効となっています。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - Manager を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1SCOPE¥BMS]

JP1/IM の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"EVENT\_MATCH\_MODE"=dword: 値

状態変更条件メモリー常駐機能を有効にする場合は「1」を、無効にする場合は「0」を指定します。

## 重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)

---

### 形式

---

DESC\_VERSION=バージョン情報

#重大度変更定義パラメーター

```
def 定義名1
  cnd
    イベント条件
  end-cnd
  sev 重大度
end-def
```

```
def 定義名2
  cnd
    イベント条件
  end-cnd
  sev 重大度
end-def
```

---

### ファイル

jcochsev.conf (重大度変更定義ファイル)

jcochsev.conf.model (重大度変更定義ファイルのモデルファイル)

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき  
Consoleパス¥conf¥chsev¥

論理ホストのとき  
共有フォルダ¥jplcons¥conf¥chsev¥

UNIX の場合

物理ホストのとき  
/etc/opt/jplcons/conf/chsev/

論理ホストのとき  
共有ディレクトリ/jplcons/conf/chsev/

### 説明

イベントの重大度変更機能で、重大度を変更する JP1 イベントの条件と変更後の重大度を定義するファイルです。イベントの重大度変更機能は、このファイルの定義に従い、イベント条件に一致する JP1 イベントの重大度を変更します。このファイルは、JP1/IM - Manager の動作する言語コードで記述してください。

このファイルの最大サイズは、17 メガバイト (17,825,792 バイト) です。

重大度変更定義ファイルのパラメーターには、次の 2 種類があります。

- 重大度変更定義ファイルバージョン  
重大度変更定義ファイルのフォーマットのバージョンを定義します。
- 重大度変更定義パラメーター  
重大度を変更する JP1 イベントの条件と変更後の重大度を定義します。

### 定義の反映時期

イベントの重大度変更機能が有効で、次のどちらかが成立する場合に有効になります。

- JP1/IM・Manager を起動した場合
- jco\_spmd\_reload コマンドを実行した場合

### 記述内容 (重大度変更定義ファイルバージョン)

#### DESC\_VERSION

DESC\_VERSION には、重大度変更定義ファイルの形式を決定するファイルバージョンをバージョン情報として定義します。09-00 の重大度変更定義ファイルのファイルバージョンは、1 です。DESC\_VERSION の指定を省略した場合、ファイルバージョンを 1 と見なして処理します。

DESC\_VERSION は、定義ファイルの先頭行 (空行、コメント行を除いた行のうちファイルのはじめに記述された行) に記載します。先頭行にファイルバージョンがなかった場合は、ファイルバージョンを 1 と見なして処理します。

### 記述内容 (重大度変更定義パラメーター)

#### def ~ end-def (定義ブロック)

重大度変更定義の開始と終了のパラメーターです。def ~ end-def ブロックは省略でき、この場合「すべての JP1 イベントの重大度を変更しない」と解釈します。

def 以降には 重大度変更定義の定義名を記述します。「def 定義 1 定義 2 」と指定した場合、「 定義 1 定義 2 」が定義名となります。

定義名は、重大度定義ファイル内でユニークになるように 1 ~ 50 バイトの文字列で指定します。指定できる文字は、制御文字 (0x00 ~ 0x1F, 0x7F ~ 0x9F) 以外の文字列です。

#### cnd ~ end-cnd (イベント条件ブロック)

重大度を変更する JP1 イベントのイベント条件を指定する、ブロックの開始と終了のパラメーターです。イベント条件ブロックは、定義ブロック内に必ず一つ指定する必要があります。省略はできません。受信した JP1 イベントが、複数のイベント条件に一致する場合、重大度変更定義ファイルの先頭に近い定義ブロックが優先されます。cnd および end-cnd パラメーターの前後のタブやスペースは、無視されます。

## 2. 定義ファイル

重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)

### イベント条件

重大度を変更する JP1 イベントの条件を指定します。イベント条件ブロックには、1 ~ 256 件のイベント条件を指定できます。イベント条件とイベント条件は、AND 条件となります。イベント条件は、次の形式で指定します。

属性名 比較キーワード オペランド [ オペランド]...

なお、半角スペースまたはタブだけで構成された行は、無視して処理を続行します。

### 属性名

属性名には、比較したい属性の名称を記述します。基本属性を指定する場合は、名称の前に「B.」を付けます。拡張属性（共通情報）、拡張属性（固有情報）を指定する場合は、名称の前に「E.」を付けます。英小文字と英大文字を区別します。

指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランドを次に示します。

表 2-44 指定できる属性名と比較キーワードの組み合わせおよびオペランド

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
1	イベント ID	B.ID	<ul style="list-style-type: none"><li>• と一致する</li><li>• と一致しない</li></ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。16 進数形式で指定する。大文字・小文字は区別しない。指定できる範囲は 0 ~ 7FFFFFFF である。
2	登録要因	B.REASON	<ul style="list-style-type: none"><li>• と一致する</li><li>• と一致しない</li></ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。
3	発行元プロセス ID	B.PROCESSID	<ul style="list-style-type: none"><li>• と一致する</li><li>• と一致しない</li></ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。
4	発行元ユーザー ID	B.USERID	<ul style="list-style-type: none"><li>• と一致する</li><li>• と一致しない</li></ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。
5	発行元グループ ID	B.GROUPID	<ul style="list-style-type: none"><li>• と一致する</li><li>• と一致しない</li></ul>	複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
6	発行元ユーザー名	B.USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
7	発行元グループ名	B.GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
8	発行元イベントサーバ名 (登録ホスト名) <sup>1</sup>	B.SOURCESERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
9	送信先イベントサーバ名 <sup>1</sup>	B.DESTSERVER	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
10	メッセージ	B.MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
11	重大度	E.SEVERITY	と一致する	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。 "Emergency", "Alert", "Critical", "Error", "Warning", "Notice", "Information", "Debug" の どれかを指定できる。
12	ユーザー名	E.USER_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
13	プロダクト名	E.PRODUCT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。

## 2. 定義ファイル

重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
14	オブジェクトタイプ	E.OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
15	オブジェクト名	E.OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
16	登録名タイプ	E.ROOT_OBJECT_TYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
17	登録名	E.ROOT_OBJECT_NAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
18	オブジェクト ID	E.OBJECT_ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
19	事象種別	E.OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
20	終了コード	E.RESULT_CODE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。
21	発生元ホスト名 <sup>1</sup>	E.JP1_SOURCE_HOST	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。

項番	項目	属性名	比較 キーワード	オペランド
22	固有の拡張 属性 <sup>3</sup>	E.xxxxxxx	<ul style="list-style-type: none"> <li>• から始まる</li> <li>• と一致する</li> <li>• と一致しない</li> <li>• を含む</li> <li>• を含まない</li> <li>• 正規表現</li> </ul>	属性名には、先頭が英大文字で英大文字、数字、およびアンダーバー ( _ ) から構成される 32 バイトまでの名称を設定できる。複数指定できる。ただし、正規表現を指定した場合は、複数指定できない。複数指定では最大 100 件指定できる。

注 1

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、比較キーワードが、「と一致する」「と一致しない」のとき、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、および [ と一致する ] [ と一致しない ] 以外を選択した場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
jcoimdef コマンドの -ignorecasehost オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

注 2

各 JP1 製品固有の拡張属性も使用できます。例えば、JP1/AJS のジョブの実行ホストは、E.C0 です。製品固有の拡張属性についての詳細は、JP1 イベントを発行する各製品のマニュアルを参照してください。

比較キーワード

比較キーワードには、「BEGIN ( から始まる )」、「IN ( と一致する )」、「NOTIN ( と一致しない )」、「SUBSTR ( を含む )」、「NOTSUBSTR ( を含まない )」、「REGEX ( 正規表現 )」のどれか一つを指定できます。英小文字と英大文字を区別します。

オペランド

比較キーワードで属性値と比較する値を文字列で指定します。英小文字と英大文字を区別します。

オペランドを複数指定する場合は、一つ以上の連続した半角スペースまたはタブをオペランドとオペランドの間に挿入して区切ります。オペランドとオペランドは、OR 条件となります。ただし、正規表現を指定している場合は、複数指定できません。

オペランドに、半角スペース、タブ、改行コード ( CR , LF ) および % を指定したい場合、次のように記述します。

項番	指定したい値	指定方法
1	タブ ( 0x09 )	%09
2	半角スペース ( 0x20 )	%20
3	% ( 0x25 )	%25
4	改行コード LF ( 0x0a )	%0a

## 2. 定義ファイル

重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)

項番	指定したい値	指定方法
5	改行コード CR (0x0d)	%0d

定義フォーマットの上限チェックの場合、%20、%25 は 1 文字として扱います。  
複数選択した場合の定義例「ID が 100 と 200 に一致する」を示します。

```
B.ID IN 100 200
```

(凡例) : 半角スペース (0x20)

オペランドは、イベント条件 1 件当たり 4,096 バイトまで、イベント条件ブロック 1 件当たり 4,096 バイト (イベント条件ブロックに記述したオペランドの合計バイト数) まで指定できます。

### sev

変更後の重大度を記述するパラメーターです。

sev パラメーターは、定義ブロック内に必ず一つ指定する必要があります。省略はできません。

sev パラメーターに指定できる値は、"Emergency" (緊急), "Alert" (警戒), "Critical" (致命的), "Error" (エラー), "Warning" (警告), "Notice" (通知), "Information" (情報), "Debug" (デバッグ) のどれかです。

### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

### 定義例

イベント ID が 100 または 200 に一致、かつ重大度が Warning で、かつ登録ホストが hostA, hostB, hostC に一致する場合に、重大度を Emergency に変更する例を次に示します。

```
DESC VERSION=1
def 重大度変更1
  cnd
    B.ID IN 100 200
    E.SEVERITY IN Warning
    B.SOURCESERVER IN hostA hostB hostC
  end-cnd
  sev Emergency
end-def
```

# 通信環境定義ファイル (view.conf.update)

## 形式

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]  
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:16進数値  
"COM_RMI_TIMEOUT"=dword:16進数値
```

## ファイル

view.conf.update (通信環境定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥default¥

## 説明

JP1/IM - View と JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) 間の通信でのタイムアウト時間を定義するファイルです。

ネットワークに低速の回線が使われていたり、ビューアーの負荷が高かったりするとき、ビューアーの通信処理でタイムアウトによる通信エラーが発生することがあります。このような場合に、通信のタイムアウト時間を変更することで通信エラーの発生を防げます。タイムアウト時間を設定する場合は、接続する JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) でも同様の設定が必要です。

なお、この定義ファイルの値を変更する場合は、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) 用の通信環境定義ファイルの値も変更する必要があります。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]
```

JP1/IM - View 環境設定のキー名称です。

JP1/IM - View の場合、このパラメーターは固定です。

```
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:16 進数値
```

受信データの到着待ち時間 (ソケットタイムアウト値) を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。デフォルト値は dword:000009C4 (2,500 ミリ秒) です。

低速回線や、イベントトラフィックが高い環境の場合は長めに設定します。

## 2. 定義ファイル

通信環境定義ファイル ( view.conf.update )

"COM\_RMI\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

次に示す操作または設定時に発生する通信処理のタイムアウト時間 ( サーバ処理タイムアウト値 ) を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。

- ログイン
- ログアウト
- [ イベントコンソール ] 画面の手動および自動更新
- イベントの対処状況の変更
- 重要イベントの削除
- イベント検索
- ユーザー環境設定
- 重要イベント設定
- 自動アクション設定
- フィルター設定
- コマンド実行操作
- 機能状態通知復帰の操作
- 応答待ちイベントに対する応答・滞留解除

指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0000EA60 ( 60,000 ミリ秒 ) です。

### 記述例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]
"COM_SO_TIMEOUT"=dword:000009C4
"COM_RMI_TIMEOUT"=dword:0000EA60
```

# 通信環境定義ファイル ( tree\_view.conf.update )

---

## 形式

---

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]
"SOV_LOGIN_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_GETTREE_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_SETTREE_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_MAKETREE_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_GETMAP_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_SETMAP_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_GETPROFILE_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_SETPROFILE_TIMEOUT"=dword:16進数値
"SOV_DEF_TIMEOUT"=dword:16進数値
```

---

## ファイル

tree\_view.conf.update ( 通信環境定義ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥default¥

## 説明

JP1/IM・View と JP1/IM・Manager ( JP1/IM・Central Scope ) 間の通信でのタイムアウト時間を定義するファイルです。

ネットワークに低速の回線が使われていたり、ビューアーの負荷が高かったりするときに、ビューアーの通信処理でタイムアウトによる通信エラーが発生することがあります。このような場合に、通信のタイムアウト時間を変更することで通信エラーの発生を防げます。

必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM・View を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]
```

JP1/IM・View 環境設定のキー名称です。

JP1/IM・View の場合、このパラメーターは固定です。

```
"SOV_LOGIN_TIMEOUT"=dword:16 進数値
```

ログイン・ログアウト処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 )、

## 2. 定義ファイル

通信環境定義ファイル ( tree\_view.conf.update )

デフォルト値は dword:0002BF20 ( 180,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_GETTREE\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視オブジェクトの状態取得, 監視ツリーの更新, [ 監視ツリー ( 編集中 ) ] 画面の表示処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0036EE80 ( 3,600,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_SETTREE\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視オブジェクトの状態変更, 監視対象設定, ツリー更新処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0036EE80 ( 3,600,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_MAKETREE\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視ツリーの自動生成処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0036EE80 ( 3,600,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_GETMAP\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

ビジュアル監視一覧の表示, ビジュアル監視画面の表示処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0002BF20 ( 180,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_SETMAP\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

ビジュアル監視の作成, 削除, コピー, ビジュアル監視更新処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0002BF20 ( 180,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_GETPROFILE\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視ツリー画面用システム環境設定, ユーザー環境設定の取得処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0002BF20 ( 180,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_SETPROFILE\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視ツリー画面用システム環境設定, ユーザー環境設定の反映処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:0002BF20 ( 180,000 ミリ秒 ) です。

"SOV\_DEF\_TIMEOUT"=dword:16 進数値

監視オブジェクトのプロパティ取得, 監視オブジェクトのプロパティ設定, ログインユーザー一覧取得, 自動生成構成選択の取得処理のサーバ応答待ち時間を 16 進数で指定します。単位はミリ秒です。指定できる値は 0000EA60 ~ 0036EE80 ( 60,000 ~ 3,600,000 ミリ秒 ), デフォルト値は dword:001B7740 ( 1,800,000 ミリ秒 ) です。

## 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CONSOLEVIEW]
"SOV_LOGIN_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_GETTREE_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_SETTREE_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_MAKETREE_TIMEOUT"=dword:0036EE80
"SOV_GETMAP_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_SETMAP_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_GETPROFILE_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_SETPROFILE_TIMEOUT"=dword:0002BF20
"SOV_DEF_TIMEOUT"=dword:0002BF20
```

## 2. 定義ファイル

IM-View 設定ファイル ( tuning.conf )

# IM-View 設定ファイル ( tuning.conf )

---

## 形式

---

```
LOGIN_HISTORY_MAX=接続先ホスト入力履歴数
MENU_AUTO_START={ON | OFF}
ACTIONLIST_AUTO_START={ON | OFF}
WWW_BROWSER_PATH=起動ブラウザのパス
CLIPBOARD_OUTPUT={ON | OFF}
```

---

## ファイル

tuning.conf ( IM-View 設定ファイル )

tuning.conf.model ( IM-View 設定ファイルのモデルファイル )

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥

## 説明

JP1/IM - View の動作を定義するファイルです。ログイン画面での接続先ホスト入力履歴数、イベントコンソール画面表示時の動作、およびクリップボードへのコピー可否を設定します。

tuning.conf ファイルの各項目は、「パラメーター名 = 値」という形式で記述します。定義ファイル中の、次の行は無視されます。

- 空白文字だけの行
- 空白文字を除いた先頭の文字が「#」の行 ( コメント行 )

## 記述内容

LOGIN\_HISTORY\_MAX= 接続先ホスト入力履歴数

ログイン画面の [ 接続ホスト名 ] リストボックスに表示する入力履歴の数を指定します。

指定できる値は、0 ~ 20 です。0 を指定した場合は、入力履歴を表示しません。このパラメーターを指定しなかった場合は、「5」を仮定します。デフォルトは、「5」です。

MENU\_AUTO\_START={ON | OFF}

イベントコンソール画面を表示したときに統合機能メニューを起動するかどうかを指定します。「ON」を指定すると、イベントコンソール画面表示時に統合機能メニュー画面を起動します。「OFF」を指定すると、イベントコンソール画面表示時に統合機能メニュー画面を起動しません。このパラメーターを指定しなかった場合は、「OFF」を仮定します。デフォルトは、「OFF」です。

ACTIONLIST\_AUTO\_START={ON | OFF}

イベントコンソール画面を表示したときに [ アクション結果一覧 ] 画面を表示するかどうかを指定します。「ON」を指定すると、イベントコンソール画面表示時に [ アクション結果一覧 ] 画面を起動します。「OFF」を指定すると、イベントコンソール画面表示時に [ アクション結果一覧 ] 画面を起動しません。このパラメーターを指定しなかった場合は、「OFF」を仮定します。デフォルトは、「OFF」です。

WWW\_BROWSER\_PATH= 起動ブラウザのパス

統合機能メニューおよびモニター画面呼び出しで使用する WWW ブラウザーの起動パスを指定します。なお、このパラメーターはデフォルトでは記述されていません。指定する場合は、パラメーターを定義ファイルに追加する必要があります。パスの指定ではパスに含まれる「¥」を「¥¥」と記述します。起動パス名は「」で囲まないで記述します。指定する WWW ブラウザーが、統合機能メニューおよびモニター画面呼び出しで起動するアプリケーションが前提としている WWW ブラウザーかどうかを確認しておいてください。このパラメーターを指定しなかった場合は、そのホストでファイルタイプ「.html」に関連づけられている WWW ブラウザーが使用されます。ファイルタイプ「.html」に関連づけられている WWW ブラウザー以外の WWW ブラウザー（バージョンが異なるものも含む）を使用したい場合に、このパラメーターを指定します。

CLIPBOARD\_OUTPUT={ON | OFF}

JP1 イベント情報、アクション結果、コマンド実行結果をクリップボードにコピーする機能を有効にするかどうかを指定します。「ON」を指定すると、クリップボードへのコピー機能が有効になります。JP1/IM-View の画面でコピーしたい情報を選択し [ Ctrl ] + [ C ] キーを押すと、選択している情報が CSV 形式でクリップボードにコピーされます。また、[ イベントコンソール ] 画面の [ 編集 ] メニューに [ コピー ] が表示されます。「OFF」を指定すると、クリップボードへのコピー機能が無効になります。このパラメーターを指定しなかった場合は、「ON」を仮定します。

## 定義例

```
#
*****
*****
# *** JP1/Integrated Management - View Tuning definition file
***
#
*****
*****

# Input history maximum number in connected hostname input field on
log in screen
LOGIN_HISTORY_MAX=5
# Tool Launcher is automatically started at log in whether (ON)
(OFF).
MENU_AUTO_START=OFF
# List of Action Result is automatically started at log in whether
```

## 2. 定義ファイル

IM-View 設定ファイル ( tuning.conf )

(ON) (OFF) .

ACTIONLIST\_AUTO\_START=OFFCLIPBOARD\_OUTPUT=ON

# モニター画面呼び出し定義ファイル

---

## 形式

---

```
@encode 文字コード  
DESC_VERSION=0300  
キー定義  
サブキー定義  
関連づけ定義  
呼び出しインターフェース定義
```

---

## ファイル

会社名\_製品名\_mon\_ja.conf

会社名\_シリーズ名\_製品名\_mon\_ja.conf

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥monitor¥

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥monitor¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/monitor/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/monitor/

## 説明

モニター画面呼び出し定義ファイルは、[ イベントコンソール ] 画面からイベント発行元などのモニター画面を呼び出すための定義ファイルです。この定義ファイルは、イベント ID や属性などの情報からキーを作り、イベント属性からコマンドラインパラメーターを作成するために使用します。

モニター画面呼び出し定義ファイルは、Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUCJIS コードで定義する必要があります。また、この定義ファイルの「会社名」に「hitachi」を指定できません。

なお、JP1/IM には、モニター画面呼び出し定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcomonitorfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「1. コマンド」を参照してください。

## 定義の反映時期

JP1/IM・Manager を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

### @encode

モニター画面呼び出し定義ファイルで使用する文字コードを指定します。この項目は省略できます。

指定できる文字コードは、使用する OS の種類によって次のように異なります。

表 2-45 指定できる文字コード

文字コード	OS の種類		
	Windows Server 2003 , Windows Server 2008	Solaris , AIX , HP-UX ( IPF )	Linux
C			
EUCJIS			×
SJIS			×
UTF-8	×	×	

### (凡例)

：指定できる

×：指定できない

次の場合、エラーが出力されます。

- C , EUCJIS , SJIS および UTF-8 以外の文字コードを指定した場合
- @encode を定義ファイルの先頭以外に記述した場合
- @encode のあとに文字コードを指定しなかった場合

DESC\_VERSION=0300

テーブルバージョンレコードです。

### キー定義

モニター画面の呼び出し時にイベント属性中で固定的にキーとなる項目を定義します。キーとなる項目は次の三つです。

- イベント ID
- プロダクト名
- バージョン

それぞれの属性の組み合わせによって、動作やサブキーへのリンクを定義します。

### 形式

```
DEF_KEY PRODUCT_NAME="プロダクト名"  
EVENT_ID=イベントID
```

```
[VERSION=バージョン | ALL]  
{ SUBKEY=サブキー  
  | INTERFACE=インターフェース名 }
```

#### 引数

- PRODUCT\_NAME=" プロダクト名 "  
/HITACHI/JP1/AJS などの製品名を表す文字列です。拡張属性「PRODUCT\_NAME」に設定する値と同一のものを指定します。
- EVENT\_ID= イベント ID  
8けたの16進数値文字列で、IDの基本部だけを指定します。拡張部は無視されます。JP1/SES形式のイベントに設定されている拡張部を含める場合は、サブキーを使用してください。
- VERSION= バージョン  
ここで指定したバージョンは、JP1 イベントの拡張属性「ACTION\_VERSION」と比較されます。バージョンとして使用できる文字は、半角の数字(0~9)、英字(A~Z)、「/」、「-」です。英字の大文字と小文字は区別されません。  
一つのバージョンは8バイト以内で指定します。バージョンの範囲を指定する場合は、開始バージョンと終了バージョンの両方を「-」で区切って指定します。その場合、区切りとなる「-」の前後に一つ以上の空白が必要です。ほかのキー定義で指定したバージョンと重複するバージョンは指定できません。
- SUBKEY= サブキー  
サブキーの名称を記述します。このパラメーターとINTERFACEパラメーターは、どちらかだけを指定できます。
- INTERFACE= インターフェース名  
インターフェースの名称を記述します。定義するキーに対して、モニター画面起動時のインターフェースを一つだけ指定します。このパラメーターとSUBKEYパラメーターは、どちらかだけを指定できます。

#### 注意事項

- バージョンの比較は昇順で実行されます。開始バージョンよりも終了バージョンの方が小さい場合は、エラーは発行されませんが、そのキー定義自体が無視されます。
- 「PRODUCT\_NAME」に指定する値は、JP1 イベントの拡張属性「PRODUCT\_NAME」に指定する値と同じにする必要があります。

#### サブキー定義

サブキー定義は、モニター画面の呼び出し時に固定キーからリンクされ、イベント属性をキーとして登録します。

#### 形式

```
DEF_SUBKEY
```

2. 定義ファイル  
 モニター画面呼び出し定義ファイル

NAME=サブキー名  
 KEYS=属性名1 [, 属性名2[, 属性名3[, 属性名4]]]

引数

- NAME= サブキー名  
 サブキーの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない16バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。
- KEYS= 属性名 1 [, 属性名 2[, 属性名 3[, 属性名 4]]  
 属性名の指定形式を次に示します。

表 2-46 属性名の指定形式

指定形式	値の形式	意味および内容
B.ARRIVEDTIME	13けたの10進数文字列	到着時刻 (UTC1970年1月1日00:00:00からのミリ秒数)
B.DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名
B.GROUPNAME	文字列	発行元グループ名
B.IDBASE	8けたの16進数文字列	イベントIDの基本部
B.IDEXT	8けたの16進数文字列	イベントIDの拡張部
B.PROCESSID	10進数文字列	発行元プロセスID
B.SEQNO	10進数文字列	DB内通し番号
B.SOURCESEQNO	10進数文字列	発行元別通し番号
B.SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名
B.TIME	13けたの10進数文字列	登録時刻 (UTC1970年1月1日00:00:00からのミリ秒数)
B.USERNAME	文字列	発行元ユーザー名
B.MESSAGE	文字列	メッセージ
E.JP1_SOURCEHOST	文字列	発生元ホスト名
E.拡張属性名	文字列	拡張属性

注

発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER), 発生元ホスト名 (E.JP1\_SOURCEHOST) には業務グループ名を使用できません。業務グループ名を指定した場合、ホスト名として扱われます。

関連づけ定義

サブキーの値とインターフェースの関連づけを定義します。

形式

DEF\_IF\_RELATION  
 SUBKEY\_NAME=サブキー名

```
{ VALUE1=" 属性値1" [[ VALUE2=" 属性値2"...]  
  | KEY_DEFAULT }  
IF_NAME=インターフェース名
```

#### 引数

- SUBKEY\_NAME= サブキー名  
サブキーの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない16バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。
- VALUE<sub>n</sub>= " 属性値 "  
<sub>n</sub> は、サブキー定義の KEYS パラメーターで指定した属性の並び順に 1 ~ 4 の数です。キーの値は完全に一致させる必要があります。値に正規表現などは使用できません。指定できる属性の一覧と指定形式については、サブキー定義の説明を参照してください。  
VALUE1, VALUE2, ...のすべての属性が完全に一致しないJP1 イベントは、「KEY\_DEFAULT」で指定したインターフェースとなります。
- KEY\_DEFAULT  
VALUE1, VALUE2, ...に指定した値と一致しないケースをインターフェースと関連づける際に、VALUE1, VALUE2, ...の代わりに指定します。
- IF\_NAME= インターフェース名  
サブキー値が一致した場合に呼び出すインターフェース名称を指定します。インターフェース名称は、空白や制御文字を含まない16バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

#### 呼び出しインターフェース定義

モニター画面呼び出し時のインターフェースを定義します。

#### 形式

```
DEF_MTR_CALL  
  NAME=インターフェース名  
  EXEC_ID=アプリケーション実行定義識別子  
  PATH=" コマンド引数 "  
  [PARAM= 属性名1 [,属性名2...]]
```

#### 引数

- NAME= インターフェース名  
インターフェースの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない16バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。
- EXEC\_ID= アプリケーション実行定義識別子  
アプリケーション実行定義識別子を指定します。識別子には、ビューアー上のアプリケーション実行定義ファイルで定義したIDを指定します。  
なお、「jco\_」で始まる文字列はアプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。
- PATH=" コマンド引数 "

## 2. 定義ファイル モニター画面呼び出し定義ファイル

EXEC\_ID で指定した実行形式ファイルに渡すコマンド引数を指定します。  
EXEC\_ID で指定した実行形式ファイル名とここで指定した引数によってコマンドラインが構成されます。例えば、次のようなコマンドラインがあるとします。

```
"app.exe arg1 arg2"
```

コマンド引数には、この「arg1」「arg2」の部分を指定します。

PATH には、ビューアーの動作環境属性およびイベント属性値で置換できる予約キーワードを指定できます。置き換えキーワードを次に示します。

表 2-47 置き換えキーワード

キーワード	置換する語句
%JCO_JP1USER%	セントラルコンソールのログインユーザー名
%JCO_INSTALLPATH%	ビューアーのインストールフォルダ名
%IM_EVC_PARAMETER_n%	PARAM で指定したイベント属性値に置き換える (n は 1 以上の整数)
%IM_EVC_LANGUAGE%	言語環境に応じて「Japanese」または「English」に置き換える

- PARAM= 属性名 1 [, 属性名 2...]

イベント属性値で置き換える場合のイベント属性を属性名で指定します。属性名には、指定した順に 1 から順序番号が付けられます。順序番号は、置き換えキーワードの「n」に当たります。

複数のイベント属性を指定する場合は、「,」で区切って指定します。例を示します。

```
B.EXTID, E.A0
```

指定できるイベント属性は、基本属性の一部と拡張属性です。指定できる属性と指定形式については、サブキーの説明を参照してください。

### 定義例

Windows のイベントログをトラップした JP1 イベントからモニター画面を呼ぶ場合の例を示します。

#### 注

この例では、説明のために行頭に行番号を入れて示しています。

```
1 @encode UTF-8
2 DESC_VERSION=0300
3 #/HITACHI/JP1/NTEVENT_LOGTRAP 0600 TO
4 #動作バージョン
5 # 0600 FROM NT版 JP1/NTEVENT_LOGTRAP 0600 TO
6 DEF_KEY PRODUCT_NAME="/HITACHI/JP1/NTEVENT_LOGTRAP/NETMDM" EVENT_ID=00003A71 SUBKEY=SAMPLE
7 DEF_SUBKEY NAME=SAMPLE KEYS=E. A5
8 DEF_IF_RELATION SUBKEY_NAME=SAMPLE VALUE="8010" IF_NAME=NETM_DM
9 DEF_MTR_CALL NAME=NETM_DM EXEC_ID=HITACHI_NETM_DM PATH="netndm_argument"
```

1 行目

定義ファイルの文字コードで、文字コードが「UTF-8」であることを示します。

2 行目

「DESC\_VERSION=0300」は、このファイルの記述形式のバージョンが「0300」であることを示します。

3 ~ 5 行目

コメント行です。動作バージョンの適用範囲を含めることをお勧めします。

6 行目

キー定義レコードで、プロダクト名が「/HITACHI/JP1/NTEVENT\_LOGTRAP」、イベント ID が「00003A71」の場合に、サブキー「SAMPLE」を使用して、呼び出すモニター画面を決定することを意味します。

7 行目

サブキー定義レコードで、サブキー名を「SAMPLE」として、拡張属性「PRODUCT\_NAME」と、拡張属性「A5」(Windows のイベントログの ID) を使用することを宣言します。

8 行目

関連づけ定義レコードで、サブキーに設定した「E.A5」の値が「8010」と一致した場合、インターフェース「NETM\_DM」を使用してモニター画面を表示することを意味します。

9 行目

呼び出しインターフェース定義レコードです。インターフェース名称を「NETM\_DM」とし、アプリケーション実行定義識別子が「HITACHI\_NETM\_DM」で定義されているコマンドに引数として「netmdm\_argument」を渡して実行することを意味します。

## 2. 定義ファイル

WWW ページ呼び出し定義ファイル ( hitachi\_jp1\_ 製品名 .html )

# WWW ページ呼び出し定義ファイル ( hitachi\_jp1\_ 製品名 .html )

---

## 形式

---

```
<HTML>  
<HEAD>  
<META HTTP-EQUIV="refresh" CONTENT="0;URL=他製品のWWWページのURL">  
</HEAD>  
</HTML>
```

---

## ファイル

hitachi\_jp1\_ 製品名 .html ( WWW ページ呼び出し定義ファイル )

hitachi\_jp1\_ 製品名 .html.model ( WWW ページ呼び出し定義ファイルのモデル  
ファイル )

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥webdata¥ja¥

## 説明

統合機能メニューから他製品の WWW ページを呼び出すときに使用するファイルです。

統合機能メニューから他製品の WWW ページを呼び出す場合、いったん WWW ページ  
呼び出し定義ファイルを参照し、このファイルで定義されている URL にジャンプするよ  
うになっています。ユーザーは、他製品の WWW ページを統合機能メニューから呼び出  
す場合、自分の環境に合わせてこのファイルに記述された URL を編集する必要があります。

なお、URL の編集をせずに統合機能メニューから WWW ページを表示しようとすると、  
設定方法を記述したページが表示されます。

## WWW ページ呼び出し定義ファイル一覧

JP1/IM では、次の表に示す定義ファイルを提供しています。連携製品の対応バー  
ジョンの詳細については、各連携製品のマニュアルをご確認ください。

表 2-48 統合機能メニューの名称と対応する WWW ページ呼び出し定義ファイル一覧

統合機能メニューのメニュー項目			WWW ページ呼び出し定義ファイル名	製品名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名				
ネットワーク管理	-	ネットワークノードマネージャ	hitachi_jp1_cm2.html	JP1/Cm2/NNM	バージョン 8 以前	制限なし
				HP NNM	バージョン 7.5 以前	
資産・配布管理	-	統合資産管理	hitachi_jp1_assetinfomationmanager.html	JP1/NETM/Asset Information Manager	制限なし	Windows Vista および Windows 7 以外の Windows
		資産・配布管理	hitachi_jp1_netmdm.html	JP1/NETM/DM Manager	バージョン 7 以前	Windows Vista 以外の OS
ストレージ管理	ストレージエリア管理	ストレージシステム稼働管理	hitachi_jp1_hicommand_tuning_manager.html	JP1/HiCommand and Tuning Manager	バージョン 3 以降	Windows , Solaris (SPARC) , Linux
		ストレージハードウェア管理	hitachi_jp1_hicommand_device_manager.html	JP1/HiCommand and Device Manager	バージョン 3 以降	
		ストレージリソース割当管理	hitachi_jp1_hicommand_provisioning_manager.html	JP1/HiCommand and Provisioning Manager	バージョン 03-50 ~ 06-40	

## 2. 定義ファイル

WWW ページ呼び出し定義ファイル ( hitachi\_jp1\_ 製品名 .html )

統合機能メニューのメニュー項目			WWW ページ呼び出し定義ファイル名	製品名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名				
		ストレージレプリケーション管理	hitachi_jp1_hicommand_replication_manager.html	Hitachi Replication Manager	バージョン 03-50 以降 (バージョン 5 より前の場合は, Replication Monitor )	
		階層ストレージリソース管理	hitachi_jp1_hicommand_tiered_storage_manager.html	JP1/HiComm and Tiered Storage Manager	バージョン 4 以降	

2. 定義ファイル  
 WWW ページ呼び出し定義ファイル ( hitachi\_jp1\_ 製品名 .html )

統合機能メニューのメニュー項目			WWW ページ呼び出し定義ファイル名	製品名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名				
		グローバル入出力パス稼働管理	hitachi_jp1_hicommandGLAM.html	JP1/HiCommand Global Link Availability Manager	バージョン 05-00 ~ 06-60	Windows Server 2003 R2 ( SP2 ) Windows XP Professional ( SP2 または SP3 ) Windows Vista ( SP なし , SP1 , SP2 ) Windows Server 2008 ( SP なし , SP2 ) , Windows Server 2008 (x64) ( SP なし , SP2 ) Windows Server 2008 R2 (x64) ( SP なし , SP1 ) Windows 7 ( SP なし )
サーバ管理	-	Web コンソール	hitachi_jp1_systemmanager.html	JP1/Server Conductor	制限なし	制限なし

( 凡例 )

- : なし

注 Windows 7 , Windows Server 2008 , および Windows Vista 版の JP1/IM - View では , JP1/NETM/DM Manager の WWW ページ版との連携はできません。

## 2. 定義ファイル

WWW ページ呼び出し定義ファイル ( hitachi\_jp1\_ 製品名 .html )

これらの HTML ファイルに記述された URL を各製品の WWW ページの URL に変更することで、[ 統合機能メニュー ] 画面からほかの製品の WWW ページを起動できるようにします。

### 定義の反映時期

JP1/IM - View を再起動すると、有効になります。

### 記述内容

```
<META HTTP-EQUIV="refresh" CONTENT="0;URL= 他製品の WWW ページの URL">
```

他製品の WWW ページの URL を指定します。

なお、URL の編集をせずに統合機能メニューから他製品の WWW ページを表示しようとする、設定方法を記述したページ ( View パス ¥conf¥webdata¥ja¥webconfig\_hitachi\_jp1\_ 製品名 .html ) が表示されません。このページを参考にして URL を指定してください。

#### 注

- このページに記述された URL は標準的な値です。製品によってはユーザーが URL をカスタマイズできるものがあるため、他製品側で使用している URL を事前にご確認ください。  
また、他製品のバージョンアップなどによって URL が変更になる場合があります。URL を設定しても画面が起動されない場合には、各製品のマニュアルなどをご確認ください。
- 「ホスト名」には、WWW ページに対応する製品をインストールしたマシンのホスト名または IP アドレスを指定してください。

### 定義例

```
<HTML>  
<HEAD>  
<META HTTP-EQUIV="refresh" CONTENT="0;URL=http://hostA/OvCgi/  
ovlaunch.exe">  
</HEAD>  
</HTML>
```

# 統合機能メニュー定義ファイル

---

## 形式

---

```
@file type=" 定義ファイルタイプ ", version=" 定義フォーマットバージョン ";  
@define-block type="function-tree-def";  
フォルダ定義  
機能定義  
@define-block-end;
```

---

## ファイル

!JP1\_CC\_FTREE0.conf.model (統合機能メニュー定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥function¥ja¥

## 説明

統合機能メニュー定義ファイルは、JP1/IM - View の [ 統合機能メニュー ] 画面に表示するツリー構造や表示項目などを定義するためのファイルです。

なお、JP1/IM には、統合機能メニュー定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcofuncfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「1. コマンド」を参照してください。

## 定義の反映時期

JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

## 記述内容

```
@file="function-definition"
```

この定義ファイルが統合機能メニュー定義ファイルであることを宣言します。このステートメントは必須です。

このステートメントは、ファイル内の先頭行に記述しなければなりません。

## 機能ツリーメニュー定義ブロック

[ 統合機能メニュー ] 画面に表示するフォルダまたは機能を作成し、機能が選択されたときに実行するアプリケーションとの関連をアプリケーション実行定義識別子で定義します。

なお、[ 統合機能メニュー ] 画面に表示される機能の順序はファイル名順になります。一つのファイル内では、定義ブロック順になります。メニューの表示順序を変更したい場合は、これらの順序を変更してください。

このブロックに記述できるステートメントは、フォルダを定義する場合と機能を定義する場合で異なります。

- フォルダを定義する場合

## 2. 定義ファイル 統合機能メニュー定義ファイル

- id ステートメント
- parent\_id ステートメント
- name ステートメント
  
- 機能を定義する場合
- id ステートメント
- parent\_id ステートメント
- name ステートメント
- execute\_id ステートメント
- icon ステートメント
- arguments ステートメント

これ以外のステートメントが記述された場合は、エラー出力され、該当するステートメントだけが無視されます。

次に、ステートメントについて説明します。

id=" メニュー識別子 ";

機能ツリーメニュー定義ブロックのメニュー識別子を定義します。このステートメントは必須です。このステートメントはブロック内に 1 回だけ記述できます。

同一の「id」を持つブロックが解析対象のファイル内に複数個存在した場合、次の順に優先順位が決定され、最優先のブロックが有効になります。

1. ファイル名を昇順でソートしてあとの方のブロック
2. ファイル内の位置があとの方のブロック

それ以外のブロックは無効になります。

メニュー識別子には、32 バイト以内の半角英数字を指定できます。この文字列は、統合機能メニュー定義ファイル内でユニークでなければなりません。ユニーク性を保持するために、次の命名規則に従ってください。

- フォルダを定義する場合  
会社名 [ 製品名 ]
- 機能を定義する場合  
会社名 \_ 製品名 [ 機能名 ( または画面名 ) ]

適切なフォルダ名称がすでに存在している場合は、フォルダを新規に追加しないで、定義ファイル格納場所のほかの定義ファイルに記述してあるフォルダを使用してください。

「root」は最上位のメニュー識別子として予約されているため、使用できません。

「jco\_」で始まる文字列はアプリケーション実行識別子として予約されているため、使用できません。

parent\_id=" 親メニュー識別子 ";

自メニュー識別子に対して、ツリー構造上の上位にある root またはメニュー識別子を指定します。階層は、root を含めて 3 階層まで指定できます。このス

テートメントは必須です。このステートメントはブロック内に 1 回だけ記述できます。

複数の親メニュー識別子を指定して複数の上位フォルダを持つことはできません。

name=" 表示名称 ";

[ 統合機能メニュー ] 画面に表示する名称を定義します。このステートメントは必須です。このステートメントはブロック内に 1 回だけ記述できます。

表示名称には、[ 統合機能メニュー ] 画面上に表示される文字列を指定します。文字列には日本語文字を含めることができます。内容のわかりやすい簡潔な表示名称を指定してください。

指定した値はメニュー上に表示されるため、名詞にすることをお勧めします。

例えば、「コマンド実行機能」などの文字列にします。

指定する値は、定義内でユニークでなくてもかまいませんが、操作性を考えてユニークにすることをお勧めします。

execute\_id=" アプリケーション実行定義識別子 ";

統合機能メニューに表示される機能をダブルクリックしたときに実行するアプリケーション実行定義識別子を指定します。このステートメントは機能を指定する場合は必須です。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ指定できます。

フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。

指定したアプリケーション実行定義識別子が存在しない場合、メニューは表示されません。

「jco\_」で始まる文字列はアプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。

icon=" 表示アイコンファイル名 ";

[ 統合機能メニュー ] 画面に表示するアイコンを指定します。アイコンは、GIF ファイルのファイル名称をフルパスで指定します。GIF ファイルの推奨サイズは 16 × 16 ピクセルです。それ以外のサイズはリサイズして表示します。

このステートメントは、機能を指定する場合にだけ使用できます。

フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。

このステートメントが省略された場合は、共通のアイコンが使用されます。

arguments=" コマンド引数 ";

execute\_id で指定したアプリケーションに対する引数を指定します。このステートメントは、機能を指定する場合にだけ使用できます。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ指定できます。

arguments には、ビューアーの動作環境属性で置き換える予約キーワードや、レジストリーの値から置き換える置換文字列も使用できます。置換文字列の詳細については、「アプリケーション実行定義ファイル」(2. 定義ファイル)の「置換文字列」を参照してください。

フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。

execute\_id で指定した実行形式ファイルへのフルパスと、置換文字列を置換し

## 2. 定義ファイル 統合機能メニュー定義ファイル

たあとの arguments は、1 個の空白を付加して連結されます。このときのコマンドラインの長さが 1,024 文字を超えた場合は、実行できません。

機能ツリーメニューブロックの定義例を次に示します。

```
@define-block type="function-tree-def";
id="hitachi_jp1";
parent_id="root";
name="サンプル管理";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="hitachi_jp1_seihin_sample";
parent_id="hitachi_jp1";
name="サンプル画面";
icon="sample.gif";
execute_id="hitachi_jp1_seihin_sample_execute";
arguments="node_map";
@define-block-end;
```

### 定義例

統合機能メニュー定義ファイルの定義例を次に示します。

```
#
# All Rights Reserved, Copyright (C) 2000, Hitachi, Ltd.
#
#file type="function-definition", version="0300";
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_folder_Network";
parent_id="root";
name="ネットワーク管理";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_JP1_Cm2";
parent_id="jco_folder_Network";
name="ネットワーク管理";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\menu\cm2_manager.gif";
execute_id="default_browser";
arguments="%JCO_INSTALL_PATH%\conf\webdata\ja\hitachi_jp1_cm2.html";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_folder_JobSystemOperation";
parent_id="root";
name="ジョブシステム運用";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_JP1_AJS2";
parent_id="jco_folder_JobSystemOperation";
name="ジョブシステム運用";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\menu\ajs2_manager.gif";
execute_id="jco_JP1_AJS2";
```

```
arguments="-t "%JCO_JP1TOKEN%";  
@define-block-end;  
#-----
```

## コマンドボタン定義ファイル (cmdbtn.conf)

---

### 形式

---

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン  
  
# コメント文  
def  
  [usr 対象ユーザー名 対象ユーザー名 ...]  
  
  btn [ コマンド ] ボタン名  
    [cmt [ コマンド ] ボタンのコメント]  
    [hst 実行ホスト名]  
    cmd コマンドライン  
    [var 環境変数ファイル名]  
    [qui true|false]  
  end-btn  
  :  
  :  
end-def  
:  
:
```

---

### ファイル

cmdbtn.conf

### 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホストのとき

Consoleパス¥conf¥console¥rmtcmd

論理ホストのとき

共有フォルダ¥jplcons¥conf¥console¥rmtcmd¥

UNIX の場合

物理ホストのとき

/etc/opt/jplcons/conf/console/rmtcmd/

論理ホストのとき

共有ディレクトリ/jplcons/conf/console/rmtcmd/

### ファイルの権限

Windows の場合

Administrators グループおよび SYSTEM ユーザー

UNIX の場合

root 権限を持つユーザー

## 説明

[ コマンド実行 ] 画面に表示する [ コマンド ] ボタンを定義するファイルです。コマンドボタン定義ファイルの最大ファイルサイズは、10 メガバイトです。なお、使用できるコマンドボタン定義が複数ある場合は、コマンドボタン定義ファイルの先頭に近い定義内容が表示されます。

## 定義の反映時期

[ コマンド ] ボタン定義の内容は、jcoimdef コマンドを実行して [ コマンド ] ボタンが有効な場合に、[ コマンド実行 ] 画面を表示するときに反映されます。

## 記述内容

DESC\_VERSION= ファイルバージョン

コマンドボタン定義ファイルの形式のバージョンを表しています。指定する値は 1 です。省略した場合や 1 以外の数値を指定した場合は、1 が仮定されます。

# コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

def ~ end-def (定義ブロック)

コマンドボタン定義の開始と終了のパラメーターです。64 個まで指定できます。

[usr 対象ユーザー名 対象ユーザー名 ...]

[ コマンド ] ボタンを使用する JP1 ユーザー名を指定します。対象ユーザー名は、31 バイトまでの文字列で指定します。複数指定する場合は、一つ以上の連続した半角スペースまたはタブを対象ユーザー名と対象ユーザー名の間に挿入して区切ります。複数指定では、100 個まで指定できます。省略した場合、すべての JP1 ユーザーを対象ユーザーとします。def ~ end-def の間に 1 個指定できます。btn ~ end-btn の間には指定できません。

btn [ コマンド ] ボタン名 ~ end-btn

[ コマンド ] ボタンの開始と終了パラメーターです。[ コマンド ] ボタン名は、[ コマンド ] ボタンの名称として [ コマンド実行 ] 画面の上に表示されます。一つの [ コマンド ] ボタン名に対して、8 文字まで指定できます。指定できる文字は、制御文字 (0x00 ~ 0x1F, 0x7F ~ 0x9F) 以外の文字列です。大文字・小文字は区別します。[ コマンド ] ボタンは、定義ブロックの中に 16 個まで定義できます。重複した [ コマンド ] ボタン名は指定できません。

[cmt [ コマンド ] ボタンのコメント]

[ コマンド ] ボタンの説明を記述します。コメントは、ツールチップとして表示されます。このパラメーターは省略できます。コメントは 40 文字まで指定できます。指定できる文字は、すべての文字です。

[hst 実行ホスト名]

## 2. 定義ファイル

コマンドボタン定義ファイル (cmdbtn.conf)

コマンドを実行するホスト名を指定します。実行ホスト名には、ホスト名、ホストグループ名、業務グループ名、および監視グループ名を指定できます。

ホスト名、ホストグループ名には、最大 255 バイトの文字列を指定できます。業務グループ名、監視グループ名には、最大 2,048 バイトの文字列を指定できます。このパラメーターは省略できます。

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、パス表記で業務グループ名を指定できます。

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名またはホストグループ名として扱われます。

### cmd コマンドライン

実行するコマンドを指定します。コマンドラインは 4,096 バイトまで指定できます。このパラメーターは省略できません。

### [var 環境変数ファイル名]

実行するコマンドの環境変数を指定した環境変数ファイルのファイル名を指定します。このパラメーターは省略できます。環境変数ファイルの形式については、「環境変数ファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。環境変数ファイル名は 255 バイト以内の文字列で指定します。

### [qui true|false]

[コマンド] ボタンを使用してコマンドを実行する前に、コマンドを実行してもよいか確認するメッセージを表示させるかどうかを指定します。確認するメッセージを表示させないと、[コマンド] ボタンをクリックすると同時にコマンドが実行されます。

確認するメッセージを表示させない場合は true、表示させる場合は false を指定します。省略した場合、false が指定されます。

true または false は、大文字・小文字を区別しません。

## 定義例

```
DESC_VERSION=1
```

```
#Aシステム担当者用コマンド
```

```
def
```

```
  usr AsysOpe1 AsysOpe2
```

```
  btn ログ確認1
```

```
    cmt マネージャーのログを表示します。
```

```
    hst AsysMgr
```

```
    cmd showlog.bat
```

```
end-btn
```

```
  btn ログ確認2
```

```
    cmt エージェントのログを表示します。実行ホスト名を指定してください。
```

```
    cmd showlog.bat
```

```
end-btn
```

```
  btn マネージャ再起動
```

```
    cmt マネージャーを再起動します。
    hst AsysMgr
    cmd restart.bat
end-btn
end-def

# Bシステム担当者用コマンド
def
    usr BsysOpe1 BsysOpe2
    btn エージェント再起動
        cmt エージェントを再起動します。実行ホスト名を指定してください。
        cmd restart.bat
    end-btn
end-def
```

# 起動プログラム定義ファイル (!JP1\_CS\_APP0.conf)

---

## 形式

---

```
@define-block type="application-execution-def";  
id="プログラム識別子";  
path="起動プログラムのパス";  
@define-block-end;
```

---

## ファイル

!JP1\_CS\_APP0.conf (起動プログラム定義ファイル)

!JP1\_CS\_APP0.conf.model (起動プログラム定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥sovtoolexec¥ja¥

## 説明

監視ツリー画面のツールバーに追加するプログラムの起動パスを定義するファイルです。

なお、監視ツリー画面のツールバーにプログラムを追加し、ツールバーからそのプログラムを起動するには、下記定義ファイルも編集する必要があります。

- ツールバー定義ファイル
- アイコン動作定義ファイル

## 定義の反映時期

監視ツリー画面を再起動すると有効になります。

## 記述内容

```
@define-block type ~ @define-block-end;
```

@define-block type ~ @define-block-end; で一つの定義ブロックとなります。監視ツリー画面のツールバーにプログラムを複数追加する場合は、この定義ブロックを複数記述します。この定義ブロックに記述できるパラメーターを次に示します。

```
id="プログラム識別子"
```

起動するプログラムを表す識別子を指定します。指定できるのは、32 バイト以内の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義ファイル内でユニークである必要があります。また、このパラメーターで指定するプログラム識別子は、アイコン動作定義ファイル (!JP1\_CS\_FTREE0.conf) で指定するプログラム識別子と同一にする必要があります。

path=" 起動プログラムのパス "

起動するプログラムのパスを指定します。指定できる実行形式ファイルは,  
.exe または .bat ファイルです。

## 定義例

```
#
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, Hitachi, Ltd.
#
@file type="application-execution-definition", version="0300";
#-----
@define-block type="application-execution-def";
id="app_notepad";
path="C:¥WINNT¥NOTEPAD.EXE";
@define-block-end;
#-----
```

# ツールバー定義ファイル (!JP1\_CS\_FTOOL0.conf)

---

## 形式

---

```
@define-block type="function-toolbar-def";  
toolbar="sov_JP1_IM_Central_Console|sov_JP1_IM_Function_Tree|sov_JP1_IM_Visual  
_View|sov_JP1_IM_Bmv_Help|アイコン識別子...";  
@define-block-end;
```

---

## ファイル

!JP1\_CS\_FTOOL0.conf (ツールバー定義ファイル)

!JP1\_CS\_FTOOL0.conf.model (ツールバー定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥sovtoolitem¥ja¥

## 説明

監視ツリー画面のツールバーに追加するプログラムの並び順を定義するファイルです。

なお、監視ツリー画面のツールバーにプログラムを追加し、ツールバーからそのプログラムを起動するには、下記定義ファイルも編集する必要があります。

- 起動プログラム定義ファイル
- アイコン動作定義ファイル

## 定義の反映時期

監視ツリー画面を再起動すると有効になります。

## 記述内容

```
@define-block type ~ @define-block-end;
```

@define-block type ~ @define-block-end; で一つの定義ブロックとなります。定義ファイル中一つしか定義できません。

```
toolbar="sov_JP1_IM_Central_Console|sov_JP1_IM_Function_Tree|so  
v_JP1_IM_Visual_View|sov_JP1_IM_Bmv_Help|アイコン識別子";
```

アイコンを表す識別子は「|」で区切られ、この記載順序に従ってアイコンは、[監視ツリー]画面で左から並んで表示されます。識別子として指定できるのは、32バイト以内の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義ファイル内でユニークである必要があります。また、このパラメーターで指定するアイコン識別子は、アイコン動作定義ファイル (!JP1\_CS\_FTREE0.conf) で指定するアイコン識別子と同一にする必要があ

ります。

## 定義例

```
#  
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, Hitachi, Ltd.  
#  
@file type="function-definition", version="0300";  
#-----  
@define-block type="function-toolbar-def";  
toolbar="sov_JP1_IM_New_Info|sov_JP1_IM_Visual_View|sov_JP1_IM_Fun  
ction_Tree|sov_JP1_IM_Central_Console|sov_JP1_IM_Bmv_Help|tool_not  
epad";  
@define-block-end;  
#-----
```

## 2. 定義ファイル

アイコン動作定義ファイル (!JP1\_CS\_FTREE0.conf)

# アイコン動作定義ファイル (!JP1\_CS\_FTREE0.conf)

---

## 形式

---

```
@define-block type="function-tree-def";
id="アイコン識別子";
name="ツールチップ";
iconstandard="アイコン格納パス";
icondown="アイコン格納パス";
iconrollover="アイコン格納パス";
icondisable="アイコン格納パス";
execute_id="プログラム識別子";
arguments="引数";
@define-block-end;
```

---

## ファイル

!JP1\_CS\_FTREE0.conf (アイコン動作定義ファイル)

!JP1\_CS\_FTREE0.conf.model (アイコン動作定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥sovtoolitem¥ja¥

## 説明

監視ツリー画面のツールバーに表示するアイコンの動作を定義するファイルです。

なお、監視ツリー画面のツールバーにプログラムを追加し、ツールバーからそのプログラムを起動するには、下記定義ファイルも編集する必要があります。

- 起動プログラム定義ファイル
- ツールバー定義ファイル

## 定義の反映時期

監視ツリー画面を再起動すると有効になります。

## 記述内容

```
@define-block type ~ @define-block-end;
```

@define-block type ~ @define-block-end; で一つの定義ブロックとなります。

監視ツリー画面のツールバーにプログラムを複数追加する場合は、この定義ブロックを複数記述します。この定義ブロックに記述できるパラメーターを次に示します。

```
id="アイコン識別子";
```

アイコンを表す識別子を指定します。識別子として指定できるのは、32 バイト

以下の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義ファイル内でユニークである必要があります。また、このパラメーターで指定するアイコン識別子は、!JP1\_CS\_FTOOL0.conf で指定するアイコン識別子と同一にする必要があります。

```
name=" ツールチップ ";
    カーソルをアイコンの上に置いたときに表示されるツールチップを指定します。
iconstandard=" アイコン格納パス ";
    通常時に表示されるアイコンをフルパスで指定します。
icondown=" アイコン格納パス ";
    アイコンをクリックしたときに表示されるアイコンをフルパスで指定します。
iconrollover=" アイコン格納パス ";
    カーソルをアイコンの上に移動したときに表示されるアイコンをフルパスで指定します。
icondisable=" アイコン格納パス ";
    そのプログラムが起動できない場合に表示されるアイコンをフルパスで指定します。
execute_id=" プログラム識別子 ";
    起動するプログラムを表す識別子を指定します。識別子として指定できるのは、32 バイト以内の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義ファイル内でユニークである必要があります。また、このパラメーターで指定するプログラム識別子は、起動プログラム定義ファイル (!JP1_CS_APP0.conf) で指定するプログラム識別子と同一にする必要があります。
arguments=" 引数 ";
    起動プログラム定義ファイル (!JP1_CS_APP0.conf) で定義した起動するプログラム (起動パス) に対する引数を指定します。
```

## 定義例

```
#-----
# Definition changed by 07-00.
@define-block type="function-tree-def";
id="tool_notepad";
name="メモ帳";
iconstandard="%SOV_INSTALL_PATH%¥image¥sovtool¥blank_standard.gif"
;
icondown="%SOV_INSTALL_PATH%¥image¥sovtool¥blank_down.gif";
iconrollover="%SOV_INSTALL_PATH%¥image¥sovtool¥blank_over.gif";
icondisable="%SOV_INSTALL_PATH%¥image¥sovtool¥blank_disable.gif";
execute_id="app_notepad";
arguments="C:¥test.txt";
@define-block-end;
#-----
```

## ツリー構成ファイル

### 形式

```
TRE:BUILD=値;ID=値;[DATE=生成日時;]CSV_VER=08100000;MSCOPE=ON(改行)  
OBJ:監視ノード名,NID:監視ノードID,ICO:アイコン名,TYPE:監視ノード種別,CLASS:監視オブ  
ジェクト種別,STA:状態ID,CHDT:状態更新時刻,OBS:監視状態,STD:基本情報(属性名1=属性値  
1),BKIMG=背景画像ファイル名,POT:X=X座標;Y=Y座標;Z=Z座標,CON:NAME=状態変更条件名,  
STA=遷移状態ID,CID=共通条件ID;共通条件情報,GCON:NAME=状態変更条件名,STA=遷移状態ID,  
CSTA=子ノードの状態ID,NUM>=子ノードの個数,RATIO>=子ノードの比率,(個別条件名==個別条件  
値),EVE:STA=状態ID,RES:JP1資源グループ名,OWN:監視ノード所有者名,OPE:操作項目のリス  
ト(改行)  
:
```

(凡例)

(改行): 改行を意味する。

太字: 編集できることを意味する(ほかの個所は編集できない)。

### ファイル

任意のファイル(ツリー構成ファイル)

### 格納先ディレクトリ

任意のフォルダ

### 説明

[監視ツリー]画面に表示される監視ツリーのツリー構成を定義したファイルです。

ツリー構成ファイルを編集することで、監視ツリーに表示される監視ノードの名称、基本情報の属性値などを変更することができます。ツリー構成ファイルは、[監視ツリー]画面または[監視ツリー(編集)]画面からツリー構成をローカルに保存することで作成できます。なお、これらの方法以外で、ツリー構成ファイルを作成しないでください。また、ツリー構成ファイルを編集する場合、次の記述内容で説明する値以外は変更しないでください。

編集してはならない値を誤って更新した場合は、ツリー構成ファイルのバックアップがあるときはツリー構成ファイルを更新し直してください。バックアップがないときは `jcsdbsetup` または `jcsdbimport` コマンドを使用して監視オブジェクトDBをセットアップし直してください。

特別な理由がない場合は、[監視ツリー(編集)]画面を使って監視ツリーを編集することを推奨します。

全角文字を使用する場合は、文字コードをMS932に統一してください。外字は使用できません。エスケープ文字は入力しないでください。

### 定義の反映時期

[監視ツリー(編集)]画面でこの定義ファイルを開いたあと、JP1/IM-Managerに反

映することで有効になります。

## 記述内容

### TREE

TREE に含まれる下記パラメーターの内容は変更できません。

#### BUILD= 値

値にはツリー生成番号が表示されます。なお、このパラメーターの値は、サーバへの更新によって変更されます。

#### ID= 値

値にはツリー ID が表示されます。

#### DATE= 生成日時

生成日時にはツリー生成日時が表示されます。なお、このパラメーターの値は、サーバへの更新および監視ノードの状態変更によって更新されます。

#### CSV\_VER=08100000

CSV ファイルのフォーマットバージョンです。

#### MSCOPE={ON | OFF}

監視範囲設定の有効・無効が表示されます。ON の場合、監視範囲設定が有効です。

### OBJ: 監視ノード名

監視ノード名には監視ツリーに表示される監視ノード名が表示されます。ユーザーが変更できます。指定できる文字数は最大 255 バイトです。半角英数字、全角文字（外字を除く）を使用できます。なお、監視ノードにセミコロン（;）を入力する場合には、セミコロンを二つ重ねて入力してください。

監視ノード名にコンマ（,）を入力する場合は、OBJ の項目全体をダブルクォーテーション（"）で囲んでください。

#### 例

監視ノード名を「監視, ノード」とする場合は、下記のように記述します。

```
"OBJ: 監視, ノード"
```

監視ノード名にダブルクォーテーション（"）を入力する場合は、OBJ の項目全体をダブルクォーテーション（"）で囲み、さらに監視ノード名のダブルクォーテーション（"）の前にもう一つダブルクォーテーション（"）を記述してください。

#### 例

監視ノード名を「" 監視ノード"」とする場合、下記のように記述します。

```
"OBJ: "" 監視ノード """
```

### NID: 監視ノード ID

監視ノード ID には監視ツリーに表示される監視ノードの ID が 16 進数 8 けたで表示されます。ユーザーが変更できます。

## 2. 定義ファイル ツリー構成ファイル

なお、監視ノード ID は、ほかの監視ノードの監視ノード ID と重複しないように注意してください。監視ノード ID には、00000001 ~ 7FFFFFFF を指定してください。

### ICO: アイコン名

監視ノードのアイコン名が最大で三つ、セミコロン (;) 区切りで表示されます。  
このパラメーターは変更できません。

### TYPE: 監視ノード種別

監視グループ、監視オブジェクト、および仮想ルートノードを識別する ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

### CLASS: 監視オブジェクト種別

監視オブジェクトの種別が表示されます。このパラメーターは変更できません。

### STA: 状態 ID

監視ノードの状態を示す ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

### CHDT: 状態更新時刻

監視ノードの状態が更新された時刻が表示されます。このパラメーターは変更できません。

### OBS: 監視状態

監視ノードの監視状態が表示されます。このパラメーターは変更できません。

### STD: 属性名 = 属性値

監視ノードの基本情報を定義した場合には、その属性名と属性値が表示されます。  
基本情報は、複数指定がある場合、セミコロン (;) で区切られます。

属性値だけ変更できます。属性値に指定できる文字数は最大 1,023 バイト です。

なお、属性値にセミコロン (;) を入力する場合には、セミコロンを二つ重ねて入力してください。

注 全フィールドのトータルでは 1,280 バイト以内です (例えば基本情報を五つ設定した場合、五つの属性値の合計が 1,280 バイト以内にする必要がある)。

属性値にコンマ (,) を入力する場合は、STD の項目全体をダブルクォーテーション (") で囲んでください。

#### 例

属性値を「属性, 値」とする場合は、下記のように記述します。

```
"STD: 属性名 = " "属性, 値"
```

属性値にダブルクォーテーション (") を入力する場合は、STD の項目全体をダブルクォーテーション (") で囲み、さらに属性値のダブルクォーテーション (") の前にもう一つダブルクォーテーション (") を記述してください。

#### 例

属性値を「" 属性値 "」とする場合は、下記のように記述します。

"STD: 属性名 =" 属性値 ""

BKIMG= 背景画像ファイル名

[ 監視ツリー (編集集中)] 画面のマップ表示時, または [ ビジュアル監視 (編集集中)] 画面で設定されている背景画像ファイル名が表示されます。このパラメーターは変更できません。

POT: X=X 座標 ; Y=Y 座標 ; Z=Z 座標

[ 監視ツリー (編集集中)] 画面のマップ表示時, または [ ビジュアル監視 (編集集中)] 画面で設定されているアイコンの位置情報 (座標軸) が表示されます。このパラメーターは変更できません。

CON

CON に含まれるパラメーターには次のものがあります。なお, CON パラメーターは TYPE の値が 1 (監視グループ) の場合は表示されません。

NAME= 状態変更条件名

状態変更条件名が表示されます。ユーザーが変更できます。指定できる文字数は最大 63 バイトです。半角英数字, 全角文字 (外字を除く) を使用できます。\* " ' ¥ : ; | = + ? < . > は使用できません。なお, 同行に NAME パラメーターが複数ある場合, その中で同じ状態変更条件名は使用できないため, 注意してください。

状態変更条件名にコンマ (,) を入力する場合は, CON の項目全体をダブルクォーテーション (") で囲んでください。

例

状態変更条件名を「状態変更, 条件名」とする場合, 下記のように記述します。

"CON: NAME= 状態変更, 条件名 ; STA=700; 個別条件名 == 個別条件値 "

STA= 遷移状態 ID

遷移状態 ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

CID= 共通条件 ID; 共通条件情報

共通条件 ID および共通条件情報が表示されます。共通条件情報には, [ 状態変更条件設定 ] 画面で設定した, システムが管理するために必要な ID や情報などの共通条件が表示され, セミコロン (;) で区切られます。なお, これらのパラメーターは変更できません。

GCON

GCON に含まれるパラメーターには次のものがあります。

なお, GCON パラメーターは TYPE の値が 2 (監視オブジェクト) の場合や, 監視グループの状態変更条件を一つも設定していない場合は表示されません。

NAME= 状態変更条件名

状態変更条件名が表示されます。ユーザーが変更できます。指定できる文字数

## 2. 定義ファイル ツリー構成ファイル

は最大 63 バイトです。半角英数字，全角文字（外字を除く）を使用できます。  
\* " ' ¥ : ; | = + ? < . > は使用できません。なお，同行に NAME パラメーターが複数ある場合，その中で同じ状態変更条件名は使用できないため，注意してください。  
状態変更条件名にコンマ (,) を入力する場合は，GCON の項目全体をダブルクォーテーション (") で囲んでください。

STA= 遷移状態 ID

遷移状態 ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

CSTA= 子ノードの状態 ID

子ノードの状態 ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

NUM>= 子ノードの個数

子ノードの個数が表示されます。このパラメーターは変更できません。また，RATIO と同時に指定できません。

RATIO>= 子ノードの比率

子ノードの比率が表示されます。このパラメーターは変更できません。また，NUM と同時に指定できません。

個別条件名 == 個別条件値

[ 状態変更条件設定 ] 画面で個別条件を設定した場合に表示されます。個別条件は，複数指定がある場合，セミコロン (;) で区切られます。個別条件値だけ変更できます。なお，== 部分は GUI での設定によって次のように変わりますが，この部分は変更しないでください。

== : 「と一致する」  
!= : 「と一致しない」  
^ : 「から始まる」  
>= : 「を含む」  
<= : 「を含まない」  
\* : 「正規表現」  
+= : 「ホスト名比較」

個別条件値に指定できる文字数は最大 1,023 バイト です。なお，個別条件値にセミコロン (;) を入力する場合には，セミコロンを二つ重ねて入力してください。

注 全フィールドのトータルでは 1,280 バイト以内です（例えば個別条件を五つ設定した場合，五つの条件値の合計が 1,280 バイト以内にする必要がある）。

個別条件値にコンマ (,) を入力する場合は，CON の項目全体をダブルクォーテーション (") で囲んでください。

例

個別条件値を「個別，条件値」とする場合は，下記のように記述します。

"CON:NAME= 状態変更条件名 ; STA=700 ; 個別条件名 == 個別，条件値 "

個別条件値にダブルクォーテーション (") を入力する場合は，CON の項目全

体をダブルクォーテーション (") で囲み、さらに属性値のダブルクォーテーション (") の前にもう一つダブルクォーテーション (") を記述してください。

例

個別条件値を「" 個別条件値"」とする場合は、下記のように記述します。

"CON:NAME= 状態変更条件名 , ;STA=700 ; 個別条件名 =="" 個別条件値 """

EVE:STA= 状態 ID

イベント発行条件で設定した状態の状態 ID が表示されます。このパラメーターは変更できません。

RES:JP1 資源グループ名

監視ノードの JP1 資源グループ名が表示されます。このパラメーターは変更できません。

OWN: 監視ノード所有者名

監視ノードの所有者名が表示されます。このパラメーターは変更できません。

OPE: 操作項目のリスト

ログインしたユーザーが監視ノードに対して保有する操作項目のリストが表示されます。このパラメーターは変更できません。

### 注意事項

- 監視ノード ID を変更すると、[ ビジュアル監視 ] 画面に影響がでるおそれがあります。これは、[ 監視ツリー ] 画面、[ ビジュアル監視 ] 画面に表示される監視ノードが監視ノード ID をキーに管理されているためです。  
監視ノード ID を変更した場合は、画面表示に問題がないか [ ビジュアル監視 ] 画面の確認をしてください。

# IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル (jcfview.conf)

---

## 形式

---

jcfview.login.host.max=ホストの最大記録数  
jcfview.login.user.max=ユーザーの最大記録数  
jcfview.screen.history.enable=画面表示設定履歴機能の使用 / 不使用  
jcfview.response.wait.time=応答待ちタイムアウト時間  
jcfview.imconfigreflect.response.wait.time=システムの階層構成の反映応答待ちタイムアウト時間

---

## ファイル

jcfview.conf (IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル)

jcfview.conf.model (IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥conf¥jcfview¥

## 説明

IM 構成管理・ビューアーの動作を指定するファイルです。

## 定義の反映時期

IM 構成管理・ビューアーの起動時に有効になります。

## 記述内容

jcfview.login.host.max

ログインに成功したホストの最大記録数を 10 進数で記述します。指定できる値は 0 ~ 20 です。デフォルトは 5 です。

jcfview.login.user.max

ログインに成功したユーザーの最大記録数を 10 進数で記述します。指定できる値は 0 または 1 です。デフォルトは 1 です。

jcfview.screen.history.enable

画面起動時に前回の IM 構成管理・ビューアー画面の表示位置、表示サイズ、および表示ボタンの選択状態の履歴を使用するかどうかを指定します。対象となる画面は、[ IM 構成管理 ] 画面、[ エージェント構成編集 ] 画面、[ リモート監視構成編集 ] 画面、および [ プロファイル表示 / 編集 ] 画面です。

指定できる値は、次のとおりです。

- 0 : 画面表示設定履歴機能を使用しません。

- 1: 画面表示設定履歴機能を使用します (デフォルト値)。

なお、0 を設定して IM-View を起動した場合、すべての画面表示設定履歴ファイルを削除します。

`jcfview.response.wait.time`

サーバ応答待ちのタイムアウト時間を 10 進数で記述します。単位はミリ秒です。指摘できる値は、60,000 ~ 3,600,000、デフォルトは 1,800,000 です。最小値より小さい値、最大値より大きい値、不正な値が指定された場合、または定義がない場合は、デフォルト値が使用されます。

タイムアウトが発生した場合は、KNAN20105-E のメッセージが表示されます。KNAN20105-E のメッセージが頻繁に出力される場合は、タイムアウト時間の設定を見直してください。

`jcfview.imconfigreflect.response.wait.time`

システムの階層構成 (IM 構成) が反映されるまでの応答待ちのタイムアウト時間を 10 進数で記述します。単位はミリ秒です。指摘できる値は、60,000 ~ 36,000,000、デフォルトは 18,000,000 です。最小値より小さい値、最大値より大きい値、不正な値が指定された場合、または定義がない場合は、デフォルト値が使用されます。

タイムアウトが発生した場合は、KNAN20105-E のメッセージが表示されます。KNAN20105-E のメッセージが頻繁に出力される場合は、タイムアウト時間の設定を見直してください。

## 定義例

```
jcfview.login.host.max=5
jcfview.login.user.max=1
jcfview.screen.history.enable=1
jcfview.response.wait.time=1800000
jcfview.imconfigreflect.response.wait.time=18000000
```

# IM 構成反映方式設定ファイル (jp1cf\_applyconfig.conf)

---

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CONFIG]  
" APPLY_CONFIG_TYPE"=dword:00000001
```

---

## ファイル

jp1cf\_applyconfig.conf (IM 構成反映方式設定ファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

物理ホスト : Manager パス ¥conf¥imcf¥

論理ホスト : 共有フォルダ ¥JP1IMM¥conf¥imcf¥

UNIX の場合

物理ホスト : /etc/opt/jp1imm/conf/imcf/

論理ホスト : 共有ディレクトリ /jp1imm/conf/imcf/

## 説明

JP1/IM・Manager をインストールすると自動生成されるファイルです。

## 定義の反映時期

次のコマンドを実行し、JP1/IM・Manager を起動・再起動した場合か、jco\_spm�\_reload コマンドでリロードした場合に設定を反映します。

```
jbssetcnf Manager パス ¥conf¥imcf¥jp1cf_applyconfig.conf
```

## 記述内容

APPLY\_CONFIG\_TYPE

システムの階層構成の反映方法を指定します。

- 00000000

システムの階層構成を削除後に反映します。この項目は、デフォルトで設定されています。

- 00000001

システムの階層構成を削除しないで反映します。

値が不正または定義が存在しない場合は、デフォルトが仮定されます。

## 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥¥JP1CONFIG]  
" APPLY_CONFIG_TYPE"=dword:00000001
```

# セットアップ情報ファイル (jimdbsetupinfo.conf)

## 形式

```
#IM DATABASE SERVICE - DB Size
IMDBSIZE=値
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory
IMDBDIR=値
#IM DATABASE SERVICE - Port Number
IMDBPORT=値
#IM DATABASE SERVICE - DB Install Directory
IMDBENVDIR=値
#IM DATABASE SERVICE - Host Name
IMDBHOSTNAME=値
```

## ファイル

jimdbsetupinfo.conf (セットアップ情報ファイル)

jimdbsetupinfo.conf.model (セットアップ情報ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥conf¥imdb¥setup¥

UNIX の場合

/etc/opt/jplimm/conf/imdb/setup/

## 説明

統合監視 DB および IM 構成管理 DB のセットアップ時に、IM データベースのサイズや IM データベースのデータを格納するディレクトリなどを記述するファイルです。

なお、セットアップ情報ファイルは、統合監視 DB と IM 構成管理 DB のセットアップ時に共通で参照します。統合監視 DB または IM 構成管理 DB をセットアップしたあとに、もう一方のデータベースを作成する場合には、同じ値を指定する必要があります。

セットアップ情報ファイルに指定したデータベースのサイズと作成するデータベースのサイズを次の表に示します。

表 2-49 作成するデータベースのサイズ

サイズ	システム DB 領域 (ギガバイト)	統合監視 DB 領域 (ギガバイト)	IM 構成管理 DB 領域 (ギガバイト)	合計 (ギガバイト)
S	1	9	1	11
M	2	33	1	36

サイズ	システム DB 領域 (ギガバイト)	統合監視 DB 領域 (ギガバイト)	IM 構成管理 DB 領域 (ギガバイト)	合計 (ギガバイト)
L	8	96	10	114

注

システム DB 領域, 統合監視 DB 領域, および IM 構成管理 DB 領域は, セットアップ情報ファイルに指定したデータベース格納先ディレクトリ (IMMDDIR) の直下に作成されます。インストールに必要な容量は, 110 メガバイトです。

定義の反映時期

セットアップ時に, このファイルの内容を読み込み, 各項目に指定された値で IM データベースの環境を構築します。

記述内容

IMDBSIZE

作成する IM データベースのサイズを半角英大文字の S, M, L で指定します。デフォルトは S です。

IMMDDIR

IM データベースのデータを格納するディレクトリを絶対パス形式で指定します。指定したディレクトリの直下に imdb ディレクトリを作成し, IM データベースのファイル (領域) を格納します。デフォルトは次のとおりです。

- Windows の場合: Manager パス ¥database  
 ネットワークドライブが指定された場合または Windows の予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。
- UNIX の場合: /var/opt/jp1imm/database  
 指定するディレクトリは, 常にマウント状態にあるディレクトリを指定し, アンマウントされやすいディレクトリは指定しないでください。運用中にアンマウントされると, データベースの起動やアクセスに失敗します。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。

絶対パス形式で使用できる文字列を次に示します。

- Windows の場合:  
 半角英数字, \_, ¥, (, ), . (ピリオド), および半角スペースで構成される 95 文字以内の文字列です。ドライブ名で始める必要があります。
- UNIX の場合:  
 半角英数字, \_, /, および . (ピリオド) で構成される 95 文字以内の文字列です。パス区切り文字 (/) で始める必要があります。

## 2. 定義ファイル

セットアップ情報ファイル (jimdbsetupinfo.conf)

### IMDBPORT

IM データベースが使用するポート番号を指定します。指定できる範囲は、5001 ~ 65535 です。デフォルトは 20700 です。

ここで指定するポート番号は、次のポート番号とは重複できません。

- ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
- services ファイルに記載されているポート番号
- ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号
- ほかの製品、OS などが使用する一時ポート番号

注 IMDBPORT に設定したポート番号を、あとで services ファイルに記載しないようにしてください。

### IMDBENVDIR

IM データベースをインストールするディレクトリを絶対パス形式で指定します。指定したディレクトリの直下にディレクトリ (JMn : n は LOGICALHOSTNUMBER と一致します) を作成し、IM データベースをインストールします。デフォルトは次のとおりです。

- Windows の場合 : Manager パス ¥dbms

ネットワークドライブが指定された場合または Windows の予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。また、指定したディレクトリが存在しない場合は、コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に、必ずディレクトリを作成してください。

- UNIX の場合 : /var/opt/jplimm/dbms

指定するディレクトリは、常にマウント状態にあるディレクトリを指定し、アンマウントされやすいディレクトリは指定しないでください。運用中にアンマウントされると、データベースの起動やアクセスに失敗します。また、指定したディレクトリが存在しない場合は、コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に、必ずディレクトリを作成してください。

また、シンボリックリンクを含むパスは指定しないでください。

絶対パス形式で使用できる文字列を次に示します。

- Windows の場合 :

半角英数字、\_、¥、(、)、および半角スペースで構成される 195 文字以内の文字列です。ドライブ名で始める必要があります。

- UNIX の場合 :

半角英数字、\_、/、および . (ピリオド) で構成される 123 文字以内 (Linux の場合は 22 文字以内) の文字列です。パス区切り文字 (/) で始める必要があります。

### IMDBHOSTNAME

ほかのホストで動作する JP1/IM-MO との通信に使用するホスト名、または IP アドレスを指定します。ほかのホストの JP1/IM-MO と連携していない場合は、この項目を指定する必要はありません。

デフォルトは、ローカルホスト名です。値を省略した場合は、ローカルホスト名が

仮定されます。使用できる文字列は、32文字以内の半角英数字、-、\_、@、および.  
(ピリオド)です。

### 定義例

```
#IM DATABASE SERVICE - DB Size
IMDBSIZE= S
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory
IMDBDIR=Managerパス¥database
#IM DATABASE SERVICE - Port Number
IMDBPORT= 20700
#IM DATABASE SERVICE - DB Install Directory
IMDBENVDIR=Managerパス¥dbms
#IM DATABASE SERVICE - DB Host Name
IMDBHOSTNAME=
```

## 2. 定義ファイル

クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)

# クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)

---

## 形式

---

```
#IM DATABASE SERVICE - Logical Host Number
LOGICALHOSTNUMBER=値
#IM DATABASE SERVICE - Logical Host Name
LOGICALHOSTNAME=値
#IM DATABASE SERVICE - DB Size
IMDBSIZE=S
#IM DATABASE SERVICE - Port Number
IMDBPORT=値
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory (Local Work Area)
IMDBDIR=Managerパス¥db
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory (Shared Data Area)
SHAREDBDIR=共有ディレクトリ¥db
#IM DATABASE SERVICE - Online Host Name
ONLINEHOSTNAME=値
#IM DATABASE SERVICE - DB Install Directory
IMDBENVDIR=Managerパス¥dbms
```

---

## ファイル

jimdbclustersetupinfo.conf (クラスタセットアップ情報ファイル)

jimdbclustersetupinfo.conf.model (クラスタセットアップ情報ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

Managerパス¥conf¥imdb¥setup¥

UNIX の場合

/etc/opt/jplimm/conf/imdb/setup/

## 説明

統合監視 DB および IM 構成管理 DB のクラスタ環境のセットアップ時に、IM データベースのサイズや IM データベースのデータを格納するディレクトリなどを記述するファイルです。

なお、クラスタセットアップ情報ファイルは、統合監視 DB と IM 構成管理 DB のセットアップ時に共通で参照します。統合監視 DB または IM 構成管理 DB をセットアップしたあとに、もう一方のデータベースを作成する場合には、同じ値を指定する必要があります。また、クラスタ環境を構築する場合、待機系のセットアップをするときは、実行系で使用したクラスタセットアップ情報ファイルをコピーし、実行してください。同一ホストに複数の論理ホストを設定する場合は、jimdbclustersetupinfo.conf (クラスタセットアップ情報ファイル) を別名でコピーし、設定情報を変更する必要があります。

ます。

クラスタセットアップ情報ファイルに指定したデータベースのサイズと作成するデータベースのサイズを示します。

表 2-50 作成するデータベースのサイズ

サイズ	システム DB 領域 (ローカルディスク) <sup>1</sup> (ギガバイト)	システム DB 領域 (共有ディスク) <sup>1</sup> (ギガバイト)	統合監視 DB 領域 <sup>2</sup> (ギガバイト)	IM 構成管理 DB 領域 <sup>2</sup> (ギガバイト)	合計 (ギガバイト)
S	0.05	0.95	9	1	11
M	0.1	1.9	33	1	36
L	0.6	7.4	96	10	114

注 1

システム DB 領域 (ローカルディスク) は、クラスタセットアップ情報ファイルに指定したローカルデータベース格納ディレクトリの直下 (IMMDBDIR) に作成されます。

注 2

システム DB 領域 (共有ディスク)、統合監視 DB 領域と IM 構成管理 DB 領域は、クラスタセットアップ情報ファイルに指定した共有データベース格納先ディレクトリ (SHAREDDBDIR) の直下に作成されます。インストールに必要な容量は、110 メガバイトです。

## 定義の反映時期

セットアップ時に、このファイルの内容を読み込み、各項目に指定された値で IM データベースの環境を構築します。

## 記述内容

### LOGICALHOSTNUMBER

IM データベースの論理ホストを識別する番号を 1 ~ 9 の半角数値で指定します。論理ホストを追加する場合は、別の番号を指定する必要があります。実行系と待機系で同じ番号を指定してください。

### LOGICALHOSTNAME

論理ホスト名を指定します。論理ホスト名は `jp1cohasetup` コマンドおよび `jp1cc_setup_cluster` コマンドで指定した論理ホスト名を指定してください。指定できる文字列は、半角英数字、`_`、`-`、`.` (ピリオド)、および `@` で構成される 32 文字以内の文字列です。なお、論理ホスト名は、大文字・小文字を区別します。論理ホスト名には、JP1/Base で設定した論理ホスト名を、大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

### IMDBSIZE

作成する IM データベースのサイズを半角英大文字の `S`、`M`、`L` で指定します。デ

## 2. 定義ファイル

クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)

フォルトは `s` です。

### IMDBDIR

IM データベースのデータを格納するディレクトリを絶対パス形式で指定します。指定したディレクトリの直下に `imdb` ディレクトリを作成し、IM データベースのファイル (ローカル作業領域用) を格納します。

- Windows の場合：

ネットワークドライブが指定された場合または Windows の予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。また、指定したディレクトリが存在しない場合は、コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に、必ずディレクトリを作成してください。

- UNIX の場合：

指定するディレクトリは、常にマウント状態にあるディレクトリを指定し、アンマウントされやすいディレクトリは指定しないでください。運用中にアンマウントされると、データベースの起動やアクセスに失敗します。また、指定したディレクトリが存在しない場合は、コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に、必ずディレクトリを作成してください。

絶対パス形式で使用できる文字列を次に示します。

- Windows の場合：

半角英数字、`_`、`¥`、`(`、`)`、`.` (ピリオド)、および半角スペースで構成される 95 文字以内の文字列です。ドライブ名で始める必要があります。

- UNIX の場合：

半角英数字、`_`、`/`、および `.` (ピリオド) で構成される 95 文字以内の文字列です。パス区切り文字 (`/`) で始める必要があります。

### IMDBPORT

IM データベースが使用するポート番号を指定します。指定できる範囲は、5001 ~ 65535 です。

ここで指定するポート番号は、次のポート番号とは重複できません。

- ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
- `services` ファイルに記載されているポート番号
- ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号
- ほかの製品、OS などが使用する一時ポート番号

注 IMDBPORT に設定したポート番号を、あとで `services` ファイルに記載しないようにしてください。

### SHAREDDBDIR

クラスタ構成時に実行系と待機系で共有する IM データベースのデータを格納するディレクトリを絶対パス形式で指定します。指定したディレクトリの直下に `imdb` ディレクトリを作成し、IM データベースのファイル (共有データ領域用) を格納します。

絶対パス形式で使用できる文字列を次に示します。

- Windows の場合：  
半角英数字, `_`, `¥`, `(`, `)`, `.` (ピリオド), および半角スペースで構成される 95 文字以内の文字列です。ドライブ名で始める必要があります。  
ネットワークドライブが指定された場合または Windows の予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。
- UNIX の場合：  
半角英数字, `_`, `/`, および `.` (ピリオド) で構成される 95 文字以内の文字列です。パス区切り文字 (`/`) で始める必要があります。  
指定するディレクトリは, 常にマウント状態にあるディレクトリを指定し, アンマウントされやすいディレクトリは指定しないでください。運用中にアンマウントされると, データベースの起動やアクセスに失敗します。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。

#### ONLINEHOSTNAME

実行系のホスト名を指定します。指定できる文字列は, 半角英数字, `_`, `-`, `/`, `.` (ピリオド), および `@` で構成される 32 文字以内の文字列です。なお, 論理ホスト名は, 大文字・小文字を区別します。なお, 実行系のホスト名は, 大文字・小文字を区別します。実行系のホスト名は大文字・小文字を含めて正確に指定してください。

#### IMDBENVDIR

IM データベースをインストールするディレクトリを絶対パス形式で指定します。指定したディレクトリの直下にディレクトリ (JMn: n は LOGICALHOSTNUMBER と一致します) を作成し, IM データベースをインストールします。デフォルトは次のとおりです。

- Windows の場合: Manager パス `¥dbms`  
ネットワークドライブが指定された場合または Windows の予約デバイスファイルが指定された場合はエラーとなります。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。
- UNIX の場合: `/var/opt/jp1imm/dbms`  
指定するディレクトリは, 常にマウント状態にあるディレクトリを指定し, アンマウントされやすいディレクトリは指定しないでください。運用中にアンマウントされると, データベースの起動やアクセスに失敗します。また, 指定したディレクトリが存在しない場合は, コマンドの実行に失敗します。コマンドを実行する前に, 必ずディレクトリを作成してください。  
また, シンボリックリンクを含むパスは指定しないでください。

絶対パス形式で使用できる文字列を次に示します。

- Windows の場合：  
半角英数字, `_`, `¥`, `(`, `)`, および半角スペースで構成される 195 文字以内の文字

## 2. 定義ファイル

クラスタセットアップ情報ファイル (jimdbclustersetupinfo.conf)

列です。ドライブ名で始める必要があります。

- UNIX の場合 :

半角英数字, \_ , / , および . (ピリオド) で構成される 123 文字以内 (Linux の場合は 22 文字以内) の文字列です。パス区切り文字 (/) で始める必要があります。

### 定義例

```
#IM DATABASE SERVICE - Logical Host Number
LOGICALHOSTNUMBER=1
#IM DATABASE SERVICE - Logical Host Name
LOGICALHOSTNAME=host1
#IM DATABASE SERVICE - DB Size
IMDBSIZE=S
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory (Local Work Area)
IMDBDIR=Managerパス¥db
#IM DATABASE SERVICE - Port Number
IMDBPORT=20750
#IM DATABASE SERVICE - Data Storage Directory (Shared Data Area)
SHAREDBDIR=共有ディレクトリ¥db
#IM DATABASE SERVICE - Online Host Name
ONLINEHOSTNAME=host_H1
#IM DATABASE SERVICE - DB Install Directory
IMDBENVDIR=Managerパス¥dbms
```

# イベントレポート出力の項目ファイル

## 形式

```
[@]項目名  
# コメント文  
:
```

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

イベントレポート出力で出力したい JP1 イベントの属性を指定するファイルです。

このファイルの最大サイズは、32 キロバイト（32,768 バイト）です。

## 定義の記述

- 半角スペースまたはタブだけで構成された行は無視します。
- 各行の先頭のパラメーター名の前、および末尾の半角スペース、タブは無視します。

## 定義の反映時期

-k オプションを指定して `jcoevtreport` コマンドを実行すると、指定した項目ファイルを読み込み、項目ファイルに従って JP1 イベントの属性値をイベントレポート出力します。

## ファイル内容

### 項目名

イベントレポート出力で出力したい項目を指定します。  
指定できる項目を次の表に示します。

項番	指定できる項目	内容
1	B.SEQNO	イベント DB 内通し番号
2	B.ID	イベント ID
3	B.PROCESSID	発行元プロセス ID

## 2. 定義ファイル

### イベントレポート出力の項目ファイル

項番	指定できる項目	内容
4	B.TIME	登録時刻
5	B.ARRIVEDTIME	到着時刻
6	B.REASON	登録要因
7	B.USERID	発行元ユーザー ID
8	B.GROUPID	発行元グループ ID
9	B.USERNAME	発行元ユーザー名
10	B.GROUPNAME	発行元グループ名
11	B.SOURCESERVER	登録ホスト名
12	B.DESTSERVER	送信先イベントサーバ名
13	B.SOURCEIPADDR	発行元 IP アドレス
14	B.DESTIPADDR	送信先 IP アドレス
15	B.SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
16	B.CODESET	コードセット
17	B.MESSAGE	メッセージ
18	E.SEVERITY	重大度
19	E.USER_NAME	ユーザー名
20	E.PRODUCT_NAME	プロダクト名
21	E.OBJECT_TYPE	オブジェクトタイプ
22	E.OBJECT_NAME	オブジェクト名
23	E.ROOT_OBJECT_TYPE	登録名タイプ
24	E.ROOT_OBJECT_NAME	登録名
25	E.OBJECT_ID	オブジェクト ID
26	E.OCCURRENCE	事象種別
27	E.START_TIME	開始時刻
28	E.END_TIME	終了時刻
29	E.RESULT_CODE	終了コード
30	E.JP1_SOURCEHOST	発生元ホスト名
31	E.@JP1IM_ACTTYPE	アクション種別
32	E.@JP1IM_ACTCONTROL	アクション
33	E.@JP1IM_SEVERE	重要イベント
34	E.@JP1IM_CORRELATE	関連イベント
35	E.@JP1IM_RESPONSE	応答待ちイベント
36	E.@JP1IM_ORIGINAL_SEVERITY	重大度 (変更前)
37	E.@JP1IM_CHANGE_SEVERITY	重大度変更

項番	指定できる項目	内容
38	E.@JP1IM_DEALT	対処状況
39	E.@JP1IM_RELEASE	重要イベント解除
40	E.@JP1IM_DISMISSED	重要イベント削除
41	E.@JP1IM_MEMO	メモ
42	E. 固有の拡張属性名	固有の拡張属性

項目名の先頭に「@」を指定すると、基本属性および拡張属性の日時項目をYYYYMMDDhhmmss形式で出力します。指定した属性に数値以外の値、0未満の数値、または2147483647以上の数値が入っている場合、変換しないで出力します。JP1 イベントに属性がない場合は、空文字を出力します。

#### # コメント文

# で始まる行は、コメント扱いとなります。

#### 定義例

B.SEQNO  
B.ID  
B.PROCESSID  
B.TIME  
:

# イベントレポート出力のフィルターファイル

---

## 形式

---

```
イベント条件
:
OR
イベント条件
:
EXCLUDE
イベント条件
:
```

---

## ファイル

任意のファイルを使用します。

## 格納先ディレクトリ

Windows の場合

任意のフォルダ

UNIX の場合

任意のディレクトリ

## 説明

イベントレポート出力時のフィルター条件を指定する定義ファイルです。-f オプションを指定して jcoevtreport コマンドを実行すると読み込まれます。

このファイルの最大サイズは、256 キロバイト (262,144 バイト) です。

## 定義の反映時期

-f オプションを指定して jcoevtreport コマンドを実行すると、指定した項目ファイルを読み込み、指定された条件と一致する JP1 イベントを統合監視 DB から取得してイベントレポート出力します。

## ファイル内容

通過条件群, 除外条件群

jcoevtreport コマンドは、すべての除外条件群に一致しない JP1 イベント、かつ、通過条件群のどれか一つが一致する JP1 イベントを出力対象の JP1 イベントと判断します。フィルター条件には、0 ~ 5 件の通過条件群と 0 ~ 5 件の除外条件群を記述できます。

通過条件群または除外条件群には、0 ~ 50 件のイベント条件を指定できます。ただし、拡張属性 (固有情報) のイベント条件は、一つの通過条件群または除外条件群に最大 5 件指定できます。

OR

条件群を複数指定する場合は、各条件群の間に「OR」を記述します。

#### EXCLUDE

通過条件群と除外条件群の間には、「EXCLUDE」を記述します。「EXCLUDE」以降のイベント条件は、除外条件群と見なします。「EXCLUDE」以降にイベント条件がない場合は、通過条件群だけが有効になります。

#### イベント条件

イベント条件は、次の形式で指定します。

属性名 比較キーワード オペランド [ オペランド]...

なお、半角スペース、または、タブだけで構成された行は、無視して処理を続行します。

#### 属性名

属性名には、比較したい属性の名称を記述します。基本属性を指定する場合は、名称の前に「B.」を付けます。拡張属性（共通情報）、拡張属性（固有情報）を指定する場合は、名称の前に「E.」を付けます。英小文字と英大文字を区別します。

#### 比較キーワード

比較キーワードには、「BEGIN（から始まる）」、「IN（と一致する）」、「NOTIN（と一致しない）」、「SUBSTR（を含む）」、「NOTSUBSTR（を含まない）」、「REGEX（正規表現）」のどれか一つを指定できます。英小文字と英大文字を区別します。

#### オペランド

比較キーワードで属性値と比較する値を文字列で指定します。英小文字と英大文字を区別します。

オペランドを複数指定する場合は、一つ以上の連続した半角スペースまたはタブをオペランドとオペランドの間に挿入して区切ります。オペランドとオペランドは、OR 条件となります。ただし、比較キーワードに正規表現を指定している場合は、複数指定できません。

オペランドに、半角スペース、タブ、改行コード（CR、LF）および % を指定したい場合、次のように記述します。

項番	指定したい値	指定方法
1	タブ (0x09)	%09
2	半角スペース (0x20)	%20
3	% (0x25)	%25
4	改行コード LF (0x0a)	%0a
5	改行コード CR (0x0d)	%0d

定義フォーマットの上限チェックの場合、%20、%25 は 1 文字として扱います。

## 2. 定義ファイル

### イベントレポート出力のフィルターファイル

複数選択した場合の定義例「ID が 100 と 200 に一致する」を示します。

```
B.ID IN 100 200
```

(凡例) : 半角スペース (0x20)

オペランドは、イベント条件 1 件当たり 4,096 バイトまで、イベント条件ブロック 1 件当たり 4,096 バイト ( イベント条件ブロックに記述したオペランドの合計バイト数 ) まで指定できます。

イベント条件で指定できる属性名、比較キーワードおよびオペランドについて次の表に示します。

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
1	イベント ID	B.ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。</li> <li>イベント ID の大文字、小文字は区別しない。</li> <li>指定できる範囲は 0 ~ 7FFFFFFF である。</li> </ul>
2	登録要因	B.REASON	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。</li> <li>指定できる範囲は、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 である。</li> </ul>
3	発行元プロセス ID	B.PROCESSID		
4	発行元ユーザー ID	B.USERID		
5	発行元グループ ID	B.GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
6	発行元ユーザー名	B.USERNAME		
7	発行元グループ名	B.GROUPNAME		

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
8	発行元イベントサーバ名	B.SOURCE SERVER		
9	送信先イベントサーバ名	B.DEST SERVER		
10	メッセージ	B.MESSAGE		
11	重大度	E.SEVERITY	一致する	<ul style="list-style-type: none"> <li>"Emergency" (緊急), "Alert" (警戒), "Critical" (致命的), "Error" (エラー), "Warning" (警告), "Notice" (通知), "Information" (情報), "Debug" (デバッグ)の中から指定できる。</li> <li>複数指定できる。ただし、重複した重大度は指定できない。</li> </ul>
12	拡張属性	E.拡張属性名	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡張属性名には、先頭が英大文字で英大文字、数字、およびアンダーバー( )から構成される 32 バイトまでの名称を設定できる。</li> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
13	アクション種別	E.@JP1IM_ACTIONTYPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (アクション対象外) 1 (コマンド) 2 (ルール) 3 (コマンド, ルール)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
14	アクション抑止	E.@JP1IM_ACTIONCONTROL		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (アクション対象外) 1 (実行) 2 (抑止) 3 (一部抑止)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
15	重要イベント	E.@JP1IM_SEVERE		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (重要イベントではない) 1 (重要イベント)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>

2. 定義ファイル  
イベントレポート出力のフィルターファイル

項番	項目	属性名	比較キーワード	オペランド
16	関連イベント	E.@JP IIM_CORRELATE		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (関連イベントではない) 1 (関連成立イベント) 2 (関連不成立イベント)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
17	応答待ちイベント	E.@JP IIM_RESPONSE		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (応答待ちイベントではない) 1 (応答待ちイベント)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
18	重大度(変更前)	E.@JP IIM_ORIGINAL_SEVERITY	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>
19	重大度変更	E.@JP IIM_CHANGE_SEVERITY	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (重大度変更なし) 1 (重大度変更あり)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
20	対処状況	E.@JP IIM_DEALT		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (未対処) 1 (対処済) 2 (処理中) 3 (保留)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
21	重要イベント解除	E.@JP IIM_RELEASE		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (重要イベントを解除していない) 1 (重要イベントを解除している)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
22	重要イベント削除	E.@JP IIM_DISMISSED		<ul style="list-style-type: none"> <li>次の数値を指定できる。 0 (重要イベントを削除していない) 1 (重要イベントを削除している)</li> <li>複数指定できる。</li> </ul>
23	メモ	E.@JP IIM_MEMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>から始まる</li> <li>一致する</li> <li>一致しない</li> <li>を含む</li> <li>を含まない</li> <li>正規表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指定できる。 複数指定では最大 100 件指定できる。ただし、正規表現では複数指定はできない。</li> </ul>

注

統合監視 DB および IM 構成管理 DB が有効な場合に、比較キーワードが、「と一致する」「と一致しない」のとき、パス表記で業務グループ名を指定できます。  
統合監視 DB および IM 構成管理 DB が無効な場合、および [ と一致する ] [ と一致しない ] 以

外を選択した場合、パス表記で業務グループ名を指定しても、ホスト名として扱われます。  
jcoimdef コマンドの `-ignorecasehost` オプションの指定を「ON」にしている場合に、比較キーワードで [ 正規表現 ] 以外を選択すると、文字列の英大文字・小文字を区別しません。

## 定義例

```
B.ID IN 1  
B.MESSAGE SUBSTR 警告  
B.SOURCESERVER IN host1 host2 host3 host4  
OR  
B.ID IN 1  
B.MESSAGE SUBSTR エラー  
B.SOURCESERVER IN host1 host2 host3 host4  
EXCLUDE  
B.SOURCESERVER IN host3
```

## 定義ファイルのステートメントの詳細

JP1/IM の定義ファイルに記述できるステートメントの種類、構造、および指定できる値を一覧で示します。

### 注

この節の説明は次の三つの定義ファイルだけに該当します。

- イベント拡張属性定義ファイル
- アプリケーション実行定義ファイル
- 統合機能メニュー定義ファイル

### ステートメントの種類

表 2-51 ステートメントの種類

ステートメントの分類	ステートメントの種類
ファイル内ステートメント	ブロック開始ステートメント ブロック終了ステートメント ファイル属性ステートメント プロダクトステートメント
ブロック内ステートメント	機能メニューコマンドオプション定義ステートメント イベント属性定義ステートメント ブロック属性定義ステートメント 機能メニュー実行定義識別子定義ステートメント アプリケーション説明定義ステートメント グループ定義ステートメント 機能メニュー表示アイコン定義ステートメント アプリケーション実行定義識別子定義ステートメント 機能メニュー識別子定義ステートメント 機能メニュー表示名定義ステートメント 順序定義ステートメント 機能メニュー親識別子定義ステートメント アプリケーションパス定義ステートメント

### ステートメントの構造

表 2-52 ステートメントの構造

ステートメントの種類	記述形式
ブロック開始ステートメント	@define-block type= ブロック種別
ブロック終了ステートメント	@define-block-end
ファイル属性ステートメント	@file type= 定義ファイルタイプ [, version= 定義フォーマットバージョン]
プロダクトステートメント	@product name= プロダクト名
機能メニューコマンドオプション定義ステートメント	arguments= コマンド引数

ステートメントの種類	記述形式
イベント属性定義ステートメント	attr name= 属性名, title= 表示項目名 [, type= 属性表示タイプ]
ブロック属性定義ステートメント	block lang= 言語種別  platform= プラットフォーム種別  version= 適用バージョン
機能メニュー実行定義識別子定義ステートメント	execute_id= アプリケーション実行定義識別子
アプリケーション説明定義ステートメント	description= アプリケーション実行の説明文
グループ定義ステートメント	group name= グループ名, attrs= 属性名並び
機能メニュー表示アイコン定義ステートメント	icon= 表示アイコンファイル名
アプリケーション実行定義識別子定義ステートメント	id= アプリケーション実行定義識別子
機能メニュー識別子定義ステートメント	id= 機能メニュー識別子
機能メニュー表示名定義ステートメント	name= 表示名称
順序定義ステートメント	order id= イベント ID 定義文字列, attrs= 属性名並び
機能メニュー親識別子定義ステートメント	parent_id= 親機能メニュー識別子
アプリケーションパス定義ステートメント	path= コマンドパス

## ステートメント内の構成要素の生成規則

ステートメント内の構成要素に指定できる値を次に示します。

表 2-53 ステートメント内の構成要素に指定できる値

構成要素	指定できる値
16 進数値文字	0 ~ 9 および A ~ F
EUCJIS	EUCJIS
JIS	JIS
Shift-JIS	SJIS
アプリケーション実行の説明文	1 ~ 50 バイトのユーザー定義文字列
アプリケーション実行定義	application-execution-definition
アプリケーション実行定義ブロック	application-execution-def
アプリケーション実行定義識別子	1 ~ 32 バイトの半角英数字
イベント ID	1 ~ 8 バイトの 16 進数値文字

## 2. 定義ファイル

### 定義ファイルのステートメントの詳細

構成要素	指定できる値
イベント ID 定義文字列	イベント ID   イベント ID 定義文字列 列挙セパレーター イベント ID
イベントオブジェクトタイプ定義ブロック	event-object-def
イベント拡張属性定義	extended-attributes-definition
イベント属性グループ定義ブロック	event-attr-group-def
イベント属性定義ブロック	event-attr-def
イベント表示順序定義ブロック	event-attr-order-def
インターフェース名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
グループ名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
コマンドパス	ファイル名
コマンド引数	コマンド引数として意味のあるユーザー定義文字列
サブキー名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
スラント	/
スラント区切り英数字列	スラント   英数字   スラント区切り英数字列 スラント   スラント区切り英数字列 英数字
デフォルト	default
バージョン	1 ~ 7 バイトの半角英数字のバージョン文字列
バージョン記号文字	/. -
バージョン範囲指定	バージョン 空白 · 空白 バージョン
バージョン文字	英大文字   数字   バージョン記号文字
ファイル記号文字	./ ¥¥ · _ ~
ファイル名	ファイルパスとして意味のある文字列
ファイル名文字列	ファイル記号文字   英数字   ファイル名文字列 ファイル記号文字   ファイル名文字列 英数字
プラットフォーム種別	base   半角英数字列
プロダクト名	スラント区切り半角英数字列
ブロック種別	イベント属性定義ブロック   イベント属性グループ定義ブロック   イベント表示順序定義ブロック   アプリケーション実行定義ブロック
ユーザー定義文字	半角英数字   日本語文字   記号
英語	English
英字	小文字および大文字の半角英字
英小文字	a ~ z
英数字	半角の英字および数字
英大文字	A ~ Z

構成要素	指定できる値
機能ツリーノード定義ブロック	function-tree-def
統合ツリーメニュー定義	function-definition
機能メニュー識別子	1 ~ 32 バイトの半角英数字
機能メニュー識別子列	[0 ~ 9 バイトの機能メニュー識別子 列挙セパレーター] 機能メニュー識別子
言語種別	日本語   英語
親機能メニュー識別子	機能メニュー識別子
数字	0 ~ 9
説明	1 ~ 50 バイトのユーザー定義文字
属性値	1 ~ 10,000 バイトの文字
属性値タイプ	elapsed_time
属性表示タイプ	属性値タイプ / 表示フォーマット
属性名	(B E). 属性名文字列
属性名文字	半角英大文字   半角数字   _
属性名文字列	0 ~ 31 バイトの半角英大文字の属性名文字
属性名並び	属性名   属性名並び ¥   属性名
定義ファイルタイプ	イベント拡張属性定義   アプリケーション実行定義   モニター画面呼び出し定義   統合機能メニュー定義
定義フォーマットバージョン	0300
適用バージョン	ALL   バージョン   バージョン範囲指定
日時表示フォーマット	date_format: 表示タイムゾーン
日本語	Japanese
日本語文字	半角仮名を除く 2 バイト文字
日本語文字コード	Shift-JIS   EUCJIS   JIS
表示アイコンファイル名	ファイル名
表示タイムゾーン	CLIENT
表示フォーマット	日時表示フォーマット
表示項目文字	英数字   空白   -   _   日本語文字
表示項目文字列	0 ~ 64 バイトの表示項目文字列
表示項目名	表示項目文字列
表示名称	1 ~ 32 バイトのユーザー定義文字列
列挙セパレーター	¥



# 3

## JP1 イベント

この章では、JP1/IM が出力する JP1 イベントの種類とその属性について説明します。

---

3.1 JP1 イベントの属性

---

3.2 JP1/IM が出力する JP1 イベント

---

## 3.1 JP1 イベントの属性

JP1 イベントの属性を示します。JP1 イベントの属性には基本属性と拡張属性があります。

基本属性は、すべての JP1 イベントが持っている属性です。拡張属性は、JP1 イベントを発行するプログラムが独自に割り当てる属性です。

### 3.1.1 基本属性

JP1 イベントの基本属性を次の表に示します。

なお、基本属性の属性名には B.ID のように先頭に「B.」を付けて区別場合があります。設定する際に「B.」を付ける必要がある場合は、マニュアル内でそのつど説明しています。

表 3-1 JP1 イベントの基本属性

項目	属性名	内容
イベント DB 内 通し番号	SEQNO	発行元によらないでこのイベントサーバに到達した順番。
イベント ID	ID	発行アプリケーションプログラムや事象の内容を表す 8 バイトの値。
登録要因	REASON	JP1 イベントがこのイベントサーバに登録された要因。
発行元プロセス ID	PROCESSID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID。
登録時刻	TIME	発行元イベントサーバでの登録時刻。
到着時刻	ARRIVEDTIME	自イベントサーバでの登録時刻。
発行元ユーザー ID	USERID	発行元プロセスのユーザー ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元グループ ID	GROUPID	発行元プロセスのグループ ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元ユーザー 名	USERNAME	発行元プロセスのユーザー名。
発行元グループ 名	GROUPNAME	発行元プロセスのグループ名。Windows からのイベントの場合は空白となる。
発行元イベント サーバ名	SOURCESERVER	発行元のイベントサーバ名。イベントが、JP1/Base(エージェント) JP1/IM・Manager(拠点マネージャー) JP1/IM・Manager(統合マネージャー)のように転送された場合でも、最初の JP1/Base のイベントサーバ名が入る。
送信先イベント サーバ名	DESTSERVER	発行元 AP が他イベントサーバへの転送を明示して指定した場合に、他イベントサーバの名称が入る。

項目	属性名	内容
発行元 IP アドレス	SOURCEIPADDR	発行元イベントサーバに対応する IP アドレス (NAT (ネットワークアドレス変換) やプロキシを経由した場合および環境設定で転送した JP1 イベントについては正確な値ではない)。
送信先 IP アドレス	DESTIPADDR	送信先イベントサーバに対応する IP アドレス (NAT (ネットワークアドレス変換) やプロキシを経由した場合および環境設定で転送した JP1 イベントについては正確な値ではない)。
発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号 (転送によって値は変化しない)。
コードセット	CODESET	メッセージ・詳細情報・拡張属性が記述されている文字コードセット名。
メッセージ	MESSAGE	イベントの内容を表した文字列。
詳細情報	-	任意のデータ。 基本属性の詳細情報は、主にバージョン 5 以前の JP1/SES 互換のイベントを発行する製品が、詳細情報を記録する場合などに使われます。 バージョン 6 以降の製品の多くは、JP1 イベント拡張属性を使って詳細な情報を記録します。

(凡例)

- : なし

### 3.1.2 拡張属性

イベントの拡張属性とは、イベント発行元プログラムが任意に指定できる属性です。拡張属性には共通情報と固有情報があります。共通情報は JP1 プログラムで統一されている情報を示します。固有情報は共通情報以外の拡張属性を示します。

なお、拡張属性の属性名には E.SEVERITY のように先頭に「E.」を付けて区別する場合があります。設定する際に「E.」を付ける必要がある場合は、マニュアル内でそのつど説明しています。

共通情報の一覧を次の表に示します。

表 3-2 共通情報の一覧

項目	属性名	内容
重大度	SEVERITY	JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に、次の値がある。 Emergency (緊急) Alert (警戒) Critical (致命的) Error (エラー) Warning (警告) Notice (通知) Information (情報) Debug (デバッグ)

### 3. JP1 イベント

項目	属性名	内容
ユーザー名	USER_NAME	業務を実行しているユーザー名。
プロダクト名	PRODUCT_NAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。次に示すプログラム名などがある。 /HITACHI/JP1/AJS /HITACHI/JP1/FTP /HITACHI/JP1/NETMDM /HITACHI/JP1/NPS /HITACHI/JP1/NT_LOGTRAP /HITACHI/JP1/PAM /HITACHI/JP1/IM/SCOPE
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。次に示す値などがある。 JOB, JOBNET, BATCHJOB, ACTION, LIST
オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベント発行の契機となったオブジェクト（ジョブ、ジョブネットなど）の名称。
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	オブジェクトの種別。通常はオブジェクトタイプと同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの種別となる。値の範囲はオブジェクトタイプと同じ。
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。通常はオブジェクト名と同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの名称になる。
オブジェクトID	OBJECT_ID	オブジェクトID。 PRODUCT_NAME との組み合わせによってオブジェクトのインスタンスを統合システム内で一意に意識できる文字列（形式は他製品に依存する。この情報は JP1/IM・View の [ 統合機能メニュー ] 画面から各製品のモニターを呼び出すときに使用する）。
事象種別	OCCURRENCE	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。次に示す事象種別などがある。 START（実行開始） END（実行終了） PAUSE（実行の一時停止） RELEASE（一時停止の解除） RESTART（再実行の開始） CREATE（定義の作成） DESTROY（定義の削除）
開始時刻	START_TIME	実行開始または再実行開始の時刻（UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数）。この項目は設定されない場合もある。
終了時刻	END_TIME	実行終了の時刻（UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数）。この項目は設定されない場合もある。
終了コード	RESULT_CODE	10 進数文字列の終了コード。この項目は設定されない場合もある。

## 3.2 JP1/IM が出力する JP1 イベント

JP1/IM が出力するイベントについて説明します。

### 3.2.1 JP1/IM が出力する JP1 イベント一覧

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00002010	アクション遅延の監視中に、アクション実行時間が監視時間を超過した場合	KAVB4400-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクション (実行ホスト = アクション実行ホスト, アクション通し番号 = アクション通し番号) の実行時間がアクション遅延監視時間を超過しました。以降アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除するまで、遅延監視の通知を実行しません	アクション実行サービス
00002011	アクション状態の監視中に、アクション状態が「実行不可」または「実行失敗」になった場合	KAVB4402-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクション (実行ホスト = アクション実行ホスト, アクション通し番号 = アクション通し番号) の状態が異常状態になりました。以降アクション状態監視への通知機能の抑止を解除するまで、状態監視の通知を実行しません	アクション実行サービス
00002012	ヘルスチェック機能が異常を検知した場合	KAVB8060-E 機能名の異常を検知しました (ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名, プロセス ID= プロセス ID) : 保守情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントコンソールサービス</li> <li>イベント基盤サービス</li> </ul>
00002013 <sup>1</sup>	ヘルスチェック機能が異常を検知した場合	KAVB8062-E 機能名の異常を検知しました (ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名) : 保守情報	イベントコンソールサービス
00002014 <sup>2</sup>	ヘルスチェック機能が異常回復を検知した場合	KAVB8061-I 機能名が回復しました (ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名, プロセス ID= プロセス ID) : 保守情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントコンソールサービス</li> <li>イベント基盤サービス</li> </ul>
00002015	アクション遅延監視への通知抑止が解除された場合	KAVB4401-I アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除しました。以降アクション遅延監視時間を超過したアクションが発生した場合、通知機能を実行します	アクション実行サービス
00002016	アクション状態監視への通知抑止が解除された場合	KAVB4403-I アクション状態監視への通知機能の抑止を解除しました。以降アクション状態監視時間を超過したアクションが発生した場合、通知機能を実行します	アクション実行サービス

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00002020	アクション遅延の監視中に、遅延状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合	KAVB4404-E アクション（アクション通し番号 = アクション通し番号）の実行時間がアクション遅延監視時間を超過しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション遅延通知イベントを発行できませんでした。以降アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除するまで、遅延監視の通知を実行しません	アクション実行サービス
00002021	アクション状態の監視中に、異常状態となったアクションがアクション情報ファイルからラップした場合	KAVB4405-E アクションの状態が異常状態になりましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション異常状態通知イベントを発行できませんでした。以降アクション状態監視への通知機能の抑止を解除するまで、監視の通知を実行しません：保守情報	アクション実行サービス
000020A0	続行できない問題が発生したため、自動アクション処理が異常終了した場合	KAVB4054-E 自動アクション処理が異常終了しました（ホスト名：ホスト名）	アクション実行サービス
000020A1	jco_start (.model) コマンドによって、自動アクションが起動した場合。デフォルトでは発行しない。	KAVB4050-I 自動アクション処理を開始します	アクション実行サービス
000020A2	jco_stop (.model) コマンドによって、自動アクションが停止した場合。デフォルトでは発行しない。	KAVB4051-I 自動アクション処理を終了します	アクション実行サービス
000020A3	jcachange コマンドまたは画面からの操作によって、自動アクション機能が稼働状態になった場合	KAVB4055-I アクション定義ファイルを読み込み、自動アクション機能を稼働状態にしました。次に受信したイベントから、読み込んだ定義で処理されます（定義数：有効な定義数 / ファイル内の全定義数、最後に受信したイベント：到着時刻 = 最後に処理したイベントの到着時刻 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)、イベント DB 内通し番号 = 最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号）	イベント基盤サービス

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
000020A4	自動アクション機能が稼働状態から休止状態になった場合	KAVB4056-I 自動アクションを休止しました。次に受信したイベントから、自動アクションが実行されません（最後に受信したイベント：到着時刻 = 最後に処理したイベントの到着時刻 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS), イベント DB 内通し番号 = 最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号)	イベント基盤サービス
000020A5	アクション実行サービスがロケール情報の設定に失敗した場合	KAVB4909-E ロケール情報の設定に失敗しました	アクション実行サービス
000020A6	イベント基盤サービスプロセスがロケール情報の設定に失敗した場合	KAVB4909-E ロケール情報の設定に失敗しました	イベント基盤サービス
000020E0	アクションの実行を開始した場合	KAVB4430-I イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行を要求しました	アクション実行サービス
000020E1	アクションが終了した場合	KAVB4431-I イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行が終了しました (終了コード = 終了コード)	アクション実行サービス
000020E2	アクションが自動アクションまたはコマンド制御内部で異常状態になった場合	KAVB4432-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションが自動アクションまたはコマンド制御で異常終了しました	アクション実行サービス
000020E3 <sup>3</sup>	アクション状態通知イベントに対するアクションの実行要求を登録した場合	KAVB4433-I アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行を要求しました	アクション実行サービス
000020E4 <sup>3</sup>	アクション状態通知イベントに対するアクションが終了した場合	KAVB4434-I アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行が終了しました (終了コード = 終了コード)	アクション実行サービス
000020E5 <sup>3</sup>	アクション状態通知イベントに対するアクションが自動アクションまたはコマンド制御内部で異常状態になった場合	KAVB4435-E アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションが自動アクションまたはコマンド制御内部で異常終了しました	アクション実行サービス

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
000020E6 <sup>3</sup>	<p>jcocmddef コマンドで実行要求を通知する設定が有効になっている場合。アクション情報ファイルがラップしており、実行要求に対するアクション状態通知イベント (000020E0, 000020E3) が発行できなかった場合に発行する (重大度: Warning)。</p>	<p>KAVB4436-W アクションの実行を要求しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません</p>	<p>アクション実行サービス</p>
000020E7 <sup>3</sup>	<p>jcocmddef コマンドで実行終了を通知する設定が有効になっている場合。アクション情報ファイルがラップしており、実行終了に対するアクション状態通知イベント (000020E1, 000020E4) が発行できなかった場合に発行する (重大度: Warning)。</p>	<p>KAVB4437-W アクションの実行が終了しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません</p>	<p>アクション実行サービス</p>
000020E8 <sup>3</sup>	<p>jcocmddef コマンドで異常終了を通知する設定が有効になっている場合。アクション情報ファイルがラップしており、異常終了に対するアクション状態通知イベント (000020E2, 000020E5) が発行できなかった場合に発行する (重大度: Error)。</p>	<p>KAVB4438-E アクションが自動アクションまたはコマンド制御において異常終了しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません</p>	<p>アクション実行サービス</p>

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F01 <sup>1</sup>	接続ホスト上のイベントバッファに取得できるイベントがなく、イベントを表示できなかった場合	<p>KAVB1513-W 表示できなかったイベントがあります。</p> <p>表示できなかったイベントを確認するには、[ イベント検索条件設定 ] 画面を表示し、次の検索条件を指定してください。</p> <p>( 1 ) 検索ホスト名として、接続中のホスト名を指定する</p> <p>( 2 ) 登録時刻として、このイベントの前または後に表示されているイベントの登録時刻を指定する</p> <p>このイベントが頻繁に表示される場合は、次の条件に該当していないか確認し、必要があれば設定値を見直してください。</p> <p>( 1 ) [ ユーザー環境設定 ] 画面で設定されている、「表示内容の自動更新」の「更新間隔」の設定値が長い</p> <p>( 2 ) [ ユーザー環境設定 ] 画面で設定されている、「更新時のイベント取得件数」の設定値が小さい</p> <p>( 3 ) [ システム環境設定 ] 画面で設定されている、マネージャーの「イベントバッファ」の設定値が小さい</p>	イベントコンソールサービス
00003F03 <sup>1</sup>	イベントサービスからイベントを取得するときにエラーが発生した場合	<p>KAVB1516-W イベントサービスからイベントを取得するときにエラーが発生しました。</p> <p>システムプロファイルに指定された回数リトライしましたが、回復しません。このため、以降のイベントは表示されません。</p> <p>イベントサービスが起動しているか確認してください。起動していない場合は、イベントサービス起動後、マネージャーを再起動して、回復してください</p>	イベントコンソールサービス

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F04 <sup>1</sup>	バージョン 06-00 の JP1/Base の イベントサービスに対して、サポートしていない条件 (「を含む」, 「を含まない」, 「正規表現」の指定、または対処状況の複数指定) でイベントを検索した場合 バージョン 06-51 の JP1/Base の イベントサービスに対して、サポートしていない条件 (「正規表現」の指定) でイベントを検索した場合	KAVB1527-E 検索ホストで受け付けられない条件が含まれています	イベントコンソールサービス
00003F05 <sup>1</sup>	イベント検索実行時、フィルター長がイベントサービスのフィルターの最大長を超える場合	KAVB0246-E フィルター条件の最大長 (最大長) を超えて指定しています	イベントコンソールサービス
00003F06 <sup>1</sup>	イベント検索実行時、指定した正規表現が間違っている場合	KAVB0248-E 正規表現の指定が正しくありません	イベントコンソールサービス
00003F07 <sup>1</sup>	イベント基盤サービスとイベントサービス間で接続が切れた場合	KAVB4764-W イベントサービスからイベントを取得するときにエラーが発生しました。 イベントサービスが起動しているか確認してください。起動していない場合はイベントサービスを起動してください。	イベント基盤サービス
00003F08 <sup>1</sup>	除外条件を指定してイベント検索を実行した時、検索ホストの JP1/Base のバージョンが 08-11 以前だった場合	KAVB0251-E 検索ホストの JP1/Base が除外条件に対応していないため、指定された条件では検索できません	イベントコンソールサービス

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F11	<p>次に示す画面での操作，またはコマンドによって JP1 イベントの対処状況が変更になった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ イベントコンソール ] 画面</li> <li>• [ 関連イベント一覧 ] 画面</li> <li>• jcochstat コマンド</li> <li>• 応答待ちイベントに回答し，応答待ちイベントが「対処済」になった場合</li> <li>• 応答待ちイベントが BJEX からキャンセルされ，応答待ちイベントが「対処済」になった場合</li> </ul>	KAVB1577-I 対処状況の操作が行われました (操作ユーザー: JP1 ユーザー, イベント ID: イベント ID, 対処前状況: 対処前状況, 対処後状況: 対処後状況)	イベントコンソールサービス
00003F13 <sup>4</sup>	[ システム環境設定 ] 画面, [ イベント取得条件一覧 ] 画面, または jcochfilter コマンドによって, JP1/IM - Manager のイベント取得フィルター条件が変更されたことを通知する場合	KAVB4014-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名: フィルター名, 最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	イベント基盤サービス
00003F14 <sup>4</sup>	[ システム環境設定 ] 画面, [ イベント取得条件一覧 ] 画面, または jcochfilter コマンドによって, JP1/IM - Manager (インシデント登録サービス) のイベント取得フィルター条件が変更されたことを通知する場合	KAJV0179-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名: フィルター名, 最後に受信したイベント: 到着時刻 YYYY/MM/DD HH:MM:SS, イベント DB 内通し番号: イベント DB 内通し番号)	インシデント登録サービス

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
相関イベント発行定義ファイルの SUCCESS_EVENT パラメータに指定されたイベント ID	設定した相関イベント発行条件が相関イベント発行処理で成立した場合	相関イベント発行定義ファイルの SUCCESS_EVENT パラメータに指定されたメッセージ	相関イベント発行機能
相関イベント発行定義ファイルの FAIL_EVENT パラメータに指定されたイベント ID	設定した相関イベント発行条件が相関イベント発行処理で不成立になった場合	相関イベント発行定義ファイルの SUCCESS_EVENT パラメータに指定されたメッセージ	相関イベント発行機能
00003F15	統合監視 DB が有効な場合に、[重要イベント定義] 画面から JP1/IM・Central Console の重要イベント定義が変更された事を通知する場合に発行される。	KAVB1669-I 重要イベント定義ファイルを読み込みました。次に取得したイベントから読み込んだ定義で処理されます (最後に取得したイベント: 到着時刻 = 最後に取得したイベントの到着時刻, イベント DB 内通し番号 = 最後に取得したイベントのイベント DB 内通し番号)。	イベント基盤サービス
00003F16	統合監視 DB からイベントを取得するときにエラーが発生した場合	KAVB1671-W 統合監視 DB からイベントを取得するときにエラーが発生しました。システムプロファイルに指定された回数リトライしましたが、回復しません。このため、以降のイベントは表示されません	イベントコンソールサービス
00003F20 <sup>4</sup>	[システム環境設定] 画面、[イベント取得条件一覧] 画面、または jcochfilter コマンドによって、JP1/IM・Manager (相関イベント発行サービス) のイベント取得フィルター条件が変更されたことを通知する場合	KAJV2179-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名: フィルター名, 最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	相関イベント発行サービス
00003F21	jcoegschange コマンドによって、相関イベント発行定義が更新されたことを通知する場合	KAJV2242-I 相関イベント発行定義ファイル (ファイル名) を読み込み、相関イベント発行機能に反映しました	相関イベント発行サービス

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F22	JP1/IM - Manager 起動時に JP1/Base で使用 する正規表現の設 定が拡張正規表現 でない場合かつ JP1/IM - Manager の共通除 外条件群の動作 モードが拡張モー ドに設定されてい る場合	KAVB4712-W JP1/Base で使用する正規 表現を拡張していないためイベント基盤 サービスは共通除外条件群（拡張）を使 用できません。共通除外条件群（拡張） が設定されていない状態で起動します	イベントコンソ ールサービス
00003F23	JP1/IM - Manager 起動時に JP1/Base で使用 する正規表現の設 定が拡張正規表現 でない場合かつ JP1/IM - Manager の共通除 外条件群の動作 モードが拡張モー ドに設定されてい る場合	KAJV2502-W JP1/Base で使用する正規 表現を拡張していないため関連イベント 発行サービスは共通除外条件群（拡張） を使用できません。共通除外条件群（拡 張）が設定されていない状態で起動しま す	イベント関連機能
00003F24	JP1/IM - Manager 起動時に JP1/Base で使用 する正規表現の設 定が拡張正規表現 でない場合かつ JP1/IM - Manager の共通除 外条件群の動作 モードが拡張モー ドに設定されてい る場合	KAJV0502-W JP1/Base で使用する正規 表現を拡張していないためインシデント 登録サービスは共通除外条件群（拡張） を使用できません。共通除外条件群（拡 張）が設定されていない状態で起動しま す	インシデント登録 サービス
00003F25	jcoegsstart コ マンドによって、 関連イベント発行 処理を再開したこ とを通知する場合	KAJV2243-I 関連イベント発行機能を再 開しました	関連イベント発行 サービス
00003F26	jcoegsstop コマ ンドによって、相 関イベント発行 サービスを停止せ ずに関連イベント 発行処理を停止し たことを通知する 場合	KAJV2234-I 関連イベント発行機能を停 止しました	関連イベント発行 サービス

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F28	<p>           関連イベント発行サービスが発行処理している JP1 イベントの組数が上限値の 20,000 組に達した場合         </p>	<p>           KAJV2322-W 関連中の JP1 イベントの組が上限 (20000 組) に達しているため JP1 イベント ( イベント ID= イベント ID, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号 ) を関連できませんでした         </p>	<p>           関連イベント発行サービス         </p>
00003F30	<p>           インシデント登録サービスが関連処理している JP1 イベントの組数が上限値の 20,000 組に達した場合         </p>	<p>           KAJV0322-W 関連中の JP1 イベントの組が上限 (20000 組) に達しているため JP1 イベント ( イベント ID= イベント ID, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号 ) を関連できませんでした         </p>	<p>           インシデント登録サービス         </p>
00003F41	<p>           滞留できる上限を超えて応答待ちイベントが発生した場合         </p>	<p>           KAVB0551-E マネージャーで滞留している応答待ちイベントが上限 2000 件を超えました         </p>	<p>           イベントコンソールサービス         </p>
00003F42	<p>           応答待ちイベント滞留ファイルの応答待ちイベントデータの読み込みに失敗した場合         </p>	<p>           KAVB1816-W 表示できなかった応答待ちイベントがあります。            表示できなかった応答待ちイベントを確認するには、[ イベント検索条件設定 ] 画面を表示し、次の検索条件を指定してください。            ( 1 ) 検索ホスト名として、接続中のホスト名を指定する。            ( 2 ) 応答待ちイベントとして、対象を指定する。            ( 3 ) 到着時刻として、この JP1 イベントの前又は後に表示されているイベントの到着時刻を指定する。         </p>	<p>           イベントコンソールサービス         </p>
00003F51	<p>           統合監視 DB からイベントが削除された場合         </p>	<p>           KAVB1841-I 削除対象始点日から削除対象終点日のイベントを統合監視 DB から削除しました         </p>	<p>           統合監視 DB         </p>
00003F52	<p>           保存出力していないイベントが削除警告位置を超えた場合         </p>	<p>           KAVB1842-W 保存出力していないイベントが削除警告位置 ( 削除警告位置 % ) を超えました         </p>	<p>           保存出力機能         </p>
00003F53	<p>           統合監視 DB へのイベント登録処理でエラーが発生した場合         </p>	<p>           KAVB1832-E 統合監視 DB へのイベント登録処理でエラーが発生しました。統合監視 DB へのイベント登録をリトライします ( 詳細情報 : 詳細情報 )         </p>	<p>           イベント基盤サービス         </p>
00003F54	<p>           統合監視 DB へのイベント登録処理で発生していたエラーが回復した場合         </p>	<p>           KAVB1833-I 統合監視 DB へのイベント登録処理で発生していたエラーが回復しました。イベント基盤サービスはイベント取得を再開しています         </p>	<p>           イベント基盤サービス         </p>

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003F61	重大度変更定義を反映した場合 jco_spm�_reload を実行した場合	KAVB4600-I 重大度変更定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	イベント基盤サービス
00003F62	重大度変更定義を反映した場合 jco_spm�_reload を実行した場合	KAJV0250-I 重大度変更定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	インシデント登録サービス
00003F63	発生元ホストマッピング定義を反映した場合 jco_spm�_reload を実行した場合	KAVB4650-I 発生元ホストマッピング定義ファイルを読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	発生元ホストマッピング機能
00003F64	業務グループを反映した場合	KAVB8453-I 業務グループを反映しました。次に受信したイベントから処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	業務グループの参照・操作制限
00003F66	業務グループを反映した場合	KAVB8453-I 業務グループを反映しました。次に受信したイベントから処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	業務グループの参照・操作制限
00003F67	発生元ホストマッピング定義を反映した場合 jco_spm�_reload を実行した場合	KAJV0600-I 発生元ホストマッピング定義ファイルを読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	発生元ホストマッピング機能
00003F68	業務グループを反映した場合	KAVB8454-W 業務グループを反映できませんでした。(要因: 要因)	業務グループの参照・操作制限
00003F69	業務グループを反映した場合	KAVB8456-E 業務グループを反映できませんでした。(要因: 要因)	業務グループの参照・操作制限
00003FA0 <sup>5</sup>	コマンド実行制御が [ コマンド実行 ] 画面からコマンド実行要求を受け取った場合	KAVB2100-I [ ホスト名: JP1 ユーザー名 ] コマンド実行を開始しました。	JP1/Base のコマンド実行
00003FA1 <sup>5</sup>	[ コマンド実行 ] 画面から実行要求されたコマンドが実行完了した場合	KAVB2101-I [ ホスト名: JP1 ユーザー名 ] コマンド実行が終了しました。	JP1/Base のコマンド実行

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003FA2 <sup>5</sup>	[ コマンド実行 ] 画面から実行要求されたコマンドが、何らかの原因で実行されなかった場合	KAVB2102-E [ ホスト名 : JP1 ユーザー名 ] コマンド実行が異常終了しました。	JP1/Base のコマンド実行
00003FA3 <sup>5</sup>	jcocmdddef コマンドで経過時間イベント発行間隔を指定している場合。 [ コマンド実行 ] 画面および自動アクションから実行要求されたコマンドが、経過時間イベント発行間隔を超えて実行している場合。	KAVB2402-W [ ホスト名 ] コマンド実行の実行時間が数値秒を超えました	JP1/Base のコマンド実行
00003FA5 <sup>5</sup>	jcocmdddef コマンドでコマンド先行入力数のしきい値が設定されている場合。自動アクションの先行入力数がしきい値に達した場合。	KAVB2071-W 実行先ホスト名で実行元ホスト名から要求されたコマンドの先行入力数が閾値 [xx 件] を超えました。	JP1/Base のコマンド実行
00003FA6 <sup>5</sup>	jcocmdddef コマンドでコマンド先行入力数のしきい値が設定されている場合。自動アクションの先行入力数が 0 になった場合。	KAVB2072-I 実行先ホスト名で実行元ホスト名から要求されたコマンドの先行入力数が 0 件になりました。	JP1/Base のコマンド実行
00003FB0	監視ノードの状態が変更された場合	KAVB7900-I 監視ノード名の状態が状態から状態に変わりました。	セントラルスコープサービス
00003FB1	監視ノードの状態変更イベントが表示数の上限に達した場合	KAVB7901-W 監視ノード (監視ノード ID) の状態変更イベントの件数が上限を超えました	セントラルスコープサービス
00003FC0	リモート監視のログファイルトラップがログファイルの監視を開始できない場合	KNAN26102-E リモートログファイルトラップを開始出来ません。(詳細コード : エラー番号, 監視対象ホスト名 : 監視対象ホスト名, 監視名 : 監視名)	リモート監視機能

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003FC1	リモート監視のログファイルトラップの読み込みリトライ回数がしきい値をオーバーし、該当ログファイルの監視を停止した場合	KNAN26094-E 指定された回数リトライ処理を行いましたが、該当ログファイルの読み込みが出来ないため監視を停止します。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名, ログファイル名: ログファイル名)	リモート監視機能
00003FC2	リモート監視のログファイルトラップのログファイルの状態が異常となった場合	KNAN26095-E 該当ログファイルを正しく監視することが出来ない状態になりました。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名, ログファイル名: ログファイル名)	リモート監視機能
00003FC3	リモート監視のログファイルトラップが異常終了した場合	KNAN26057-E 続行できないエラーが発生したため、リモートログファイルトラップを停止します。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名)	リモート監視機能
00003FC5	リモート監視のログファイルトラップで収集したログファイルの差分データが、ログの取得上限を超えている場合	KNAN26140-W リモートログファイルトラップにおいて、監視対象のログファイルから収集したデータのサイズが制限値を超えました。前回収集日時から今回収集日時までに出力されているログは、JP1 イベントとして出力されません。(監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名, ログファイル名: ログファイル名, 前回収集日時: 前回収集日時, 今回収集日時: 今回収集日時)	リモート監視機能
00003FD0	リモート監視のイベントログトラップが Windows イベントの監視を開始できない場合	KNAN26107-E リモートイベントログトラップを開始出来ません。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	リモート監視機能
00003FD1	リモート監視のイベントログトラップの読み込みリトライ回数がしきい値をオーバーし、該当 Windows イベントの監視を停止した場合	KNAN26028-E 指定された回数リトライ処理を行いましたが、イベントログの読み込みが出来ないためリモート監視を停止します。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	リモート監視機能
00003FD2	イベントログの収集をリトライした場合	KNAN26027-I イベントログの読み込みをリトライします。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	リモート監視機能

### 3. JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ	発行元機能
00003FD3	リモート監視のイベントログトラップが異常終了した場合	KNAN26002-E 続行できないエラーが発生したため、リモートイベントログトラップを停止します。(詳細コード: エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	リモート監視機能
00003FD4	イベントログの収集リトライにより、イベントログの収集に成功した場合	KNAN26026-I イベントログの監視が可能になりました。(監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	リモート監視機能
00003FD5	リモート監視のイベントログトラップで収集したイベントログの差分データが、ログの取得上限を超えている場合	KNAN26142-W リモートイベントログトラップにおいて、監視対象ホストから収集したイベントログのサイズが制限値を超えました。前回収集日時から今回収集日時までに出力されているイベントログは、JP1 イベントとして出力されません。(監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 前回収集日時: 前回収集日時, 今回収集日時: 今回収集日時)	リモート監視機能
ACTDEF パラメーターに指定されている値	AP のログファイルのレコードを検知した場合	ログファイルの 1 行分のデータの内容	リモート監視機能
00003A71	Windows イベントのログメッセージを検知した場合	イベントログのメッセージ	リモート監視機能
00003F90 <sup>6</sup>	プロセスが異常終了した場合	KAVB3737-E コンポーネント名の管理対象プロセス名は異常終了しました	JP1/IM - Manager のプロセス管理
00003F91 <sup>6</sup>	プロセス起動時にタイムアウトした場合	KAVB3613-W コンポーネント名の管理対象プロセス名の起動がタイムアウトしました。処理を継続します	JP1/IM - Manager のプロセス管理
00003F92 <sup>6</sup>	異常終了したプロセスが再起動完了した場合	KAVB3616-I コンポーネント名の管理対象プロセス名の再起動が完了しました	JP1/IM - Manager のプロセス管理

注 1 これらのイベントはダミーイベントです。次の制限事項があります。

- [ イベントコンソール ] 画面のイベント検索で検索できません。
- イベントの詳細を表示した場合、JP1 イベントの基本属性および拡張属性は表示されません。
- このイベントに自動アクションを設定しても、アクションは実行されません。
- このイベントにイベント情報マッピングを定義しても、マッピングされません。
- このイベントは、モニター起動の対象外です。
- このイベントは、イベント取得フィルターのフィルター対象外です。
- このイベントは、関連イベントの発行処理の対象外です。

注 2 JP1/Base のイベントサービス ( jvservice ) の回復を検知した場合のメッセージは、「 KAVB8063-I 機能名 が回復しました ( ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名 ) : 保守情報」です。

注 3 これらのイベントには、次の制限事項があります。

- このイベントに自動アクションを設定しても、アクションは実行されません。

注 4 これらのイベントには、次の制限事項があります。

- このイベントは、イベント取得フィルターのフィルター対象外です。

注 5 JP1/Base のコマンド実行が発行する JP1 イベントです。JP1 イベントの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の JP1 イベントを説明している章を参照してください。

注 6 プロセスの異常時に JP1 イベントを発行させる設定をした場合にだけ発行されます。JP1 イベントを発行させたい場合は、IM パラメータ定義ファイルを編集したあと、jbssetcnf コマンドを実行してください。定義ファイルの詳細については「IM パラメータ定義ファイル (jplco\_param\_v7.conf)」(2. 定義ファイル) を、設定手順についてはマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.19.2 JP1/IM - Manager の障害に備えた設定」(Windows の場合)、「2.18.5 JP1/IM - Manager の障害に備えた設定」(UNIX の場合) を参照してください。

## 3.2.2 JP1 イベントの詳細

### (1) イベント ID : 00002010 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 空白</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名
発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4400-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクション (実行ホスト= アクション実行ホスト, アクション通し番号= アクション通し番号) の実行時間がアクション遅延監視時間を超過しました。以降アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除するまで、遅延監視の通知を実行しません	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
		環境変数ファイル	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名
		アクション通し番号	ACTION_SEQNO	アクション通し番号
		アクション契機イベント ID	SRC_EVENT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント ID
	投入時刻	SEND_TIME	アクションの実行要求を送信した時刻	

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (2) イベント ID : 00002011 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	発行元イベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4402-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクション (実行ホスト= アクション実行ホスト, アクション通し番号= アクション通し番号) の状態が異常状態になりました。以降アクション状態監視への通知機能の抑止を解除するまで、状態監視の通知を実行しません
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE ACTION

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN	
	オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号	
	ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー	
	終了時刻	END_TIME	アクションが異常終了した時刻	
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE	
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
		環境変数ファイル	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名
		アクション通し番号	ACTION_SEQNO	アクション通し番号
		アクション契機イベント ID	SRC_EVENT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント ID

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (3) イベント ID : 00002012 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白

属性種別		項目	属性名	内容
		発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名
		発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号
		メッセージ	-	KAVB8060-E機能名の異常を検知しました(ホスト名=ホスト名, プロセス名=プロセス名, プロセスID=プロセスID): 保守情報
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/HEALTHCHECK
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	JCOHC
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	異常が検知された機能名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	ホスト名	HOST_NAME	ホスト名
		プロセス名	PROCESS_NAME	プロセス名
		プロセスID	PROCESS_ID	プロセスID

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (4) イベント ID : 00002013 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザーID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループID	GROUPID	-1 ~ 65,535

### 3. JP1 イベント

属性種別		項目	属性名	内容
		発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
		発行元グループ名	GROUPNAME	空白
		発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	発行元イベントサーバ名
		発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号
		メッセージ	-	KAVB8062-E 機能名の異常を検知しました(ホスト名=ホスト名, プロセス名=プロセス名): 保守情報
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/HEALTHCHECK
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	JCOHC
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	異常が検知された機能名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	ホスト名	HOST_NAME	ホスト名
		プロセス名	PROCESS_NAME	プロセス名
		プロセスID	PROCESS_ID	プロセスID

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

#### (5) イベント ID : 00002014 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
		発行元プロセスID	PROCESSID	0
		登録時刻	TIME	登録時刻
		到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
		発行元ユーザーID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB8061-I 機能名 が回復しました (ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名, プロセス ID = プロセス ID): 保守情報 <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/HEALTHCHECK
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	JCOHC
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	回復された機能名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	ホスト名	HOST_NAME	ホスト名
		プロセス名	PROCESS_NAME	プロセス名
		プロセス ID	PROCESS_ID	プロセス ID

(凡例)

- : なし

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

注 2 JP1/Base のイベントサービス (jevservice) の回復を検知した場合のメッセージは, 「KAVB8063-I 機能名 が回復しました (ホスト名 = ホスト名, プロセス名 = プロセス名): 保守情報」です。

### (6) イベント ID : 00002015 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4401-I アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されず。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (7) イベント ID : 00002016 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4403-I アクション状態監視への通知機能の抑止を解除しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

( 凡例 )

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### ( 8 ) イベント ID : 00002020 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4404-E アクション (アクション通し番号 = アクション通し番号) の実行時間がアクション遅延監視時間を超過しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション遅延通知イベントを発行できませんでした。以降アクション遅延監視への通知機能の抑止を解除するまで、遅延監視の通知を実行しません	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション通し番号	ACTION_SEQNO	アクション通し番号

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (9) イベント ID : 00002021 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
メッセージ	MESSAGE	KAVB4405-E アクションの状態が異常状態になりましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション異常状態通知イベントを発行できませんでした。以降アクション状態監視への通知機能の抑止を解除するまで、状態監視の通知を実行しません：保守情報	

### 3. JP1 イベント

属性種別		項目	属性名	内容
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー
		終了時刻	END_TIME	アクションが異常終了した時刻
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション通し番号
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
環境変数ファイル名		EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名	

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (10) イベント ID : 000020A0 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4054-E 自動アクション処理が異常終了しました (ホスト名: ホスト名)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	TERMINATE

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (11) イベント ID : 000020A1 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセスID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザーID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが起動した論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4050-I 自動アクション処理を開始します	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	START

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (12) イベント ID : 000020A2 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	自動アクションが動作していた論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4051-I 自動アクション処理を終了します	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	TERMINATE

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (13) イベント ID : 000020A3 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4055-1 アクション定義ファイルを読み込み、自動アクション機能を稼働状態にしました。次に受信したイベントから、読み込んだ定義で処理されます（定義数 / 全定義数、最後に受信したイベント：到着時刻 = 最後に処理したイベントの到着時刻 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)、イベント DB 内通し番号 = 最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号） <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 自動アクションがイベントを受信していない場合は、「YYYY/MM/DD HH:MM:SS」および「最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号」には「-」が表示されます。

#### (14) イベント ID : 000020A4 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻

属性種別	項目	属性名	内容	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4056-I 自動アクションを休止しました。次に受信したイベントから、自動アクションが実行されません（最後に受信したイベント：到着時刻 = 最後に処理したイベントの到着時刻 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS), イベント DB 内通し番号 = 最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号） <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	STANDBY

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 自動アクションがイベントを受信していない場合は、「YYYY/MM/DD HH:MM:SS」および「最後に処理したイベントのイベント DB 内通し番号」には「..」が表示されます。

### (15) イベント ID : 000020A5 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 空白</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	問題のあった自動アクションプロセスが動作していた論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4909-E ロケール情報の設定に失敗しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	ERROR

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (16) イベント ID : 000020A6 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	イベント基盤サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	問題のあったイベント基盤サービスプロセスが動作していた論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4909-E ロケール情報の設定に失敗しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	ERROR

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

3. JP1 イベント

(17) イベント ID : 000020E0 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4430-I イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行を要求しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー
	開始時刻	START_TIME	アクションの実行要求が完了した時刻
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
	アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態 「RUNNING」
	実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
	環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (18) イベント ID : 000020E1 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4431-I イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベントDB内通し番号) に対するアクションの実行が終了しました (終了コード= 終了コード)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベントDB内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行するJP1ユーザー
		終了時刻	END_TIME	アクションの実行要求が完了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	アクションの終了コード
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「ENDED」
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
		環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (19) イベント ID : 000020E2 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4432-E イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションが自動アクションまたはコマンド制御で異常終了しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー
		終了時刻	END_TIME	アクションが異常終了した時刻

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
	アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「ERROR」または「FAIL」
	異常終了詳細情報	ERROR_INFO	異常の内容を示すメッセージ
	実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
	環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名
	エラー要因	EXECERR	異常時の保守情報

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (20) イベント ID : 000020E3 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4433-I アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベントDB内通し番号) に対するアクションの実行を要求しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクトID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベントDB内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行するJP1ユーザー
		開始時刻	START_TIME	アクションの実行要求が完了した時刻
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「RUNNING」
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
		環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (21) イベント ID : 000020E4 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 空白</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4434-I アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベント DB 内通し番号) に対するアクションの実行が終了しました (終了コード= 終了コード)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	終了時刻	END_TIME	アクションの実行要求が完了した時刻
	終了コード	RESULT_CODE	アクションの終了コード
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
	アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「ENDED」
	実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
	環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (22) イベント ID : 000020E5 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別		項目	属性名	内容
		発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名
		発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号
		メッセージ	-	KAVB4435-E アクション状態通知イベント (EVENT_ID= イベント ID, SEQNO= イベントDB内通し番号) に対するアクションが自動アクションまたはコマンド制御内部において異常終了しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		オブジェクトID	OBJECT_ID	アクションの契機となったイベントのイベントDB内通し番号
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行するJP1ユーザー
		終了時刻	END_TIME	アクションが異常終了した時刻
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「ERROR」または「FAIL」
		異常終了詳細情報	ERROR_INFO	異常の内容を示すメッセージ
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
		環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名
エラー要因		EXECERR	異常時の保守情報	

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (23) イベント ID : 000020E6 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4436-W アクションの実行を要求しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません：保守情報	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		ユーザー名	USER_NAME	アクションを実行する JP1 ユーザー

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	開始時刻	START_TIME	アクションの実行要求が完了した時刻
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
	アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態 「RUNNING」
	実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド
	環境変数ファイル名	EXECENV	実行時に使用する環境変数ファイル名

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (24) イベント ID : 000020E7 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	-	KAVB4437-W アクションの実行が終了しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません：保守情報
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME JCAMAIN
		終了時刻	END_TIME アクションが実行終了した時刻
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS アクションの状態「ENDED」
		実行コマンド	EXECCMD 実行要求したコマンド

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (25) イベント ID : 000020E8 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	自動アクションが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB4438-E アクションが自動アクションまたはコマンド制御において異常終了しましたが、アクション情報ファイルにアクションの情報が存在しないためアクション状態通知イベントが発行できません：保守情報	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCAMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ACTION
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCAMAIN
		終了時刻	END_TIME	アクションが異常終了した時刻
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	アクション実行ホスト	EXECHOST	アクション実行ホスト名
		アクション状態	ACTION_STATUS	アクションの状態「ERROR」または「FAIL」
		異常終了詳細情報	ERROR_INFO	異常の内容を示すメッセージ
		実行コマンド	EXECCMD	実行要求したコマンド

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

## (26) イベント ID : 00003F01 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	取得できるイベントの到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	0
	発行元グループ ID	GROUPID	0
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	メッセージ	MESSAGE	<p>KAVB1513-W 表示できなかったイベントがあります。表示できなかったイベントを確認するには、[ イベント検索条件設定 ] 画面を表示し、次の検索条件を指定してください。</p> <p>( 1 ) 検索ホスト名として、接続中のホスト名を指定する  ( 2 ) 登録時刻として、このイベントの前または後に表示されているイベントの登録時刻を指定する</p> <p>このイベントが頻繁に表示される場合は、次の条件に該当していないか確認し、必要があれば設定値を見直してください。</p> <p>( 1 ) [ ユーザー環境設定 ] 画面で設定されている、「表示内容の自動更新」の「更新間隔」の設定値が長い  ( 2 ) [ ユーザー環境設定 ] 画面で設定されている、「更新時のイベント取得件数」の設定値が小さい  ( 3 ) [ システム環境設定 ] 画面で設定されている、マネージャの「イベントバッファ」の設定値が小さい</p>
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE EVENT
		オブジェクト名	OBJECT_NAME ¥SYSTEM¥ALL
		事象種別	OCCURRENCE LOST

#### ( 27 ) イベント ID : 00003F03 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー ID	USERID	0	
	発行元グループ ID	GROUPID	0	
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1516-W イベントサービスからイベントを取得するときにエラーが発生しました。 システムプロファイルに指定された回数リトライしましたが、回復しません。このため、以降のイベントは表示されません。 イベントサービスが起動しているか確認してください。起動していない場合は、イベントサービス起動後、マネージャを再起動して、回復してください	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベントサービス
		事象種別	OCCURRENCE	DISCONNECT

## (28) イベント ID : 00003F04 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	0

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元グループ ID	GROUPID	0
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1527-E 検索ホストで受け付けられない条件が含まれています
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME イベントサーピス
		事象種別	OCCURRENCE PARAM_ERROR

#### (29) イベント ID : 00003F05 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	0
	発行元グループ ID	GROUPID	0
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0	

属性種別		項目	属性名	内容
		メッセージ	MESSAGE	KAVB0246-E フィルター条件の最大長（最大長）を超えて指定しています
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベントサービス
		事象種別	OCCURRENCE	OVER_LENGTH

## (30) イベント ID : 00003F06 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
		発行元プロセス ID	PROCESSID	0
		登録時刻	TIME	登録時刻
		到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻
		発行元ユーザー ID	USERID	0
		発行元グループ ID	GROUPID	0
		発行元ユーザー名	USERNAME	空白
		発行元グループ名	GROUPNAME	空白
		発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
		発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0
	メッセージ	MESSAGE	KAVB0248-E 正規表現の指定が正しくありません	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベントサービスまたは IM データベース
		事象種別	OCCURRENCE	REGEXP_ERROR

3. JP1 イベント

( 31 ) イベント ID : 00003F07 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	0
	発行元グループ ID	GROUPID	0
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4764-W イベントサービスからイベントを取得するときにエラーが発生しました。 イベントサービスが起動しているか確認してください。起動していない場合はイベントサービスを起動してください。
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME イベントサービス
		事象種別	OCCURRENCE DISCONNECT

( 32 ) イベント ID : 00003F08 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	0	
	発行元グループ ID	GROUPID	0	
	発行元ユーザー名	USERNAME	空白	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB0251-E 検索ホストの JP1/Base が除外条件に対応していないため、指定された条件では検索できません	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベントサービス
		事象種別	OCCURRENCE	EXCLUDE_ERROR

## (33) イベント ID : 00003F11 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	発生時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1577-1 対処状況の操作が行われました (操作ユーザー: JP1 ユーザー <sup>2</sup> , イベント ID: イベント ID, 対処前状況: 対処前状況 <sup>3</sup> , 対処後状況: 対処後状況 <sup>3</sup> )	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVTCON
		事象種別	OCCURRENCE	PROCESS
	固有情報	対処イベントのイベントDB内通し番号	PROCESSUPDATE_SEQNO	イベント DB 内通し番号 (対処状況を変更した JP1 イベントのイベント DB 内通し番号: 10 進数)
		対処イベントの発行元イベントDB内通し番号	PROCESSUPDATE_ORIGINALSEQNO	発行元イベント DB 内通し番号 (対処状況を変更した JP1 イベントの発行元イベント DB 内通し番号: 10 進数)
		対処イベントの重大度	PROCESSUPDATE_SEVERITY	重大度 (対処状況を変更した JP1 イベント重大度: Emergency, Alert, Critical, Error, Warning, Notice, Information, Debug のどれか)
		対処イベントの発行元イベントサーバ名	PROCESSUPDATE_SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名 (対処状況を変更した JP1 イベントが発行されたイベントサーバ名)
		対処イベントのメッセージ	PROCESSUPDATE_MESSAGE	メッセージ (対処状況を変更した JP1 イベントのメッセージ)

属性種別	項目	属性名	内容
	対処イベントの登録時刻	PROCESSUPDATE _TIME	登録時刻（対処状況を変更した JP1 イベントの登録時刻：MM/DD HH:MM:SS の形式でイベント詳細画面へ表示）

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 JP1 ユーザーは、状況に応じて次のように表示が変わります。

- 07-51 以降の JP1/IM - View から対処状況を変更した場合：対処状況を変更した JP1 ユーザー
- 07-50 以前の JP1/IM - View から対処状況を変更した場合：-
- jcochstat コマンドによって対処状況を変更した場合：jcochstat
- 応答待ちイベントに回答したことで対処状況が変更された場合：system
- 応答待ちイベントがキャンセルされたことで対処状況が変更された場合：system

注 3 対処前状況，対処後状況は，対処操作によって，次のように表示が変わります。

- 対処済：PROCESSED
- 未対処：UNPROCESSED
- 処理中：PROCESSING
- 保留：HELD
- 対処済 削除：PROCESSED+DELETE
- 未対処 削除：UNPROCESSED+DELETE
- 処理中 削除：PROCESSING+DELETE
- 保留 削除：HELD+DELETE

### (34) イベント ID : 00003F13 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	発生時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4014-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名: フィルター名, 最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベントDB内通し番号 = イベントDB内通し番号)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

#### (35) イベント ID : 00003F14 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	発生時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザーID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	インシデント登録サービスが動作している論理ホスト名
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAJV0179-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名: フィルター名, 最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベントDB内通し番号 = イベントDB内通し番号)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/JCDMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME JCDMAIN
		事象種別	OCCURRENCE RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (36) 関連イベント発行定義ファイルの SUCCESS\_EVENT パラメーターに指定されたイベント ID の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	IDBASE	ユーザーが定義したイベント ID (0 ~ 1FFF および 7FFF8000 ~ 7FFFFFFF で任意に設定可能)
	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535



属性種別		項目	属性名	内容
		発行元プロセス ID	PROCESSID	0
		登録時刻	TIME	登録時刻
		到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
		発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
		発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
		発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
		発行元グループ名	GROUPNAME	空白
		発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名
		発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
拡張属性	共通情報	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ GENERATE_EVENT
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
		事象種別	OCCURRENCE	FAIL
	固有情報	関連イベント DB 内通し番号	JP1_GENERATE_SOURCE_SEQNO	関連イベントのイベント DB 内通し番号を半角スペース ( ) で区切って、次のように設定する。 イベント DB 内通し番号 1 イベント DB 内通し番号 2 ... イベント DB 内通し番号 n (n は 1 ~ 100 の値)
		関連イベント発行条件名	JP1_GENERATE_NAME	不成立になった関連イベント発行条件名

注 関連イベントの属性には、この表に記載されていない属性も定義できます。詳細については、「関連イベント発行定義ファイル」(2. 定義ファイル)を参照してください。

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (38) イベント ID : 00003F15 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	3F15

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	アクション実行サービスのプロセス ID	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535<sup>1</sup></li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 -1 ~ 65,535<sup>1</sup></li> <li>• UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 空白</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1669-I 重要イベント定義ファイルを読み込みました。次に取得したイベントから読み込んだ定義で処理されます（最後に取得したイベント：到着時刻 = 最後に取得したイベントの到着時刻，イベント DB 内通し番号 = 最後に取得したイベントのイベント DB 内通し番号） <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 イベント基盤サービスがイベントを受信していない場合は、「最後に取得したイベントの到着時刻」および「最後に取得したイベントのイベント DB 内通し番号」には「..」が表示されます。

### (39) イベント ID : 00003F16 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント DB 内通し番号	SEQNO	-1
		発行元プロセス ID	PROCESSID	0
		登録時刻	TIME	登録時刻
		到着時刻	ARRIVEDTIME	エラーの発生時刻
		発行元ユーザー ID	USERID	0
		発行元グループ ID	GROUPID	0
		発行元ユーザー名	USERNAME	空白
		発行元グループ名	GROUPNAME	空白
		発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
		発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	0
		メッセージ	MESSAGE	KAVB1671-W 統合監視 DB からイベントを取得するときにエラーが発生しました。システムプロファイルに指定された回数リトライしましたが、回復しません。このため、以降のイベントは表示されません
拡張属性	共通知報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	IM Database
		事象種別	OCCURRENCE	DISCONNECT

### 3. JP1 イベント

#### (40) イベント ID : 00003F20 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPLD	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	関連イベント発行サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV2179-I イベント取得条件定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(フィルター名:フィルター名,最後に受信したイベント:到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

## (41) イベント ID : 00003F21 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPLD	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	関連イベント発行サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV2242-I 関連イベント発行定義ファイル (ファイル名) を読み込み, 関連イベント発行機能に反映しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

## (42) イベント ID : 00003F22 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作している論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4712-W JP1/Base で使用する正規表現を拡張していないためイベント基盤サービスは共通除外条件群（拡張）を使用できません。共通除外条件群（拡張）が設定されていない状態で起動します
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Notice
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE Notice

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (43) イベント ID : 00003F23 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作している論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAJV2502-W JP1/Base で使用する正規表現を拡張していないため関連イベント発行サービスは共通除外条件群（拡張）を使用できません。共通除外条件群（拡張）が設定されていない状態で起動します
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Notice
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME EGS
		事象種別	OCCURRENCE Notice

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (44) イベント ID : 00003F24 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV0502-W JP1/Base で使用する正規表現を拡張していないためインシデント登録サービスは共通除外条件群（拡張）を使用できません。共通除外条件群（拡張）が設定されていない状態で起動します	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Notice
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCDMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCDMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	Notice

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (45) イベント ID : 00003F25 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	相関イベント発行サービスが動作している論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV2243-I 相関イベント発行機能を再開しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
		事象種別	OCCURRENCE	START

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (46) イベント ID : 00003F25 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザーID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	相関イベント発行サービスが動作している論理ホスト名

### 3. JP1 イベント

属性種別		項目	属性名	内容
		発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
		メッセージ	MESSAGE	KAJV2243-I 関連イベント発行機能を再開しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
		事象種別	OCCURRENCE	START

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (47) イベント ID : 00003F26 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号		SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID		PROCESSID	0
	登録時刻		TIME	登録時刻
	到着時刻		ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID		USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID		GROUPLD	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名		USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名		GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名		SOURCESERVER	関連イベント発行サービスが動作している論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号		SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ		MESSAGE	KAJV2234-I 関連イベント発行機能を停止しました
	拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY
プロダクト名			PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EGS

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
	事象種別	OCCURRENCE	STOP

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (48) イベント ID : 00003F28 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAJV2322-W 関連中の JP1 イベントの組が上限 (20000 組) に達しているため JP1 イベント ( イベント ID = イベント ID, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号 ) を相関できませんでした
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/EGS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EGS
	事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 00003F28 は、JP1 イベントの組数が上限に達した時点で1度出力されます。そのあと、JP1 イベントの組数が16,000組以下になるまでは、組数が上限に達しても出力されません。

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (49) イベント ID : 00003F30 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV0322-W 相関中の JP1 イベントの組が上限 (20000 組) に達しているため JP1 イベント (イベント ID= イベント ID, イベント DB 内通し番号= イベント DB 内通し番号) を相関できませんでした	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EDS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EDS
	事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 00003F30 は、JP1 イベントの組数が上限に達した時点で1度出力されます。そのあと、JP1 イベントの組数が16,000組以下になるまでは、組数が上限に達しても出力されません。

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (50) イベント ID : 00003F41 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	発生時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB0551-E マネージャーで滞留している応答待ちイベントが上限 2000 件を超えました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVTCON
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

### 3. JP1 イベント

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (51) イベント ID : 00003F42 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	発生時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPLD	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	<p>KAVB1816-W 表示できなかった応答待ちイベントがあります。</p> <p>表示できなかった応答待ちイベントを確認するには、[ イベント検索条件設定 ] 画面を表示し、次の検索条件を指定してください。</p> <p>( 1 ) 検索ホスト名として、接続中のホスト名を指定する。</p> <p>( 2 ) 応答待ちイベントとして、対象を指定する。</p> <p>( 3 ) 到着時刻として、この JP1 イベントの前又は後に表示されているイベントの到着時刻を指定する。</p>
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVTCON
	事象種別	OCCURRENCE	PROCESS

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (52) イベント ID : 00003F51 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	ID	00003F51	
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元グループ ID	GROUPLD	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	イベントが発行されたイベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1841-I 削除対象始点日から削除対象終点日のイベントを統合監視 DB から削除しました <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Notice
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	削除対象始点日	DEL_STARTDAY	削除対象始点日の通算秒 (MM/DD hh:mm:ss の形式で イベント詳細画面へ表示す る)
	削除対象終点日	DEL_ENDDAY	削除対象終点日の通算秒 (MM/DD hh:mm:ss の形式で イベント詳細画面へ表示す る)

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 KAVB1841-I メッセージの削除対象始点日、削除対象終点日は、YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。

#### (53) イベント ID : 00003F52 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F52
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPLD	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1842-W 保存出力していないイベントが削除警告位置 (削除警告位置 %) を超えました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (54) イベント ID : 00003F53 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	登録ホスト名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1832-E 統合監視 DB へのイベント登録処理でエラーが発生しました。統合監視 DB へのイベント登録をリトライします (詳細情報: 詳細情報)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE

#### (55) イベント ID : 00003F54 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	登録ホスト名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	メッセージ	MESSAGE	KAVB1833-I 統合監視 DB へのイベント登録処理で発生していたエラーが回復しました。イベント基盤サービスはイベント取得を再開しています
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

#### (56) イベント ID : 00003F61 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	ID	00003F61	
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名, または論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4600-I 重大度変更定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号) <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
	事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 KAVB4600-I メッセージの到着時刻は、YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には、JP1/IM - Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

### (57) イベント ID : 00003F62 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	ID	00003F62	
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名、または論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAJV0250-I 重大度変更定義を読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号) <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCDMAIN
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCDMAIN
	事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 KAJV0250-I メッセージの到着時刻は、YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には、JP1/IM - Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

#### (58) イベント ID : 00003F63 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F63
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名、または論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号

属性種別	項目	属性名	内容
	メッセージ	MESSAGE	KAVB4650-I 発生元ホストマッピング定義ファイルを読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号) <sup>2</sup>
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 KAVB4650-I メッセージの到着時刻は、YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には、JP1/IM・Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

### (59) イベント ID : 00003F64 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F64
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているホスト名, または論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB8453-I 業務グループを反映しました。次に受信したイベントから処理されます。 (最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号) <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVFLOW
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVFLOW
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

注 2 KAVB8453-I メッセージの到着時刻は, YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には, JP1/IM・Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

#### (60) イベント ID : 00003F66 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F66
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	インシデント登録サービスが動作しているホスト名、または論理ホスト名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB8453-I 業務グループを反映しました。次に受信したイベントから処理されます。 (最後に受信したイベント：到着時刻 = 到着時刻, イベントDB内通し番号 = イベントDB内通し番号) <sup>2</sup>	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/JCDMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	JCDMAIN
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

注 2 KAVB8453-I メッセージの到着時刻は、YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には、JP1/IM - Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

### (61) イベント ID : 00003F67 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F67
	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535 <sup>1</sup>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名, または論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAJV0600-I 発生元ホストマッピング定義ファイルを読み込みました。次に受信したイベントから読み込んだ定義で処理されます。(最後に受信したイベント: 到着時刻 = 到着時刻, イベント DB 内通し番号 = イベント DB 内通し番号) <sup>2</sup>
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ JCDMAIN
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME JCDMAIN
		事象種別	OCCURRENCE RUN

注 1 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

注 2 KAVB0600-I メッセージの到着時刻は, YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式で置き換えます。到着時刻には, JP1/IM・Manager が動作しているマシンで設定されているタイムゾーンに従った時刻が設定されます。

#### (62) イベント ID : 00003F68 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F68
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0	
	登録時刻	TIME	登録時刻	
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻	
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535	
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名、または論理ホスト名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	MESSAGE	KAVB8454-W 業務グループを反映できませんでした。(要因: 要因)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	EVTCON
		事象種別	OCCURRENCE	RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (63) イベント ID : 00003F69 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	ID	00003F69
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	0
	登録時刻	TIME	登録時刻

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	-1 ~ 65,535
	発行元グループ ID	GROUPID	-1 ~ 65,535
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合 SYSTEM</li> <li>• UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	空白
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベント基盤サービスが動作しているサーバ名, または論理ホスト名
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	MESSAGE	KAVB8456-E 業務グループを反映できませんでした。(要因: 要因)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ EVENTCONSOLE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME EVTCON
		事象種別	OCCURRENCE RUN

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合, -1 が設定されます。

#### (64) イベント ID : 00003FB0 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	メッセージ	MESSAGE	KAVB7900-I 監視ノード名の状態が状態から状態に変わりました。
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/SCOPE
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SERVICE

属性種別	項目	属性名	内容	
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	IM_CS	
	事象種別	OCCURRENCE	STATUS_CHANGE	
	固有情報	監視ノード ID	MON_NODE_ID	監視ノードの ID
		監視ノード名	MON_NODE_NAME	監視ノードの名称
		監視ノードの状態 1	MON_NODE_STAT US	監視ノードの StatusID
状態変更の元とな った JP1 イベントの 情報 <sup>2</sup>		属性名	属性値（基本属性には JCS_B_ が、拡張属性には JCS_E_ の接頭字が付加さ れる）。	

注 1 「監視ノードの状態 (E.MON\_NODE\_STATUS)」には、JP1 イベントを発行した監視ノードの状態が、StatusID と呼ぶ次の数値に格納されます。

StatusID (監視ノードの状態) の値

緊急：800，警戒：700，致命的：600，エラー：500，警告：400，正常：300，デバッグ：200，初期状態：100

例えば、監視ノードの状態が緊急に変化した時に発行された JP1 イベントは、監視ノードの状態 (E.MON\_NODE\_STATUS) =800 になります。

注 2 「状態変更の元となった JP1 イベントの情報」は、JP1/IM - View で確認できません。なお、「状態変更の元となった JP1 イベントの情報」には、状態変更の契機となった JP1 イベントの情報が属性名・属性値の組み合わせですべて格納されます。この結果、00003FB0 が JP1 イベントの最大値 (10,000 バイト) を超えた場合、最大値を超えない分だけ、状態変更の契機となった JP1 イベントの情報を格納します。また、拡張属性が 100 個を超える場合も、100 個以内に収まる範囲内で JP1 イベントの情報を格納します。「状態変更の元となった JP1 イベント」の情報のうち、「状態変更の元となった JP1 イベントの登録時刻 (E.JCS\_B\_TIME)」および「状態変更の元となった JP1 イベントの到着時刻 (E.JCS\_B\_ARRIVEDTIME)」は、GMT で yyyy/mm/dd hh:mm:ss の形式で格納されます。

### (65) イベント ID : 00003FB1 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	イベントが発行されたイベントサーバ名
	イベント ID	-	00003FB1
	メッセージ	-	KAVB7901-W 監視ノード (監視ノード ID ) の状態変更イベントの件数が上限を超えました。
拡張属性	共 thông 情報	重大度	SEVERITY WARNING
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/SCOPE

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	IM_CS
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	監視ノード ID	MON_NODE_ID	監視ノードの ID
	状態変更イベントの件数	EVHIST_NUMBER	状態変更イベントの件数

(凡例)

- :なし

注 1件のJP1 イベントを契機にして、複数の監視オブジェクトの状態変更イベントが100件を超えた場合でも、このときに発行されるJP1 イベント(イベントID = 00003FB1)は1件だけです。メッセージ情報の監視ノードIDの部分に監視オブジェクトのIDが最大10件、コンマ区切りで列挙されます。10件を超えた場合は、IDの後ろに(...)が付加されます。

#### (66) イベント ID : 00003FC0 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003FC0
	メッセージ	-	KNAN26102-E リモートログファイルトラップを開始出来ません。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名:監視対象ホスト名, 監視名:監視名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	Windows の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP  UNIX の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP
	オブジェクトタイ プ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視名
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_T YPE	LOGFILE
	登録名	ROOT_OBJECT_N AME	監視名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	監視停止時刻	WATCH_STOP_TI ME	ログファイル監視を停止した 時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (67) イベント ID : 00003FC1 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003FC1
	メッセージ	-	KNAN26094-E 指定された回数リトライ処理を行いました が、該当ログファイルの読み込みが出来ないため監視を停止します。(詳細コード: エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名, ログファイル名: ログファイル名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	Windows の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP  UNIX の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP
	オブジェクトタイ プ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視名
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_T YPE	LOGFILE
	登録名	ROOT_OBJECT_N AME	監視名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	監視停止時刻	WATCH_STOP_TI ME	ログファイル監視を停止した 時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (68) イベント ID : 00003FC2 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003FC2
	メッセージ	-	KNAN26095-E 該当ログ ファイルを正しく監視することが出来ない状態になりました。 ( 詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名:監視 対象ホスト名, 監視名:監視 名, ログファイル名:ログ ファイル名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	Windows の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP  UNIX の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP
	オブジェクトタイ プ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視名
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_T YPE	LOGFILE
	登録名	ROOT_OBJECT_N AME	監視名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	異常検知時刻	WATCH_CHECK_T IME	ログファイルの異常を検知し た時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (69) イベント ID : 00003FC3 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003FC3
	メッセージ	-	KNAN26057-E 続行できないエラーが発生したため、リモートログファイルトラップを停止します。(詳細コード: エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名, 監視名: 監視名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	Windows の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP  UNIX の場合： jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。  jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP
	オブジェクトタイ プ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視名
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_T YPE	LOGFILE
	登録名	ROOT_OBJECT_N AME	監視名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	異常検知時刻	WATCH_CHECK_T IME	ログファイルの異常を検知し た時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (70) イベント ID : 00003FC5 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003FC5
	メッセージ	-	KNAN26140-W リモートログファイルトラップにおいて、監視対象のログファイルから収集したデータのサイズが制限値を超えました。前回収集日時から今回収集日時までに出力されているログは、JP1 イベントとして出力されません。(監視対象ホスト名 : 監視対象ホスト名, 監視名 : 監視名, ログファイル名 : ログファイル名, 前回収集日時 : 前回収集日時, 今回収集日時 : 今回収集日時)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning

属性種別	項目	属性名	内容
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	<p>Windows の場合 :</p> <p>jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。</p> <p>jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NT_LOGTRAP</p> <p>UNIX の場合 :</p> <p>jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定した場 合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP/ プロ グラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したロ グデータ出力元プログラム 名。</p> <p>jcfallogstart コマンドの -p オプションを指定してい ない場合 /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_UX_LOGTRAP</p>
	オブジェクトタイ プ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視名
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_T YPE	LOGFILE
	登録名	ROOT_OBJECT_N AME	監視名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
固有情報	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOS T	監視対象ホスト名

### 3. JP1 イベント

#### (71) イベント ID : 00003FD0 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	00003FD0
		メッセージ	-	KNAN26107-E リモートイベントログトラップを開始出来ません。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	エラー検知時刻	ERROR_TIME	エラーの発生した時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
		エラー発生 API 名	ERROR_FUNCTION	エラーの発生した Windows の API 名
		エラー要因	ERROR_CAUSE_ID	エラー要因コード
		監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (72) イベント ID : 00003FD1 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	00003FD1
		メッセージ	-	KNAN26028-E 指定された回数リトライ処理を行いましたが、イベントログの読み込みが出来ないためリモート監視を停止します。(詳細コード:エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error

属性種別	項目	属性名	内容	
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP	
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE	
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象ホスト名	
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE	
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象ホスト名	
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE	
	固有情報	エラー検知時刻	ERROR_TIME	エラーの発生した時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
		エラー発生 API 名	ERROR_FUNCTION	エラーの発生した Windows の API 名
		エラー要因	ERROR_CAUSE_ID	エラー要因コード
		監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

## (73) イベント ID : 00003FD2 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	-	00003FD2	
	メッセージ	-	KNAN26027-I イベントログ の読み込みをリトライしま す。(詳細コード: エラー番 号, 監視対象ホスト名: 監視 対象ホスト名)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象ホスト名

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
固有情報	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	エラー検知時刻	ERROR_TIME	エラーの発生した時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )
	エラー発生 API 名	ERROR_FUNCTION	エラーの発生した Windows の API 名
	エラー要因	ERROR_CAUSE_ID	エラー要因コード
	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (74) イベント ID : 00003FD3 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	-	00003FD3	
	メッセージ	-	KNAN26002-E 続行できないエラーが発生したため、リモートイベントログトラップを停止します。(詳細コード: エラー番号, 監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error	
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP	
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE LOGFILE	
		オブジェクト名	OBJECT_NAME 監視対象ホスト名	
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE LOGFILE	
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME 監視対象ホスト名	
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE	
	固有情報	エラー検知時刻	ERROR_TIME	エラーの発生した時刻 ( UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 )
		エラー要因	ERROR_CAUSE_ID	エラー要因コード
		監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

## (75) イベント ID : 00003FD4 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	00003FD4
		メッセージ	-	KNAN26026-I イベントログの監視が可能になりました。 (監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/ REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	固有情報	エラー検知時刻	ERROR_TIME	エラーの発生した時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
		回復時刻	RECOVER_TIME	エラーから回復した時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
		エラー要因	ERROR_CAUSE_ID	エラー要因コード
		監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

## (76) イベント ID : 00003FD5 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	00003FD5

### 3. JP1 イベント

属性種別		項目	属性名	内容
		メッセージ	-	KNAN26142-W リモートイベントログトラップにおいて、監視対象ホストから収集したイベントログのサイズが制限値を超えました。前回収集日時から今回収集日時までに出力されているイベントログは、JP1 イベントとして出力されません。(監視対象ホスト名:監視対象ホスト名, 前回収集日時:前回収集日時, 今回収集日時:今回収集日時)
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/REMOTE_NTEVENT_LOGTRAP
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象ホスト名
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE	
	固有情報	監視対象ホスト名	JP1_SOURCEHOST	監視対象ホスト名

#### (77) イベント ID : ACTDEF パラメーターに指定されている値

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	ACTDEF パラメーターに指定されている値
		メッセージ	-	ログファイル 1 行分のログデータの内容
		イベント発行時刻	-	イベントを発行した時刻
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	動作定義ファイルの ACTDEF パラメーターで指定された重大度

属性種別	項目	属性名	内容	
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	Windows の場合 : <ul style="list-style-type: none"> <li>jevlogstart コマンドの -p オプションを指定した場合 /HITACHI/JP1/NT_LOGTRAP/ プログラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したログデータ出力元プログラム名</li> <li>jevlogstart コマンドの -p オプションを指定していない場合 /HITACHI/JP1/NT_LOGTRAP</li> </ul> UNIX の場合 : <ul style="list-style-type: none"> <li>jevlogstart コマンドの -p オプションを指定した場合 /HITACHI/JP1/UX_LOGTRAP/ プログラム名 プログラム名は jevlogstart コマンドの -p オプションで指定したログデータ出力元プログラム名</li> <li>jevlogstart コマンドの -p オプションを指定していない場合 /HITACHI/JP1/UX_LOGTRAP</li> </ul>	
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE	
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	監視対象のログファイル名	
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE	
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	監視対象のログファイル名	
	固有情報	プラットフォーム	PLATFORM	Windows の場合 : NT UNIX の場合 : UNIX
		PP 名	PPNAME	標準モードの場合 /HITACHI/JP1/IM/AGENTLESS/LOGTRAP
		ホスト名	JP1_SOURCEHOST	イベント発生元ホスト名 (監視対象ホスト名)

### 3. JP1 イベント

(凡例)

- : なし

#### (78) イベント ID : 00003A71 の詳細

属性種別		項目	属性名 (WMIの属性名)	内容
基本属性		イベントID	-	00003A71
		メッセージ	- (Message または InsertionStrings)	イベントログのメッセージ 最大 1,023 バイト。超えた分 は切り捨て。
		イベント発行時刻	-	イベントを発行した時刻
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY (EventType)	イベントログの種別に応じて 登録する。 Error : エラー Warning : 警告 Information : 情報, 詳細, その他 Notice : 監査成功, 監査失敗
		発行元プロダクト名	PRODUCT_NAME (SourceName)	/HITACHI/JP1/ NTEVENT_LOGTRAP/ ソース
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	LOGFILE
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	NTEVENTLOG
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	LOGFILE
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	NTEVENTLOG
	固有情報	イベントログ登録日時	A0 (TimeGenerated)	time_t 型 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの 秒数)
		コンピュータ名	A1 (ComputerName)	コンピュータ名の値
		種別	A2 (Logfile)	チャンネル名
		種類	A3 (Type)	レベルに対応する値
		分類	A4 (CategoryString または Category)	タスクのカテゴリの値
		イベントID	A5 (EventCode)	イベントログのイベントID の値

属性種別	項目	属性名 (WMIの属性名)	内容
	ユーザー名	A6 (User)	イベントログのユーザー名の値
	プラットフォーム	PLATFORM	NT
	PP名	PPNAME	標準モードの場合 /HITACHI/JP1/IM/ AGENTLESS/ EVENTLOGTRAP

(凡例)

- : なし

注 イベントログの説明文を記載したメッセージ DLL が正しく設定されていない場合は、挿入句や詳細コードをダブルクォーテーションマーク (") で囲んで JP1 イベントのメッセージに登録します。

### (79) イベント ID : 00003F90 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003F90
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	jco_spmドのプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>
発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号
	メッセージ	-	KAVB3737-E コンポーネント名の管理対象プロセス名は異常終了しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME 異常終了したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

#### (80) イベント ID : 00003F91 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003F91
	イベント DB 内通し番号	SEQNO	イベント DB 内通し番号
	発行元プロセス ID	PROCESSID	jco_spmd のプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザー ID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESEVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベントDB内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベントDB内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB3613-W コンポーネント名のプロセス名の起動がタイムアウトしました。処理を継続します	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	起動タイムアウトしたプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

### (81) イベント ID : 00003F92 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	00003F92
	イベントDB内通し番号	SEQNO	イベントDB内通し番号
	発行元プロセスID	PROCESSID	jco_spmd のプロセス ID
	登録時刻	TIME	登録時刻
	到着時刻	ARRIVEDTIME	到着時刻
	発行元ユーザーID	USERID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>

### 3. JP1 イベント

属性種別	項目	属性名	内容	
	発行元グループ ID	GROUPID	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 -1 ~ 65,535</li> <li>UNIX の場合 0</li> </ul>	
	発行元ユーザー名	USERNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 SYSTEM</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元グループ名	GROUPNAME	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の場合 空白</li> <li>UNIX の場合 root</li> </ul>	
	発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元イベントサーバ名	
	発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元イベント DB 内通し番号	
	メッセージ	-	KAVB3616-I コンポーネント名の管理対象プロセス名の再起動が完了しました	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	再起動したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

(凡例)

- : なし

注 JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルに指定した代用ユーザー ID および代用グループ ID が設定されます。指定していない場合、-1 が設定されます。

# 4

## システム監視オブジェクト 一覧（セントラルスコープ 用）

この章では、JP1/IM で提供しているシステム監視オブジェクトについて説明します。

システム監視オブジェクトとは、システムが提供している監視オブジェクトで、製品ごとに基本的な設定項目があらかじめ定義されています。

この章で説明する監視ツリーや監視オブジェクトに関する機能、および表の見方については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2 監視ツリー」を参照してください。また、監視ツリーや監視オブジェクトの設定手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「5.3 監視ツリーを GUI で作成する」を参照してください。

---

4.1 システム監視オブジェクト対応製品一覧

---

4.2 JP1/AJS 用システム監視オブジェクト

---

4.3 JP1/Cm2/SSO 用システム監視オブジェクト

---

4.4 JP1/PFM 用システム監視オブジェクト

---

4.5 JP1/PAM 用システム監視オブジェクト

---

4.6 JP1/SCIM 用システム監視オブジェクト

---

4.7 JP1/NETM/DM 用システム監視オブジェクト

---

4.8 JP1/Cm2/NNMi 用システム監視オブジェクト

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

---

4.9 JP1/Cm2/NNM 用システム監視オブジェクト

---

4.10 JP1/IM - Manager 用システム監視オブジェクト

---

4.11 Cosminexus 用システム監視オブジェクト

---

4.12 HiRDB 用システム監視オブジェクト

---

4.13 JP1/ServerConductor 用システム監視オブジェクト

---

## 4.1 システム監視オブジェクト対応製品一覧

JP1/IM - Manager がシステム監視オブジェクトを提供している製品と自動生成機能への対応を次の表に示します。

表 4-1 JP1/IM - Manager がシステム監視オブジェクトを提供している製品と自動生成機能への対応状況

製品名	自動生成機能への対応
JP1/AJS2 07-00 以降, JP1/AJS3 09-00	対応済み <sup>3</sup>
JP1/Cm2/SSO バージョン 7 またはバージョン 8 <sup>1 2</sup>	対応済み <sup>3</sup>
JP1/Cm2/SSO (JP1/APM) 07-00 以降 <sup>1 2</sup>	対応済み <sup>3</sup>
JP1/PFM 07-00 以降	対応済み <sup>3</sup>
JP1/PAM 07-00 以降	未対応
JP1/SCIM 07-00 以降	未対応
JP1/NETM/DM 07-00 以降	未対応
JP1/Cm2/NNM バージョン 7 またはバージョン 8 <sup>2</sup>	未対応
JP1/Cm2/NNMi	未対応
JP1/IM - Central Console 07-00 以降	対応済み <sup>3</sup>
Cosminexus 06-00 以降	対応済み <sup>3</sup>
HiRDB 07-02 以降	未対応
JP1/ServerConductor 07-50 以降	未対応

注 1 バージョン 7 時の製品名称は, JP1/PFM/SSO です。

注 2 連携製品のインストールホスト上にバージョン 7 またはバージョン 8 の JP1/Base が必要です。

注 3 自動生成するには, 連携製品のインストールホスト上に 07-00 以降の JP1/Base が必要です。また, JP1/IM - Manager と同バージョンの JP1/IM - View が必要です。

## 4.2 JP1/AJS 用システム監視オブジェクト

JP1/AJS 用のシステム監視オブジェクトには、「AJS 監視」と「ジョブネット監視 (AJS)」があります。

### 4.2.1 「AJS 監視」システム監視オブジェクト

表 4-2 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	AJS 監視	
目的	JP1/AJS 自身の障害の監視， ジョブネットの実行状態の監視	
基本情報	オブジェクト名	ジョブネットの完全名（スケジューラサービス名：/ ジョブネット名） （例）AJSROOT1：/ 業務 A/ 受注処理
	ホスト名	JP1/AJS - Manager がインストールされているマネー ジャーのホスト名 （例）host01

表 4-3 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
ジョブネット警告のイベント (AJS)	警告	ジョブネット警告のイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004108, 00004122, 00004123
		オブジェクト ID (E.OBJECT_NAME)		基本情報のオブジェクト名
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名
ジョブネットエラーのイベント (AJS)	エラー	ジョブネットエラーのイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004104, 00004131, 00004142, 00004143, 00004144
		オブジェクト ID (E.OBJECT_NAME)		基本情報のオブジェクト名
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名
システム警告のイベント (AJS)	警告	システム警告のイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004154, 00004164, 00004171, 000041F1
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システムエラーのイベント (AJS)	エラー	システムエラーのイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004110, 00004130, 00004152, 00004162, 00004170, 000041F0, 000041F3
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.2.2 「ジョブネット監視 (AJS)」システム監視オブジェクト

表 4-4 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	ジョブネット監視 (AJS)	
目的	ジョブの実行状態の監視	
基本情報	ジョブ実行ホスト	ジョブを実行するホストのホスト名 (例) jpl-agent
	発行元イベントサーバ	JP1/AJS - Manager がインストールされているホストのホスト名 (例) jpl-manager
	登録名	ルートジョブネットの完全名 (スケジューラーサービス名: / ルートジョブネット名) (例) AJSROOT1: / 業務 A / 受注処理

表 4-5 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
ジョブ警告のイベント (AJS)	警告	ジョブ警告のイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004109
		登録名 (E.ROOT_OBJECT_NAME)		基本情報の登録名
		実行先ホスト名 (E.CO)		基本情報のジョブ実行ホスト
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報の発行元イベントサーバ
ジョブエラーのイベント (AJS)	エラー	ジョブエラーのイベント (AJS)	イベント ID (B.ID)	00004107
		登録名 (E.ROOT_OBJECT_NAME)		基本情報の登録名

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件	
条件名	状態	条件	比較する値
		実行先ホスト名（E.CO）	基本情報のジョブ実行ホスト
		発行元イベントサーバ名 （E.SOURCESERVER）	基本情報の発行元イベント サーバ

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.3 JP1/Cm2/SSO 用システム監視オブジェクト

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO 用のシステム監視オブジェクトには、「SSO 監視」と「カテゴリー監視 (SSO)」および「アプリケーション監視 (SSO)」があります。なお、バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO 用システム監視オブジェクトを監視する場合、次の設定をする必要があります。

- バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO は JP1 イベントを発行しないため、JP1/Cm2/SSO がバージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM に対して発行している SNMP トラップを JP1/Base の機能を利用して JP1 イベントに変換する必要があります。この変換のときに、SNMP トラップのパリアブルバインディングを取り込むよう JP1/Base の SNMP トラップ変換機能で設定する必要があります。
- 「アプリケーション監視 (SSO)」の監視をする場合、バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO の定義ファイル (ssoapmon.def) に、SNMP トラップのパリアブルバインディングのソース名を取り込むよう設定する必要があります。

### (1) 「SSO 監視」システム監視オブジェクト

表 4-6 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	SSO 監視	
目的	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO 自身の障害の監視	
基本情報	ホスト名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO がインストールされている監視サーバのホスト名 (例) host01

表 4-7 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システム警戒のイベント (SSO)	警戒	システム警戒のイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .15 <sup>2</sup>
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND6)		基本情報のホスト名

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システムエラーのイベント (SSO)	エラー	システムエラーのイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .13 <sup>2</sup>
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND6)		基本情報のホスト名

注 1 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

注 2 「~」には、「.iso.org.dod.internet.private.enterprises.hitachi.systemAP.comet.sso.0」が入ります。

#### (2) 「カテゴリー監視 (SSO)」システム監視オブジェクト

表 4-8 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	カテゴリー監視 (SSO)	
目的	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO が監視しているリソース状態の監視	
基本情報	カテゴリー名	カテゴリー名
	イベント発行元ホスト	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO がインストールされている監視サーバのホスト名 (例) host01
	ホスト名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO が監視対象としているサーバのホスト名 (例) host02

表 4-9 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
リソース警戒のイベント (SSO)	警戒	リソース警戒のイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .24 <sup>2</sup>
		ソース名 (E.SNMP_VARBIND12)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND11)		基本情報のイベント発行元ホスト
		カテゴリー名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のカテゴリー名

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
リソースエラーのイベント (SSO)	エラー	リソースエラーのイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~.(21 23) <sup>2</sup>
		ソース名 (E.SNMP_VARBIND12)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND11)		基本情報のイベント発行元ホスト
		カテゴリ名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のカテゴリ名

注 1 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

注 2 「~」には、「.iso.org.dod.internet.private.enterprises.hitachi.systemAP.comet.sso.0」が入ります。

### (3) 「アプリケーション監視 (SSO)」システム監視オブジェクト

表 4-10 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	アプリケーション監視 (SSO)	
目的	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO で監視しているアプリケーションの状態の監視	
基本情報	イベント発行元ホスト	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO がインストールされている監視サーバのホスト名 (例) host01
	アプリケーション名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO が監視対象としているアプリケーションの名称 (例) JP1/PFM
	ホスト名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/SSO が監視対象としているリソース収集対象サーバのホスト名です。 (例) host02

4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

表 4-11 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
アプリケーション警戒のイベント (SSO)	警戒	アプリケーション警戒のイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~.(109 112 115) <sup>2</sup>
		ソース名 (E.SNMP_VARBIND3)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のイベント発行元ホスト
		アプリケーション名 (E.SNMP_VARBIND1)		基本情報のアプリケーション名
アプリケーションエラーのイベント (SSO)	エラー	アプリケーションエラーのイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~.(108 110 111 113 116 118) <sup>2</sup>
		ソース名 (E.SNMP_VARBIND3)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のイベント発行元ホスト
		アプリケーション名 (E.SNMP_VARBIND1)		基本情報のアプリケーション名
プロセス監視障害警戒のイベント (SSO)	警戒	プロセス監視障害警戒のイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~.304 <sup>2</sup>
		監視対象マシンのホスト名 (E.SNMP_VARBIND1)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト (E.SNMP_VARBIND4)		基本情報のイベント発行元ホスト
プロセス監視障害エラーのイベント (SSO)	エラー	プロセス監視障害エラーのイベント (SSO) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~.303 <sup>2</sup>
		監視対象マシンのホスト名 (E.SNMP_VARBIND1)		基本情報のホスト名
		イベント発行元ホスト (E.SNMP_VARBIND4)		基本情報のイベント発行元ホスト

注 1 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

注 2 「~」には、「.iso.org.dod.internet.private.enterprises.hitachi.systemAP.comet.sso.0」が入ります。

## 4.4 JP1/PFM 用システム監視オブジェクト

JP1/PFM 用のシステム監視オブジェクトには、「エージェント監視 (PFM)」があります。

なお、JP1/PFM 用システム監視オブジェクトを監視する場合、次の設定をする必要があります。

- JP1/PFM - Manager からの事象を管理するには、JP1/PFM - Manager のアラームの設定で、アラーム状態が変化したときに、コマンド実行のアクションで JP1 イベントを発行するよう設定が必要です。これは、デフォルトでは JP1 イベントを発行しない設定になっているためです。

### 4.4.1 「エージェント監視 (PFM)」システム監視オブジェクト

表 4-12 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	エージェント監視 (PFM)	
目的	JP1/PFM のエージェントの状態の監視	
基本情報	オブジェクト ID	JP1/PFM のエージェントのサービス ID (例) TA1host01
	発行元イベントサーバ	JP1/PFM - Manager がインストールされているホストのホスト名 (例) pfm-manager
	ホスト名	JP1/PFM - Agent がインストールされているホストのホスト名 (例) pfm-agent

表 4-13 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> 、個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
リソースエラーのイベント (PFM)	エラー	リソースエラーのイベント (PFM) <sup>2</sup>	重大度 (E.SEVERITY)	Error
			プロダクト名 (E.PRODUCT_NAME)	/PFM/ALARM_EVENT
		オブジェクト ID (E.OBJECT_ID)		基本情報のオブジェクト ID
		アラーム発生ホスト名 (E.JPC_AGENT)		基本情報のホスト名
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)	基本情報の発行元イベントサーバ	

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
リソース警告のイベント (PFM)	警告	リソース警告のイベント (PFM) <sup>1</sup>	重大度 (E.SEVERITY)	Warning
			プロダクト名 (E.PRODUCT_NAME)	/PFM/ALARM_EVENT
		オブジェクト ID (E.OBJECT_ID)		基本情報のオブジェクト ID
		アラーム発生ホスト名 (E.JPC_AGENT)		基本情報のホスト名
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報の発行元イベントサーバ

注 1 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

注 2 サービス ID に含まれるプロダクト ID と機能 ID で，JP1/PFM のサービスを判別します。次に，対応するサービスを示します。

- プロダクト ID が「P」（PFM-Manager）以外のサービス。
- 機能 ID が「A」（Agent Collector）のサービス。

## 4.5 JP1/PAM 用システム監視オブジェクト

JP1/PAM 用のシステム監視オブジェクトには、「メトリック監視 (PAM)」と「オブジェクト監視 (PAM)」があります。

### 4.5.1 「メトリック監視 (PAM)」システム監視オブジェクト

表 4-14 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	メトリック監視 (PAM)	
目的	JP1/PAM のメトリックの状態を監視	
基本情報	ホスト名	JP1/PAM の監視対象ホストのホスト名 (例) host1

表 4-15 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
メトリックエラーのイベント (PAM)	エラー	メトリックエラーのイベント (PAM)	イベント ID (B.ID)	00004602, 00004604, 0000460B
		ホスト名 (E.PAM_HOSTNAME)		基本情報のホスト名
メトリック警告のイベント (PAM)	警告	メトリック警告のイベント (PAM)	イベント ID (B.ID)	00004600, 00004603, 00004609
		ホスト名 (E.PAM_HOSTNAME)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

### 4.5.2 「オブジェクト監視 (PAM)」システム監視オブジェクト

表 4-16 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明
監視ノード種別	オブジェクト監視 (PAM)
目的	JP1/PAM が管理するオブジェクトの状態の監視

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

項目	説明	
基本情報	ホスト名	JP1/PAM の監視対象ホストのホスト名 (例) host1

表 4-17 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
オブジェクトエラーのイベント (PAM)	エラー	オブジェクトエラーのイベント (PAM)	イベント ID (B.ID)	00004620 , 00004625
		ホスト名 (E.PAM_HOSTNAME)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.6 JP1/SCIM 用システム監視オブジェクト

JP1/SCIM 用のシステム監視オブジェクトには、「SCIM 監視」と「セキュリティ監視（SCIM）」があります。

### 4.6.1 「SCIM 監視」システム監視オブジェクト

表 4-18 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	SCIM 監視	
目的	JP1/SCIM 自身の障害の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/SCIM - Manager がインストールされている SCIM マネージャーのホスト名 (例) host1

4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

表 4-19 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システムエラー のイベント (SCIM)	エラー	システムエラーの イベント (SCIM)	イベント ID ( B . ID )	0000430B , 0000430C , 0000430D , 0000430E , 0000430F , 00004311 , 00004312 , 00004313 , 00004314 , 00004315 , 00004318 , 00004319 , 0000431A , 0000431B , 0000431C , 0000431D , 0000431E , 0000431F , 00004320 , 00004321 , 00004322 , 00004323 , 00004325 , 00004326 , 00004327 , 00004328 , 00004329 , 0000432A , 0000432D , 0000432E , 0000432F , 00004330 , 00004331 , 00004332 , 00004335 , 00004336 , 00004337 , 00004338 , 0000433B , 0000433C , 0000433D , 0000433E , 00004341 , 00004342 , 00004343 , 00004344 , 00004374 , 00004376 , 00004378 , 0000437C , 0000437E , 00004380 , 00004381 , 00004382 , 00004383 , 00004384 , 00004386 , 00004388 , 00004389 , 0000438A , 0000438C
		発行元イベントサーバ名 ( B . SOURCE . SERVER )		基本情報のホスト名
システム警告の イベント (SCIM)	警告	システム警告のイ ベント (SCIM)	イベント ID ( B . ID )	00004308 , 00004309 , 00004333 , 00004339 , 0000433F , 00004346 , 00004373
		発行元イベントサーバ名 ( B . SOURCE . SERVER )		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.6.2 「セキュリティ監視（SCIM）」システム監視オブジェクト

表 4-20 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	セキュリティ監視（SCIM）	
目的	JP1/SCIM が監視しているセキュリティ製品の状態の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/SCIM - Runtime Library がインストールされている SCIM エージェントのホスト名 (例) host01

表 4-21 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
セキュリティエラーのイベント（SCIM）	エラー	セキュリティエラーのイベント（SCIM）	イベント ID (B.ID)	0000432B
		エージェントホスト名 (E.SCIM_AGENT_ADDR)		基本情報のホスト名
セキュリティ警告のイベント（SCIM）	警告	セキュリティ警告のイベント（SCIM）	イベント ID (B.ID)	0000432C
		エージェントホスト名 (E.SCIM_AGENT_ADDR)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.7 JP1/NETM/DM 用システム監視オブジェクト

JP1/NETM/DM 用のシステム監視オブジェクトには、「NETM/DM 監視」と「配布ジョブ監視 (NETM/DM)」があります。

### 4.7.1 「NETM/DM 監視」システム監視オブジェクト

表 4-22 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	NETM/DM 監視	
目的	JP1/NETM/DM Manager 自身の障害の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/NETM/DM Manager がインストールされているマネージャーのホスト名 (例) host01

表 4-23 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システム致命的イベント (NETM/DM)	致命的	システム致命的のイベント (NETM/DM)	イベント ID (B.ID)	00010401
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCE.SERVER)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

### 4.7.2 「配布ジョブ監視 (NETM/DM)」システム監視オブジェクト

表 4-24 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	配布ジョブ監視 (NETM/DM)	
目的	JP1/NETM/DM による配布ジョブの実行状態の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/NETM/DM Manager がインストールされているマネージャーのホスト名 (例) host01

表 4-25 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
配布ジョブエラーのイベント (NETM/DM)	エラー	配布ジョブエラーのイベント (NETM/DM)	イベント ID (B.ID)	00010403
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCE.SERVER)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.8 JP1/Cm2/NNMi 用システム監視オブジェクト

JP1/Cm2/NNMi 用のシステム監視オブジェクトには、「NNMi 監視 (NNMi)」と「ノード監視 (NNMi)」があります。なお、JP1/Cm2/NNMi が発行する NNMi インシデントの監視にあたって、Management インシデントと SNMP トラップの区別は行いません。

「NNMi 監視 (NNMi)」または「ノード監視 (NNMi)」を使用する場合は、JP1/IM - EG for NNMi が発行する NNMi インシデントを変換した JP1 イベントに、拡張属性「NNMI\_FAMILY\_UK」を設定してください。

拡張属性「NNMI\_FAMILY\_UK」を設定しない場合、「NNMi 監視 (NNMi)」または「ノード監視 (NNMi)」による監視ができません。

拡張属性「NNMI\_FAMILY\_UK」の設定および NNMi インシデントの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i」を参照してください。

### 4.8.1 「NNMi 監視 (NNMi)」システム監視オブジェクト

表 4-26 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	「NNMi 監視 (NNMi)」	
目的	JP1/Cm2/NNMi 自身の障害の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/Cm2/NNMi がインストールされているマネージャーのホスト名 (例) host01

表 4-27 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システム警戒のイベント (NNMi)	警戒	システム警戒のイベント (NNMi)	イベント ID (B.ID)	00006100
		イベント発生ノード名 (E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME)		ホスト名
システム致命的のイベント (NNMi)	致命的	システム致命的のイベント (NNMi)	イベント ID (B.ID)	00006100

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
		イベント発生ノード名 ( E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME )		ホスト名
システム警告のイベント (NNMi)	警告	システム警告のイベント (NNMi)	イベント ID ( B.ID )	00006100
		イベント発生ノード名 ( E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME )		ホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.8.2 「ノード監視 (NNMi)」システム監視オブジェクト

表 4-28 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	ノード監視 (NNMi)	
目的	JP1/Cm2/NNMi が監視するノードの状態の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/Cm2/NNMi が監視しているノードのホスト名 (例) host01

表 4-29 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
ネットワーク警戒のイベント (NNMi)	警戒	ネットワーク警戒のイベント (NNMi)	イベント ID ( B.ID )	00006100
		イベント発生ノード名 ( E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME )		基本情報のホスト名
ネットワーク致命的のイベント (NNMi)	致命的	ネットワーク致命的のイベント (NNMi)	イベント ID ( B.ID )	00006100
		イベント発生ノード名 ( E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME )		基本情報のホスト名
ネットワーク警告のイベント (NNMi)	警告	ネットワーク警告のイベント (NNMi)	イベント ID ( B.ID )	00006100

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件	
条件名	状態	条件	比較する値
		イベント発生ノード名 ( E.NNMI_SOURCE_NODE_NAME )	基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.9 JP1/Cm2/NNM 用システム監視オブジェクト

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM 用のシステム監視オブジェクトには、「NNM 監視」と「ノード監視 (NNM)」があります。

### (1) 「NNM 監視」システム監視オブジェクト

表 4-30 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	NNM 監視	
目的	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM 自身の障害の監視	
基本情報	ホスト名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM がインストールされているマネージャーのホスト名 (例) host01

表 4-31 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> 、個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システム警戒のイベント (NNM)	警戒	システム警戒のイベント (NNM) 1	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ . (50790429   58851330   59179066   59179227   59179229   59179230   40000020) <sup>2</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)	基本情報のホスト名	
システム致命的イベント (NNM)	致命的	システム致命的イベント (NNM) 1	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ . (58720265   58720270   58851329   58851332   59179058   59181005   59181006   59179225   59179228   59179232   59179234   59180002   59180005   59180100   59181002   59181004   58982397   58982398   58982401   58982402   58982415   58982417   58982422   59179061   40000028   58720263) <sup>2</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)	基本情報のホスト名	

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> ，個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システムエラーのイベント (NNM)	エラー	システムエラーのイベント (NNM) 1	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .58720266 59047936 59179226 59179233 59179235 58982408 58982414 50790430 40000021) <sup>1</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)	基本情報のホスト名	
システム警告のイベント (NNM)	警告	システム警告のイベント (NNM) 1	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .40000027 58982399 59179065) <sup>2</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)	基本情報のホスト名	

注 1 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

注 2 「~」には、「.iso.org.dod.internet.private.enterprises.hp.nm.openView.hpOpenView.0」が入ります。

#### (2) 「ノード監視 (NNM)」システム監視オブジェクト

表 4-32 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	ノード監視 (NNM)	
目的	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM が監視するノードの状態の監視	
基本情報	ホスト名	バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM が監視しているノードのホスト名 (例) host01

表 4-33 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 <sup>1</sup> , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
ネットワーク致命的のイベント (NNM)	致命的	ネットワーク致命的のイベント (NNM) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .58916868 <sup>2</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のホスト名
ネットワーク警告のイベント (NNM)	警告	ネットワーク警告のイベント (NNM) <sup>1</sup>	イベント ID (B.ID)	00003A80
			SNMP Object ID (E.SNMP_OID)	~ .(40000083   40000084   40000085   50790400   58916865) <sup>2</sup>
		イベント発生ノード名 (E.SNMP_VARBIND2)		基本情報のホスト名

注 1 共通条件 (各監視オブジェクトで共通に使われる条件) です。

注 2 「~」には, 「.iso.org.dod.internet.private.enterprises.hp.nm.openView.hpOpenView.0」が入ります。

## 4.10 JP1/IM - Manager 用システム監視オブジェクト

JP1/IM - Manager 用のシステム監視オブジェクトには、「IM 監視」があります。

### 4.10.1 「IM 監視」システム監視オブジェクト

表 4-34 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	IM 監視	
目的	JP1/IM - Manager 自体の障害の監視	
基本情報	ホスト名	JP1/IM - Manager がインストールされているマネージャのホスト名 (例) host01

表 4-35 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
システム警告のイベント (IM)	警告	システム警告のイベント (IM)	イベント ID (B.ID)	000020E6, 000020E7, 00003F91
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名
システムエラーのイベント (IM)	エラー	システムエラーのイベント (IM)	イベント ID (B.ID)	00002010, 00002011, 00002012, 00002020, 00002021, 000020A0, 000020E2, 000020E5, 000020E8, 00003F90
		発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.11 Cosminexus 用システム監視オブジェクト

Cosminexus 用のシステム監視オブジェクトには、「論理サーバ監視 (Cosminexus)」および「J2EE アプリケーション監視 (Cosminexus)」があります。

### 4.11.1 「論理サーバ監視 (Cosminexus)」システム監視オブジェクト

表 4-36 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	論理サーバ監視 (Cosminexus)	
目的	サーバレベルの障害に関する JP1 イベントの監視	
基本情報	ドメイン名	Cosminexus サーバのドメイン名 (例) DOM001
	論理ホスト名	Cosminexus が監視対象としている論理ホスト名 (例) APSV001

注 重大度が「Warning」以上の JP1 イベントを監視します。

表 4-37 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
論理サーバ緊急のイベント (Cosminexus)	緊急	論理サーバ緊急のイベント (Cosminexus)	イベント ID (B.ID)	00012000 , 00012080
		ドメイン名 (E.DOMAIN_NAME)		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 (E.LOGICAL_SERVER_NAME)		基本情報の論理ホスト名
論理サーバ警戒のイベント (Cosminexus)	警戒	論理サーバ警戒のイベント (Cosminexus)	イベント ID (B.ID)	00012001 , 00012081
		ドメイン名 (E.DOMAIN_NAME)		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 (E.LOGICAL_SERVER_NAME)		基本情報の論理ホスト名
論理サーバ致命的のイベント (Cosminexus)	致命的	論理サーバ致命的のイベント (Cosminexus)	イベント ID (B.ID)	00012002 , 00012082

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
		ドメイン名 ( E.DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E.LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
論理サーバエラーのイベント (Cosminexus)	エラー	論理サーバエラーのイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B.ID )	00012003 , 00012083
		ドメイン名 ( E.DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E.LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
論理サーバ警告のイベント (Cosminexus)	警告	論理サーバ警告のイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B.ID )	00012004 , 00012084
		ドメイン名 ( E.DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E.LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

### 4.11.2 「J2EE アプリケーション監視 (Cosminexus)」システム監視オブジェクト

表 4-38 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	J2EE アプリケーション監視 (Cosminexus)	
目的	アプリケーションレベルの障害に関する JP1 イベントの監視	
基本情報	ドメイン名	Cosminexus サーバのドメイン名 (例) DOM001
	論理ホスト名	Cosminexus が監視対象としている論理ホスト名 (例) APSV001
	J2EE アプリケーション名	Cosminexus が監視対象としている論理ホスト上の J2EE アプリケーション名 (例) API

注 重大度が「Warning」以上の JP1 イベントを監視します。

表 4-39 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
J2EE アプリケーション緊急のイベント (Cosminexus)	緊急	J2EE アプリケーション緊急のイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B. ID )	00012090 , 000120D0
		ドメイン名 ( E. DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E. LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
		J2EE アプリケーション名 ( E. APPLICATION_NAME )		基本情報の J2EE アプリケーション名
J2EE アプリケーション警戒のイベント (Cosminexus)	警戒	J2EE アプリケーション警戒のイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B. ID )	00012091 , 000120D1
		ドメイン名 ( E. DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E. LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
		J2EE アプリケーション名 ( E. APPLICATION_NAME )		基本情報の J2EE アプリケーション名
J2EE アプリケーション致命的のイベント (Cosminexus)	致命的	J2EE アプリケーション致命的のイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B. ID )	00012092 , 000120D2
		ドメイン名 ( E. DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E. LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
		J2EE アプリケーション名 ( E. APPLICATION_NAME )		基本情報の J2EE アプリケーション名
J2EE アプリケーションエラーのイベント (Cosminexus)	エラー	J2EE アプリケーションエラーのイベント (Cosminexus)	イベント ID ( B. ID )	00012093 , 000120D3
		ドメイン名 ( E. DOMAIN_NAME )		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 ( E. LOGICAL_SERVER_NAME )		基本情報の論理ホスト名
		J2EE アプリケーション名 ( E. APPLICATION_NAME )		基本情報の J2EE アプリケーション名

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
J2EE アプリケーション警告のイベント (Cosminexus)	警告	J2EE アプリケーション警告のイベント (Cosminexus)	イベント ID (B.ID)	00012094 , 000120D4
		ドメイン名 (E.DOMAIN_NAME)		基本情報のドメイン名
		論理サーバ名 (E.LOGICAL_SERVER_NAME)		基本情報の論理ホスト名
		J2EE アプリケーション名 (E.APPLICATION_NAME)		基本情報の J2EE アプリケーション名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.12 HiRDB 用システム監視オブジェクト

HiRDB 用システム監視オブジェクトには、「HiRDB 監視」があります。

なお、HiRDB 用システム監視オブジェクトを監視する場合、次の設定をする必要があります。

- HiRDB に関する事象を管理するには、HiRDB が管理する障害情報を JP1 イベントとして発行するよう設定が必要です。これは、デフォルトでは JP1 イベントを発行しない設定になっているためです。

### 4.12.1 「HiRDB 監視」システム監視オブジェクト

表 4-40 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	HiRDB 監視	
目的	HiRDB 自身の障害監視	
基本情報	ホスト名	HiRDB がインストールされているホストのホスト名 (例) host02
	HiRDB 識別子	HiRDB を識別するための識別子 (例) PDB1

表 4-41 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 , 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
HiRDB 緊急のイベント	緊急	HiRDB 緊急のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/HiRDB
			重大度 ( E.SEVERITY )	Emergency
		発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER )		基本情報のホスト名
		登録名 ( E.ROOT_OBJECT_NAME )		基本情報の HiRDB 識別子
HiRDB 警戒のイベント	警戒	HiRDB 警戒のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/HiRDB
			重大度 ( E.SEVERITY )	Alert
		発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER )		基本情報のホスト名
		登録名 ( E.ROOT_OBJECT_NAME )		基本情報の HiRDB 識別子

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
HiRDB 致命的のイベント	致命的	HiRDB 致命的のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/HiRDB
			重大度 ( E.SEVERITY )	Critical
		発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER )		基本情報のホスト名
		登録名 ( E.ROOT_OBJECT_NAME )		基本情報の HiRDB 識別子
HiRDB エラーのイベント	エラー	HiRDB エラーのイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/HiRDB
			重大度 ( E.SEVERITY )	Error
		発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER )		基本情報のホスト名
		登録名 ( E.ROOT_OBJECT_NAME )		基本情報の HiRDB 識別子
HiRDB 警告のイベント	警告	HiRDB 警告のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/HiRDB
			重大度 ( E.SEVERITY )	Warning
		発行元イベントサーバ名 ( B.SOURCESERVER )		基本情報のホスト名
		登録名 ( E.ROOT_OBJECT_NAME )		基本情報の HiRDB 識別子

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

## 4.13 JP1/ServerConductor 用システム監視オブジェクト

JP1/ServerConductor 用システム監視オブジェクトには、「物理ホスト監視（System Manager）」があります。

なお、JP1/ServerConductor 用システム監視オブジェクトを監視する場合、次の設定をする必要があります。

- JP1/ServerConductor が管理する物理ホストに関する事象を管理するには、JP1/ServerConductor のマネージャーサービスが検知したアラートを JP1 イベントとして発行するよう設定が必要です。これは、デフォルトでは JP1 イベントを発行しない設定になっているためです。

### 4.13.1 「物理ホスト監視（System Manager）」システム監視オブジェクト

表 4-42 システム監視オブジェクトの概要

項目	説明	
監視ノード種別	物理ホスト監視（System Manager）	
目的	JP1/ServerConductor が管理する物理ホストに関する障害監視	
基本情報	ホスト名	System Manager が管理する物理ホスト名 (例) host02

表 4-43 状態変更条件

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
物理ホスト緊急のイベント	緊急	物理ホスト緊急のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/SYSTEM_MANAGER
			重大度 ( E.SEVERITY )	Emergency
		JP1/ServerConductor が管理する物理ホスト名 ( E.HSM_SERVER )	基本情報のホスト名	
物理ホスト警戒のイベント	警戒	物理ホスト警戒のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/SYSTEM_MANAGER
			重大度 ( E.SEVERITY )	Alert
		JP1/ServerConductor が管理する物理ホスト名 ( E.HSM_SERVER )	基本情報のホスト名	

#### 4. システム監視オブジェクト一覧（セントラルスコープ用）

状態変更条件		共通条件 ， 個別条件		
条件名	状態	条件		比較する値
物理ホスト致命的のイベント	致命的	物理ホスト致命的のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/SYSTEM_MANAGER
			重大度 ( E.SEVERITY )	Critical
		JP1/ServerConductor が管理する物理ホスト名 ( E.HSM_SERVER )		基本情報のホスト名
物理ホストエラーのイベント	エラー	物理ホストエラーのイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/SYSTEM_MANAGER
			重大度 ( E.SEVERITY )	Error
		JP1/ServerConductor が管理する物理ホスト名 ( E.HSM_SERVER )		基本情報のホスト名
物理ホスト警告のイベント	警告	物理ホスト警告のイベント	プロダクト名 ( E.PRODUCT_NAME )	/HITACHI/SYSTEM_MANAGER
			重大度 ( E.SEVERITY )	Warning
		JP1/ServerConductor が管理する物理ホスト名 ( E.HSM_SERVER )		基本情報のホスト名

注 共通条件（各監視オブジェクトで共通に使われる条件）です。

# 5

## 監視ツリーモデル（セントラルスコープ用）

この章では、監視ツリーを自動生成するときに作成される監視ツリーの構造について説明します。

監視ツリーを自動生成するときは、[ 自動生成 - 構成選択 ] 画面で、ツリー構成の基になるテンプレートを選択します。テンプレートには「業務指向ツリー」テンプレート、「サーバ指向ツリー」テンプレート、および「システム構成ツリー」テンプレートが用意されています。

テンプレートごとに監視ツリーのモデルが定義されています。監視ツリーを自動生成すると、各ホストから収集した定義を、監視ツリーモデルに合わせて自動的に監視ツリーを生成します。

---

5.1 「業務指向ツリー」の監視ツリーモデル

---

5.2 「サーバ指向ツリー」の監視ツリーモデル

---

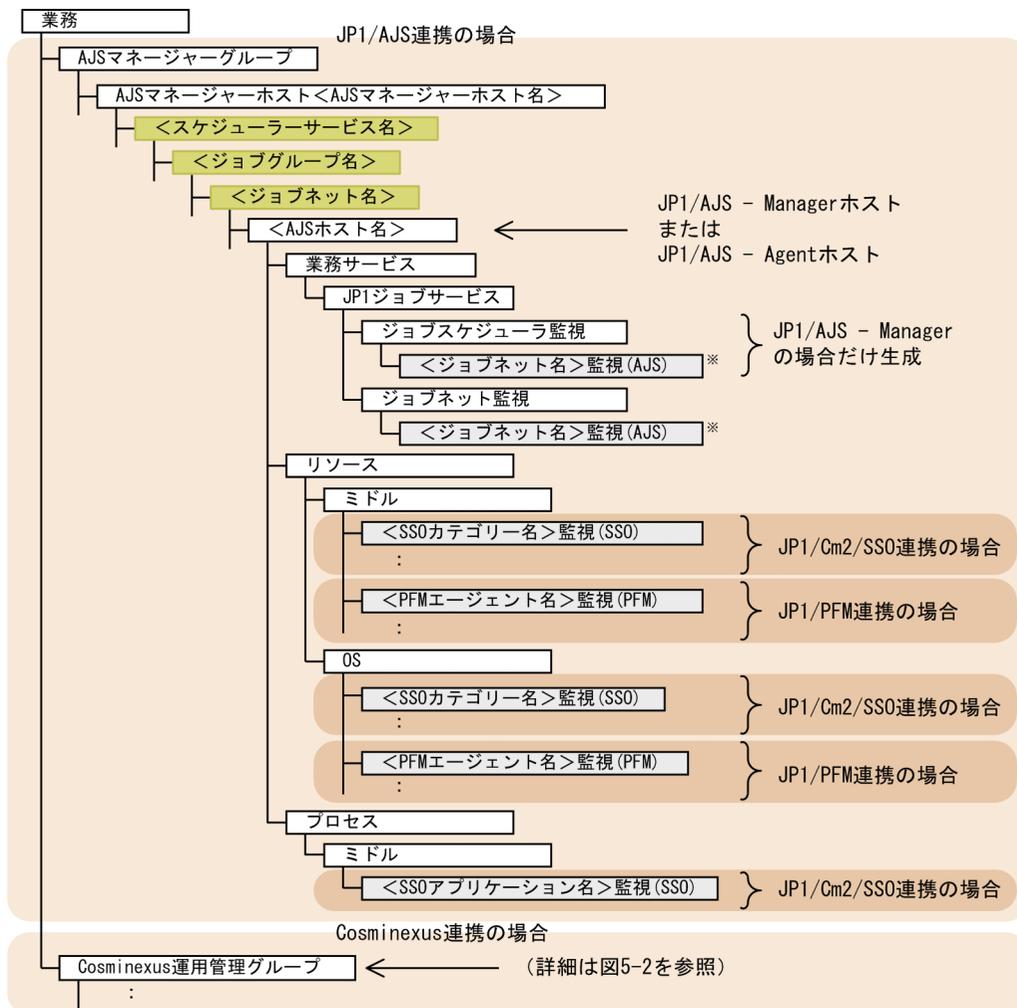
5.3 「システム構成ツリー」の監視ツリーモデル

---

## 5.1 「業務指向ツリー」の監視ツリーモデル

監視ツリーを自動生成するときに、「業務指向ツリー」テンプレートを選択した場合に生成される監視ツリーのモデルを次に示します。

図 5-1 監視ツリー（業務指向ツリー）のモデル

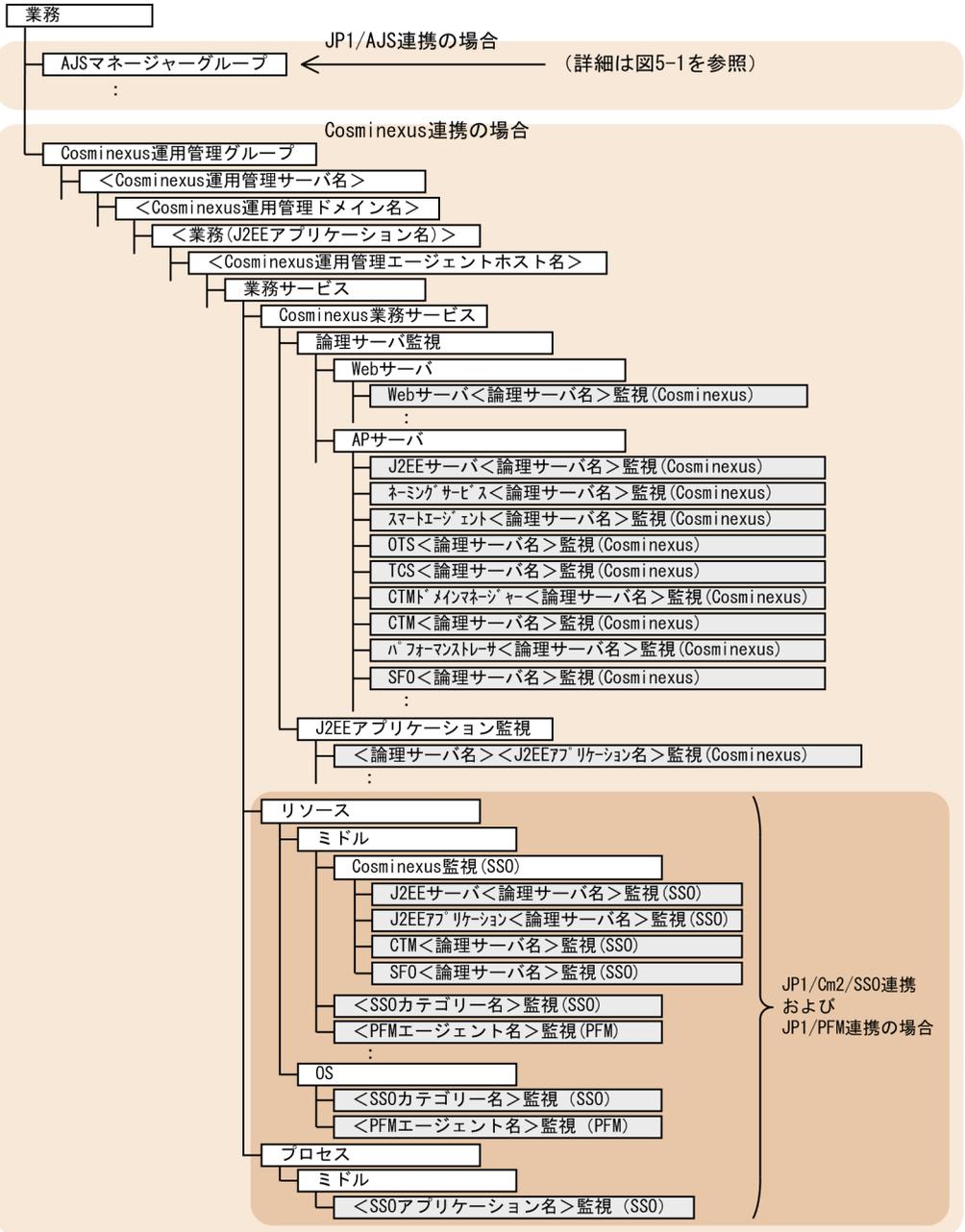


(凡例)

- 監視グループ名 : 監視グループ
- 監視オブジェクト名 : 監視オブジェクト
- 監視グループ名 : 監視グループ（JP1/AJS側でJP1資源グループの設定をしていた場合、その情報も取り込まれる）
- ： : 連携セットアップ済みの場合に生成される範囲

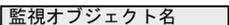
注※ 監視オブジェクト「<ジョブネット名>監視 (AJS)」はルートジョブネットに対してだけ生成される。

図 5-2 監視ツリー（業務指向ツリー）のモデル



## 5. 監視ツリーモデル（セントラルスコープ用）

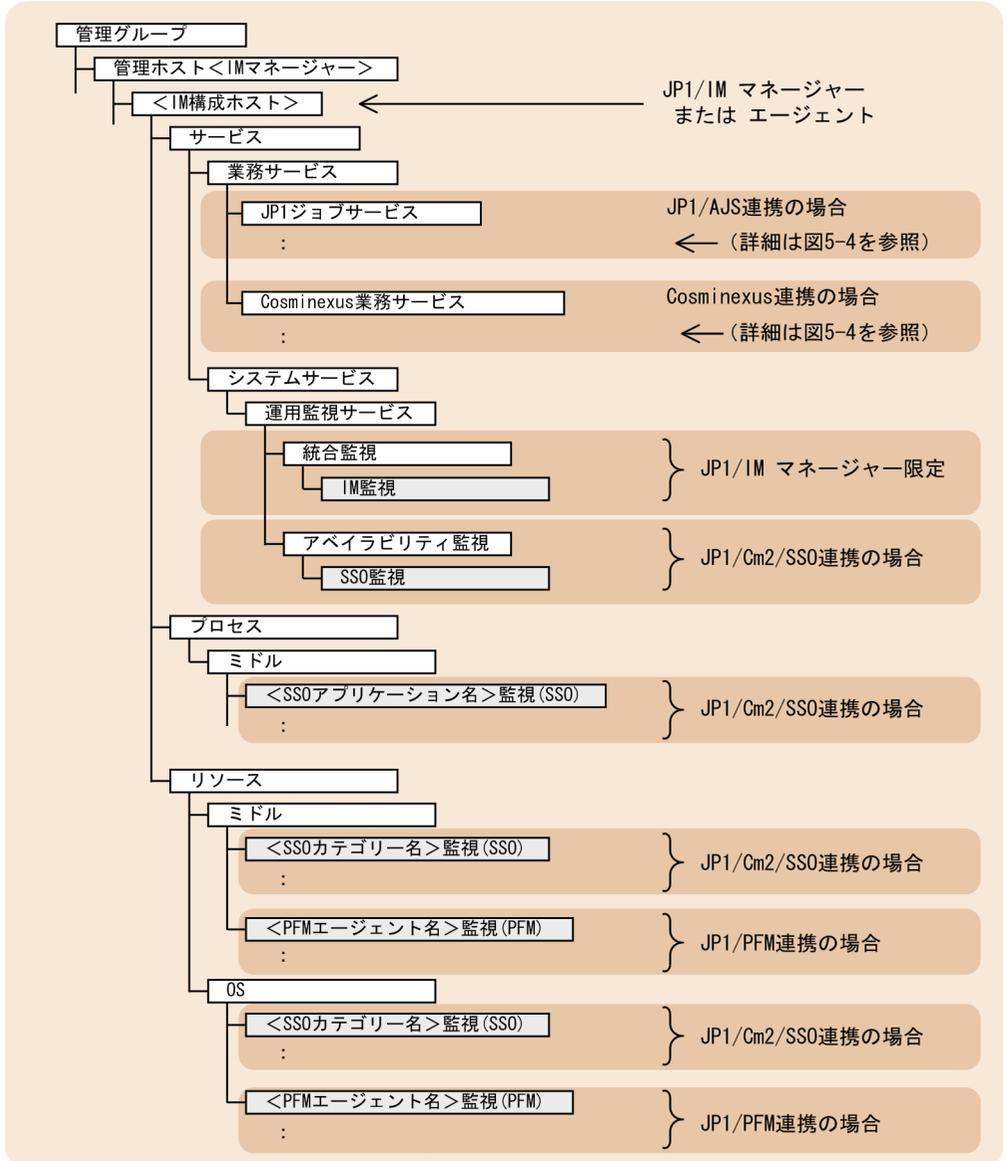
（凡例）

- 監視グループ名  : 監視グループ
- 監視オブジェクト名  : 監視オブジェクト
-  } : 連携セットアップ済み  
 } の場合に作成される範囲

## 5.2 「サーバ指向ツリー」の監視ツリーモデル

監視ツリーを自動生成するときに、「サーバ指向ツリー」テンプレートを選択した場合に生成される監視ツリーのモデルを次に示します。

図 5-3 監視ツリー（サーバ指向ツリー）のモデル



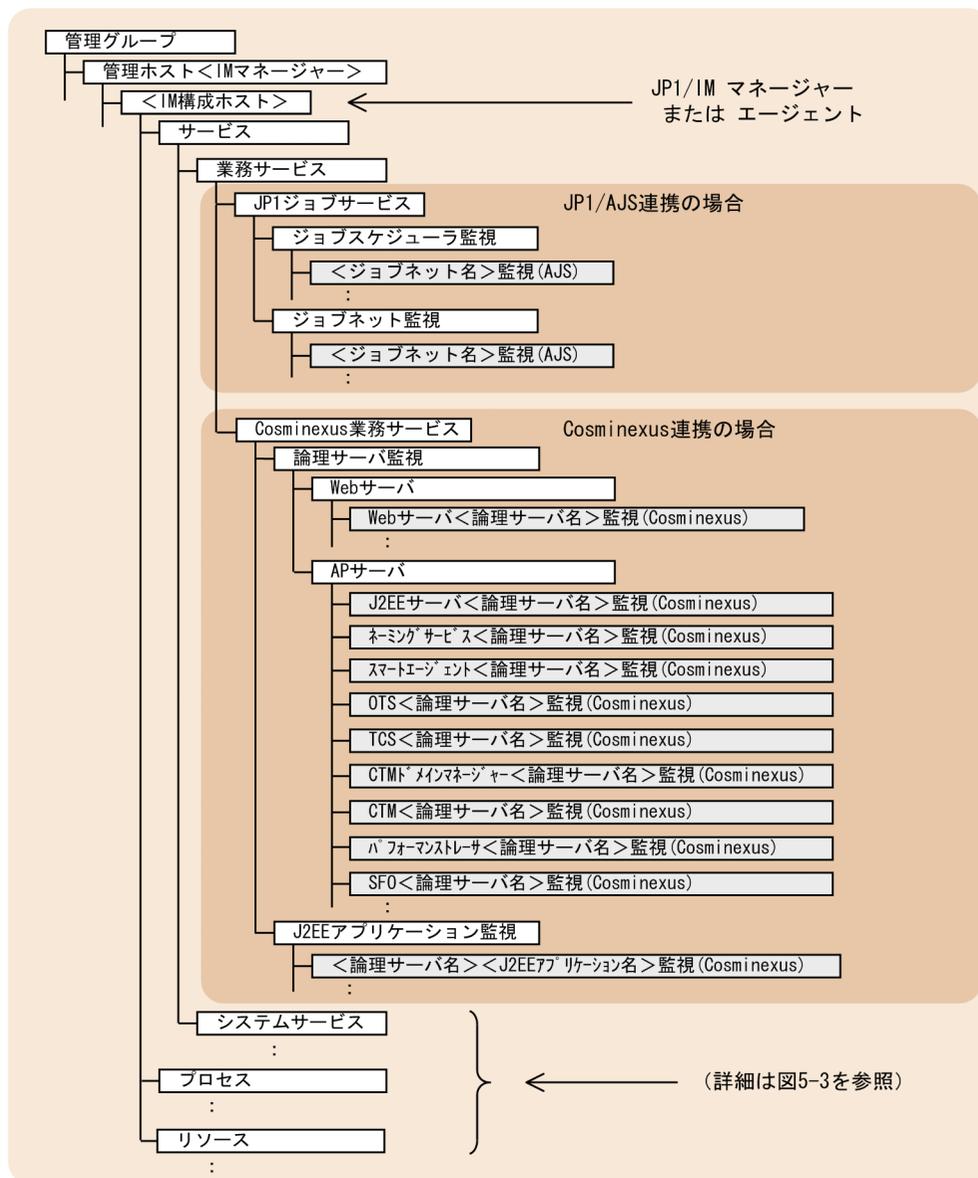
(凡例)

監視グループ名 : 監視グループ  
監視オブジェクト名 : 監視オブジェクト

連携セットアップ済みの場合に作成される範囲

5. 監視ツリーモデル（セントラルスコープ用）

図 5-4 監視ツリー（サーバ指向ツリー）のモデル



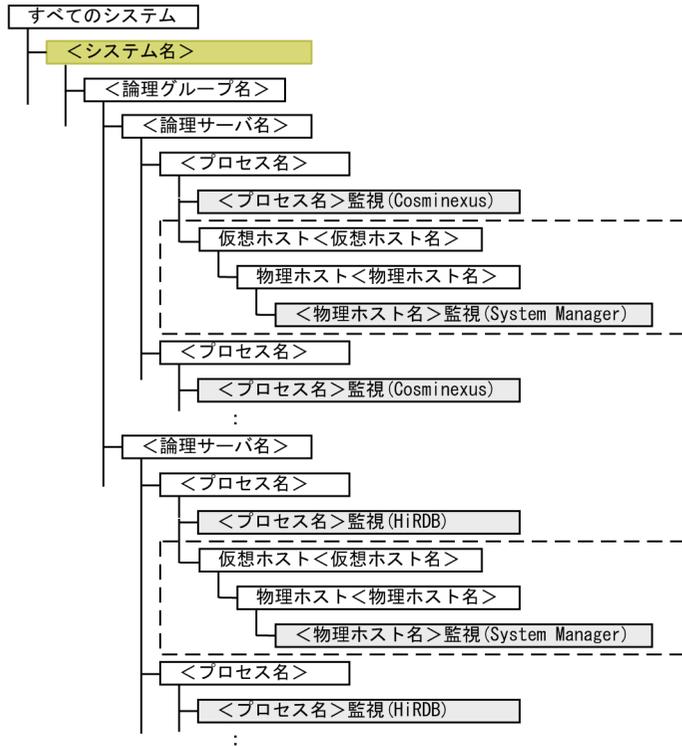
(凡例)

- 監視グループ名 : 監視グループ
- 監視オブジェクト名 : 監視オブジェクト
- （注） : 連携セットアップ済みの場合に作成される範囲

## 5.3 「システム構成ツリー」の監視ツリーモデル

監視ツリーを自動生成するとき、「システム構成ツリー」テンプレートを選択した場合に生成される監視ツリーのモデルを次に示します。

図 5-5 監視ツリー（システム構成ツリー）のモデル



(凡例)

監視グループ名 : 監視グループ

監視オブジェクト名 : 監視オブジェクト

監視グループ名 : 監視グループ（JP1/IM - CM側でJP1資源グループの設定をしていた場合、その情報も取り込まれる）

[ ] : JP1/IM - CMのシステムツリーには表示されない部分

システム構成ツリーの構成は、JP1/IM - Central Information Master のシステムツリーの構成に依存します。なお、JP1/IM - Central Information Master のシステムツリーから監視ツリー（システム構成ツリー）を生成する際には、JP1 イベントを発行しないプロセスや発行する JP1 イベントが不明なプロセスの監視オブジェクトは生成されません。

また、JP1/IM - Central Information Master のシステムツリーで定義が完了していない

## 5. 監視ツリーモデル（セントラルスコープ用）

個所があった場合、その個所も生成されません。例えば、JP1/IM - Central Information Master 側で仮想ホストだけ定義して、物理ホストとのマッピングをしていなかった場合、監視グループとなる個所（仮想ホスト<仮想ホスト名>）も含めて生成されません。

JP1/IM - Central Information Master 連携時に生成するシステム監視オブジェクトを次に示します。

表 5-1 JP1/IM - Central Information Master 連携時に生成するシステム監視オブジェクト

JP1/IM - Central Information Master 側の定義		JP1/IM - Central Scope 側の定義	
ノード名	種別	生成するシステム監視オブジェクト	
プロセス	Cosminexus 1	web-server	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		j2ee-server	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		naming-service	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		smart-agent	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		performance-tracer	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		transaction-context-service	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
		component-transaction-monitor	<プロセス名> 監視 (Cosminexus)
	HiRDB	FES	-
		BES	-
		MGR	<プロセス名> 監視 (HiRDB)
		DS	-
		SDS	<プロセス名> 監視 (HiRDB)
others	others	-	
物理ホスト 2	-	<物理ホスト名> 監視 (System Manager)	

（凡例）

- : 該当なし、または作成されない。

注 1 JP1/IM - Central Information Master が作成するシステムツリーでは OTS を管理しないため、OTS 監視用の監視オブジェクトは生成されません（業務指向ツリー、サーバ指向ツリーの場合は生成されます）。

注 2 BladeSymphony の物理ホストに OS がインストールされていない場合、ホスト名が特定できないため、監視できないことがあります。その場合、OS をインストールし、ホスト名が確定したあとで自動生成を再実行するか、手動でシステム監視オブジェクトを追加する必要があります。

---

# 索引

---

## 記号

!JP1\_CS\_APP0.conf ( 起動プログラム定義  
ファイル ) 540  
!JP1\_CS\_FTOOL0.conf ( ツールバー定義  
ファイル ) 542  
!JP1\_CS\_FTREE0.conf ( アイコン動作定義  
ファイル ) 544  
.system ( システムプロファイル ) 382

---

## A

actdef.conf ( 自動アクション定義ファイル )  
325  
actdef.conf ( 自動アクション定義ファイル )  
( 互換用 ) 347  
action.conf.update ( 自動アクション環境定  
義ファイル ) 320  
action\_complete\_xxx.conf ( 対処済み連動設  
定ファイル ) 489  
actnotice.conf ( 自動アクション通知定義  
ファイル ) 363  
attr\_list.conf ( イベント条件表示項目定義  
ファイル ) 370  
auto\_dbbackup\_xxx.conf ( 監視オブジェク  
ト DB の自動バックアップ・リカバリー設  
定ファイル ) 493

---

## C

CM ホスト定義ファイル  
( jcs\_atc\_cm\_host.conf ) 501  
common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf ( 共通  
除外条件表示項目定義ファイル ) 435  
console.conf.update ( 通信環境定義ファイ  
ル ) 390  
console\_ja.html ( WWW ページ版動作定義  
ファイル ) 398

---

## D

defaultUser ( ユーザープロファイル ) 385

---

## E

eds\_system.conf ( インシデント登録用シス  
テムプロファイル ) 471  
egs\_system.conf ( 関連イベント発行システ  
ムプロファイル ) 440  
event\_info\_replace.conf ( イベント引き継ぎ  
情報変換設定ファイル ) 373  
evhist\_warn\_event\_xxx.conf ( 状態変更イベ  
ント件数の上限監視設定ファイル ) 487

---

## H

hitachi\_jp1\_製品名.html ( WWW ページ呼  
び出し定義ファイル ) 526

---

## I

IM-View 設定ファイル ( tuning.conf ) 516  
IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル  
( jcfview.conf ) 552  
IM 構成反映方式設定ファイル  
( jp1cf\_applyconfig.conf ) 554  
IM パラメーター定義ファイル  
( jp1co\_param\_V7.conf ) 379  
incident.conf ( インシデント手動登録定義  
ファイル ) 474

---

## J

jbs\_route.conf ( 構成定義ファイル ) 293  
jacancel 13  
jchange 17  
jcadefconv 19  
jamakea 25  
jashowa 27  
jcastatus 34  
jcdmain.conf.update ( インシデント登録環  
境定義ファイル ) 476  
jcfaleltdef ( Windows 限定 ) 36  
jcfaleltreload ( Windows 限定 ) 39  
jcfaleltstart ( Windows 限定 ) 41

- jcfaleltstat (Windows 限定) 44
- jcfaleltstop (Windows 限定) 46
- jcfallogdef 48
- jcfallogreload 54
- jcfallogstart 56
- jcfallogstat 62
- jcfallogstop 64
- jcfcolvmesx 67
- jcfcolvmsevm (Windows 限定) 70
- jcfcolvmvc 73
- jcfcolvmvirtage 76
- jcfdbsetup 79
- jcfdbunsetup 82
- jcfexport 85
- jcfimport 88
- jcfmkcsdata 91
- jcfmkhostsdata 94
- jcfthreaddmp (Windows 限定) 96
- jcfview (Windows 限定) 98
- jcfview.conf (IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル) 552
- jcfvirtualchstat 100
- jco\_guide.txt (イベントガイド情報ファイル) 401
- jco\_killall.cluster (UNIX 限定) 102
- jco\_spm�\_reload 104
- jco\_spm�\_status 106
- jco\_start (UNIX 限定) 108
- jco\_start.cluster (UNIX 限定) 111
- jco\_stop (UNIX 限定) 113
- jco\_stop.cluster (UNIX 限定) 116
- jcoappexecfcheck 117
- jcoattrfcheck 119
- jcochafmode 121
- jcochcefmode 124
- jcochdisc 128
- jcochfilter 130
- jcochstat 134
- jcodbsetup 137
- jcodbunsetup 140
- jcoedsstatus 143
- jcoegschange 146
- jcoegscheck 148
- jcoegsstart 150
- jcoegsstatus 152
- jcoegsstop 158
- jcoevtreport 160
- jcofuncfcheck 166
- jcogencore 169
- jcohc.conf (ヘルスチェック定義ファイル) 393
- jcohtest 174
- jcoimdef 176
- jcomonitorfcheck 188
- jcothreaddmp (Windows 限定) 192
- jcovcfsetup (Windows 限定) 194
- jcoview (Windows 限定) 196
- jcoview\_log.bat (Windows 限定) 200
- jcs\_atc\_cm\_host.conf (CM ホスト定義ファイル) 501
- jcs\_guide\_xxx.txt (ガイド情報ファイル) 480
- jcs\_hosts (ホスト情報ファイル) 478
- jcschstat 204
- jesdbexport 207
- jesdbimport 210
- jesdbsetup 213
- jeshostsexport 215
- jeshostsimport 217
- jim\_log.bat (Windows 限定) 219
- jim\_log.sh (UNIX 限定) 231
- jimdbbackup 240
- jimdbclustersetupinfo.conf (クラスタセットアップ情報ファイル) 560
- jimdbreclaim 243
- jimdbrecovery 245
- jimdbbrorg 248
- jimdbsetupinfo.conf (セットアップ情報ファイル) 556
- jimdbstatus 250
- jimdbstop 251
- jimdbupdate 253
- JP1/AJS 用システム監視オブジェクト 692
- JP1/Cm2/NNMi 用システム監視オブジェクト 708

JP1/Cm2/NNM 用システム監視オブジェクト 711

JP1/Cm2/SSO 用システム監視オブジェクト 695

JP1/IM が出力する JP1 イベント 583

jp1cc\_setup (UNIX 限定) 255

jp1cc\_setup\_cluster (UNIX 限定) 256

jp1cf\_applyconfig.conf (IM 構成反映方式設定ファイル) 554

jp1cf\_setup (UNIX 限定) 258

jp1cf\_setup\_cluster (UNIX 限定) 259

jp1cfhasetup (Windows 限定) 262

jp1co\_param\_V7.conf (IM パラメーター定義ファイル) 379

jp1co\_service.conf (拡張起動プロセス定義ファイル) 376

jp1cohassetup (Windows 限定) 263

jp1cohaverup 264

jp1cs\_setup (UNIX 限定) 266

jp1cs\_setup\_cluster (UNIX 限定) 267

jp1cshasetup (Windows 限定) 269

jp1cshaverup (UNIX 限定) 270

jp1cshaverup.bat (Windows 限定) 272

jp1csverup (UNIX 限定) 274

jp1csverup.bat (Windows 限定) 276

JP1 イベント 579

- 一覧 583
- 詳細 597
- 属性 580

## P

---

processupdate.conf (対処状況イベント定義ファイル) 438

profile\_ユーザー名(ユーザープロファイル) 385

## S

---

SpmSetSvcCon (Windows 限定) 278

systemColor.conf (システムカラー定義ファイル) 409

## T

---

tree\_view.conf.update (通信環境定義ファイル) 513

tuning.conf (IM-View 設定ファイル) 516

## U

---

user\_hostmap.conf (発生元ホストマッピング定義ファイル) 313

## V

---

view.conf.update (通信環境定義ファイル) 511

## W

---

WWW ページ版動作定義ファイル (console\_ja.html) 398

WWW ページ版の JP1/IM - View の資料採取 193

WWW ページ呼び出し定義ファイル (hitachi\_jp1\_製品名.html) 526

## あ

---

アイコン動作定義ファイル (!JP1\_CS\_FTREE0.conf) 544

アクション情報ファイルの容量を小さくする場合 320

アプリケーション実行定義ファイル 497

- チェックする 11
- 置換文字列 498

## い

---

一次資料

- JP1/IM - Manager 用 (UNIX) 231
- JP1/IM - View , JP1/IM - Manager 用 (Windows) 219

イベント ID

- 00002010 の詳細 597
- 00002011 の詳細 599
- 00002012 の詳細 600
- 00002013 の詳細 601

- 00002014 の詳細 602  
 00002015 の詳細 603  
 00002016 の詳細 604  
 00002020 の詳細 605  
 00002021 の詳細 607  
 000020A0 の詳細 608  
 000020A1 の詳細 609  
 000020A2 の詳細 610  
 000020A3 の詳細 611  
 000020A4 の詳細 612  
 000020A5 の詳細 613  
 000020A6 の詳細 615  
 000020E0 の詳細 616  
 000020E1 の詳細 617  
 000020E2 の詳細 618  
 000020E3 の詳細 620  
 000020E4 の詳細 621  
 000020E5 の詳細 623  
 000020E6 の詳細 625  
 000020E7 の詳細 626  
 000020E8 の詳細 627  
 00003F01 の詳細 629  
 00003F03 の詳細 630  
 00003F04 の詳細 631  
 00003F05 の詳細 632  
 00003F06 の詳細 633  
 00003F07 の詳細 634  
 00003F08 の詳細 634  
 00003F11 の詳細 635  
 00003F13 の詳細 637  
 00003F14 の詳細 638  
 00003F15 の詳細 641  
 00003F16 の詳細 643  
 00003F20 の詳細 644  
 00003F21 の詳細 645  
 00003F22 の詳細 645  
 00003F23 の詳細 646  
 00003F24 の詳細 647  
 00003F25 の詳細 648 , 649  
 00003F26 の詳細 650  
 00003F28 の詳細 651  
 00003F30 の詳細 652  
 00003F41 の詳細 653  
 00003F42 の詳細 654  
 00003F51 の詳細 655  
 00003F52 の詳細 656  
 00003F53 の詳細 657  
 00003F54 の詳細 657  
 00003F61 の詳細 658  
 00003F62 の詳細 659  
 00003F63 の詳細 660  
 00003F64 の詳細 661  
 00003F66 の詳細 662  
 00003F67 の詳細 663  
 00003F68 の詳細 664  
 00003F69 の詳細 665  
 00003F90 の詳細 685  
 00003F91 の詳細 686  
 00003F92 の詳細 687  
 00003FB0 の詳細 666  
 00003FB1 の詳細 667  
 00003FC0 の詳細 668  
 00003FC1 の詳細 670  
 00003FC2 の詳細 672  
 00003FC3 の詳細 674  
 00003FC5 の詳細 676  
 00003FD0 の詳細 678  
 00003FD1 の詳細 678  
 00003FD2 の詳細 679  
 00003FD3 の詳細 680  
 00003FD4 の詳細 681  
 00003FD5 の詳細 681  
 関連イベント発行定義ファイルの  
   FAIL\_EVENT パラメーターに指定  
   されたイベント ID の詳細 640  
 関連イベント発行定義ファイルの  
   SUCCESS\_EVENT パラメーター  
   に指定されたイベント ID の詳細  
   639  
 00003A71 の詳細 684  
 ACTDEF パラメーターに指定されて  
   いる値 682  
 イベントガイド情報ファイル  
   (jco\_guide.txt) 401  
 イベント拡張属性定義ファイル 412  
   チェックする 11

イベント監視条件の優先度 348  
 イベント条件表示項目定義ファイル  
 ( attr\_list.conf ) 370  
 イベント引き継ぎ情報変換設定ファイル  
 ( event\_info\_replace.conf ) 373  
 イベントレポート出力の項目ファイル 565  
 イベントレポート出力のフィルターファイル  
 568  
 インシデント手動登録定義ファイル  
 ( incident.conf ) 474  
 インシデント登録環境定義ファイル  
 ( jcdmain.conf.update ) 476  
 インシデント登録用システムプロファイル  
 ( eds\_system.conf ) 471

## お

---

オブジェクトタイプ定義ファイル 495

## か

---

ガイド情報ファイル ( jcs\_guide\_XXX.txt )  
 480  
 ガイドメッセージファイル 484  
 拡張起動プロセス定義ファイル  
 ( jp1co\_service.conf ) 376  
 拡張属性 581  
 環境変数ファイル 296  
 監視オブジェクト DB の自動バックアップ・  
 リカバリー設定ファイル  
 ( auto\_dbbackup\_XXX.conf ) 493  
 監視オブジェクト初期化設定ファイル 492  
 監視ツリーモデル  
 業務指向ツリー 724  
 サーバ指向ツリー 727  
 システム構成ツリー 729  
 監視ツリーモデル ( セントラルスコープ用 )  
 723

## き

---

キーワード置換文字列 498  
 起動オプションの注意事項 377  
 起動プログラム定義ファイル  
 ( !JP1\_CS\_APP0.conf ) 540

基本属性 580  
 キャンセル処理中に実行先のホストが再起動  
 した場合の処理 15  
 共通除外条件拡張定義ファイル 424  
 共通除外条件表示項目定義ファイル  
 ( common\_exclude\_filter\_attr\_list.conf )  
 435  
 「業務指向ツリー」の監視ツリーモデル 724

## <

---

クラスタセットアップ情報ファイル  
 ( jimdbclustersetupinfo.conf ) 560

## こ

---

構成定義ファイル ( jbs\_route.conf ) 293

コマンド 1

IM 構成管理に関するコマンド 5  
 IM 構成管理に関するコマンド (リ  
 モート監視構成) 6  
 IM データベース 4  
 jcacancel 13  
 jcachange 17  
 jcadefconv 19  
 jcamakea 25  
 jcashowa 27  
 jcastatus 34  
 jcfaleltdef ( Windows 限定 ) 36  
 jcfaleltreload ( Windows 限定 ) 39  
 jcfaleltstart ( Windows 限定 ) 41  
 jcfaleltstat ( Windows 限定 ) 44  
 jcfaleltstop ( Windows 限定 ) 46  
 jcfallogdef 48  
 jcfallogreload 54  
 jcfallogstart 56  
 jcfallogstat 62  
 jcfallogstop 64  
 jcfcolvmesx 67  
 jcfcolvmescvmm ( Windows 限定 ) 70  
 jcfcolvmvc 73  
 jcfcolvmvirtage 76  
 jcfdbsetup 79  
 jcfdbunsetup 82

- jcfexport 85
- jcfimport 88
- jcfmkcsdata 91
- jcfmkhostsdata 94
- jcfthreadmp (Windows 限定) 96
- jcfview (Windows 限定) 98
- jcfvirtualchstat 100
- jco\_killall.cluster (UNIX 限定) 102
- jco\_spm�\_reload 104
- jco\_spm�\_status 106
- jco\_start (UNIX 限定) 108
- jco\_start.cluster (UNIX 限定) 111
- jco\_stop (UNIX 限定) 113
- jco\_stop.cluster (UNIX 限定) 116
- jcoappexecfcheck 117
- jcoattrfcheck 119
- jcochafmode 121
- jcochcefmode 124
- jcochdisc 128
- jcochfilter 130
- jcochstat 134
- jcodbsetup 137
- jcodbunsetup 140
- jcoedsstatus 143
- jcoegschange 146
- jcoegscheck 148
- jcoegsstart 150
- jcoegsstatus 152
- jcoegsstop 158
- jcoevtreport 160
- jcofuncfcheck 166
- jcogencore 169
- jcohtest 174
- jcoimdef 176
- jcomonitorfcheck 188
- jcothreadmp (Windows 限定) 192
- jcovcfsetup (Windows 限定) 194
- jcoview (Windows 限定) 196
- jcoview\_log.bat (Windows 限定) 200
- jcschstat 204
- jcsdbexport 207
- jcsdbimport 210
- jcsdbsetup 213
- jcsdbsexport 215
- jcsdbsimport 217
- jim\_log.bat (Windows 限定) 219
- jim\_log.sh (UNIX 限定) 231
- jimdbbackup 240
- jimdbreclaim 243
- jimdbrecovery 245
- jimdbrorg 248
- jimdbstatus 250
- jimdbstop 251
- jimdbupdate 253
- JP1/IM - Incident Master 連携 12
- JP1/IM - Manager の機能拡張 11
- jp1cc\_setup (UNIX 限定) 255
- jp1cc\_setup\_cluster (UNIX 限定)  
256
- jp1cf\_setup (UNIX 限定) 258
- jp1cf\_setup\_cluster (UNIX 限定)  
259
- jp1cfhassetup (Windows 限定) 262
- jp1cohassetup (Windows 限定) 263
- jp1cohaverup 264
- jp1cs\_setup (UNIX 限定) 266
- jp1cs\_setup\_cluster (UNIX 限定)  
267
- jp1cshassetup (Windows 限定) 269
- jp1cshaverup (UNIX 限定) 270
- jp1cshaverup.bat (Windows 限定)  
272
- jp1csverup (UNIX 限定) 274
- jp1csverup.bat (Windows 限定) 276
- SpmSetSvcCon (Windows 限定)  
278
- 一覧 3
- イベント 8
- 監視オブジェクト DB の情報の移行  
11
- 監視ノードの状態変更 10
- 起動・終了, セットアップ 3
- 構成定義 8
- 自動アクションおよびコマンド実行 9
- セントラルスコープの環境設定 10
- 関連イベントの発行 9

トラブルシューティング 11  
 バージョンアップ 7  
 フィルター 10  
 ログイン・ログアウト 8  
 コマンドの記述形式 2  
 コマンドボタン定義ファイル( cndbtn.conf )  
 536

## さ

---

「サーバ指向ツリー」の監視ツリーモデル  
727

## し

---

システムカラー定義ファイル  
 ( systemColor.conf ) 409  
 システム監視オブジェクト  
   Cosminexus 用 715  
   HiRDB 用 719  
   JP1/IM - Manager 用 714  
   JP1/NETM/DM 用 706  
   JP1/PAM 用 701  
   JP1/PFM 用 699  
   JP1/SCIM 用システム監視オブジェク  
   ト 703  
   JP1/ServerConductor 用 721  
 システム監視オブジェクト一覧( セントラル  
 スコープ用 ) 689  
 システム監視オブジェクト対応製品一覧 691  
 「システム構成ツリー」の監視ツリーモデル  
 729  
 システムプロファイル( .system ) 382  
 指定内容の確認 349  
 自動アクション環境定義ファイル  
 ( action.conf.update ) 320  
 自動アクション通知定義ファイル  
 ( actnotice.conf ) 363  
 自動アクション定義パラメーターのサイズ  
 チェック 349  
 自動アクション定義ファイル( actdef.conf )  
 325  
 自動アクション定義ファイル( actdef.conf )  
 ( 互換用 ) 347

自動アクション定義ファイル( 互換用 )  
   イベント監視条件の優先度 348  
   指定内容の確認 349  
   自動アクション定義パラメーターのサ  
   イズチェック 349  
   定義の記述 348  
   パラメーターグループと AND 条件  
   349

重大度変更定義ファイル 504  
 状態変更イベント件数の上限監視設定ファイ  
 ル( evhist\_warn\_event\_xxx.conf ) 487  
 状態変更イベント自動削除設定ファイル 491  
 状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイ  
 ル 503

## す

---

ステートメント 289  
   構成要素の生成規則 575  
   構造 574  
   種類 574  
   詳細 574

## せ

---

正規表現 357  
 正規表現に関する注意事項 360  
 セットアップ情報ファイル  
 ( jimdbsetupinfo.conf ) 556

## そ

---

関連イベント発行環境定義ファイル 469  
 関連イベント発行機能の状態  
   起動処理中 154  
   機能停止 154  
   相関稼働 154  
   停止 154  
   停止処理中 154  
 関連イベント発行システムプロファイル  
 ( egs\_system.conf ) 440  
 関連イベント発行定義ファイル 443

## た

- 対処状況イベント定義ファイル  
(processupdate.conf) 438
- 対処済み連動設定ファイル  
(action\_complete\_xxx.conf) 489

## ち

- 置換文字列 498
  - キーワード置換文字列 498
  - レジストリー置換文字列 499

## つ

- 通信環境定義ファイル  
(console.conf.update) 390
- 通信環境定義ファイル  
(tree\_view.conf.update) 513
- 通信環境定義ファイル (view.conf.update)  
511
- ツールバー定義ファイル  
(!JP1\_CS\_FTOOL0.conf) 542
- ツリー構成ファイル 546

## て

- 定義の記述 348
- 定義ファイル 279
  - CM ホスト定義ファイル  
(jcs\_atc\_cm\_host.conf) 501
  - IM-View 設定ファイル(tuning.conf)  
516
  - IM 構成管理・ビューアー動作定義  
ファイル(jcfview.conf) 552
  - IM 構成反映方式設定ファイル  
(jp1cf\_applyconfig.conf) 554
  - IM パラメーター定義ファイル  
(jp1co\_param\_V7.conf) 379
  - WWW ページ版動作定義ファイル  
(console\_ja.html) 398
  - WWW ページ呼び出し定義ファイル  
(hitachi\_jp1\_製品名.html) 526
  - アイコン動作定義ファイル  
(!JP1\_CS\_FTREE0.conf) 544

- アプリケーション実行定義ファイル  
497
- 一覧 280
- イベントガイド情報ファイル  
(jco\_guide.txt) 401
- イベント条件表示項目定義ファイル  
(attr\_list.conf) 370
- イベント引き継ぎ情報変換設定ファイ  
ル(event\_info\_replace.conf) 373
- インシデント手動登録定義ファイル  
(incident.conf) 474
- インシデント登録環境定義ファイル  
(jcdmain.conf.update) 476
- インシデント登録用システムプロファ  
イル(eds\_system.conf) 471
- オブジェクトタイプ定義ファイル  
495
- ガイド情報ファイル  
(jcs\_guide\_xxx.txt) 480
- 概要 286
- 拡張起動プロセス定義ファイル  
(jp1co\_service.conf) 376
- 格納先 288
- 環境変数ファイル 296
- 監視オブジェクト DB の自動バック  
アップ・リカバリー設定ファイル  
(auto\_dbbackup\_xxx.conf) 493
- 監視オブジェクト初期化設定ファイル  
492
- 起動プログラム定義ファイル  
(!JP1\_CS\_APP0.conf) 540
- 共通除外条件拡張定義ファイル 424
- 共通除外条件表示項目定義ファイル  
(common\_exclude\_filter\_attr\_list  
.conf) 435
- クラスタセットアップ情報ファイル  
(jimdbclustersetupinfo.conf) 560
- 構成定義ファイル(jbs\_route.conf)  
293
- 構成要素 288
- 構造 288
- コマンドボタン定義ファイル  
(cmdbtn.conf) 536

- システムカラー定義ファイル  
( systemColor.conf ) 409
  - システムプロファイル ( .system )  
382
  - 自動アクション環境定義ファイル  
( action.conf.update ) 320
  - 自動アクション通知定義ファイル  
( actnotice.conf ) 363
  - 自動アクション定義ファイル  
( actdef.conf ) 325
  - 自動アクション定義ファイル  
( actdef.conf )( 互換用 ) 347
  - 重大度変更定義ファイル 504
  - 状態変更イベント件数の上限監視設定  
ファイル  
( evhist\_warn\_event\_xxx.conf )  
487
  - 状態変更イベント自動削除設定ファイ  
ル 491
  - 状態変更条件メモリー常駐機能の設定  
ファイル 503
  - セットアップ情報ファイル  
( jimdbsetupinfo.conf ) 556
  - 関連イベント発行環境定義ファイル  
469
  - 関連イベント発行システムプロファイ  
ル ( egs\_system.conf ) 440
  - 関連イベント発行定義ファイル 443
  - 対処状況イベント定義ファイル  
( processupdate.conf ) 438
  - 対処済み連動設定ファイル  
( action\_complete\_xxx.conf ) 489
  - 通信環境定義ファイル  
( console.conf.update ) 390
  - 通信環境定義ファイル  
( tree\_view.conf.update ) 513
  - 通信環境定義ファイル  
( view.conf.update ) 511
  - ツールバー定義ファイル  
( !JP1\_CS\_FT00L0.conf ) 542
  - ツリー構成ファイル 546
  - 統合機能メニュー定義ファイル 531
  - 発生元ホストマッピング定義ファイル  
( user\_hostmap.conf ) 313
  - ヘルスチェック定義ファイル  
( jcohc.conf ) 393
  - ホストグループ定義ファイル 298
  - ホスト情報ファイル ( jcs\_hosts ) 478
  - 命名規則 287
  - モニター画面呼び出し定義ファイル  
519
  - ユーザープロファイル ( defaultUser  
| profile\_ユーザー名 ) 385
  - リモート監視イベントログトラップ動  
作定義ファイル 307
  - リモート監視ログファイルトラップ動  
作定義ファイル 300
  - 定義ファイルの記述形式 285
- と**
- 
- 統合機能メニュー定義ファイル 531  
チェックする 11
- に**
- 
- 二次資料
    - JP1/IM - Manager 用 ( UNIX ) 231
    - JP1/IM - View , JP1/IM - Manager 用  
( Windows ) 219
- は**
- 
- 発生元ホストマッピング定義ファイル  
( user\_hostmap.conf ) 313
  - パラメーターグループと AND 条件 349
- へ**
- 
- ヘルスチェック定義ファイル ( jcohc.conf )  
393
- ほ**
- 
- ホストグループ定義ファイル 298
  - ホスト情報ファイル ( jcs\_hosts ) 478

## も

---

モニター画面呼び出し定義ファイル 519  
    チェックする 11

## ゆ

---

ユーザープロファイル ( defaultUser |  
    profile\_ユーザー名 ) 385

## り

---

リモート監視イベントログトラップ動作定義  
    ファイル 307  
リモート監視ログファイルトラップ動作定義  
    ファイル 300

## れ

---

レジストリー置換文字列 499